

Senju Enterprise Navigator 2023.0.0

ユ ー ザ ー ズ ガ イ ド



株式会社野村総合研究所

Nomura Research Institute, Ltd.

Senju Operation Conductor および Senju Service Manager は、株式会社野村総合研究所の登録商標です。

JP1 は、(株)日立製作所の日本における商品名称(商標又は、登録商標)です。

OpenView は、米国 Hewlett-Packard 社の登録商標です。

Systemwalker は、富士通株式会社の登録商標です。

WebSAM は、日本電気株式会社の登録商標です。

RealSecure は、Internet Security Systems, Inc.の米国及びその他の国における登録商標です。

Tivoli Enterprise Console は、米国 International Business Machines Corporation または米国 Tivoli Systems, Inc.の登録商標または商標です。

SNMPc は、米国キャスルロック・コンピューティング社の商標または登録商標です。

Adobe および Acrobat は、Adobe Systems Incorporated(アドビ システムズ社)の商標です。

Microsoft、Windows、Windows Server、Visual C++、Microsoft 365 は、米国 Microsoft Corporation の米国及び他の国における登録商標です。

Microsoft Internet Information Server、Microsoft SQL Server は、米国 Microsoft Corporation の商品名称です。

Google Workspace は、Google LLC の商標です。

NS-2232 は、セイコーインスツルメンツ株式会社の商標です。

savic-net は、株式会社 山武の登録商標です。

UNIX は、The Open Group の米国ならびに他の国における登録商標です。

Intel、Intel のロゴ、Intel Core、Intel Core 2 Duo は、米国およびその他の国におけるインテル コーポレーションまたはその子会社の商標または登録商標です。

TELstaff は、株式会社日立ソリューションズの登録商標です。

その他のすべての会社名や製品名は、それぞれの会社の商標、登録商標または、サービスマークです。

Senju Enterprise Navigator ユーザーズガイド

発行日 2023年 04月 03日

第1版 第1刷

著作、編集、発行 **株式会社野村総合研究所**

〒220-0012 神奈川県横浜市西区みなとみらい4-4-1 横浜野村ビル

Copyright © Nomura Research Institute, Ltd.

本マニュアルの一部又は全部を無断で複製する事を禁じます。

目 次

1	導入にあたって.....	1-1
1.1	はじめに.....	1-3
1.2	基本システム構成.....	1-5
1.3	主要な特徴.....	1-8
1.4	機能概要.....	1-13
1.4.1	SEN コンソール.....	1-13
1.4.2	SEN Web サービス.....	1-24
1.4.3	ユーザー管理機能.....	1-34
1.4.4	外部運用管理ツール連携機能.....	1-35
1.4.5	SNMP トラップ受信機能.....	1-36
1.4.6	シスログ受信機能.....	1-37
1.4.7	メール受信機能.....	1-38
1.4.8	Telnet 連携機能.....	1-39
1.4.9	サービスデスクツール(Senju Service Manager)連携機能.....	1-40
1.4.10	メール送信機能.....	1-41
1.4.11	TELStaff 連携機能.....	1-42
1.4.12	Senju Service Automation 機能.....	1-43
1.4.13	その他機能.....	1-44
2	操作ガイド.....	2-1
2.1	SEN コンソール操作ガイド.....	2-3
2.1.1	ログイン.....	2-3
2.1.2	SEN コンソール全体画面.....	2-6
2.1.3	メニューバー.....	2-8
2.1.4	ツールバー.....	2-17
2.1.5	メインビュー.....	2-18
2.1.6	イベントビュー.....	2-40
2.1.7	ノウハウビュー.....	2-77
2.1.8	イベントサマリビュー.....	2-83
2.1.9	イベントフィルタビュー.....	2-86
2.1.10	SEN パフォーマンスビュー.....	2-92
2.1.11	ツールビュー.....	2-96
2.1.12	アクション実行履歴.....	2-99
2.1.13	警報装置停止.....	2-100

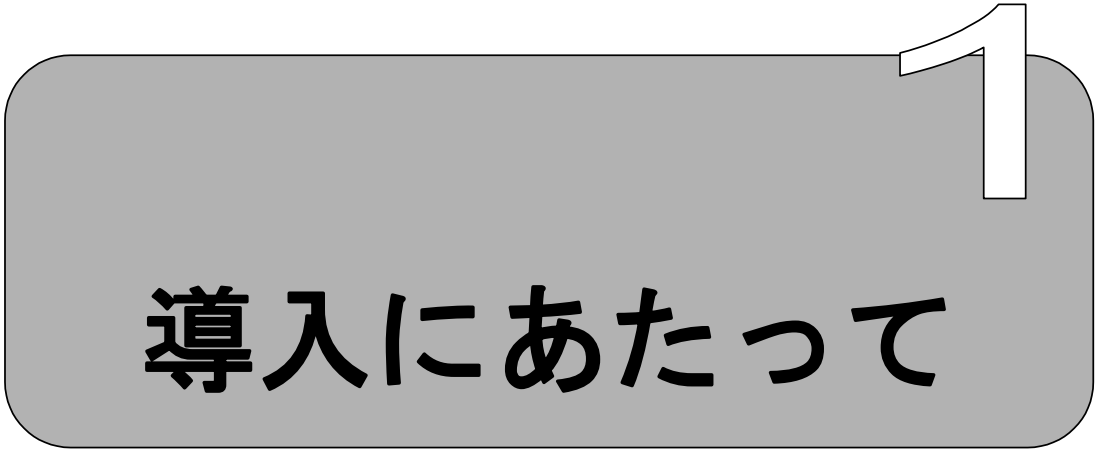
2.1.14	コンソールイベント送信.....	2-101
2.1.15	放置イベントの警告.....	2-106
2.1.16	アウトプットビュー.....	2-108
2.1.17	ステータスバー.....	2-109
2.2	SEN Web サービス操作ガイド.....	2-110
2.2.1	ログイン.....	2-110
2.2.2	SEN Web サービス共通画面.....	2-112
2.2.3	メインビュー.....	2-114
2.2.4	イベントビュー.....	2-127
3	管理ガイド.....	3-1
3.1	管理者のタスク.....	3-4
3.1.1	グループの管理.....	3-5
3.1.2	ユーザーの管理.....	3-6
3.1.3	メインビューの管理.....	3-8
3.1.4	イベントビューの管理.....	3-11
3.1.5	ノウハウビューの管理.....	3-14
3.1.6	イベントフィルタビューの管理.....	3-15
3.1.7	SEN パフォーマンスビューの管理.....	3-16
3.1.8	ルールセットの管理.....	3-17
3.1.9	コンソールルールの管理.....	3-19
3.1.10	ルール条件の管理.....	3-20
3.1.11	コンソールイベントの管理.....	3-21
3.1.12	イメージの管理.....	3-23
3.1.13	エクスポート/インポート.....	3-24
3.1.14	SEN サーバーにおける各種設定.....	3-25
3.1.15	SEN コンソールにおける各種設定.....	3-27
3.2	SEN コンソールからの設定操作.....	3-29
3.2.1	グループの編集.....	3-30
3.2.2	ユーザーの編集.....	3-32
3.2.3	イメージの編集.....	3-36
3.2.4	SEN サーバー/コンソールの設定.....	3-38
3.2.5	エクスポート/インポート.....	3-48
3.2.6	設定時の注意事項.....	3-52
3.3	維持管理.....	3-53
3.3.1	SEN サーバーの起動・停止.....	3-54

3.3.2	SEN Web サービスの起動・停止	3-56
3.3.3	SEN サーバー各アダプタの制御	3-58
3.3.4	Web サーバーデーモンの制御	3-65
3.3.5	SEN サーバーのデータバックアップ	3-72
3.3.6	ログファイルの運用	3-74
3.3.7	添付ファイルの運用	3-80
3.3.8	SEN サーバー稼働環境の時刻変更	3-81
3.3.9	SEN Web サービス稼働環境の時刻変更	3-82
3.3.10	SEN コンソールダイアログのアイコン変更	3-83
3.3.11	SEN Web サービスログイン画面のアイコン変更	3-84
3.3.12	SEN Web サービス共通画面のロゴ変更	3-85
4	メインペイン作成ガイド	4-1
4.1	メインペインの作成・編集手順	4-3
4.1.1	メインペインエディタの起動	4-3
4.1.2	メインペインの描画編集	4-5
4.1.3	メインペインアイテムのプロパティ	4-19
4.1.4	メインペインの保存	4-38
4.1.5	インポートによるメインペインアイテムの自動生成(千手ノード定義)	4-42
4.1.6	インポートハンドラによるメインペインの自動生成(千手ジョブスケジュール情報)	4-44
5	ルール作成ガイド	5-1
5.1	ルールの作成・編集	5-4
5.1.1	ルールの考え方	5-5
5.1.2	ルール処理の流れ	5-6
5.1.3	ルール記述方法	5-10
5.1.4	ルール条件の編集	5-16
5.1.5	アクションテンプレートの編集	5-24
5.1.6	ルールの編集	5-28
5.1.7	コンソールルールの編集	5-80
5.1.8	ルールセットの反映	5-82
5.1.9	オブジェクトブラウザ	5-84
5.1.10	ルールセットのシミュレーション	5-88
5.1.11	チューニングガイド	5-93
5.2	リファレンス	5-95

5.2.1	ルール内で参照可能な変数.....	5-95
5.2.2	イベントクラス一覧.....	5-143
5.3	ルール事例集.....	5-191
5.3.1	シチュエーションによるルール事例.....	5-192
6	資料集.....	6-1
6.1	メッセージ一覧.....	6-5
6.1.1	内部イベント.....	6-5
6.1.2	メールメッセージ.....	6-12
6.1.3	SNMP トラップメッセージ.....	6-12
6.1.4	シスログメッセージ.....	6-12
6.1.5	savic-netEVmodel30 メッセージ.....	6-12
6.1.6	nmAcos アダプタメッセージ.....	6-13
6.1.7	メール送信メッセージ.....	6-13
6.1.8	電話呼出メッセージ.....	6-13
6.2	制限事項.....	6-14
6.3	トラブルシューティング.....	6-21
6.4	構成プロセス一覧.....	6-25
6.5	Senju Service Automation の実行結果.....	6-27
6.6	コマンドリファレンス.....	6-31
6.6.1	イベント送信コマンド.....	6-31
6.6.2	Telnet 連携コマンド.....	6-41
6.6.3	イベントファイル変換コマンド.....	6-43
6.6.4	UUID 作成コマンド.....	6-46
6.7	システム提供のアクションテンプレート.....	6-47
6.7.1	Senju/SM に登録する.....	6-48
6.7.2	イベントをファイル出力する.....	6-57
6.7.3	メールを送信する.....	6-61
6.7.4	メールの内容を表示する.....	6-63
6.7.5	メインペインを操作する.....	6-65
6.7.6	対応不要のイベントのステータスを「対処完了」に変更する.....	6-69
6.7.7	千手のコマンドを実行する.....	6-85
6.8	SEN コンソールと SEN Web サービスの表示の違い.....	6-88
6.8.1	一覧.....	6-88
6.8.2	詳細.....	6-89
6.9	用語集.....	6-94

6.9.1 共通及び基本用語.....	6-94
6.9.2 SEN サーバー、SEN コンソール、SEN Web サービス	6-96
6.9.3 ルール処理.....	6-100
6.9.4 Senju Operation Conductor 連携	6-102
6.9.5 Senju Service Manager 連携	6-103
6.9.6 メール連携.....	6-104
6.9.7 SNMP トラップ連携.....	6-105
6.9.8 シスログ連携.....	6-106
6.9.9 ACOS ホスト連携	6-107
6.9.10 TELstaff 連携	6-108
6.9.11 Senju Service Automation 連携	6-109

1 導入にあたって



導入にあたって

この章では、Senju Enterprise Navigator の概要および導入するための手順について説明します。

1	導入にあたって.....	1-1
1.1	はじめに.....	1-3
1.2	基本システム構成.....	1-5
1.3	主要な特徴.....	1-8
1.4	機能概要.....	1-13
1.4.1	SEN コンソール.....	1-13
1.4.1.1	ビュー表示機能.....	1-13
1.4.1.2	メインビュー編集機能.....	1-16
1.4.1.3	イベントルール処理機能.....	1-17
1.4.1.4	ルール編集機能.....	1-18
1.4.1.5	ノウハウ蓄積機能.....	1-20
1.4.1.6	イベントサマリ表示機能.....	1-21
1.4.1.7	イベントフィルタ機能.....	1-22
1.4.1.8	SEN サーバー運行状況表示機能.....	1-23
1.4.2	SEN Web サービス.....	1-24
1.4.2.1	ビュー表示機能.....	1-24
1.4.2.2	メインビュー編集機能.....	1-27
1.4.2.3	イベントルール処理機能.....	1-28
1.4.2.4	ルール編集機能.....	1-29
1.4.2.5	ノウハウ蓄積機能.....	1-30
1.4.2.6	イベントサマリ表示機能.....	1-31
1.4.2.7	イベントフィルタ機能.....	1-32
1.4.2.8	SEN サーバー運行状況表示機能.....	1-33
1.4.3	ユーザー管理機能.....	1-34
1.4.4	外部運用管理ツール連携機能.....	1-35
1.4.5	SNMP トラップ受信機能.....	1-36
1.4.6	シスログ受信機能.....	1-37
1.4.7	メール受信機能.....	1-38
1.4.8	Telnet 連携機能.....	1-39
1.4.9	サービスデスクツール(Senju Service Manager)連携機能.....	1-40
1.4.10	メール送信機能.....	1-41
1.4.11	TELStaff 連携機能.....	1-42
1.4.12	Senju Service Automation 機能.....	1-43
1.4.13	その他機能.....	1-44

1.1 はじめに

近年のインターネットの爆発的な普及や B-to-B、B-to-C に代表される e-ビジネスの進展に伴い、管理すべきコンピュータ、ネットワーク、アプリケーションが多様化、複雑化しています。この事が、システムを運用管理するためのコストの増加を招き、ビジネスへ多大な負担を与えるようになってきています。

一方、情報システムは、もはや経営基盤のひとつであり、企業経営になくてはならないものと位置付けられます。基幹業務システムの停止は、企業活動自体が止まる事を意味し、企業存続にかかわる問題に発展する可能性すら否定できません。

従来のシステム運用管理ツールは、基本的にデプロイメント管理(資産管理、変更管理、構成管理等)、アベイラビリティ管理(障害管理、稼働監視、性能管理等)、セキュリティ管理(アクセス管理、セキュリティ監視、ウイルス対策等)、ジョブ自動運用といった個別の運用タスクに対するポイントソリューションを提供するものでした。ユーザーは必要に応じて各製品を選択し、組合せる事で、実際のシステムの運用管理を行ってきました。

しかし、ERP(Enterprise Resource Planning)や SCM(Supply Chain Management)に代表されるようにシステムが大規模化かつ高度化するに伴い、運用管理すべき管理項目や管理対象が非常に多くなってきており、システムトラブル時に企業活動(業務)の何に影響を与えるのか把握できない状況が生まれています。従来の運用管理ツールの組合せによるポイントソリューションだけでは、システム上の問題や障害が、IT サービス全体に対しどのような影響があるのかを把握するのは困難です。

システムが複雑化すると運用管理ツールも専門化し、複数のツールを使いこなす事が必要となってきます。ツールが専門的になると、要求される知識やスキルもツール毎に異なります。結果、ツールの使用方法の習得に非常に時間がかかり、場合によっては運用管理ツール毎にオペレータや管理者が必要になります。また、各担当者のツールの習熟度合いによって、運用品質にばらつきが出る事になります。

管理対象や運用管理ツールが増加すると、ひとつの障害に起因し、多数のメッセージが発生されてしまいます。結果、重要な障害の見落としや、障害への誤った対応を引き起こしかねません。

Senju Enterprise Navigator は、上記のような問題を解決するため、新たなシステム運用の基盤を提供します。既存のツールはもちろん、今後登場するツール群も相互に連携する「Hub エンジン」、柔軟に設定可能なルールに基づき必要な情報を抽出する「Rule エンジン」、そして収集した情報を自由に表現できる「View エンジン」。これら3つの機能を組合せる事により、システム運用の効率化、高品質化を実現します。

例えば、運用オペレータにいくつもの画面で障害メッセージの羅列を見せるのではなく、すべてを集約し、フィルタリングした上で本当に必要な情報だけを見せる画面を構成する事ができます。結果、オペレーションの負荷軽減や、誤操作の防止、エスカレーションの手順の簡略化を図る事ができます。あるいは、上位の管理者向けにシステムの稼働情報を集

約し、業務の運行状況を表す画面を提示する事で、サービス視点のビューも効果的に構築できます。

Senju Enterprise Navigator は、「システム運用をどうしたいのか」「誰の職務、業務をどこまで効率化したいのか」「現在の IT サービス運行状況をサービスの視点で把握したい」という企業ごとの課題や目的に合わせて、目標とするシステム運用を実現するための基盤です。

Senju Enterprise Navigator は、現在の運用環境の大幅な変更や再設計をとまなう事なく導入できます。効率化したいテーマや効果が大きいテーマから着手し、「計画」→「実施」→「評価」→「改善」のサイクルを回すことで、継続的な IT サービスの提供及び運用現場の品質向上を図る事が可能です。既存のツールや設備を無駄にする事なく、効果を見極めながら、段階的なシステム運用の発展と、継続的な効率化を図る事ができます。

1.2 基本システム構成

Senju Enterprise Navigator を使用した運用管理システムの基本構成について説明します。

Senju Enterprise Navigator システム構成

Senju Enterprise Navigator による運用管理システムの構成図を図 1.2-1 に示します。

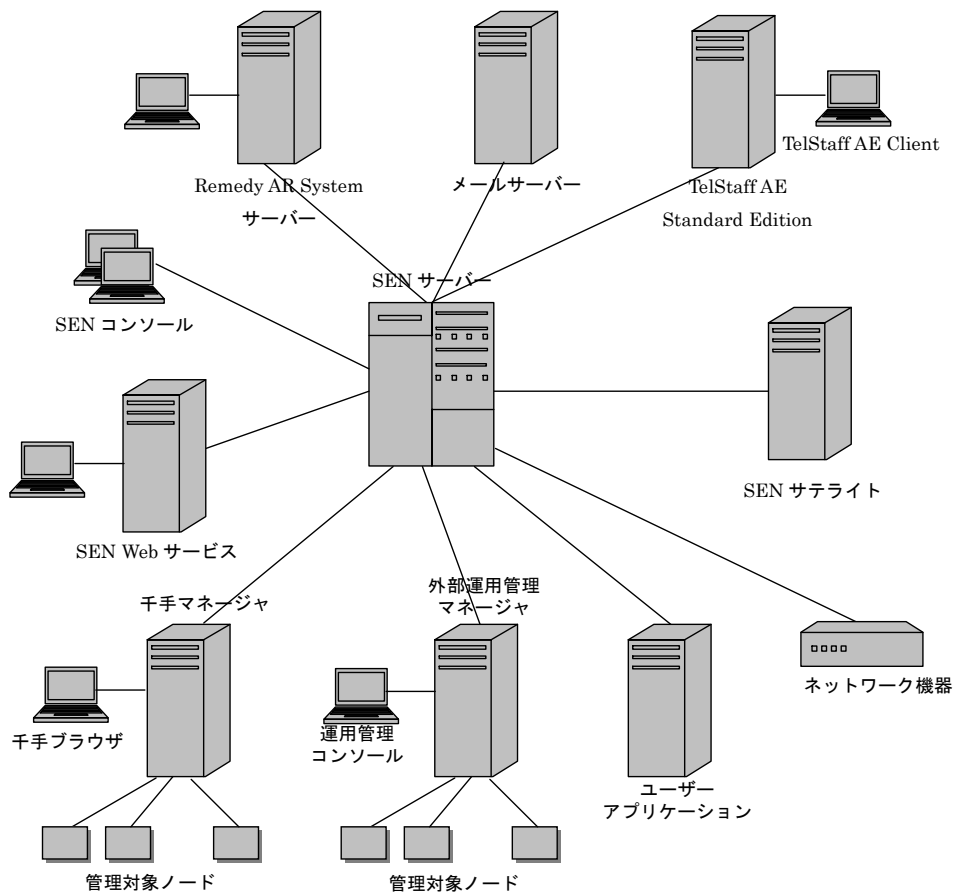


図 1.2-1 システム構成図

SEN サーバー

Senju Enterprise Navigator による運用監視を行うためのサーバーです。ユーザー定義やビュー画面定義、ルール定義、イベントデータなどはすべて SEN サーバー内に格納されます。

SEN コンソール

ユーザーが Senju Enterprise Navigator による運用監視の操作を行うためのコンソール端末です。1台の SEN サーバーに複数の SEN コンソールを接続する事ができます。

SEN Web サービス

ユーザーが Senju Enterprise Navigator による監視操作を行うための Web コンソール端末です。1台の SEN サーバーに複数の SEN Web サービスを接続する事ができます。

SEN サテライト

ユーザーアプリケーションから情報を収集し SEN サーバーへ通知する為のアプリケーションです。

千手マネージャ

Senju Operation Conductor における運用管理サーバーです。SEN サーバーは、千手マネージャと接続する事で、千手マネージャで取得された管理対象ノードに関する監視情報や障害などのメッセージをイベントとして取得できます。1台の SEN サーバーには、複数の千手マネージャを接続できます。

外部運用管理マネージャ

外部運用管理システムにおける運用管理サーバーです。外部運用管理マネージャで収集した管理対象ノードに関する障害などのメッセージをイベントとして SEN サーバーに通知できます。1台の SEN サーバーには、複数の外部運用管理マネージャを接続できます。

ユーザーアプリケーション

ユーザーアプリケーションで発生した障害などのメッセージをイベントとして SEN サーバーに通知できます。またユーザーアプリケーションがシスログに出力したログ情報を、イベントとして SEN サーバーに通知できます。

ネットワーク機器

SNMP Trap 通知可能なネットワーク機器からの SNMP Trap を、イベントとして SEN サーバーに通知できます。

メールサーバー

SEN では電子メールの送受信が出来ます。1台の SEN サーバーでは、複数のメールサーバー (POP サーバー、SMTP サーバー) 及びメールアカウントの組合せを接続できます。

SEN サーバーから電子メールの送受信を行う場合には、メールサーバー (POP サーバー、SMTP サーバー) が必要となります。

Senju Service Manager サーバー

サービスデスクである Senju Service Manager の運用管理サーバーです。SEN サーバ

ーで受信した障害などのイベントをインシデントとして Senju Service Manager サーバーに通知できます。

TELstaff AE Standard Edition

統合通報管理システムです。システム稼働中に発生した問題を関係者に電話などの電気機器を使用して自動的に通報します。

TELstaff AE Client

統合通報管理システムにおける統合通報管理クライアントです。TELstaff AE Standard Edition や他の TELstaff AE Client にメッセージを送信、受信することができます。

1.3 主要な特徴

図 1.3-1 に、Senju Enterprise Navigator が実現する運用管理システムの概念図を示します。

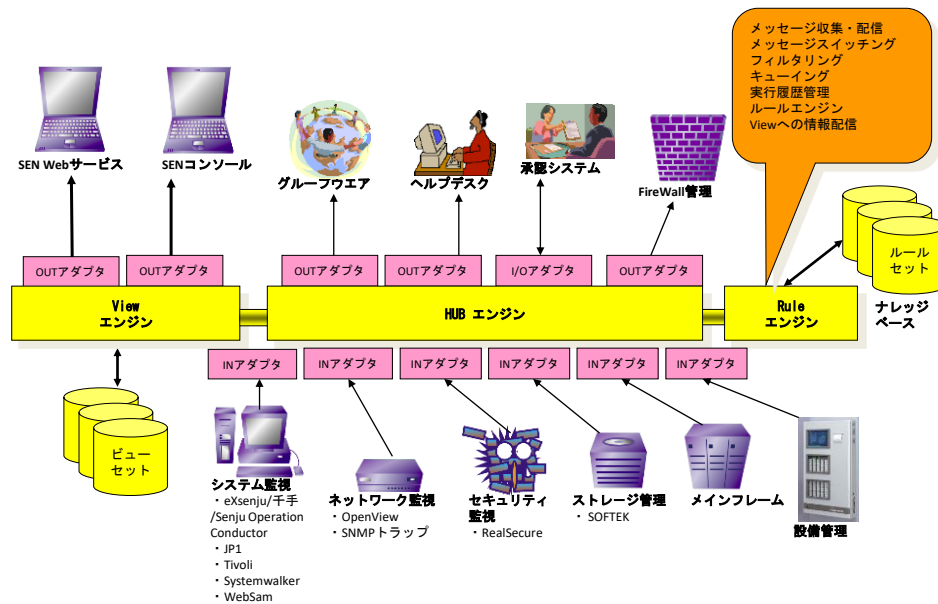


図 1.3-1 Senju Enterprise Navigator システム概念図

Hub エンジン

様々なシステム運用ツールの相互接続と連携を実現する「Hub」として機能し、各ツール間の情報の収集と配信を集中して行います。Hub エンジンにより、従来、個々に利用されていた各種ツールを相互に関連づけてより効果的に利用する事ができます。

例えば、監視ツールから得た障害情報をインシデントとしてインシデント管理ツールに送り復旧を支援したり、また、インシデント管理ツールからの対応完了メッセージに基づいてシステムの管理ステータスを自動的に復帰するなどの処理が可能です。あるいは、ネットワーク監視ツールで検知した特定パターンの障害メッセージと、セキュリティ監視ツールで検知した不正侵入メッセージの両方を一定時間内に受信した場合にのみ、管理者に電子メールで通知し、ファイアウォール遮断コマンドを発行するなどの、時間差のある複数の入力と出力を一連の処理として自動化する事ができます。

■ 各社の主要な運用管理ツール (HP OpenView、IBM Tivoli、日立 JP1、富士通 Systemwalker、NEC WebSAM 等) やメインフレームをはじめ、様々な外部ツールからの情報を一元的に収集します。また SNMPトラップ、シスログ、電子メールの情報を収集する事も可能です。収集された情報は、相関に基づく複合判断に対応できるよう内部で蓄積

され、利用されます。

- 収集・蓄積された情報をトリガとして画面(メインビュー)の表示状態を変化させたり、複数の情報を互いに関連付けてルール処理する事が可能です。
- 様々なツールで検知した障害などの事象を複合的に判断し、業務やサービスへの影響度に結びつけた上で View エンジンに送り、自由なデザインで画面を更新する事が可能です。
- 収集した情報から Senju Service Manager 等のサービスデスクシステムへのインシデント登録を行う事が可能です。任意のインシデント管理画面に対応し、各フィールドに自由に値を設定できます。
- 複数の情報と複合判断をもとにパトランプ、ビープ音、サウンド等の警報装置を鳴動する事が可能です。
- 電子メールを送信する場合、メールの宛先や内容は、受信したメッセージの内容によって変更可能です。
- 情報に基づき任意の外部コマンド(プログラム、バッチコマンド)の実行が可能です。例えば障害発生時、一定の条件を満たした場合にのみ、リカバリ用プログラムを自動的に起動するといった処理が可能です。

Rule エンジン

Hub エンジンにより各種ツール間で集配信される情報は、単にやり取りされるだけでなく、Rule エンジンにおいて「ルール」や「フィルタ」による処理を加える事ができます。この機能により、Senju Enterprise Navigator に接続された複数のツール間で、情報の発生の時間差、量、内容などの関係に基づいて処理の内容を自動的に変更する事ができます。ルールやフィルタは、ユーザーが自由に設定・記述できます。これらを利用する事で、従来は困難だった複数ツールの情報に基づく複合的な判断を伴う運用を簡略化、あるいは自動化したり、監視結果に対する対応の切り分け方法を所定の手順に従って誘導する事が可能となります。

Senju Enterprise Navigator が提供する強力な Rule エンジンは、本来人間が行うべき判断を必要に応じて自動化またはサポートします。障害対応を例にとれば、発生の検知、切り分け、一次対応、障害内容分析、エスカレーション、業務インパクト把握等、各フェーズにおいて、タスクや情報の抽出方法をルールとして記述する事により、Rule エンジ

ンがこれらの処理を自動的に誤りなく行い、オペレーションを支援します。これにより、対応に要する時間の短縮、人手を介在する事によるミスの防止、業務インパクトの把握など、総合的な運用品質の向上につながります。

- 到着したメッセージが指定された条件 (活性化条件) を満たす場合に、自動的にアクションを実行します。
- アクションでは、メインビューの表示状態の変更、メッセージの内容変更、外部コマンド実行、メール送信、インシデント自動登録等の処理が可能です。
- 不要なメッセージは、フィルタによりルール処理させる事なく破棄する事ができます。単純なフィルタだけでなく、同一メッセージを繰り返し受信した場合のみフィルタしたり、また、時間帯に応じてフィルタの活性、不活性を切り替える事も可能なので、定期リポートや計画保守時にも容易に対応できます。
- 情報の相関に基づくルール処理が可能です。例えば「あるメッセージが到着後、一定時間内に指定したメッセージが到着しなければアクションを実行する(しない)」といったルールも指定できます。ルールを用いる事で、従来、人間が行わざるをえず、見落としがちだった判断処理を実際の運用に組み入れる事ができます。
- ルール作成を支援するためのルール編集エディタを提供します。また Senju Enterprise Navigator が提供する各変数やメソッドの使い方を支援する GUI も提供しています。これら GUI を使用する事で、複雑なルールを容易に作成する事が可能です。
- 作成したルールは実際に適用する前に、意図したとおりにルールが動作するかシミュレーション検証する事が可能です。
- ルールの活性化条件およびアクションは、標準的なスクリプト言語である JScript により記述します。JScript は、正規表現や ActiveX オブジェクトといった高い処理能力を備えており、複雑なルールを記述する事も可能です。

View エンジン

View エンジンは、様々な運用管理情報をグラフィカルに表示します。Hub エンジンが収集した情報を総合的に表示したり、また個々の業務内容やシステム構成、あるいは運用形態に合わせ、最適な監視画面をデザインする事ができます。デザインされた画面は Hub エンジンで収集された情報と、Rule エンジンによる処理の結果に応じて、リアルタイムに変化させる事ができます。運用管理を行う担当者が必要とする情報、把握すべき情

報を的確に分かりやすく表示します。さらに関連する監視画面同士や、マニュアルや手順書等の外部情報をハイパーリンクする事で、必要な情報に速やかにアクセスする事が可能になります。

【メインビュー】

■ 目的や視点に応じて、ユーザーが自由に画面デザインを行う事ができます。例えば、サーバーやネットワーク等のシステムの視点、あるいは受注処理や生産管理のような業務の視点など、任意の視点でのビューが必要なだけ作成可能です。

■ ユーザーグループごとに別々の画面を表示できます。例えばネットワーク管理者用、アプリケーション管理者用等、個別の画面を用意しておけば、ログイン時にそのユーザーグループ用画面が表示されます。また該当グループに所属しないユーザーでログインした場合には、そのグループの画面にはアクセスできません。

■ 必要に応じ画面をツリー表示する事が可能です。画面間の関連を簡単に把握できるだけでなく、全体表示から詳細表示へドリルダウンする監視画面等も自由にデザインできます。

■ 画面デザインには、基本図形、画像、リストなど多彩な「アイテム」が利用できます。自由な発想で必要な表現を行う事が可能です。

■ ルール処理により、画面の状態をリアルタイムに更新、変更できます。管理対象に関する最新の情報を的確にユーザーに知らせる事ができます。

■ 画面上の「アイテム」に関連する別の画面(メインビュー)へのジャンプや、外部情報(ドキュメント、Web ページ)へ素早く簡単にアクセスできます。またアイテムに関連付けられた任意のコマンドをインタラクティブに実行する事ができます。

【イベントビュー】

■ 様々なツールから収集したメッセージを一元表示する事で、ひとつのビューで各ツールからの情報を把握する事ができます。また、時系列での表示やメッセージ内容によるソート表示を行う事も可能です。

■ ユーザーにとって必要なメッセージだけを表示する事で、見落としを防止するとともに、権限のないユーザーには表示させない事も可能です。例えば、SNMPトラップメッセージだけを表示したり、特定のステータスのメッセージだけを表示するなど、任意の観点

でメッセージを絞り込んで表示する事ができます。

■ 選択したメッセージに対して、メッセージに関連する画面(メインビュー)へのジャンプや、外部情報(ドキュメント、Web ページ)に素早く簡単にアクセスできます。またメッセージに関連付けられた任意のコマンドをインタラクティブに実行する事ができます。

■ 選択したメッセージに対して、インタラクティブなメール送信及び報告書の作成が可能です。

■ メッセージに対する対処状況を GUI 画面から変更する事が可能です。これにより例えば未対処障害に対する対処漏れを防止できます。

■ 過去に受信したメッセージを検索し、閲覧する事が可能です。

1.4 機能概要

1.4.1 SEN コンソール

1.4.1.1 ビュー表示機能

SEN コンソールにおけるビュー表示画面の全体を図 1.4-1 に示します。

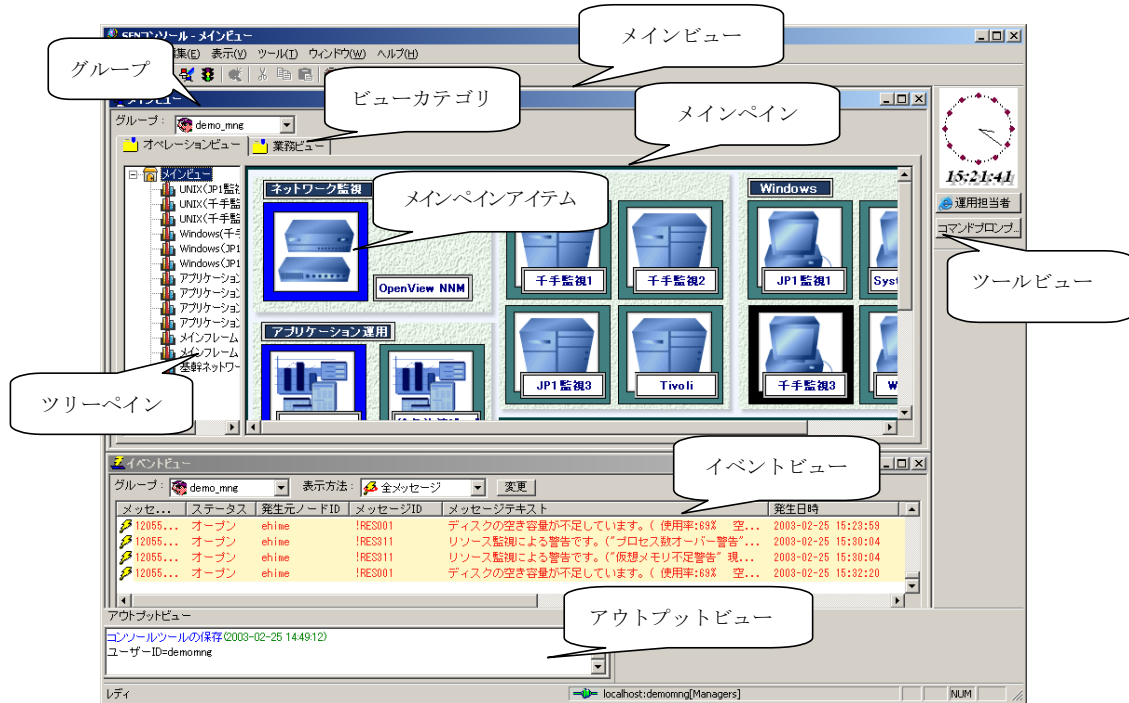


図 1.4-1 メインビュー画面

メインビュー

メインビューは、サーバーやアプリケーションなどの管理対象をグラフィカルに表示するためのウィンドウです。メインビューウィンドウは、2つのペイン(領域)に分かれており、左側のツリー表示用のツリーペインと、右側のグラフィック図形表示用のメインペインとで構成されます。ツリーペインの各ツリーノードにはメインペインが割り当てられ、メインペインを階層的に管理する事ができます。また、各メインペインの拡大、縮小表示をする事も可能です。

管理対象はメインペインアイテムと呼ばれるグラフィック図形により表現されます。メインペインアイテムは、あらかじめ用意される直線、長方形、円・楕円、文字、イメージ(アイコン、ビットマップ等)、リストボックスといった基本図形の他、基本図形を任意に組合せた結合図形をユーザーが定義する事もできます。メインペインをデザインするには、メインペインエディタを使用します。

管理対象における障害や重大事象を通知するために発行されたメッセージや、管理対象の状態の変化(リソース使用率の上昇、プロセスの異常、ノードの停止等)は、イベントとして SEN サーバーに伝えられます。SEN サーバーでは、受け取ったイベントに応じてメイン

ペインアイテムのプロパティ(属性)を変化させる事ができます。例えば、管理対象サーバーがダウンしたというイベントを受け取った場合には、対応するメインペインアイテムの背景色を赤に変化させたり、点滅させたりといった事が可能です。これは、イベントに対するルールを記述する事で実現できます。

メインペインアイテムに、関連する別の画面(メインビュー)や外部情報(ドキュメント、Web ページ)へのハイパーリンクを設定する事で、関連する情報へ素早くアクセスする事ができます。またアイテムに関連付けられた任意のコマンドをインタラクティブに実行する事ができます。

メインビューでは、ユーザーグループ毎に(以下、単にグループと呼びます)独立したビューを提供します。管理目的あるいは管理対象など、任意のカテゴリでグループを定義できます。例えば、オペレータ、運用管理者、システム管理者のようなグループを定義する事もできますし、受発注管理、在庫管理、人事管理などの業務毎のグループを定義する事も可能です。また、同一グループのメインビューは、さらにビューカテゴリと呼ばれる複数のビューに分ける事ができます。ビューカテゴリについてもユーザーが自由に定義し、変更する事が可能です。ビューカテゴリを切り替えるには、メインビューウィンドウ上部のタブを選択します。

イベントビュー

イベントビューでは、管理対象で発生する各種イベントを一覧表示します。イベントは、通常、SEN サーバーが受信した時系列の順で表示されますが、任意の属性でソートしたり、あるいは特定の条件で絞り込みを行う事が可能です。

イベントビューもメインビューと同様、グループ毎に独立して表示されます。すなわち、そのグループに関係のあるイベントのみが表示され、セキュリティ上そのグループのユーザーに見せるべきでないイベントは表示させないようにする事ができます。これについては、イベントに対するルールを定義する事により実現します。

イベントビューには、発生元ノード ID、メッセージ ID、発生日時、ステータス、メッセージテキストなどの属性がカラムに分けられて一覧表示されます。表示方法を切り替える事で、表示カラムや表示対象イベントを絞り込む事ができます。例えば、発生元ノード ID が “server01” で、ステータスが “オープン” のイベントのみ表示させるといった事が可能です。表示方法は、ユーザーが任意に定義できます。

イベントに対するルールを記述する事で、イベント内容に応じてイベントの属性を変更する事ができます。これにより、特定のイベントはイベントの文字色を赤に変更したり、あるいはステータスを自動的に “対処完了” に変更するといった事ができます。

ルールでは、さらにイベントとメインペインアイテムを関連づける事ができます。イベントをメインペインアイテムに関連づける事により、そのイベントと関連のあるメインペインアイテムにハイパーリンクさせる事ができます。これにより、例えば、あるイベントを受信した場合に特定のメインペインアイテムの背景色を赤に変更するというルールを定義し、さらにそのイ

イベントとメインペインアイテムを関連づけておく事で、イベントビューからそのメインペインアイテムが含まれるメインペインをハイパーリンク表示させる事が可能です。逆に、メインペインアイテムから、そのアイテムに関連づけられているイベントの一覧を表示させる事もできます。

各イベントに対し任意のコマンドを割り当て、インタラクティブにコマンドを実行する事ができます。またイベント毎にインタラクティブにメールの送信及び報告書の作成を実行する事も可能です。

ツールビュー

ツールビューには、任意の外部コマンドや時計を登録できます。例えば、外部運用管理コンソールプログラムを起動したり、PDF ファイルや HTML ファイルとして準備された運用手順書などを呼び出す事が可能です。

アウトプットビュー

アウトプットビューには、コンソールにログインしているユーザーの主要な操作内容の履歴を表示します。

1.4.1.2 メインビュー編集機能

図 1.4-2 にメインペインを編集するためのメインペインエディタ画面を示します。

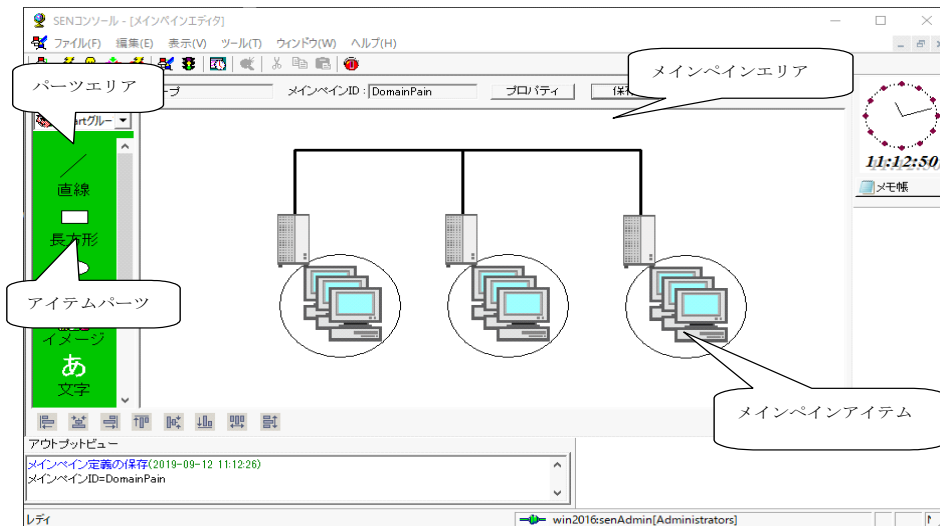


図 1.4-2 メインペインエディタ画面

メインペインエディタでは、メインビューに表示させるメインペインをデザインするための画面編集機能を提供します。

メインペインをデザインするには、メインペインアイテムと呼ばれる図形部品を uses。メインペイン上にメインペインアイテムを新規に描画するには、パーツエリアに含まれるアイテムパーツをメインペインエリアにドラッグ&ドロップします。これらのアイテムは任意の場所に配置し、任意の大きさにリサイズする事ができます。

メインペインアイテムでは、プロパティと呼ばれる属性情報を設定する事ができます。プロパティは、アイテム毎に設定できる内容が異なります。プロパティには、背景色や境界色、線の種別や太さ、割り当てるイメージファイル名などを指定できます。また、背景色や境界色、イメージを切り替える事でアイテムを点滅(ブリンク)させる指定も可能です。

複数のメインペインアイテムを結合して結合アイテムを作る事ができます。結合アイテムを用いる事で、ユーザー独自の複雑な図形アイテムを作成できるだけでなく、結合アイテムをアイテムパーツとしてパーツエリアに登録する事で、後から再利用可能になります。また、結合アイテム内のアイテムのプロパティにアクセスするためのショートカットを定義できます。これは、深く階層化された結合アイテムの内部アイテムのプロパティにアクセスするようなルールを記述する場合に便利です。例えば、矩形と楕円を組合せたものを1つの結合アイテムとして定義し、矩形の「背景色」プロパティに”status”というショートカットを定義しておくと、結合アイテムの”status”プロパティを赤に変更するといったルールを記述する事が可能になります。

その他、接続している運用管理マネージャでの監視定義情報をインポートする事により、自動的にメインペインアイテムを生成する定義インポート機能などもあります(ただし千手システム連携のみ)。

1.4.1.3 イベントルール処理機能

イベントルール処理機能は、不要なイベントを破棄したり、指定された条件を満たすイベントを受信した際にイベントに対するアクションを自動的に実行する機能です。イベントルール処理を用いると、例えば、監視対象サーバーがダウンしたというイベントを受信した場合に、メインビュー上のサーバーノードを表すメインペインアイテムの背景色を変更したり、点滅(ブリンク)させたりする事で、現在の稼働状況を可視化する事ができます。また、障害情報を電子メールで送信する事や、サービスデスクシステム(Senju Service Manager)にインシデントを自動登録する事で、サービスデスクに障害事象を通知する事ができます。

ルールは、「もし～ならば～する」という If-Then 形式で記述されます。具体的には、イベントの属性に関する論理条件式を記述するルール条件と、条件にマッチしたときに実行されるアクションの組により構成されます。アクションは、イベントをトリガとして自動的に実行される処理で、メインペインアイテムのプロパティ変更、受信したイベントのプロパティ変更、イベントとメインペインアイテムとの関連付け、イベントへのユーザー定義付加情報の追加、任意の外部コマンドの起動などを行う事が可能です。

ルールは複数のステージに分かれて順にパイプライン処理されます。不要なイベントの破棄やイベント内容の解析は初期のステージで行われます。その後、現在の処理対象のイベント(カレントイベント)に対するアクションを実行するためのステージが処理されます。カレントイベントのみをトリガとするルール以外に、過去に受信したイベントをもとに条件判定する過去イベント参照ルールを定義する事もできます。例えば、ある条件のイベントを受信後、一定時間内に指定された条件のイベントを受信した場合にアクションを実行する指定ができます。逆に、ある条件のイベントを受信後、一定時間内に指定された条件のイベントを受信しなかった場合にアクションを実行する事も可能です。その他、過去のアクション実行内容を参照するルールや一定時間間隔でアクションを実行するタイマルールを定義する事ができます。

すべてのグループに対して共通に適用するルールは、「共通ルール」として記述します。イベントをグループに振り分け後、グループ毎に独立に適用するルールは、「グループ別ルール」として記述します。グループ別ルールでは、例えばあるイベントを受信した場合に、グループ A ではメインペインアイテムのプロパティを変更し、グループ B ではメール送信を行うというような別々のアクションを実行できます。この時、グループ A の実行結果はグループ B から参照できず、またグループ B の実行結果もグループ A から参照できません。両グループのルールが、それぞれ独立に動作します。

ルールは、スクリプト言語 JScript を用いて記述します。代入や比較などの簡単な演算式に加え、JScript が標準で備える正規表現マッチング処理などの高度な機能を利用する事ができます。

1.4.1.4 ルール編集機能

ルールの編集は、図 1.4-3 に示すルールセットエディタを使用して行います。

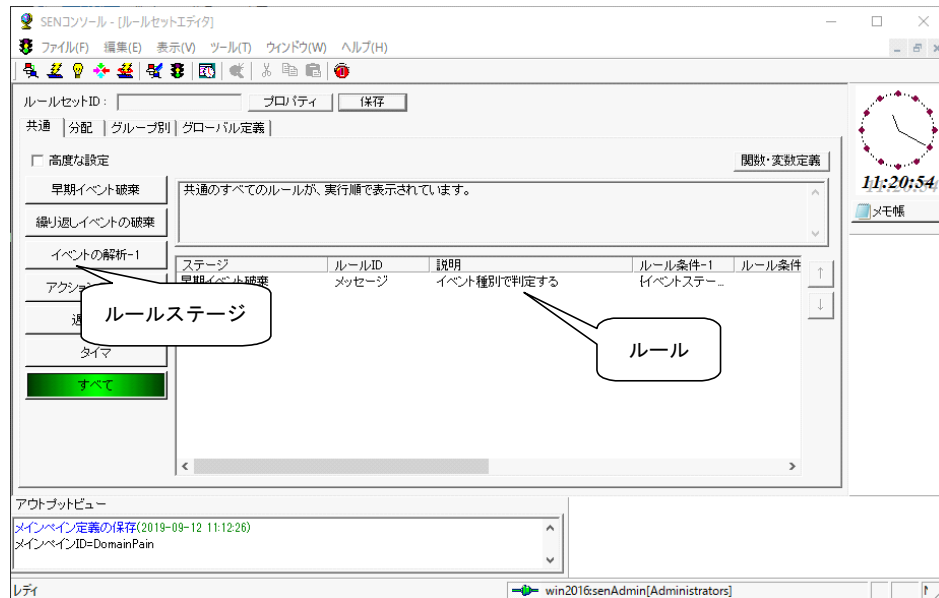


図 1.4-3 ルールセットエディタ

SEN サーバーにおいて適用されるルールをまとめたものをルールセットと呼びます。各ルールは、ルールセット内に定義します。ルールセットは、大きく、共通ルール、分配ルール、グループ別ルール、グローバル定義の4種類に分けられます。これらは、ルールセットエディタウィンドウのタブにより切り替えます。

共通ルールは、SEN サーバー内で共通に適用されるルールを集めたもので、先に述べたステージ別にルールを定義します。SEN サーバー全体で必要のないイベントを破棄したり、各グループで共通に実行するルールを定義します。

次に分配ルールでは、各イベントをどのグループに振り分けるかのルールを定義します。分配ルールにはイベントの属性条件によりグループに振り分ける汎用分配ルールと、イベントのクラスがもつキーによりグループに振り分けるキーによる分配ルールとがあります。ここでイベントクラスとは、イベントの集合を特徴づけるもので、例えば、千手メッセージイベント、千手ノード定義イベント、千手ノードステータスイベントなどは、それぞれ独立したイベントクラスとして扱われます。

グループ別ルールでは、分配ルールにより各グループに割り当てられたイベントのみルール処理の対象になります。グループ別ルールのステージは共通ルールと同様ですが、そのグループでのみ実行するルールを定義します。グループ別ルールを通過したイベントは、最終的にグループ毎のイベントビューに表示されます。

グローバル定義では、ルール処理で共通に用いる定数やユーティリティ関数の定義や、ルール処理全体の初期処理、終了処理を記述します。

ルールセット編集後、ルールセットの反映を行う事で、ルールセット内のルールが活性化され、実際に各ルール処理を行います。

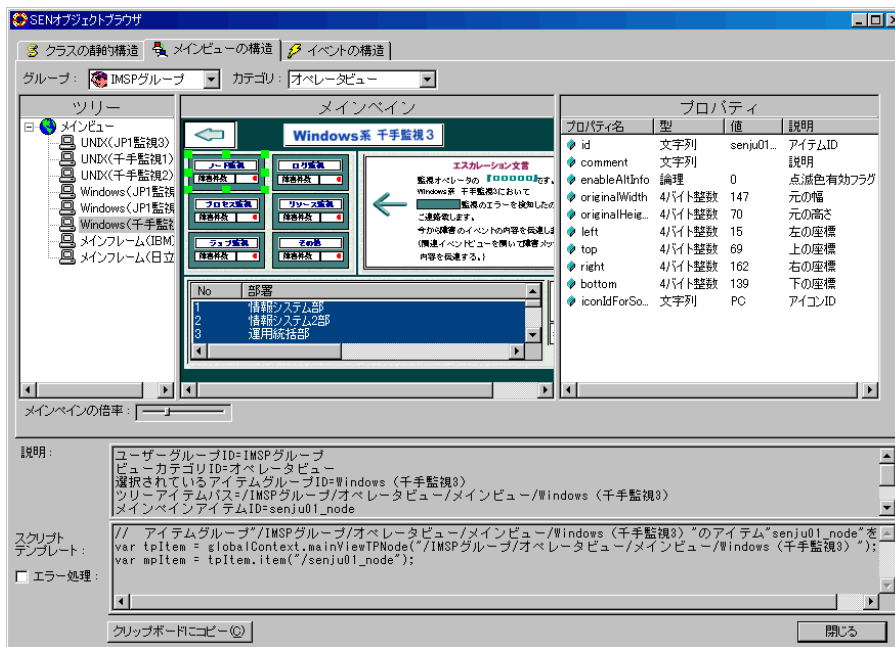


図 1.4-4 オブジェクトブラウザ

ルールの作成をビジュアルに支援するためツールが、オブジェクトブラウザです。オブジェクトブラウザには、ルール内で参照可能なオブジェクト(共通オブジェクト、メインペインアイテムオブジェクト、イベントオブジェクト)とそのプロパティを一覧として参照できるとともに、ルールのテンプレート(雛形)が自動生成され、ルール作成作業を支援します。

1.4.1.5 ノウハウ蓄積機能

イベントに関するノウハウを蓄積し一覧表示するノウハウビューを図 1.4-5 に示します。

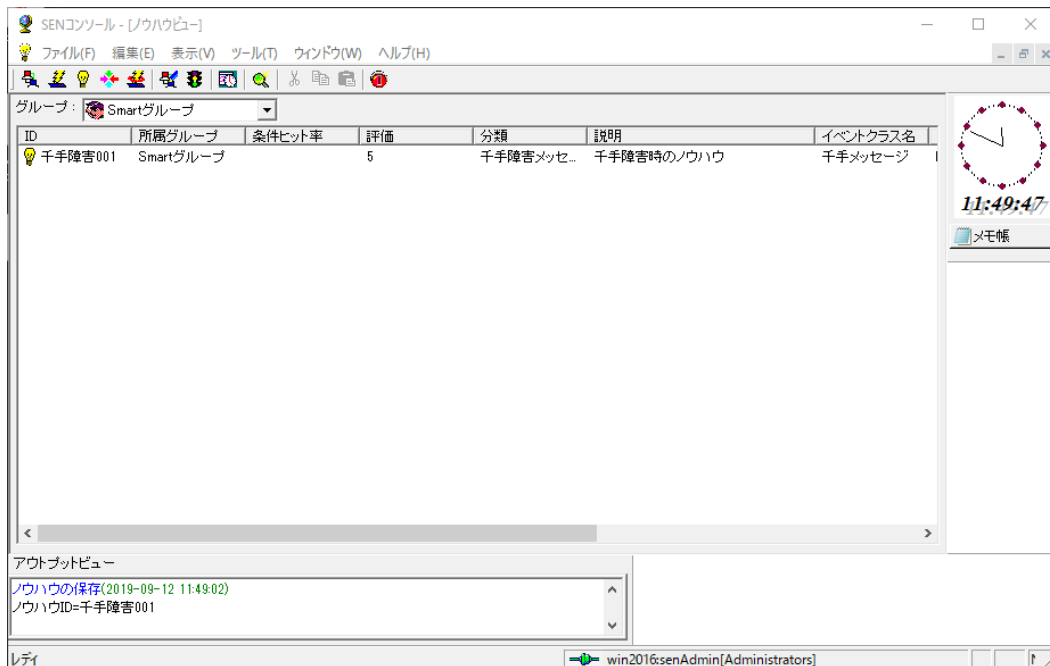


図 1.4-5 ノウハウビュー

Senju Enterprise Navigator システムでは、受信した各イベントに対し、ノートを追加する事ができます。ノートは、イベントのステータス変更の理由や対処履歴、注意事項など要件に応じて自由に記入する事ができます。

これらイベントに記入されたノート情報は、そのシステムまたは運用環境にとって有益な情報、すなわちノウハウと言えるでしょう。例えば、ある障害イベントを受信した場合に、以前類似の障害イベントに対してどのような対応を実施したかを参照する事は、障害対応への近道となり運用品質の向上に繋がります。

Senju Enterprise Navigator システムでは、指定したイベントをノウハウとして登録・保持する事ができます。ノウハウビューは、登録されたノウハウを一覧表示します。

ノウハウビューに登録されたノウハウは、運用の PDCA サイクルを実現する上でも有益な情報となります。ノウハウとして登録された情報をルールに反映する事で、更なる運用の自動化・効率化を実現できます。

1.4.1.6 イベントサマリ表示機能

現在イベントビューに表示されている全イベントのサマリ情報を表示するイベントサマリビューを図 1.4-6 に示します。

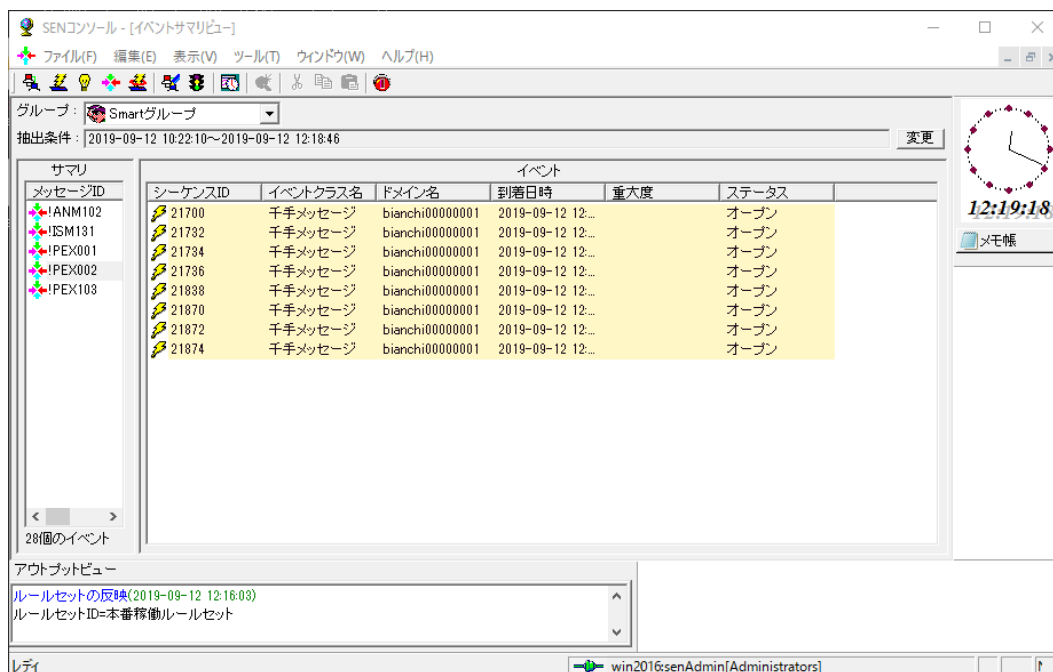


図 1.4-6 イベントサマリビュー

イベントサマリビューは、現在イベントビューに表示されている全イベントのスナップショットを取得し、その中にどのようなイベントが何件含まれているかを分類し表示します。

イベントサマリビューでは、イベントの任意の 3 つまでのフィールドを分類するキーとして指定可能です。

イベントサマリビューにより、現在のシステムまたは運用環境にどのようなイベントが何件発生しているかを容易に把握する事ができます。結果、例えば不要なイベントを多く発生しているシステムやアプリケーションを抽出する事ができ、運用の品質改善に着手すべきターゲットを決めるファクトデータとして活用できます。また、多くのイベントの中に重要なイベントが埋もれてしまうなどの、イベントの見落としとトラブルを回避する手段として利用できます。

1.4.1.7 イベントフィルタ機能

イベントのフィルタリングを行うためのイベントフィルタビューを図 1.4-7 に示します。

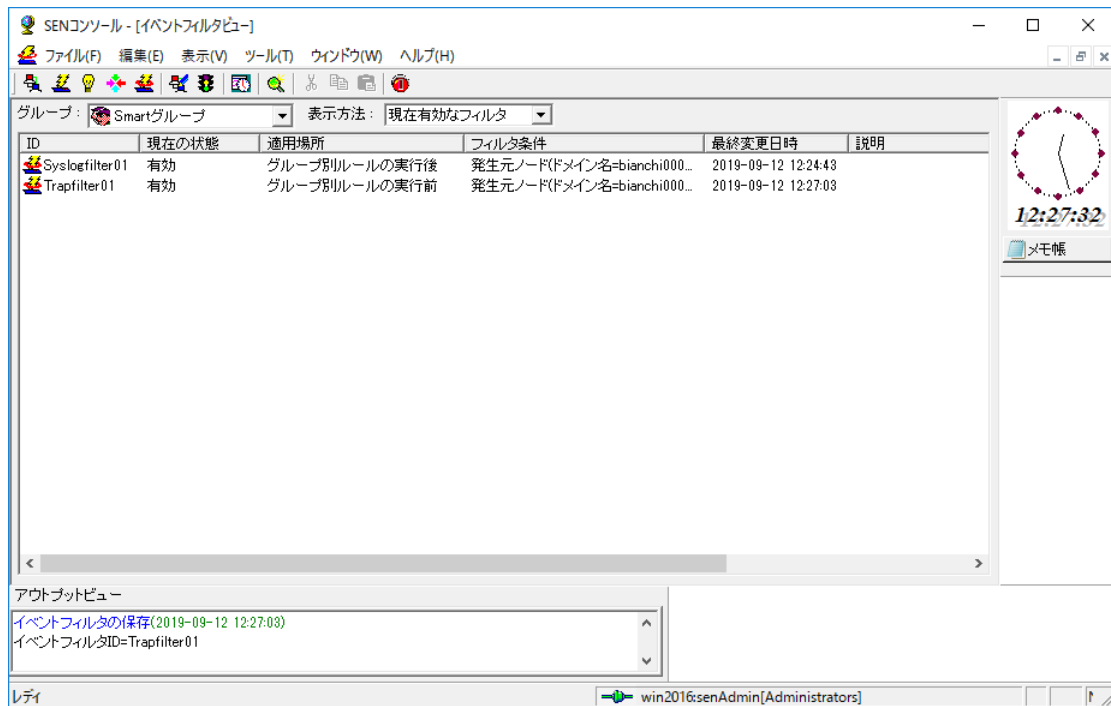


図 1.4-7 イベントフィルタビュー

イベントフィルタは、イベントを一時的にフィルタ(抑止)するために用います。ルールと同様に、イベントをフィルタするためのフィルタ条件を指定します。フィルタ条件は、ノード指定によるフィルタ、またはルール条件指定によるフィルタが指定可能です。前者ではフィルタするイベントの発生元ノードに関する条件を指定し、後者では、フィルタするイベントに関する任意の条件を指定します。

イベントフィルタは、イベントビューへの表示だけを抑止するフィルタと、ルール実行も含めて抑止するフィルタを定義することができます。

イベントのフィルタは、定期保守等で一時的に特定のノードからのイベントを抑止したい場合や、テストなどで特定のメッセージを抑止したい場合に便利です。

1.4.1.8 SEN サーバー運行状況表示機能

SEN サーバーの CPU 使用率やイベントの入出力数、メール送信数等の運行状況を表示する SEN パフォーマンスビューを図 1.4-8 に示します。

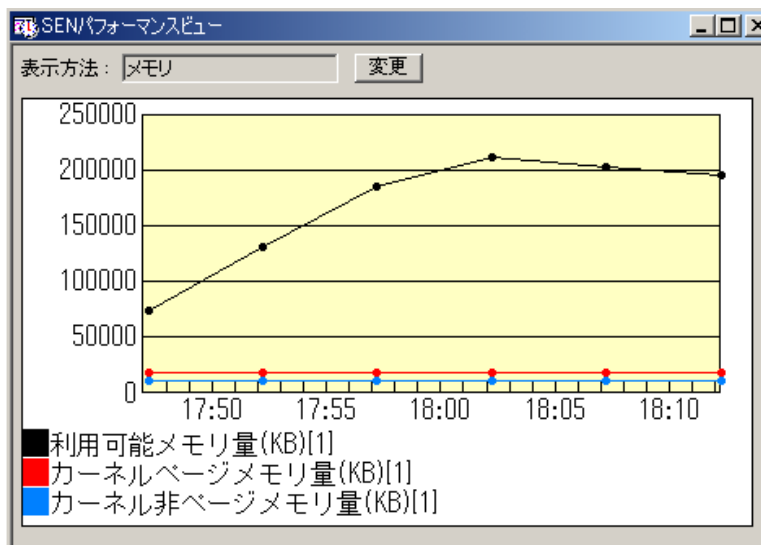


図 1.4-8 SEN パフォーマンスビュー

SEN パフォーマンスビューは、SEN サーバーのリソース使用率に加え、入力イベントや出力イベント数、メール送信数などの SEN サーバーの運行状況を時系列にグラフィカルに表示します。SEN パフォーマンスビューを表示することで、現在のシステムまたは運用環境の運行状況のトレンドをビジュアルに把握できます。

1.4.2 SEN Web サービス

1.4.2.1 ビュー表示機能

SEN Web サービスにおけるビュー表示画面の全体を図 1.4-9、図 1.4-10 に示します。

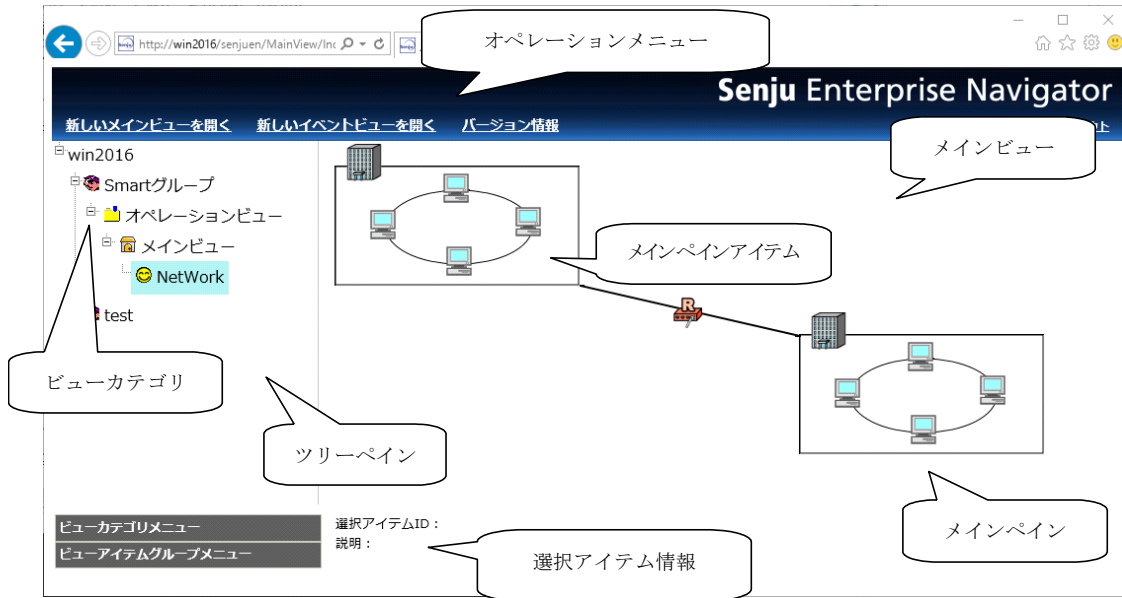


図 1.4-9 メインビュー画面

メインビュー

SEN Web サービスのメインビューは、サーバーやアプリケーションなどの管理対象をグラフィカルに表示するためのウィンドウです。メインビューウィンドウは、2つのペイン(領域)に分かれており、左側のツリー表示用のツリーペインと、右側のグラフィック図形表示用のメインペインとで構成されます。ツリーペインの各ツリーノードにはメインペインが割り当てられ、メインペインを階層的に管理する事ができます。

管理対象はメインペインアイテムと呼ばれるグラフィック図形により表現されます。メインペインアイテムは、あらかじめ用意される直線、長方形、円・楕円、文字、イメージ(アイコン、ビットマップ等)、リストボックスといった基本図形の他、基本図形を任意に組合せた結合図形をユーザーが定義する事もできます。メインペインをデザインするには、SEN コンソールのメインペインエディタを使用します。

管理対象における障害や重大事象を通知するために発行されたメッセージや、管理対象の状態の変化(リソース使用率の上昇、プロセスの異常、ノードの停止等)は、イベントとしてSENサーバーに伝えられます。SENサーバーでは、受け取ったイベントに応じてメインペインアイテムのプロパティ(属性)を変化させる事ができます。例えば、管理対象サーバー

がダウンしたというイベントを受け取った場合には、対応するメインペインアイテムの背景色を赤に変化させたり、点滅させたりといった事が可能です。これは、SEN コンソールでイベントに対するルールを記述する事で実現できます。

メインペインアイテムに、関連する別の画面(メインビュー)や外部情報(Web ページ)へのハイパーリンクを設定する事で、関連する情報へ素早くアクセスする事ができます。またアイテムに関連付けられた任意のコマンドをインタラクティブに実行する事ができます。

メインビューでは、ユーザーグループ毎に(以下、単にグループと呼びます)独立したビューを提供します。管理目的あるいは管理対象など、任意のカテゴリでグループを定義できます。例えば、オペレータ、運用管理者、システム管理者のようなグループを定義する事もできますし、受発注管理、在庫管理、人事管理などの業務毎のグループを定義する事も可能です。また、同一グループのメインビューは、さらにビューカテゴリと呼ばれる複数のビューに分ける事ができます。ビューカテゴリについてもユーザーが自由に定義し、変更する事が可能です。グループおよびビューカテゴリを切り替えるには、ツリーペインを選択します。



SEN Web サービスでは、メインペインの背景は表示されません。

The screenshot displays the 'イベントビュー' (Event Viewer) page in the Senju Enterprise Navigator. The top navigation bar includes '新しいメインビューを開く', '新しいイベントビューを開く', and 'バージョン情報'. Below the navigation bar, there are search filters for 'ユーザーグループID' (Smartグループ), '検索条件', '検索条件保存', and '検索条件削除'. The main area contains a search form with fields for 'シーケンスID', '管理対象システム名', 'メッセージ識別No', '発生日時', '発生元APPL名', '表示順', 'ステータス', '管理対象領域名', 'メッセージID', 'メッセージ区分', 'メッセージ種類', '発生元ノードID', and 'メッセージテキスト'. There are also checkboxes for 'オープン', '受付済', '割当済', and '対処完了', and a '重大度' dropdown menu. A '検索' button and a 'ダウンロード' button are located at the bottom right of the search form.

The search results table shows the following data:

シークエンスID	ステータス	重大度	管理対象システム名	管理対象領域名	メッセージ区分	メッセージ識別No	メッセージID	メッセージ種類	発生日時	発生元ノードID	発生元ノード名
<input type="checkbox"/> 22732	オープン	none	アダプタ(千手)	bianchi00000001	N	964605300	IPEX001	I	2019/09/12 12:30:00	louis	bianchi
<input type="checkbox"/> 22728	オープン	none	アダプタ(千手)	bianchi00000001	N	964605100	IPEX001	I	2019/09/12 12:30:00	louis	bianchi
<input type="checkbox"/> 22724	オープン	none	アダプタ(千手)	bianchi00000001	N	964604900	IPEX001	I	2019/09/12 12:30:00	louis	bianchi
<input type="checkbox"/> 22720	オープン	none	アダプタ(千手)	bianchi00000001	N	964604700	IPEX001	I	2019/09/12 12:30:00	louis	bianchi
<input type="checkbox"/> 22716	オープン	none	アダプタ(千手)	bianchi00000001	N	964604500	IPEX001	I	2019/09/12 12:30:00	louis	bianchi

At the bottom of the table, there are buttons for 'すべて選択', 'すべて選択解除', 'プロパティ', 'ビューを開く', 'アクションの実行', and 'ステータス変更'.

図 1.4-10 イベントビュー画面

イベントビュー

SEN Web サービスのイベントビューでは、管理対象で発生する各種イベントを任意の条件で検索し、その結果を表示します。

また、検索に使用した検索条件を保存することが可能です。

イベントビューもメインビューと同様、グループ毎に独立して表示されます。すなわち、そのグループに関係のあるイベントのみが表示され、セキュリティ上そのグループのユーザーに見せるべきでないイベントは表示させないようにすることができます。これについては、イベントに対するルールを定義する事により実現します。

イベントビューには、発生元ノード ID、メッセージ ID、発生日時、ステータス、メッセージテキストなどの属性がカラムに分けられて一覧表示されます。

イベントに対するルールを記述する事で、イベント内容に応じてイベントの属性を変更する事ができます。これにより、ステータスを自動的に“対処完了”に変更するといった事ができます。

ルールでは、さらにイベントとメインペインアイテムを関連づける事ができます。イベントをメインペインアイテムに関連づける事により、そのイベントと関連のあるメインペインアイテムにハイパーリンクさせる事ができます。これにより、例えば、あるイベントを受信した場合に特定のメインペインアイテムの背景色を赤に変更するというルールを定義し、さらにそのイベントとメインペインアイテムを関連づけておく事で、イベントビューからそのメインペインアイテムが含まれるメインペインをハイパーリンク表示させる事が可能です。

各イベントに対し任意のコマンドを割り当て、インタラクティブにコマンドを実行する事ができます。

ルールの設定は SEN コンソールを使用して下さい。

1.4.2.2 メインビュー編集機能

SEN Web サービスには、メインビュー編集機能は存在しません。メインビュー編集機能を使用する場合は、SEN コンソールを使用して下さい。

SEN コンソールのメインビュー編集機能については「[1.4.1.2 メインビュー編集機能](#)」を参照して下さい。

1.4.2.3 イベントルール処理機能

SEN Web サービスには、イベントルール処理機能は存在しません。イベントルール処理機能を使用する場合は、SEN コンソールを使用して下さい。

SEN コンソールのイベントルール処理機能については「**1.4.1.3 イベントルール処理機能**」を参照して下さい。

1.4.2.4 ルール編集機能

SEN Web サービスには、ルール編集機能は存在しません。ルール編集機能を使用する場合は、SEN コンソールを使用して下さい。

SEN コンソールのルール編集機能については「[1.4.1.4 ルール編集機能](#)」を参照して下さい。

1.4.2.5 ノウハウ蓄積機能

SEN Web サービスには、ノウハウ蓄積機能は存在しません。ノウハウ蓄積機能を使用する場合は、SEN コンソールを使用して下さい。

SEN コンソールのノウハウ蓄積機能については「[1.4.1.5 ノウハウ蓄積機能](#)」を参照して下さい。

1.4.2.6 イベントサマリ表示機能

SEN Web サービスには、イベントサマリ表示機能は存在しません。イベントサマリ表示機能を使用する場合は、SEN コンソールを使用して下さい。

SEN コンソールのイベントサマリ表示機能については「[1.4.1.6 イベントサマリ表示機能](#)」を参照して下さい。

1.4.2.7 イベントフィルタ機能

SEN Web サービスには、イベントフィルタ機能は存在しません。イベントフィルタ機能を使用する場合は、SEN コンソールを使用して下さい。

SEN コンソールのイベントフィルタ機能については「[1.4.1.7 イベントフィルタ機能](#)」を参照して下さい。

1.4.2.8 SEN サーバー運行状況表示機能

SEN Web サービスには、SEN サーバー運行状況表示機能は存在しません。SEN サーバー運行状況表示機能を使用する場合は、SEN コンソールを使用して下さい。

SEN コンソールの SEN サーバー運行状況表示機能については「**1.4.1.8 SEN サーバー運行状況表示機能**」を参照して下さい。

1.4.3 ユーザー管理機能

ユーザー管理機能では、

表 1.4-1 ユーザー管理機能

項目	内容
ユーザー認証	SEN コンソールからログインするユーザーの認証
ユーザー情報管理	ユーザー情報の登録、変更、削除
グループ情報管理	ユーザーグループ情報の登録、変更、削除
アクセス制御	ユーザー毎に許可する操作の制限

などの機能を提供します。

ログインしたユーザーが所属するグループに応じて、表示可能なビュー(メインビュー、イベントビュー)や参照・変更可能な各種定義情報(ルールセット、ユーザー、イメージ等)を制限します。グループによるアクセス制限機能により、あるグループのユーザーからは別のグループのビューや定義情報を見る事はできません。

また、ユーザーには権限に応じた役割をもたせる事ができます。役割には

表 1.4-2 ユーザーの役割

項目	内容
Administrators	あらゆる操作が可能な役割(システム管理者用)
Managers	グループについてあらゆる操作が可能な役割 (グループ管理者用)
Operators	グループについて定義の変更を伴わない操作が可能な役割 (グループオペレータ)
Users	グループについて参照のみ可能な役割(グループユーザー)

の4種類があります。例えば、共通ルールの編集や、ルールセットの反映は Administrators 役割の権限が必要ですが、グループ別ルールの編集や、グループのメインペインの編集は、グループの Managers 役割で行う事ができます。

1.4.4 外部運用管理ツール連携機能

外部運用管理ツール連携機能では、外部運用管理マネージャからのメッセージを受信し、イベントルール処理の実行及びイベントビューへの表示を行います。これにより、イベントをトリガに、メインビューにおけるメインペインアイテムのプロパティを変更したり、任意のコマンドを実行したり、インシデントとして外部サービスデスクシステムに自動登録したりする事が可能となります。

通常、各外部運用管理ツールによって取得可能なメッセージの属性(フィールド)は異なりますが、メッセージの属性をクラス定義ファイルと呼ばれる XML ファイルに定義する事により、任意の属性(名称および型)に対応する事が可能です。

外部運用管理ツール連携機能では、複数の運用管理マネージャと連携できます。これにより、複数の運用管理ツールからのメッセージを同一のイベントビューに表示できます。また異なる運用管理ツールからのメッセージを互い関連付けてルール処理させる事ができます。例えば、ネットワーク監視ツールで検知した特定パターンの障害メッセージと、セキュリティ監視ツールで検知した不正侵入メッセージの両方を一定時間内に受信した場合に、管理者にメール通知すると同時に、ファイアウォールを遮断するコマンドを発行するルールを実行する事が可能です。

千手システムとの連携では、メッセージ以外に、管理対象ノードに関する監視定義情報や監視ステータス情報(ノード監視、ジョブ監視等)を受信します。これら情報についても、メッセージ同様にルール処理を行う事が可能です。結果、よりリッチな監視情報に基づいたルールを組み立てる事ができます。また、監視定義情報をインポートし、メインペインを自動生成するインポート機能および、千手ジョブスケジュールにおける定義情報とステータス情報をもとに千手ブラウザにおけるジョブモニタ画面(実行システム、フレーム)をメインビュー上に表示する機能を提供します。

1.4.5 SNMP トラップ受信機能

SNMP トラップ受信機能では、SNMP トラップ受信アダプタを介して、SNMP エージェントや SNMP トラップ送信アプリケーションから SNMP トラップを受信し、イベントルール処理の実行及びイベントビューへの表示を行います。SNMP トラップ受信アダプタでは、SNMP トラップを認証、キューイング、及びイベントデータへのフォーマットングを行います。

SNMP トラップ受信機能がサポートする SNMP のバージョンは、SNMP v1/v2c 及び v3 です。

1.4.6 シスログ受信機能

シスログ受信機能では、シスログ受信アダプタを介して、UNIX ノードやシスログ送信アプリケーションからシスログを受信し、イベントルール処理の実行及びイベントビューへの表示を行います。シスログ受信アダプタでは、送信元 IP アドレスによる認証、シスログのキューイング、およびイベントデータへのフォーマットングを行います。イベントデータへのフォーマットングでは、ファシリティ及び重大度を任意の文字列へ編集する事も可能です。

1.4.7 メール受信機能

メール受信機能では、メール受信アダプタを介して、外部運用管理マネージャや電子メールアプリケーションから電子メールを受信し、イベントルール処理の実行及びイベントビューへの表示を行います。メール受信アダプタでは、メールメッセージ受信条件(From や Subject に指定した値が含まれているか等)による認証、メールメッセージのキューイング、およびイベントデータへのフォーマットを行います。

メール受信機能がサポートするメールサーバーは、POP3 及び POP3s (POP3 over SSL/TLS)です。

1.4.8 Telnet 連携機能

Telnet 連携機能では、Telnet 連携コマンドを介して、ルータなど外部の Telnet サーバーへ自動的にログインし情報の取得を行います。Telnet 連携コマンドはイベントルール処理から実行され、予め定義してあるコマンドを順次実行し、その実行結果を標準出力に出力します。

1.4.9 サービスデスクツール(Senju Service Manager)連携機能

サービスデスクツール連携機能では、SEN サーバーが受信したイベントをもとに、インシデントを Senju Service Manager に登録することができます。Senju Enterprise Navigator のルールエンジンから専用のメソッドを用いて、運用管理ツールからのアラートを Senju Service Manager の任意のフィールドにマッピングする事で、様々なインシデントもしくはインシデント候補を登録することが可能です。ルールによりイベントの必要な情報を、必要なフォーマットに加工した上で、インシデントの自動登録ができます。

1.4.10 メール送信機能

メール送信機能では、外部運用管理マネージャなどから収集した情報をもとに SEN サーバーが依頼を行うと、その依頼を電子メールに変換しメールサーバーへ送信します。

メール送信アダプタでは、認証、メール送信メッセージのキューイングを行います。

メール送信機能がサポートするメールサーバーは、SMTP サーバーです。

1.4.11 TELStaff 連携機能

TELstaff 連携機能では、外部運用管理マネージャなどから収集した情報をもとに SEN サーバーが依頼を行うと、その依頼を元に TELstaff AE Standard Edition へ電話呼出を通知します。TELstaff 連携アダプタでは、電話呼出メッセージのキューイングを行います。

TELstaff 連携機能がサポートするサーバーは、TELstaff AE Standard Edition です。

1.4.12 Senju Service Automation 機能

Senju Service Automation 機能は、サービスデスクツール(Senju Service Manager)のサービス要求に登録した申請内容に基づき、指定した千手マネージャに対し、指定したランブック・コマンドの実行、及び、指定したジョブ・ネット・フレームの一時停止・スキップの要求、指定したジョブ・ネットの起動時刻変更および遅延監視時刻変更の要求をする機能です。

Senju Enterprise Navigator の役割は、サービスデスクツール(Senju Service Manager)と統合運用管理ツール(Senju Operation Conducutor)の間をシームレスに連携し、サービス要求に登録された申請内容を読み込み、要求を千手マネージャに連携すること、および要求に対する実行結果をサービスデスクツール(Senju Service Manager)のサービス要求へ反映することになります。

1.4.13 その他機能

その他、以下のような機能が提供されます。

表 1.4-3 その他機能

機能名称	機能概要
定義データエクスポート・インポート機能	ルールセット、ルール条件、イメージなどの定義データをXMLファイルにエクスポート、インポートする機能です。定義データ移行、大量データの一括登録などに用いる事ができます。
SEN サーバー、コンソールの各種設定機能	SMTP サーバーの設定、バックアップの設定(ファイルパス、自動スケジュール)、放置イベントの警告の設定、ログファイルの設定(ログ世代数、ログファイルサイズ)、表示条件の設定を行う機能です。
SEN サーバー、コンソールの各種状態確認機能	SEN サーバー、SEN コンソールにおける各種状態(ログインユーザー、起動時刻、ルールセット反映日時、バージョン情報等)の表示を行う機能です。
警報装置設定機能	パトランプやビープ音などの警報装置の設定を行う機能です。
外部接続定義機能	千手や Senju Service Manager などの外部ツールとの接続定義設定を行う機能です。これら設定は SEN コンフィグレーターと呼ぶ専用ツールにより提供されます。

2 操作ガイド

2

操作ガイド

この章では、SEN コンソール画面およびその基本操作について説明します。

なお、Senju Enterprise Navigator システム自体のインストールならびに設定は完了しているものとします。Senju Enterprise Navigator システムとは、SEN サーバー、SEN コンソールおよび各種連携機能から構成される運用管理システム全体を指します。

インストールの手順については、別冊の「**インストールガイド**」の「**2.2 SEN サーバーのインストール**」および「**3.2 SEN コンソールのインストール**」、「**4.2 SEN Web サービスのインストール**」を参照して下さい。また、インストール後の Senju Enterprise Navigator システムの設定については、別冊の「**インストールガイド**」の「**6. 環境設定**」を参照して下さい。

2	操作ガイド	2-1
2.1	SEN コンソール操作ガイド.....	2-3
2.1.1	ログイン.....	2-3
2.1.2	SEN コンソール全体画面.....	2-6
2.1.3	メニューバー.....	2-8
2.1.4	ツールバー.....	2-17
2.1.5	メインビュー.....	2-18
2.1.6	イベントビュー.....	2-40
2.1.7	ノウハウビュー.....	2-82
2.1.8	イベントサマリビュー.....	2-88
2.1.9	イベントフィルタビュー.....	2-92
2.1.10	SEN パフォーマンスビュー.....	2-98
2.1.11	ツールビュー.....	2-102
2.1.12	アクション実行履歴.....	2-105
2.1.13	警報装置停止.....	2-106
2.1.14	コンソールイベント送信.....	2-107
2.1.15	放置イベントの警告.....	2-112
2.1.16	アウトプットビュー.....	2-114
2.1.17	ステータスバー.....	2-115
2.2	SEN WEB サービス操作ガイド.....	2-116
2.2.1	ログイン.....	2-116
2.2.2	SEN Web サービス共通画面.....	2-118
2.2.3	メインビュー.....	2-120
2.2.4	イベントビュー.....	2-133

2.1 SEN コンソール操作ガイド

2.1.1 ログイン

Senju Enterprise Navigator を使用するためには、まず Senju Enterprise Navigator システムにログインする必要があります。ログインするには、[スタートメニュー]の[プログラム]→[Senju Family]→[Senju Enterprise Navigator]から[SEN コンソール]を選択してログイン画面を表示します(図 2.1-1)。

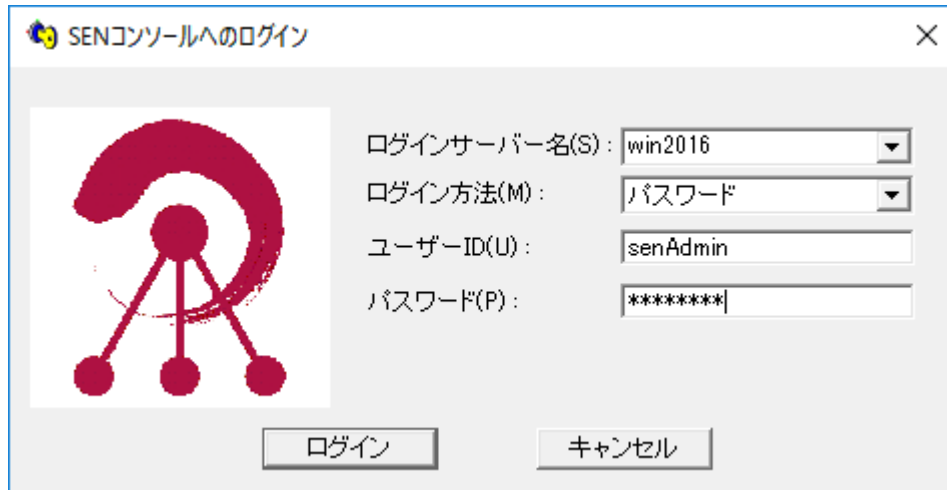


図 2.1-1 ログイン画面

ログインサーバー名: ログインする SEN サーバーのホスト名または IP アドレスを指定します。ホスト名を指定する場合は、対象 SEN サーバーへのアドレス解決がなされている必要があります。

省略できません。

ログイン方法: ログインの認証方法を指定します。
現バージョンで選択可能なログイン方法は、「パスワード認証」のみです。

ユーザーID: ログインするユーザーID を指定します。
省略できません。

パスワード: ユーザーID に対するパスワードを指定します。
省略できません。

上記項目の指定後、[ログイン]ボタンを押す事により、SEN サーバーへのログイン処理が実行されます。また SEN コンソールを終了する場合は[キャンセル]ボタンを押して下さい。



初期導入時は、ユーザーID `senAdmin`、パスワード `senAdmin` でログインする事ができます。このユーザーは Administrators 役割ユーザーですので、ログイン直後に速やかにパスワードを変更するか、または別の Administrators 役割ユーザーを作成後、本ユーザーを削除する事を推奨します。



SEN コンソールご利用の際には、Windows ユーザーは Administrators 権限のグループに所属するアカウントで稼働ノードにログオンするようお願いいたします。Administrators 権限以外のグループに所属するアカウントでのご利用はできません。



SEN コンソールのログイン画面で必要な入力項目を、以下のコマンドラインで指定することができます。

`sjENB_Console.exe /s (ログインサーバー名) /u (ユーザーID) /p (パスワード)`



`sjENB_SenConsoleConf.xml` ファイルの `ReconnectTimes` 項目を設定することにより、SEN サーバーとの接続が切断された時に自動で再接続することができます。

SEN サーバーと切断された際に自動再接続の機能を使用するには、SEN コンソールの定義ファイルを修正する必要があります。修正対象ファイルと修正サンプルは以下となります。

修正後は SEN コンソールを再起動してください。

`%SENCLHOME%\dat\enb\sjENB_SenConsoleConf.xml`

```
<?xml version="1.0" encoding="Shift_JIS"?>
<en:en xml:lang="ja-JP"
xmlns:en="http://www.nri.co.jp/senju/schemas/sen1.0">
  <en:ServerReconnectSetting>
    <en:ReconnectTimes times="25"/>
    <en:ReconnectInterval interval="300"/>
  </en:ServerReconnectSetting>
</en:en>
```

項番	タグ名	属性名	内容
1	ReconnectTimes	times	自動再接続のトライ回数を表す属性です。属性値には 0～120 の範囲でトライを指定します。省略した場合は 0 で設定されます。※0 で設定した場合は、自動再接続は行われません。
2	ReconnectInterval	interval	自動再接続のトライ間隔(秒)を表す属性です。属性値には 10～300 の範囲でトライ間隔を指定します。省略した場合は 10 で設定されます。



SEN コンソールの自動再接続機能を利用しない場合は、%SENCLHOME%\dat\enb\sjENB_SenConsoleConf.xml ファイルの ReconnectTimes タグの times 属性を 0 に設定し、SEN コンソールを再起動してください。



自動再接続後にダイアログが残っている場合は、[キャンセル]ボタン、[閉じる]ボタンを押してダイアログを閉じてください。

2.1.2 SEN コンソール全体画面

SEN コンソールの全体画面を図 2.1-2 に示します。

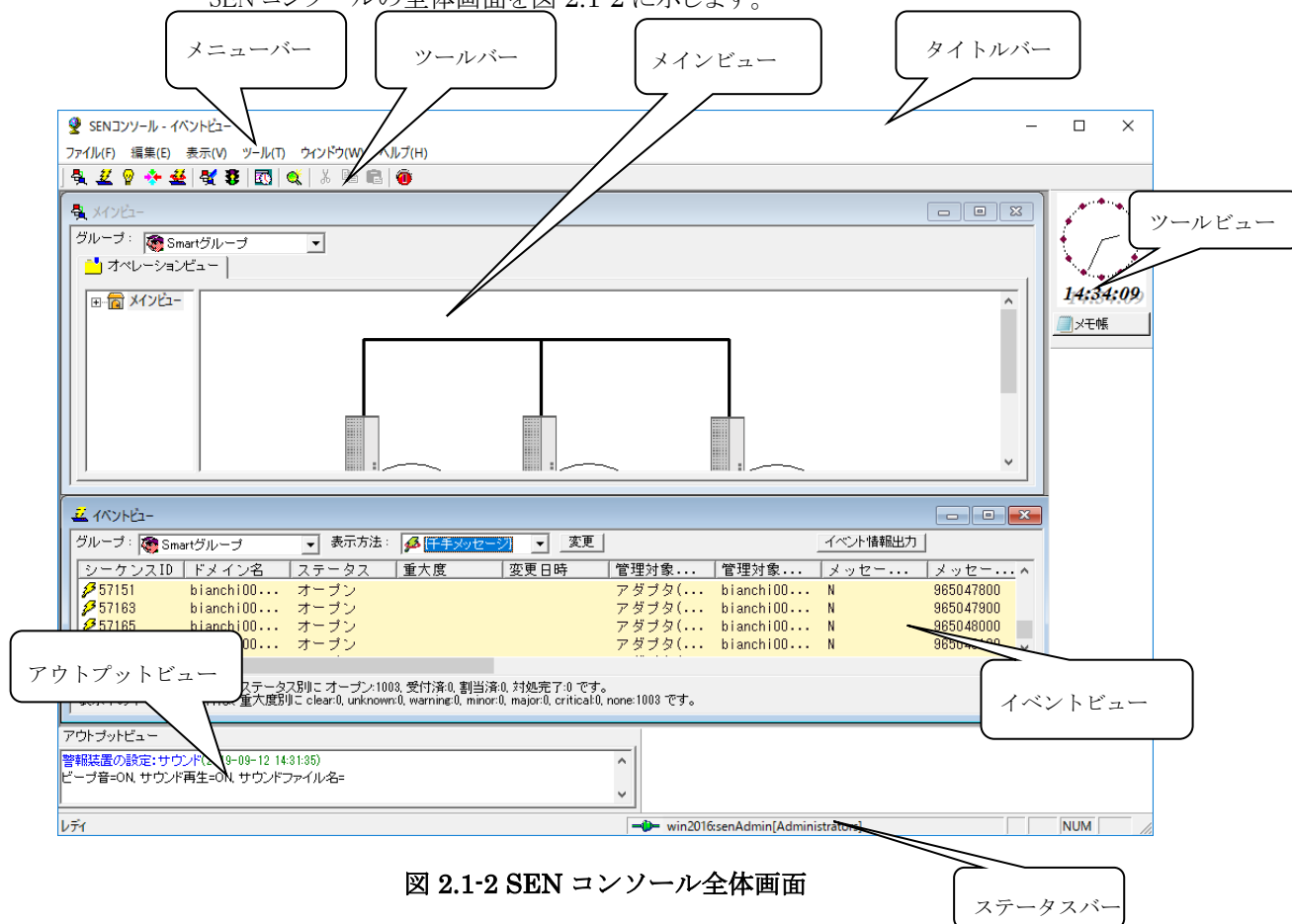


図 2.1-2 SEN コンソール全体画面

- タイトルバー:** SEN コンソールという名称と、アクティブなビュー(メインビューまたはイベントビュー)の名称が表示されます。
- メニューバー:** SEN コンソールにおける各種機能呼び出すためのメニュー領域です。
- ツールバー:** 頻繁に使用する機能へのショートカット用アイコンが用意される領域です。
- メインビュー:** 監視対象オブジェクトのステータスをモニタリングするためのウィンドウです。左側のツリーペインと右側のメインペインとから構成されます。
- イベントビュー:** 監視対象オブジェクトからのイベント(障害メッセージ等の各種事象、監視対象オブジェクトにおけるステータスの変化等)を一覧表示するためのウィンドウです。

ツールビュー: 各種 Windows アプリケーションおよびアクセサリ(時計)を登録するための領域です。アプリケーションには任意のプログラムまたはファイルへのパスを登録できます。

アウトプットビュー: ユーザーの操作履歴を表示するための領域です。

ステータスバー: 接続先の SEN サーバー名および接続状態、ログインユーザーID および役割を表示します。

2.1.3 メニューバー

SEN コンソールにおけるメニューバーの一覧とそれぞれの機能を下記に示します。

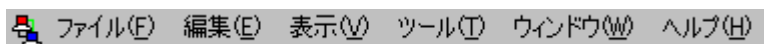


図 2.1-3 メニューバー画面

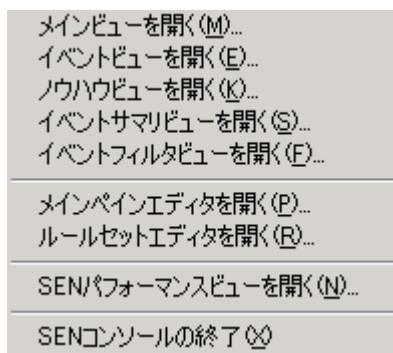


図 2.1-4 ファイルメニュー画面

ファイル

メインビューを開く

新規にメインビューを開きます。

イベントビューを開く

新規にイベントビューを開きます。

ノウハウビューを開く

新規にノウハウビューを開きます。

イベントサマリビューを開く

新規にイベントサマリビューを開きます。

イベントフィルタビューを開く

新規にイベントフィルタビューを開きます。

メインペインエディタを開く

新規にメインペインエディタを開きます。

ルールセットエディタを開く

新規にルールセットエディタを開きます。

SEN パフォーマンスビューを開く

新規に SEN パフォーマンスビューを開きます。

SEN コンソールの終了

SEN コンソールを終了します。

元に戻す(U)	Ctrl+Z
やり直し(R)	Ctrl+Y
切り取り(T)	Ctrl+X
コピー(C)	Ctrl+C
貼り付け(P)	Ctrl+V
削除(D)	Del
すべて選択(L)	Ctrl+A
検索(F)...	Ctrl+F
ビューカテゴリの編集(V)...	

図 2.1-5 編集メニュー画面

編集

元に戻す

直前に行った動作を元に戻します。

やり直し

直前に行った「元に戻す」動作を取り消します。

切り取り

選択範囲を切り取り、クリップボードに格納します。

コピー

選択範囲を複写し、クリップボードに格納します。

貼り付け

クリップボードの内容を現在の位置に貼り付けます。

削除

選択範囲を削除します。

すべて選択

すべてのエントリーまたはアイテムを選択します。

検索

指定された条件で文字列を検索します(イベントビューおよびイベントフィルタビューのみ)。

ビューカテゴリの編集

メインビューのビューカテゴリの追加、変更、削除を行います。

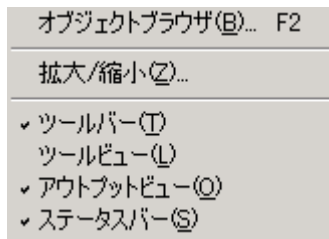


図 2.1-6 表示メニュー画面

表示

オブジェクトブラウザ

オブジェクトブラウザを開きます。

拡大/縮小

メインペインエディタウィンドウがアクティブな場合に、メインペインの描画領域の拡大・縮小に用います(メインペインエディタのみ)。

ツールバー

ツールバーの表示／非表示の切り替えを行います。

ツールビュー

ツールビューの表示／非表示の切り替えを行います。

アウトプットビュー

アウトプットビューの表示／非表示の切り替えを行います。

ステータスバー

ステータスバーの表示／非表示の切り替えを行います。

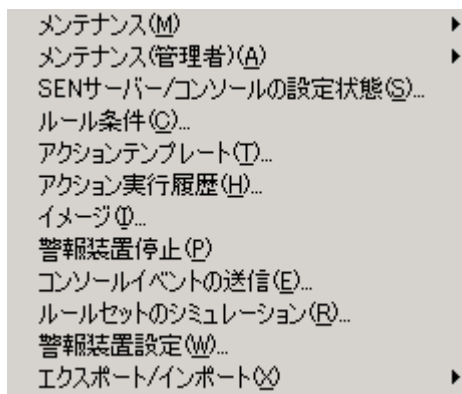


図 2.1-7 ツールメニュー画面

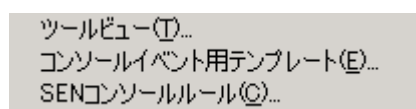


図 2.1-8 メンテナンスメニュー画面

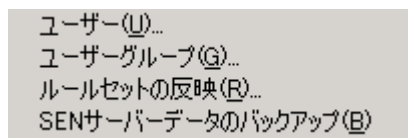


図 2.1-9 メンテナンス(管理者)メニュー画面

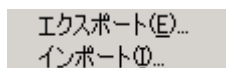


図 2.1-10 エクスポート/インポートメニュー画面

ツール

メンテナンス

ツールビュー

外部コマンドやアクセサリのツールビューへの追加、変更、削除を行います。

コンソール用イベントテンプレート

SEN コンソール用イベントテンプレートの編集を行います。

SEN コンソールルール

SEN コンソールルールの編集を行います。

メンテナンス(管理者)

ユーザー

ユーザーの追加、コピー、変更、削除を行います。

ユーザーグループ

ユーザーグループの追加、コピー、変更、削除を行います。

ルールセットの反映

ルールセットを SEN サーバーに反映します。

SEN サーバーデータのバックアップ

現在の SEN サーバーの定義データおよびイベントデータを、SEN サーバー上の別のディレクトリにバックアップします。

SEN サーバー/コンソールの設定状態

SEN サーバーおよび SEN コンソールの各種設定変更を行います。また、SEN サーバーおよび SEN コンソールの現在の各種ステータスを表示します。

ルール条件

ルール条件の追加、コピー、変更、削除を行います。

アクションテンプレート

アクションテンプレートの追加、コピー、変更、削除を行います。

アクション実行履歴

ルールからのアクション実行履歴(メール送信、コマンド実行)の参照を行います。

イメージ

イメージ(Windows アイコン、Windows ビットマップ等)のアップロードおよび削除を行います。

警報装置停止

パトランプおよびサウンド(ビープ音、サウンド)の鳴動を停止します。

コンソールイベントの送信

コンソールイベントの送信を行います。

ルールセットのシミュレーション

過去イベントに対するルールセットのシミュレーション実行を行います。

警報装置設定

パトランプおよびサウンド(ビープ音、サウンド)の各種設定を行います。

エクスポート/インポート

エクスポート

ルール条件やルールセット等のファイルへのエクスポートを行います。

インポート

ファイルからルール条件やルールセット等のインポートを行います。

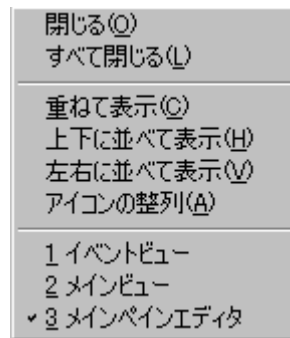


図 2.1-11 ウィンドウメニュー画面

ウィンドウ

閉じる

現在のウィンドウをクローズします。

すべて閉じる

すべての開かれているウィンドウをクローズします。

重ねて表示

ウィンドウを重ねて表示します。

上下に並べて表示

ウィンドウを上下に並べて整列表示します。

左右に並べて表示

ウィンドウを左右に並べて整列表示します。

アイコンの整列

アイコン化されたウィンドウを整列表示します。

1 イベントビュー、2 メインビュー、3 メインペインエディタ

現状開いているウィンドウの一覧です。選択するとそのウィンドウがアクティブになります。

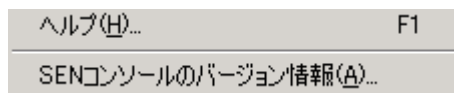


図 2.1-12 ヘルプメニュー画面

ヘルプ

SEN コンソールのバージョン情報














SEN コンソールのバージョン情報を表示します。

2.1.4 ツールバー

SEN コンソールにおけるツールバーの機能を下記に示します。



図 2.1-13 ツールバー画面

-  新規にメインビューを開きます。
-  新規にイベントビューを開きます。
-  新規にノウハウビューを開きます。
-  新規にイベントサマリビューを開きます。
-  新規にイベントフィルタビューを開きます。
-  新規にメインペインエディタを開きます。
-  新規にルールセットエディタを開きます。
-  新規に SEN パフォーマンスビューを開きます。
-  指定された条件で文字列を検索します。
(イベントビューおよびイベントフィルタビューのみ)
-  選択範囲を切り取り、クリップボードに格納します。
-  選択範囲を複製し、クリップボードに格納します。
-  クリップボードの内容を現在の位置に貼り付けます。
-  パトランプおよびサウンド(ビープ音、サウンド)の鳴動を停止します。

2.1.5 メインビュー

以下メインビューにおける基本操作について詳しく説明します。

メインビューの表示

メインビューの基本画面を図 2.1-14 に示します。メインビューはログイン時に自動的に表示されますが、新規にメインビューを表示する場合は、メニューバーから[ファイル]->[メインビューを開く]を選択します。

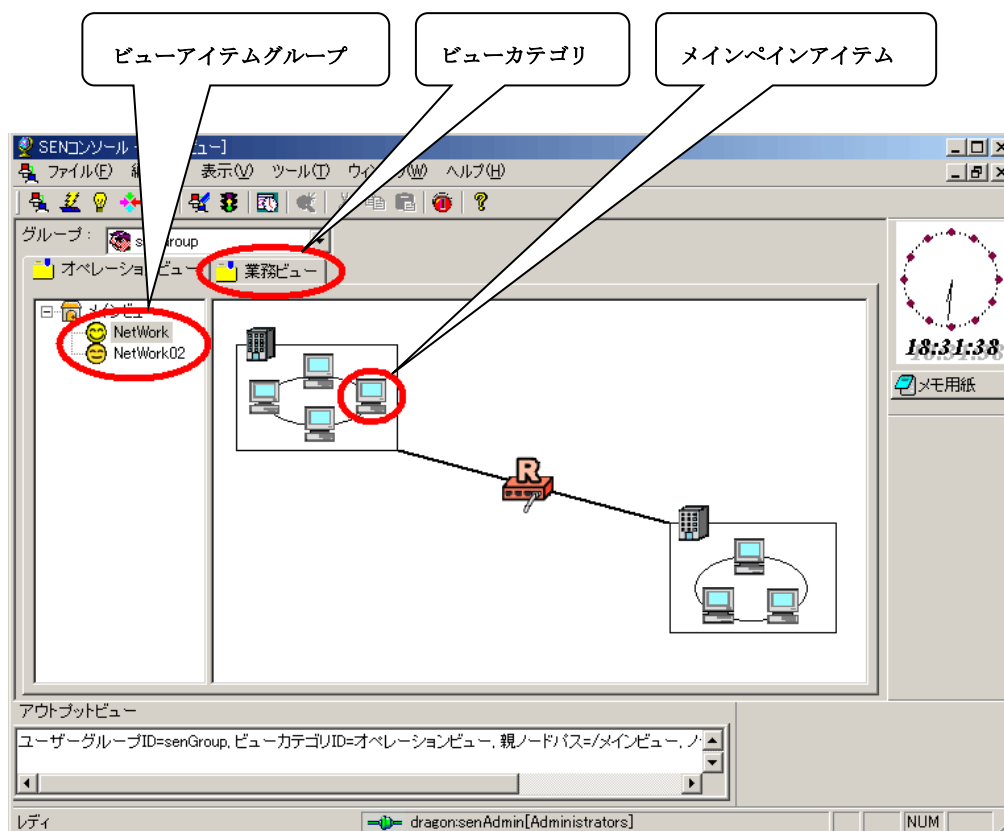


図 2.1-14 メインビュー画面

メインビューは、各ユーザーグループの監視用のビューと捉える事ができます。ユーザーグループは監視の目的に応じて自由に設定する事ができます。例えば、サーバー監視、ネットワーク監視、アプリケーション監視といった視点でグループに分ける事もできます。また本社、支社、営業店、配送センターなどといったグループ分けも可能です。

各グループに対して1つのメインビューが割り当てられます。グループの切り替えは、上部のコンボボックスを選択する事により行います。なお、同時に複数のメインビューを表示させる事が可能です。

1つのメインビューは、ビューカテゴリと呼ばれる複数のページに区切られ、タブを切り替える事で異なる視点からのビューを提供する事ができます。

ビューカテゴリは、左側のツリーペインと右側のメインペインからなります。

ツリーペインでは管理対象の階層構造をツリー表示します。ツリーペインのノードの事をビューアイテムグループと呼びます。これをクリックする事により、その階層に対応したメイ

ンペインが表示されます。またツリー構造を利用して、上位階層のビューではおおまかな状況を把握し、下位の階層では詳細な状況を把握するといった使用も可能です。

メインペインでは、管理対象となるオブジェクトを基本図形やビットマップイメージによりグラフィカルに表示します。

管理対象オブジェクトを表現する基本図形やイメージの事をメインペインアイテムと呼びます。メインペインアイテムには、矩形や線分、文字、イメージといったプリミティブな図形か、プリミティブな図形を任意の数だけ組み合わせ合わせた結合図形を選択する事ができます。表 2.1-1 にプリミティブな図形の種類を示します。

表 2.1-1 プリミティブ図形の種類

図形名	説明
直線	直線。始点座標と終点座標により指定します。また、線の色や線の指定が可能です。点滅機能の利用でブリンクが可能です。
長方形	長方形。左下座標と右上座標により指定します。また、線の色や長方形内部の塗りつぶし色の指定が可能です。点滅機能の利用でブリンクが可能です。
円・楕円	円・楕円。円・楕円を囲む矩形の左下座標と右上座標により指定します。また、線の色や円・楕円内部の塗りつぶし色の指定が可能です。点滅機能の利用でブリンクが可能です。
イメージ	イメージ。表示するイメージ ID を指定します。 Windows アイコン、Windows ビットマップ、PNG 形式、JPEG 形式、TIFF 形式の画像の表示が可能です。点滅機能の利用でブリンクが可能です。
文字	文字列。フォントの種類やフォントサイズの指定が可能です。点滅機能の利用でブリンクが可能です。
リスト	リスト表示。リストに表示するカラム、初期データ等の指定が可能です。
ガントチャート	千手のジョブスケジューラ等で追加したフレームの状態等をガントチャート形式にて表示します。
実行システム	千手のジョブスケジューラ等で追加した実行システムの状態を一覧形式にて表示します。

ユーザー独自のメインペインアイテムを作成するには、これらのプリミティブな図形を組み合わせた結合アイテムとして作成します。結合アイテムについては、「**4.1.2 メインペインの描画編集**」を参照して下さい。

監視対象オブジェクトの状態に応じてメインペインアイテムの表示状態を変える事ができます。例えば、監視対象となるサーバーがダウンした場合は、対応するメインペインアイテムの背景色を赤色に変化させる事で、その状態が一目で分かるようになります。これはルールにより実現します。ルール条件としてあるサーバーがダウンしたというイベントを表す条件式を、アクションとしてメインペインアイテムの背景色を赤に変更するというルール

を記述する事になります。ルール作成については、「**5 ルール作成ガイド**」を参照して下さい。

各メインペインアイテムにはそれぞれ固有の属性(プロパティ)を持つ事ができ、コンテキストメニューの[プロパティ]により参照する事が可能です。プロパティには、管理対象オブジェクトを特徴付ける任意の項目(ノード名、アプリケーション名等)やそのステータスを表す項目(稼働状態、CPU 使用率、ディスク使用率等)を含める事が可能です。

各メインペインアイテムに、関連ビューを設定する事で、別のメインペインへのハイパーリンクを実現できます。またアイテムに関連付けられた任意のコマンドをインタラクティブに実行する事ができます。

ビューカテゴリの編集

<ビューカテゴリの追加>

SEN コンソール起動時、ビューカテゴリが何も定義されていない状態では、図 2.1-15 のような画面が表示されます。

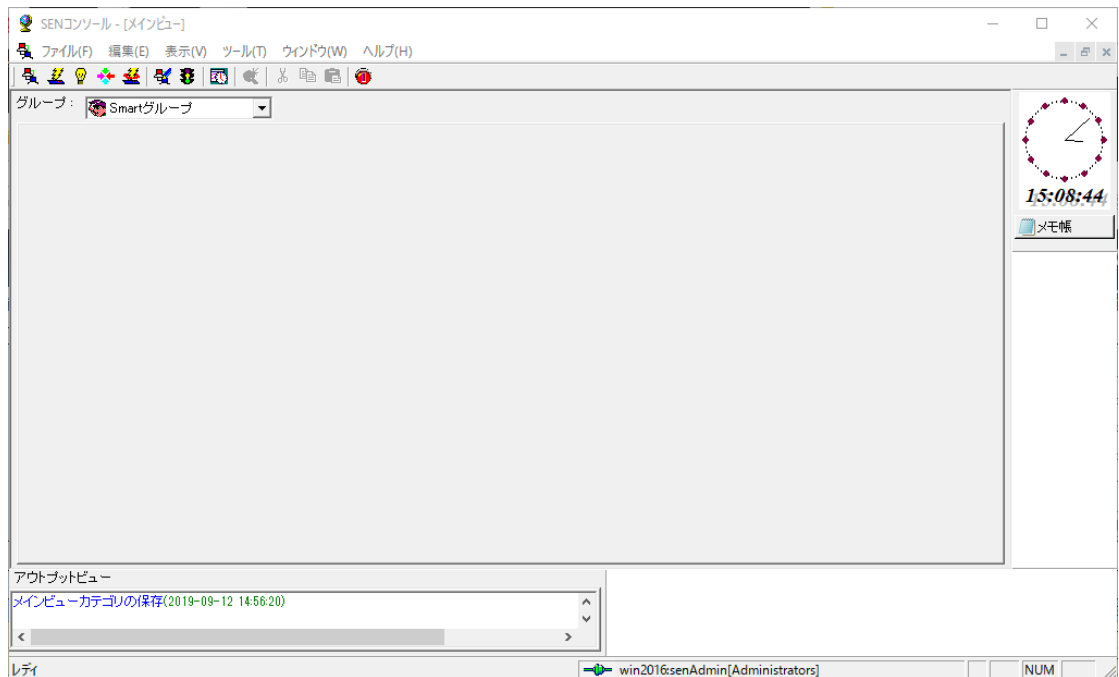


図 2.1-15 メインビュー画面（初期状態）

ここで、[編集]メニューから[ビューカテゴリ編集]を選択すると、メインビューカテゴリリスト画面が表示されます（図 2.1-16）。ビューカテゴリを新規に追加するには [追加]ボタンを押します。



図 2.1-16 メインビューカテゴリリスト画面

次にビューカテゴリプロパティ設定画面(図 2.1-17)で下記項目を指定し、[OK]ボタンを押します。

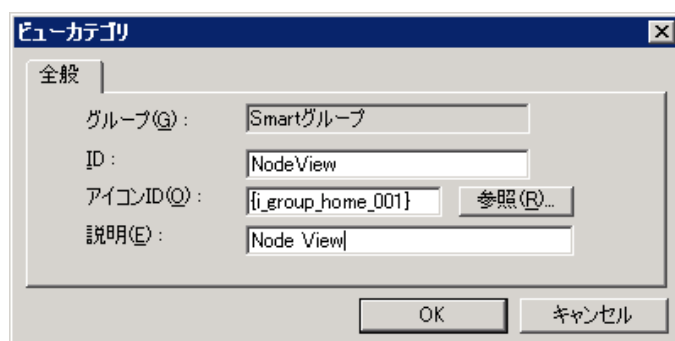


図 2.1-17 ビューカテゴリプロパティ設定画面

表 2.1-2 ビューカテゴリプロパティ設定項目一覧

項目	内容	省略
ID :	ビューカテゴリの ID を指定します。	不可
アイコン ID :	ビューカテゴリのタブに表示するアイコンの ID を指定します。アイコン ID は、[参照]ボタンを押す事により、すでに定義されたアイコンの一覧から選択する事が可能です。アイコン ID で使用するイメージは、あらかじめ SEN サーバーにアップロードしておく必要があります。ビューカテゴリのタブに表示するアイコンには、必ず 16×16 のサイズを含む Windows アイコンを使用して下さい。	不可
説明 :	コメントを指定します。	可能

新しいビューカテゴリが作成され、上部タブに新規に作成したビューカテゴリ ID が表示されます(図 2.1-18)。ビューカテゴリをさらに追加する場合は、同様の手続きでビューカテゴリを作成していきます。

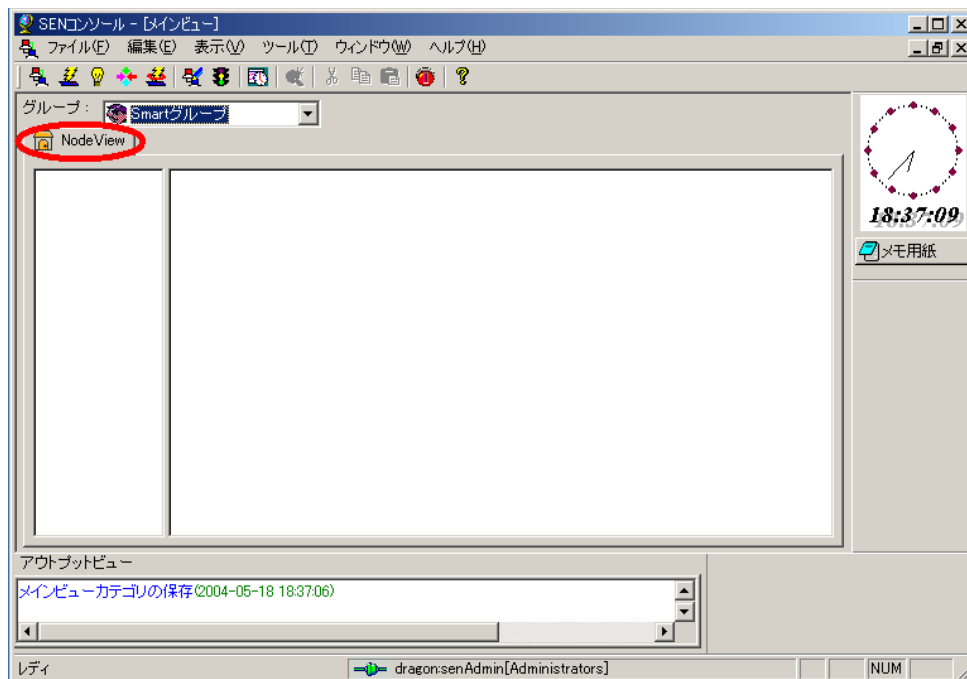


図 2.1-18 メインビュー画面 (ビューカテゴリ作成後)

<ビューカテゴリのコピー>

ビューカテゴリをコピーする場合は、ビューカテゴリリスト画面からコピー元となるビューカテゴリを選択し、[コピー]ボタンを押します。ビューカテゴリプロパティ設定画面が表示されますので、各項目を指定して[OK]ボタンを押します。

<ビューカテゴリの変更>

ビューカテゴリの属性を変更する場合は、メインビューカテゴリリスト画面から変更するビューカテゴリを選択し、[変更]ボタンを押します。ビューカテゴリプロパティ設定画面が表示されますので、追加の場合と同様に各項目を指定して[OK]ボタンを押します。

<ビューカテゴリの削除>

ビューカテゴリを削除する場合は、メインビューカテゴリリスト画面から削除するビューカテゴリを選択し、[削除]ボタンを押します。

ビューアイテムグループの編集

＜ビューアイテムグループの新規作成＞

ビューカテゴリの中に、メインペインを割り当てるビューアイテムグループを作成します。ビューアイテムグループはツリーペインのノードの事で、ビューアイテムグループには一つのメインペインが割り当てられます。

図 2.1-18 のようにビューカテゴリを新規に作成した時点ではツリーペインには何もない状態なので、まずトップレベルのビューアイテムグループを作成します。トップレベルのビューアイテムグループは1ビューカテゴリについて1個だけ作成する事ができます。ツリーペインのコンテキストメニューから[子グループの作成]を選択し、ビューアイテムグループプロパティ画面を表示します(図 2.1-19)。

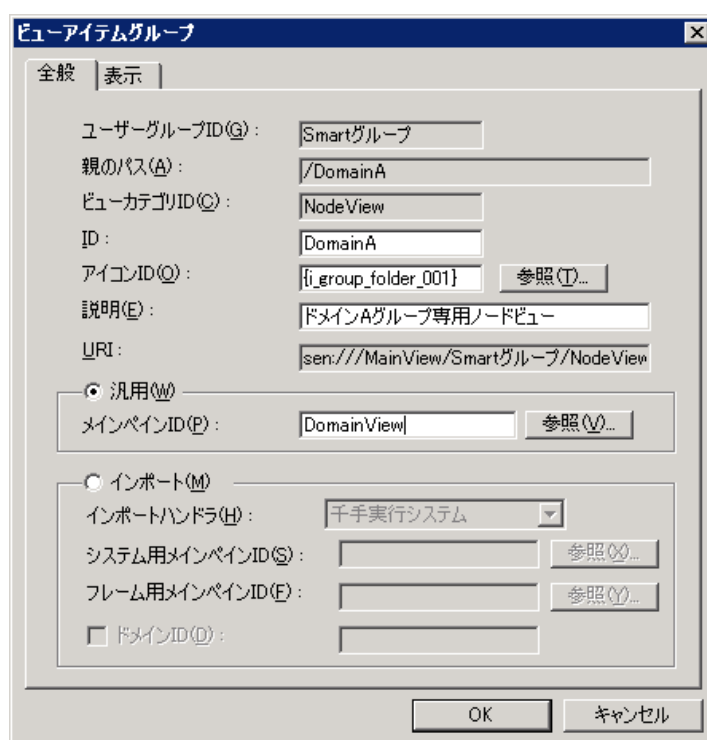


図 2.1-19 ビューアイテムグループプロパティ画面 (全般タブ)

ビューアイテムグループプロパティ画面では、[全般]タブの下記項目を指定します。なお、インポートハンドラ、システム用メインペイン ID、フレーム用メインペイン ID については千手システムからの自動インポートによりメインペインを生成する場合に指定します。これについては、「**4.1.6 インポートハンドラによるメインペイン自動生成 (千手ジョブスケジュール情報)**」を参照して下さい。

表 2.1-3 ビューアイテムグループプロパティ項目一覧 (全般タブ)

項目	内容	省略
ID:	ビューアイテムグループ ID を指定します。	不可
アイコン ID:	ビューアイテムグループ用ツリーノードに表示するアイコンの ID を指定します。アイコン ID は、[参照]ボタンを押す事により、すでに定義されたアイコンの一覧から選択する事が可能です。アイコン ID で使用するイメージは、あらかじめ SEN サーバーにアップロードしておく必要があります。 ビューアイテムグループ用ツリーノードに表示するアイコンには、必ず 16×16 のサイズを含む Windows アイコンを使用して下さい。	不可
説明:	コメントを指定します。	可能
メインペイン ID:	ビューアイテムグループに割り当てるメインペイン ID を指定します。メインペイン ID は、[参照]ボタンを押す事により、すでに定義されたメインペインから選択する事が可能です。[汎用]を選択した場合に指定して下さい。	※1
インポートハンドラ:	メインペイン自動生成用インポートハンドラを指定します。[インポート]を選択した場合に指定して下さい。	※2
システム用メインペイン ID:	千手実行システム割り当て用メインペイン ID を指定します。[インポート]を選択した場合に指定して下さい。	※2
フレーム用メインペイン ID:	千手生成フレーム割り当て用メインペイン ID を指定します。[インポート]を選択した場合に指定して下さい。	※2
ドメイン ID:	自動インポート対象の Senju Operation Conductor 連携アダプタドメイン ID を指定します。[インポート]を選択した場合に指定して下さい。	可能

※1:[汎用]を選択した場合、省略できません。

※2:[インポート]を選択した場合、省略できません。

[表示]タブではビューアイテムグループに割り当てるメインペインの表示倍率(拡大/縮小)を指定します。デフォルトでは 100%(作成した大きさ)で表示されます。



図 2.1-20 ビューアイテムグループプロパティ画面 (表示タブ)



実行システムおよびガントチャートのメインペインアイテムは、SEN サーバーにて自動的に表示サイズを計算します。実行システムおよびガントチャートのメインペインアイテムを使用する場合は、メインペインの表示倍率の変更を行わないで下さい。

上記を指定後、[OK]ボタンを押すと、ビューアイテムグループが新規に作成され、対応するメインペインが表示されます(図 2.1-21)。

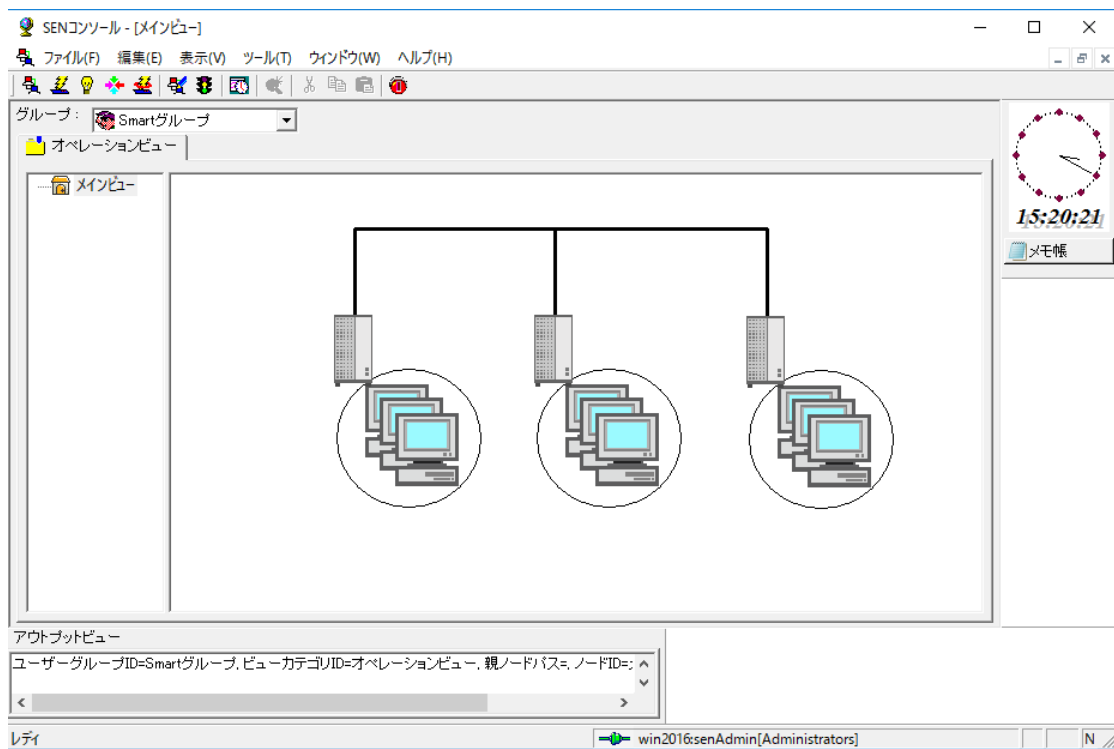


図 2.1-21 メインビュー画面 (ビューアイテムグループ新規作成時)

ビューアイテムグループは階層的に作成する事が可能です。あるビューアイテムグループの下に階層にビューアイテムグループを作成するには、ビューアイテムグループアイコンのコンテキストメニューから[子グループの作成]を選択します。ビューアイテムグループプロパティ画面が表示されたら、同様に必要な項目を指定し、[OK]ボタンを押します。これによりビューアイテムグループを階層的に作成できます(図 2.1-22)。

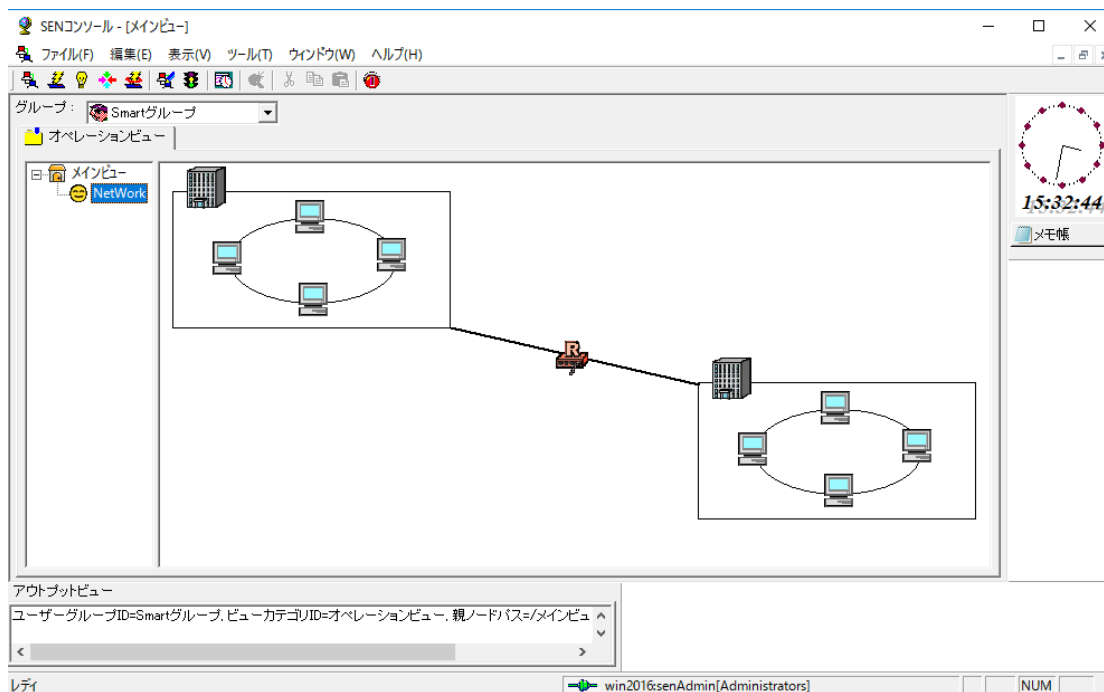


図 2.1-22 階層化されたビューアイテムグループの例



あまり階層を深くしたり、同一階層に多くのビューアイテムグループを作成するとパフォーマンス低下の原因となりますのでご注意ください。ビューアイテムグループを作成できる階層および同一階層に作成できるビューアイテムグループの数の上限については、「6.2 制限事項」を参照して下さい。

<ビューアイテムグループの削除>

ビューアイテムグループを削除する場合は、アイコンのコンテキストメニューから[削除]を選択し、確認画面で[はい]を選択します。

<ビューアイテムグループのリセット>

ビューアイテムグループに割り当てられたメインペインおよびメインペイン上の各アイテムは、ルールによりプロパティを変更する事ができます。変更されたプロパティを定義時状態に戻す場合は、リセット機能を使用します。ビューアイテムグループのリセットには、そのビューアイテムグループに割り当てられたメインペインのみのリセットを行う単独リセットと、ビューアイテムグループ下すべての階層のメインペインをリセットする階層リセットとがあります。

単独リセットを行うには、ビューアイテムグループアイコンのコンテキストメニューから[リセット]→[単独リセット]を選択し、確認画面で[はい]を選択します。これによりビューアイテムグループに割り付けられたメインペイン内のすべてのアイテムが定義状態にリセットされます。

階層リセットを行うには、ビューアイテムグループアイコンのコンテキストメニューから[リセット]→[階層リセット]を選択し、確認画面で[はい]を選択します。これによりビューアイテムグループ下すべての階層のメインペインについて、各メインペイン内のすべてのアイテムが定義状態にリセットされます。

リセットを実行すると、メインペインアイテムリセットイベントが生成されます。メインペインアイテムリセットイベントの `userGroupId` プロパティには、メインペインが所属するユーザーグループが設定されます。リセットされたメインペインが所属するユーザーグループにのみメインペインアイテムリセットイベントを分配する場合は、`userGroupId` プロパティを使用し分配ルールにて絞り込みを行って下さい。

<ビューアイテムグループの定義の反映>

ビューアイテムグループのリセットでは、割り当てられたメインペインに存在する各アイテムのプロパティを定義時状態に戻します。ただしリセット機能では、元のメインペインに追加、削除したアイテムを、割り付けられたメインペインから自動的に削除、追加しません。割り付けられたメインペイン全体を定義したメインペインに置き換える場合は、定義の反映を使用します。メインペインの設定変更を行った場合も、その設定を有効にするためには定義の反映を行う必要があります。

定義の反映も、リセットと同様に単独反映と階層反映があります。単独反映は、ビューアイテムグループに割り付けられたメインペインのみを定義情報に置き換えます。階層反映は、ビューアイテムグループ下すべての階層のメインペインについて、各メインペインを定義情報に置き換えます。

単独反映を行うには、ビューアイテムグループアイコンのコンテキストメニューから[定義の反映]→[定義の単独反映]を選択し、確認画面で[はい]を選択します。

階層反映を行うには、ビューアイテムグループアイコンのコンテキストメニューから[定義の反映]→[定義の階層反映]を選択し、確認画面で[はい]を選択します。

定義の反映を実行すると、メインペイン定義反映イベントが生成されます。メインペイン定義反映イベントの `userGroupId` プロパティには、メインペインが所属するユーザーグループが設定されます。定義の反映が実行されたメインペインが所属するユーザーグループにのみメインペイン定義反映イベントを分配する場合は、`userGroupId` プロパティを使用し分配ルールにて絞り込みを行って下さい。



リストが含まれるビューアイテムグループに対し、定義の反映を行った場合、リストに設定されている全データが初期化されます。ご注意ください。

コンテキストメニューの操作

メインペインにおける各アイテムのコンテキストメニューから実行可能な操作について説明します。

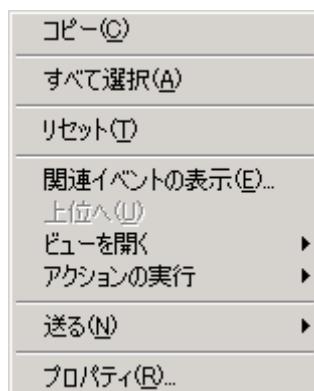


図 2.1-23 メインペインアイテムのコンテキストメニュー

<コピー>

選択範囲を複写し、クリップボードに格納します。

<すべて選択>

すべてのアイテムを選択します。

<リセット>

メインペインアイテムのコンテキストメニューで[リセット]を選択する事により、選択したメインペインアイテムのプロパティを定義時状態に戻す事ができます。リセットを使用するケースには、以下のような場合が考えられます。

管理対象オブジェクトの障害に相当するイベントを受信した場合にメインペインアイテムの背景色を赤に変更し、障害復旧に相当するイベントを受信した場合にメインペインアイテムの背景色を青に変更するようなルールを記述したとします。しかし何かの要因で、障害が復旧したにも関わらず障害復旧に相当するイベントが受信できなかった場合に、手動でメインペインアイテムのプロパティを定義時状態に戻す場合に使用できます。

<関連イベントの表示>

メインペインアイテムのコンテキストメニューで[関連イベントの表示]を選択する事により、そのメインペインアイテムに関連づけられたイベントがイベントビューに表示されます。イベントとメインペインアイテムとの関連付けはルールの中で行います。イベントとメインペインアイテムの関連付けについては、「**5.1.6 ルールの編集**」を参照して下さい。

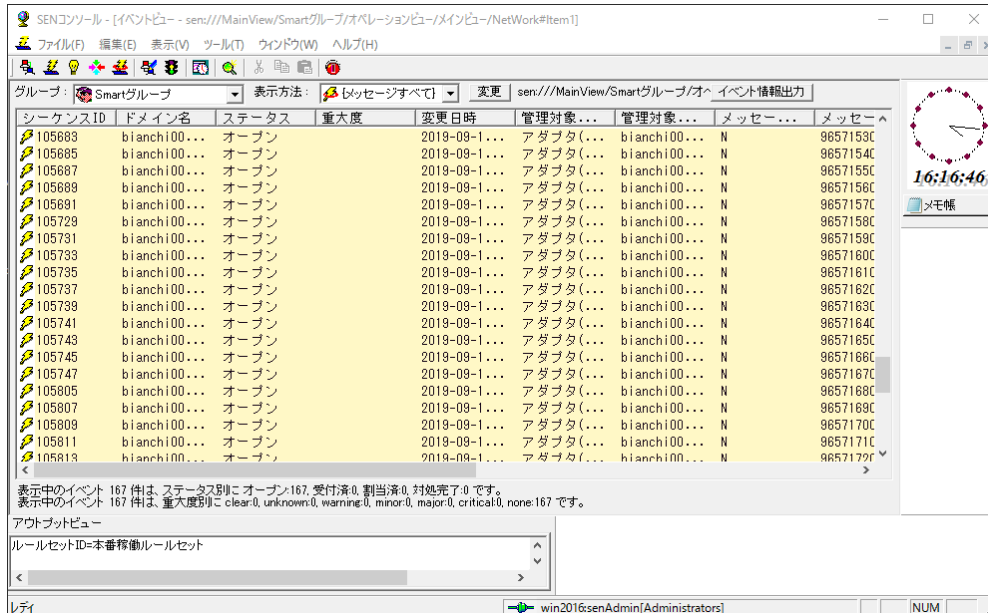


図 2.1-24 関連イベント画面

<上位へ>

1つ上の階層にあるビューアイテムグループのメインペインに移動します。最上位のメインペインを表示している場合は、不活性となります。

<ビューを開く>

メインペインアイテムのコンテキストメニューで[ビューを開く]を選択する事により、そのメインペインアイテムに関連づけられたビューグループにジャンプ(ハイパーリンク)します。この機能を用いる事で、例えばあるビューグループに割り当てられたメインペインアイテムとその下の階層に位置するビューグループとを関連付け、全体のビューから詳細なビューへとドリルダウンさせる事が可能です。

メインペインアイテムからビューグループへのハイパーリンクは、メインペインアイテムのコンテキストメニューから[プロパティ]を選択し[関連ビュー]タグにて設定可能です。関連ビューの詳細は、「**4.1.2 メインペインの描画編集**」を参照して下さい。

<アクションの実行>

メインペインアイテムのコンテキストメニューで[アクションの実行]を選択する事により、そのメインペインアイテムに関連づけられたアクションが実行できます。

複数のメインペインアイテムを選択すると、メニューは不活性になります。

メインペインアイテムにアクションを追加するには、メインペインアイテムのコンテキストメニューから[プロパティ]を選択し[アクション]タグにて設定可能です。また、ルールからの追加も可能です。詳細は、「**5.1.6 ルールの編集**」を参照して下さい。

メインペインアイテムに関連付けられたアクションを選択するとアクションを実行するかどうかの確認ダイアログが表示されます。(図 2.1-25)

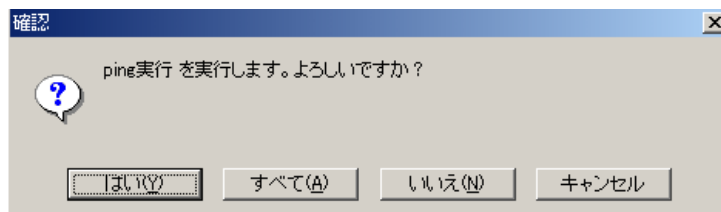


図 2.1-25 アクションの実行確認ダイアログ

[はい]あるいは[すべて]を選択する事により、アクションが実行され結果が別ウィンドウに表示されます(図 2.1-26)。[いいえ]あるいは[キャンセル]を選択するとアクションは実行されません。

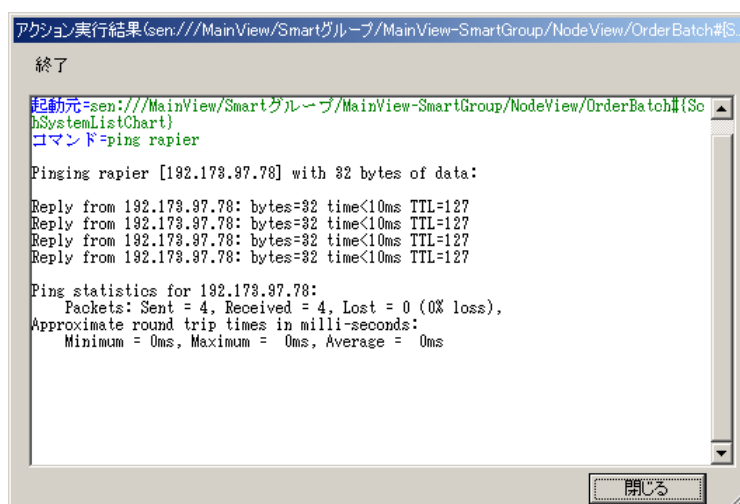


図 2.1-26 アクションの実行結果

<送る→メール受信者>

メインペインアイテムのコンテキストメニューで[送る] → [メール受信者]を選択する事により、標準メーラープログラムとして登録されているプログラムが起動し、メインペインアイテムのプロパティ情報をメールで送信できます。メール本文には下記項目が自動的にセットされます。

- メインペインアイテム ID
- メインペインアイテムの説明
- [定義]プロパティおよびその値の一覧
- [状態]プロパティおよびその値の一覧

<プロパティ>

各メインペインアイテムのコンテキストメニューから[プロパティ]を選択する事で、監視対象

となるオブジェクトの定義情報や状態を参照する事ができます。プロパティには[全般]、[関連ビュー]、[定義]、[状態]のタブが存在します。

[全般]タブでは、各メインペインアイテムの ID と説明を参照します(図 2.1-27)。

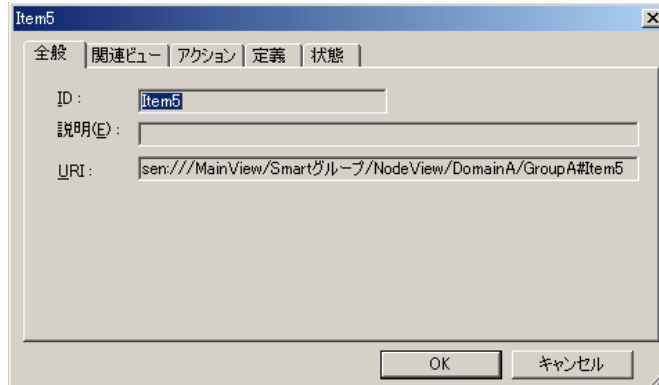


図 2.1-27 メインペインアイテムプロパティ画面 (全般タブ)

[関連ビュー] タブではコンテキストメニューの[ビューを開く]に表示されるジャンプ(ハイパーリンク)を編集する事ができます(図 2.1-28)。

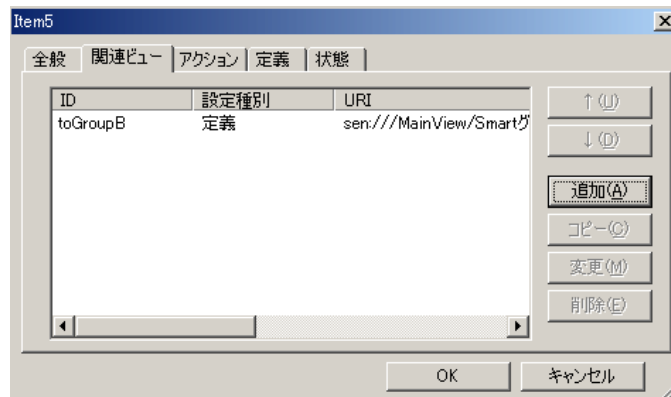


図 2.1-28 メインペインアイテムプロパティ画面 (関連ビュータブ)

表 2.1-4 メインペインアイテムプロパティ画面のボタン (関連ビュータブ)

ボタン	機能
↑ :	選択した関連ビューの順番を繰り上げます。順番はメインペインアイテムのコンテキストメニューの[ビューを開く]の表示順番に反映されます。
↓ :	選択した関連ビューの順番を繰り下げます。順番はメインペインアイテムのコンテキストメニューの[ビューを開く]の表示順番に反映されます。
追加 :	関連ビューを追加します。
コピー :	選択した関連ビューをコピーします。

変更：	選択した関連ビューを変更します。
削除：	選択した関連ビューを削除します。

[追加]、[コピー]および[変更]ボタンを押すと図 2.1-29 が表示されます。

図 2.1-29 関連ビュー設定追加画面

表 2.1-5 関連ビュー設定追加項目一覧

項目	内容	省略
ID：	メインペインアイテムのコンテキストメニュー[ビューを開く]を選択した時に表示される、関連ビューの ID を指定します。	不可
URI：	<p>関連ビューへのパスを指定します。 関連ビューへのパスは URL 形式で指定します。 ◇メインペインへのパスの場合： sen:///MainView/グループ ID/カテゴリ ID/ツリーパス ここでツリーパスには、メインペインが割り付けられるビューアイテムグループのパスを指定します。 (例) sen:///MainView/GRP1/NodeView/Tokyo/HQ</p> <p>◇メインペインアイテムへのパスの場合： sen:///MainView/グループ ID/カテゴリ ID/ツリーパス#アイテム ID アイテム ID にはメインペインアイテムの ID を指定します。 (例) sen:///MainView/GRP1/NodeView/Tokyo/HQ#Node01</p> <p>◇コマンドのパスの場合 sen:/// commandexe/コマンドパス 引数 引数を指定する場合は、”(バーティカルバー)”を使用します。 URI で環境変数を利用する場合は、<>を使用します。 (例) sen:///commandexe/<SENSVHOME>¥¥bin¥¥sJENB_Pmctr l run U1</p> <p>◇任意の URL の場合： (例) http://www.nri.co.jp/index.html</p>	不可
説明：	コメントを指定します。	可能
設定種類：	関連ビューの種類を指定します。	—

	<p>”定義”または”付加”を選択します。 種類が”定義”の関連ビューは、アイテムのリセットによる影響を受けません。 種類が”付加”の関連ビューは、アイテムのリセットにより削除されます。</p>	
--	---	--

[アクション]タブではコンテキストメニューの[アクションの実行]に表示されるアクションのコマンドシーケンスを編集することができます(図 2.1-30)。

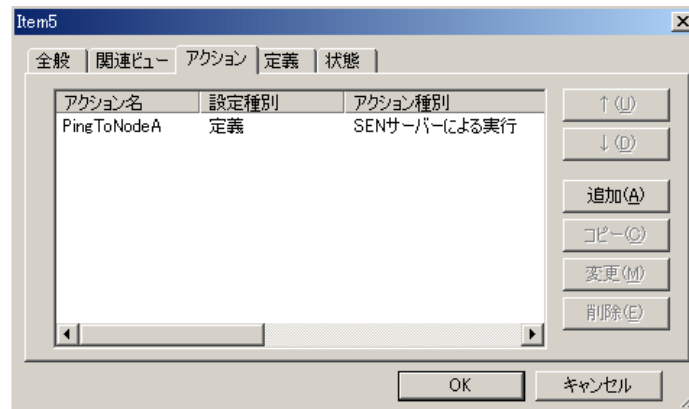


図 2.1-30 メインペインアイテムプロパティ画面 (アクションタブ)

表 2.1-6 メインペインアイテムプロパティ画面のボタン (アクションタブ)

ボタン	機能
↑ :	選択したアクションの順番を繰り上げます。順番はメインペインアイテムのコンテキストメニューの[アクションの実行]の表示順番に反映されます。
↓ :	選択したアクションの順番を繰り下げます。順番はメインペインアイテムのコンテキストメニューの[アクションの実行]の表示順番に反映されます。
追加 :	アクションを追加します。
コピー :	選択したアクションをコピーします。
変更 :	選択したアクションを変更します。
削除 :	選択したアクションを削除します。

[追加]、[コピー]および[変更]ボタンを押すと図 2.1-31 が表示されます。

図 2.1-31 アクション設定追加画面

表 2.1-7 アクション設定追加項目一覧

項目	内容	省略
アクション名：	メインペインアイテムのコンテキストメニュー [アクションの実行] を選択した時に表示される、アクションの名前を指定します。	不可
説明：	コメントを指定します。	可能
コマンドシーケンス：	実行するコマンドをフルパスで指定します。	※1
イベントクラス名：	SEN サーバーで生成するイベントクラス名を指定します。	—
イベントプロパティ：	指定したイベントクラス名の各プロパティに設定する値を指定します。	可能
ドメイン名：	現在接続中の任意の Senju Operation Conductor アダプタドメイン名を指定します。	※2
コマンド種別：	“千手コマンド”または“ユーザーコマンド”を指定します。	—
コマンドグループ名：	コマンドが所属するコマンドグループ名を指定します。	※2
コマンド名：	コマンド名を指定します。	※2

実行ノード指定：	実行ノード指定を”なし”、”ノード指定”、”ノードグループ指定”から指定します。	—
実行ユーザー名：	実行ユーザー名を指定します。	可能
実行ノード/ノードグループ ID：	実行ノード/ノードグループ ID を指定します。	※3
パラメータ	指定したコマンドのパラメータを指定します。複数のパラメータを指定する場合、カンマで区切る必要があります。	可能
設定種類：	アクションの種類を指定します。 "定義"または"付加"を選択します。 種類が"定義"の関連ビューは、アイテムのリセットによる影響を受けません。 種類が"付加"の関連ビューは、アイテムのリセットにより削除されます。	—

※1：[SEN サーバーによる実行]を選択した場合、省略できません。

※2：[千手によるコマンドの実行]を選択した場合、省略できません。

※3：「実行ノード指定」で”ノード指定”または”ノードグループ指定”を選択した場合、省略できません。

[定義]および[状態]タブは、ユーザーがルールの中で任意に指定する事のできるプロパティです。通常[定義]プロパティには、監視対象となるオブジェクトについての定義情報(オブジェクト自身を特徴づける属性または監視定義のための属性)を設定します(図 2.1-32)。[状態]プロパティには、監視対象となるオブジェクトについてのステータス情報(オブジェクトの監視ステータス)を設定します(図 2.1-33)。[定義]および[状態]プロパティは、ルールの中で記述します。ルールからのメインペインアイテムプロパティ設定方法については、「5.2.1 ルール内で参照可能な変数」を参照して下さい。

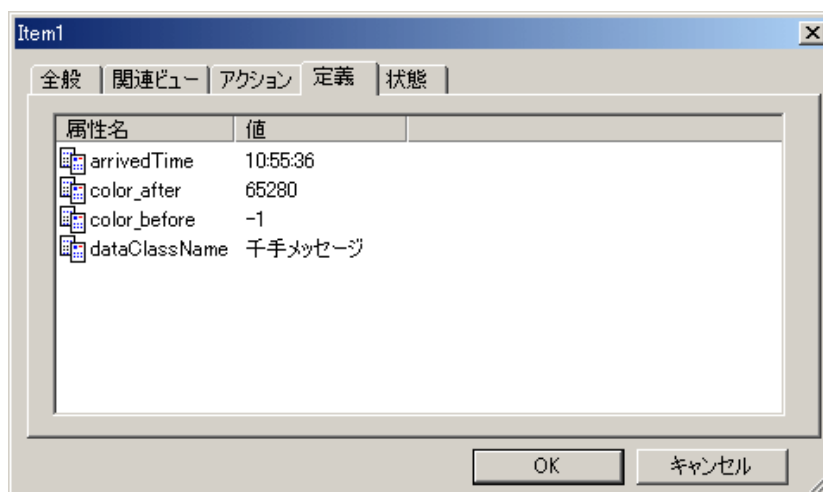


図 2.1-32 メインペインアイテムプロパティ画面 (定義タブ)

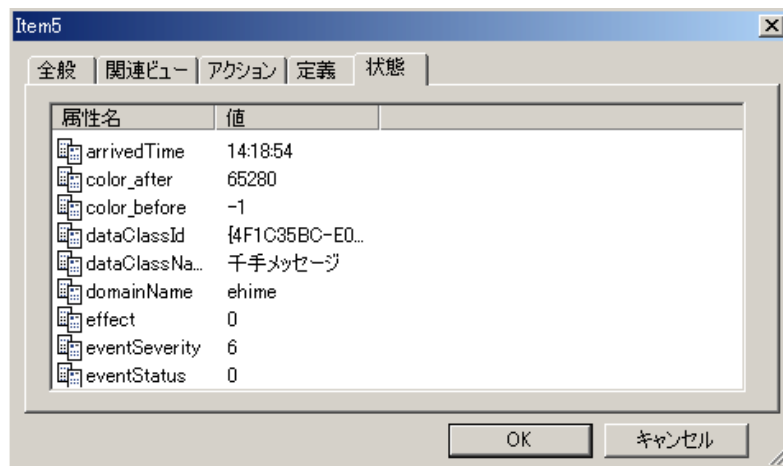


図 2.1-33 メインペインアイテムプロパティ画面 (状態タブ)

メインペインアイテムのダブルクリック

メインペインアイテムのダブルクリックを行った場合は、メインペインアイテムに関連付けられたビューへジャンプ(ハイパーリンク)します。これはメインペインアイテムを選択し、コンテキストメニューから[ビューを開く]を選択した場合と同じ動作です。

関連付けられたビューが存在しないメインペインアイテムをダブルクリックした場合は、何も動作はしません。

また、複数の関連付けられたビューがある場合は、一番先頭にある関連ビューにジャンプします。

2.1.6 イベントビュー

イベントビューの表示

イベントビューの基本画面を図 2.1-34 に示します。イベントビューはログイン時に自動的に表示されますが、新規にイベントビューを表示する場合は、メニューバーから[ファイル]→[イベントビューを開く]を選択します。

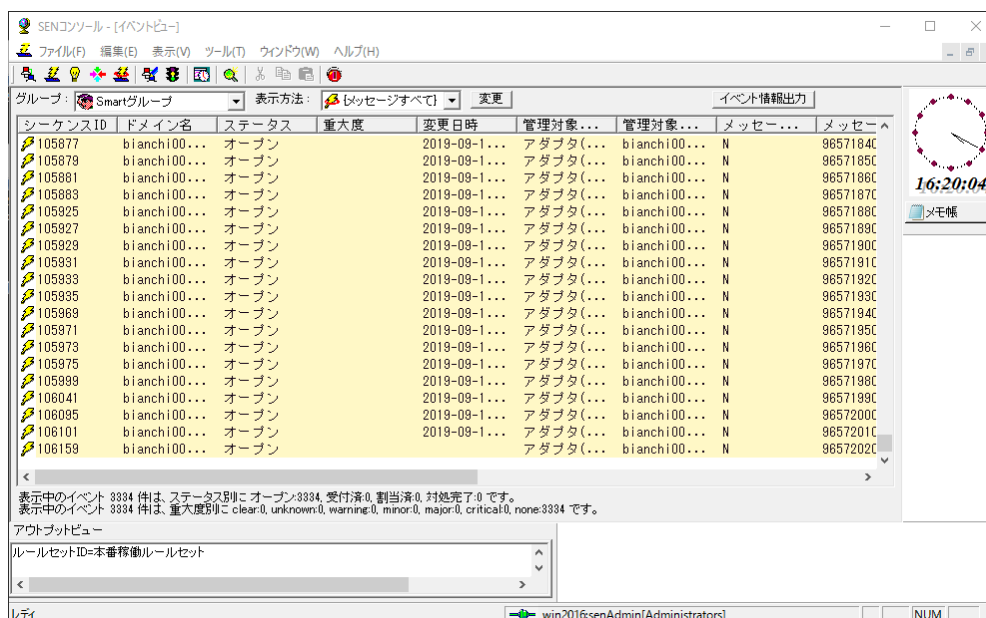


図 2.1-34 イベントビュー画面

イベントビューは、各監視対象(千手、その他運用監視ツール等)において発生する障害事象をはじめとする各種イベントをリアルタイムに一覧表示します。イベントビューに表示されるイベントは、通常、SEN サーバーに接続する千手マネージャや SNMPトラップ、カスタムメッセージイベント送信コマンドからメッセージとして受信するものですが、監視対象となるオブジェクトの属性や状態の変化も広義のイベントとして扱われます。例えば、千手エージェントの場合、ノード定義情報、ノードステータス情報、実行システム情報、フレームステータス情報などの変化がイベントとして SEN サーバーに伝えられます。

デフォルトで SEN サーバーが受信した順番にイベントが一覧表示されます(必ずしも実際にイベントが発生した順とはかぎりません)。

イベントビューのイベントはグループ毎に分配されて表示されます。イベントのグループへの分配方法はルールによって定義します。詳細は、「**5.1.6.4 分配ルールの編集**」を参照して下さい。グループを切り替えるには、上部のコンボボックスを選択します。イベントビューは、同時に複数表示させる事が可能です。

イベントビューに表示される主だったイベントの項目一覧を表 2.1-8～表 2.1-25 メッセージ種別一覧(内部イベントの場合)に示します。なお、すべてのイベントおよびそのプロパティの一覧については、「**5.2.2 イベントクラス一覧**」を参照して下さい。

表 2.1-8 メッセージクラスイベント項目一覧

項目	内容
シーケンス ID	各イベントに対する ID (Senju Enterprise Navigator システム内部で付与される ID)
イベントクラス名	イベントのイベントクラス名を表す名称
ドメイン名	イベントのドメイン名を表す名称 千手: SEN コンフィグレータで設定するドメイン名 SNMP トラップ受信アダプタ: SEN サーバー名 (SNMP-Trap) シスログ受信アダプタ: SEN サーバー名 (Syslog) メール受信アダプタ: SEN コンフィグレータで設定するドメイン名 Senju Service Manager 連携アダプタ: SEN コンフィグレータで設定するドメイン名 イベント連携アダプタ: SEN コンフィグレータで設定するドメイン名 カスタムメッセージイベント送信コマンド: "アダプタ (カスタムメッセージイベント送信コマンド)" 管理プロセス: "管理プロセス" 内部イベント: 管理対象システム名
ステータス	イベントの処理状況 オープン 受付済 割当済 対処完了 デフォルトはオープンです。
重大度	イベントの重大度 clear(クリア) unknown(不定) warning(警告) minor(軽度) major(重大) critical(致命的) none(なし) この値はルールの中で設定します。ルールアクションを設定しない場合は、デフォルトの重大度は none となり、これはブランクで表示されます。
到着日時	イベントの到着日時(YYYY-MM-DD HH:MM:SS) イベントが SEN サーバーへ到着した日時。
変更日時	イベントの変更日時 (YYYY-MM-DD HH:MM:SS) イベントのプロパティに変更が加わった場合に更新されます。 ルールアクションを設定しない場合、デフォルトのブランクになります。
オープンへの変更日時	イベントのオープンへの変更日時 (YYYY-MM-DD HH:MM:SS) イベントのステータスをオープンへ設定または変更された日時。
受付済への変更日時	イベントの受付済への変更日時 (YYYY-MM-DD

	HH:MM:SS) イベントのステータスを受付済へ設定または変更された日時。
割当済への変更日時	イベントの割当済への変更日時 (YYYY-MM-DD HH:MM:SS) イベントのステータスを割当済へ設定または変更された日時。
対応完了への変更日時	イベントの対応完了への変更日時 (YYYY-MM-DD HH:MM:SS) イベントのステータスを対応完了へ設定または変更された日時。
付加情報	イベントの付加情報
更新モード	イベントの更新モード (new/delete/modify)
アクション数	イベントのアクション数
アクション実行結果数	イベントのアクション実行結果数
ノート数	イベントのノート数
全フィールド	イベントの全フィールド
管理対象システム名	管理対象システムを表す名称 千手: "アダプタ (千手) " SNMP トラップ受信アダプタ: "アダプタ(SNMP-Trap)" シスログ受信アダプタ: "アダプタ(Syslog)" メール受信アダプタ: "アダプタ(Mail-Receive)" Senju Service Manager 連携アダプタ: "アダプタ (SSM)" イベント連携アダプタ: "アダプタ(イベント連携)" カスタムメッセージイベント送信コマンド: "アダプタ (カスタムメッセージイベント送信コマンド)" 管理プロセス: "管理プロセス" 内部イベント: 管理対象システム名
管理対象領域名	管理対象領域を表す名称 千手: SEN コンフィグレータで設定するドメイン名 SNMP トラップ受信アダプタ: SEN サーバー名 (SNMP-Trap) シスログ受信アダプタ: SEN サーバー名 (Syslog) メール受信アダプタ: SEN コンフィグレータで設定するドメイン名 Senju Service Manager 連携アダプタ: SEN サーバー名 (Senju Service Manager) イベント連携アダプタ: SEN サーバー名 (evtrcv) カスタムメッセージイベント送信コマンド: "アダプタ (カスタムメッセージイベント送信コマンド)" 管理プロセス: "管理プロセス" 内部イベント: 管理対象システム名
メッセージ区分	監視対象で発生したメッセージかシステム自身の障害に関わるメッセージかの区分 千手: 表 2.1-17 を参照して下さい。 SNMP トラップ:

	<p>表 2.1-18 を参照して下さい。 シスログ： 表 2.1-19 を参照して下さい。 メール： 表 2.1-20 を参照して下さい。 カスタムメッセージイベント送信コマンド：“N” 内部イベント：“S”</p>
メッセージ識別 No.	<p>メッセージを識別する番号 千手：千手メッセージのシーケンス番号 SNMP トラップ：“0” シスログ：“0” メール：“0” カスタムメッセージイベント送信コマンド：引数で指定します。 デフォルトは“0”です。 内部イベント：“0”</p>
メッセージ ID	メッセージ ID
メッセージ種別	<p>メッセージ種別 千手： 表 2.1-21 を参照して下さい。 SNMP トラップ： 表 2.1-22 を参照して下さい。 シスログ： 表 2.1-23 を参照して下さい。 メール： 表 2.1-24 を参照して下さい。 カスタムメッセージイベント送信コマンド：引数で指定します。 内部イベント： 表 2.1-25 を参照して下さい。</p>
発生日時	イベントの発生日時 (YYYY-MM-DD HH:MM:SS)
発生元ノード ID	<p>メッセージの発生元を表すノード ID 千手：発生元ノード ID SNMP トラップ：SNMP トラップ送信元ホスト名または IP アドレス シスログ：シスログ送信元ホスト名または IP アドレス メール：接続先メールサーバー名 カスタムメッセージイベント送信コマンド：引数で指定します。 デフォルトはコマンド実行元ホスト名です。 内部イベント：SEN サーバー名</p>
発生元 APPL 名	<p>メッセージの発生元を表すアプリケーション名 千手：発信元 APPL のノード ID + 発信元のアプリケーション名 SNMP トラップ：“SNMP-Agent”または“sjENX_Trapd” シスログ：“Syslog”または“sjENX_Syslogd” メール：メールメッセージの Xmailer ヘッダーの値 カスタムメッセージイベント送信コマンド：引数で指定します。 デフォルトは“sjENX_SendEvent”です。 内部イベント：メッセージの発生元を表すアプリケ</p>

	ーション名
メッセージテキスト	メッセージ文字列
タグ情報リスト	タグ情報のリスト(オカレンス) タグキーとタグ値のペアをリストで保持します。

表 2.1-9 タグ情報クラス項目一覧

項目	内容
タグキー	タグ値を取得する際の検索キー 千手: 表 2.1-26 を参照して下さい。
タグ値	タグ情報の値

表 2.1-10 千手メッセージクラスイベント項目一覧

項目	内容
ノード名	発生元ノード名
メッセージ文字色	千手にて設定されている文字色
メッセージ背景色	千手にて設定されている背景色
メッセージガイド	千手にて設定されているメッセージガイド
警報装置設定	千手にて設定されている警報装置鳴動有無
対応種別	千手にて設定されている対応種別
マネージャ到着日時	メッセージが千手マネージャに到着した日時
マネージャアクション	千手にてメッセージアクションのルールが適用された際のアクション
ルール ID	千手にて設定されているルール ID
ノート	千手にて設定されているノート

表 2.1-11 SNMP トラップメッセージクラスイベント項目一覧

項目	内容
SNMP トラップタイプ	SNMP トラップのトラップタイプ SNMP トラップを文字列に変換して出力します。 変換できない場合は、下記形式で出力します。 SNMPv1: enterpriseSpecific(XX:YY) XX:enterpriseOID YY:SpecificTrapType SNMPv2c:OID を出力 SNMPv3:OID を出力
SNMP バージョン	SNMP のバージョン “v1”または“v2c”または“v3”を出力します。
コミュニティ名	SNMP のコミュニティ名 SNMP バージョンが“v1”または“v2c”の場合に SNMP コミュニティ名を出力します。
SNMP トラップ関連情報	インターフェース番号など SNMP トラップの付加 情報
SysUpTime	システム稼働時間
セキュリティエンジン ID	SNMP のセキュリティエンジン ID

	SNMPバージョンが”v3”の場合に SNMP セキュリティエンジン ID を出力します。
セキュリティ名	SNMP のセキュリティ名 SNMPバージョンが”v3”の場合に SNMP ユーザー名を出力します。

表 2.1-12 シスログメッセージクラスイベント項目一覧

項目	内容
SYSLOG ファシリティ	ログメッセージの種類を表示します。表示される文字については「6.9.8 シスログ連携」を参照して下さい。
SYSLOG 重大度	ログメッセージの重大度を表示します。表示される文字については「6.9.8 シスログ連携」を参照して下さい。

表 2.1-13 メールメッセージクラスイベント項目一覧

項目	内容
From:	メールメッセージの From ヘッダーの値
To:	メールメッセージの To ヘッダーの値
Cc:	メールメッセージの Cc ヘッダーの値
Bcc:	未使用
Subject:	メールメッセージの Subject ヘッダーの値
Received:	メールメッセージの Received ヘッダーの値
Message-ID	メールメッセージの Message-ID ヘッダーの値
Content-Type:	メールメッセージの Content-Type ヘッダーの値
Sender:	メールメッセージの Sender ヘッダーの値
Organization:	メールメッセージの Organization ヘッダーの値
References:	メールメッセージの References ヘッダーの値
X-Priority:	メールメッセージの X-Priority ヘッダーの値
メールサイズ	メールメッセージのサイズ
メール本文	メールメッセージの本文
添付ファイルサイズ	添付ファイルの合計サイズ
添付ファイル格納先	添付ファイルの格納ディレクトリ
添付ファイル数	添付ファイル数
添付ファイルリスト	添付ファイル情報のリスト
HTML ファイルの合計サイズ	HTML ファイルの合計サイズ
HTML ファイルの格納先	HTML ファイルの格納ディレクトリ
HTML ファイル数	HTML ファイル数
HTML ファイルリスト	HTML ファイル情報のリスト
挿入ファイルの合計サイズ	挿入ファイルの合計サイズ
挿入ファイルの格納先	挿入ファイルの格納ディレクトリ
挿入ファイル数	挿入ファイル数
挿入ファイルリスト	挿入ファイル情報のリスト

表 2.1-14 カスタムメッセージクラスイベント項目一覧

項目	内容
ユーザー定義 1	ユーザーが自由に定義可能な値 1
ユーザー定義 2	ユーザーが自由に定義可能な値 2

ユーザー定義 3	ユーザーが自由に定義可能な値 3
----------	------------------

表 2.1-15 コンソールユーザー作成イベント項目一覧

項目	内容
*コンソールユーザー作成イベントパラメータ	コンソールイベント送信の時に入力したパラメータ (1)
発生元	コンソールユーザー作成イベントの発生元
発生元詳細情報	コンソールユーザー作成イベントの発生元詳細情報

表 2.1-16 千手操作リクエストクラス関連イベント項目一覧

項目	内容
登録元表示用案件番号	Senju Service Manager で申請を行った時に付番された案件番号。
リクエストステータス	リクエストのステータス。以下の 4 種類。 “依頼成功” : 千手マネージャへのリクエストが成功した場合 “依頼失敗” : 千手マネージャへのリクエストが失敗した場合 “依頼中” : ジョブ一時停止リクエスト(操作指示: 一次停止指定/解除)で、一時停止指定の依頼が成功した場合 “キャンセル” : Senju Service Manager で当該リクエストを含む申請をキャンセルした場合 (注)上述したステータスが“(00000001)”～“(00000004)”で表示されていた場合、Senju Service Manager 環境に問題があることが予想されます。お手数ですがカスタマーサポートへ連絡して下さい。
キャンセルフラグ	キャンセルまたはステータス手動変更の有無。 “0” : 通常 “1” : キャンセル “2” : ステータス手動変更(解除指示待ち) “3” : ステータス手動変更(依頼成功)
実行予定日付	千手マネージャに対し、リクエストする予定日時。ランブック実行、コマンド実行リクエストのみ表示。
指定リミット日付	千手マネージャ上、一時停止/スキップ/起動時刻変更および遅延監視時刻変更を行いたいジョブ/ネットを含むフレームが生成されていない場合、そのフレームが生成されるまでリクエストを待つことが出来る限界日時。 一時停止、スキップ、起動時刻変更リクエストのみ表示。

項目	内容
解除予定日付	ジョブ/ネット/フレームの一時停止解除を行う予定日時。 一時停止リクエスト(操作指示：一時停止解除、一時停止指定/解除)のみ表示。
起動予定時刻	ジョブ/ネットを起動させる予定時刻を変更する時刻。 起動時刻変更リクエストのみ表示。
遅延監視予定時刻	ジョブ/ネットを遅延監視(開始時刻)する予定時刻を変更する時刻。 起動時刻変更リクエストのみ表示。
ブック名	起動するランブック名。 ランブック実行リクエストのみ表示。
コマンドシーケンス	起動するコマンドシーケンス。 コマンド実行リクエストのみ表示。
ジョブ操作指示名	一時停止、スキップ、起動時刻変更リクエストの操作分類。 "一時停止指定": ジョブ/ネット/フレームの一時停止指定 "一時停止解除": ジョブ/ネット/フレームの一時停止解除 "一時停止指定/解除": ジョブ/ネット/フレームの一時停止指定/解除 "スキップ指定": ジョブ/ネット/フレームのスキップ指定 "スキップ解除": ジョブ/ネット/フレームのスキップ解除 "起動時刻変更": ジョブ/ネットの起動時刻変更 "起動時刻変更+遅延監視時刻変更": ジョブ/ネットの起動時刻変更および遅延監視時刻変更
運用日付	一時停止(解除)、スキップ(解除)、起動時刻変更および遅延監視時刻変更対象のジョブ/ネット/フレームの運用日付。 一時停止、スキップ、起動時刻変更リクエストのみ表示。
システム名	一時停止(解除)、スキップ(解除)、起動時刻変更および遅延監視時刻変更対象のジョブ/ネット/フレームが属するシステム名。 一時停止、スキップ、起動時刻変更リクエストのみ表示。
フレーム名	一時停止(解除)、スキップ(解除)対象のフレーム名、または一時停止(解除)、スキップ(解除)、起動時刻変更および遅延監視時刻変更対象のジョブ/ネットが属するフレーム名。 一時停止、スキップ、起動時刻変更リクエストのみ表示。
ネット名	一時停止(解除)、スキップ(解除)、起動時刻変更および遅延監視時刻変更対象のネット名、または対象のジョブが属するネット名。 一時停止、スキップ、起動時刻変更リクエストのみ表示。

項目	内容
	表示。
ジョブ名	一時停止(解除)、スキップ(解除)、起動時刻変更および遅延監視時刻変更対象のジョブ名。 一時停止、スキップ、起動時刻変更リクエストのみ表示。
実行結果	リクエストに対する実行結果。

表 2.1-17 メッセージ区分一覧(千手の場合)

メッセージ区分	内容
"N"	千手メッセージ
"S"	システムメッセージ

表 2.1-18 メッセージ区分一覧(SNMP トラップの場合)

メッセージ区分	内容
"N"	SNMP トラップメッセージ
"S"	システムメッセージ

表 2.1-19 メッセージ区分一覧(シスログの場合)

メッセージ区分	内容
"N"	シスログメッセージ
"S"	システムメッセージ

表 2.1-20 メッセージ区分一覧(メールの場合)

メッセージ区分	内容
"N"	メールメッセージ
"S"	システムメッセージ

表 2.1-21 メッセージ種別一覧(千手の場合)

メッセージ種別	内容
"I"	通常メッセージ
"W"	警告メッセージ
"E"	エラーメッセージ
"R"	応答メッセージ

表 2.1-22 メッセージ種別一覧(SNMP トラップの場合)

メッセージ種別	内容
"I"	通常メッセージ

"W"	警告メッセージ
"E"	エラーメッセージ

表 2.1-23 メッセージ種別一覧(シスログの場合)

メッセージ種別	内容
"I"	通常メッセージ
"W"	警告メッセージ
"E"	エラーメッセージ

表 2.1-24 メッセージ種別一覧(メールの場合)

メッセージ種別	内容
"I"	通常メッセージ
"E"	エラーメッセージ

表 2.1-25 メッセージ種別一覧(内部イベントの場合)

メッセージ種別	内容
"I"	通常メッセージ
"E"	エラーメッセージ

表 2.1-26 タグキー一覧(千手の場合)

メッセージ区分	内容
"NodeMsgInfo.sequence"	シーケンス番号
"NodeMsgInfo.msgId"	メッセージ ID
"NodeMsgInfo.level"	メッセージ種別
"NodeMsgInfo.date"	発生日
"NodeMsgInfo.time"	発生時刻
"NodeMsgInfo.nodeId"	発生元ノード ID
"NodeMsgInfo.processId"	プロセス ID
"NodeMsgInfo.msg"	メッセージ付加文言
"NodeMsgInfo.msgActionType"	対応種類
"NodeMsgInfo.mgrReceivedTime"	マネージャ到着日時
"NodeMsgInfo.mgrAction"	アクション
"NodeMsgInfo.ruleId"	メッセージルール ID
"NodeMsgInfo.ruleLevel"	表示時のメッセージ種別
"NodeMsgInfo.ruleActive"	表示時のメッセージ表示の有無
"NodeMsgInfo.ruleAlert"	表示時の警報装置への通知
"NodeMsgInfo.ruleForeColor"	表示時のメッセージ文字色
"NodeMsgInfo.ruleBackColor"	表示時のメッセージ背景色
"NodeMsgInfo.ruleNote"	メッセージの註釈
"MsgInfo.active"	メッセージ定義情報のメッセージ表示の有無
"MsgInfo.alert"	メッセージ定義情報の警報装置への通知

"MsgInfo.reserved"	メッセージ定義情報の千手定義フラグ
"MsgInfo.autoReply"	メッセージ定義情報の自動応答フラグ
"MsgInfo.autoCommand"	メッセージ定義情報の自動応答コマンドシーケンス
"MsgInfo.foreColor"	メッセージ定義情報のメッセージ文字色
"MsgInfo.backColor"	メッセージ定義情報のメッセージ背景色
"MsgInfo.bSendMail"	メッセージ定義情報のメール送信フラグ
"MsgInfo.mailAddress"	メッセージ定義情報のメール宛先アドレス
"MsgInfo.msg"	メッセージ定義情報のメッセージ内容
"NodeInfo.nodeName"	ノード名
"NodeInfo.ipAddress"	IP アドレス一覧
"NodeInfo.nodeGroupList"	ノードグループ一覧
"NodeInfo.bAnm"	モニタリング機能フラグ
"NodeInfo.bPex"	ジョブスケジュール機能フラグ
"NodeInfo.bCCM"	コンフィグレーション機能フラグ
"NodeInfo.bRBA"	ランブックオートメーション機能フラグ
"NodeInfo.agentInfo.user"	千手稼働アカウント
"NodeInfo.agentInfo.version"	千手バージョン
"NodeInfo.agentInfo.home"	千手ホームディレクトリ
"NodeInfo.agentInfo.os"	オペレーティングシステム
"NodeInfo.agentInfo.kanji_code"	千手漢字コード
"NodeInfo.agentInfo.pcb_port"	千手 PCB ポート番号
"NodeInfo.agentInfo.ftu_port"	千手 FTU ポート番号
"NodeInfo.agentInfo.long_name"	千手ロングホスト名
"MonTaskInfo.monTaskId"	監視タスク ID
"MonTaskInfo.monTaskName"	監視タスク名
"MonTaskInfo.monItemName"	監視項目名
"MonTaskInfo.monItemComment"	コメント
"MonTaskInfo.bSenjuCategoryFlag"	監視カテゴリフラグ
"MonTaskInfo.monTaskType"	監視タスクの種類
"MonTaskInfo.monTaskSpecType"	監視タスク専用種別
"MonTaskInfo.availableInfo"	OS の種類
"MonCategoryInfo.categoryName"	監視カテゴリ名
"MonExtensionInfo.extensionName"	監視エクステンション名
"MonTaskInfo.monTargetNodeId"	監視対象ノード ID
"MonTaskInfo.monTargetNodeName"	監視対象ノード名
"MonTaskInfo.probeNodeId"	プローブノード ID
"MonTaskInfo.probeNodeName"	プローブノード名
"MonCompareMethodInfo.compareMethodName"	監視結果の比較方法
"MonConditionJudgeMethodInfo.conditionJudgeMethodName"	監視結果の判定条件
"MonTaskInfo.limitValue"	異常しきい値
"MonTaskInfo.limitValueWarn"	警告しきい値
"MonTaskInfo.unitName"	単位
"MonTaskInfo.params"	パラメータ
"MonTaskInfo.commandSequence"	コマンドシーケンス

イベントビューでは、表示方法を指定する事によりイベントの絞り込みおよび一覧表示

すべきイベント項目を指定する事ができます。[表示方法]コンボボックスを選択する事で、イベントビューを任意の表示方法に変更する事ができます。また、デフォルトで用意された「{SEN マスターグループ}」に所属するユーザーは、[表示方法]コンボボックスに「{ }」で囲まれたシステム提供の表示方法を選択できます。システム提供の表示方法は、汎用的に利用可能な表示方法を提供します。

コンボボックスに表示される表示方法のうち、デフォルト表示方法として設定された表示方法には、チェックマークの付いたアイコンが表示されます(図 2.1-35)。デフォルト表示方法については、「3.2.2 ユーザーの編集」を参照して下さい。

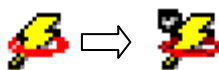


図 2.1-35 デフォルト表示方法のアイコン

表 2.1-27 システム提供の表示方法一覧

表示方法 ID	説明
{SNMPTrap メッセージ}	イベントクラスが SNMP トラップメッセージのイベントを表示します。
{カスタムメッセージ}	イベントクラスがカスタムメッセージのイベントを表示します。
{コンソールユーザー作成イベント}	イベントクラスがコンソールユーザー作成イベントのイベントを表示します。
{シスログメッセージ}	イベントクラスがシスログメッセージのイベントを表示します。
{メールメッセージ}	イベントクラスがメールメッセージのイベントを表示します。
{千手メッセージ}	イベントクラスが千手メッセージのイベントを表示します。
{千手操作リクエストすべて}	イベントクラスが千手操作リクエスト関連のイベントを表示します。
{内部イベント}	イベントクラスが内部イベントのイベントを表示します。

表示方法を変更する場合は、[変更]ボタンを押してイベントビュー表示方法リスト画面を開きます(図 2.1-36)。

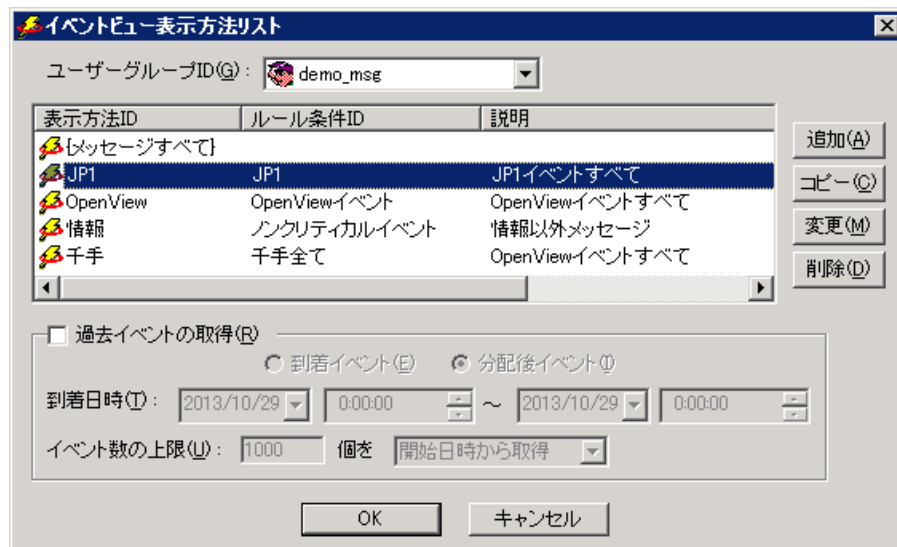


図 2.1-36 イベントビュー表示方法リスト画面

表示方法は、ユーザーグループ毎に定義されます。ユーザーグループ ID コンボボックスから選択する事により、そのグループに属す表示方法一覧が表示されます。なお、イベントビュー表示方法リスト画面には、常に“{メッセージすべて}”表示方法が表示されます。これは Senju Enterprise Navigator システムにあらかじめ用意された表示方法で、ユーザーグループへ分配されたすべてのメッセージを表示します。

表示方法を選択して[OK]ボタンを押すと、指定された表示方法にしたがってイベントビューに表示されます。

SEN コンソールへのログイン時には、現在から最大 5000 個の過去イベントを取得し、表示方法に従ってイベントビューに表示します。

日時範囲を指定し過去イベントを取得する場合は、[過去イベントの取得]チェックボックスをチェックし、[到着イベント]または[分配後イベント]を選択して、対象イベント日時範囲および取得イベント数の上限を指定します。[到着イベント]は、Administrators 役割のユーザーのみ選択できます。日時範囲には、開始日時と終了日時を指定します。日時は SEN サーバーがイベントを受信した時刻です。イベント数の上限には、1～5000 の値が指定できます。開始日時から指定したイベント数個イベントを取得する場合は”開始日時から取得”を、終了日時から過去に遡って指定したイベント数個イベントを取得する場合は”終了日時から取得”を選択して下さい。日時範囲を指定し過去イベントを表示した場合、イベントビューの[変更]ボタンの右側に表示対象日時範囲が表示されます(図 2.1-37)。なお、過去イベントの表示では、その日時範囲にあるイベントのみを表示し、新規に受信したイベントは自動的に表示されません。



過去イベント取得時の件数は、メッセージクラス以外も含めたすべてのイベントクラスが対象となります。



画面に表示される過去イベントは、ルールにより絞り込まれた結果が表示されます。

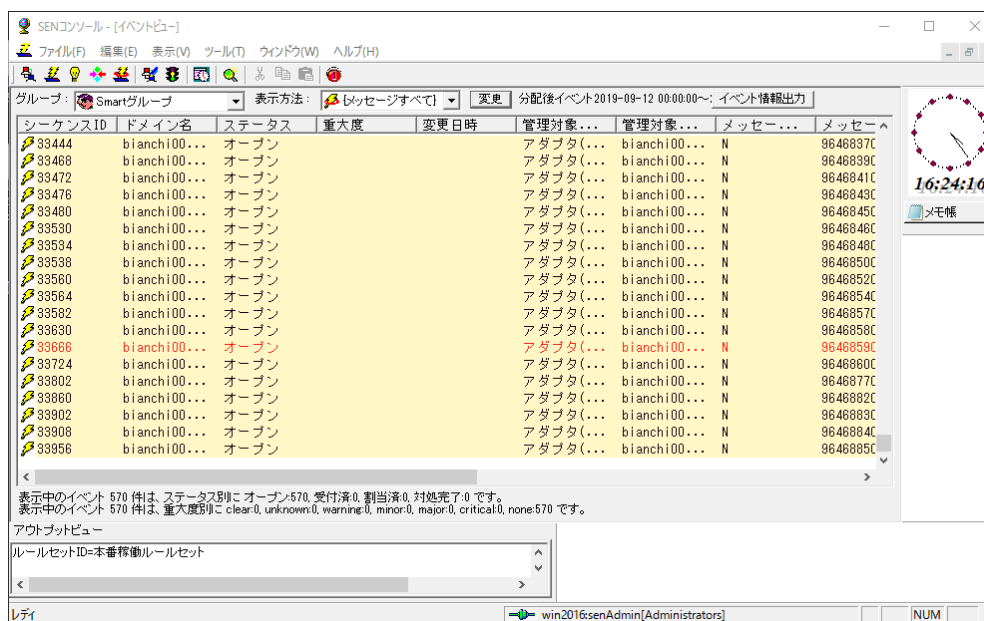


図 2.1-37 イベントビュー過去イベント表示の例

次に、表示方法の追加手順について説明します。

イベントビュー表示方法リスト画面で[追加]ボタンを押すとイベントビュー表示方法画面(図 2.1-38)が表示されます。

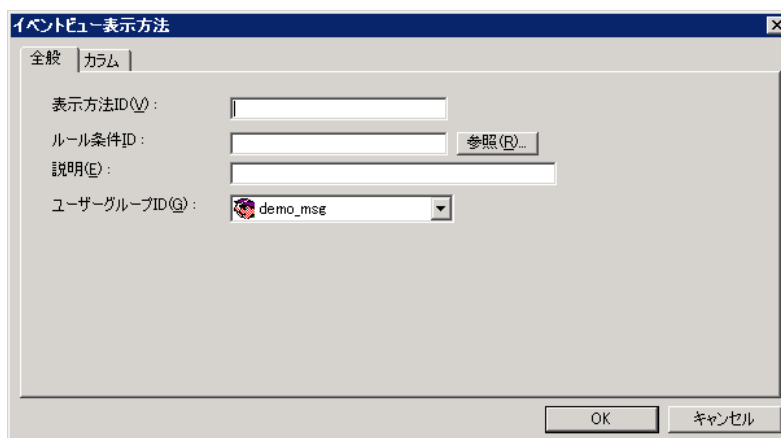


図 2.1-38 イベントビュー表示方法画面(全般タブ)

[全般]タブでは、下記項目を指定します。

表 2.1-28 イベントビュー表示方法項目一覧(全般タブ)

項目	内容	省略
表示方法 ID :	表示方法を識別する ID。SEN サーバー内でユニークである必要があります。	不可
ルール条件 ID :	ルール条件 ID を指定します。ルール条件 ID は、[参照] ボタンを押す事により、すでに定義されたルール条件から選択する事が可能です。	不可
説明 :	コメントを指定します。	可能
ユーザーグループ ID :	イベントビュー表示方法が属すユーザーグループをコンボボックスより選択します。	—

[カラム]タブを選択すると図 2.1-39 の画面が表示されます。ここではイベントビューに表示するカラムを選択します。

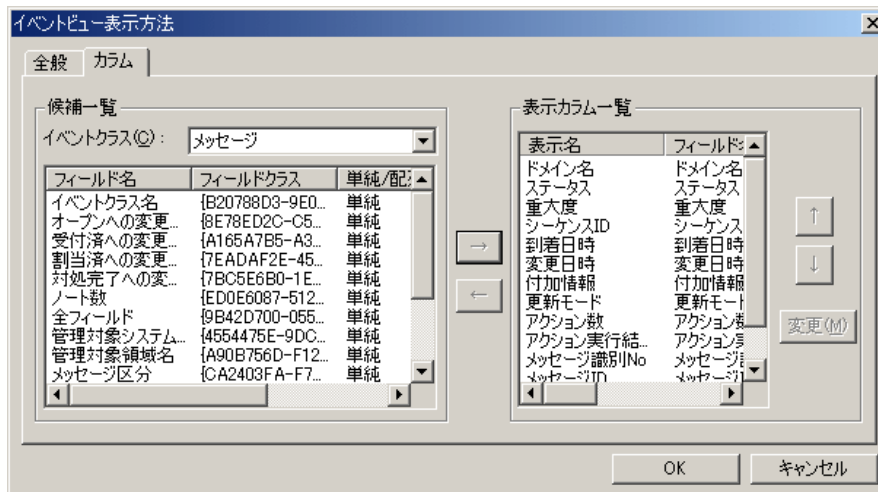


図 2.1-39 イベントビュー表示方法画面(カラムタブ)

[カラム]タブでは下記項目を指定します。

表 2.1-29 イベントビュー表示方法項目一覧(カラムタブ)

項目	内容
イベントクラス :	対象クラス種別を指定します。
候補一覧 :	イベントビューに表示するカラム候補一覧。カラムを表示させたい場合は、エントリーを選択して [→] ボタンを押します。 候補一覧には、フィールド名、フィールドクラス、単純/配列、説明のカラムがあります。フィールド名カラムには、参照元クラスのフィールド名が表示されます。フィールドクラスカラムには、フィールドの UUID が表示されます。単純/配列カラムには、"単純"または"配列"が表示されます。フィールドの構造が単純変数の場合は"単純"が、配列

	変数の場合は”配列”が表示されます。説明カラムには、コメントが表示されます。
表示カラム一覧：	表示するカラム一覧。↑↓矢印でカラムの表示順を変更できます。 表示カラム一覧には、表示名、フィールド名、フィールドクラス、単純/配列、説明のカラムがあります。表示名カラムには、イベントビューに表示する際のカラム名が表示されます。その他カラムは、候補一覧と同じです。

表示カラムの詳細内容を変更する場合には、表示カラム一覧からエントリーを選択し、[変更]ボタンを押します。リストカラム画面(図 2.1-40)では下記項目を指定します。

表 2.1-30 リストカラム項目一覧

項目	内容	省略
表示名：	カラムタイトルに表示させる名称を指定します。	不可
カラム幅：	カラム幅を指定します。単位はピクセルになります。	不可
フォーマット：	カラムの表示フォーマットを指定します。文字または数値のいずれかを指定できます。数値を指定した場合、フィールドの表示は右寄せになります。また、ソートする際のソート順は数値として比較します。文字を指定した場合は、フィールドの表示は左寄せになります。ソートの際のソート順は文字として比較します。	—

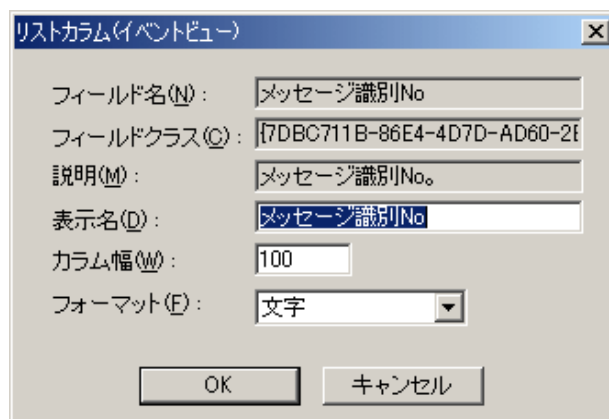


図 2.1-40 リストカラム画面



例外として、アイコン付きで表示される最も左のカラムは、フォーマットに数値を指定した場合も、左寄せで表示されます。ただし、ソート順は数値として比較します。

次に、表示方法のコピー手順について説明します。イベントビュー表示方法リスト画面(図 2.1-36)で、コピー元の表示方法エントリーを選択し、[コピー]ボタンを押すと、イベントビュー表示方法画面(図 2.1-38)が表示されます。表示方法 ID の変更を行い [OK]ボ

タンを押すと、表示方法のコピーが行われます。

次に、表示方法の表示内容変更手順について説明します。イベントビュー表示方法リスト画面(図 2.1-36)で、変更対象の表示方法エントリーを選択し、[変更]ボタンを押すと、イベントビュー表示方法画面(図 2.1-38)が表示されます。追加の場合と同様の手順で、[全般]タブおよび[カラム]タブの内容を変更できますが、[全般]タブの表示方法 ID の変更を行う事はできません。[OK]ボタンを押すと、表示方法の表示内容変更が反映されます。

次に、表示方法の削除手順について説明します。イベントビュー表示方法リスト画面(図 2.1-36)で、削除対象の表示方法エントリーを選択し、[削除]ボタンを押すと、表示方法削除確認画面(図 2.1-41)が表示されますので、[はい]ボタンを押します。複数の表示方法を同時に削除する場合は、イベントビュー表示方法リスト画面で Ctrl キーまたは Shift キーにより複数エントリーを選択して[削除]ボタンを押します。

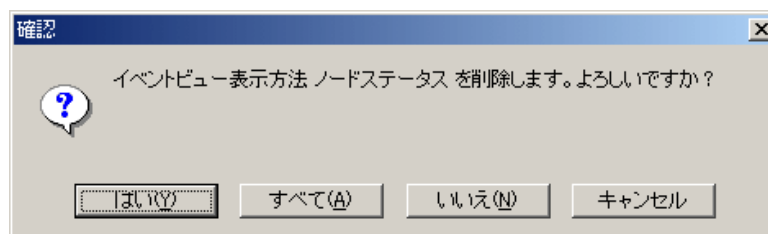


図 2.1-41 表示方法削除確認画面



"{メッセージすべて}"表示方法のコピー、変更、削除は行えません。イベントビュー表示方法リスト画面(図 2.1-36)で、表示方法に"{メッセージすべて}"が選択されている場合は、[コピー]ボタン、[変更]ボタン、[削除]ボタンは不活性となり、表示方法のコピー、表示内容変更、削除は行えません。

イベントビューに保持されるイベント数について

イベントビューに表示されるイベントは SEN コンソール内のメモリに蓄えられますが、イベントを蓄積し続けていくと、自動的に過去のイベントがイベントビューから消去されます。これについては、以下の基準に従います。

表 2.1-31 イベントビューに保持されるイベント数

項目	内容
イベントステータスが対処完了でない（オープン、受付済、割当済）メッセージクラスに属するイベント	イベントビューにはグループ毎に少なくとも 3000 件保持します。3000 件を超えると過去のイベントから削除する処理が働きます。
それ以外のイベント(対処完了ステータスのメッセージクラスイベント、メッセージクラス以外のイベント)	イベントビューにはグループ毎に少なくとも 1500 件保持します。1500 件を超えると過去のイベントから削除する処理が働きます。

コンテキストメニューの操作

イベントビューにおける各イベントのコンテキストメニューから実行可能な操作について説明します。

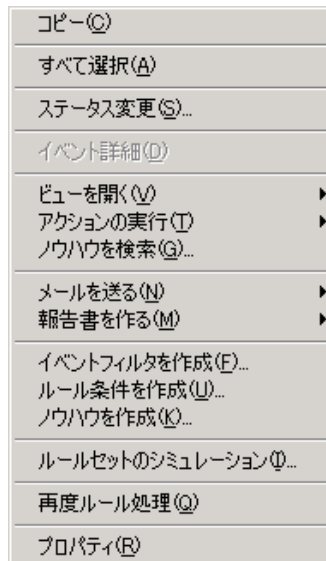


図 2.1-42 イベントビューのコンテキストメニュー

<コピー>

選択されたイベントをクリップボードにコピーします。

<すべて選択>

イベントビューに表示されているイベントをすべて選択状態にします。

<ステータス変更>

イベントビューに表示されているイベントのステータス変更およびノートの記事を行います。イベントエントリーを選択し、コンテキストメニューから[ステータス変更]を選択すると、イベントステータス変更画面(図 2.1-43)が表示されます。

図 2.1-43 イベントステータス変更画面

[イベント変更]チェックボックスをチェックし、ステータスの変更を行います。ステータスには以下の 4 種類が存在します。[ステータス]コンボボックスから変更する値を選択します。

表 2.1-32 ステータス項目一覧

項目	内容
オープン	イベントが新規に発生した状態を指します。デフォルトではイベントを受信した直後はこの値がセットされます。
受付済	発生したイベントが認知され、受け付けられた状態を指します。
割当済	受け付けられたイベントが担当者に割り当てられた状態を指します。
対処完了	発生したイベントについて対処が完了している状態を指します。

[ノート記入]チェックボックスをチェックし、ノートの記入を行います。ノートの記入では、下記項目を指定します。

表 2.1-33 ノート記入項目一覧

項目	内容	省略
記入者:	ノート記入者の名前を指定して下さい。	不可
ノート:	ステータス変更の理由、対処履歴などの内容を自由に記入して下さい。	可能

なお、ノート記入時には下記情報が同時に保存されます。

表 2.1-34 ノート記入時に保存される情報

項目	内容
記入日時	ノートを記入した日時が保存されます。日時は、SEN サーバーのマシントイムです。
ユーザーID	ノートを記入したユーザーのユーザーID が保存されます。
記入前ステータス	ノート記入前のイベントステータスが保存されます。ノート記入前のイベントステータスとは、イベントステータス変更画面を開いた時のイベントステータスを表します。
記入後ステータス	ノート記入後のイベントステータスが保存されます。

[プロパティ]ボタンを押すと、イベントのプロパティ画面を表示することができます。イベントのプロパティ画面については、<プロパティ>の項を参照して下さい。

[OK]ボタンを押す事で、イベントステータス変更とノート記入が行われます。

イベントステータスを変更すると、イベントステータス変更イベントが生成されます。ただし、オープンからオープンのように同じステータスに変更した場合には、イベントステータス変更イベントは生成されません。

ノートが記入されたイベントはアイコンが変化します(図 2.1-44)。



図 2.1-44 ノートが記入されたアイコン

複数イベントに対し、同時にイベントステータス変更とノート記入を行う事が可能です。イベントビューのイベントエントリーを Shift キーや Ctrl キーを使用し複数選択し、コンテキストメニューから[ステータス変更]を選びます。

<イベントの詳細>

現在、この機能はサポートされていません。

<ビューを開く>

イベントに関連付けられたメインビューまたは外部のビュー(Web ブラウザ等)を開きます。イベントエントリーを選択し、コンテキストメニューから[ビューを開く]を選び、サブメニューからビュー名称を選択すると、そのイベントに関連付けられたビューを開きます。

イベントに関連付けられたビューが存在しない場合は、メニューは不活性となります。

イベントとビューとの関連付けはルールアクションとして行います。詳細は、「**5.1.6 ルールの編集**」を参照して下さい。



複数のイベントを同時に選択し、かつ各イベントに割り当てられたビュー名称がイベント間で重複する場合には、先に選択したイベントに関連付けられたビューを開きます。

<アクションの実行>

イベントに関連付けられたアクションを実行します。イベントエントリーを選択し、コンテキストメニューから[アクションの実行]を選び、サブメニューからアクション名を選択すると、そのイベントに関連付けられたアクションを実行します。

イベントに関連付けられたアクションが存在しない場合や複数のイベントを選択した場合には、メニューは不活性となります。

イベントとアクションとの関連付けはルールアクションとして行います。詳細は、

「5.1.6 ルールの編集」を参照して下さい。

メインペインアイテムに関連付けられたアクションを選択するとアクションを実行するかどうかの確認ダイアログが表示されます。(図 2.1-45)

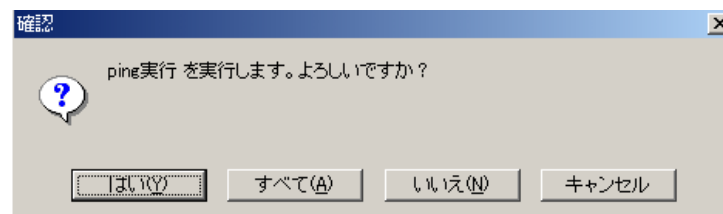


図 2.1-45 アクション実行確認ダイアログ

[はい]あるいは[すべて]を選択する事により、アクションが実行され結果が別ウインドウに表示されます。[いいえ]あるいは[キャンセル]を選択するとアクションは実行されません。(図 2.1-46)

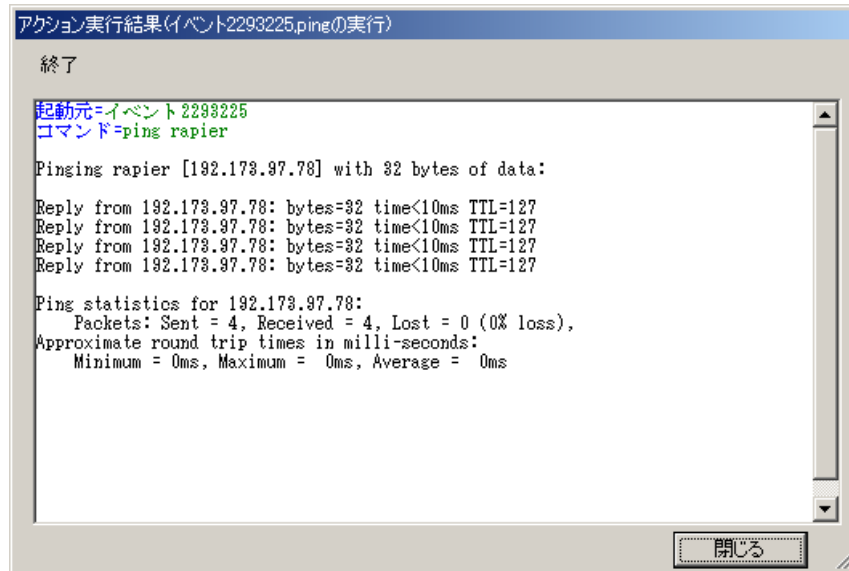


図 2.1-46 アクションの実行結果

<ノウハウを検索>

イベントのプロパティを検索キーにし、ノウハウ作成時に設定した検索条件にマッチしたノウハウをノウハウビューに表示します。ノウハウの作成については「2.1.6 イベントビュー」の<ノウハウの作成>を参照して下さい。ノウハウビューについては「2.1.7 ノウハウビュー」を参照ください。

<メールを送る>

イベントに関連付けられたメールテンプレートを選択するとメーカーが起動します。イベントエントリーを選択し、コンテキストメニューから[メールを送る]を選び、サブメニューからメールのテンプレート名を選択すると、テンプレートの内容が本文に挿入された新規のメールが作成されます(図 2.1-47)。

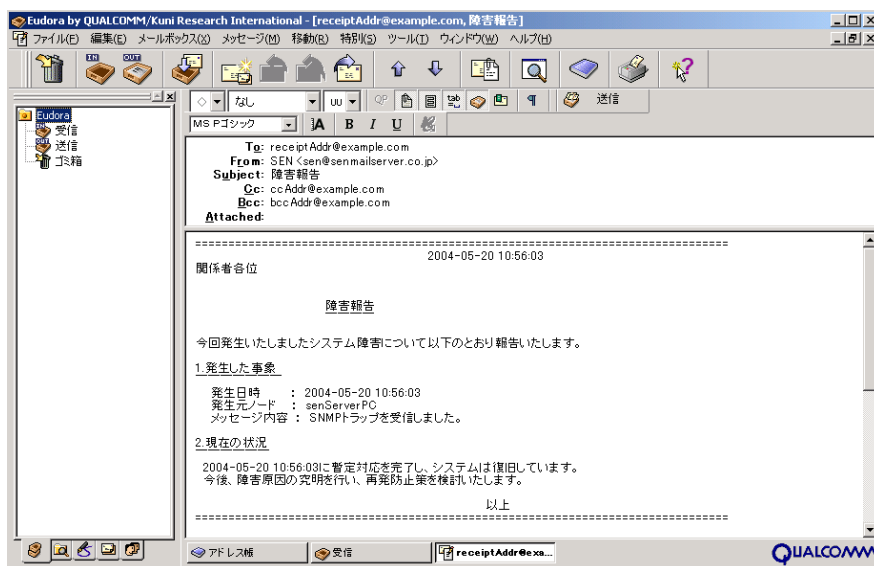


図 2.1-47 作成メール例

イベントに関連付けられたテンプレートが存在しない場合は、メニューは不活性となります。

イベントとテンプレートの関連付けはテンプレート作成する時に設定します。詳細は別冊の「インストールガイド」の「6.2.7 メール自動作成機能のテンプレート」を参照して下さい。

< 報告書を作る >

イベントに関連付けられた報告書テンプレートを選択するとテキストエディタが起動します。イベントエントリーを選択し、コンテキストメニューから[報告書を作る]を選び、サブメニューから報告書のテンプレート名を選択すると、テンプレートの内容から報告書を作成しテキストエディタで表示されます(図 2.1-48)。

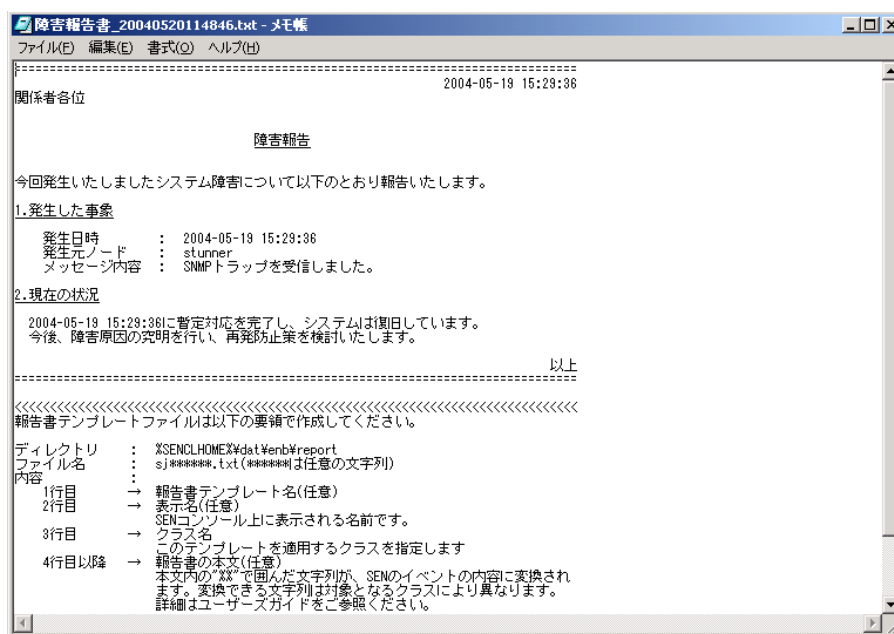


図 2.1-48 作成報告書例

イベントに関連付けられたテンプレートが存在しない場合は、メニューは不活性となります。

イベントとテンプレートの関連付けはテンプレート作成する時に設定します。詳細は別冊の「インストールガイド」の「6.2.8 報告書自動作成機能のテンプレート」を参照して下さい。

< イベントフィルタの作成 >

イベントフィルタを作成します。[イベントフィルタの作成]を選択すると、説明、ユーザーグループ ID、発信元ドメイン、発信元ノード ID 等があらかじめ指定されたイベントフィ

ルタ画面が表示されます。

詳細は「2.1.9 イベントフィルタビュー」を参照して下さい。

<ルール条件を作成>

ルール条件を作成します。[ルール条件を]を選択すると、イベントクラスがあらかじめ選択された簡易ルール条件作成画面が表示されます(図 2.1-49)。



図 2.1-49 簡易ルール条件作成画面

表 2.1-35 簡易ルール条件作成項目一覧

項目	内容	省略
ID :	ルール条件 ID を指定します。	不可
説明 :	コメントを指定します。	可能
ユーザーグループ ID :	ルール条件が所属するグループの ID をコンボボックスより選択します。	—
候補一覧 :	条件にしたいエントリーを選択して [→] ボタンを押します。 候補一覧には、プロパティ名と値の 2 つの列があります。プロパティ名の列にはイベントビューに表示される列名が表示されます。値の列にはイベントビューに表示されていたイベントの値が表示されます。	—
条件を設定するプロパティ :	候補一覧から条件として設定した結果が表示されます。条件を設定するプロパティには、プロパティ名、条件、値の 3 つの列があります。条件の列には "指定された値以上 (>=) "、"指定された値より大きい (>) "、"指定された値と等しい (==) "、"指定された値より小さい (<) "、"指定された値以下 (<=) "、"指定された文字を含む"、"指定された文字を含まない" が表示されます。その他列は、候補一覧と同じです。	可能

ルール条件を作成する場合には、候補一覧からエントリーを選択し、[→]ボタンを押します。プロパティ条件画面(図 2.1-50)では下記項目を指定します。

表 2.1-36 プロパティ条件項目一覧

項目	内容	省略
条件 :	条件の比較方法をコンボボックスより選択します。比較対象の値はイベントビューに表示されていたメッセージの値が指定されます。	可能

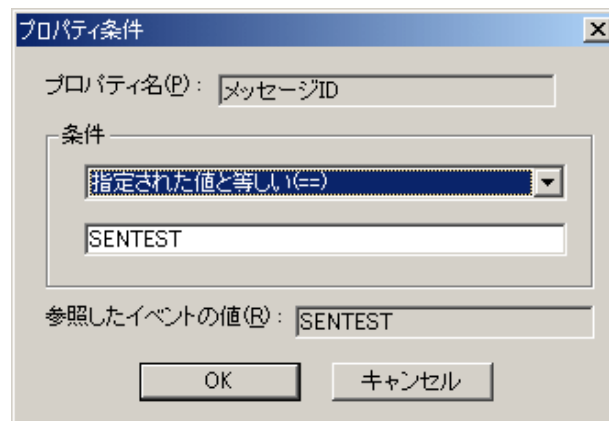


図 2.1-50 プロパティ条件画面

ルール条件を作成し簡易ルール作成画面(図 2.1-49)にて[OK]を押すと、作成した内容が反映された状態でルール条件画面が表示されるので[OK]を押します。ルール条件画面については「**5.1.4 ルール条件の編集**」を参照して下さい。

<ノウハウの作成>

ノウハウを作成します。[ノウハウの作成]を選択するとノウハウ作成画面が表示されます(図 2.1-51)。選択したイベントエントリーの詳細が画面下に表示されます。

フィールド名	値
イベントクラス名	千手メッセージ
ユーザーグループID	Smartグループ
到着日時	2013-02-15 11:48:41
ドメイン名	dota
管理対象システム名	アダプタ(千手)
管理対象領域名	dota
メッセージ区分	N
メッセージ識別No	1779300

図 2.1-51 ノウハウ作成画面

表 2.1-37 ノウハウ作成項目一覧

項目	内容	省略
ID :	ノウハウの ID を指定します。	不可
説明 :	コメントを指定します。	可能
ユーザーグループ ID :	ノウハウが所属するグループの ID をコンボボックスより選択します。	—
分類 :	ノウハウの分類を指定します。	不可
ノウハウ :	イベントに対するノウハウを指定します。	不可

[イベントのプロパティ]ボタンを押すと、イベントのプロパティ画面を表示することができます。イベントのプロパティ画面については、<プロパティ>の項を参照して下さい。

[OK]ボタンを押す事で、ノウハウの新規作成が行われます。ここで作成したノウハウはノウハウビューにて一覧表示されます。ノウハウビューについては「[2.1.7 ノウハウビュー](#)」を参照して下さい。

[検索条件]タブ を選択するとノウハウ検索条件設定画面が表示されます (図 2.1-52)。



図 2.1-52 ノウハウ検索条件設定画面

表 2.1-38 ノウハウ検索条件設定項目一覧

項目	内容	省略
候補一覧：	条件にしたいエントリーを選択して [→] ボタンを押します。 候補一覧には、プロパティ名と値の2つのカラムがあります。プロパティ名のカラムにはイベントビューに表示されるカラム名が表示されます。値のカラムにはイベントビューに表示されていたイベントの値が表示されます。	—
条件を設定するプロパティ：	候補一覧から条件として設定した結果が表示されます。 条件を設定するプロパティには、プロパティ名、条件、値の3つのカラムがあります。条件のカラムには"指定された値以上 (>=)"、"指定された値より大きい (>)"、"指定された値と等しい (==)"、"指定された値より小さい (<)"、"指定された値以下 (<=)"、"指定された文字を含む"、"指定された文字を含まない"が表示されます。その他カラムは、候補一覧と同じです。	可能

ノウハウ検索条件を設定する場合には、候補一覧からエントリーを選択し、[→] ボタンを押します。プロパティ条件画面(図 2.1-53)では下記項目を指定します。

表 2.1-39 プロパティ条件項目一覧

項目	内容	省略
条件：	条件の比較方法をコンボボックスより選択します。比較対	可能

	象の値はイベントビューに表示されていたメッセージの値が指定されます。	
--	------------------------------------	--

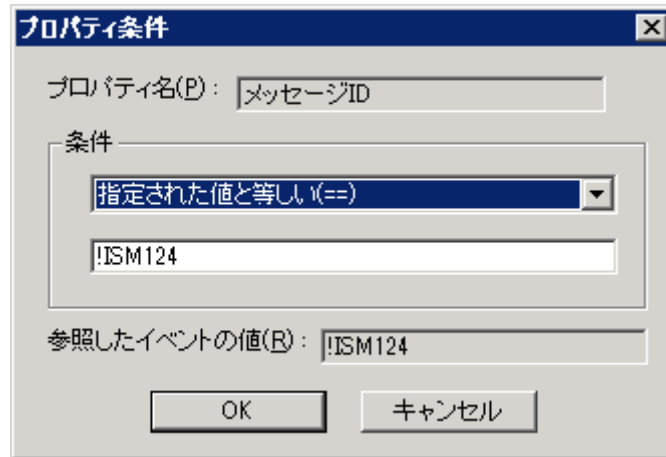


図 2.1-53 プロパティ条件画面

ノウハウ作成画面(図 2.1-51) 或いはノウハウ検索条件設定画面(図 2.1-52)にて [OK]ボタンを押す事で、ノウハウの新規作成が行われます。ここで作成したノウハウはノウハウビューにて一覧表示されます。ノウハウビューについては「**2.1.7 ノウハウビュー**」を参照して下さい。

<ルールセットのシミュレーション>

イベントに対してルールセットのシミュレーションを実行します。

イベントビューからイベントエントリーを選択し、コンテキストメニューから[ルールセットのシミュレーション]を選択すると、ルールセットシミュレーション画面(図 2.1-54)が表示されます。選択したイベントエントリーのシーケンス ID が画面の中ほどに表示されます。

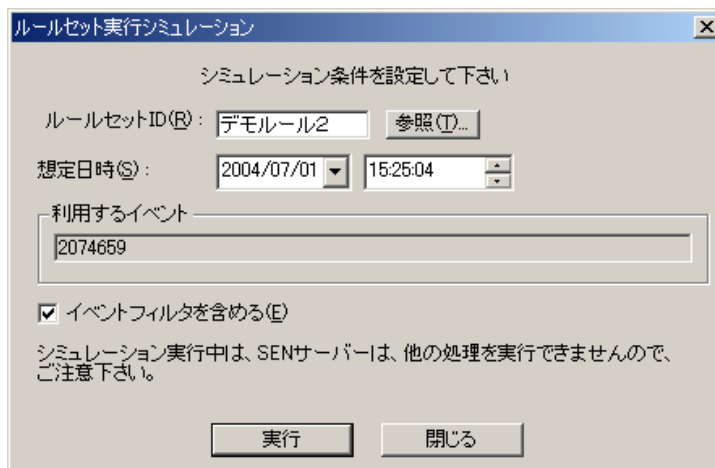


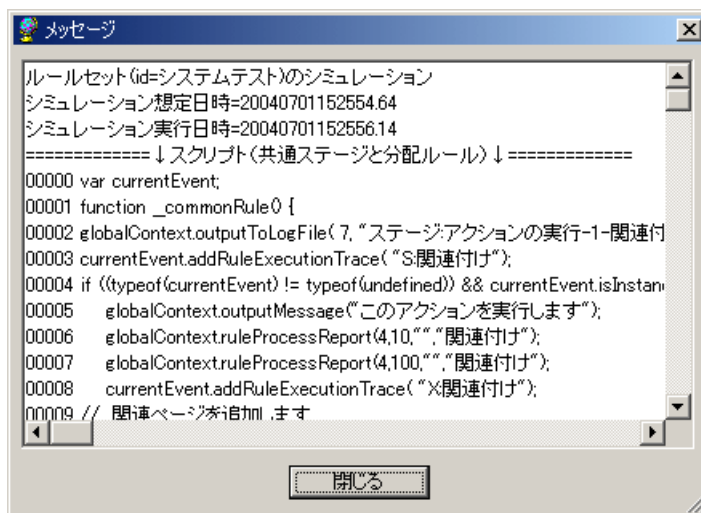
図 2.1-54 ルールセット実行シミュレーション画面

表 2.1-40 ルールセット実行シミュレーション項目一覧

項目	内容	省略
ルールセット ID :	シミュレーションを適用するルールセット ID を指定します。定義済みの一覧から選択する場合は[参照]ボタンを押します。デフォルトは最後に保存されたルールセット ID となります。	不可
想定日時 :	シミュレーション実行を想定する日時を指定します (この日時にシミュレーションが実行されるという意味ではありません)。	—
イベントフィルタを含めるチェックボックス :	イベントフィルタの設定が反映された状態でシミュレーションする場合はチェックします。イベントフィルタの設定を無効にする場合は外します。デフォルトは無効です。	—

上記を指定後、実行ボタンを押すと、ルールセットシミュレーション結果画面(図 2.1-55)が表示されます。

複数のイベントを対象にシミュレーションを実行する場合は、イベントビューから Shift キーや Ctrl キーを使用して複数のイベントエントリーを選択してから同様にコンテキストメニューで[ルールセットシミュレーション]を選びます。



```

ルールセット (id=システムテスト)のシミュレーション
シミュレーション想定日時=20040701152554.64
シミュレーション実行日時=20040701152556.14
===== ↓ スクリプト (共通ステージと分配ルール) ↓ =====
00000 var currentEvent;
00001 function _commonRule0 {
00002   globalContext.outputToFile( 7, "ステージ:アクションの実行-1-関連付
00003   currentEvent.addRuleExecutionTrace( "S:関連付け");
00004   if ((typeof(currentEvent) != typeof(undefined)) && currentEvent.isInstan
00005     globalContext.outputMessage("このアクションを実行します");
00006     globalContext.ruleProcessReport(4,10,"", "関連付け");
00007     globalContext.ruleProcessReport(4,100,"", "関連付け");
00008     currentEvent.addRuleExecutionTrace( "X:関連付け");
00009 // 関連ページを追加します
  
```

図 2.1-55 ルールセットシミュレーション結果画面

<再度ルール処理>

イベントビューで選択したイベントに対して、再度アクションを実行します。

イベントビューからイベントエントリーを選択し、コンテキストメニューから[再度ルール処理]を選択すると、再度ルール処理確認画面(図 2.1-56)が表示されます。

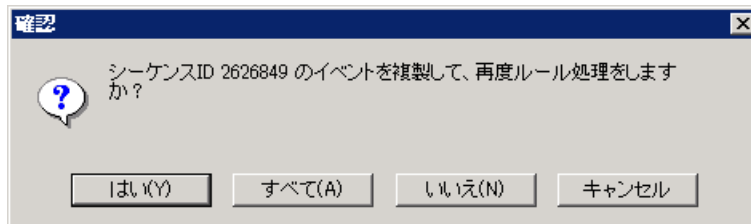


図 2.1-56 再度ルール処理確認画面

現在有効になっているルールセットを再度実行します。[いいえ]あるいは[キャンセル]を選択すると再度ルール処理は実行されません。

<プロパティ>

各イベントがもつ属性(プロパティ)情報を参照します。プロパティは6つのカテゴリが存在し、それぞれのカテゴリには以下の情報が入ります。

[全般]タブでは、イベントの属性およびその値の一覧を表示します(図 2.1-57)。属性は、イベントクラスにより異なります。なお、イベントビュー画面で表示カラムを絞っていても、この画面ですべてのイベント属性を確認できます。

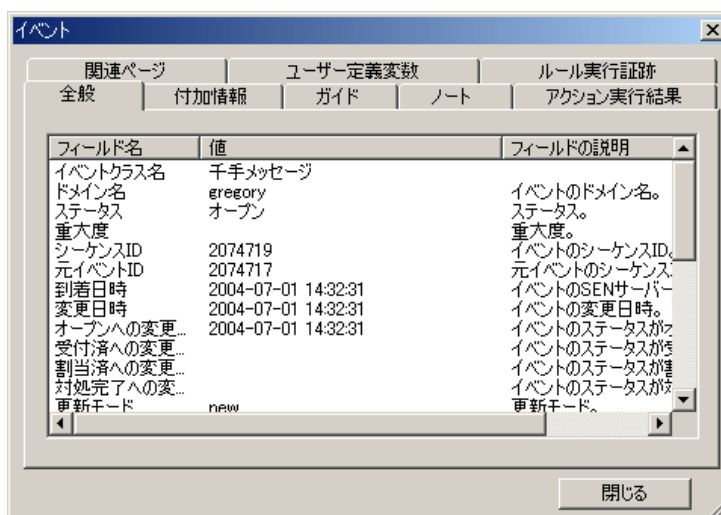


図 2.1-57 イベントプロパティ画面 (全般タブ)

[ユーザー定義変数]タブでは、イベントに対して付加したユーザー定義変数を表示します(図 2.1-58)。ユーザー定義変数はルールの中で記述されます。ルールからのユーザー

ザー定義変数の設定方法については、「5.2.1 ルール内で参照可能な変数」を参照して下さい。

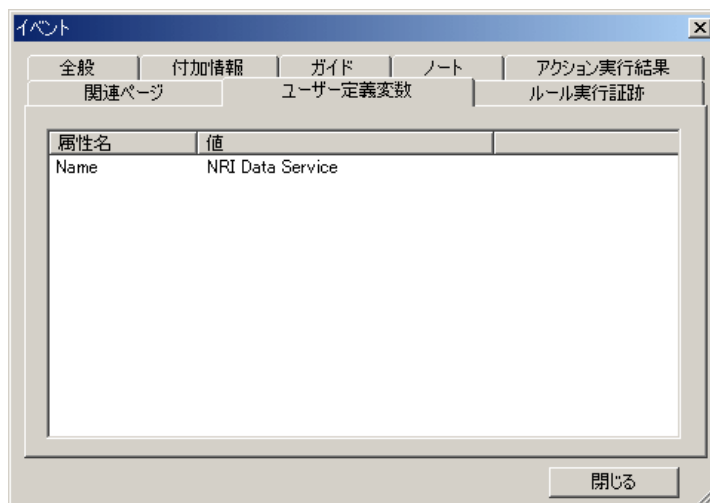


図 2.1-58 イベントプロパティ画面 (ユーザー定義変数タブ)

[関連ページ]タブでは、イベントに対する関連ビュー一覧を URL 形式で表示します (図 2.1-59)。イベントと関連ビューとの関連付けはルールの中で記述します。ルールからの関連ページの設定方法については、「5.2.1 ルール内で参照可能な変数」を参照して下さい。

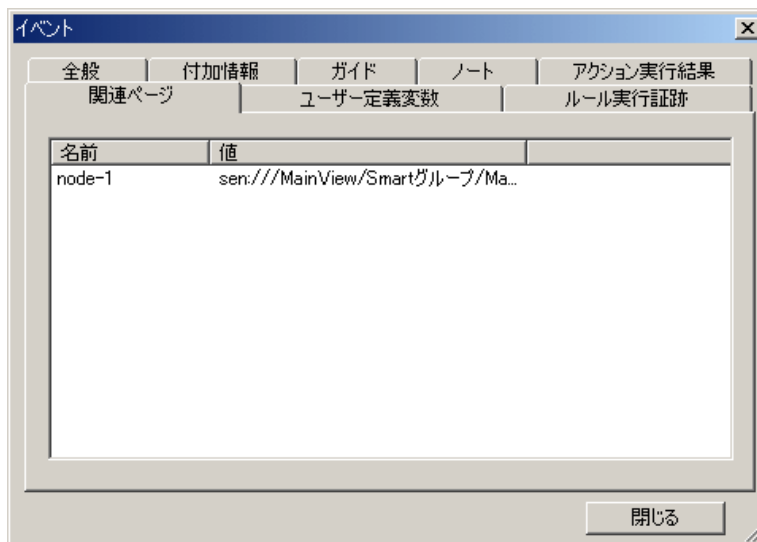


図 2.1-59 イベントプロパティ画面 (関連ページタブ)

[付加情報]タブでは、イベントに対して付加したユーザー定義付加情報を表示します (図 2.1-60)。ユーザー定義付加情報はルールの中で記述されます。ルールからの付加情報の設定方法については、「5.2.1 ルール内で参照可能な変数」を参照して下さい。

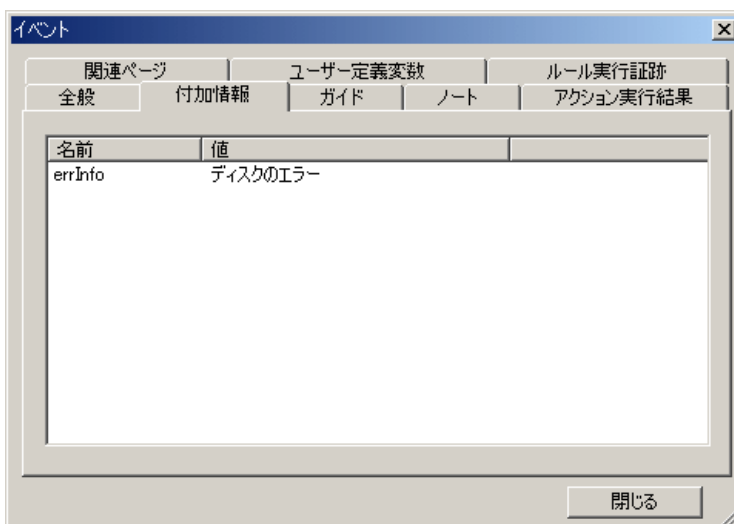


図 2.1-60 イベントプロパティ画面(付加情報タブ)

[ガイド]タブでは、イベントに対して付加したガイド情報を表示します(図 2.1-61)。ガイド情報はルールの中で記述されます。ルールからのガイド情報の設定方法については、「**5.2.1 ルール内で参照可能な変数**」を参照して下さい。

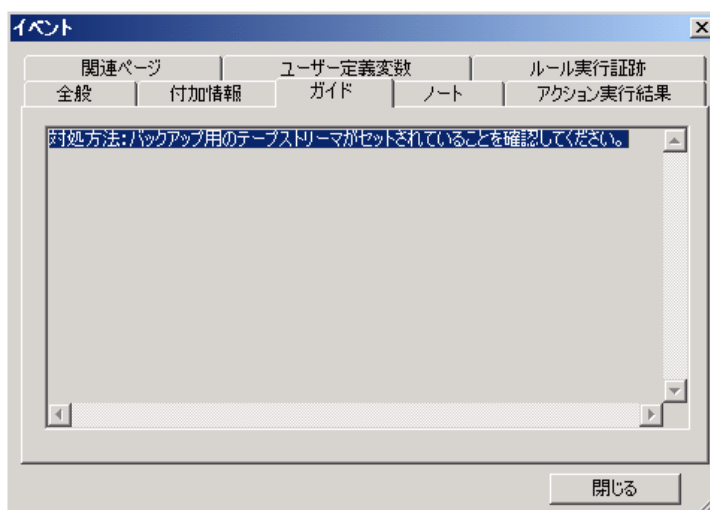


図 2.1-61 イベントプロパティ画面(ガイドタブ)

[ノート]タブでは、イベントに対して記入したノート一覧を表示します(図 2.1-62)。ノートはイベントビューにて記入します。ノートの記入方法については、「**コンテキストメニューの操作<ステータス変更>**」を参照して下さい。

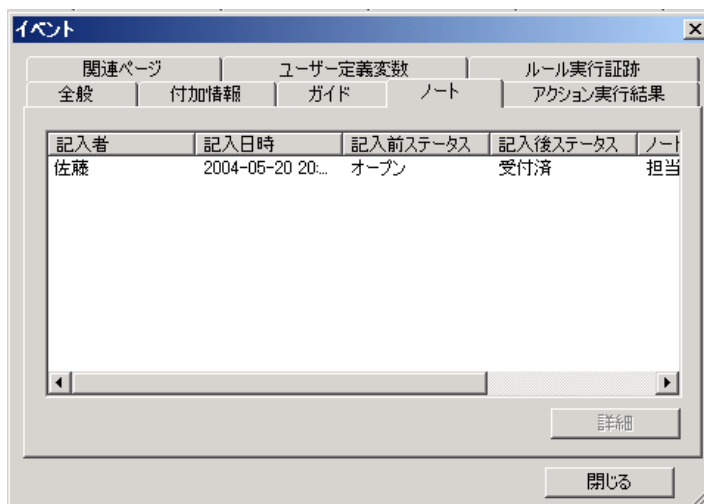


図 2.1-62 イベントプロパティ画面(ノートタブ)

【アクション実行結果】タブではイベントに関連付けられたアクションの実行結果一覧を表示します。アクションの実行結果を選択すると、そのアクションの標準出力・標準エラーを画面下に表示します(図 2.1-63)。

アクション実行結果の一覧には、アクション ID、アクション名、アクション種別、状態、開始時刻、終了時刻、実行したユーザー、終了コードのカラムがあります。アクション ID のカラムにはアクションに割り振られた ID が表示されます。アクション名のカラムにはコンテキストメニューに表示されたアクション名が表示されます。アクション種別のカラムには"SEN サーバーによる実行"が表示されます。状態のカラムには"実行中"、"切断"、"終了"が表示されます。開始時刻のカラムにはアクションが開始した時間が表示されます。終了時刻のカラムにはアクションが終了した時間が表示されます。実行したユーザーのカラムにはアクションを実行したユーザー名が表示されます。終了コードカラムにはアクション実行に関連付けられているコマンドシーケンスの終了コードが表示されます。

イベントとアクションとの関連付けはルールアクションとして行います。詳細は、

「5.1.6 ルールの編集」を参照して下さい。

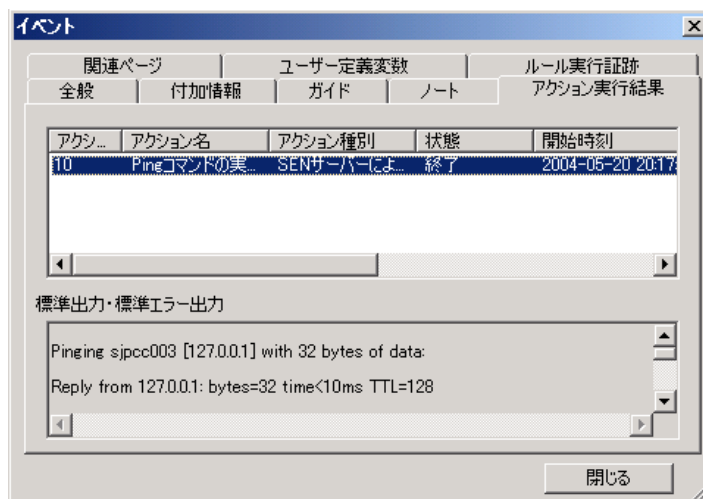


図 2.1-63 イベントプロパティ画面（アクション実行結果タブ）

[ルール実行証跡]タブでは、ルールセットで処理されたイベントの各ルール ID ごとの実行証跡を表示します。選択しているイベントが処理されたルールすべてが表示されます(図 2.1-64)。

[ルール実行証跡]タブでは実行状態を"S"、"X"、"E"で表示し、セミコロン区切りでルール ID を表示します。"S"は開始、"X"は実行中、"E"は終了を表します。

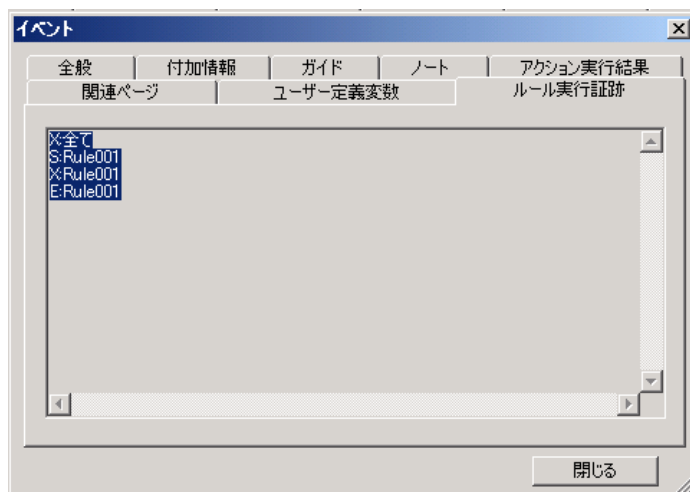


図 2.1-64 イベントプロパティ画面 (ルール実行証跡タブ)

イベントのダブルクリック

イベントビューでイベントのダブルクリックを行った場合は、イベントに関連付けられたビューへジャンプ(ハイパーリンク)します。これはイベントエントリーを選択し、コンテキストメニューから[ビューを開く]を選択した場合と同じ動作です。

関連付けられたビューが存在しないイベントをダブルクリックした場合は、何も動作はしません。デフォルトジャンプ先は、ルールの"addRelPage"、"addRelPage2"にて指定できます。詳細は「**5 ルール作成ガイド**」を参照して下さい。

また、複数の関連付けられたビューがある場合は、一番先頭にある関連ページにジャンプします。

イベントビューに表示中のイベント数表示

イベントビューは現在表示中のイベントを、ステータス別、重大度別に何件あるか表示します(図 2.1-65)。

The screenshot shows the SEN console interface with a table of events. The table has columns for シーケンスID, ドメイン名, ステータス, 重大度, 変更日時, 管理対象..., 管理対象..., メッセージ..., and メッセージ... The events listed are all 'オープン' (Open) with a severity of 'アダプタ(...)' and a status of 'N'. The summary box at the bottom, circled in red, contains the following text:

表示中のイベント 3334 件は、ステータス別にオープン:3334、受け済0、割当済0、対処完了0です。
表示中のイベント 3334 件は、重大度別に clear:0、unknown:0、warning:0、minor:0、critical:0、none:3334 です。

図 2.1-65 現在表示しているイベントのイベント数表示例

イベントビューのソーティング

イベントビューの各イベント表示カラムタイトルをクリックする事で、そのカラムをキーにイベントをソートします。ソート順の昇順・降順の切り替えが可能です。到着順に並べ変えるときは、イベント表示カラムのコンテキストメニューから[到着順に並べる]を選択します。

図 2.1-66 はメッセージ ID の昇順でソートした例です。

新規に到着したイベントと連動してイベントビューをスクロールさせる場合は、スクロールボックスをスクロールバーの一番下に移動して下さい。



ウィンドウのリサイズを行うと、スクロールボックスの位置が移動します。新規に到着したイベントと連動してイベントビューをスクロールさせる場合には、注意して下さい。

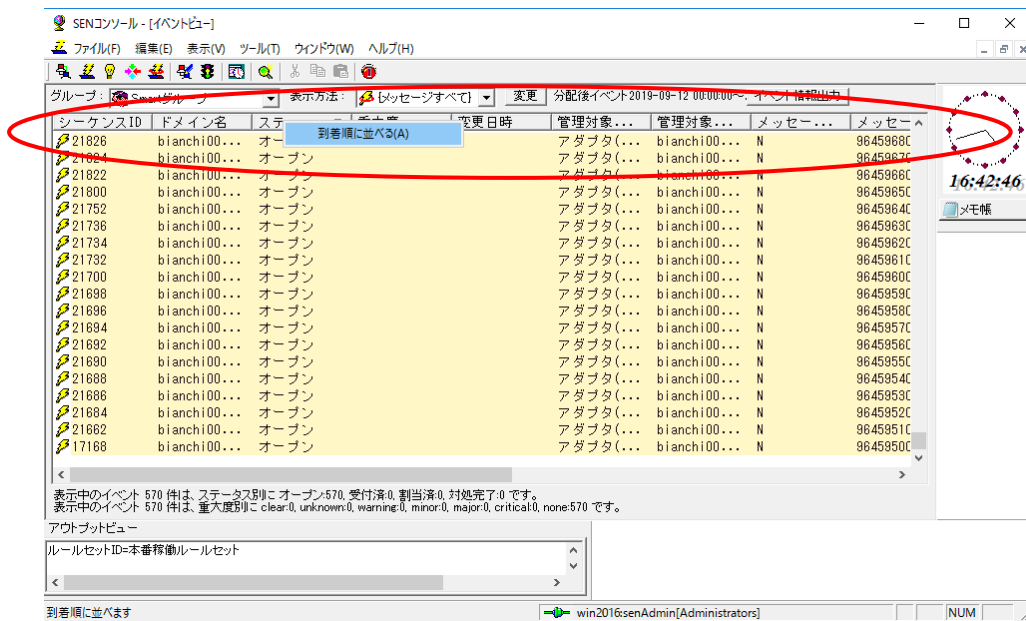


図 2.1-66 イベントビューにおけるソーティング例

イベントの検索

イベントの検索を行う場合は、メニューバーから[編集]→[検索]を選択し、イベント検索画面を表示します(図 2.1-67)。

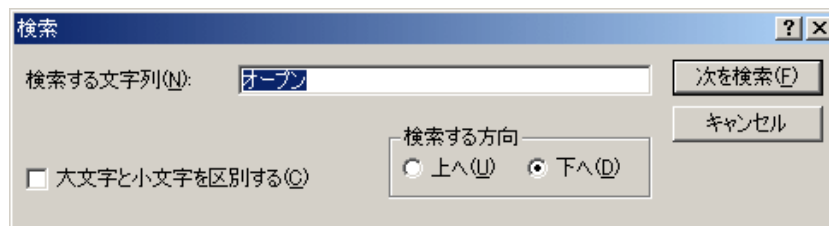


図 2.1-67 イベント検索画面

検索する文字列を指定し、検索を実行すると、現在活性化されているイベントビュー中の検索条件に一致するイベントエントリーがフォーカスされます。検索方向(“上へ”または“下へ”)、大文字小文字の区別の有無を指定できます。

イベントのクイックフィルター

イベントの表示を絞り込む場合は、イベントビュー上部の[クイックフィルター]欄に絞り込みたい文言を入力します(図 2.1-67)。



図 2.1-68 イベントフィルター画面

文言を入力すると、自動的にイベントビューの内容が絞り込まれます。表示されている項目全て（図 2.1-67 の場合はシーケンス ID, ドメイン名, ステータス...）に対し、入力した文言が含まれるイベントが抽出されます。

2.1.7 ノウハウビュー

ノウハウビューの表示

ノウハウビューの基本画面を図 2.1-69 に示します。ノウハウビューを表示する場合は、メニューバーから[ファイル]->[ノウハウビューを開く]を選択します。

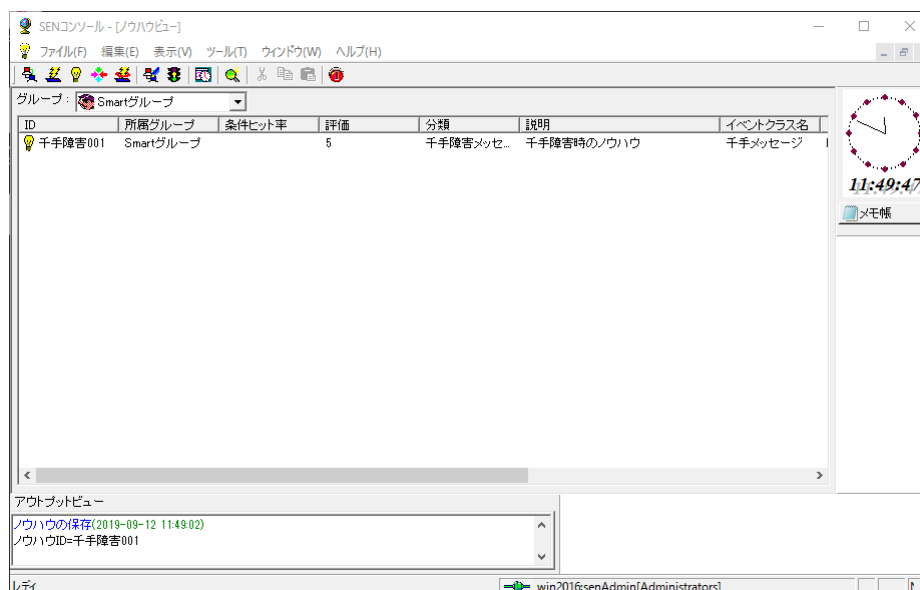


図 2.1-69 ノウハウビュー画面

ノウハウは Senju Enterprise Navigator が受信したイベントに対する情報、知識、対処方法を収集・整理し有効活用する事が可能になります。

ノウハウビューはイベントビューから追加されたノウハウを一覧で表示します。

追加されたノウハウは、ユーザーグループ毎に作成され、5000 件まで登録・参照する事が可能です。ノウハウビューで表示されるイベントの項目一覧を表 2.1-41 に示します。

表 2.1-41 ノウハウビュー項目一覧

項目	内容
ID	各ノウハウイベントの ID
所属グループ	ノウハウのユーザーグループ ID
条件ヒット率	[ファイル]->[ノウハウビューを開く]の場合:空白で表示 [イベントビュー]->[ノウハウを検索]の場合: イベントのプロパティでマッチした条件数/ノウハウ 作成時に設定した条件数
評価	ノウハウの評価
分類	ノウハウの分類
説明	コメント
イベントクラス名	ノウハウとして蓄積されたイベントのクラス名
ドメイン名	ノウハウとして蓄積されたイベントのドメイン名

到着日時	ノウハウとして蓄積されたイベントの到着日時
ユーザーグループ ID	ノウハウが定義されているユーザーグループ ID
ノウハウ	イベントに対するノウハウ

コンテキストメニューの操作

ノウハウビューにおける各イベントのコンテキストメニューから実行可能な操作について説明します。

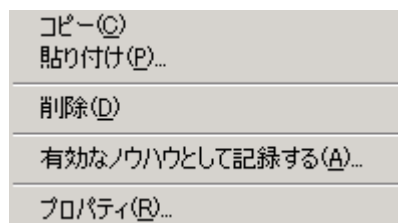


図 2.1-70 ノウハウビューのコンテキストメニュー

<コピー>

選択されたノウハウをクリップボードにコピーします。

イベントビューより、ノウハウを検索してノウハウビューを開いた場合は、非活性です。

<貼り付け>

クリップボードにコピーされたノウハウを貼り付けます。ユニークなノウハウ ID を設定し、[OK]ボタンを押して下さい。

イベントビューより、ノウハウを検索してノウハウビューを開いた場合は、非活性です。

<削除>

選択されたノウハウを削除します。

イベントビューより、ノウハウを検索してノウハウビューを開いた場合は、非活性です。

<有効なノウハウとして記録する>

ノウハウの評価画面を開きます(図 2.1-71)。

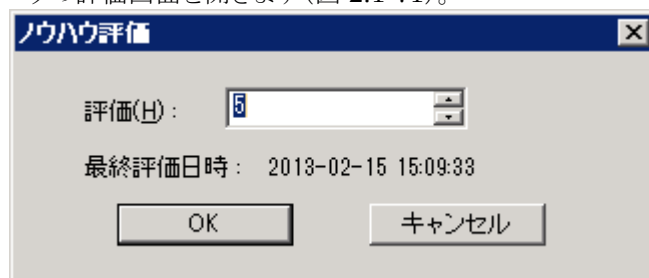


図 2.1-71 ノウハウ評価画面

ノウハウ評価画面では、評価を指定し[OK]ボタンを押すとノウハウの評価が変更されます。

<プロパティ>

ノウハウのプロパティ画面を開きます(図 2.1-72)。

※[イベントビュー]→[ノウハウを検索]の場合はプロパティを変更できません。

フィールド名	値
イベントクラス名	千手メッセージ
ユーザーグループID	Smartグループ
到着日時	2013-02-15 11:48:41
ドメイン名	dota
管理対象システム名	アダプタ(千手)
管理対象領域名	dota
メッセージ区分	N
メッセージ識別No	1778400

図 2.1-72 ノウハウのプロパティ画面

[検索条件]タブ を選択するとノウハウ検索条件設定画面が表示されます（図 2.1-73）。



図 2.1-73 ノウハウ検索条件設定画面

ノウハウ検索条件を設定する場合には、候補一覧からプロパティを選択し、[→]ボタンを押します。[→]ボタンを押下すると、プロパティ条件画面(図 2.1-74)が表示されます。プロパティ条件画面ではイベントビューより「ノウハウの検索」を実施した際に、ヒットさせるための条件を設定します。

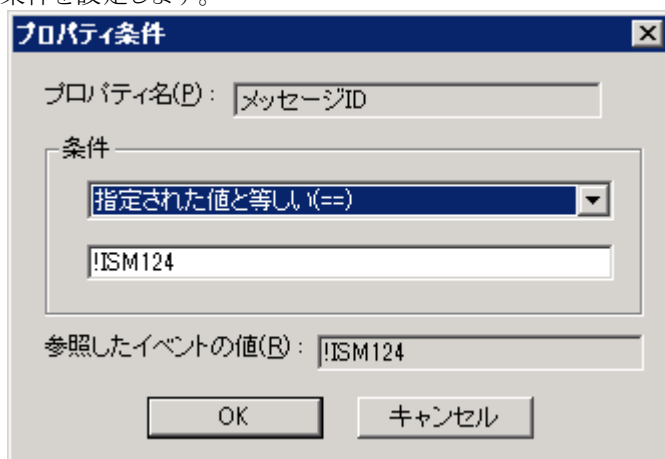


図 2.1-74 プロパティ条件画面

ノウハウのプロパティ画面では、下記項目を指定し[OK]ボタンを押すと内容が変更されます。

表 2.1-42 ノウハウのプロパティ項目一覧

項目	内容	省略
説明：	コメントを指定します。	可能
ユーザーグループ ID：	ノウハウが所属するグループの ID をコンボボックスより選択します。	—
分類：	ノウハウの分類を指定します。	不可
ノウハウ：	イベントに対するノウハウを指定します。	不可
条件を設定するプロパティ	候補一覧から条件として設定した結果が表示されます。条件を設定するプロパティには、プロパティ名、条件、値の3つのカラムがあります。条件のカラムには"指定された値以上 (>=) "、"指定された値より大きい (>) "、"指定された値と等しい (==) "、"指定された値より小さい (<)"、"指定された値以下 (<=) "、"指定された文字を含む"、"指定された文字を含まない"が表示されます。その他カラムは、候補一覧と同じです。	可能
条件：	条件の比較方法をコンボボックスより選択します。比較対象の値はイベントビューに表示されていたメッセージの値が指定されます。	可能

2.1.8 イベントサマリビュー

イベントサマリビューの表示

イベントサマリビューの基本画面を図 2.1-75 に示します。イベントサマリビューを表示する場合は、メニューバーから[ファイル]->[イベントサマリビューを開く]を選択します。

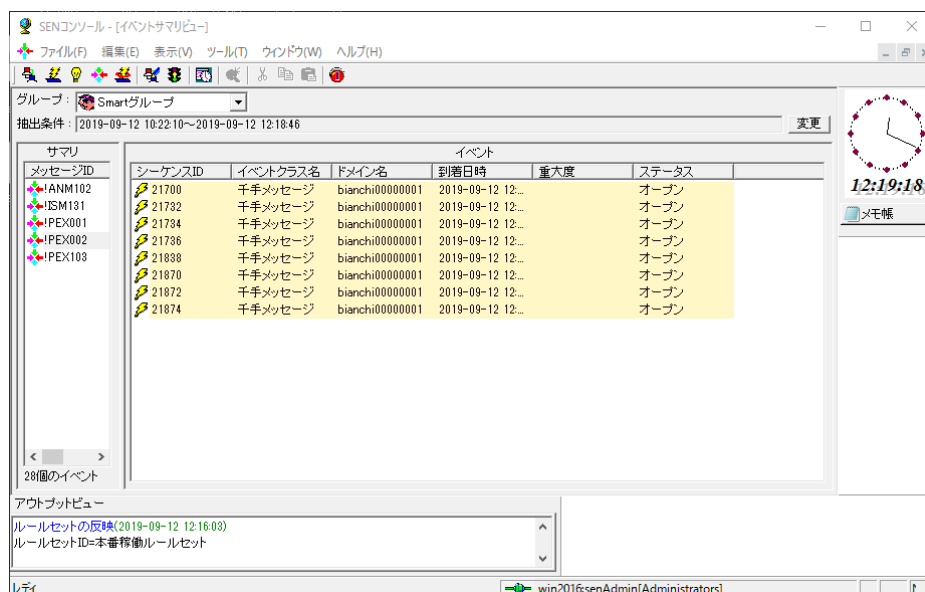


図 2.1-75 イベントサマリビュー画面

イベントサマリビューは、現在イベントビューに表示されている全イベントを取得し、その中にどのようなイベントが何件含まれているかを抽出しそのサマリ結果を一覧表示します。

イベントサマリビューでは、サマリキーとイベントの抽出条件によって絞り込まれたイベントのサマリを表示する事ができます。サマリ一覧には、サマリキーによって抽出された結果であり、どのようなイベントが何件含まれているかが表示されます。イベント一覧にはイベントの抽出条件によって抽出されたイベントが表示されます。サマリキーにはイベントビューのフィールドから3つまでを指定可能です。

イベントサマリビューで表示されるイベントの項目一覧を表 2.1-43 に示します。

表 2.1-43 イベントサマリビュー項目一覧

項目	内容
シーケンス ID	各イベントに対する ID (Senju Enterprise Navigator システム内部で付与される ID)
イベントクラス名	各イベントのイベントクラス名
ドメイン名	イベントのドメイン名を表す名称
到着日時	イベントが SEN サーバーに到着した日時
重大度	イベントの重大度 clear(クリア)

	unknown(不定) warning(警告) minor(軽度) major(重大) critical(致命的) none(なし)
ステータス	イベントの処理状況 オープン 受付済 割当済 対処完了

ユーザーグループを変更する場合は、グループコンボボックスから選択する事により、そのグループに属すイベントのサマリ結果が一覧表示されます。抽出条件を変更する場合は、[変更]ボタンを押してイベントサマリ抽出条件画面を開きます(図 2.1-76)。

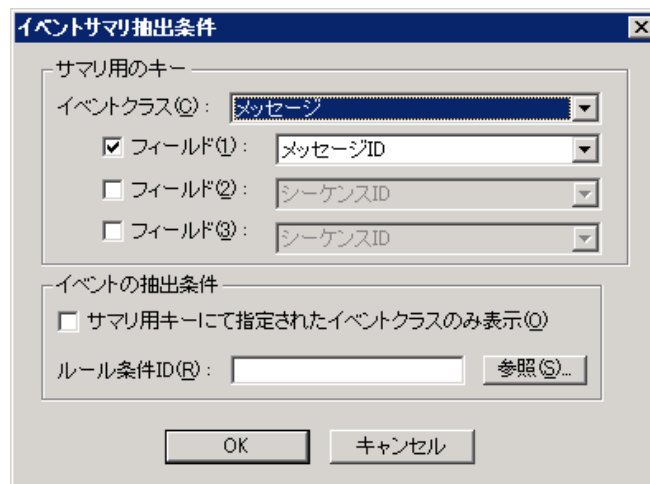


図 2.1-76 イベントサマリ抽出条件画面

イベントサマリ抽出条件画面では下記項目を指定します。

表 2.1-44 イベントサマリ抽出条件項目一覧

項目	内容	省略
イベントクラス :	対象クラス種別を指定します。	—
フィールド(1) :	サマリ条件のキーとなるフィールド名を指定します。	※1
フィールド(2) :	サマリ条件のキーとなるフィールド名を指定します。	※1
フィールド(3) :	サマリ条件のキーとなるフィールド名を指定します。	※1
サマリ用キーにて指定されたイベントクラスのみ表示チェックボックス :	サマリ用キーにて指定されたイベントクラスのみをイベント一覧に表示するならチェックします。他のイベントクラスも表示する場合はチェックを外します。デフォルトは無効です。	—
ルール条件 ID :	ルール条件 ID を指定します。ルール条件 ID は、[参照]ボタンを押す事により、すでに定義されたルール条件から選択する事が可能です。	可能

※1:フィールド(1)～(3)の内、1つ以上指定しなければなりません。

コンテキストメニューの操作

イベントサマリビューにおける各イベントのコンテキストメニューから実行可能な操作について説明します。

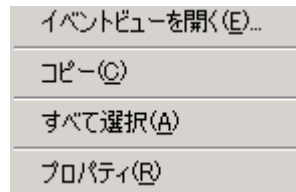


図 2.1-77 イベントサマリビューのコンテキストメニュー

<イベントビューを開く>

イベントビューを開きます。

<コピー>

選択されたイベントをクリップボードにコピーします。

<すべて選択>

イベント一覧に表示されているイベントをすべて選択状態にします。

<プロパティ>

イベントのプロパティ画面を開きます。プロパティ画面の詳細は「**2.1.6 イベントビュー**」を参照して下さい。

2.1.9 イベントフィルタビュー

イベントフィルタビューの表示

イベントフィルタビューの基本画面を図 2.1-78 に示します。イベントフィルタビューを表示する場合は、メニューバーから[ファイル]->[イベントフィルタビューを開く]を選択します。

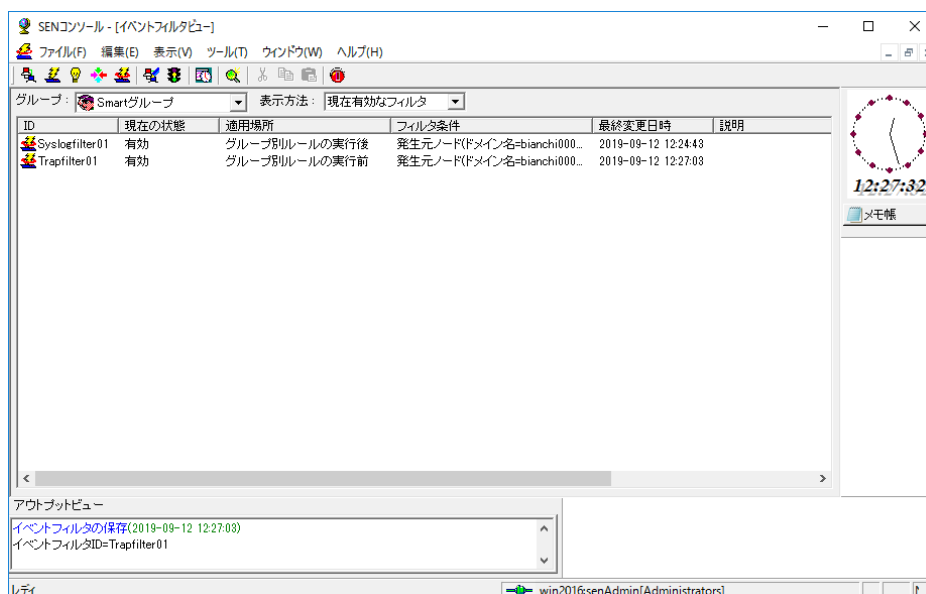


図 2.1-78 イベントフィルタビュー画面

イベントフィルタは、イベントを一時的にフィルタ(抑止)するために用います。ルールの早期イベント破棄ステージは、定常的に破棄するイベントに対して使用しますが、イベントフィルタは、定期保守で一時的に特定のノードからのイベントを抑止する場合や、テストなどで特定のメッセージを抑止する場合等に使用します。イベントフィルタは設定後、直ぐに有効となり、ルールセットの反映は不要です。

イベントフィルタビューは、SEN サーバーが取得する各種イベントに対するイベントフィルタの設定および設定されたイベントフィルタの一覧を表示します。

イベントフィルタは、ユーザーグループ毎に定義されます。[グループ] コンボボックスからグループを選択する事により、そのグループに属すイベントフィルタ一覧が表示されます。

[表示方法] コンボボックスでは、“現在有効なフィルタ”または“すべてのフィルタ”を選択します。

表 2.1-45 イベントフィルタビュー項目一覧

項目	内容
ID	各イベントフィルタの ID
現在の状態	イベントフィルタの現在の状態 有効 無効
適用場所	イベントフィルタを適用するタイミング グループ別ルールの実行前

	グループ別ルールの実行後
フィルタ条件	フィルタ条件 ルール条件 発生元ノード
最終変更日時	イベントフィルタの設定を変更した日時
説明	コメント

コンテキストメニューの操作

イベントフィルタビューにおける各イベントフィルタのコンテキストメニューから実行可能な操作について説明します。

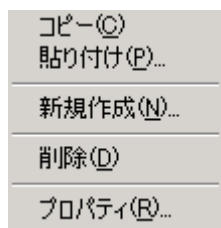


図 2.1-79 イベントフィルタビューのコンテキストメニュー

<コピー>

選択されたイベントフィルタをクリップボードにコピーします。

<貼り付け>

クリップボードにコピーされたイベントフィルタを貼り付けます。ユニークなイベントフィルタ ID を設定し、[OK]ボタンを押して下さい。

<新規作成>

イベントフィルタを作成します。イベントフィルタ画面で各項目を設定します(図 2.1-80)。

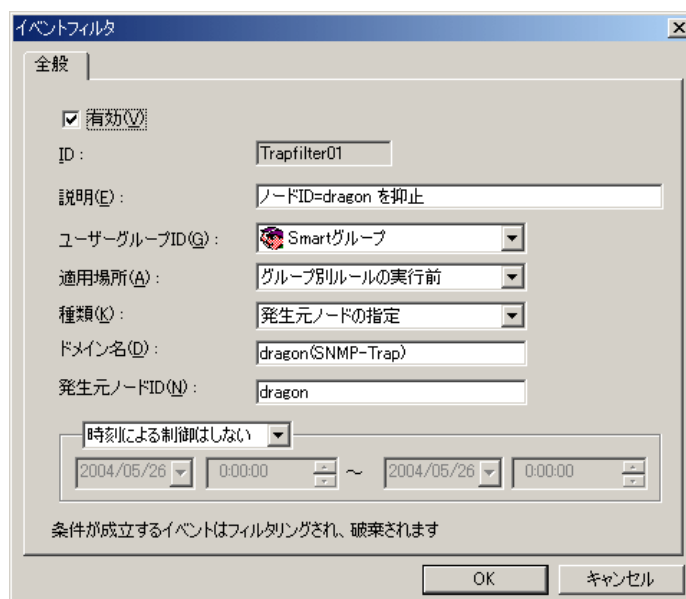


図 2.1-80 イベントフィルタ新規追加画面

表 2.1-46 イベントフィルタ新規追加項目一覧

項目	内容	省略
有効チェックボックス：	このイベントフィルタを有効にする場合はチェックします。イベントフィルタを無効にする場合はチェックを外します。デフォルトは有効です。	—
ID：	イベントフィルタの ID を指定します。	不可
説明：	コメントを指定します。	可能
ユーザーグループ ID：	イベントフィルタが所属するユーザーグループをコンボボックスより選択します。	—
適用場所：	“グループ別ルールの実行前”または“グループ別ルールの実行後”を選択します。 “グループ別ルールの実行前”を選択した場合は、フィルタ対象のイベントはグループ別ルールの実行前に破棄されます。 “グループ別ルールの実行後”を選択した場合は、フィルタ対象のイベントはグループ別ルールの実行後に破棄されます。	—
種類：	“発信元ノード”または“ルール条件”を選択します。 “発信元ノード”を選択した場合は、フィルタ対象のイベントの発生元ノードに関する条件を指定します。 “ルール条件”を選択した場合は、フィルタ対象のイベントに関する任意のルール条件を指定します。	—
ドメイン名：	フィルタ対象となるイベント発信元ドメイン名を指定します。	可能
発生元ノード ID：	フィルタ対象となるイベント発信元ノード ID を指定します。	可能
ルール条件 ID：	フィルタ対象となるイベントに関する任意のルール条件を指定します。定義済みのルール条件を参照するには[参照]ボタンを押します。ルール条件はあらかじめ定義しておく必要があります。ルール条件の設定方法については、「 5.1.4 ルール条件の編集 」を参照して下さい。	※1
活性化条件：	イベントフィルタの活性化条件を指定します。デフォルトでは常に有効になっています。 ここでは、イベントフィルタを有効にする日時範囲、無効にする日時範囲を指定することができます。	—

※1:「種類」で“ルール条件による指定”を選択した場合、省略できません。

表 2.1-47 イベントフィルタ活性化条件

項目	内容
時刻による制御はしない	時刻による活性化の制御は行いません。常にイベントフィルタは有効となります。
以下の時間帯に有効	指定した時間帯にはイベントフィルタは有効となります。その他の時間帯ではイベントフィルタは無効となります。
以下の時間帯に無効	指定した時間帯にはイベントフィルタは無効となります。その他の時間帯ではイベントフィルタは有効となります。

<削除>

選択されたイベントフィルタを削除します。

<プロパティ>

イベントフィルタのプロパティ画面を開きます(図 2.1-81)。

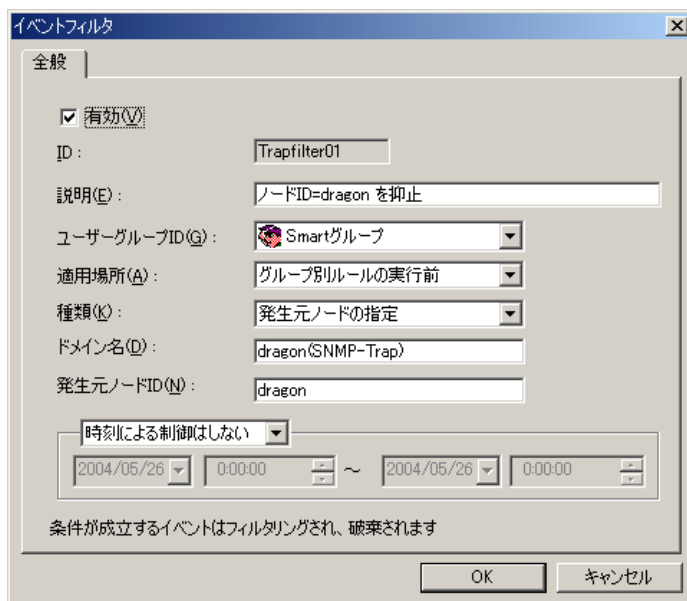


図 2.1-81 イベントフィルタのプロパティ画面

イベントフィルタのプロパティ画面では、下記項目を指定し[OK]ボタンを押すと内容が変更されます。

表 2.1-48 イベントフィルタのプロパティ項目一覧

項目	内容	省略
有効チェックボックス:	このイベントフィルタを有効にする場合はチェックします。イベントフィルタを無効にする場合はチェックを外します。	—
説明:	コメントを指定します。	可能
ユーザーグループID:	イベントフィルタが所属するユーザーグループをコンボボックスより選択します。	—
適用場所:	“グループ別ルールの実行前”または“グループ別ルールの実行後”を選択します。 “グループ別ルールの実行前”を選択した場合は、フィルタ対象のイベントはグループ別ルールの実行前に破棄されます。 “グループ別ルールの実行後”を選択した場合は、フィルタ対象のイベントはグループ別ルールの実行後に破棄されます。	—
種類:	“発信元ノード”または“ルール条件”を選択します。 “発信元ノード”を選択した場合は、フィルタ対象のイベントの発生元ノードに関する条件を指定します。 “ルール条件”を選択した場合は、フィルタ対象のイベントに	—

	関する任意のルール条件を指定します。	
ドメイン名：	フィルタ対象となるイベント発信元ドメイン名を指定します。	可能
発生元ノード ID：	フィルタ対象となるイベント発信元ノード ID を指定します。	可能
ルール条件 ID：	フィルタ対象となるイベントに関する任意のルール条件を指定します。定義済みのルール条件を参照するには[参照]ボタンを押します。ルール条件はあらかじめ定義しておく必要があります。ルール条件の設定方法については、「 5.1.4 ルール条件の編集 」を参照して下さい。	※1
活性化条件：	イベントフィルタの活性化条件を指定します。 ここでは、イベントフィルタを有効にする日時範囲、無効にする日時範囲を指定することができます。	—

※1:「種類」で「ルール条件による指定」を選択した場合、省略できません。

2.1.10 SEN パフォーマンスビュー

SEN パフォーマンスビューは、SEN サーバーの CPU 使用率やイベントの入出力数、メール送信数等のパフォーマンスを表示する事が可能です。

SEN パフォーマンスビューを表示するためには、まず SEN パフォーマンスビュー表示方法を登録します。登録には、Managers 役割以上のユーザーが可能です。メニューバーから[ファイル]->[SEN パフォーマンスビューを開く]を選択します。

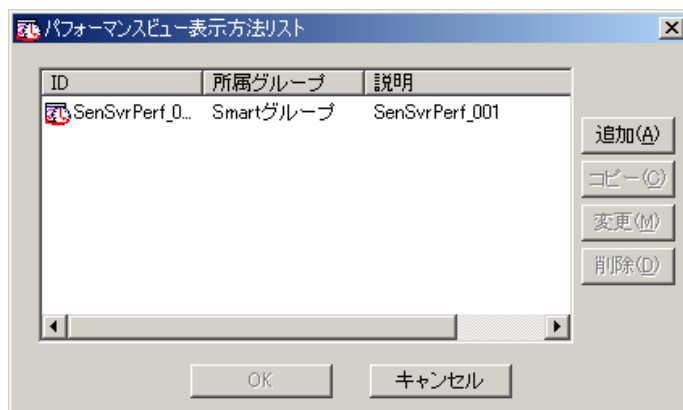


図 2.1-82 パフォーマンスビュー表示方法リスト画面

表 2.1-49 パフォーマンスビュー表示方法リストのボタン

ボタン	機能
追加 :	SEN パフォーマンスビュー表示方法を追加します。
コピー :	選択した SEN パフォーマンスビュー表示方法をコピーします。
変更 :	選択した SEN パフォーマンスビュー表示方法を変更します。
削除 :	選択した SEN パフォーマンスビュー表示方法を削除します。

パフォーマンスビュー表示方法リスト画面(図 2.1-82)にて、[追加]、[コピー]および[変更]ボタンを押すと図 2.1-83 が表示されます。

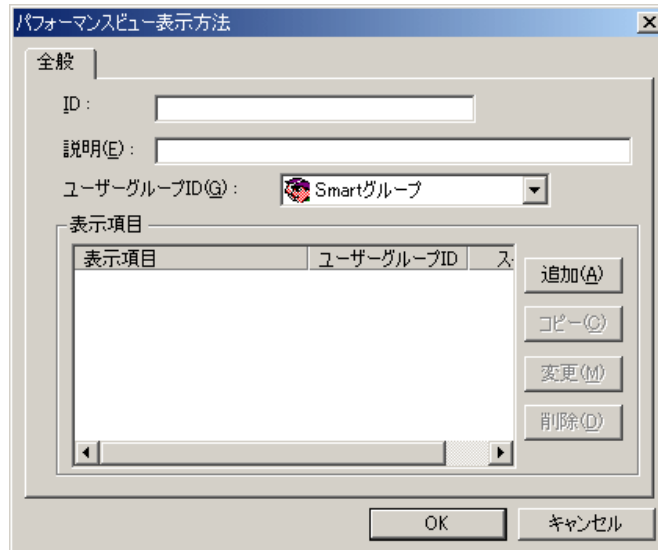


図 2.1-83 パフォーマンスビュー表示方法画面

パフォーマンスビュー表示方法画面では下記項目を指定します。

表 2.1-50 パフォーマンスビュー表示方法項目一覧

項目	内容	省略
ID :	SEN パフォーマンスビュー表示方法の ID を指定します。	不可
説明 :	コメントを指定します。	可能
ユーザーグループ ID :	SEN パフォーマンスビュー表示方法が所属するユーザーグループをコンボボックスより選択します。	—

表示項目を追加するには、SEN パフォーマンスビュー表示方法画面(図 2.1-83)で[追加]ボタンを押します。SEN パフォーマンスビュー表示項目画面(図 2.1-84)が表示されます。

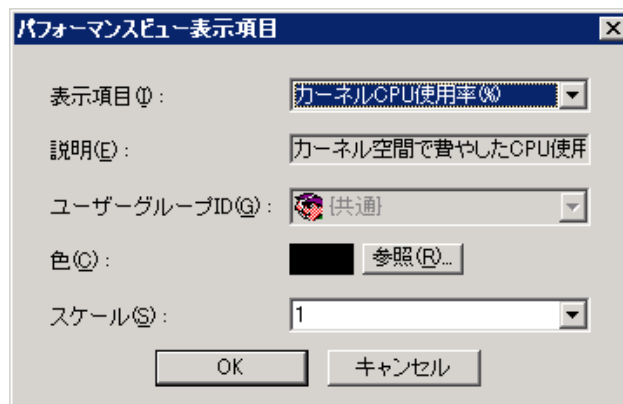


図 2.1-84 SEN パフォーマンスビュー表示項目画面

SEN パフォーマンスビュー表示項目画面では下記項目を指定します。

表 2.1-51 パフォーマンスビュー表示項目項目一覧

項目	内容	省略
表示項目：	SEN パフォーマンスビューとして監視する項目をコンボボックスより選択します。選択できる項目の一覧を表 2.1-52 に示します。	—
ユーザーグループ ID：	SEN パフォーマンス表示方法が所属するユーザーグループをコンボボックスより選択します。	—
色：	表示色を指定します。表示色は、[参照]ボタンを押す事により、すでに定義された色から選択する事が可能です。	—
スケール：	SEN パフォーマンスビューのスケールをコンボボックスより選択します。	—

表 2.1-52 表示項目一覧

表示項目	説明
カーネル CPU 使用率 (%)	カーネル空間で費やした CPU 使用率(%)
CPU 使用率 (%)	CPU 使用率 (%)
ユーザーCPU 使用率 (%)	ユーザー空間で費やした CPU 使用率(%)
ハンドル数 (個)	ハンドルの数
スレッド数 (個)	スレッドの数
プロセス数 (個)	プロセスの数
コミットチャージ制限値 (KB)	コミットチャージ制限値
コミットチャージ量 (KB)	コミットチャージ量
利用可能メモリ量 (KB)	利用可能なメモリの量
カーネルページメモリ量 (KB)	カーネルのページング可能なメモリプールの量
カーネル非ページメモリ量 (KB)	カーネルのページングできないメモリプールの量
仮想メモリ使用量 (KB)	SEN サーバーの仮想メモリ使用量
入力イベント数 (個/秒)	ルール処理の入力イベント数
出力イベント数 (個/秒)	ルール処理から出力したイベント数
メール送信数 (回/秒)	SEN サーバー上で送信したメールの送信数 ※メール送信連携アダプタで送信したメールはカウントされません。
コマンドの実行数 (回/秒)	SEN サーバー上で実行したコマンド数
アクションの実行回数 (回/秒)	プロデューサで実行したアクションの数

SEN パフォーマンスビューを表示するには、パフォーマンスビュー表示方法リスト画面から SEN パフォーマンスビュー表示方法を選択し、[OK]ボタンを押下します。

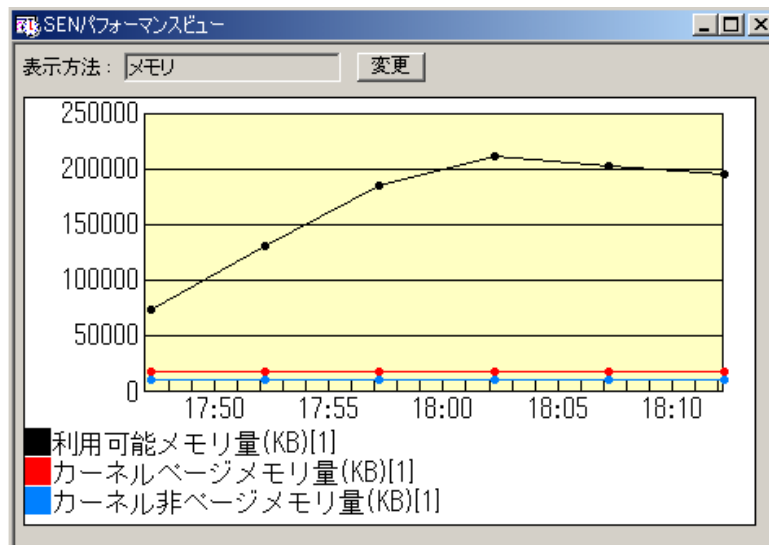


図 2.1-85 SEN パフォーマンスビュー画面

表示項目を削除するには SEN パフォーマンスビュー表示方法画面(図 2.1-83)で、削除対象の表示項目エントリーを選択し、[削除]ボタンを押します。複数の表示項目を同時に削除する場合は、SEN パフォーマンスビュー表示方法画面(図 2.1-83)で Ctrl キーまたは Shift キーにより複数エントリーを選択して[削除]ボタンを押します。

2.1.11 ツールビュー

ユーティリティ(時計)や任意のプログラム、OS コマンドなどをランチャー形式でツールビューに登録する事が可能です。ツールビューへの登録は、Users 役割以上のユーザーが可能です。メニューバーから[ツール]->[メンテナンス]->[ツールビュー]を選択します。

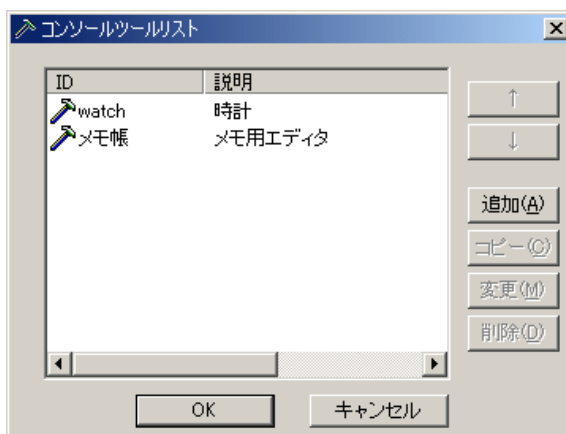


図 2.1-86 コンソールツールリスト画面

表 2.1-53 コンソールツールリスト画面のボタン

ボタン	機能
↑ :	選択したコンソールツールの順番を繰り上げます。順番はツールビューの表示に反映されます。選択したコンソールツールが一番上の場合は、不活性となります。
↓ :	選択したコンソールツールの順番を繰り下げます。順番はツールビューの表示に反映されます。選択したコンソールツールが一番下の場合は、不活性となります。
追加 :	コンソールツールを追加します。
コピー :	選択したコンソールツールをコピーします。
変更 :	選択したコンソールツールを変更します。
削除 :	選択したコンソールツールを削除します。

コンソールツールリスト画面(図 2.1-86)にて、[追加]、[コピー]および[変更]ボタンを押すと図 2.1-87 が表示されます。

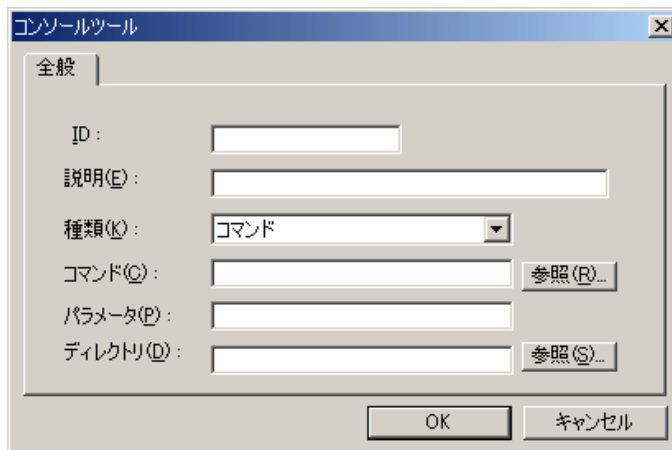


図 2.1-87 コンソールツール画面

表 2.1-54 コンソールツール項目一覧

項目	内容	省略
ID :	ツールビューに表示するアイコンの名称を指定します。	不可
説明 :	コメントを指定します。	可能
種類 :	“時計” または “コマンド” のいずれかが選択できます。	—
コマンド :	実行するコマンドをフルパスで指定します。パスには環境変数を含める事ができます。	不可
パラメータ :	コマンドに与えるパラメータを指定します。	可能
ディレクトリ :	設定ファイル等が格納された、コマンド実行ディレクトリをフルパスで指定します。パスには環境変数を含める事ができます。	可能

コンソールツール画面 (図 2.1-87)で上記項目を指定し [OK]ボタンを押すと、登録した内容がツールビューにアイコンで表示されます(図 2.1-88)。

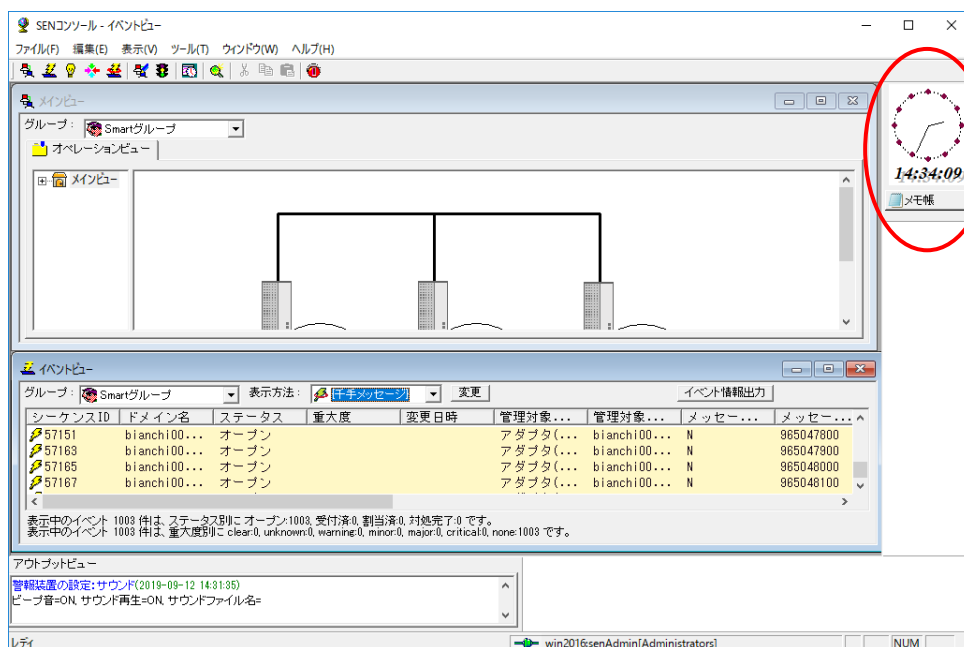


図 2.1-88 ツールビュー画面(コンソールツール登録後)

2.1.12 アクション実行履歴

ルール、メインペインアイテム、イベントから実行したアクションの実行履歴(メール送信、コマンド実行)を参照します。アクション実行履歴の参照は、Users 役割以上のユーザーが可能です。メニューバーから[ツール]->[アクション実行履歴]を選択します。

アクション実行履歴を参照する日時範囲を期間フィールドに指定します。期間フィールドに開始日時と終了日時を指定後、[表示]ボタンを押すと、その日時範囲内に実行したアクション実行履歴の一覧が表示されます。

アクション実行履歴一覧の各表示カラムタイトル(ID、ユーザーグループ ID、実行日時、アクション種別、アクション)をクリックする事で、そのカラムをキーにアクション実行履歴をソートします。ソート順の昇順・降順の切り替えが可能です。

アクション実行履歴の参照を終了する場合は、[閉じる]ボタンを押して下さい。

アクション実行履歴が保存される件数は、デフォルトが1、最大で 1000 となります。

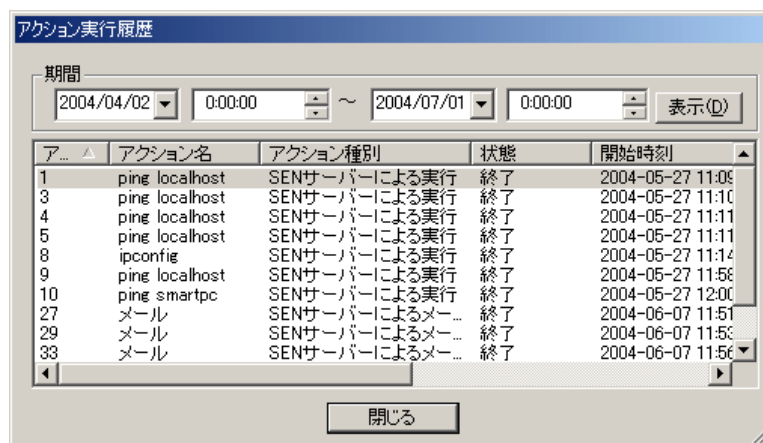


図 2.1-89 アクション実行履歴画面

表 2.1-55 アクション実行履歴項目一覧

項目	内容
アクション ID :	アクションのユニーク性を保証するための ID です。
アクション名 :	アクションの内容が表示されます。
アクション種別 :	アクションの種別を表し、"SEN サーバーによる実行"、"SEN サーバーによるメール送信"が表示されます。
状態 :	アクションの状態を表し、"起動前"、"起動に失敗"、"終了報告前に切断"、"稼働中"または"終了"が表示されます。
開始時刻 :	アクションの開始時刻が表示されます。
終了時刻 :	アクションの終了時刻が表示されます。
実行したユーザー :	アクションを実行したユーザー名が表示されます。
終了コード :	アクションの終了コードが表示されます。

2.1.13 警報装置停止

警報装置停止は、SEN コンソールの警報装置(パトランプ、サウンド)の停止を行います。
警報装置停止は、メニューバーから[ツール]->[警報装置停止]を選択するか、ツールバーの[警報装置を停止]ボタンを押します。

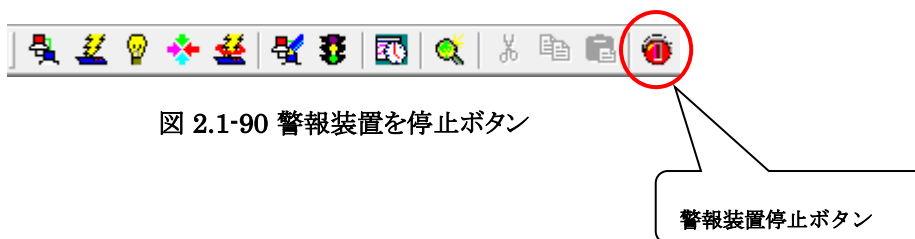


図 2.1-90 警報装置を停止ボタン

2.1.14 コンソールイベント送信

ユーザー定義イベントを明示的に発生させる場合は、コンソールイベントを使用します。メインペインアイテムのプロパティの変更や、外部コマンドの実行を強制的に行う場合等に使用できます。ユーザー定義イベントの発生は、Operators 役割以上のユーザーが可能です。メニューバーから[ツール]->[コンソールイベントの送信]を選択します。

コンソールイベントには、任意の 3 つのパラメータを設定する事が可能です。

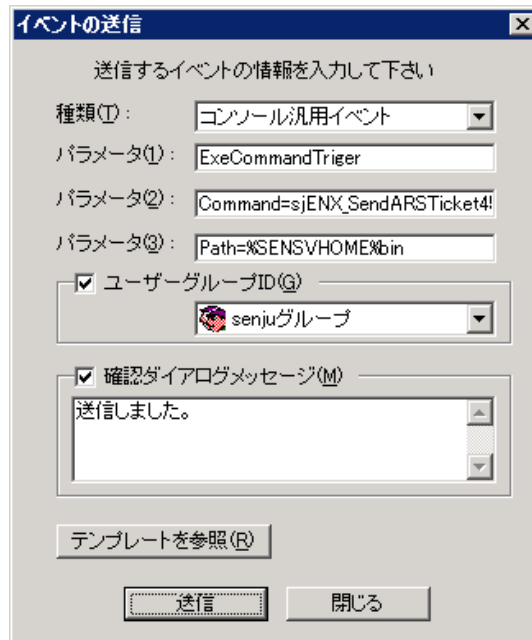


図 2.1-91 イベントの送信画面

表 2.1-56 イベントの送信項目一覧

項目	内容	省略
種類 :	イベントの種類を指定します。 現バージョンで選択可能な種類は、“コンソール汎用イベント”のみです。	—
パラメータ(1) :	1 番目のパラメータを指定します。	可能
パラメータ(2) :	2 番目のパラメータを指定します。	可能
パラメータ(3) :	3 番目のパラメータを指定します。	可能
ユーザーグループ ID :	コンソールイベント送信先のユーザーグループを選択します。 送信先のユーザーグループを指定する場合は、[ユーザーグループ ID]チェックボックスをチェックし、コンボボックスから送信先ユーザーグループ ID を選択して下さい。 送信先のユーザーグループを指定しない場合は、[ユーザーグループ ID]チェックボックスのチェックを外して下さい。	—

確認ダイアログメッセージ：	コンソールイベントを送信した場合に確認するダイアログのメッセージを設定します。 ダイアログを表示する場合は、[確認ダイアログメッセージ]チェックボックスをチェックし、表示するメッセージを設定して下さい。 ダイアログを表示しない場合は、[確認ダイアログメッセージ]チェックボックスのチェックを外して下さい。	可能
テンプレートを参照：	コンソールイベント用テンプレートを使用する場合に押下して下さい。	—



ユーザーグループ ID で指定したユーザーグループは、コンソールユーザー作成イベントクラスの userGroupId プロパティに設定されます。ユーザーグループ ID で指定したユーザーグループにのみコンソールイベントを送信する場合は、userGroupId プロパティを使用し分配ルールにて絞り込みを行って下さい。

例として、“TestGroup” ユーザーグループにのみコンソールイベントを送信する場合は、イベントの送信画面でユーザーグループ ID に“TestGroup”を指定します。また分配ルールには、カレントイベントクラスにコンソールユーザー作成イベントを選択し、条件式に `currentEvent.userGroupId=="TestGroup"` と記述したルール条件を設定します。

上記項目を指定し[送信]ボタンを押す事で、ユーザー定義イベントが SEN サーバーへ送信されます。確認ダイアログメッセージを表示する設定にしている場合、確認ダイアログが表示されます(図 2.1-92)。

イベントの送信を中止する場合は、[閉じる]ボタンを押して下さい。

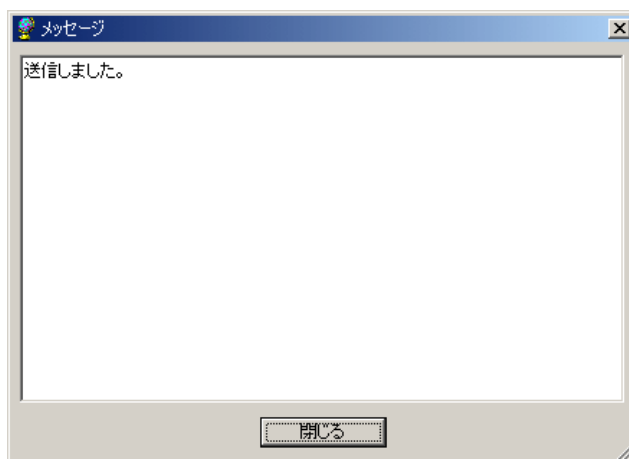


図 2.1-92 イベントの送信結果画面

コンソールイベントは、メッセージクラスではなくイベントクラスに属するため、イベントビューにあらかじめ用意された表示方法”{メッセージすべて}”では表示されません。コンソールイベントの表示には、新たにイベントビュー表示方法を追加する必要があります。イベントビュー

一表示方法の追加については、「**2.1.6 イベントビュー**」を参照して下さい。

汎用的なコンソールイベントや再利用性の高いコンソールイベントをあらかじめテンプレートとして登録する事により、入力負荷の軽減や操作ミスの抑止を期待できます。

コンソールイベント用テンプレートを参照する場合は、イベントの送信画面(図 2.1-91)の[テンプレートを参照]ボタンを押して下さい。コンソールイベント用テンプレートリスト画面が表示されます(図 2.1-93)。

「ユーザーグループ ID」コンボボックスからユーザーグループを選択する事により、各ユーザーグループに登録されているテンプレートが一覧表示されます。

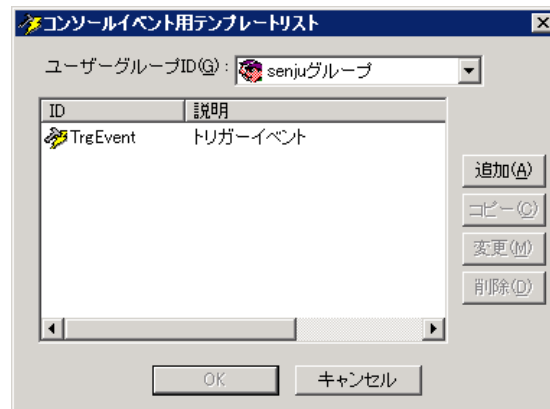


図 2.1-93 コンソールイベント用テンプレートリスト画面

表 2.1-57 コンソールイベント用テンプレートリストのボタン

ボタン	機能
追加：	コンソールイベント用テンプレートを追加します。
コピー：	選択したコンソールイベント用テンプレートをコピーします。
変更：	選択したコンソールイベント用テンプレートを変更します。
削除：	選択したコンソールイベント用テンプレートを削除します。

コンソールイベント用テンプレートリスト画面(図 2.1-93)にて、[追加]、[コピー]および[変更]ボタンを押すと図 2.1-94 が表示されます。

図 2.1-94 コンソールイベント用テンプレート画面

表 2.1-58 コンソールイベント用テンプレートリスト項目一覧

項目	内容	省略
ID:	コンソールイベント用テンプレートの ID を指定します。	不可
説明:	コメントを指定します。	可能
ユーザーグループ ID:	作成するテンプレートの登録先ユーザーグループを指定します。	—
種類:	イベントの種類を指定します。 現バージョンで選択可能な種類は、“コンソール汎用イベント”のみです。	—
パラメータ(1):	1 番目のパラメータを指定します。	可能
パラメータ(2):	2 番目のパラメータを指定します。	可能
パラメータ(3):	3 番目のパラメータを指定します。	可能
ユーザーグループ ID:	コンソールイベント送信先のユーザーグループを選択します。 送信先のユーザーグループを指定する場合は、[ユーザーグループ ID]チェックボックスをチェックし、コンボボックスから送信先ユーザーグループ ID を選択して下さい。 送信先のユーザーグループを指定しない場合は、[ユーザーグループ ID]チェックボックスのチェックを外して下さい。	—
確認ダイアログメッセージ:	コンソールイベントを送信した場合に確認するダイアログのメッセージを設定します。 ダイアログを表示する場合は、[確認ダイアログメッセ	可能

	<p>ージ]チェックボックスをチェックし、表示するメッセージを設定して下さい。 ダイアログを表示しない場合は、[確認ダイアログメッセージ]チェックボックスのチェックを外して下さい。</p>	
--	--	--

2.1.15 放置イベントの警告

放置イベントの警告は、未対応のイベントが放置されていれば、ダイアログ、サウンド、ビープ音で警告を通知します(図 2.1-95)。

警告が通知されたダイアログ(図 2.1-95)では、イベントエントリーを選択し[プロパティ]を押すとイベントのプロパティを表示する事ができます。プロパティ画面の詳細は「**2.1.6 イベントビュー**」を参照して下さい。

放置イベントの警告の設定は、メニューバーから[ツール]->[SEN サーバー/コンソールの設定状態]を選択し[SEN コンソールの設定]タブで設定します。設定の詳細は「**3.2.4 SEN サーバー/コンソールの設定**」を参照して下さい。



どのグループにも分配されなかったイベントに対しては、警告が通知されません。



図 2.1-95 放置イベントの警告

放置イベントの警告で表示されるイベントの項目一覧を表 2.1-59 に示します。

表 2.1-59 イベント項目一覧

項目	内容
シーケンス ID	各イベントに対する ID (Senju Enterprise Navigator システム内部で付与される ID) を表示します。
ステータス	イベントの処理状況を表示します。 オープン 受付済 割当済 対処完了 デフォルトはオープンです。
ステータス変更日時	イベントのステータス変更日時 (YYYY-MM-DD HH:MM:SS)

	イベントのステータスに変更が加わった場合に更新されます。
イベントクラス名	イベントのクラス名を表示します。
ドメイン名	イベントのドメイン名を表す名称を表示します。 千手：SEN コンフィグレータで設定するドメイン名 SNMP トラップ受信アダプタ：SEN サーバー名 (SNMP-Trap) シスログ受信アダプタ：SEN サーバー名 (Syslog) メール受信アダプタ：SEN コンフィグレータで設定するドメイン名 カスタムメッセージイベント送信コマンド：“アダプタ (カスタムメッセージイベント送信コマンド)” 管理プロセス：“管理プロセス” 内部イベント：管理対象システム名
到着日時	イベントの到着日時 (YYYY-MM-DD HH:MM:SS) を表示します。
ユーザーグループ ID	イベントが分配されたユーザーグループ ID を表示します。
重大度	イベントの重大度を表示します。 clear(クリア) unknown(不定) warning(警告) minor(軽度) major(重大) critical(致命的) none(なし) この値はルールの中で設定します。ルールアクションを設定しない場合は、デフォルトの重大度は none となり、これはブランクで表示されます。

2.1.16 アウトプットビュー

アウトプットビューには、ユーザーの操作履歴がテキスト表示されます(図 2.1-96)。

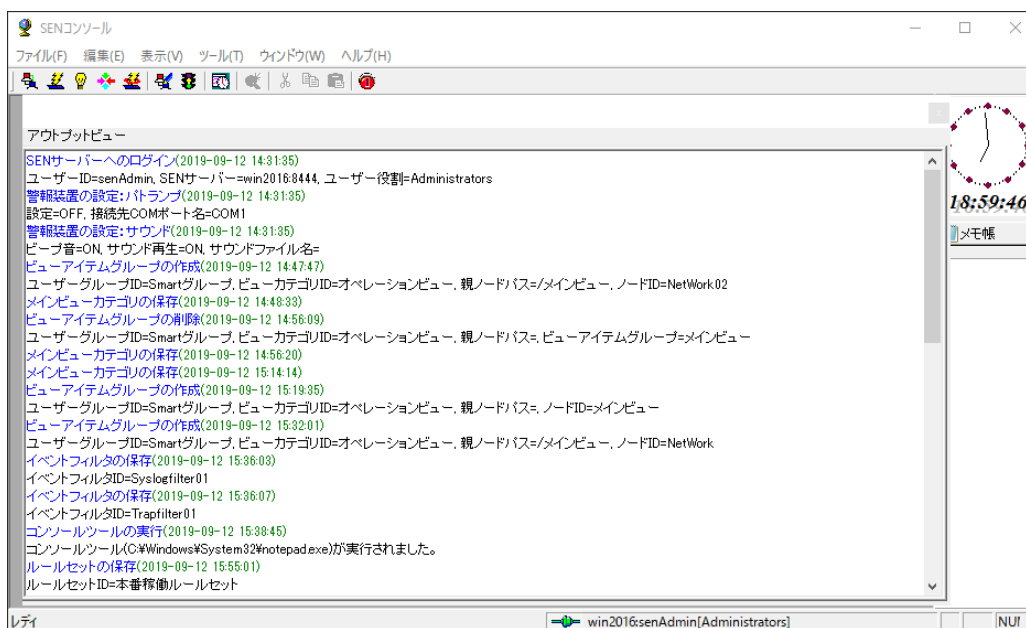


図 2.1-96 アウトプットビュー

アウトプットビューには、下記の履歴が表示されます。

- ・ ログイン
- ・ SEN サーバーに対する定義変更(ユーザー、グループ、メインビュー、ルール条件、ルールセット等)
- ・ イベントのステータス変更
- ・ イベントのノート記入
- ・ ビューアイテムグループのリセットおよび定義の反映
- ・ メインペインアイテムのリセット
- ・ ルールセットの反映
- ・ ルールセットのシミュレーション
- ・ コンソールイベントの送信
- ・ SEN サーバーデータのバックアップ
- ・ ツールビューからの外部コマンド実行
- ・ アクションの実行
- ・ 報告書作成
- ・ メール作成

2.1.17 ステータスバー

ステータスバーは、SEN コンソールの下部に表示されます(図 2.1-97)。ステータスバーには、現在接続中の SEN サーバー名、ログインユーザー名およびユーザー役割が表示されます。

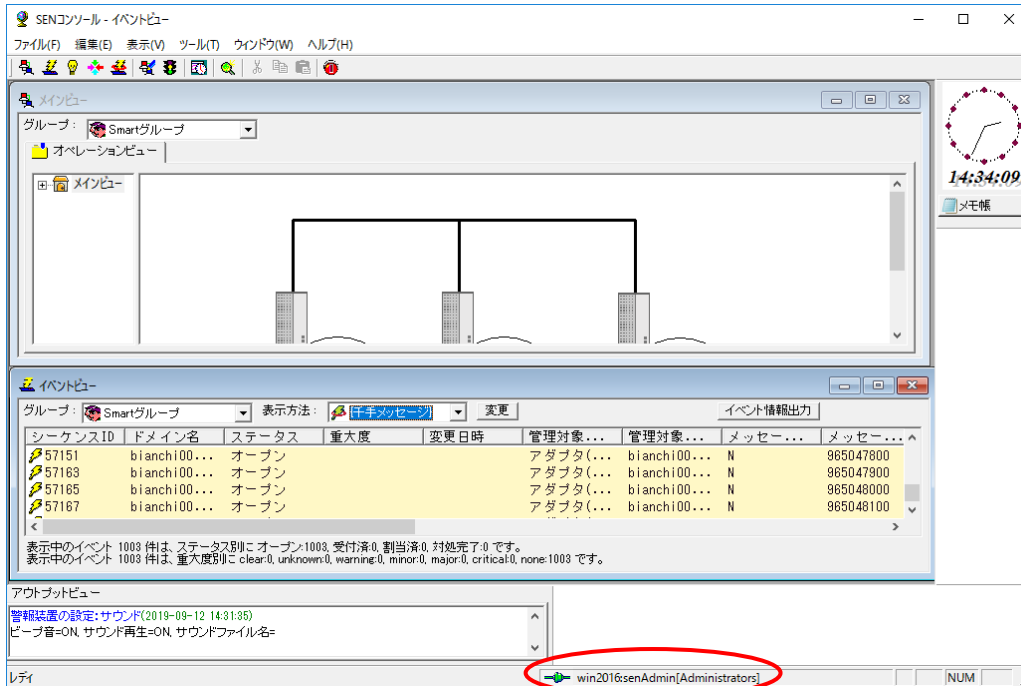


図 2.1-97 ステータスバー画面

またステータスバーには、SEN サーバーとの接続状況(接続または切断)を表すアイコンが表示されます。

SEN サーバーとの接続状況が切断状態となった場合は、警報装置(ハットランプ、サウンド)が鳴動します。



図 2.1-98 接続状態



図 2.1-99 切断状態

2.2 SEN Web サービス操作ガイド

2.2.1 ログイン

Senju Enterprise Navigator Web サービスを使用するためには、まず Senju Enterprise Navigator システムにログインする必要があります。ログインするには、Web ブラウザのアドレスバーに以下の URL を入力してログイン画面を表示します(図 2.2-1)。

http://(ログイン先 SEN Web サービスホスト名)/senjuen



SEN Web サービスは、SEN コンソールで作成したユーザーでログインする事ができます。

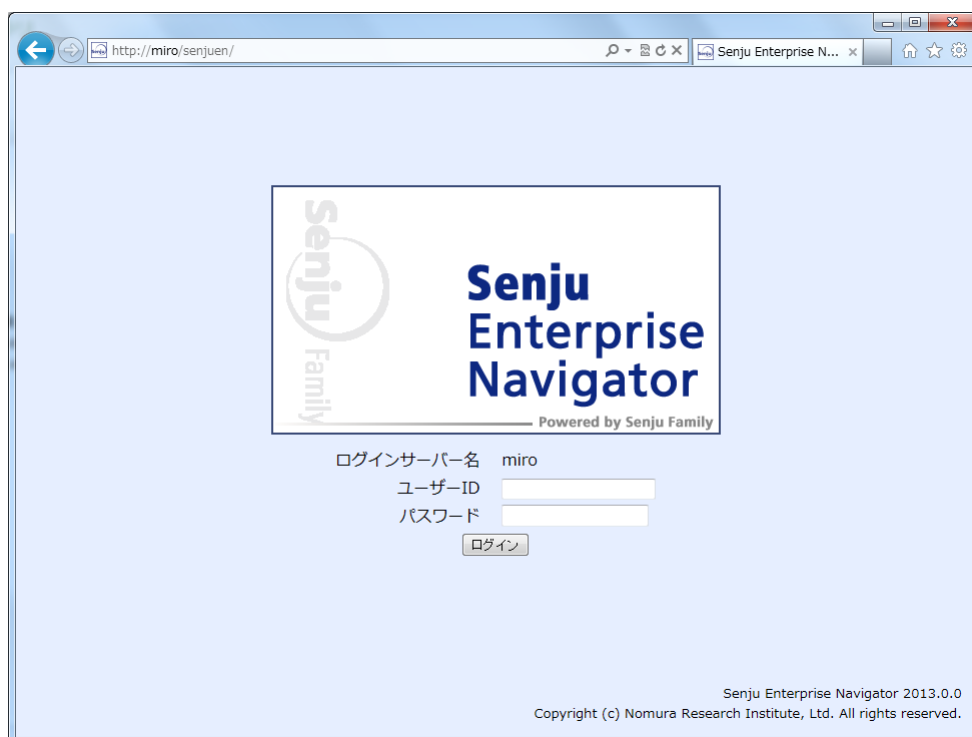


図 2.2-1 ログイン画面

ログインサーバー名: ログインする SEN サーバーのホスト名または IP アドレスが表示されます。ホスト名を表示する場合は、対象 SEN サーバーへのアドレス解決がなされている必要があります。

ユーザーID: ログインするユーザーID を指定します。
省略できません。

パスワード: ユーザーID に対するパスワードを指定します。
省略できません。

上記項目の指定後、「ログイン」を選択する事により SEN サーバーへのログイン処理が実行されます。また、SEN Web サービスを終了する場合は、ログアウトをしてからブラウザ・タブ等を閉じて下さい。



SEN Web サービスにログイン中のユーザーが所属するユーザーグループに対し、SEN コンソールにて変更・追加・削除を行った場合、SEN Web サービスの再ログインを行って下さい。



システム導入時及びバージョンアップ時は、ログインする前に Web ブラウザのキャッシュをクリアして下さい。



SEN Web サービスでは、名称に改行コードが含まれている場合、Web ブラウザで正しく動作または表示しない場合があります。対象の名称については「6.2 制限事項」を参照して下さい。



以下のように、ログイン URL にメインビューのパスを指定することで、ログイン直後の画面を指定できます。

`http://(SEN Web サービスホスト名)/senjuen/Login/Index#(メインビューのパス)`

(例)

・ 表示させたいメインビューの URL

`http://(SEN Web サービスホスト名)
/senjuen/MainView/Index#senjuUserGroup/ViewCategory/ViewTop/ViewSub`

・ ログイン時の URL 指定方法

`http://(SEN Web サービスホスト名)
/senjuen/Login/Index#senjuUserGroup/ViewCategory/ViewTop/ViewSub`

2.2.2 SEN Web サービス共通画面

SEN Web サービス共通画面を図 2.2-2 に示します。

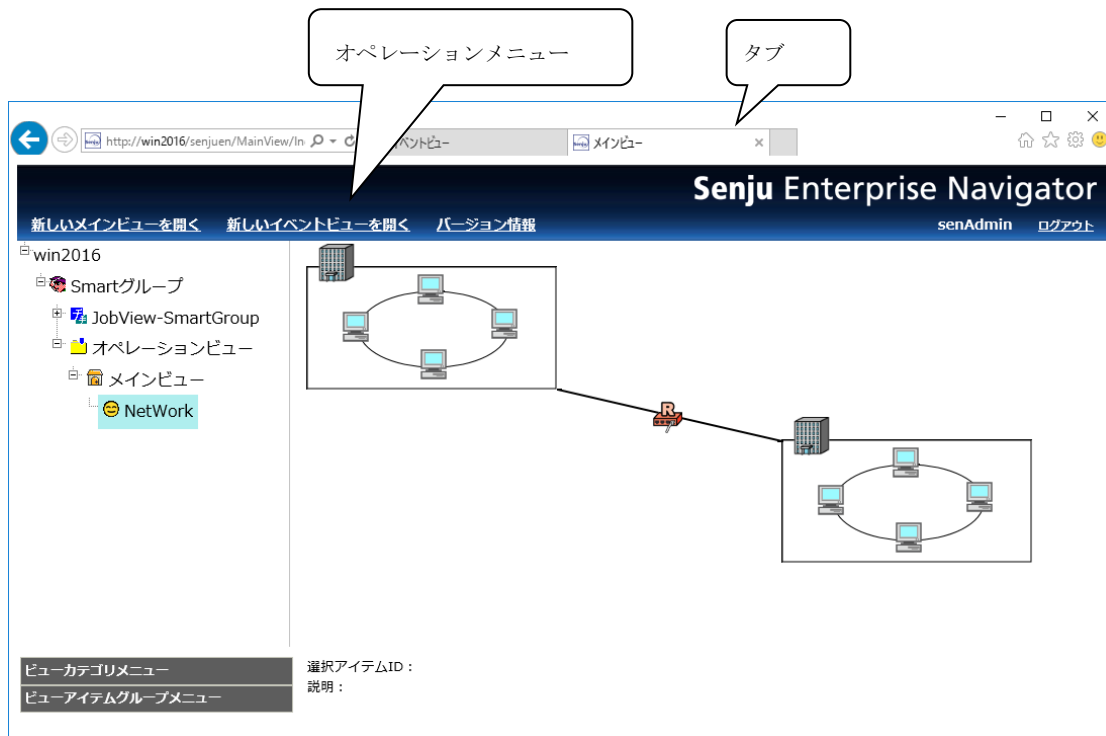


図 2.2-2 SEN Web サービス共通画面

オペレーションメニュー: SEN Web サービスにおける各種機能を呼び出すためのメニュー領域です。

タブ: アクティブなビュー(メインビューまたはイベントビュー)の名称が表示されます。



図 2.2-3 オペレーションメニュー

新しいメインビューを開く
新規にメインビューを開きます。

新しいイベントビューを開く

新規にイベントビューを開きます。

バージョン情報

SEN Web サービスのバージョン情報を表示します。

ユーザーID (図 2.2-3 では、senAdmin)

現在ログイン中のユーザーID を表示します。

ログアウト

SEN Web サービスをログアウトします。

2.2.3 メインビュー

以下、メインビューにおける基本操作について詳しく説明します。

メインビューの表示

メインビューの基本画面を図 2.2-4 に示します。メインビューはログイン時に自動的に表示されますが、新規にメインビューを表示する場合は、メニューバーから[新しいメインビューを開く]を選択します。

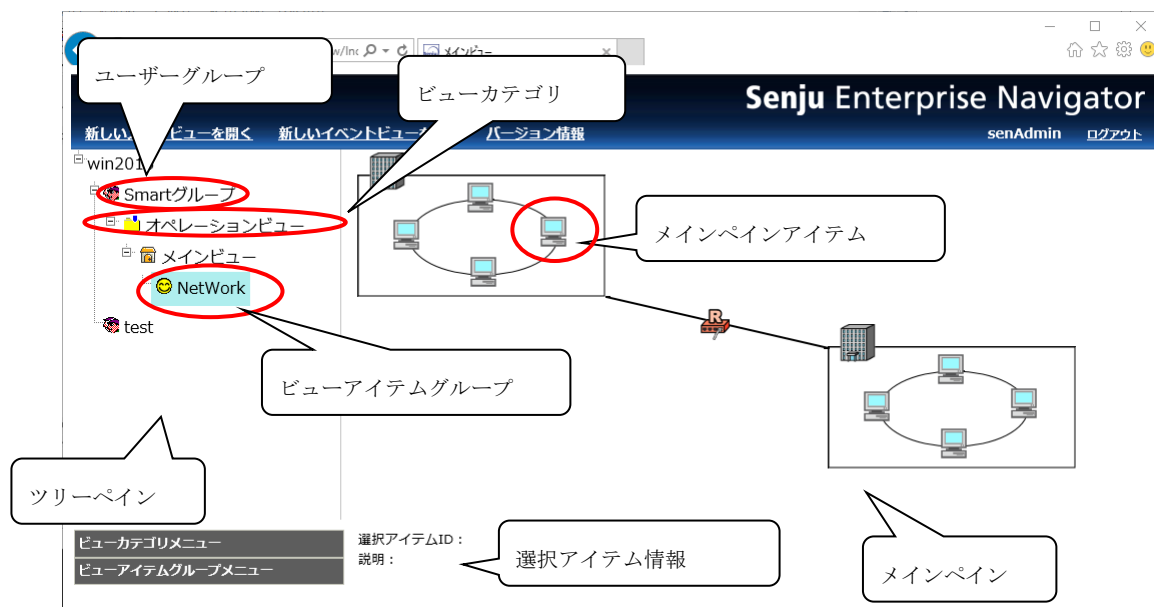


図 2.2-4 メインビュー画面



半角カナから始まるビューアイテムグループの表示する順番が、SEN Web サービスと SEN コンソールで異なります。表示する順番の詳細は「6.8 SEN コンソールと SEN WEB サービスの表示の違い」を参照して下さい。

メインビューは、各ユーザーグループの監視用のビューと捉える事ができます。ユーザーグループは監視の目的に応じて自由に設定する事ができます。例えば、サーバー監視、ネットワーク監視、アプリケーション監視といった視点でグループに分ける事もできます。また本社、支社、営業店、配送センターなどといったグループ分けも可能です。

各グループに対して1つのメインビューが割り当てられます。グループの切り替えは、ツリーペインの各ユーザーグループを選択する事により行います。

1つのメインビューは、ビューカテゴリと呼ばれる複数のページに区切られ、ビューカテゴリで異なる視点からのビューを提供する事ができます。

ビューカテゴリは、左側のツリーペインと右側のメインペインからなります。

ツリーペインでは管理対象の階層構造をツリー表示します。ツリーペインのノードの事を

ビューアイテムグループと呼びます。これをクリックする事により、その階層に対応したメインペインが表示されます。またツリー構造を利用して、上位階層のビューではおおまかな状況を把握し、下位の階層では詳細な状況を把握するといった使用も可能です。

メインペインでは、管理対象となるオブジェクトを基本図形やビットマップイメージによりグラフィカルに表示します。

管理対象オブジェクトを表現する基本図形やイメージの事をメインペインアイテムと呼びます。メインペインアイテムには、矩形や線分、文字、イメージといったプリミティブな図形か、プリミティブな図形を任意の数だけ組み合わせ合わせた結合図形を選択する事ができます。表 2.2-1 にプリミティブな図形の種類を示します。

表 2.2-1 プリミティブ図形の種類

図形名	説明
直線	直線。始点座標と終点座標により指定します。また、線の色や線の指定が可能です。点滅機能の利用でブリンクが可能です。
長方形	長方形。左下座標と右上座標により指定します。また、線の色や長方形内部の塗りつぶし色の指定が可能です。点滅機能の利用でブリンクが可能です。
円・楕円	円・楕円。円・楕円を囲む矩形の左下座標と右上座標により指定します。また、線の色や円・楕円内部の塗りつぶし色の指定が可能です。点滅機能の利用でブリンクが可能です。
イメージ	イメージ。表示するイメージ ID を指定します。 Windows アイコン、Windows ビットマップ、PNG 形式、JPEG 形式、TIFF 形式の画像の表示が可能です。点滅機能の利用でブリンクが可能です。
文字	文字列。フォントの種類やフォントサイズの指定が可能です。点滅機能の利用でブリンクが可能です。
リスト	リスト表示。リストに表示するカラム、初期データ等の指定が可能です。
ガントチャート	SEN Web サービスでは表示できません。
実行システム	SEN Web サービスでは表示できません。



SEN Web サービスでは、メインペインの背景は表示されません。
また、リストアイテムのレコードがない部分の背景色は、透過表示されます。



SEN Web サービスでは、HTTP の URL として使用できない文字を ID に含むイメージアイテムは表示されません。使用できない文字の詳細は「6.2 制限事項」を参照して下さい。

ユーザー独自のメインペインアイテムを作成するには、これらのプリミティブな図形を組み合わせた結合アイテムとして作成します。結合アイテムについては、「4.1.2 メイン

ペインの描画編集」を参照して下さい。

監視対象オブジェクトの状態に応じてメインペインアイテムの表示状態を変える事ができます。例えば、監視対象となるサーバーがダウンした場合は、対応するメインペインアイテムの色を赤色に変化させる事で、その状態が一目で分かるようになります。これはルールにより実現します。ルール条件としてあるサーバーがダウンしたというイベントを表す条件式を、アクションとしてメインペインアイテムの色を赤に変更するというルールを記述する事になります。ルール作成については、「**5 ルール作成ガイド**」を参照して下さい。

各メインペインアイテムにはそれぞれ固有の属性(プロパティ)を持つ事ができ、コンテキストメニューの[プロパティ]により参照する事が可能です。プロパティには、管理対象オブジェクトを特徴付ける任意の項目(ノード名、アプリケーション名等)やそのステータスを表す項目(稼働状態、CPU使用率、ディスク使用率等)を含める事が可能です。

各メインペインアイテムに、関連ビューを設定する事で、別のメインペインへのハイパーリンクを実現できます。また、アイテムに関連付けられた任意のコマンドをインタラクティブに実行する事ができます。

ビューカテゴリの編集

SEN Web サービスでは、ビューカテゴリの編集はできません。ビューカテゴリの編集を行う場合は、SEN コンソールを使用して下さい。

SEN コンソールのビューカテゴリの編集については「2.1.5 メインビュー」を参照して下さい。

ビューカテゴリメニューの操作

メインビューにおけるビューカテゴリメニュー(図 2.2-5)から実行可能な操作について説明します。



図 2.2-5 ビューカテゴリメニュー

<プロパティ>

ツリーペインでビューカテゴリを選択した状態で、[ビューカテゴリメニュー]の「プロパティ」を選択するとビューカテゴリプロパティが表示されます。(図 2.2-6)

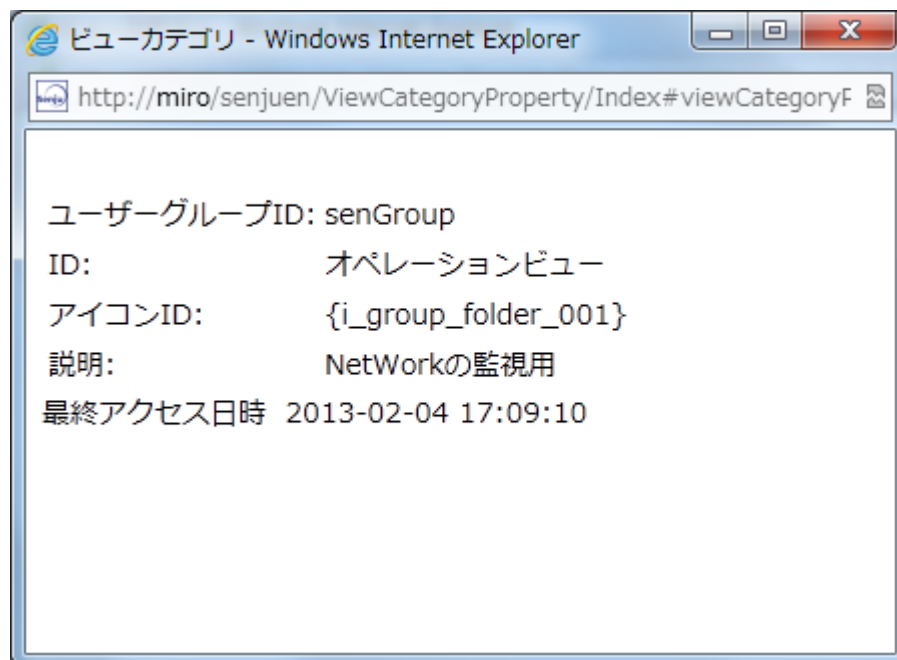


図 2.2-6 ビューカテゴリプロパティ画面

表 2.2-2 ビューカテゴリプロパティ項目一覧

項目	内容
ユーザーグループ ID :	ユーザーグループ ID
ID :	ビューカテゴリの ID
アイコン ID :	ツリーペインに表示するビューカテゴリのアイコンの ID
説明 :	指定されたコメント
最終アクセス日時 :	ビューカテゴリプロパティ画面を表示した日時 (YYYY-MM-DD HH:MM:SS)

ビューアイテムグループの編集

SEN Web サービスでは、ビューアイテムグループの編集はできません。ビューアイテムグループの編集を行う場合は、SEN コンソールを使用して下さい。

SEN コンソールのビューアイテムグループの編集については「2.1.5 メインビュー」を参照して下さい。

ビューアイテムグループメニューの操作

メインビューにおけるビューアイテムグループメニュー(図 2.2-7)から実行可能な操作について説明します。



図 2.2-7 ビューアイテムグループメニュー

ビューアイテムグループに割り当てられたメインペインおよびメインペイン上の各アイテムは、ルールによりプロパティを変更することができます。変更されたプロパティを定義時の状態に戻す場合は、リセット機能を使用します。ビューアイテムグループのリセットには、そのビューアイテムグループに割り当てられたメインペインのみのリセットを行う単独リセットと、ビューアイテムグループ下すべての階層のメインペインをリセットする階層リセットとがあります。

<単独リセット>

ツリーペインでビューアイテムグループを選択した状態で、[ビューアイテムグループメニュー]の「単独リセット」を選択し、確認画面で[はい]を選択します。これにより選択したビューアイテムグループに割り付けられたメインペイン内のすべてのアイテムが定義時の状態にリセットされます。

<階層リセット>

ツリーペインでビューアイテムグループを選択した状態で、[ビューアイテムグループメニュー]の「階層リセット」を選択し、確認画面で[はい]を選択します。これにより選択したビューアイテムグループ下すべての階層のメインペインについて、各メインペイン内のすべてのアイテムが定義時の状態にリセットされます。

<プロパティ>

ツリーペインでビューアイテムグループを選択した状態で、[ビューアイテムグループメニュー]の「プロパティ」を選択するとビューアイテムグループプロパティが表示されます。(図 2.2-8)

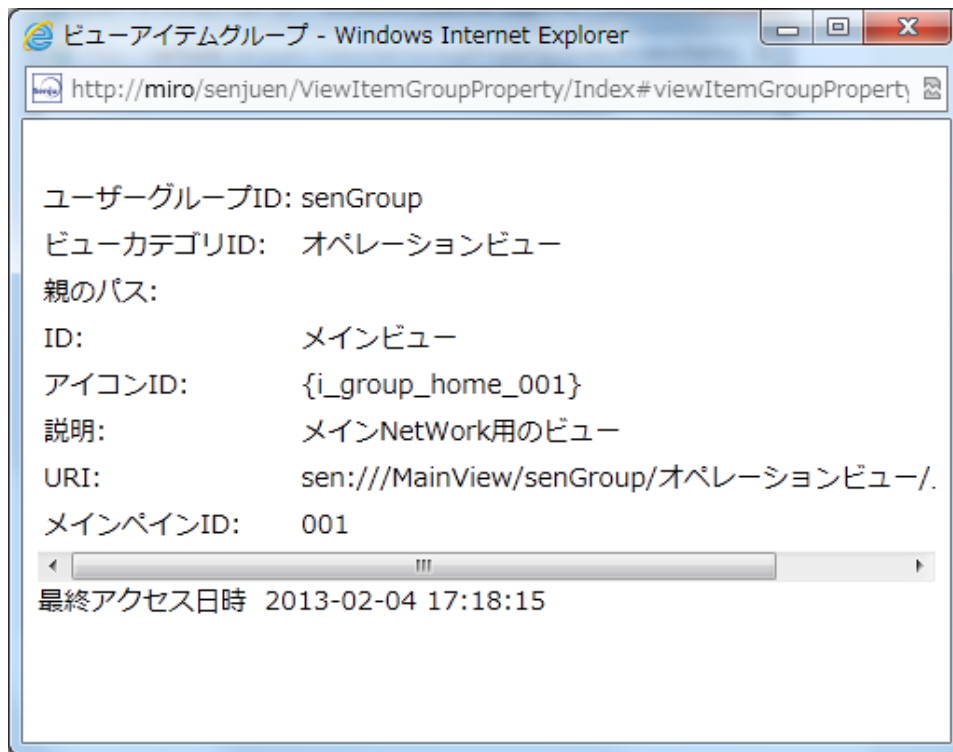


図 2.2-8 ビューアイテムグループプロパティ画面

表 2.2-3 ビューカテゴリプロパティ項目一覧

項目	内容
ユーザーグループ ID :	ユーザーグループ ID
ビューカテゴリ ID :	ビューカテゴリの ID
親のパス :	親のビューアイテムグループのパス
ID :	ビューアイテムグループの ID
アイコン ID :	ツリーペインに表示するビューアイテムグループのアイコンの ID
説明 :	指定されたコメント
URI :	ビューアイテムグループへのパス
メインペイン ID :	ビューアイテムグループに割り当てられているメインペインの ID
最終アクセス日時 :	ビューアイテムグループプロパティ画面を表示した日時 (YYYY-MM-DD HH:MM:SS)

コンテキストメニューの操作

メインペインにおける各アイテムのコンテキストメニュー(図 2.2-9)から実行可能な操作について説明します。



図 2.2-9 メインペインアイテムのコンテキストメニュー

<リセット>

メインペインアイテムのコンテキストメニューで[リセット]を選択する事により、選択したメインペインアイテムのプロパティを定義時の状態に戻す事ができます。リセットを使用するケースには、以下のような場合が考えられます。

管理対象オブジェクトの障害に相当するイベントを受信した場合にメインペインアイテムの色を赤に変更し、障害復旧に相当するイベントを受信した場合にメインペインアイテムの色を青に変更するようなルールを記述したとします。しかし何かの要因で、障害が復旧したにも関わらず障害復旧に相当するイベントが受信できなかった場合に、手動でメインペインアイテムのプロパティを定義時の状態に戻す場合に使用できます。

<上位へ>

1つ上の階層にあるビューアイテムグループのメインペインに移動します。最上位のメインペインを表示している場合は、不活性となります。

<ビューを開く>

メインペインアイテムのコンテキストメニューで[ビューを開く]を選択する事により、そのメインペインアイテムに関連づけられたビューグループにジャンプ(ハイパーリンク)します。この機能を用いる事で、例えばあるビューグループに割り当てられたメインペインアイテムとその下の階層に位置するビューグループとを関連付け、全体のビューから詳細なビューへとドリルダウンさせる事が可能です。

メインペインアイテムからビューグループへのハイパーリンクは、SEN コンソールから設定可能です。関連ビューの詳細は、「**4.1.2 メインペインの描画編集**」を参照して下さい。

<アクションの実行>

メインペインアイテムのコンテキストメニューで[アクションの実行]を選択する事により、そのメインペインアイテムに関連づけられたアクションが実行できます。

複数のメインペインアイテムを選択すると、メニューは不活性になります。

メインペインアイテムにアクションを追加するには、SEN コンソールから設定可能です。また、ルールからの追加も可能です。詳細は、「**5.1.6 ルールの編集**」を参照して下さい。

メインペインアイテムに関連付けられたアクションを選択するとアクションが実行され結果が別ウィンドウに表示されます(図 2.2-10)。

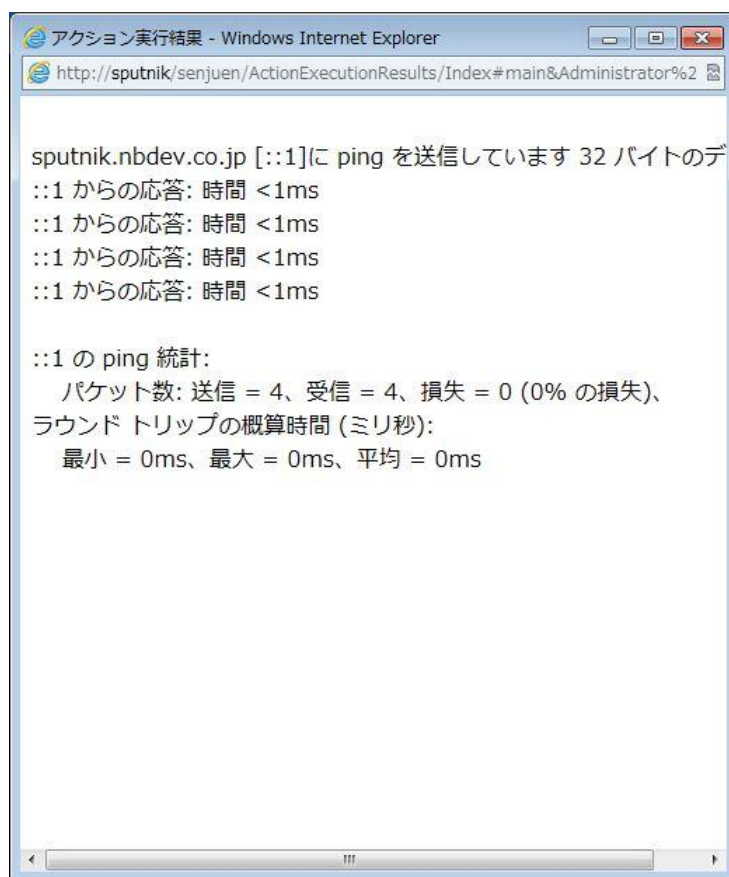


図 2.2-10 アクションの実行結果

<プロパティ>

各メインペインアイテムのコンテキストメニューから[プロパティ]を選択する事で、監視対象となるオブジェクトの定義情報や状態を参照することができます。プロパティには[全般]、[関連ビュー]、[アクション]、[定義]、[状態]のリンクが存在します。

[全般]リンクでは、各メインペインアイテムの ID と説明を参照します(図 2.2-11)。

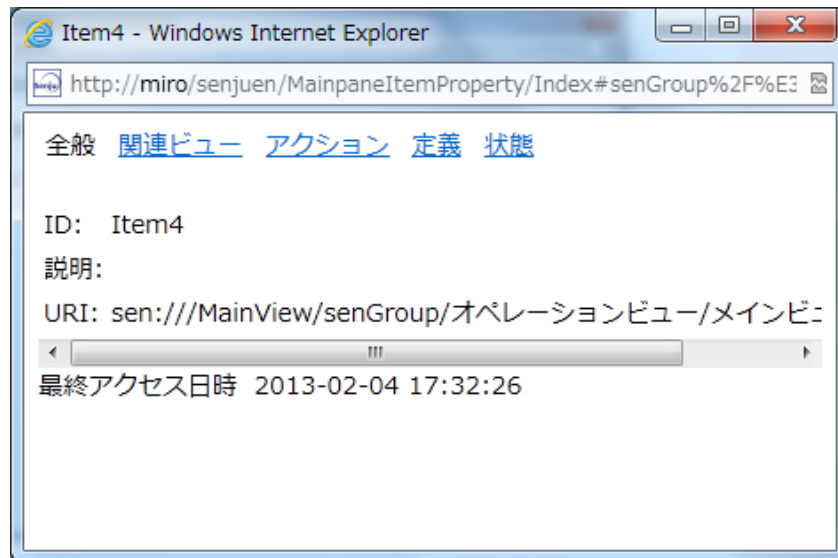


図 2.2-11 メインペインアイテムプロパティ画面 (全般)

[関連ビュー] リンクではコンテキストメニューの[ビューを開く]に表示される URI を参照することができます(図 2.2-12)。

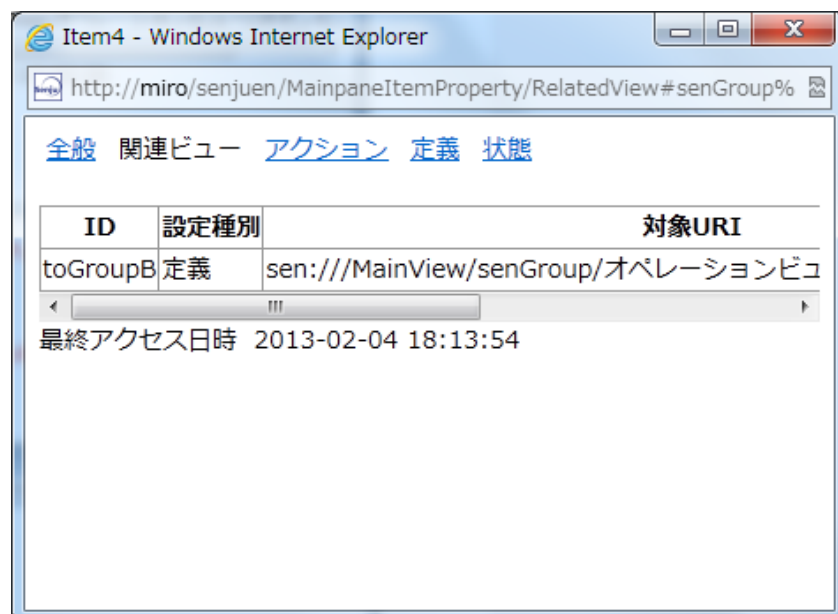


図 2.2-12 メインペインアイテムプロパティ画面 (関連ビュー)

[アクション]リンクではコンテキストメニューの[アクションの実行]に表示されるアクションのコマンドシーケンスを参照することができます(図 2.2-13)。

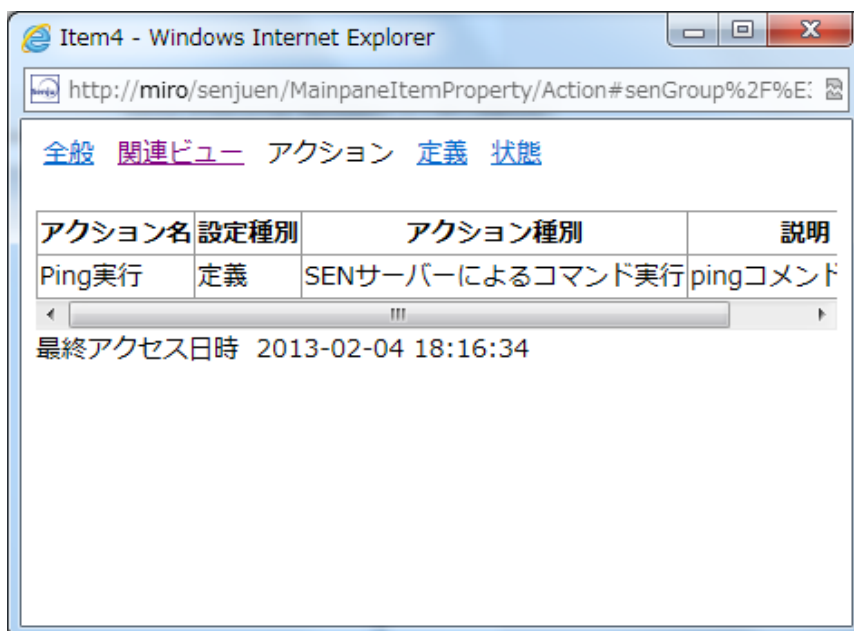


図 2.2-13 メインペインアイテムプロパティ画面 (アクション)

[定義]および[状態]リンクは、ユーザーがルールの中で任意に指定する事のできるプロパティです。通常[定義]プロパティには、監視対象となるオブジェクトについての定義情報(オブジェクト自身を特徴づける属性または監視定義のための属性)を設定します(図 2.2-14)。[状態]プロパティには、監視対象となるオブジェクトについてのステータス情報(オブジェクトの監視ステータス)を設定します(図 2.2-15)。[定義]および[状態]プロパティは、ルールの中で記述します。ルールからのメインペインアイテムプロパティ設定方法については、「5.2.1 ルール内で参照可能な変数」を参照して下さい。

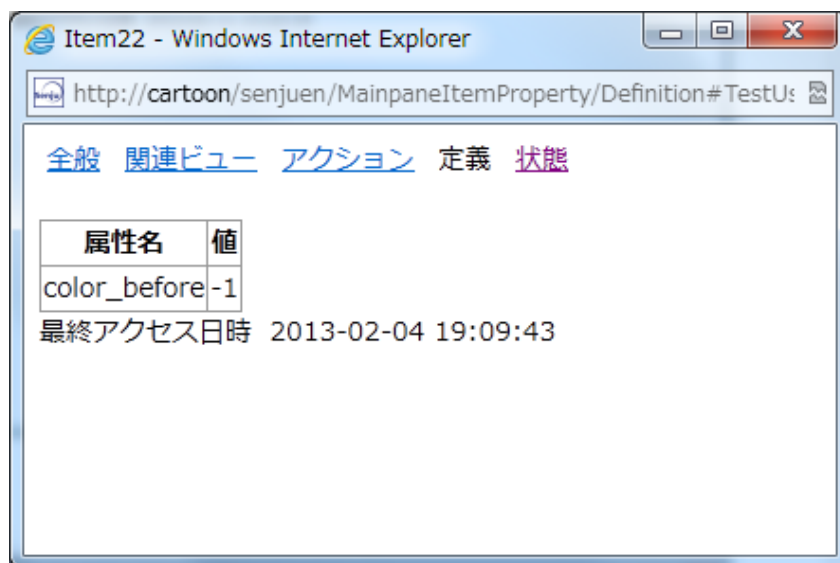


図 2.2-14 メインペインアイテムプロパティ画面 (定義)

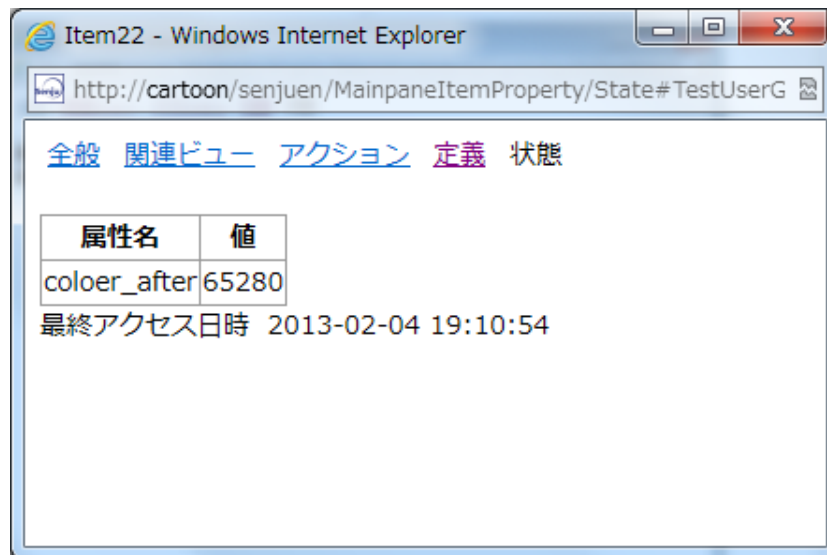


図 2.2-15 メインペインアイテムプロパティ画面 (状態)

メインペインアイテムのダブルクリック

メインペインアイテムのダブルクリックを行った場合は、メインペインアイテムに関連付けられたビューへジャンプ(ハイパーリンク)します。これはメインペインアイテムを選択し、コンテキストメニューから[ビューを開く]を選択した場合と同じ動作です。

関連付けられたビューが存在しないメインペインアイテムをダブルクリックした場合は、何も動作はしません。

また、複数の関連付けられたビューがある場合は、一番先頭にある関連ビューにジャンプします。

2.2.4 イベントビュー

以下メインビューにおける基本操作について詳しく説明します。

イベントビューの表示

イベントビューの基本画面を図 2.2-16 に示します。イベントビューを表示する場合は、メニューバーから[新しいイベントビューを開く]リンクを選択します。

The screenshot displays the 'Senju Enterprise Navigator' interface for the 'イベントビュー' (Event View). At the top, there are navigation links and user information. Below that is a search filter section with various input fields and checkboxes. The main area contains a table of search results. The table has the following columns: シークエンスID, ステータス, 重大度, 管理対象システム名, 管理対象領域名, メッセージ区分, メッセージ識別No, メッセージID, メッセージ種別, 発生日時, 発生元ノード. The table shows 6 rows of data, all with 'オープン' status and 'アダプタ(千手)' as the system name.

シークエンスID	ステータス	重大度	管理対象システム名	管理対象領域名	メッセージ区分	メッセージ識別No	メッセージID	メッセージ種別	発生日時	発生元ノード
273013	オープン	none	アダプタ(千手)	bianchi00000001	N	968205600	ISM131	I	2019/09/12 19:24:02	quasar80
272985	オープン	none	アダプタ(千手)	bianchi00000001	N	968205500	PEX204	E	2019/09/12 19:23:50	bianchi00C
272983	オープン	none	アダプタ(千手)	bianchi00000001	N	968205400	PEX121	I	2019/09/12 19:23:50	bianchi00C
272981	オープン	none	アダプタ(千手)	bianchi00000001	N	968205300	PEX204	E	2019/09/12 19:23:49	bianchi00C
272979	オープン	none	アダプタ(千手)	bianchi00000001	N	968205200	PEX204	E	2019/09/12 19:23:49	bianchi00C
272977	オープン	none	アダプタ(千手)	bianchi00000001	N	968205100	PEX204	E	2019/09/12 19:23:49	bianchi00C

図 2.2-16 イベントビュー画面

SEN Web サービスのイベントビューは、各監視対象(千手、その他運用監視ツール等)において発生する障害事象をはじめとする各種イベントの、メッセージクラスを継承するイベントについて検索が可能です。イベントビューに表示されるイベントは、通常、SEN サーバーに接続する千手マネージャや SNMPトラップ、カスタムメッセージイベント送信コマンドからメッセージとして受信するものですが、監視対象となるオブジェクトの属性や状態の変化も広義のイベントとして扱われます。例えば、千手エージェントの場合、ノード定義情報、ノードステータス情報、実行システム情報、フレームステータス情報などの変化がイベントとして SEN サーバーに伝えられます。

イベントビューのイベントはグループ毎に検索を行います。イベントのグループへの分配方法はルールによって定義します。詳細は、「5.1.6.4 分配ルールの編集」を参照して下さい。検索対象のグループを切り替えるには、上部のユーザーグループ ID のコンボボックスを選択します。イベントビューは、同時に複数表示させる事が可能です。

SEN Web サービスのイベントビューでは、検索を行わない限りイベントは表示されませ

ん。検索条件を指定し「検索」を選択する事で、イベントビューに検索されたイベントを表示する事ができます。検索条件に指定可能な項目を表 2.2-4 イベントビュー検索条件項目一覧に示します。

表 2.2-4 イベントビュー検索条件項目一覧

項目	内容	省略
シーケンス ID	シーケンス ID を指定します。	可能
ステータス	イベントの処理状況を指定します。 デフォルトで全てチェックが入った状態で表示されます。	可能
重大度	イベントの重大度を選択します。	可能
管理対象システム名	管理対象システム名を指定します。	可能
管理対象領域名	管理対象領域名を指定します。	可能
メッセージ区分	メッセージ区分を指定します。	可能
メッセージ識別 No.	メッセージを識別する番号を指定します。	可能
メッセージ ID	メッセージ ID を指定します。	可能
メッセージ種別	メッセージ種別を指定します。	可能
発生日時	イベントの発生日時を指定します。 表示する開始日付と時間、終了日付と時間を指定できます。 日付は YYYY/MM/DD で指定します。 時間は HH:MM:SS で指定します。 デフォルトで以下の状態で表示されます。 開始日付：実行日付の 7 日前 開始時間：“00:00:00” 終了日付：実行日付 終了時間：“23:59:59”	※1
発生元ノード ID	メッセージの発生元を表すノード ID を指定します。	可能
発生元 APPL 名	メッセージの発生元を表すアプリケーション名を指定します。	可能
メッセージテキスト	メッセージ文字列を指定します。	可能
詳細情報	詳細情報を指定します。	可能
表示順	イベントビューに表示されるイベントの表示順を指定します。 昇順・降順の切り替えが可能です。 デフォルトで表示順：シーケンス ID・降順の状態が表示されます。	不可

※1：[時間]が入力済の場合、[日付]は省略できません。



イベント情報の文字列の長さが制限値を超えた場合、SEN Web サービスに接続できません。制限値については[6.2 制限事項]を参照して下さい。

イベントビューに表示されるイベントの項目を表 2.2-5 イベントビュー表示項目一覧に

示します。なお、すべてのイベントおよびそのプロパティの一覧については、「5.2.2 イベントクラス一覧」を参照して下さい。

表 2.2-5 イベントビュー表示項目一覧

項目	内容
シーケンス ID	各イベントに対する ID (Senju Enterprise Navigator システム内部で付与される ID)
ステータス	イベントの処理状況 オープン 受付済 割当済 対処完了 デフォルトはオープンです。
重大度	イベントの重大度 clear(クリア) unknown(不定) warning(警告) minor(軽度) major(重大) critical(致命的) none(なし) この値はルールの中で設定します。ルールアクションを設定しない場合は、デフォルトの重大度は none と表示されます。
管理対象システム名	管理対象システムを表す名称 千手: "アダプタ (千手)" SNMP トラップ受信アダプタ: "アダプタ(SNMP-Trap)" シスログ受信アダプタ: "アダプタ(Syslog)" メール受信アダプタ: "アダプタ(Mail-Receive)" Senju Service Manager 連携アダプタ: "アダプタ (SSM)" イベント連携アダプタ: "アダプタ(イベント連携)" カスタムメッセージイベント送信コマンド: "アダプタ (カスタムメッセージイベント送信コマンド)" 管理プロセス: "管理プロセス" 内部イベント: 管理対象システム名
管理対象領域名	管理対象領域を表す名称 千手: SEN コンフィグレータで設定するドメイン名 SNMP トラップ受信アダプタ: SEN サーバー名 (SNMP-Trap) シスログ受信アダプタ: SEN サーバー名 (Syslog) メール受信アダプタ: SEN コンフィグレータで設定するドメイン名 Senju Service Manager 連携アダプタ: SEN サーバー名 (Senju Service Manager) イベント連携アダプタ: SEN サーバー名 (evtrcv) カスタムメッセージイベント送信コマンド: "アダプタ (カスタムメッセージイベント送信コマンド)"

項目	内容
	” 管理プロセス：”管理プロセス” 内部イベント：管理対象システム名
メッセージ区分	監視対象で発生したメッセージかシステム自身の障害に関わるメッセージかの区分 千手： 表 2.2-6 を参照して下さい。 SNMP トラップ： 表 2.2-7 を参照して下さい。 シスログ： 表 2.2-8 を参照して下さい。 メール： 表 2.2-9 を参照して下さい。 カスタムメッセージイベント送信コマンド：”N” 内部イベント：”S”
メッセージ識別 No.	メッセージを識別する番号 千手：千手メッセージのシーケンス番号 SNMP トラップ：”0” シスログ：”0” メール：”0” カスタムメッセージイベント送信コマンド：引数で指定します。 デフォルトは”0”です。 内部イベント：”0”
メッセージ ID	メッセージ ID
メッセージ種別	メッセージ種別 千手： 表 2.2-10 を参照して下さい。 SNMP トラップ： 表 2.2-11 を参照して下さい。 シスログ： 表 2.2-12 を参照して下さい。 メール： 表 2.2-13 を参照して下さい。 カスタムメッセージイベント送信コマンド：引数で指定します。 内部イベント： 表 2.2-14 を参照して下さい。
発生日時	イベントの発生日時 (YYYY/MM/DD HH:MM:SS)
発生元ノード ID	メッセージの発生元を表すノード ID 千手：発生元ノード ID SNMP トラップ：SNMP トラップ送信元ホスト名または IP アドレス シスログ：シスログ送信元ホスト名または IP アドレス メール：接続先メールサーバー名 カスタムメッセージイベント送信コマンド：引数で指定します。 デフォルトはコマンド実行元ホスト名です。 内部イベント：SEN サーバー名
発生元 APPL 名	メッセージの発生元を表すアプリケーション名 千手：発信元 APPL のノード ID+発信元のアプリ

項目	内容
	ケーション名 SNMP トラップ: "SNMP-Agent"または "sjENX_Trapd" シスログ: "Syslog"または"sjENX_Syslogd" メール: メールメッセージの Xmailer ヘッダーの値 カスタムメッセージイベント送信コマンド: 引数で 指定します。 デフォルトは"sjENX_SendEvent"です。 内部イベント: メッセージの発生元を表すアプリケ ーション名
メッセージテキスト	メッセージ文字列

表 2.2-6 メッセージ区分一覧(千手の場合)

メッセージ区分	内容
"N"	千手メッセージ
"S"	システムメッセージ

表 2.2-7 メッセージ区分一覧(SNMP トラップの場合)

メッセージ区分	内容
"N"	SNMP トラップメッセージ
"S"	システムメッセージ

表 2.2-8 メッセージ区分一覧(シスログの場合)

メッセージ区分	内容
"N"	シスログメッセージ
"S"	システムメッセージ

表 2.2-9 メッセージ区分一覧(メールの場合)

メッセージ区分	内容
"N"	メールメッセージ
"S"	システムメッセージ

表 2.2-10 メッセージ種別一覧(千手の場合)

メッセージ種別	内容
"I"	通常メッセージ
"W"	警告メッセージ
"E"	エラーメッセージ
"R"	応答メッセージ

表 2.2-11 メッセージ種別一覧(SNMP トラップの場合)

メッセージ種別	内容
"I"	通常メッセージ
"W"	警告メッセージ
"E"	エラーメッセージ

表 2.2-12 メッセージ種別一覧(シスログの場合)

メッセージ種別	内容
"I"	通常メッセージ
"W"	警告メッセージ
"E"	エラーメッセージ

表 2.2-13 メッセージ種別一覧(メールの場合)

メッセージ種別	内容
"I"	通常メッセージ
"E"	エラーメッセージ

表 2.2-14 メッセージ種別一覧(内部イベントの場合)

メッセージ種別	内容
"I"	通常メッセージ
"E"	エラーメッセージ

SEN Web サービスでイベント検索時には、最大 500 個のイベントを取得し、検索内容に従ってイベントビューに表示します。500 件を超える検索結果を取得したい場合は、イベントの検索結果をテキストファイルでダウンロードすることができます。



SEN Web サービスで検索が出来るイベントは、メッセージクラスを継承するイベントかつ、検索実行日より過去 7 日間までに発生したイベントが対象となります。



画面に表示されるイベントは、検索条件に該当する上位 500 件までの結果が表示されます。

イベント検索結果のダウンロード

イベント検索結果のダウンロード手順について説明します。

SEN Web サービスのイベントビューでは、イベント検索結果のダウンロードが可能です。検索する場合と同様に検索条件を指定し、「ダウンロード」を選択することで、検索されたイベントの情報をテキストファイルでダウンロードすることができます。検索条件に指定可能な項目は「表 2.2-4 イベントビュー検索条件項目一覧」を参照して下さい。

ダウンロードファイルに出力される項目を表 2.2-15 ダウンロードファイル出力項目一覧 (search condition 部) と表 2.2-16 ダウンロードファイル出力項目一覧 (search result 部) に示します。

表 2.2-15 ダウンロードファイル出力項目一覧 (search condition 部)

項目	内容
ユーザーグループ ID	検索条件に指定されたユーザーグループ ID。
シーケンス ID	検索条件に指定されたシーケンス ID。
ステータス (オープン)	検索条件に指定されたステータス。指定は”ON”、未指定は”OFF”で出力されます。
ステータス (受付済)	検索条件に指定されたステータス。指定は”ON”、未指定は”OFF”で出力されます。
ステータス (割当済)	検索条件に指定されたステータス。指定は”ON”、未指定は”OFF”で出力されます。
ステータス (対処完了)	検索条件に指定されたステータス。指定は”ON”、未指定は”OFF”で出力されます。
重大度	検索条件に指定されたイベントの重大度。
管理対象システム名	検索条件に指定された管理対象システム名。
管理対象領域名	検索条件に指定された管理対象領域名。
メッセージ区分	検索条件に指定されたメッセージ区分。
メッセージ識別 No.	検索条件に指定されたメッセージ識別 No.
メッセージ ID	検索条件に指定されたメッセージ ID。
メッセージ種別	検索条件に指定されたメッセージ種別。
発生日時(From)	検索条件に指定された発生開始日時。 (YYYY/MM/DD HH:MM:SS) 時間が未入力の場合は”00:00:00”で出力されます。
発生日時(To)	検索条件に指定された発生終了日時。 (YYYY/MM/DD HH:MM:SS) 時間が未入力の場合は” 23:59:59”で出力されます。
発生元ノード ID	検索条件で指定された発生元ノード ID。
発生元 APPL 名	検索条件で指定された発生元 APPL 名。
メッセージテキスト	検索条件で指定されたメッセージテキスト。
詳細情報	検索条件で指定された詳細情報。
表示順 (displayorder)	検索条件で指定された表示順。
表示順 (arrangement)	検索条件で指定された表示順。

表 2.2-16 ダウンロードファイル出力項目一覧 (search result 部)

項目	内容
シーケンス ID	各イベントに対する ID (Senju Enterprise Navigator システム内部で付与される ID)
ステータス	イベントの処理状況 オープン 受付済 割当済 対処完了 デフォルトはオープンです。
重大度	イベントの重大度 clear(クリア) unknown(不定) warning(警告) minor(軽度) major(重大) critical(致命的) none(なし) この値はルールの中で設定します。ルールアクションを設定しない場合は、デフォルトの重大度は none と表示されません。
管理対象システム名	管理対象システムを表す名称 千手: "アダプタ (千手)" SNMP トラップ受信アダプタ: "アダプタ(SNMP-Trap)" シスログ受信アダプタ: "アダプタ(Syslog)" メール受信アダプタ: "アダプタ(Mail-Receive)" Senju Service Manager 連携アダプタ: "アダプタ(SSM)" イベント連携アダプタ: "アダプタ(イベント連携)" カスタムメッセージイベント送信コマンド: "アダプタ (カスタムメッセージイベント送信コマンド)" 管理プロセス: "管理プロセス" 内部イベント: 管理対象システム名
管理対象領域名	管理対象領域を表す名称 千手: SEN コンフィグレータで設定するドメイン名 SNMP トラップ受信アダプタ: SEN サーバー名 (SNMP-Trap) シスログ受信アダプタ: SEN サーバー名 (Syslog) メール受信アダプタ: SEN コンフィグレータで設定するドメイン名 Senju Service Manager 連携アダプタ: SEN サーバー名 (Senju Service Manager) イベント連携アダプタ: SEN サーバー名 (evtrcv) カスタムメッセージイベント送信コマンド: "アダプタ (カスタムメッセージイベント送信コマンド)" 管理プロセス: "管理プロセス" 内部イベント: 管理対象システム名
メッセージ区分	監視対象で発生したメッセージかシステム自身の障害に関わるメッセージかの区分

	<p>千手: 表 2.2-6 を参照して下さい。</p> <p>SNMP トラップ: 表 2.2-7 を参照して下さい。</p> <p>シスログ: 表 2.2-8 を参照して下さい。</p> <p>メール: 表 2.2-9 を参照して下さい。</p> <p>カスタムメッセージイベント送信コマンド: "N" 内部イベント: "S"</p>
メッセージ識別 No.	<p>メッセージを識別する番号</p> <p>千手: 千手メッセージのシーケンス番号</p> <p>SNMP トラップ: "0"</p> <p>シスログ: "0"</p> <p>メール: "0"</p> <p>カスタムメッセージイベント送信コマンド: 引数で指定します。</p> <p>デフォルトは"0"です。</p> <p>内部イベント: "0"</p>
メッセージ ID	メッセージ ID
メッセージ種別	<p>メッセージ種別</p> <p>千手: 表 2.2-10 を参照して下さい。</p> <p>SNMP トラップ: 表 2.2-11 を参照して下さい。</p> <p>シスログ: 表 2.2-12 を参照して下さい。</p> <p>メール: 表 2.2-13 を参照して下さい。</p> <p>カスタムメッセージイベント送信コマンド: 引数で指定します。</p> <p>内部イベント: 表 2.2-14 を参照して下さい。</p>
発生日時	イベントの発生日時 (YYYY/MM/DD HH:MM:SS)
発生元ノード ID	<p>メッセージの発生元を表すノード ID</p> <p>千手: 発生元ノード ID</p> <p>SNMP トラップ: SNMP トラップ送信元ホスト名または IP アドレス</p> <p>シスログ: シスログ送信元ホスト名または IP アドレス</p> <p>メール: 接続先メールサーバー名</p> <p>カスタムメッセージイベント送信コマンド: 引数で指定します。</p> <p>デフォルトはコマンド実行元ホスト名です。</p> <p>内部イベント: SEN サーバー名</p>
発生元 APPL 名	<p>メッセージの発生元を表すアプリケーション名</p> <p>千手: 発信元 APPL のノード ID + 発信元のアプリケーション名</p> <p>SNMP トラップ: "SNMP-Agent"または"sjENX_Trapd"</p> <p>シスログ: "Syslog"または"sjENX_Syslogd"</p> <p>メール: メールメッセージの Xmailer ヘッダーの値</p> <p>カスタムメッセージイベント送信コマンド: 引数で指定します。</p> <p>デフォルトは"sjENX_SendEvent"です。</p>

	内部イベント：メッセージの発生元を表すアプリケーション名
イベントクラス名	イベントのクラス名
ドメイン名	イベントのドメイン名を表す名称 千手：SEN コンフィグレータで設定するドメイン名 SNMP トラップ受信アダプタ：SEN サーバー名 (SNMP-Trap) シスログ受信アダプタ：SEN サーバー名 (Syslog) メール受信アダプタ：SEN コンフィグレータで設定するドメイン名 Senju Service Manager 連携アダプタ：SEN コンフィグレータで設定するドメイン名 イベント連携アダプタ：SEN コンフィグレータで設定するドメイン名 カスタムメッセージイベント送信コマンド：“アダプタ（カスタムメッセージイベント送信コマンド）” 管理プロセス：“管理プロセス” 内部イベント：管理対象システム名
元イベント ID	元イベントのシーケンス ID
到着日時	イベントの SEN サーバーへの到着日時 (YYYY/MM/DD HH:MM:SS)
変更日時	イベントの変更日時 (YYYY/MM/DD HH:MM:SS) イベントのプロパティに変更が加わった場合に更新されません。 ルールアクションを設定しない場合、デフォルトは空白になります。
オープンへの変更日時	イベントのステータスがオープンに変更された日時 (YYYY/MM/DD HH:MM:SS)
受付済への変更日時	イベントのステータスが受付済に変更された日時 (YYYY/MM/DD HH:MM:SS) デフォルトは空白になります。
割当済への変更日時	イベントのステータスが割当済に変更された日時 (YYYY/MM/DD HH:MM:SS) デフォルトは空白になります。
対処完了への変更日時	イベントのステータスが対処完了に変更された日時 (YYYY/MM/DD HH:MM:SS) デフォルトは空白になります。
更新モード	イベントの更新モード new(新規) delete(削除) modify(変更)
ユーザーグループ ID	イベントのユーザーグループ ID
メッセージテキスト	メッセージ文字列



SEN Web サービスでダウンロードファイルに出力されるイベントは、メッセージクラスを継承するイベントかつ、検索実行日より過去7日間までに発生したイベントが対象となります。



ダウンロードファイルに出力されるイベントは、検索条件に該当する結果が表示されます。件数の上限はありません。



繰り返しダウンロードした場合、Web ブラウザのキャッシュにより、ダウンロードファイル名に付加文言が付く場合があります。

イベント検索条件の編集

SEN Web サービスのイベントビューでは、イベント検索で指定する検索条件の保存が可能です。検索条件を保存することで次回から検索条件入力の際に、保存した検索条件の読み込みが可能となります。また、保存した検索条件に対して上書きと削除を行うことができます。

<検索条件の保存>

イベントビュー画面で「検索条件保存」を選択すると検索条件入力ダイアログ(図 2.2-17)が表示されます。検索条件入力ダイアログで「表 2.2-4 イベントビュー検索条件保存項目一覧」の項目を指定し、「保存」を選択すると、検索条件に指定した「表 2.2-4 イベントビュー検索条件項目一覧」と「表 2.2-17 イベントビュー検索条件保存項目一覧」の項目が登録されます。

図 2.2-17 イベントビュー検索条件入力ダイアログ

表 2.2-17 イベントビュー検索条件保存項目一覧

項目	内容	省略
ユーザーグループID	イベントビュー表示方法が属すユーザーグループをコンボボックスより選択します。	不可
検索条件名	検索条件名を指定します。	不可



SEN Web サービスでは、名称に改行コードが含まれている場合、Web ブラウザで正しく動作または表示しない場合があります。対象の名称については「6.2 制限事項」を参照して下さい。

<検索条件の上書き>

検索条件入力ダイアログ(図 2.2-17)を開き、登録済みのユーザーグループ ID と検索条件名の組み合わせを入力すると検索条件上書き確認ダイアログ(図 2.2-18)が表示されます。「はい」を選択すると、検索条件が上書き登録されます。

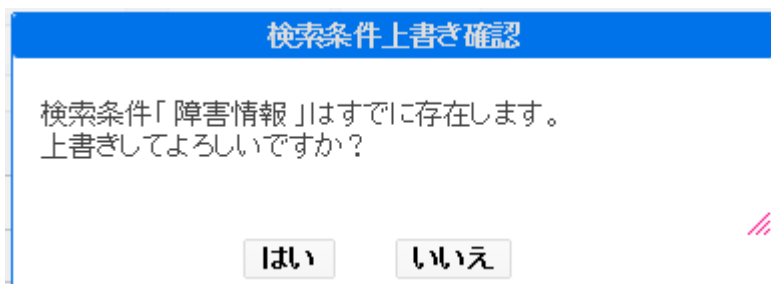


図 2.2-18 イベントビュー検索条件上書き確認ダイアログ

<検索条件の削除>

イベントビュー画面の検索条件コンボボックスから削除したい検索条件名を指定し、「検索条件削除」を選択すると検索条件削除確認ダイアログ(図 2.2-19)が表示されます。「はい」を選択すると、検索条件が削除されます。

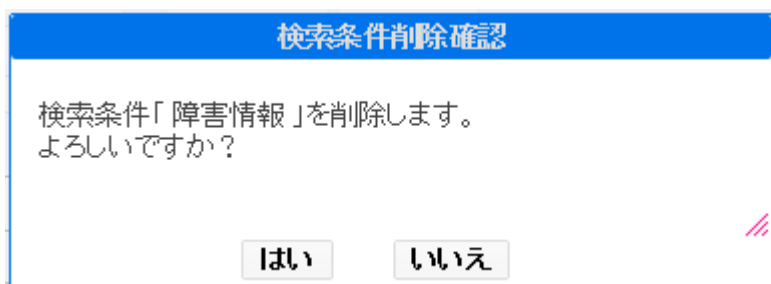


図 2.2-19 イベントビュー検索条件削除確認ダイアログ

<検索条件の読み込み>

イベントビュー画面の検索条件コンボボックスから表示したい検索条件名を指定すると、イベントビュー画面の検索条件入力欄に検索条件が表示されます。

イベントビューに保持されるイベント数について

イベントビューに表示されるイベントは SEN コンソール内のメモリに蓄えられます。イベントを蓄積し続けていくと、以下の基準に従って過去のイベントが自動的にイベントビューから消去されます。

表 2.2-18 イベントビューに保持されるイベント数

項目	内容
イベントステータスが対処完了でない（オープン、受付済、割当済）メッセージクラスに属するイベント	イベントビューにはグループ毎に少なくとも 3000 件保持します。3000 件を超えると過去のイベントから削除する処理が働きます。
それ以外のイベント(対処完了ステータスのメッセージクラスイベント、メッセージクラス以外のイベント)	イベントビューにはグループ毎に少なくとも 1500 件保持します。1500 件を超えると過去のイベントから削除する処理が働きます。



SEN Web サービスでは上記の基準に加えて、発生から 8 日経過したイベントは消去されます。過去 7 日間のイベント数のみ保持します。

コンテキストメニューの操作

SEN Web サービスのイベントビューでは、コンテキストメニューからの操作は実行できません。

メニューの操作

SEN Web サービスのイベントビューにおける各イベントの実行可能な操作について説明します。

<すべて選択>

イベントが表示された状態「すべて選択」を選択すると、表示中のイベントをすべて選択状態にします。

<すべて選択解除>

イベントが表示された状態で「すべて選択解除」を選択すると、表示中のイベントをすべて選択解除状態にします。

<プロパティ>

イベントを1つ選択した状態で「プロパティ」を選択すると、各イベントがもつ属性(プロパティ)情報を参照します。それぞれのカテゴリには以下の情報が入ります。

[全般]リンクでは、イベントの属性およびその値の一覧を表示します(図 2.2-20)。属性は、イベントクラスにより異なります。なお、イベントビュー画面で表示カラムを絞っていても、この画面ですべてのイベント属性を確認できます。



フィールド名	値
イベントクラス名	千手メッセージ
ドメイン名	senwebsj
ステータス	オープン
重大度	none
シーケンスID	211777177
元イベントID	211777174
到着日時	2013-01-30 04:00:54
変更日時	2013-01-30 04:00:55
オープンへの変更日時	2013-01-30 04:00:55
受付済への変更日時	
割当済への変更日時	
対処完了への変更日時	
更新モード	new

図 2.2-20 イベントプロパティ画面 (全般リンク)

[ユーザー定義変数]リンクでは、イベントに対して付加したユーザー定義変数を表示します(図 2.2-21)。ユーザー定義変数はルールの中で記述されます。ルールからのユーザー定義変数の設定方法については、「5.2.1 ルール内で参照可能な変数」を参照して下さい。

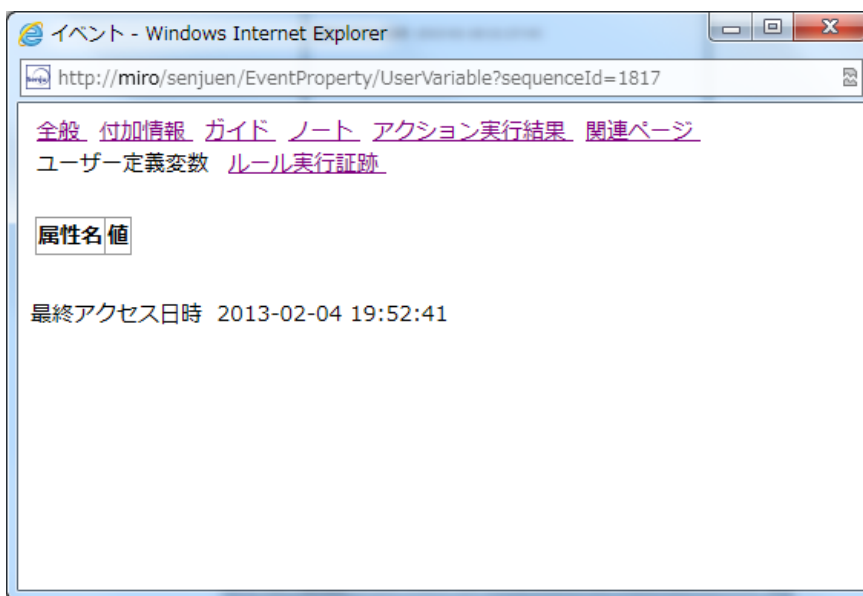


図 2.2-21 イベントプロパティ画面 (ユーザー定義変数リンク)

[関連ページ]リンクでは、イベントに対する関連ビュー一覧を URL 形式で表示します(図 2.2-22)。イベントと関連ビューとの関連付けはルールの中で記述します。ルールからの関連ページの設定方法については、「5.2.1 ルール内で参照可能な変数」を参照して下さい。

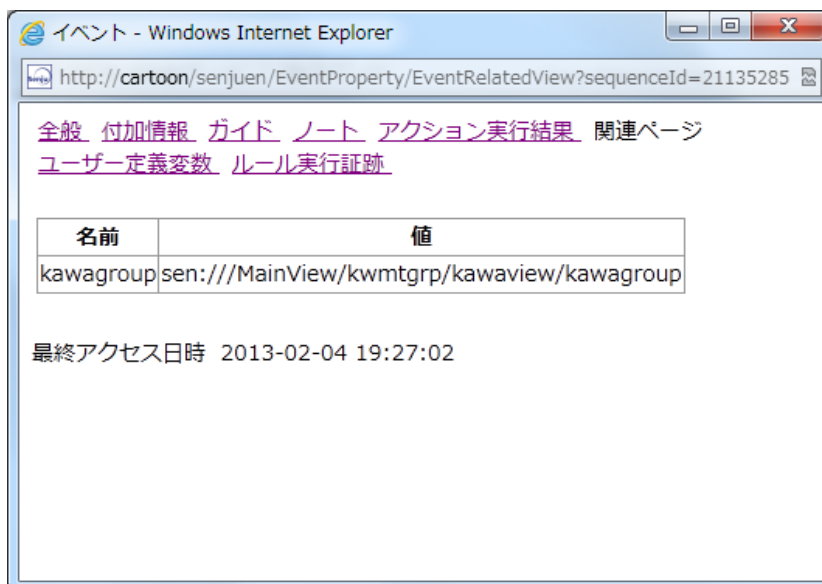


図 2.2-22 イベントプロパティ画面 (関連ページリンク)

[付加情報]タブでは、イベントに対して付加したユーザー定義付加情報を表示します(図 2.2-23)。ユーザー定義付加情報はルールの中で記述されます。ルールからの付加情報の設定方法については、「**5.2.1 ルール内で参照可能な変数**」を参照して下さい。

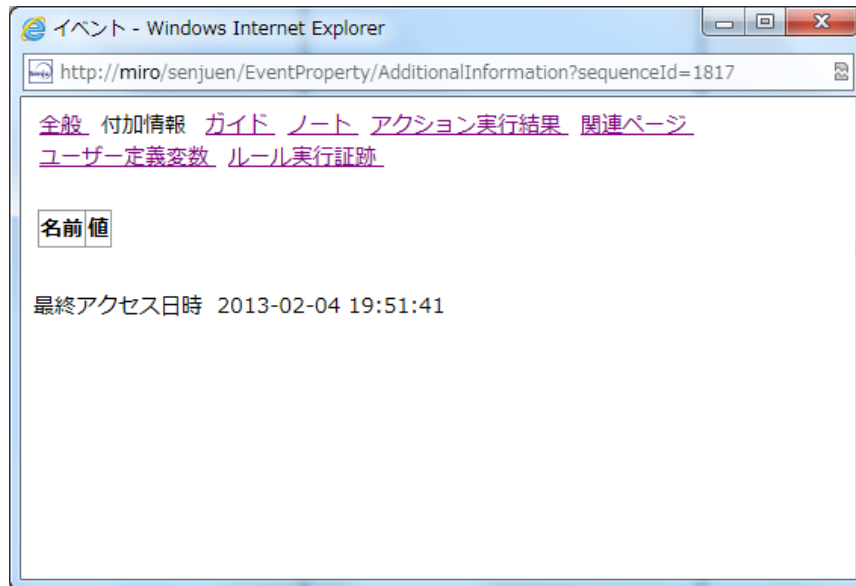


図 2.2-23 イベントプロパティ画面 (付加情報リンク)

[ガイド]リンクでは、イベントに対して付加したガイド情報を表示します(図 2.2-24)。ガイド情報はルールの中で記述されます。ルールからのガイド情報の設定方法については、「**5.2.1 ルール内で参照可能な変数**」を参照して下さい。

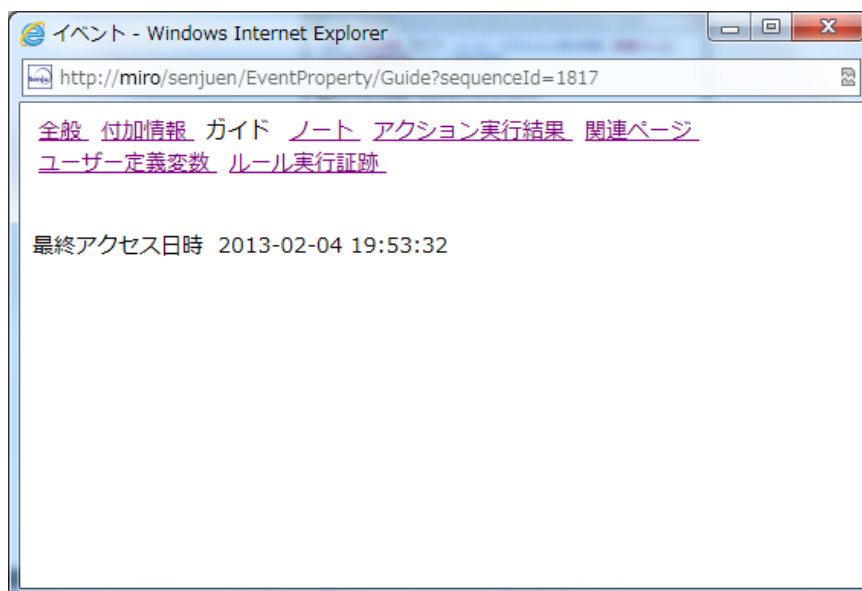


図 2.2-24 イベントプロパティ画面(ガイドリンク)

[ノート]リンクでは、イベントに対して記入したノート一覧を表示します(図 2.2-25)。ノートはイベントビューにて記入します。ノートの記入方法については、「**メニューの操作<ステータス変更>**」を参照して下さい。

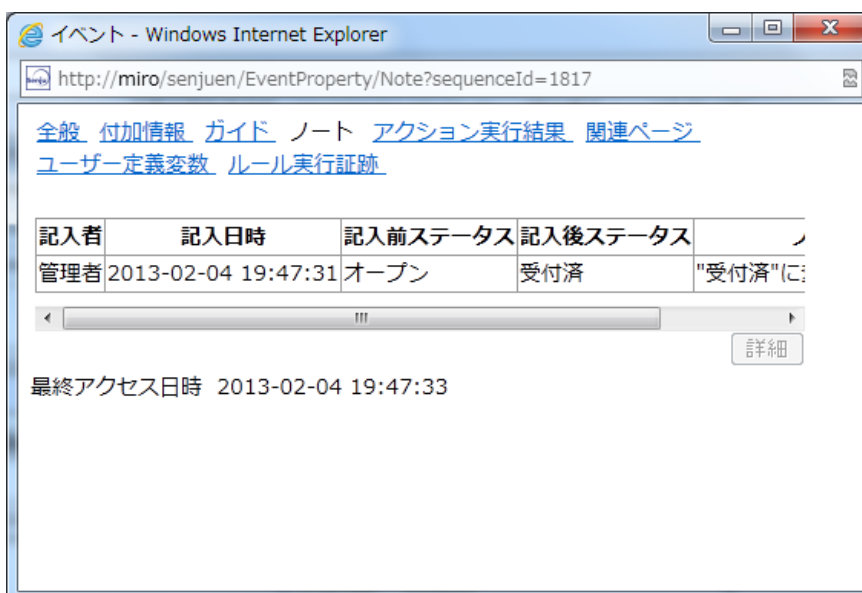


図 2.2-25 イベントプロパティ画面(ノートリンク)

ノート一覧からノートを選択して「詳細」を選択すると、ノートの詳細情報(プロパティ)を参照します。(図 2.2-26)。



図 2.2-26 ノートプロパティ画面

[アクション実行結果]リンクではイベントに関連付けられたアクションの実行結果一覧を表示します。アクションの実行結果を選択すると、そのアクションの標準出力・標準エラーを画面下に表示します(図 2.2-27)。

アクション実行結果の一覧には、アクション ID、アクション名、アクション種別、状態、開始時刻、終了時刻、実行したユーザー、終了コードのカラムがあります。アクション ID のカラムにはアクションに割り振られた ID が表示されます。アクション名のカラムにはアクションを関連付けする時に指定したアクション名が表示されます。アクション種別のカラムには "SEN サーバーによる実行"が表示されます。状態のカラムには"実行中"、"切断"、"終了"が表示されます。開始時刻のカラムにはアクションが開始した時間が表示されます。終了時刻のカラムにはアクションが終了した時間が表示されます。実行したユーザーのカラムにはアクションを実行したユーザー名が表示されます。終了コードカラムにはアクション実行に関連付けられているコマンドシーケンスの終了コードが表示されます。

イベントとアクションとの関連付けはルールアクションとして行います。詳細は、

「5.1.6 ルールの編集」を参照して下さい。

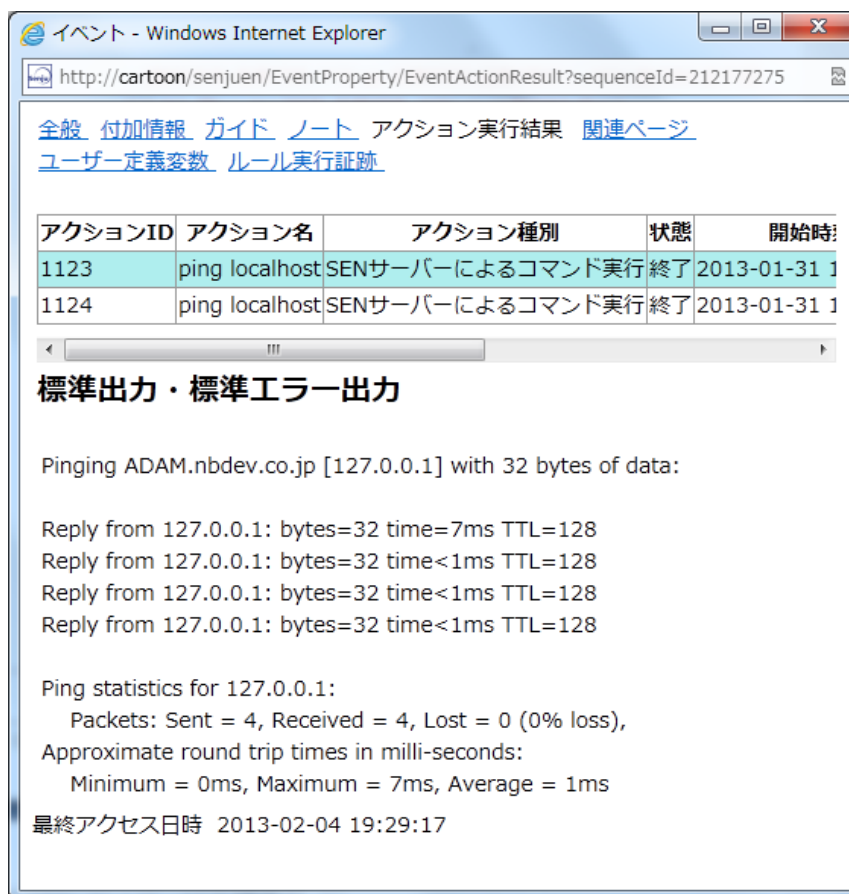


図 2.2-27 イベントプロパティ画面（アクション実行結果リンク）

[ルール実行証跡]リンクでは、ルールセットで処理されたイベントのルール ID ごとの実行証跡を表示します。選択しているイベントが処理されたルールすべてが表示されます(図 2.2-28)。

[ルール実行証跡]タブでは実行状態を"S"、"X"、"E"で表示し、セミコロン区切りでルール ID を表示します。"S"は開始、"X"は実行中、"E"は終了を表します。

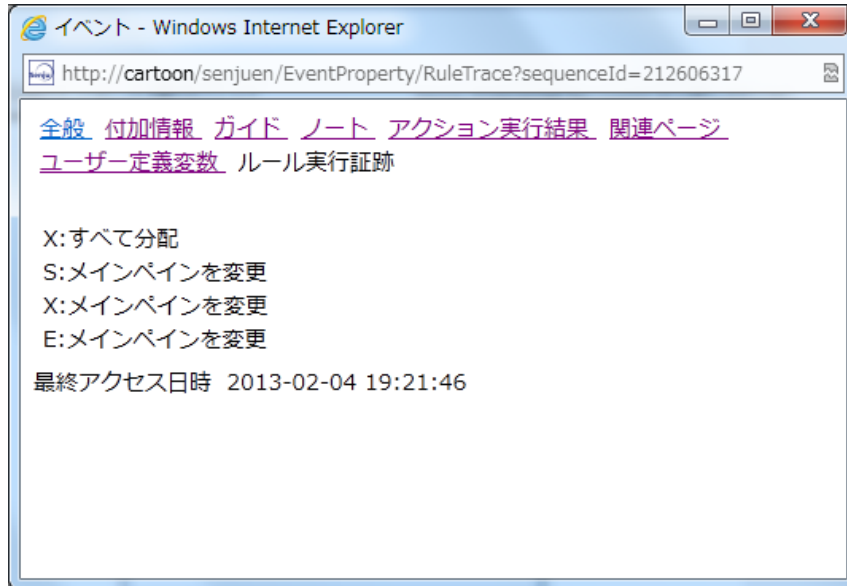


図 2.2-28 イベントプロパティ画面（ルール実行証跡リンク）

<ビューを開く>

イベントに関連付けられたメインビューまたは外部のビュー(Web ブラウザ等)を開きます。イベントを選択し、「ビューを開く」を選択すると、ビュー選択ダイアログが表示されます(図 2.2-29)。ビュー選択ダイアログからビュー名称を選択して「開く」を選択すると、そのイベントに関連付けられたビューを開きます。

イベントに関連付けられたビューが存在しない場合や、複数のイベントを選択した場合には「ビューを開く」ボタンは不活性となります。

イベントとビューとの関連付けはルールアクションとして行います。詳細は、「**5.1.6 ルールの編集**」を参照して下さい。



図 2.2-29 ビュー選択ダイアログ

<アクションの実行>

イベントに関連付けられたアクションを実行します。イベントを選択し、「アクションの実行」を選択すると、アクション選択ダイアログが表示されます(図 2.2-30)。アクション選択ダイアログからアクション名を選択して「実行」を選択すると、そのイベントに関連付けられたアクションを実行します。

イベントに関連付けられたアクションが存在しない場合や複数のイベントを選択した場合には、「アクションの実行」ボタンは不活性となります。

イベントとアクションとの関連付けはルールのアクションとして行います。詳細は、「5.1.6 ルールの編集」を参照して下さい。

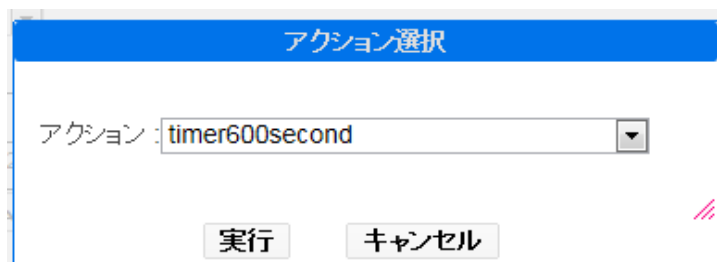


図 2.2-30 アクション選択ダイアログ

「実行」を選択すると、アクションが実行され結果が別ウィンドウに表示されます(図 2.2-31)。「キャンセル」を選択すると、アクションは実行されません。

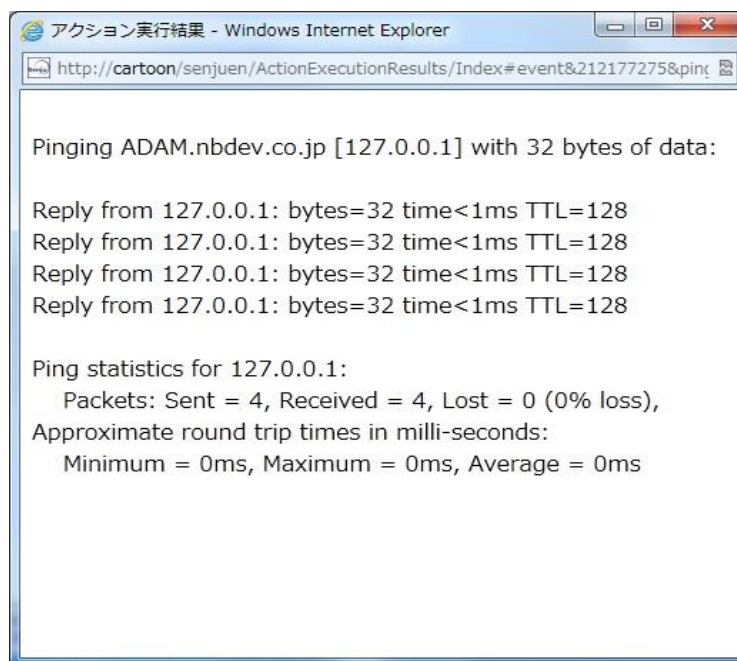


図 2.2-31 アクション実行結果画面

<ステータス変更>

イベントビューに表示されているイベントのステータス変更およびノートの記事を行います。イベントを選択し、「ステータス変更」を選択すると、イベントステータス変更ダイアログ(図 2.2-32)が表示されます。

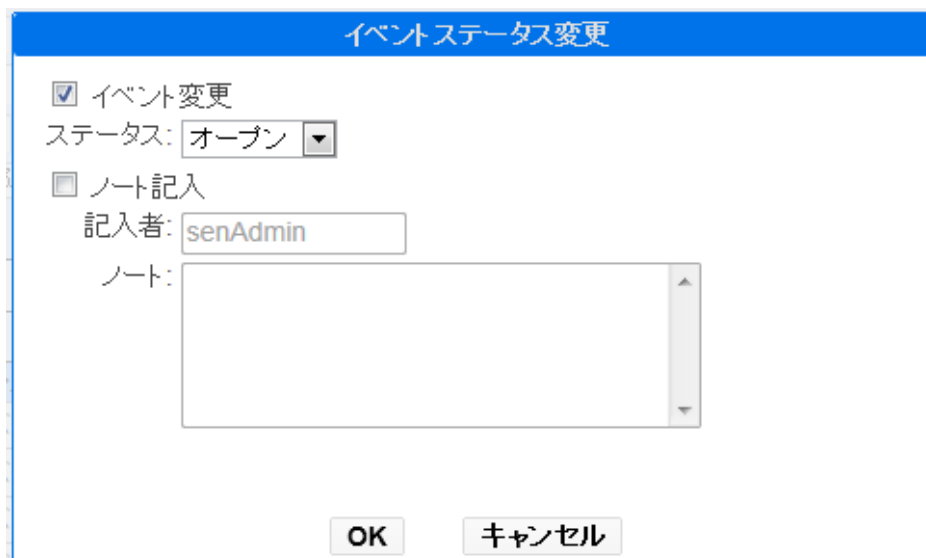


図 2.2-32 イベントステータス変更ダイアログ

[イベント変更]チェックボックスをチェックし、ステータスの変更を行います。ステータスには以下の 4 種類が存在します。[ステータス]コンボボックスから変更する値を選択します。

表 2.2-19 ステータス項目一覧

項目	内容
オープン	イベントが新規に発生した状態を指します。デフォルトではイベントを受信した直後はこの値がセットされます。
受付済	発生したイベントが認知され、受け付けられた状態を指します。
割当済	受け付けられたイベントが担当者に割り当てられた状態を指します。
対処完了	発生したイベントについて対処が完了している状態を指します。

[ノート記入]チェックボックスをチェックし、ノートの記入を行います。ノートの記入では、下記項目を指定します。

表 2.2-20 ノート記入項目一覧

項目	内容	省略
記入者:	ノート記入者の名前を指定して下さい。	不可
ノート:	ステータス変更の理由、対処履歴などの内容を自由に記入して下さい。	可能

なお、ノート記入時には下記情報が同時に保存されます。

表 2.2-21 ノート記入時に保存される情報

項目	内容
記入日時	ノートを記入した日時が保存されます。日時は、SEN サーバーのマシントイムです。
ユーザーID	ノートを記入したユーザーのユーザーID が保存されます。
記入前ステータス	ノート記入前のイベントステータスが保存されます。ノート記入前のイベントステータスとは、イベントステータス変更画面を開いた時のイベントステータスを表します。
記入後ステータス	ノート記入後のイベントステータスが保存されます。

SEN Web サービスではイベントステータス変更ダイアログからイベントプロパティ画面を表示する機能はありません。イベントプロパティ画面については、<プロパティ>の項を参照して下さい。

「OK」を選択する事で、イベントステータス変更とノート記入が行われます。

イベントステータスを変更すると、イベントステータス変更イベントが生成されます。ただし、オープンからオープンのように同じステータスに変更した場合には、イベントステータス変更イベントは生成されません。

複数イベントに対し、同時にイベントステータス変更とノート記入を行う事が可能です。イベントビューのイベントエントリを複数選択し、「ステータス変更」を選択します。

<イベントの詳細>

現在、この機能はサポートされていません。

イベントのダブルクリック

SEN Web サービスでは、イベントビューのダブルクリックをしてもイベントに関連付けられたビューへジャンプ(ハイパーリンク)しません。

イベントビューに表示中のイベント数表示

SEN Web サービスのイベントビューは現在表示中のイベントが何件あるか表示します
(図 2.2-33)。

The screenshot shows the 'Senju Enterprise Navigator' interface. At the top, there are navigation links and user information. Below that is a search filter section with various input fields for event details. A red circle highlights the search results summary: '検索結果取得時間: 2019/09/12 19:25:42 (現在表示 1 ~ 25件/計 206件)'. Below this is a table of event records.

シーケンスID	ステータス	重大度	管理対象システム名	管理対象領域名	メッセージ区分	メッセージ種別	発生日時	発生元ノード
<input type="checkbox"/> 273013	オープン	none	アダプタ(千手)	bianchi00000001	N	!	2019/09/12 19:24:02	quasar80
<input type="checkbox"/> 272985	オープン	none	アダプタ(千手)	bianchi00000001	N	!	2019/09/12 19:23:50	bianchi000
<input type="checkbox"/> 272983	オープン	none	アダプタ(千手)	bianchi00000001	N	!	2019/09/12 19:23:50	bianchi000
<input type="checkbox"/> 272981	オープン	none	アダプタ(千手)	bianchi00000001	N	!	2019/09/12 19:23:49	bianchi000
<input type="checkbox"/> 272979	オープン	none	アダプタ(千手)	bianchi00000001	N	!	2019/09/12 19:23:49	bianchi000
<input type="checkbox"/> 272977	オープン	none	アダプタ(千手)	bianchi00000001	N	!	2019/09/12 19:23:49	bianchi000

図 2.2-33 現在表示しているイベントのイベント数表示例

イベントビューのソーティング

SEN Web サービスではイベント検索時に検索条件項目の表示順で、検索結果についてソート順の昇順・降順の指定が可能です。



検索条件の表示順を選択し、「検索」を選択して検索を行わない限り、表示中のソート順は変わりません。



表示順に指定した項目が同値のイベントが複数ある場合、シーケンス ID・降順で表示されます。

Senju Enterprise Navigator

新しいメインビューを開く 新しいイベントビューを開く バージョン情報 senAdmin ログアウト

ユーザーグループID: Smartグループ 検索条件: 検索条件保存 検索条件削除

シーケンスID ステータス オープン 受付済 割当済 対処完了 重大度

管理対象システム名 管理対象領域名 メッセージ区分

メッセージ識別No メッセージID メッセージ種別

発生日時 2019/09/12 19:20:00 ~ 2019/09/12 23:59:59 発生元ノードID

発生元APPL名 メッセージテキスト 詳細情報

表示順 **シーケンスID** 降順

検索 ダウンロード

検索結果取得時間: 2019/09/12 19:25:42 (現在表示 1 ~ 25件/計 206件)

シーケンスID	ステータス	重大度	管理対象システム名	管理対象領域名	メッセージ区分	メッセージ識別No	メッセージID	メッセージ種別	発生日時	発生元ノードID
273013	オープン	none	アダプタ(千手)	bianchi00000001	N	968205600	!ISM131	I	2019/09/12 19:24:02	quasar80
272985	オープン	none	アダプタ(千手)	bianchi00000001	N	968205500	!PEX204	E	2019/09/12 19:23:50	bianchi00C
272983	オープン	none	アダプタ(千手)	bianchi00000001	N	968205400	!PEX121	I	2019/09/12 19:23:50	bianchi00C
272981	オープン	none	アダプタ(千手)	bianchi00000001	N	968205300	!PEX204	E	2019/09/12 19:23:49	bianchi00C
272979	オープン	none	アダプタ(千手)	bianchi00000001	N	968205200	!PEX204	E	2019/09/12 19:23:49	bianchi00C
272977	オープン	none	アダプタ(千手)	bianchi00000001	N	968205100	!PEX204	E	2019/09/12 19:23:49	bianchi00C

すべて選択 すべて選択解除 プロパティ ビューを開く アクションの実行 ステータス変更

図 2.2-34 イベントビューにおけるソーティング例

イベントの検索

SEN Web サービスでは、表示中のイベントに対してページ内検索機能はありません。検索を行う場合は、再度検索条件を指定して検索を行う、または、ブラウザのテキスト検索機能をご利用下さい。

3 管理ガイド

3

管理ガイド

この章では、Senju Enterprise Navigator の管理方法について詳しく説明します。

3	管理ガイド	3-1
3.1	管理者のタスク	3-4
3.1.1	グループの管理	3-5
3.1.2	ユーザーの管理	3-6
3.1.3	メインビューの管理.....	3-8
3.1.4	イベントビューの管理	3-11
3.1.5	ノウハウビューの管理	3-14
3.1.6	イベントフィルタビューの管理.....	3-15
3.1.7	SEN パフォーマンスビューの管理.....	3-16
3.1.8	ルールセットの管理.....	3-17
3.1.9	コンソールルールの管理.....	3-19
3.1.10	ルール条件の管理.....	3-20
3.1.11	コンソールイベントの管理	3-21
3.1.12	イメージの管理	3-23
3.1.13	エクスポート/インポート	3-24
3.1.14	SEN サーバーにおける各種設定	3-25
3.1.15	SEN コンソールにおける各種設定	3-27
3.2	SEN コンソールからの設定操作	3-29
3.2.1	グループの編集	3-30
3.2.2	ユーザーの編集	3-32
3.2.3	イメージの編集	3-36
3.2.4	SEN サーバー/コンソールの設定	3-38
3.2.5	エクスポート/インポート.....	3-49
3.2.5.1	エクスポート	3-49
3.2.5.2	インポート	3-51
3.2.6	設定時の注意事項.....	3-53
3.2.6.1	同時編集時の保存動作.....	3-53
3.3	維持管理	3-54
3.3.1	SEN サーバーの起動・停止.....	3-55
3.3.2	SEN Web サービスの起動・停止	3-57
3.3.3	SEN サーバー各アダプタの制御	3-59
3.3.3.1	アダプタ稼働状況のモニタ	3-59
3.3.3.2	アダプタの停止.....	3-61
3.3.3.3	アダプタの起動.....	3-62
3.3.3.4	アダプタの強制停止	3-63
3.3.3.5	アダプタの追加.....	3-64
3.3.3.6	アダプタの削除.....	3-65
3.3.4	Web サーバーデーモンの制御.....	3-66

3.3.4.1	アダプタ稼働状況のモニタ	3-66
3.3.4.2	アダプタの停止	3-68
3.3.4.3	アダプタの起動	3-69
3.3.4.4	アダプタの強制停止	3-70
3.3.4.5	アダプタの追加	3-71
3.3.4.6	アダプタの削除	3-72
3.3.5	SEN サーバーのデータバックアップ	3-73
3.3.5.1	SEN サーバーの手動データバックアップ	3-73
3.3.5.2	バックアップデータのリストア	3-74
3.3.6	ログファイルの運用	3-75
3.3.7	添付ファイルの運用	3-81
3.3.7.1	メーラーから受信	3-81
3.3.7.2	千手マネージャから受信	3-81
3.3.8	HTML ファイルの運用	3-82
3.3.8.1	メーラーから受信	3-82
3.3.9	挿入ファイルの運用	3-83
3.3.9.1	メーラーから受信	3-83
3.3.10	SEN サーバー稼働環境の時刻変更	3-84
3.3.11	SEN Web サービス稼働環境の時刻変更	3-85
3.3.12	SEN コンソールダイアログのアイコン変更	3-86
3.3.13	SEN Web サービスログイン画面のアイコン変更	3-87
3.3.14	SEN Web サービス共通画面のロゴ変更	3-88

3.1 管理者のタスク

本節では、管理者が行うべきタスクについて記述します。

3.1.1 グループの管理

グループとは、アクセス権が適用されるリソースをまとめた単位の事です。ここでリソースとは、ユーザー、ビューカテゴリ、ビューアイテムグループ(メインビューのツリーペイン)およびそれに割り付けたメインペイン、イメージ、ルールセット、ルール条件、コンソールルールを指します。

グループは任意に定義可能で、グループには任意のリソースを含む事ができます。例えば、プラットフォーム別グループ(サーバーグループ、ホストグループ、ネットワークグループ)や、顧客別グループ(顧客 A グループ、顧客 B グループ、顧客 C グループ)といったグループ分けが可能です。

グループの新規作成、変更、削除については Administrators 役割をもつユーザーのみ可能です。グループの参照については、全グループの参照は Administrators 役割をもつユーザーのみ可能であり、それ以外のユーザー役割(Managers、Operators、Users)は自グループの参照のみが可能です。ユーザーの役割については、「**3.1.2 ユーザーの管理**」を参照して下さい。

ユーザーグループには、「{SEN マスターグループ}」というデフォルトで用意されたグループがあります。このグループはシステム提供データ(汎用的なイメージやルール)を管理するグループです。「{SEN マスターグループ}」は、変更および削除できません。また「{SEN マスターグループ}」への新規リソースの追加および、既存リソースの変更、削除はできません。



SEN Web サービスを利用している環境でユーザーグループの追加/変更/削除を行う場合、SEN Web サービスの IIS を停止してから行って下さい。

3.1.2 ユーザーの管理

Senju Enterprise Navigator におけるユーザーは、役割とグループにより規定されます。すべてのユーザーはいずれかの役割を持ち、グループに割り当てられます。

役割は、Senju Enterprise Navigator システムにおける各種リソースにアクセスする際の権限を規定するものです。役割には以下の種類があります。

<i>Administrators</i>	ユーザー、グループの作成、変更、削除および、すべてのグループのリソースに対する編集を含むあらゆる操作を行うことができる役割。 Administrators 役割ユーザーはグループには所属せず、すべてのグループにアクセスできます。
<i>Managers</i>	グループ内におけるユーザーの作成、変更、グループにおけるリソースに対する作成、編集および操作を行う事ができる役割。
<i>Operators</i>	グループにおけるリソースに対する操作を行う事ができる役割。
<i>Users</i>	グループにおけるリソースの参照を行う事ができる役割。

役割には、以下の包含関係があります。

Administrators > Managers > Operators > Users

ユーザーの新規作成、編集、削除については、Administrators 役割または Managers 役割 (ただし所属グループの範囲内)をもつユーザーのみ可能です。

ユーザーの参照については、Administrators 役割を持つユーザーは全ユーザーの参照が可能であり、それ以外のユーザー(Managers、Operators、Users)は、自グループに所属するユーザーの参照のみ可能です。

各役割の権限を表 3.1-1 に示します。

表 3.1-1 各役割の権限

	Administrators	Managers	Operators	Users
グループに対する処理				
グループの作成	◎	×	×	×
グループの編集	◎	×	×	×
グループの削除	◎	×	×	×
グループの参照	◎	○	○	○
ユーザーに対する処理				
ユーザーの作成	◎	○	×	×
ユーザーの編集	◎	○	×	×
ユーザーの削除	◎	○	×	×
ユーザーの参照	◎	○	○	○
リソースに対する処理				
リソースの作成	◎	○	×	×
リソースの編集	◎	○	×	×
リソースの削除	◎	○	×	×
リソースの操作	◎	○	○	×
リソースの参照	◎	○	○	○

◎：すべてのグループに対して可能

○：自グループに対してのみ可能

×：不可



ユーザーが複数のグループに所属する場合の扱いは若干複雑です。例えば、あるユーザーAはグループXに所属するとし、ユーザーBはグループXとZに所属するとします。このときグループXのManagers役割ユーザーCは、ユーザーAの属性を変更したり、削除する事が可能ですが、ユーザーBについては参照はできますが、変更や削除を行う事はできません。すなわち他のユーザー属性の変更や削除を行う事ができるユーザーは、変更対象となるユーザーが所属するすべてのグループに属し、かつそのすべてのグループに対してManagers役割以上の権限を有する必要があります。また、グループXのOperators役割ユーザーDは、ユーザーA及びBの参照のみできます。



SEN Web サービスを利用している環境でユーザーの追加/変更/削除を行う場合、SEN Web サービスのIISを停止してから行って下さい。

3.1.3 メインビューの管理

各グループのメインビューの管理は、そのグループに所属する Managers 役割以上のユーザーが行います。

メインビューの管理で行うべきタスクは以下のとおりです。また、各役割の権限を表 3.1-2 に示します。

ビューアイテムグループのリセット及び定義の反映については、運用要件に応じた権限の変更が可能です。権限の変更については、別冊の「**インストールガイド**」の「**6.2.6 Senju Enterprise Navigator 各種権限の変更手順**」を参照して下さい。

メインペインの新規作成、編集、削除

ユーザーが所属するグループのメインペインの作成、編集、削除を行います。

メインペイン(定義)の新規作成、編集、削除は、Managers 役割以上のユーザーが可能です。

メインペインの作成、編集手順については、「**4.1 メインペインの作成・編集手順**」を参照して下さい。

ビューカテゴリの新規作成、編集、削除

ユーザーが所属するグループのビューカテゴリの作成、編集、削除を行います。

ビューカテゴリの新規作成、変更、削除は、Managers 役割以上のユーザーが可能です。

ビューカテゴリの作成、変更手順については、「**2.1.5 メインビュー**」を参照して下さい。

ビューアイテムグループ(ツリーペインのノード)の新規作成、編集、削除

ユーザーが所属するグループのビューアイテムグループの作成、変更、削除を行います。

ビューアイテムグループの作成、変更、削除は、Managers 役割以上のユーザーが可能です。

ビューアイテムグループの作成、変更手順については、「**2.1.5 メインビュー**」を参照して下さい。

メインペインアイテムのリセットおよび定義の反映

ユーザーが所属するグループのビューアイテムグループに割り付けられたメインペインアイテムのリセットおよび定義の反映を行います。

ビューアイテムグループに割り付けられた各メインペインのメインペインアイテムのリセットは、Operators 役割以上のユーザーが可能です。ビューアイテムグループのコンテキストメニューからのメインペインの全アイテムのリセットおよび定義の反映は、Operators 役割以上のユーザーが可能です。

リセットおよび定義反映手順については、「**2.1.5 メインビュー**」を参照して下さい。

メインペインアイテムへの関連ビューの新規作成、変更、削除

ユーザーが所属するグループのビューアイテムグループに割り付けられたメインペインアイテムへの関連ビューの新規作成、変更、削除を行います。

ビューアイテムグループに割り付けられたメインペインアイテムへの関連ビューの新規作成、変更、削除は、Managers 役割以上のユーザーが可能です。

関連ビューの新規作成、変更、削除については、「**2.1.5 メインビュー**」を参照して下さい。

メインペインアイテムへのアクションの新規作成、変更、削除

ユーザーが所属するグループのビューアイテムグループに割り付けられたメインペインアイテムへのアクションの新規作成、変更、削除を行います。

ビューアイテムグループに割り付けられたメインペインアイテムへのアクションの新規作成、変更、削除は Managers 役割以上のユーザーが可能です。

アクションの新規作成、変更、削除については、「**2.1.5 メインビュー**」を参照して下さい。

メインペインアイテムからのアクションの実行

ユーザーが所属するグループのビューアイテムグループに割り付けられたメインペインアイテムからアクションの実行を行います。

ビューアイテムグループに割り付けられたメインペインアイテムからのアクションの実行は Operators 役割以上のユーザーが可能です。

アクションの実行については、「**2.1.5 メインビュー**」を参照して下さい。

メインペインアイテムのプロパティ参照

メインペインが属すグループに対するメインペインアイテムのプロパティを参照できます。

各メインペインアイテムのプロパティ参照は、Users 役割以上のユーザーで可能です。

表 3.1-2 メインビュー/メインペインの権限

	Administrators	Managers	Operators	Users
メインペインに対する処理				
メインペインの作成	◎	○	×	×
メインペインの編集	◎	○	×	×
メインペインの削除	◎	○	×	×
ビューカテゴリに対する処理				
ビューカテゴリの作成	◎	○	×	×
ビューカテゴリの編集	◎	○	×	×
ビューカテゴリの削除	◎	○	×	×
ビューアイテムグループに対する処理				
ビューアイテムグループの作成	◎	○	×	×

	Administrators	Managers	Operators	Users
ビューアイテムグループの編集	◎	○	×	×
ビューアイテムグループの削除	◎	○	×	×
ビューアイテムグループのリセット	◎	○	○	×
ビューアイテムグループの定義の反映	◎	○	○	×
メインペインアイテムに対する処理				
メインペインアイテムのリセット	◎	○	○	×
メインペインアイテムへの関連ビューの追加	◎	○	×	×
メインペインアイテムへの関連ビューの変更	◎	○	×	×
メインペインアイテムへの関連ビューの削除	◎	○	×	×
メインペインアイテムへのアクションの追加	◎	○	×	×
メインペインアイテムへのアクションの変更	◎	○	×	×
メインペインアイテムへのアクションの削除	◎	○	×	×
メインペインアイテムへのアクションの実行	◎	○	○	×
メインペインアイテムのプロパティ参照	◎	○	○	○

◎：すべてのグループに対して可能

○：自グループに対してのみ可能

×：不可

3.1.4 イベントビューの管理

イベントビューの管理で行うべきタスクは以下のとおりです。また、各役割の権限を表 3.1-3 に示します。

イベントステータスの変更及びノートの記事については、運用要件に応じた権限の変更が可能です。権限の変更については、別冊の「**インストールガイド**」の「**6.2.6 Senju Enterprise Navigator 各種権限の変更手順**」を参照して下さい。

イベント表示方法の新規作成、変更、削除

ユーザーが所属するグループのイベント表示方法の新規作成、変更、削除を行います。

イベント表示方法の新規作成、変更、削除は Managers 役割以上のユーザーで可能です。

イベント表示方法の新規作成、変更、削除については、「**2.1.6 イベントビュー**」を参照して下さい。

過去イベントの取得

日時範囲を指定し過去イベントの取得を行います。過去イベントの種類には、SEN サーバーが受信したルール実行前の到着イベントと、分配ルールにより各グループに振り分けられた分配後イベントを指定します。

到着イベントに対する過去イベントの取得は、Administrators 役割のユーザーのみ可能です。

分配後イベントに対する過去イベントの取得は、Users 役割以上のユーザーで可能です。

ビューの参照

イベントに関連付けられたメインビューまたは外部のビュー(Web ブラウザ等)を開きます。

関連するビューの参照は、Users 役割以上のユーザーで可能です。

関連するビューの参照については、「**2.1.6 イベントビュー**」を参照して下さい。

イベントステータスの変更

イベントステータスの変更を行います。対象となるイベントは、分配ルールによりそのユーザーが属するグループに振り分けられたイベントです。

イベントステータスの変更は、Operators 役割以上のユーザーで可能です。

イベントステータスの変更については、「**2.1.6 イベントビュー**」を参照して下さい。

ノートの記入

イベントに対しノートの記入を行います。対象となるイベントは、分配ルールによりそのユーザーが属するグループに振り分けられたイベントです。

ノートの記入は、Operators 役割以上のユーザーで可能です。

ノートの記入については、「**2.1.6 イベントビュー**」を参照して下さい。

アクションの実行

イベントに関連付けられたアクションを実行します。

アクションの実行は、Operators 役割以上のユーザーで可能です。

アクションの実行については、「**2.1.6 イベントビュー**」を参照して下さい。

メールの送信

テンプレートファイルによりイベントに関連付けられたメールを送信します。

メールの送信は、Operators 役割以上のユーザーで可能です。

メールの送信については、「**2.1.6 イベントビュー**」を参照して下さい。

テンプレートファイルについては、別冊の「**インストールガイド**」の「**6.2.7 メール自動作成機能のテンプレート**」を参照して下さい。

報告書の作成

テンプレートファイルによりイベントに関連付けられた報告書を作成します。

報告書の作成は、Operators 役割以上のユーザーで可能です。

報告書の作成については、「**2.1.6 イベントビュー**」を参照して下さい。

テンプレートファイルについては、別冊の「**インストールガイド**」の「**6.2.8 報告書自動作成機能のテンプレート**」を参照して下さい。

イベントフィルタの新規作成

ユーザーが所属するグループのイベントフィルタの新規作成を行います。

イベントフィルタの新規作成は Operators 役割以上のユーザーで可能です。

イベントフィルタの新規作成については、「**2.1.6 イベントビュー**」を参照して下さい。

ルール条件の新規作成

選択したイベントを元にユーザーが所属するグループのルール条件の新規作成を行います。対象となるイベントは、分配ルールによりそのユーザーが属するグループに振り分けられたイベントです。

ルール条件の新規作成は Managers 役割以上のユーザーで可能です。

ルール条件の新規作成については、「**2.1.6 イベントビュー**」を参照して下さい。

ノウハウの新規作成

イベントに対してノウハウの新規作成を行います。対象となるイベントは、分配ルールによりそのユーザーが属するグループに振り分けられたイベントです。

ノウハウの新規作成は Managers 役割以上のユーザーで可能です。

ノウハウの新規作成については、「**2.1.6 イベントビュー**」を参照して下さい。

ルールセットのシミュレーション

イベントに対してルールセットのシミュレーションを行います。

ルールセットのシミュレーションは Administrators 役割のユーザーのみ可能です。

ルールセットのシミュレーションについては、「**5.1.10 ルールセットのシミュレーション**」を参照して下さい。

イベントプロパティの参照

イベントプロパティの参照を行います。対象となるイベントは、分配ルールによりそのユーザーが属するグループに振り分けられたイベントです。

イベントプロパティの参照は、Users 役割以上のユーザーで可能です。

イベントプロパティの参照については、「**2.1.6 イベントビュー**」を参照して下さい。

表 3.1-3 イベントビューの権限

	Administrators	Managers	Operators	Users
イベント表示方法に対する処理				
イベント表示方法の作成	◎	○	×	×
イベント表示方法の変更	◎	○	×	×
イベント表示方法の削除	◎	○	×	×
過去イベントの取得に対する処理				
到着イベントの取得	◎	×	×	×
分配後イベントの取得	◎	○	○	○
イベントに対する処理				
関連するビューの参照	◎	○	○	○
イベントステータスの変更	◎	○	○	×
ノートの記入	◎	○	○	×
アクションの実行	◎	○	○	×
メールの送信	◎	○	○	×
報告書の作成	◎	○	○	×
イベントフィルタの作成	◎	○	○	×
ルール条件の作成	◎	○	×	×
ノウハウの作成	◎	○	×	×
ルールセットのシミュレーション	◎	×	×	×
イベントプロパティの参照	◎	○	○	○

◎：すべてのグループに対して可能

○：自グループに対してのみ可能

×：不可

3.1.5 ノウハウビューの管理

ノウハウビューの管理で行うべきタスクは以下のとおりです。また、各役割の権限を表 3.1-4 に示します。

ノウハウの新規作成、変更、削除については、運用要件に応じた権限の変更が可能です。権限の変更については、別冊の「インストールガイド」の「6.2.6 Senju Enterprise Navigator 各種権限の変更手順」を参照して下さい。

ノウハウの新規作成、変更、削除

ユーザーが所属するグループのノウハウの新規作成、変更、削除を行います。

ノウハウの新規作成、変更、削除は、Managers 役割以上のユーザーで可能です。

ノウハウの新規作成、変更、削除については、「2.1.7 ノウハウビュー」を参照して下さい。

ノウハウプロパティの参照

ユーザーが所属するグループのノウハウプロパティの参照を行います。

ノウハウプロパティの参照は、Users 役割以上のユーザーで可能です。

ノウハウプロパティの参照については、「2.1.7 ノウハウビュー」を参照して下さい。

表 3.1-4 ノウハウビューの権限

	Administrators	Managers	Operators	Users
ノウハウに対する処理				
ノウハウの作成	◎	○	×	×
ノウハウの変更	◎	○	×	×
ノウハウの削除	◎	○	×	×
ノウハウの参照	◎	○	○	○

◎：すべてのグループに対して可能

○：自グループに対してのみ可能

×：不可

3.1.6 イベントフィルタビューの管理

イベントフィルタビューの管理で行うべきタスクは以下のとおりです。また、各役割の権限を表 3.1-5 に示します。

イベントフィルタの新規作成、変更、削除

ユーザーが所属するグループのイベントフィルタの新規作成、変更、削除を行います。
 イベントフィルタの新規作成、変更、削除は、Operators 役割以上のユーザーで可能です。
 イベントフィルタの新規作成、変更、削除については、「**2.1.9 イベントフィルタビュー**」を参照して下さい。

イベントフィルタプロパティの参照

ユーザーが所属するグループのイベントフィルタプロパティの参照を行います。
 イベントフィルタプロパティの参照は、Users 役割以上のユーザーで可能です。
 イベントフィルタプロパティの参照については、「**2.1.9 イベントフィルタビュー**」を参照して下さい。

表 3.1-5 イベントフィルタビューの権限

	Administrators	Managers	Operators	Users
イベントフィルタに対する処理				
イベントフィルタの作成	◎	○	○ ※1	×
イベントフィルタの変更	◎	○	○ ※1	×
イベントフィルタの削除	◎	○	○	×
イベントフィルタの参照	◎	○	○	○

◎：すべてのグループに対して可能

○：自グループに対してのみ可能

×：不可

※1：「適用場所」が「グループ別ルールの実行後」のみ作成及び変更可能

3.1.7 SEN パフォーマンスビューの管理

SEN パフォーマンスビューの管理で行うべきタスクは以下のとおりです。また、各役割の権限を表 3.1-6 に示します。

SEN パフォーマンス表示方法の新規作成、変更、削除

SEN パフォーマンス表示方法の新規作成、変更、削除を行います。

SEN パフォーマンスの新規作成、変更、削除は、Managers 役割以上のユーザーで可能です。

SEN パフォーマンス表示方法の新規作成、変更、削除については、「2.1.10 SEN パフォーマンスビュー」を参照して下さい。

SEN パフォーマンス表示方法プロパティの参照

ユーザーが所属するグループの SEN 表示方法プロパティの参照を行います。

SEN パフォーマンス表示方法プロパティの参照は、Users 役割以上のユーザーで可能です。

SEN パフォーマンス表示方法プロパティの参照については、「2.1.10 SEN パフォーマンスビュー」を参照して下さい。

表 3.1-6 SEN パフォーマンス表示方法の権限

	Administrators	Managers	Operators	Users
SENパフォーマンス表示方法に対する処理				
SENパフォーマンス表示方法の作成	◎	○	×	×
SENパフォーマンス表示方法の変更	◎	○	×	×
SENパフォーマンス表示方法の削除	◎	○	×	×
SENパフォーマンス表示方法の参照	◎	○	○	○

◎ : すべてのグループに対して可能

○ : 自グループに対してのみ可能

× : 不可

3.1.8 ルールセットの管理

ルールセットの管理で行うべきタスクは以下のとおりです。また、各役割の権限を表 3.1-7 に示します。

ルールセットの新規作成、変更、削除

ルールセットの新規作成、プロパティの変更、削除を行います。

ルールセットの新規作成、変更、削除は、Administrators 役割のユーザーのみ可能です。

ルールセットの新規作成、変更、削除については、「**5.1.6 ルールの編集**」を参照して下さい。

ルールセットへのルールの追加、変更、削除

ルールセットへの共通ルール、分配ルール、グループ別ルール、グローバル定義ルールの追加、変更、削除を行います。

ルールセットへの共通ルール、分配ルールならびにグローバル定義ルールの追加、変更、削除は、Administrators 役割のユーザーのみ可能です。Administrators 役割以外のユーザーは、参照のみ可能です。

各グループ別ルールの追加、変更、削除は、そのグループに属す Managers 役割以上のユーザーで可能です。Operators 役割および Users 役割ユーザーは、自分の所属するグループのルールに対して参照のみが可能です。

ルールセットへのルールの追加、変更、削除については、「**5.1.6 ルールの編集**」を参照して下さい。

ルールセットの保存

編集したルールセットの保存を行います。

ルールセットの保存は、Managers 役割以上のユーザーで可能です。

ルールセットの保存については、「**5.1.6 ルールの編集**」を参照して下さい。

ルールセットの反映

新規作成または変更したルールセットを有効にするため、ルールセットの反映を行います。

ルールセットの反映は、Administrators 役割のユーザーのみ可能です。

ルールセットの反映については、「**5.1.8 ルールセットの反映**」を参照して下さい。

ルールセットのシミュレーション

イベントに対してルールセットのシミュレーションを行います。

ルールセットのシミュレーションは、Administrators 役割のユーザーのみ可能です。

ルールセットのシミュレーションについては、「5.1.10 ルールセットのシミュレーション」を参照して下さい。

表 3.1-7 ルールセットの権限

	Administrators	Managers	Operators	Users
ルールセットに対する処理				
ルールセットの作成	◎	×	×	×
ルールセットのプロパティの変更	◎	×	×	×
ルールセットの削除	◎	×	×	×
ルールセットへの共通ルールの追加	◎	×	×	×
ルールセットの共通ルールの変更	◎	×	×	×
ルールセットの共通ルールの削除	◎	×	×	×
ルールセットの共通ルールの参照	◎	◎	◎	◎
ルールセットの共通ルールの関数・変数定義の編集	◎	×	×	×
ルールセットの共通ルールの関数・変数定義の参照	◎	◎	◎	◎
ルールセットへの分配ルールの追加	◎	×	×	×
ルールセットの分配ルールの変更	◎	×	×	×
ルールセットの分配ルールの削除	◎	×	×	×
ルールセットの分配ルールの参照	◎	◎	◎	◎
ルールセットへのグループ別ルールの追加	◎	○	×	×
ルールセットのグループ別ルールの変更	◎	○	×	×
ルールセットのグループ別ルールの削除	◎	○	×	×
ルールセットのグループ別ルールの参照	◎	○	○	○
ルールセットのグループ別ルールの関数・変数定義の編集	◎	○	×	×
ルールセットのグループ別ルールの関数・変数定義の参照	◎	○	○	○
ルールセットのグローバル定義ルールの編集	◎	×	×	×
ルールセットのグローバル定義ルールの参照	◎	◎	◎	◎
ルールセットの保存	◎	○	×	×
ルールセットの反映	◎	×	×	×
ルールセットのシミュレーション	◎	×	×	×

◎：すべてのグループに対して可能

○：自グループに対してのみ可能

×：不可

3.1.9 コンソールルールの管理

コンソールルールの管理で行うべきタスクは以下のとおりです。また、各役割の権限を表 3.1-8 に示します。

コンソールルールの編集

ユーザーが所属するグループのコンソールルールの編集を行います。

コンソールルールの編集は、Managers 役割以上のユーザーが可能です。Operators 役割および Users 役割ユーザーは、自分の所属するグループのコンソールルールに対して参照のみが可能です。

コンソールルールについては、「5.1.7 コンソールルールの編集」を参照して下さい。

表 3.1-8 コンソールルールの権限

	Administrators	Managers	Operators	Users
コンソールルールに対する処理				
コンソールルールの編集	◎	○	×	×
コンソールルールの参照	◎	○	○	○

◎ : すべてのグループに対して可能

○ : 自グループに対してのみ可能

× : 不可

3.1.10 ルール条件の管理

ルール条件の管理で行うべきタスクは以下のとおりです。また、各役割の権限を表 3.1-9 に示します。

ルール条件の新規作成

ユーザーが所属するグループのルール条件の新規作成を行います。

ルール条件の新規作成は、Managers 役割以上のユーザーが可能です。Operators 役割および Users 役割ユーザーは、自分の所属するグループに対してルール条件の参照のみが可能です。

ルール条件の新規作成については、「**5.1.4 ルール条件の編集**」を参照して下さい。

ルール条件の変更

ユーザーが所属するグループのルール条件の変更を行います。

ルール条件の変更は、Managers 役割以上のユーザーが可能です。

ルール条件の変更については、「**5.1.4 ルール条件の編集**」を参照して下さい。

ルール条件のコピー

ユーザーが所属するグループのルール条件のコピーを行います。

ルール条件のコピーは、Managers 役割以上のユーザーが可能です。

ルール条件のコピーについては、「**5.1.4 ルール条件の編集**」を参照して下さい。

ルール条件の削除

ユーザーが所属するグループのルール条件の削除を行います。

ルール条件の削除は、Managers 役割以上のユーザーが可能です。

ルール条件の削除については、「**5.1.4 ルール条件の編集**」を参照して下さい。

表 3.1-9 ルール条件の権限

	Administrators	Managers	Operators	Users
ルール条件に対する処理				
ルール条件の作成	◎	○	×	×
ルール条件の変更	◎	○	×	×
ルール条件のコピー	◎	○	×	×
ルール条件の削除	◎	○	×	×
ルール条件の参照	◎	○	○	○

◎：すべてのグループに対して可能

○：自グループに対してのみ可能

×：不可

3.1.11 コンソールイベントの管理

コンソールイベントの管理で行うべきタスクは以下のとおりです。また、各役割の権限を表 3.1-10 に示します。

コンソールイベントの送信については、運用要件に応じた権限の変更が可能です。権限の変更については、別冊の「インストールガイド」の「6.2.6 Senju Enterprise Navigator 各種権限の変更手順」を参照して下さい。

コンソールイベントの送信

SEN サーバーに対して、コンソールイベントの送信を行います。

コンソールイベントの送信は、Operators 役割以上のユーザーで可能です。

コンソールイベントの送信については、「2.1.14 コンソールイベント送信」を参照して下さい。

コンソールイベント用テンプレートの新規作成、変更、削除

ユーザーが所属するグループのコンソールイベント用テンプレートの新規作成、変更、削除を行います。

コンソールイベント用テンプレートの新規作成、変更、削除は、Managers 役割以上のユーザーで可能です。

コンソールイベント用テンプレートの新規作成、変更、削除については、「2.1.14 コンソールイベント送信」を参照して下さい。

コンソールイベント用テンプレートの参照

ユーザーが所属するグループのコンソールイベント用テンプレートの参照を行います。

コンソールイベント用テンプレートの参照は、Users 役割以上のユーザーで可能です。

コンソールイベント用テンプレートについては、「2.1.14 コンソールイベント送信」を参照して下さい。

表 3.1-10 コンソールイベント用テンプレートの権限

	Administrators	Managers	Operators	Users
コンソールイベントに対する処理				
コンソールイベントの送信	◎	○	○	×
コンソールイベント用 テンプレートに対する処理				
コンソールイベント用 テンプレートの作成	◎	○	×	×
コンソールイベント用 テンプレートの変更	◎	○	×	×
コンソールイベント用 テンプレートの削除	◎	○	×	×
コンソールイベント用 テンプレートの参照	◎	○	○	○

◎：すべてのグループに対して可能

○：自グループに対してのみ可能

×：不可

3.1.12 イメージの管理

イメージの管理で行うべきタスクは以下のとおりです。また、各役割の権限を表 3.1-11 に示します。

イメージのアップロード

ユーザーが所属するグループに対して、イメージのアップロードを行います。Windows アイコン、Windows ビットマップ、PNG、JPEG、TIFF 形式のイメージを SEN サーバーへアップロードする事ができます。

イメージのアップロードは、Managers 役割以上のユーザーが可能です。

イメージの削除

SEN サーバー上へアップロードされたイメージの削除を行います。

イメージの削除は、Managers 役割以上のユーザーが可能です。

イメージの参照

SEN サーバー上へアップロードされたイメージの参照を行います。

イメージの参照は、Users 役割以上のユーザーが可能です。

表 3.1-11 イメージの権限

	Administrators	Managers	Operators	Users
イメージに対する処理				
イメージのアップロード	◎	○	×	×
イメージの削除	◎	○	×	×
イメージの参照	◎	○	○	○

◎ : すべてのグループに対して可能

○ : 自グループに対してのみ可能

× : 不可

3.1.13 エクスポート/インポート

エクスポート/インポートで行うべきタスクは以下のとおりです。また、各役割の権限を表 3.1-12 に示します。

エクスポート

ルールセットやイメージなどのリソースを他の Senju Enterprise Navigator システムへ移行するため、指定したリソースを XML ファイルに出力します。

エクスポートは Operators 役割以上のユーザーが可能です。Manager 役割および Operators 役割ユーザーは、ルールセットを除き、自分の所属するグループのリソースのみエクスポートが可能です。ルールセットに関しては、実行するユーザーの役割に関わらず、すべてのグループに関するルールがエクスポートされます。

インポート

ルールセットやイメージなどのリソースを他の Senju Enterprise Navigator システムから移行するため、指定した XML ファイルからリソースを読み込みます。

インポートは Managers 役割以上のユーザーが可能です。Manager 役割のユーザーは、自分の所属するグループのリソースへのみインポートが可能です。

表 3.1-12 エクスポート/インポートにおける各種設定の権限

	Administrators	Managers	Operators	Users
エクスポート/インポート処理				
エクスポート	◎	○	○	×
インポート	◎	○	×	×

◎ : すべてのグループに対して可能

○ : 可能

× : 不可

3.1.14 SEN サーバーにおける各種設定

SEN サーバーにおける各種設定で行うタスクは以下のとおりです。また、各役割の権限を表 3.1-13 に示します。

メールサーバーの設定

メールサーバー(SMTP サーバー)の設定を行います。

メールサーバーの設定は、Administrators 役割のユーザーのみが可能です。

メールサーバーの設定については、「**3.2.4 SEN サーバー/コンソールの設定**」を参照して下さい。

自動バックアップの設定

自動バックアップを行うためのバックアップスケジュールの設定を行います。

自動バックアップの設定は、Administrators 役割のユーザーのみが可能です。

自動バックアップの設定については、「**3.2.4 SEN サーバー/コンソールの設定**」を参照して下さい。

SEN サーバーログファイルの設定

SEN サーバーログの出力ログレベル、ログサイズ、ログシフトの設定を行います。

SEN サーバーログファイルの設定は、Administrators 役割のユーザーのみが可能です。

SEN サーバーログファイルの設定については、「**3.2.4 SEN サーバー/コンソールの設定**」を参照して下さい。

SEN サーバーパフォーマンス調査の設定

SEN サーバーパフォーマンス調査を行うためのルール実行状況の記録間隔、SEN パフォーマンスビューの更新間隔の設定を行います。

SEN サーバーパフォーマンス調査の設定は、Administrators 役割のユーザーのみが可能です。

SEN サーバーパフォーマンス調査の設定については、「**3.2.4 SEN サーバー/コンソールの設定**」を参照して下さい。

手動バックアップ実行

手動バックアップを実行します。

手動バックアップの実行は、Operators 役割以上のユーザーで可能です。

手動バックアップの実行については、「**3.3.5 SEN サーバーのデータバックアップ**」を参照して下さい。

表示条件の設定

SEN コンソールのイベントビューの表示条件の設定を行います。この設定は接続する全

SEN コンソールに反映されます。

表示条件の設定は、Administrators 役割のユーザーのみが可能です。

表示条件の設定については、「**3.2.4 SEN サーバー/コンソールの設定**」を参照して下さい。

表 3.1-13 SEN サーバーにおける各種設定の権限

	Administrators	Managers	Operators	Users
SENサーバーに対する設定				
メールサーバーの設定	◎	×	×	×
自動バックアップの設定	◎	×	×	×
SENサーバーログファイルの設定	◎	×	×	×
SENサーバーパフォーマンス調査の設定	◎	×	×	×
手動バックアップの実行	◎	◎	◎	×
表示条件の設定	◎	×	×	×

◎ : すべてのグループに対して可能

○ : 自グループに対してのみ可能

× : 不可

3.1.15 SEN コンソールにおける各種設定

SEN コンソールにおける各種設定は、ログインしている端末に対してのみ有効です。これら設定は SEN コンソール上に保存され、SEN サーバー上には保存されません。

SEN コンソールにおける各種設定で行うタスクは以下のとおりです。また、各役割の権限を表 3.1-14 に示します。

ツールビューの設定

ツールビューヘユーティリティ(時計)や任意のプログラム、OS コマンドなどを登録します。

ツールビューの設定は、Users 役割以上のユーザーが可能です。

ツールビューの設定については、「**2.1.11 ツールビュー**」を参照して下さい。

SEN コンソールログファイルの設定

SEN コンソールログの出力ログレベル、ログサイズ、ログシフトの設定を行います。

SEN コンソールログファイルの設定は、Operators 役割以上のユーザーが可能です。

SEN コンソールログファイルの設定については、「**3.2.4 SEN サーバー/コンソールの設定**」を参照して下さい。

放置イベントの警告の設定

放置イベントの警告に関する各種設定を行います。

放置イベント警告の設定は、Operators 役割以上のユーザーが可能です。

放置イベント警告の設定については、「**3.2.4 SEN サーバー/コンソールの設定**」を参照して下さい。

報告書保存ディレクトリの設定

報告書を保存するディレクトリの設定を行います。

報告書保存ディレクトリの設定は、Operators 役割以上のユーザーが可能です。

報告書保存ディレクトリの設定については、「**3.2.4 SEN サーバー/コンソールの設定**」を参照して下さい。

警報装置設定

SEN コンソールの警報装置(パトランプ、サウンド)の設定を行います。

警報装置の設定は、Operators 役割以上のユーザーが可能です。

警報装置の設定については、「**3.2.4 SEN サーバー/コンソールの設定**」を参照して下さい。

警報装置停止

SEN コンソールの警報装置(パトランプ、サウンド)の停止を行います。

警報装置の停止は、Users 役割以上のユーザーが可能です。

警報装置の停止については、「**2.1.13 警報装置停止**」を参照して下さい。

表 3.1-14 SEN コンソールにおける各種設定の権限

	Administrators	Managers	Operators	Users
SENコンソールに対する設定				
ツールビューの設定	○	○	○	○
SENコンソールログファイルの設定	○	○	○	×
放置イベント警告の設定	○	○	○	×
報告書保存ディレクトリの設定	○	○	○	×
警報装置の設定	○	○	○	×
警報装置の停止	○	○	○	○

○ : 可能

× : 不可

3.2 SEN コンソールからの設定操作

本章では、SEN コンソールから行う各種設定操作について説明します。

3.2.1 グループの編集

グループの新規作成

グループを新規に作成する場合は、メニューバーより[ツール]->[メンテナンス(管理者)]->[ユーザーグループ]を選択します。

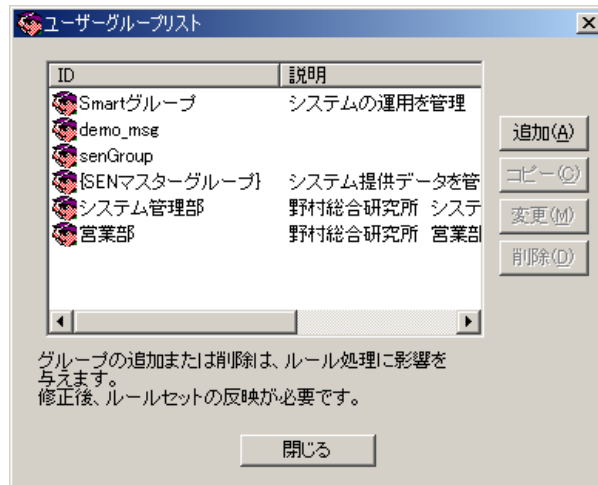


図 3.2-1 ユーザーグループリスト画面

ユーザーグループリスト画面(図 3.2-1)で、[追加]ボタンを押します。

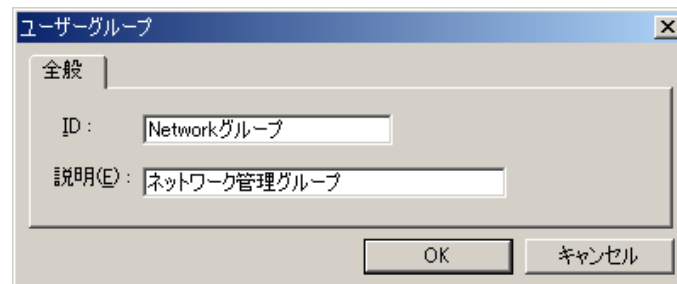


図 3.2-2 ユーザーグループプロパティ画面

表 3.2-1 ユーザーグループプロパティ項目一覧

項目	内容	省略
ID	ユーザーグループ ID を指定します。	不可
説明	コメントを指定します。	可能

ユーザーグループプロパティ画面(図 3.2-2)では、ユーザーグループ ID とグループの説明を指定し[OK]ボタンを押します。これによりグループが新規に登録されます。

グループのコピー

既存のグループをコピーして新たにグループを作成する場合は、ユーザーグループリスト画面(図 3.2-1)でコピー元のグループを選択し、[コピー]ボタンを選択します。ユーザーグループプロパティ画面(図 3.2-2)では、ユーザーグループ ID とグループの説明を指定し [OK]ボタンを押します。これによりグループが新規に登録されます。

グループの変更

既存のグループのプロパティを変更する場合は、ユーザーグループリスト画面(図 3.2-1)でグループを選択し、[変更]ボタンを選択します。ユーザーグループプロパティ画面(図 3.2-2)では、グループの説明を指定し [OK]ボタンを押します。

グループの削除

グループを削除する場合は、ユーザーグループリスト画面(図 3.2-1)でグループを選択し、[削除]ボタンを選択します。ユーザーグループ削除確認画面(図 3.2-3)が表示されたら [はい]ボタンを押します。複数グループを同時に削除する場合は、ユーザーグループリスト画面で Shift または Ctrl キーにより複数エントリーを選択してから [削除]ボタンを選択します。

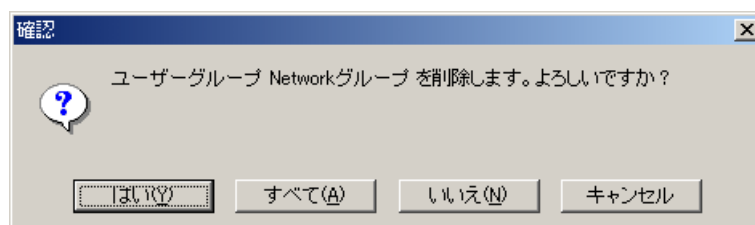


図 3.2-3 ユーザーグループ削除確認画面



グループを追加または削除した場合、ルールセットの反映を行う必要があります。



ユーザーグループには、「{SEN マスターグループ}」というデフォルトで用意されたグループがあります。このグループはシステム提供データ（汎用的なイメージやルール）を管理するグループです。「{SEN マスターグループ}」は、変更および削除できません。また「{SEN マスターグループ}」への新規リソースの追加および、既存リソースの変更、削除はできません。

3.2.2 ユーザーの編集

ユーザーの新規作成

ユーザーを新規に作成する場合は、メニューバーより[ツール]->[メンテナンス(管理者)]->[ユーザー]を選択します。

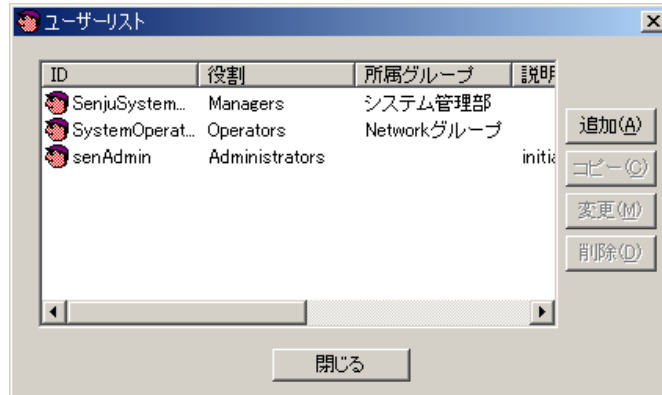


図 3.2-4 ユーザーリスト画面

ユーザーリスト画面 (図 3.2-4)で、[追加]ボタンを押し、ユーザープロパティ画面(図 3.2-5)を表示します。ここでは以下の項目を指定し、[OK]ボタンを押しします。

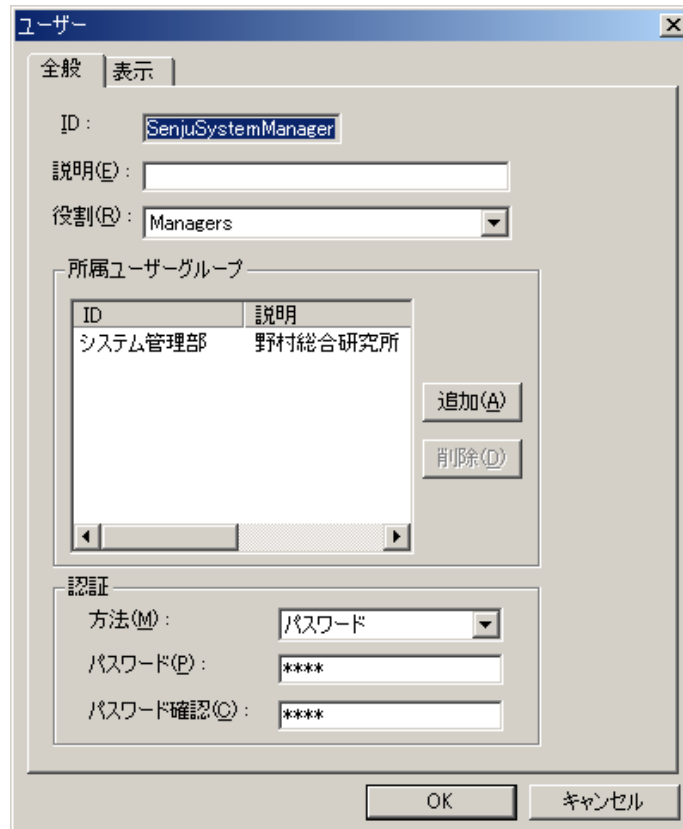


図 3.2-5 ユーザープロパティ画面(全般タブ)

表 3.2-2 ユーザープロパティ項目一覧 (全般タブ)

項目	内容	省略
ID	ユーザーID を指定します。ログインの際の ID になります。	不可
説明	コメントを指定します。	可能
役割	Administrators、Managers、Operators、Users のいずれかを選択します。	—
所属ユーザーグループ	ユーザーが所属するユーザーグループのリストを指定します。ユーザーグループを追加するには[追加]ボタンを押します。	不可
方法	“パスワード” のみ選択できます。	—
パスワード	ログインパスワードを指定します。	不可
パスワード確認	ログインパスワード (確認用) を指定します。	不可

役割で Administrators を指定した場合には、ユーザーグループを割り当てる事はできません。Administrators 役割のユーザーは、すべてのユーザーグループにアクセスする権限を持ちます。

Administrators 役割以外のユーザーは、1 つ以上のユーザーグループに所属する必要があります。

ユーザーグループには、「{SEN マスターグループ}」というデフォルトで用意されたグループがあります。このグループはシステム提供データ(汎用的なイメージやルール)を管理するグループです。システム提供データを使用する場合は、所属ユーザーグループに「{SEN マスターグループ}」を追加して下さい。

[表示]タブをクリックすると、図 3.2-6 のような画面が表示されます。

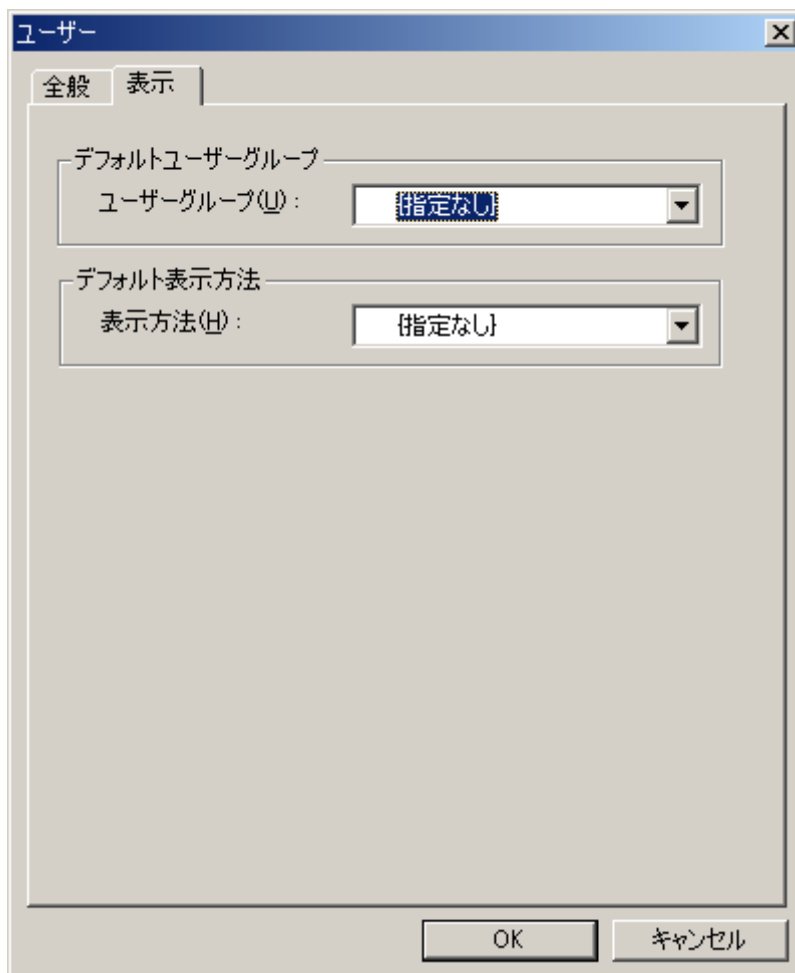


図 3.2-6 ユーザープロパティ画面 (表示タブ)

表 3.2-3 ユーザープロパティ項目一覧 (表示タブ)

項目	内容	省略
ユーザーグループ	メインビュー、イベントビュー等の画面表示にデフォルトで選択されるユーザーグループを指定します。所属するユーザーグループの中から選択します。	—
表示方法	イベントビューを開いたときに、デフォルトで選択される表示方法を指定します。所属するユーザーグループに定義された表示方法の中から選択します。	—

ユーザーのコピー

既存のユーザーをコピーして新たにユーザーを追加する場合は、ユーザーリスト画面(図 3.2-4)で、コピー元のエントリーを選択し、[コピー]ボタンを押し、ユーザープロパティ画面(図 3.2-5)を表示します。指定項目はユーザーの新規作成の場合と同様です。ユーザーIDを変更して[OK]ボタンを押しします。

ユーザーの変更

既存のユーザーのプロパティを変更する場合は、ユーザーリスト画面(図 3.2-4)で、エントリーを選択し、[変更]ボタンを押し、ユーザープロパティ画面(図 3.2-5)を表示します。指定項目はユーザーの新規作成の場合と同様です(ただし ID は変更できません)。変更する項目を指定して、[OK]ボタンを押しします。

変更対象のユーザーがログイン中の場合は、役割と所属ユーザーグループの項目は変更できません。

ユーザーの削除

ユーザーを削除する場合は、ユーザーリスト画面(図 3.2-4)でエントリーを選択し、[削除]ボタンを押しします。ユーザー削除確認画面(図 3.2-7)が表示されたら、[はい]ボタンを押しします。複数ユーザーを同時に削除する場合は、ユーザーリスト画面で Ctrl キーまたは Shift キーにより複数エントリーを選択して[削除]ボタンを押しします。

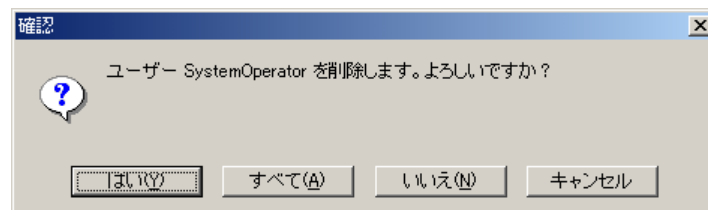


図 3.2-7 ユーザー削除確認画面

3.2.3 イメージの編集

イメージのアップロード

イメージをアップロードするには、メニューバーの[ツール]->[イメージ]を選択し、イメージリスト画面(図 3.2-8)を開きます。

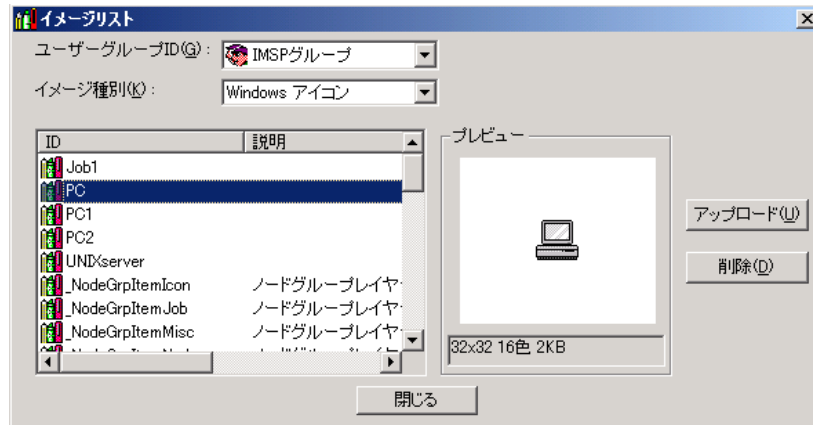


図 3.2-8 イメージリスト画面

ここでイメージファイルを新規にアップロードするには、[アップロード]ボタンを押して、サーバーへのアップロード画面(図 3.2-9)を開きます。

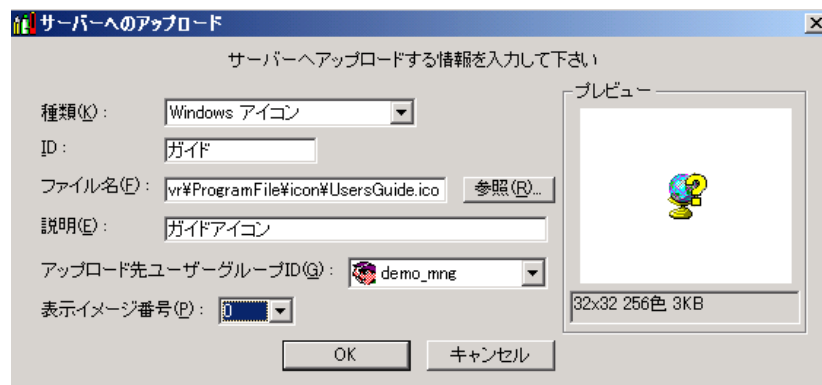


図 3.2-9 サーバーへのアップロード画面

以下の項目を指定して[OK]ボタンを押します。

表 3.2-4 サーバーへのアップロード項目一覧

項目	内容	省略
種類	イメージのフォーマットを指定します。Windows アイコン(*.ico)、Windows ビットマップ(*.bmp)、PNG (*.png)、JPEG (*.jpg)、TIFF (*.tif) を選択します。	—

ID	イメージの ID を指定します。これは SEN サーバー内でユニークな必要があります。ネーミングルールを適用する等、他グループと ID が重複しないよう注意して下さい。	不可
ファイル名	アップロードするイメージのローカルファイル名を指定します。[参照]ボタンによりファイル選択画面から選択できます。 ファイル名を指定すると、右側のプレビュー領域にイメージのプレビューおよびそのイメージの縦横サイズ、色数、ファイル容量が表示されます。 イメージ以外のファイルや誤ったファイル名を指定した場合には、右側のプレビュー領域に”プレビュー不可”と表示されます。また、種類の指定が誤っている場合や未サポートの画像フォーマットを持つイメージが指定された場合にも、プレビュー領域に”プレビュー不可”と表示されます。イメージファイルには、必ずプレビュー可能なファイルを指定して下さい。なお、”プレビュー不可”の状態では、[OK]ボタンは活性化されません。	不可
説明	コメントを指定します。	可能
アップロード先ユーザーグループ ID	アップロード先となるグループ ID を選択します。	—
表示イメージ番号	種類の指定が Windows アイコンの場合、表示するアイコンの番号をコンボボックスより指定します。 種類の指定が Windows ビットマップ、PNG、JPEG、TIFF の場合は選択不可となります。	—



ファイルサイズの大きなイメージをアップロードし、メインペインに表示させた場合、ログイン時間や画面処理速度等の性能面に影響を与える可能性があります。イメージの色数を減らす事や、イメージの縦横サイズを縮小する事で、ファイルサイズを小さくできます。

イメージの削除

イメージを削除するには、イメージリスト画面(図 3.2-8)でエントリーを選択し、[削除]ボタンを押します。イメージ削除確認画面(図 3.2-10)が表示されたら、[はい]ボタンを押します。複数のイメージを同時に削除する場合は、イメージリスト画面で Ctrl キーまたは Shift キーにより複数エントリーを選択して[削除]ボタンを押します。

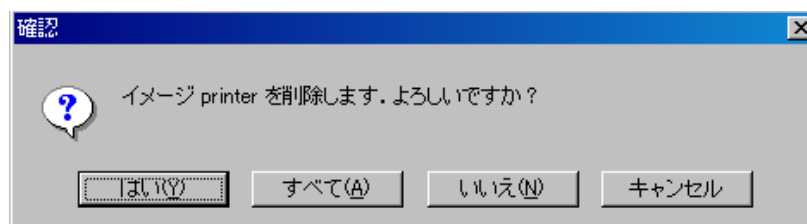


図 3.2-10 イメージ削除確認画面

3.2.4 SEN サーバー/コンソールの設定

SEN サーバーおよび SEN コンソールの現在の状態の確認および各種設定の変更を行う場合は、メニューバーより[ツール]->[SEN サーバー/コンソールの設定状態]を選択し、SEN サーバー/コンソールの設定状態画面を表示させます(図 3.2-11)。

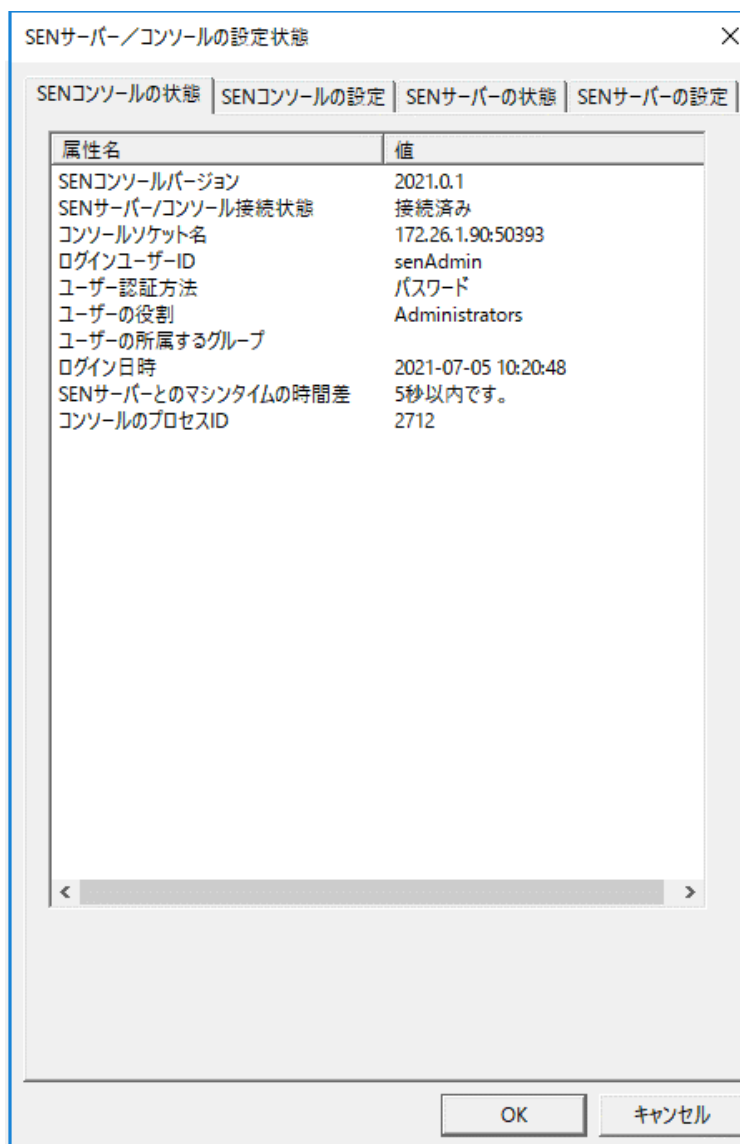


図 3.2-11 SEN サーバー/コンソールの設定状態画面(SEN コンソールの状態タブ)

[SEN コンソールの状態]タブでは、下記情報が表示されます。

表 3.2-5 SEN サーバー/コンソールの設定状態項目一覧(SEN コンソールの状態タブ)

項目	内容
SEN コンソールバージョン :	SEN コンソールプログラムのバージョンを表示します。
SEN サーバー/コンソールの接続状	現在の SEN サーバーと SEN コンソール間の接

態 :	続状態を表示します。
コンソールソケット名 :	SEN コンソールの IP アドレスおよびポート番号を表示します。
ログインユーザーID :	現在ログインしているユーザーのユーザーID を表示します。
ユーザー認証方法 :	SEN サーバーとの認証方法を表示します。
ユーザーの役割 :	現在ログインしているユーザーの役割を表示します。
ユーザーの所属するグループ :	現在ログインしているユーザーが所属するグループを表示します。
ログイン日時 :	現在のログインを行った日時を表示します。
SEN サーバーとのマシンタイム時間差 :	SEN サーバーと SEN コンソールのマシンタイムの時間差を表示します。
コンソールのプロセス ID :	SEN コンソールのプロセス ID を表示します。

[SEN サーバーの状態]タブをクリックすると、図 3.2-12 のような画面が表示されます。

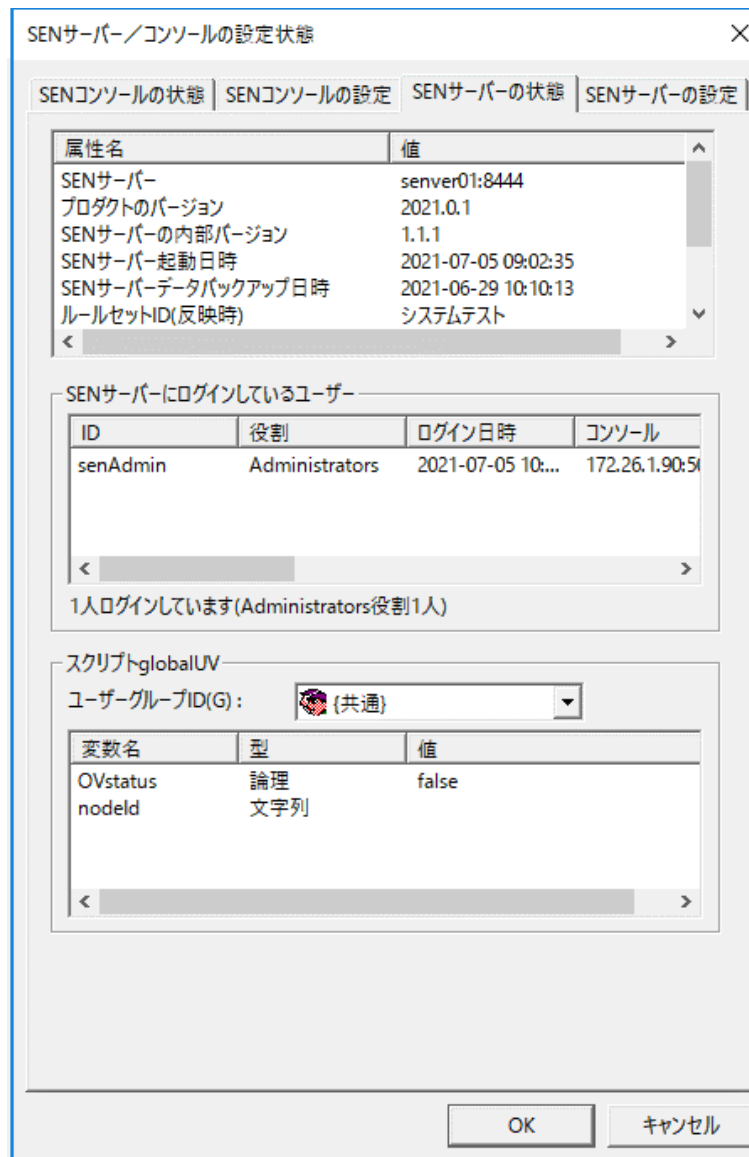


図 3.2-12 SEN サーバー/コンソールの設定状態画面 (SENサーバーの状態タブ)

[SEN サーバーの状態]タブでは、下記情報が表示されます。

表 3.2-6 SEN サーバー/コンソールの設定状態項目一覧 (SENサーバーの状態タブ)

項目	内容
SEN サーバー :	SEN サーバーの IP アドレスおよびポート番号を表示します。
プロダクトのバージョン :	SEN サーバープログラムのバージョンを表示します。
SEN サーバーの内部バージョン :	SEN サーバープログラムの内部バージョンを表示します。
SEN サーバー起動日時 :	SEN サーバーを起動した日時を表示します。
SEN サーバーバックアップ日時 :	SEN サーバーのデータバックアップを最後に実行した日時を

	表示します。
ルールセット ID(反映時) :	現在反映されているルールセットの ID を表示します。
ルールセット反映日時 :	現在反映されているルールセットを反映した日時を表示します。
ライセンスの期限 :	Senju Enterprise Navigator のライセンス期限を表示します。
SEN サーバーにログインしているユーザー :	現在 SEN サーバーにログインしているユーザーの情報を一覧で表示します。
スクリプト globalUV :	ユーザーグループ別にユーザー定義変数を一覧で表示します。

[SEN コンソールの設定]タブをクリックすると、図 3.2-13 のような画面が表示されます。

図 3.2-13 SEN サーバー/コンソールの設定状態画面 (SENコンソールの設定タブ)

[SEN コンソールの設定]タブでは、下記項目が設定可能です。SEN コンソールの設定は、Operators 役割以上のユーザーが可能です。

表 3.2-7 SEN サーバー/コンソールの設定状態項目一覧 (SENコンソールの設定タブ)

項目	内容	省略
レベル :	SEN コンソールのログレベルを以下より選択します。 エラー : エラーレベル以上の情報を出力 警告 : 警告レベル以上の情報を出力 注意 : 注意レベル以上の情報を出力	—

	情報：情報レベル以上の情報を出力 詳細調査：詳細調査用ログを出力 トレース：プログラムトレースを出力	
バックアップ数：	SEN コンソールログのバックアップを保持する世代数を設定します。	不可
ファイルサイズ：	1つのSEN コンソールログファイルのサイズを設定します。	不可
通知間隔：	放置イベントの警告を通知する間隔を設定します。	※1
オープンの警告間隔：	ステータスがオープンのまま放置されているイベントを警告するまでの間隔を設定します。 設定した間隔を超えた場合に放置イベントの警告ウィンドウ(図 3.2-14)により通知します。	※2
受付済の警告間隔：	ステータスが受付済のまま放置されているイベントを警告するまでの間隔を設定します。 設定した間隔を超えた場合に放置イベントの警告ウィンドウ(図 3.2-14)により通知します。	※3
割当済の警告間隔：	ステータスが割当済のまま放置されているイベントを警告するまでの間隔を設定します。 設定した間隔を超えた場合に放置イベントの警告ウィンドウ(図 3.2-14)により通知します。	※4
警告に音を使用する：	放置イベントの警告時に音により通知する場合に設定します。 通知音はビープ音またはサウンドのどちらかを選択して設定して下さい。	—
警告にパトランプを使用する：	放置イベントの警告時にパトランプにより通知する場合に設定します。	—
報告書保存ディレクトリ：	報告書を格納するディレクトリを設定します。	可能
ダブルクリックでプロパティ画面を開く	イベントをダブルクリックした時にプロパティ画面を開くかどうかを設定します。	可能

※1：[放置イベントの警告]をチェックした場合、省略できません。

※2：[オープンの警告]をチェックした場合、省略できません。

※3：[受付済の警告]をチェックした場合、省略できません。

※4：[割当済の警告]をチェックした場合、省略できません。

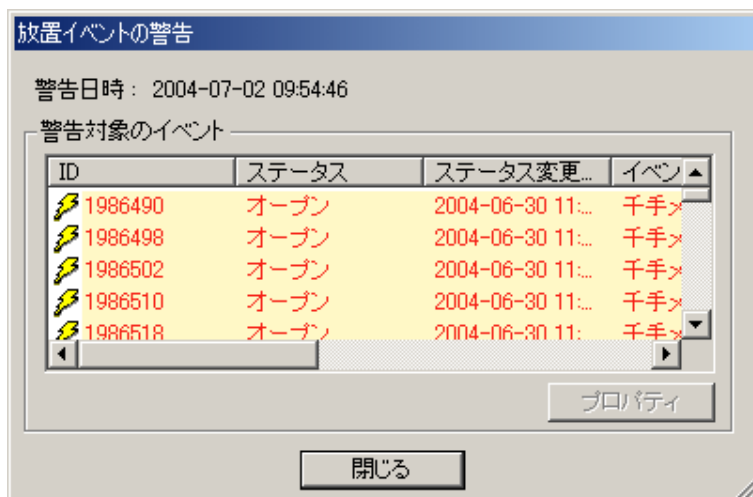


図 3.2-14 放置イベントの警告ウィンドウ



「ダブルクリックでプロパティ画面を開く」をチェックしていると、関連ビューが登録されているイベントをダブルクリックした場合も、プロパティ画面が表示されます。



ログレベルを詳細調査またはトレースにするとパフォーマンスに影響があります。障害解析などのために一時的に設定する場合を除き、通常運用時は情報レベル以上を設定して下さい。

[SEN サーバーの設定]タブをクリックすると、図 3.2-15 のような画面が表示されます。

図 3.2-15 SEN サーバー／コンソールの設定状態画面 (SENサーバーの設定タブ)

[SEN サーバーの設定]タブでは、下記項目が設定可能です。SEN サーバーの設定は、Administrators 役割のユーザーのみ可能です。

表 3.2-8 SEN サーバー／コンソールの設定状態項目一覧 (SENサーバーの設定タブ)

項目	内容	省略
SMTP サーバー名 :	SEN サーバーからのメール送信に使用する SMTP サーバー名を設定します。	可能
自動バックアップ :	スケジュールによる自動バックアップを行う場合はチェックボックスをチェックします。指定した時刻で毎日自動的にデータバックアップを実行します。	—

バックアップ先ディレクトリ :	バックアップ先のディレクトリを指定します。デフォルトでは%SENSVHOME%\bkup下にバックアップデータが保存されます。	可能
過去のイベントファイルのバックアップ :	バックアップ対象として過去イベントファイルを含める場合はチェックします。	—
レベル :	SEN サーバーが出力するログレベルを以下より選択します。 エラー : エラーレベル以上の情報を出力 警告 : 警告レベル以上の情報を出力 注意 : 注意レベル以上の情報を出力 情報 : 情報レベル以上の情報を出力 詳細調査 : 詳細調査用ログを出力 トレース : プログラムトレースを出力	—
バックアップ数 :	SEN サーバーログのバックアップを保持する世代数を設定します。	不可
ファイルサイズ :	1つのSEN サーバーログファイルのサイズを設定します。	不可
ルール情報の記録間隔 :	ルール ID ごとにイベント数およびルール実行数を記録する間隔を設定します。それぞれの値は sjENB_ServerPerf_RuleCount.log に記録されます。	不可
パフォーマンスビューの更新間隔 :	SEN サーバーのパフォーマンスデータの取得時間間隔を設定します。	不可
ルールエンジン :	SEN コンソールのイベントビューにて表示条件ルールを実行するエンジンを選択して下さい。 JScript	—
ルールの構文チェック :	現在、未サポート。	—



ログレベルを詳細調査またはトレースにするとパフォーマンスに影響があります。障害解析などのために一時的に設定する場合を除き、通常運用時は情報レベル以上を設定して下さい。



“バックアップ先ディレクトリ”に存在しないディレクトリが指定された場合は、SEN サーバーのデータバックアップの実行に失敗します。ご注意ください。



“SMTP サーバー名”で設定したメールサーバーでのメール送信は将来廃止される可能性があります。メール送信する場合、メール送信連携アダプタを利用する方法にしてください。

SEN コンソールの警報装置(サウンド、パトランプ)の設定を行うには、メニューバーより [ツール]->[警報装置設定(W)]を選択し、警報装置設定画面を表示させます(図 3.2-16)。

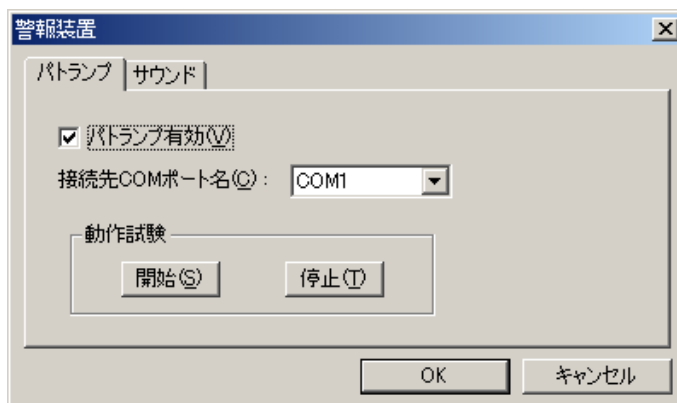


図 3.2-16 警報装置設定画面(パトランプ設定)

パトランプの設定を行うには、[パトランプ]タブを選択します(図 3.2-16)。[パトランプ]タブでは、以下の項目が設定可能です。

表 3.2-9 警報装置設定項目一覧(パトランプ設定)

項目	内容	省略
パトランプ有効：	パトランプを有効にする場合にチェックします。	—
接続先 COM ポート名：	パトランプを接続する COM ポート名を指定します。	—
動作試験：	パトランプの動作テストが可能です。[開始]ボタンを押すことにより、パトランプが鳴動します。停止するには[停止]ボタンを押します。	—

サウンドの設定を行うには、[サウンド]タブを選択します(図 3.2-17)。
[サウンド]タブでは、以下の項目が設定可能です。

表 3.2-10 警報装置設定項目一覧(サウンド設定)

項目	内容	省略
ビープ音有効：	ビープ音を有効にする場合にチェックします。	—
サウンドの再生有効：	サウンドの再生を有効にする場合にチェックします。	—
デフォルトファイル名：	サウンドの再生を行う場合に使用するデフォルトサウンドファイル名(WAV ファイル)を指定します。	可能

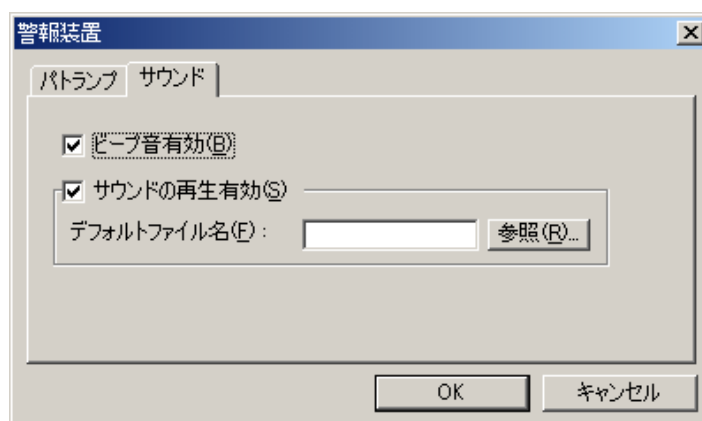


図 3.2-17 警報装置設定画面(サウンド設定)

鳴動中のパトランプやサウンドを停止するには、メニューバーの[ツール]から[警報装置停止]を選択します。

3.2.5 エクスポート/インポート

エクスポート機能は、ルールセットやイメージなどのリソースを他の Senju Enterprise Navigator システムへ移行するため、指定したリソースを XML ファイルに出力します。

インポート機能は、ルールセットやイメージなどのリソースを他の Senju Enterprise Navigator システムから移行するため、指定した XML ファイルからリソースを読み込みます。

エクスポート/インポート機能により、定義データの移行、大量データの一括登録などを行うことができます。

3.2.5.1 エクスポート

ルールセットやイメージなどのリソースをエクスポートする場合は、メニューバーより[ツール]->[エクスポート・インポート]->[エクスポート]を選択し、エクスポートパラメータ画面を表示します(図 3.2-18)。

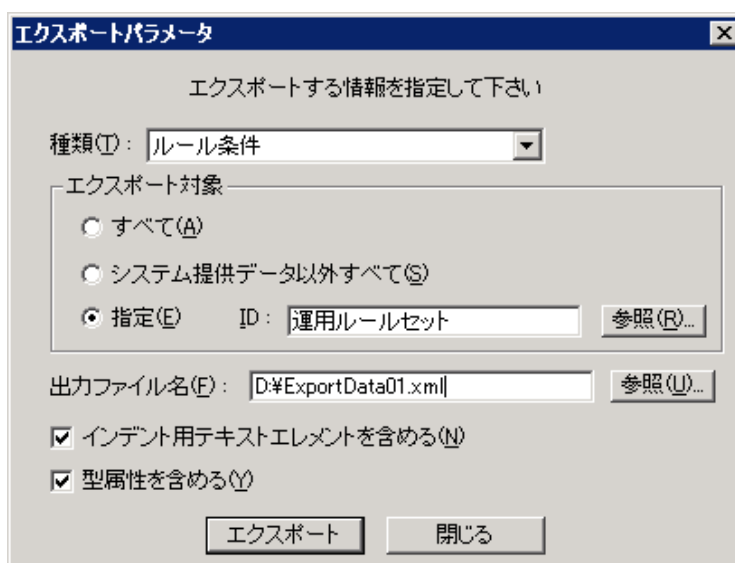


図 3.2-18 エクスポートパラメータ画面

表 3.2-11 エクスポートパラメータ項目一覧

項目	内容	省略
種類：	エクスポートするリソースの種類をコンボボックスから選択します。リソースの種類は、ルール条件、ルールセット、コンソールイベント用テンプレート、イベントフィルタ、イメージ、アクションテンプレートがあります。	—
エクスポート対象：	エクスポートするリソースの対象を選択します。 "すべて"を選択した場合は、[種類]で指定したリソースのすべてのデータがエクスポート対象となります。 "システム提供データ以外すべて"を選択した場合は、[種類]で指定したリソースのうち、システム提供データを除くデータがエクスポート対象となります。	不可

	"指定"を選択した場合は、[種類]で指定したリソースのエクスポート対象のIDを指定します。[参照]ボタンを押す事により、すでに定義されたリソースの一覧から選択する事が可能です。	
出力ファイル名：	エクスポートするリソースの出力ファイル名をフルパスで指定します。 出力ファイル名をフルパスで指定しない場合には、%SENCLHOME%\dat\enb フォルダ下に保存されます。	不可
インデント用テキストエレメントを含める：	エクスポートするXMLファイルをインデントにより整形する場合にチェックします。エクスポートされたXMLファイルをメモ帳などで編集する場合に、ファイルの構造が読み易くなります。 通常はチェックして使用して下さい。	—
型属性含める：	エクスポートするXMLファイルに、Senju Enterprise Navigator システムに定義されたデータ型の情報を含める場合にチェックします。Senju Enterprise Navigator システム以外のシステムにXMLファイルをインポートする用途では、型属性のエクスポートが必須となります。またユーザーが新規に型属性を定義した場合にも、型属性のエクスポートが必須となります。 通常はチェックして使用して下さい。	—

上記項目の指定後、エクスポートパラメータ画面の[エクスポート]ボタンを押すと、メッセージ画面が表示されリソースのエクスポートが完了します(図 3.2-19)。

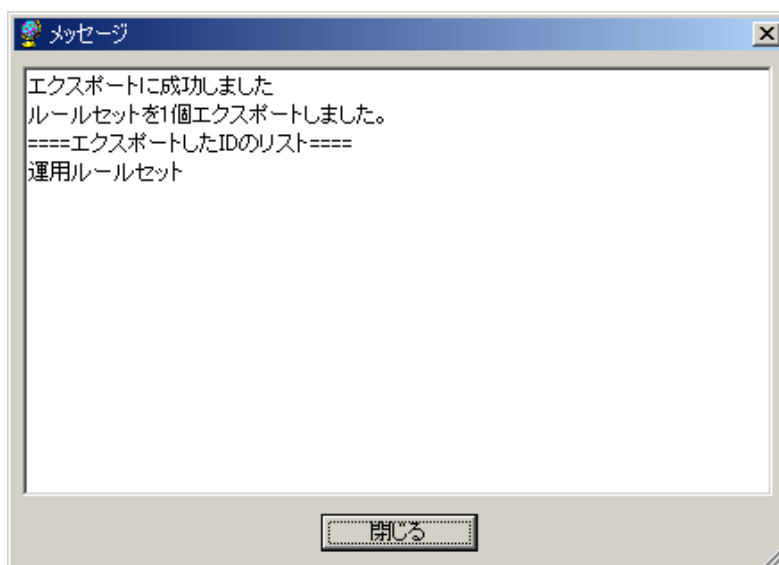


図 3.2-19 メッセージ画面

3.2.5.2 インポート

ルールセットやイメージなどのリソースをインポートする場合は、メニューバーより[ツール]→[エクスポート・インポート]→[インポート]を選択し、インポートパラメータ画面を表示します(図 3.2-20)。

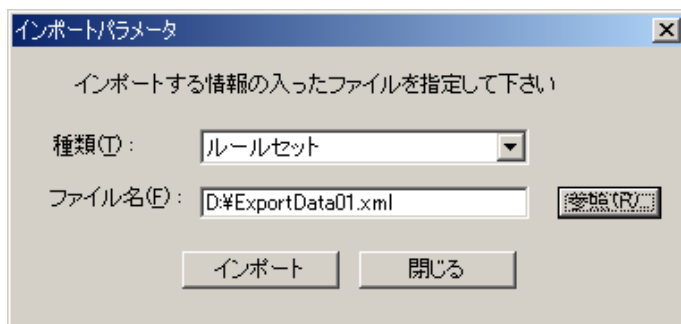


図 3.2-20 インポートパラメータ画面

表 3.2-12 インポートパラメータ項目一覧

項目	内容	省略
種類 :	インポートするリソースの種類をコンボボックスから選択します。リソースの種類は、ルール条件、ルールセット、コンソールイベント用テンプレート、イベントフィルタ、イメージ、アクションテンプレートがあります。	—
ファイル名 :	インポートするリソースの入力ファイル名をフルパスで指定します。[参照]ボタンによりファイル選択画面から選択できます。	不可

上記項目の指定後、インポートパラメータ画面の[インポート]ボタンを押すと、インポート確認画面が表示されます(図 3.2-21)。

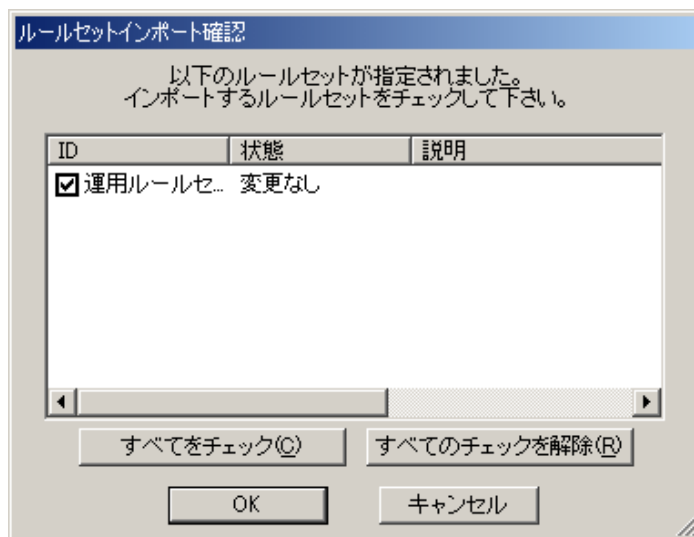


図 3.2-21 インポート確認画面

インポート対象のリソースにチェックし、[OK] ボタンを押すと、リソースのインポートが完了します(図 3.2-22)。

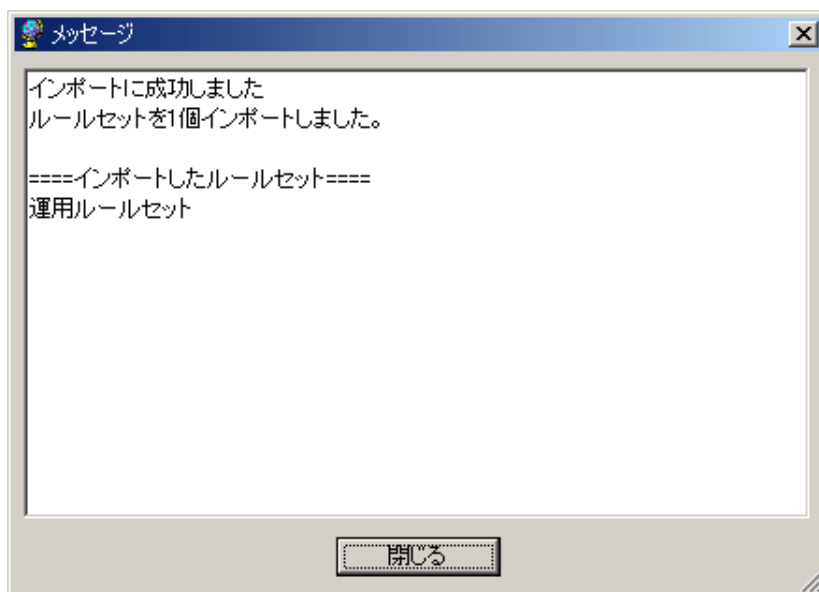


図 3.2-22 メッセージ画面

3.2.6 設定時の注意事項

本節では、SEN コンソールから行う各種設定操作時の注意事項を記述します。

3.2.6.1 同時編集時の保存動作

複数の Administrators 役割のユーザーまたは同一グループに所属する複数の Managers 役割のユーザーが、別々の SEN コンソールから同時に同じ設定を編集する場合があります。

編集作業中に、他の SEN コンソールから同じ設定項目の編集が行われている事を検知した場合、設定保存時に図 3.2-23 の画面が表示されます。



図 3.2-23 上書き確認画面

図 3.2-23 で[はい]を選択した場合は、既に保存された設定に対し、設定を上書き保存します。すなわち他のユーザーにより編集された内容を破棄し、自身が編集した内容を有効にします。[いいえ]を選択した場合は、上書き保存をキャンセルします。

この様なケースは、ルールセットエディタやメインペインエディタ等、Administrators 役割または Managers 役割のユーザーが編集可能なすべての項目に該当します。

3.3 維持管理

ここでは、Senju Enterprise Navigator システムを運用していく上での各種手順について説明します。

3.3.1 SEN サーバーの起動・停止

SEN サーバーは、通常、サーバーマシンの起動時に自動的にサービスが立ち上がるように設定されます(インストール時に Windows のサービスとして登録)。

ただし、メンテナンス等で手動で起動または停止するときには、Windows デスクトップの[マイコンピュータ]の右クリックメニューから[管理]を選択し、「コンピュータの管理」を表示します(図 3.3-1)。サービスから「SEN Process Manager」を選択し、ダブルクリックすると SEN Process Manager サービスのプロパティダイアログが表示されますので、[開始]または[停止]ボタンを押すことにより、SEN サーバーのすべての関連プログラムを起動または停止することができます(図 3.3-2)。

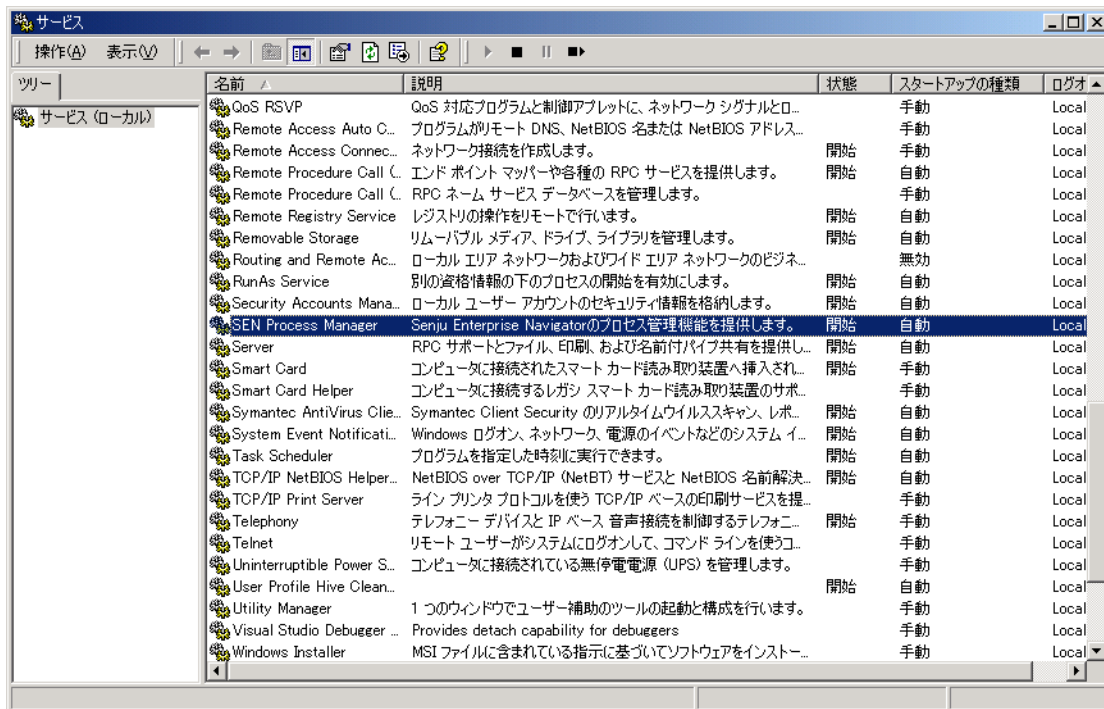


図 3.3-1 コンピュータの管理画面

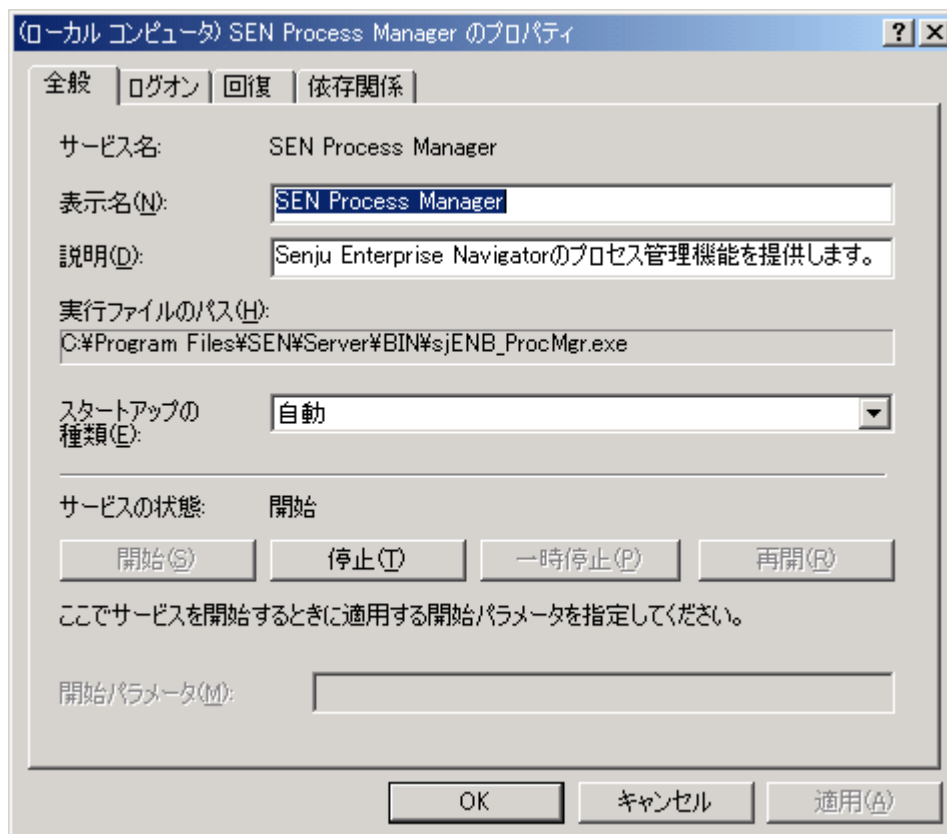


図 3.3-2 SEN Process Manger サービスのプロパティ画面

クラスタサーバー環境(MSCS)に SEN サーバーをインストールした場合は、SEN サーバーサービスの起動停止はクラスタアドミニストレータを用いて行います。

SEN サーバーサービスを起動するには、クラスタアドミニストレータで“SEN Process Manager”リソースを選択し、右クリックメニューから“オンラインにする”を選択します。正常に起動した場合は、“状態”が“オンライン”になります。

同様に SEN サーバーサービスを停止するには、クラスタアドミニストレータで“SEN Process Manager”リソースを選択し、右クリックメニューから“オフラインにする”を選択します。正常に停止した場合は、“状態”が“オフライン”になります。

3.3.2 SEN Web サービスの起動・停止

SEN Web サービスは、通常、サーバーマシンの起動時に自動的にサービスが立ち上がるように設定されます(インストール時に Windows のサービスとして登録)。

ただし、メンテナンス等で手で起動または停止するときには、[スタート]→[管理ツール]→[サービス]を表示します(図 3.3-3)。サービスから”SEN Web Process Manager”を選択し、ダブルクリックすると SEN Web Process Manager サービスのプロパティダイアログが表示されますので、[開始]または[停止]ボタンを押すことにより、SEN Web サービスのすべての関連プログラムを起動または停止することができます(図 3.3-4)。

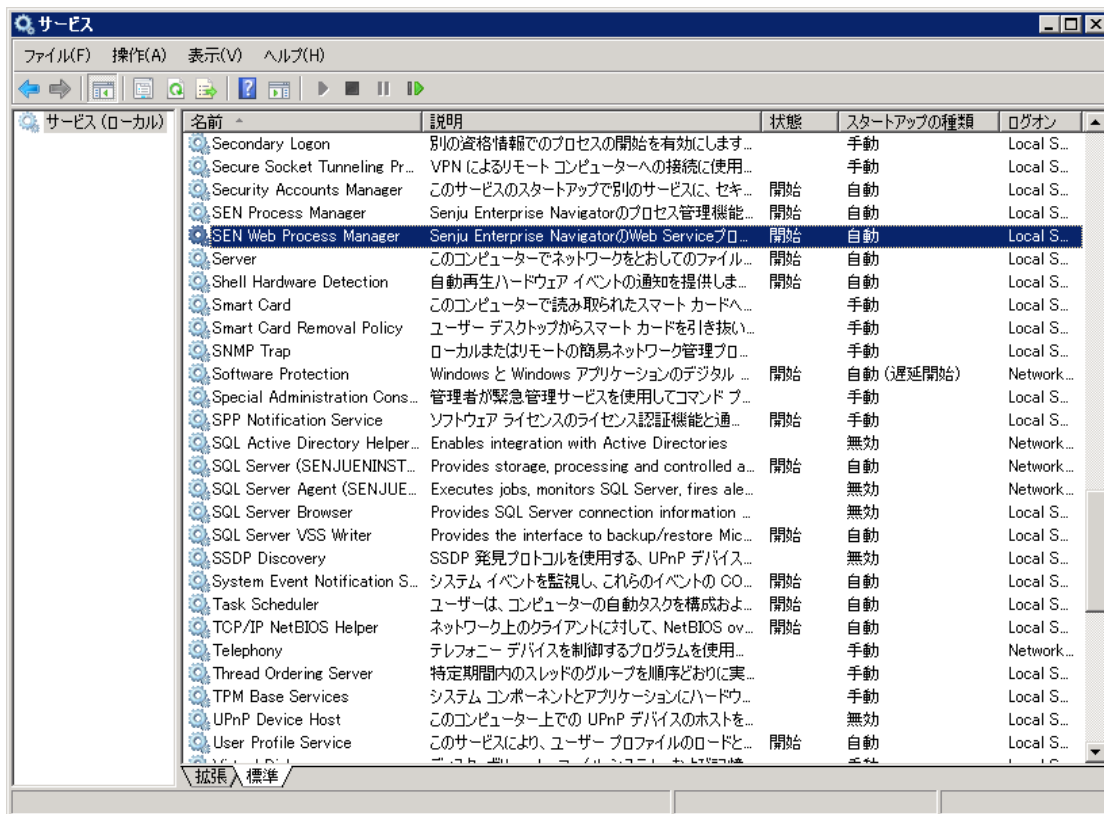


図 3.3-3 サービス画面

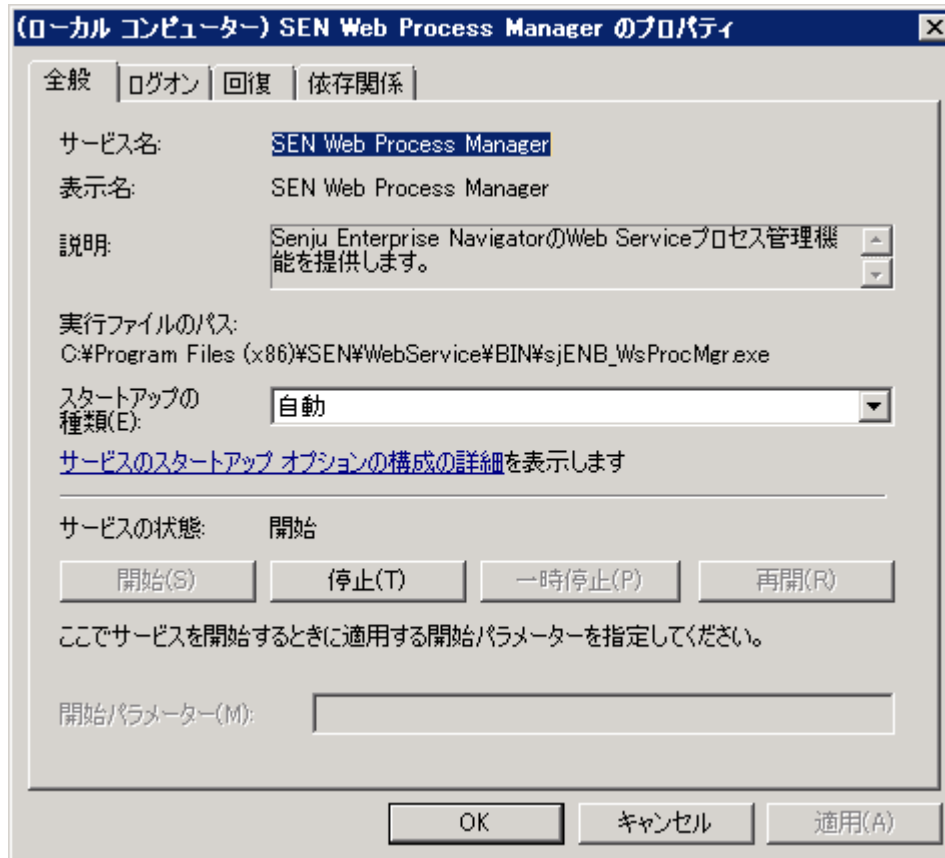


図 3.3-4 SEN Web Process Manger サービスのプロパティ画面

3.3.3 SEN サーバー各アダプタの制御

%SENSVHOME%\bin 内の sjENB_Pmctrl コマンドを使用し、SEN サーバーを構成するアダプタを個別に停止、起動することが可能です。また、SEN コンフィグレータを使用する事により、起動アダプタの追加、削除を行う事もできます。なお、SEN サーバーを構成するアダプタの一覧については、「6.4 構成プロセス一覧」を参照して下さい。

以下、各アダプタを制御するための方法について説明します。

3.3.3.1 アダプタ稼働状況のモニタ

SEN サーバー上の各アダプタの稼働状況を表示するには

```
sjENB_Pmctrl monitor
```

と指定します。この場合の実行例を以下に示します。

```
ID : [S1]
  command = sjENB_Server S1
  type    = enb-server
  restart = 3
  status  = 稼働中
  pid     = 984
  tid     = 980
  stime  = 2002-06-17 12:47:21
  comment = SEN サーバー
ID : [U1]
  command = sjENS_Pcc.exe U1
  type    = ens-sjpcc
  restart = 3
  status  = 稼働中
  pid     = 3136
  tid     = 3524
  stime  = 2002-06-17 12:47:25
  comment = Senju Operation Conductor 連携( nrisrv )
ID : [U2]
  command = sjENX_Trapd.exe U2
  type    = enx-snmpttrap
  restart = 3
  status  = 停止(正常)
  pid     =
  tid     =
  stime  =
  comment = SNMPトラップ連携
```

各項目の意味を下記に示します。

表 3.3-1 アダプタ稼働状況のモニタ実行例の項目

項目	内容
ID	SEN サーバーが管理するプロセス識別子 (OS のプロセス ID とは異なります)
command	プロセスの起動シーケンス
type	プロセスのサブシステム種別 enb-server : SEN サーバー。 ens-sjpcc : 千手連携アダプタ。 enx-snmpttrap : SNMP トラップ受信アダプタ。 enx-syslog : シスログ受信アダプタ。 enx-mailrcv : メール受信連携アダプタ。 enx-sp : Senju Service Manager 連携アダプタ。 enx-eventrcv : イベント連携アダプタ。 enx-mailsend : メール送信連携アダプタ。 enx-telcall : TELstaff 連携アダプタ。
restart	最大自動再起動回数
status	動作ステータス 不明 : 状態が不明です。 稼働中 : プロセスは稼働中です。 稼働中(削除済) : 稼働中のプロセス定義が削除されました。 停止(正常) : 管理プロセス(sjENB_ProcMgr)からの要求でプロセスを停止しました。 停止(異常) : 管理プロセス(sjENB_ProcMgr)からの要求以外でプロセスを停止しました。 起動要求中 : 管理プロセス(sjENB_ProcMgr)からの要求でプロセスの起動を行っています。 停止要求中 : 管理プロセス(sjENB_ProcMgr)からの要求でプロセスの停止を行っています。 強制停止要求中 : 管理プロセス(sjENB_ProcMgr)からの要求でプロセスの強制停止を行っています。 停止(リトライオーバー) : プロセスは起動しませんでした。
pid	プロセス ID
tid	スレッド ID
stime	プロセス起動時刻(YYYY-MM-DD hh:mm:ss)
comment	プロセスのコメントです。 SEN サーバー Senju Operation Conductor 連携(ドメイン名) SNMP トラップ連携 シスログ連携 メール受信連携(ドメイン名) Senju Service Manager 連携(ドメイン名) イベント連携(ドメイン名) メール送信連携(ドメイン名) TELstaff 連携(ドメイン名)

3.3.3.2 アダプタの停止

SEN サーバー上の各アダプタを停止するには、

```
sjENB_Pmctrl stop ID
```

と指定します。ここで、*ID* には、sjENB_Pmctrl monitor コマンドで表示される ID の値を指定します。たとえば、上記の例で U1 の sjENS_Pcc.exe アダプタを停止するには、

```
sjENB_Pmctrl stop U1
```

と指定します。正常に停止された場合は、

```
ID : [U1]
command = sjENS_Pcc.exe U1
type    = ens-sjpcc
restart = 3
status  = 停止(正常)
pid     =
tid     =
stime  =
comment = Senju Operation Conductor 連携( nrisrv )
```

と表示されます。

3.3.3.3 アダプタの起動

SEN サーバー上で停止中のアダプタを起動するには、

```
sjENB_Pmctrl run ID
```

と指定します。ここで、*ID* には、sjENB_Pmctrl monitor コマンドで表示される ID の値を指定します。たとえば、上記の例で U2 の sjENX_Trapd.exe アダプタを起動するには、

```
sjENB_Pmctrl run U2
```

と指定します。正常に起動された場合は、

```
ID : [U2]
command = sjENX_Trapd.exe U2
type    = enx-snmpttrap
restart = 3
status  = 稼働中
pid     = 3208
tid     = 3224
stime  = 2002-06-17 17:19:19
comment = = SNMPトラップ連携
```

と表示されます。

3.3.3.4 アダプタの強制停止

SEN サーバーにおけるアダプタの停止は、基本的には `sjENB_Pmctrl stop` により行います。しかし、止むを得ない理由によって、すぐにアダプタの終了を行う必要がある場合のみ、下記コマンドにより強制停止を行って下さい。

SEN サーバー上の各アダプタを強制停止するには、

```
sjENB_Pmctrl kill ID
```

と指定します。ここで、*ID* には、`sjENB_Pmctrl monitor` コマンドで表示される ID の値を指定します。

強制停止を行うとイベントのロストが発生する可能性があります。強制停止は、極力実行しないで下さい。

3.3.3.5 アダプタの追加

監視対象のアダプタを追加するには、SEN コンフィグレータで設定を追加した後、sjENB_Pmctrl monitor を実行して下さい。

sjENB_Pmctrl monitor の実行結果に追加したアダプタが表示されます。この時、comment 内容により追加したアダプタを確認して下さい。

アダプタは停止状態で追加されます。必要に応じて起動して下さい。

ID : [U3]

command = sjENS_Pcc.exe U3

type = ens-sjpcc

restart = 3

status = 停止(正常)

pid =

tid =

stime =

comment = Senju Operation Conductor 連携(nrisrv2)

SEN コンフィグレータの使い方については、別冊の「インストールガイド」の「6 環境設定」を参照して下さい。

3.3.3.6 アダプタの削除

監視対象のアダプタを削除するには、`sjENB_Pmctrl stop` でアダプタを停止した後に SEN コンフィグレータで設定を削除して下さい。

`sjENB_Pmctrl monitor` を実行した結果の中に、削除したアダプタの情報が表示されなくなります。

SEN コンフィグレータの使い方については、別冊の「インストールガイド」の「6 環境設定」を参照して下さい。



稼働中のアダプタを削除した場合、削除したアダプタの状態は稼働中(削除済)となります。

この状態のまま設定を追加すると、プロセス識別子が重複する事があります。

その場合、削除されたアダプタを停止するまで、重複した新しいアダプタの情報は表示されません。かならずアダプタは停止した上で削除するようにして下さい。

3.3.4 Web サーバーデーモンの制御

%SENWSHOME%\bin 内の sjENB_WsPmctrl コマンドを使用し、SEN Web サービスを構成するアダプタを個別に停止、起動することが可能です。なお、SEN Web サービスを構成するアダプタの一覧については、「6.4 構成プロセス一覧」を参照して下さい。

以下、各アダプタを制御するための方法について説明します。

3.3.4.1 アダプタ稼働状況のモニタ

SEN Web サービス上の各アダプタの稼働状況を表示するには

```
sjENB_WsPmctrl monitor
```

と指定します。この場合の実行例を以下に示します。

```
ID : [S1]
  command = sjENB_WebSvrd.exe S1
  type    = enb-websvrd
  restart = 3
  status  = 稼働中
  pid     = 9912
  tid     = 9916
  stime   = 2013-01-11 15:16:54
  comment = SENWeb サーバーデーモン
  startup = 自動
```

各項目の意味を下記に示します。

表 3.3-2 アダプタ稼働状況のモニタ実行例の項目

項目	内容
ID	SENWeb サービスが管理するプロセス識別子 (OS のプロセス ID とは異なります)
command	プロセスの起動シーケンス
type	プロセスのサブシステム種別 enb-websvrd : SENWeb サーバーデーモン
restart	最大自動再起動回数
status	動作ステータス 不明 : 状態が不明です。 稼働中 : プロセスは稼働中です。 稼働中(削除済) : 稼働中のプロセス定義が削除されました。 停止(正常) : 管理プロセス(sjENB_WsProcMgr)からの要求でプロセスを停止しました。 停止(異常) : 管理プロセス(sjENB_WsProcMgr)からの要

	求以外でプロセスを停止しました。 起動要求中：管理プロセス(sjENB_WsProcMgr)からの要求でプロセスの起動を行っています。 停止要求中：管理プロセス(sjENB_WsProcMgr)からの要求でプロセスの停止を行っています。 強制停止要求中：管理プロセス(sjENB_WsProcMgr)からの要求でプロセスの強制停止を行っています。 停止(リトライオーバー)：プロセスは起動しませんでした。
pid	プロセス ID
tid	スレッド ID
stime	プロセス起動時刻(YYYY-MM-DD hh:mm:ss)
comment	プロセスのコメントです。 SENWeb サーバーデーモン
startup	プロセスの起動方法です。 自動：SENWeb サービスの起動と同じタイミングで自動に起動します。 手動：自動に起動しません。 無効：コマンドによる制御が出来ません。

3.3.4.2 アダプタの停止

SEN Web サービス上の各アダプタを停止するには、

```
sjENB_WsPmctrl stop ID
```

と指定します。ここで、*ID*には、sjENB_WsPmctrl monitor コマンドで表示される ID の値を指定します。たとえば、S1 の sjENB_WebSvr.exe を停止するには、

```
sjENB_WsPmctrl stop S1
```

と指定します。正常に停止された場合は、

```
ID : [S1]
command = sjENB_WebSvr.exe S1
type    = enb-websvr
restart = 3
status  = 停止(正常)
pid     =
tid     =
stime  =
comment = SENWeb サーバーデーモン
startup = 自動
```

と表示されます。

3.3.4.3 アダプタの起動

SEN サーバー上で停止中のアダプタを起動するには、

```
sjENB_WsPmctrl run ID
```

と指定します。ここで、*ID* には、sjENB_WsPmctrl monitor コマンドで表示される ID の値を指定します。たとえば、上記の例で S1 の sjENB_WebSvr.exe アダプタを起動するには、

```
sjENB_WsPmctrl run S1
```

と指定します。正常に起動された場合は、

```
ID : [S1]
command = sjENB_WebSvr.exe S1
type    = enb-websvr
restart = 3
status  = 稼働中
pid     = 7408
tid     = 4472
stime  = 2013-01-11 15:28:05
comment = SENWeb サーバーデーモン
startup = 自動
```

と表示されます。

3.3.4.4 アダプタの強制停止

SEN サーバーにおけるアダプタの停止は、基本的には `sjENB_WsPmctrl stop` により行います。しかし、止むを得ない理由によって、すぐにアダプタの終了を行う必要がある場合のみ、下記コマンドにより強制停止を行って下さい。

SEN サーバー上の各アダプタを強制停止するには、

```
sjENB_WsPmctrl kill ID
```

と指定します。ここで、*ID* には、`sjENB_WsPmctrl monitor` コマンドで表示される ID の値を指定します。

強制停止を行うとイベントのロストが発生する可能性があります。強制停止は、極力実行しないで下さい。

3.3.4.5 アダプタの追加

V2020 では、監視対象として追加するアダプタはありません。

3.3.4.6 アダプタの削除

V2020 では、監視対象から削除できるアダプタはありません。

3.3.5 SEN サーバーのデータバックアップ

SEN サーバーのデータバックアップには、自動バックアップと手動バックアップの2種類の方法があります。

自動バックアップを行う場合は、「3.2.4 SEN サーバー/コンソールの設定」を参照して下さい。

手動バックアップを行う場合は、「3.3.5.1 SEN サーバーの手動データバックアップ」を参照して下さい。

3.3.5.1 SEN サーバーの手動データバックアップ

SEN サーバーのデータバックアップを行うには、メニューバーの[ツール]から[メンテナンス(管理者)]の[SEN サーバーデータのバックアップ]を選択します。SEN サーバーのデータバックアップは、Operators 役割以上のユーザーで可能です。

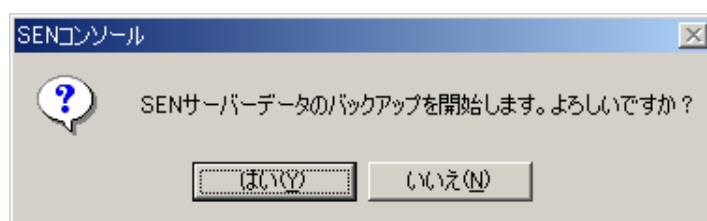


図 3.3-5 バックアップ確認画面

バックアップ確認画面で[はい]ボタンを押すとバックアップが開始されます。バックアップが終了すると、図 3.3-6 のような結果表示画面が表示されます。

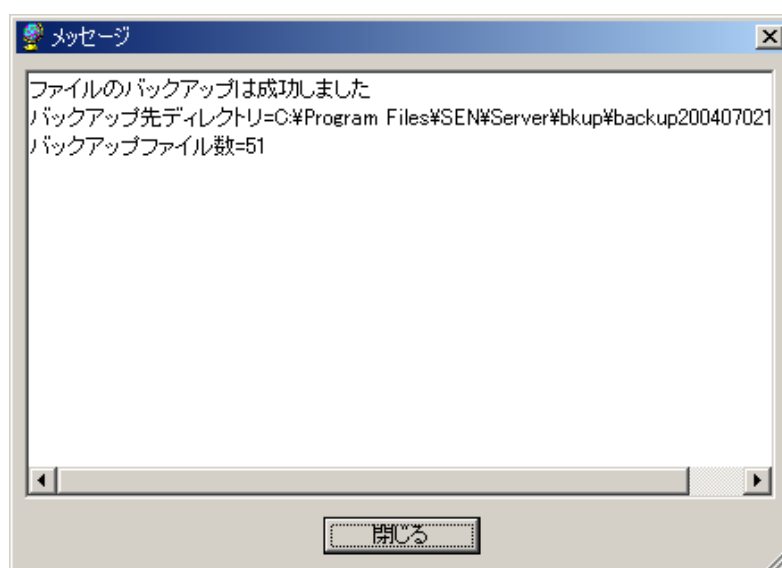


図 3.3-6 バックアップ結果表示画面

バックアップ取得対象となるのは、SEN サーバーの定義情報(ユーザー、グループ、イメージ、メインペイン、ルールセット等)およびイベントデータです。SEN サーバー/コンソールの設定状態メニューで“過去イベントファイルのバックアップ”をチェックした場合は、イベントデータがバックアップ対象に含まれます。チェックしなければ、イベントデータはバックアップ対象に含まれません。

SEN サーバーのデータバックアップでは、具体的には、%SENSVHOME%\dat フォルダ下のファイルを対象とします。なお、環境変数%SENSVHOME%は、SEN サーバーの導入ディレクトリに相当します。

イベントデータ用ファイルは、%SENSVHOME%\dat\evt フォルダ下に保存されています。

ログファイル(プロセスログ、イベントログ)はバックアップの対象になりません。必要であれば、%SENSVHOME%\log フォルダ下のファイルを個別にバックアップして下さい。



バックアップ対象としてイベントデータを含めた場合、イベントデータ量によってはバックアップに時間がかかることがあります。バックアップ処理中は、SEN サーバーは受信イベントの処理ができなくなりますので(受信したイベントが失われることはありません)、なるべくイベントがあまり到着していない時間帯に実施して下さい。自動スケジュールによるバックアップも同様です。



“バックアップ先ディレクトリ”に存在しないディレクトリが指定された場合は、SEN サーバーのデータバックアップの実行に失敗します。ご注意ください。
“バックアップ先ディレクトリ”の指定は、「3.2.4 SEN サーバー/コンソールの設定」を参照して下さい。

3.3.5.2 バックアップデータのリストア

SEN サーバーのバックアップデータのリストア手順を以下に説明します。

- 1) SEN サーバーを停止します。SEN サーバーの停止方法については、「3.3.1 SEN サーバーの起動・停止」を参照して下さい。
- 2) リストア先フォルダ %SENSVHOME%\dat を別のフォルダ名に変更して下さい。
- 3) バックアップデータをすべて %SENSVHOME%\dat フォルダへコピーして下さい。
- 4) SEN サーバーを起動します。SEN サーバーの起動方法については、「3.3.1 SEN サーバーの起動・停止」を参照して下さい。

3.3.6 ログファイルの運用

SEN サーバーおよび SEN コンソールでは、いくつかのログファイルが出力されます。
以下、ログファイルの一覧およびその概要について説明します。

1) ログ出力ディレクトリ

ログ出力先ディレクトリは下記の通りです。

環境変数%SENSVHOME%は、SEN サーバーの導入ディレクトリに相当します。

環境変数%SENCLHOME%は、SEN コンソールの導入ディレクトリに相当します。

環境変数%SENWSHOME%は、SEN Web サービスの導入ディレクトリに相当します。

環境変数%SENSTHOME%は、SEN サテライトの導入ディレクトリに相当します。

- SEN サーバー %SENSVHOME%\log
- SEN コンソール %SENCLHOME%\log
- SEN Web サービス %SENWSHOME%\log
- SEN サテライト %SENSTHOME%\log

2) ログファイル一覧

SEN サーバーにおけるログファイル一覧を表 3.3-3 に示します。

表 3.3-3 SEN サーバーにおけるログファイル一覧

項番	ファイル名	内容	備考
1	sjENB_ServerSourceEvent.log	ルール処理実行前の全イベントの履歴を記録します。 SEN サーバーが受信したすべてのイベントを記録します。	ログファイルサイズおよび保持する世代は[SEN サーバー/コンソールの設定状態]メニューにより設定できます。デフォルトは、3MB、7 世代です。シフト後のログファイルは、.log.1、.log.2、...の拡張子が付けられます。
2	sjENB_ServerGroupEvent_grpID.log sjENB_ServerGroupEvent_{other}.log	グループ別ルール処理実行後のイベントの履歴を記録します。 grpID には分配されたグループ ID が入ります。なお、グループ ID に次の文字(\:;,*?<>)が含まれる場合には、{文字コード}に置き換えられます。 破棄されず、かつどのグループにも割り当てられなかったイベントについては{other}グループに割り当てられます。	ログファイルサイズおよび保持する世代は[SEN サーバー/コンソールの設定状態]メニューにより設定できます。デフォルトは、3MB、7 世代です。シフト後のログファイルは、.log.1、.log.2、...の拡張子が付けられます。
3	sjENB_Server.log	SEN サーバープロセス(sjENB_Server)の動作履歴を記録します。イベント処理履歴、ルール発火履歴などもこのファイルに書かれます。	ログファイルサイズおよび保持する世代は[SEN サーバー/コンソールの設定状態]メニューにより設定できます。デフォルトは、3MB、7 世代です。シフト後のログファイルは、.log.1、.log.2、...の拡張子が付けられます。
4	sjENB_ServerPerf_RuleTime.log	SEN サーバープロセス(sjENB_Server)の動作履歴のうち、ルール処理に関する履歴を記録しま	ログファイルサイズおよび保持する世代は[SEN サーバー/コンソールの設定状態]メニューにより

項番	ファイル名	内容	備考
		す。 このログファイルはタブ区切りのcsv形式で記録され、出力項目は順にヘッダー(処理日時、SENサーバー名など)/ルールの種類(共通ルールまたはグループ別ルール)/処理時間(ミリ秒単位)/処理したイベント数となります。	設定できます。デフォルトは、3MB、7世代です。シフト後のログファイルは、.log.1、.log.2、...の拡張子が付けられます。
5	sjENB_ServerPerf_RuleCount.log	SENサーバープロセス(sjENB_Server)の動作履歴のうち、ルール処理に関するイベント数およびアクションの実行数を記録します。	ログファイルサイズ、保持する世代および情報の記録間隔は[SENサーバー/コンソールの設定状態]メニューにより設定できます。デフォルトは、3MB、7世代、300秒です。シフト後のログファイルは、.log.1、.log.2、...の拡張子が付けられます。
6	sjENB_Server_CPLib.log	SENサーバープロセス(sjENB_Server)の動作履歴を記録します。	ログファイルサイズおよび保持する世代は3MB、7世代です。シフト後のログファイルは、.log.1、.log.2、...の拡張子が付けられます。
7	sjENB_ServerRuleSet.log	ルールセットの反映時に反映するルールセット内容を記録します。	保持するログファイルは7世代です。シフト後のログファイルは、.log.1、.log.2、...の拡張子が付けられます。
8	sjENB_ProcMgr.log	SEN Process Manager(sjENB_ProcMgr)の動作履歴を記録します。	ログファイルサイズおよび保持する世代は1MB、7世代です。シフト後のログファイルは、.log.1、.log.2、...の拡張子が付けられます。
9	sjENB_Pmctrl.log	sjENB_Pmctrl コマンドの履歴を記録します。	ログファイルサイズおよび保持する世代は1MB、7世代です。シフト後のログファイルは、.log.1、.log.2、...の拡張子が付けられます。
10	sjENB_EntryKey.log	sjENB_EntryKey コマンドの履歴を記録します。	ログファイルサイズおよび保持する世代は1MB、7世代です。シフト後のログファイルは、.log.1、.log.2、...の拡張子が付けられます。
11	sjENS_Pcc_ID.log	千手連携アダプタ(sjENS_Pcc)の動作履歴を記録します。 ここで ID には、sjENS_conf.xml で指定されるプロセス識別ID(pid)が入ります。	ログファイルサイズおよび保持する世代は3MB、7世代です。シフト後のログファイルは、.log.1、.log.2、...の拡張子が付けられます。
12	sjENS_Pcc_Msg_ID.log	千手連携アダプタ(sjENS_Pcc)が受信した千手メッセージを記録します。SENコンフィグレータにて「受信した千手メッセージを記録する」が設定されている場合に出力されます。 ここで ID には、sjENS_conf.xml で指定されるプロセス識別ID(pid)が入ります。	ログファイルサイズおよび保持する世代は1MB、7世代です。シフト後のログファイルは、.log.1、.log.2、...の拡張子が付けられます。
13	sjENX_Trapd.log	SNMPトラップ受信アダプタ(sjENX_Trapd)の動作履歴を記録します。 受信または破棄されたSNMPト	ログファイルサイズおよび保持する世代は1MB、7世代です。シフト後のログファイルは、.log.1、.log.2、...の拡張子が

項番	ファイル名	内容	備考
		ラップの履歴もこのファイルに記録します。	付けられます。
14	sjENX_Syslogd.log	シスログ受信アダプタ (sjENX_Syslogd) の動作履歴を記録します。 受信または破棄されたシスログの履歴もこのファイルに記録します。	ログファイルサイズおよび保持する世代は 1MB、7 世代です。シフト後のログファイルは、.log.1, .log.2, ... の拡張子が付けられます。
15	sjENX_MailRcvd_ID.log	メール受信連携アダプタ (sjENX_MailRcvd) の動作履歴を記録します。メールサーバーとの通信履歴もこのファイルに出力されます。ここで ID には、sjENX_MailReceivedConf.xml で指定されるプロセス識別 ID(pid)が入ります。	ログファイルサイズおよび保持する世代は 3MB、7 世代です。シフト後のログファイルは、.log.1, .log.2, ... の拡張子が付けられます
16	sjENX_MailRcvd_raw_ID.log	メール受信連携アダプタ (sjENX_MailRcvd) が受信したメールメッセージを記録します。SEN コンフィグレータにて「メールメッセージを記録する」が設定されている場合に出力されます。ここで ID には、sjENX_MailReceivedConf.xml で指定されるプロセス識別 ID(pid)が入ります。	ログファイルサイズおよび保持する世代は 3MB、7 世代です。シフト後のログファイルは、.log.1, .log.2, ... の拡張子が付けられます。
17	sjENX_MailRcvd_ID_OAuth2.log	メール受信連携アダプタ (sjENX_MailRcvd) の OAuth2 ドライバーの動作履歴を記録します。ここで ID には、sjENX_MailReceivedConf.xml で指定されるプロセス識別 ID(pid)が入ります。	ログファイルサイズおよび保持する世代は 1MB、7 世代です。シフト後のログファイルは、.log.1, .log.2, ... の拡張子が付けられます。
18	sjENX_spd_ID.log	Senju Service Manager 連携アダプタ (sjENX_spd) の動作履歴を記録します。ここで ID には、sjENX_spdConf.xml で指定されるプロセス識別 ID(pid)が入ります。	ログファイルサイズおよび保持する世代は 1MB、7 世代です。シフト後のログファイルは、.log.1, .log.2, ... の拡張子が付けられます。
19	sjENX_EventRcvd_ID.log	イベント連携アダプタ (sjENX_EventRcvd) の動作履歴を記録します。ここで ID には、sjENX_EventRcvdConf.xml で指定されるプロセス識別 ID(pid)が入ります。	ログファイルサイズおよび保持する世代は 1MB、7 世代です。シフト後のログファイルは、.log.1, .log.2, ... の拡張子が付けられます。
20	sjENB_Config.log	SEN コンフィグレータ (sjENB_Config) の動作履歴を記録します。	ログファイルサイズおよび保持する世代は 3MB、7 世代です。シフト後のログファイルは、.log.1, .log.2, ... の拡張子が付けられます。
21	sjENB_Config_OAuth2.log	SEN コンフィグレータ (sjENB_Config) の OAuth2 ドライバーの動作履歴を記録します。	ログファイルサイズおよび保持する世代は 1MB、7 世代です。シフト後のログファイルは、.log.1, .log.2, ... の拡張子が付けられます。
22	sjENX_MailSend_ID.log	メール送信連携アダプタ	ログファイルサイズおよび保持す

項番	ファイル名	内容	備考
		(sjENX_MailSend)の動作履歴を記録します。ここで <i>ID</i> には、sjENX_MailSendConf.xml で指定されるプロセス識別 ID(pid)が入ります。	る世代は 1MB、7 世代です。シフト後のログファイルは、.log.1、.log.2、...の拡張子が付けられます。
23	sjENX_MailSend_raw_ <i>ID</i> .log	メール送信連携アダプタ (sjENX_MailSend)が送信したメール送信メッセージを記録します。SEN コンフィグレータにて「メールメッセージ送信記録」が「出力する」と設定されている場合に出力されます。ここで <i>ID</i> には、sjENX_MailSendConf.xml で指定されるプロセス識別 ID(pid)が入ります。	ログファイルサイズおよび保持する世代は 1MB、7 世代です。シフト後のログファイルは、.log.1、.log.2、...の拡張子が付けられます。
24	sjENX_MailSendHistory_ <i>ID</i> .log	メール送信連携アダプタ (sjENX_MailSend)が成功したメール送信メッセージを記録します。また 1 時間毎の成功件数のサマリ情報を記録します。ここで <i>ID</i> には、sjENX_MailSendConf.xml で指定されるプロセス識別 ID(pid)が入ります。	ログファイルサイズおよび保持する世代は 1MB、7 世代です。シフト後のログファイルは、.log.1、.log.2、...の拡張子が付けられます。
25	sjENX_UnMailSendHistory_ <i>ID</i> .log	メール送信連携アダプタ (sjENX_MailSend)が失敗したメール送信メッセージを記録します。また 1 時間毎の失敗件数のサマリ情報を記録します。ここで <i>ID</i> には、sjENX_MailSendConf.xml で指定されるプロセス識別 ID(pid)が入ります。	ログファイルサイズおよび保持する世代は 1MB、7 世代です。シフト後のログファイルは、.log.1、.log.2、...の拡張子が付けられます。
26	sjENX_TelCallId_ <i>ID</i> .log	TELstaff 連携アダプタ (sjENX_TelCallId)の動作履歴を記録します。ここで <i>ID</i> には、sjENX_TelCallIdConf.xml で指定されるプロセス識別 ID(pid)が入ります。	ログファイルサイズおよび保持する世代は 1MB、7 世代です。シフト後のログファイルは、.log.1、.log.2、...の拡張子が付けられます。
27	sjENX_TelCallId_ActHistory_ <i>ID</i> .log	TELstaff 連携アダプタ (sjENX_TelCallId)が成功した電話呼出メッセージを記録します。また 1 時間毎の成功件数のサマリ情報を記録します。ここで <i>ID</i> には、sjENX_TelCallIdConf.xml で指定されるプロセス識別 ID(pid)が入ります。	ログファイルサイズおよび保持する世代は 1MB、7 世代です。シフト後のログファイルは、.log.1、.log.2、...の拡張子が付けられます。
28	sjENX_TelCallId_UnActHistory_ <i>ID</i> .log	TELstaff 連携アダプタ (sjENX_TelCallId)が失敗した電話呼出メッセージを記録します。また 1 時間毎の失敗件数のサマリ情報を記録します。ここで <i>ID</i> には、sjENX_TelCallIdConf.xml で指定されるプロセス識別 ID(pid)が入ります。	ログファイルサイズおよび保持する世代は 1MB、7 世代です。シフト後のログファイルは、.log.1、.log.2、...の拡張子が付けられます。
29	sjENX_TelCallScript.log	TELstaff 連携スクリプトの実行履歴を記録します。	ログファイルサイズおよび保持する世代は 1MB、7 世代です。シフト後のログファイルは、.log.1、.log.2、...の拡張子が付けられます。

項番	ファイル名	内容	備考
30	sjENX_SendEvent.log	イベント送信コマンド (sjENX_SendEvent) の実行履歴を記録します。	ログファイルサイズおよび保持する世代は 1MB、7 世代です。シフト後のログファイルは、.log.1, .log.2, ... の拡張子が付けられます。
31	sjENX_MailLib_ID.log	メール受信連携アダプタ (sjENX_MailRcvd) が受信した HTML メール の解析 の動作履歴を記録します。SEN コンフィグデータにて「HTML 受信設定」が設定されている場合に出力されます。ここで ID には、sjENX_MailReceivedConf.xml で指定されるプロセス識別 ID(pid)が入ります。	ログファイルサイズおよび保持する世代は 1MB、7 世代です。シフト後のログファイルは、.log.1, .log.2, ... の拡張子が付けられます。
32	sen_sv_YYYYMMDDhhmmss_setup(uninstall).log	インストール(またはアンインストール)の処理を動作履歴します。ここで YYYYMMDDhhmmss には、インストール(またはアンインストール)の実施日時が入ります。	

SEN コンソールにおけるログファイル一覧を表 3.3-4 に示します。

表 3.3-4 SEN コンソールにおけるログファイル一覧

No	ファイル名	内容	備考
1	sjENB_Console.log	SEN コンソール(sjENB_Console) の動作履歴を記録します。	ログファイルサイズおよび保持する世代は[SEN サーバー/コンソールの設定状態]メニューにより設定できます。デフォルトは、1MB、7 世代です。
2	sjENB_Console_CPLib.log	SEN コンソール(sjENB_Console) の動作履歴を記録します。	デフォルトは、3MB、7 世代です。
3	sjENB_ConsoleOperation.log	SEN コンソール(sjENB_Console) の操作履歴を記録します。	ログファイルサイズおよび保持する世代は[SEN サーバー/コンソールの設定状態]メニューにより設定できます。デフォルトは、1MB、7 世代です。
4	sen_cl_YYYYMMDDhhmmss_setup(uninstall).log	インストール(またはアンインストール)の動作履歴を記録します。ここで YYYYMMDDhhmmss には、インストール(またはアンインストール)の実施日時が入ります。	

SEN Web サービスにおけるログファイル一覧を表 3.3-5 に示します。

表 3.3-5 SEN Web サービスにおけるログファイル一覧

No	ファイル名	内容	備考
1	sjENB_WebConsole.log	SEN Web サービス(Web 画面)の動作履歴を記録します。	ログファイルサイズおよび保持する世代は 3MB、7 世代です。シフト後のログファイルは、.log.1, .log.2, ... の拡張子が付けられます。
2	sjENB_WebSvrD.log	SEN Web サーバーデーモン	ログファイルサイズおよび保持する

		(sjENB_WebSvr)の動作履歴を記録します。	る世代は 3MB、7 世代です。シフト後のログファイルは、.log.1, .log.2, ...の拡張子が付けられます。
3	sjENB_WsProcMgr.log	SEN Web Process Manager(sjENB_WsProcMgr)の動作履歴を記録します。	ログファイルサイズおよび保持する世代は 1MB、7 世代です。シフト後のログファイルは、.log.1, .log.2, ...の拡張子が付けられます。
4	sjENB_WsPmCtrl.log	sjENB_WsPmCtrl コマンドの履歴を記録します。	ログファイルサイズおよび保持する世代は 1MB、7 世代です。シフト後のログファイルは、.log.1, .log.2, ...の拡張子が付けられます。
5	sen_ws_YYYYMMDDhhmmss_setup(uninstall).log	インストール(またはアンインストール)の動作履歴を記録します。ここで YYYYMMDDhhmmss には、インストール(またはアンインストール)の実施日時が入ります。	

SEN サテライトにおけるログファイル一覧を表 3.3-6 に示します。

表 3.3-6 SEN サテライトにおけるログファイル一覧

項番	ファイル名	内容	備考
1	sjENX_TelCallScript.log	TELstaff 連携スクリプトの実行履歴を記録します。	ログファイルサイズおよび保持する世代は 1MB、7 世代です。シフト後のログファイルは、.log.1, .log.2, ...の拡張子が付けられます。
2	sjENX_SendEvent.log	イベント送信コマンド (sjENX_SendEvent)の実行履歴を記録します。	ログファイルサイズおよび保持する世代は 1MB、7 世代です。シフト後のログファイルは、.log.1, .log.2, ...の拡張子が付けられます。
3	sen_st_YYYYMMDDhhmmss_setup(uninstall).log	インストール(またはアンインストール)の動作履歴を記録します。ここで YYYYMMDDhhmmss には、インストール(またはアンインストール)の実施日時が入ります。	

3.3.7 添付ファイルの運用

SEN サーバーでは、メールメッセージの添付ファイルを受信します。
以下、添付ファイルの概要について説明します。

3.3.7.1 メーラーから受信

- 1) 添付ファイル出力先ディレクトリ

添付ファイル出力先ディレクトリは下記の通りです。

環境変数%SENSVHOME%は、SEN サーバーの導入ディレクトリに相当します。

```
・%SENSVHOME%\dat\enx\mail\attachment\recv\sjMRD_+  
  "[作成日時(YYYYMMDDhhmmss)]"+"_" +  
  "[ユニークキー(UUID)]"+"_"+" [CPUのクロック数]"
```

3.3.7.2 千手マネージャから受信

- 1) 添付ファイル出力先ディレクトリ

添付ファイル出力先ディレクトリは下記の通りです。

環境変数%SENSVHOME%は、SEN サーバーの導入ディレクトリに相当します。

```
・%SENSVHOME%\dat\ens\mail\attachment\send\sjSBD_+  
  "[作成日時(YYYYMMDDhhmmss)]"+"_" +  
  "[ユニークキー(UUID)]"+"_"+" [CPUのクロック数]"
```

3.3.8 HTML ファイルの運用

SEN サーバーでは、メールメッセージの HTML ファイルを受信します。
以下、HTML ファイルの概要について説明します。

3.3.8.1 メーラーから受信

1) HTML ファイル出力先ディレクトリ

HTML ファイル出力先ディレクトリは下記の通りです。

環境変数%SENSVHOME%は、SEN サーバーの導入ディレクトリに相当します。

```
・%SENSVHOME% \dat\enx\mail\html\recv\sjMRD_+  
  "[作成日時(YYYYMMDDhhmmss)]"+"_"+"  
  "[ユニークキー(UUID)]"+"_"+" [CPUのクロック数]"
```

3.3.9 挿入ファイルの運用

SEN サーバーでは、メールメッセージの挿入ファイルを受信します。
以下、挿入ファイルの概要について説明します。

3.3.9.1 メーラーから受信

1) 挿入ファイル出力先ディレクトリ

挿入ファイル出力先ディレクトリは下記の通りです。

環境変数%SENSVHOME%は、SEN サーバーの導入ディレクトリに相当します。

```
•%SENSVHOME% \dat\enx\mail\inline\recv\sjMRD_+  
  "[作成日時(YYYYMMDDhhmmss)]"+"_"+"  
  "[ユニークキー(UUID)]"+"_"+" [CPUのクロック数]"
```

3.3.10 SEN サーバー稼働環境の時刻変更

SEN サーバー稼働環境の時刻変更を行う場合は、以下の手順で実施して下さい。

- 1) SEN サーバーを停止します。SEN サーバーの停止方法については、「**3.3.1 SEN サーバーの起動・停止**」を参照して下さい。
- 2) SEN サーバー稼働環境の時刻を変更します。
- 3) SEN サーバーを起動します。SEN サーバーの起動方法については、「**3.3.1 SEN サーバーの起動・停止**」を参照して下さい。

尚、Senju Enterprise Navigator では上記以外の方法はサポートしていません。

3.3.11 SEN Web サービス稼働環境の時刻変更

SEN Web サービス稼働環境の時刻変更を行う場合は、以下の手順で実施して下さい。

- 1) SEN Web サービスを停止します。SEN Web サービスの停止方法については、「**3.3.2 SEN Web サービスの起動・停止**」を参照して下さい。
- 2) IIS、SQL Server のサービスを停止します。
- 3) SEN Web サービス稼働環境の時刻を変更します。
- 4) IIS、SQL Server のサービスを起動します。
- 5) SEN Web サービスを起動します。SEN Web サービスの起動方法については、「**3.3.2 SEN Web サービスの起動・停止**」を参照して下さい。

尚、Senju Enterprise Navigator では上記以外の方法はサポートしていません。

3.3.12 SEN コンソールダイアログのアイコン変更

SEN コンソールダイアログのアイコンは、以下のフォルダにビットマップファイル「LoginDlgLogo.bmp」を格納することで変更可能です。

フォルダ名：%SENCLHOME%\dat\enb\icon

ファイル名：LoginDlgLogo.bmp

尚、LoginDlgLogo.bmp が存在しない場合は、デフォルトで用意された画像が表示されます。



SEN コンソールでは、ダイアログの画像ファイルとして、幅 256 ピクセル、高さ 256 ピクセルのビットマップファイルをサポートしています。

3.3.13 SEN Web サービスログイン画面のアイコン変更

SEN Web サービスのログイン画面のアイコンは、以下のフォルダにビットマップファイル「SENLogo_custom.bmp」を格納することで変更可能です。

フォルダ名 : %SENWSHOME%\Content\Images

ファイル名 : SENLogo_custom.bmp

尚、SENLogo_custom.bmp が存在しない場合は、デフォルトで用意された画像が表示されます。



SEN Web サービスログイン画面のデフォルトのアイコンのサイズは、幅 449 ピクセル、高さ 249 ピクセルです。

3.3.14 SEN Web サービス共通画面のロゴ変更

SEN Web サービス共通画面のメニューバーのロゴは、以下のフォルダに PNG ファイル「header_sentitle_custom.png」を格納することで変更可能です。

フォルダ名 : %SENWSHOME%\Content\Images

ファイル名 : header_sentitle_custom.png

尚、header_sentitle_custom.png が存在しない場合は、デフォルトで用意されたロゴが表示されます。



SEN Web サービス画面のデフォルトのロゴのサイズは、幅 400 ピクセル、高さ 31 ピクセルです。

4 メインペイン作成ガイド

4

メインペイン作成ガイド

この章では、メインペインエディタを用いてメインビュー上に表示されるメインペインを定義する手順について詳しく説明します。

4	メインペイン作成ガイド	4-1
4.1	メインペインの作成・編集手順.....	4-3
4.1.1	メインペインエディタの起動.....	4-3
4.1.2	メインペインの描画編集.....	4-5
4.1.3	メインペインアイテムのプロパティ	4-20
4.1.4	メインペインの保存.....	4-40
4.1.5	インポートによるメインペインアイテムの自動生成(千手ノード定義)	4-44
4.1.6	インポートハンドラによるメインペインの自動生成(千手ジョブスケジュール情報)	4-46

4.1 メインペインの作成・編集手順

ここでは、メインペインエディタによるメインペインの作成、編集手順について詳しく説明します。

4.1.1 メインペインエディタの起動

メインビューにおけるメインペインのデザインはメインペインエディタを用いて行います。メインペインエディタを開くには、[ファイル]メニューから[メインペインエディタを開く]を選ぶか、ツールバーから[メインペインエディタ]ボタンを選択します。

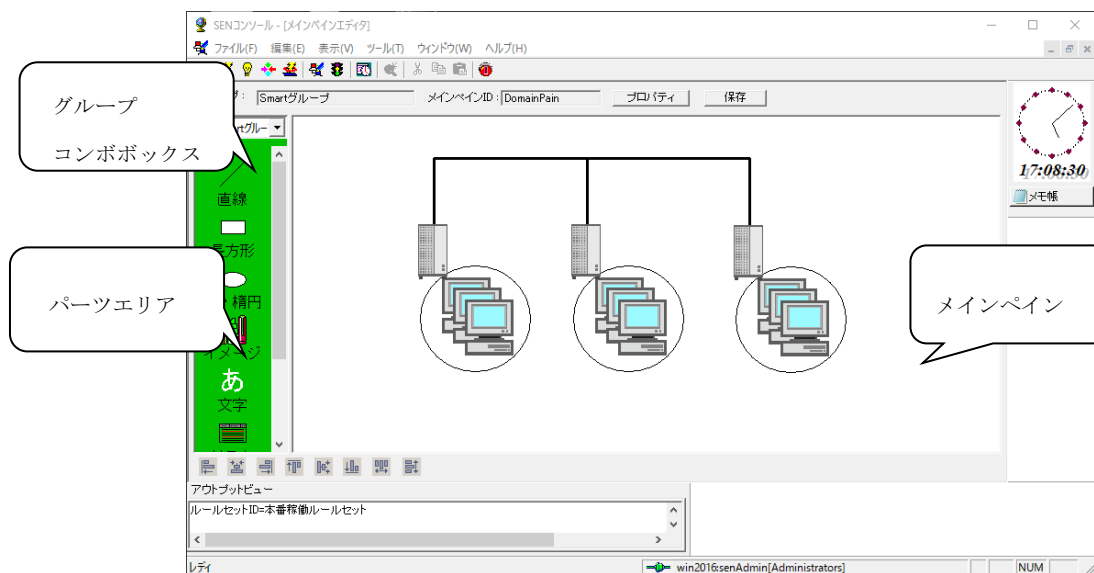


図 4-1 メインペインエディタ画面

グループコンボボックス: 該当グループに登録されているパーツの切り替えができます。

パーツエリア: メインペインに貼り付ける部品が含まれる領域です。パーツエリアの部品はグループコンボボックスを切り替える事により、そのグループに登録されている部品を表示させる事ができます。

メインペイン: メインペインアイテムが描画される領域です。



Administrators 役割をもつユーザーや、複数のグループに所属する Managers 役割のユーザーが、グループコンボボックスを切り替えてメインペインを編集する場合には、各メインペインアイテムの参照に関して注意が必要です。例えば、グループ A とグループ B の 2 つのグループに所属する Managers 役割のユーザー ab が、グループ A のメインペインを編集する場合を考えます。ユーザー ab は、グループコンボボックスを切り替える事で、グループ A のパーツエリアとグループ B のパーツエリアを使用する事が可能で、それぞれのパーツエリアに登録された部品を用いてメインペインを編集できます。このメインペインに対し、グループ A にのみ所属する Users 役割のユーザー a が参照を行った場合、グループ B のコンボボックスから選択された部品は、×印で表示されてしまいます。これはユーザー a が、グループ B のリソースを参照する権限がないためです。

4.1.2 メインペインの描画編集

メインペインの新規作成

メインビューに表示するメインペインを新規に作成するには、メニューバーから[ファイル]→[メインペインエディタを開く]を選択し、メインペインリスト画面を表示します(図 4-2)。



図 4-2 メインペインリスト画面

メインペインリスト画面で、[新規]ボタンを押し、メインペインエディタを開きます(図 4-3)。

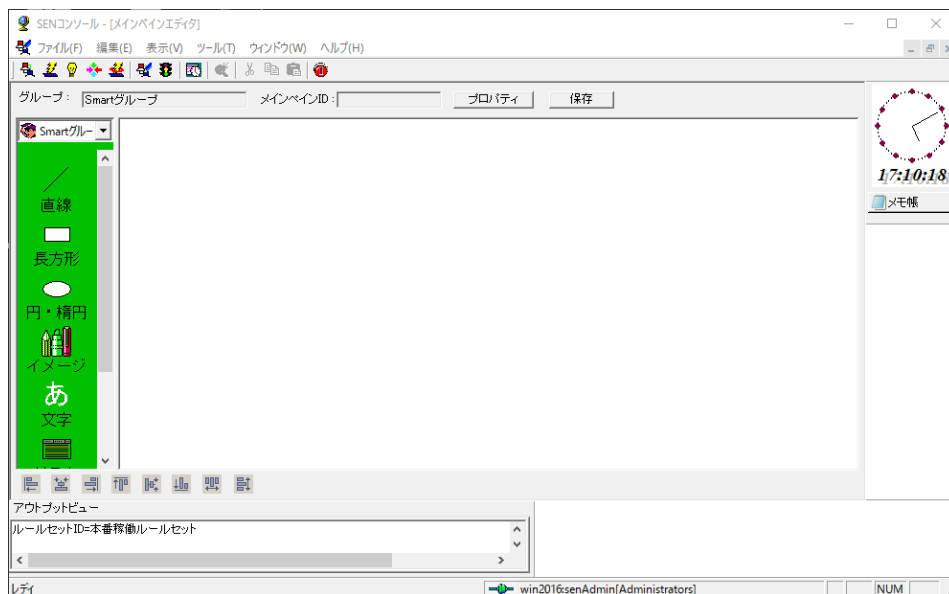


図 4-3 メインペインエディタ画面 (新規作成)

メインペインエディタでは、左側のパーツエリアよりアイテムパーツアイコンを選択し、右側の編集用ウィンドウにドラッグ&ドロップする事により、メインペイ

ン上にアイテムを自由に配置する事ができます。配置した後、各メインペインアイテムに名称 (ID) を定義する必要があります。詳細は、「メインペインアイテムのプロパティ」を参照して下さい。

メインペインを保存する場合には、メインペインエディタ画面上の[保存]ボタンを押します。保存確認画面が表示されますので、[はい]ボタンを押します (図 4-4)。

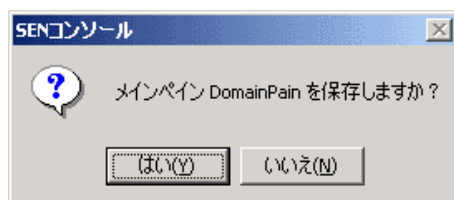


図 4-4 保存確認画面 (新規作成)

次に新規に作成したメインペインのプロパティを設定する画面が表示されますので(図 4-5)、[メインペイン ID]および[説明]を指定し、さらにメインペインを所属させるグループを[ユーザーグループ ID]コンボボックスより選択し[OK]ボタンを押します。詳細は、「4.1.4 メインペインの保存」を参照して下さい。

これにより、新たに作成したメインペインが保存されます。

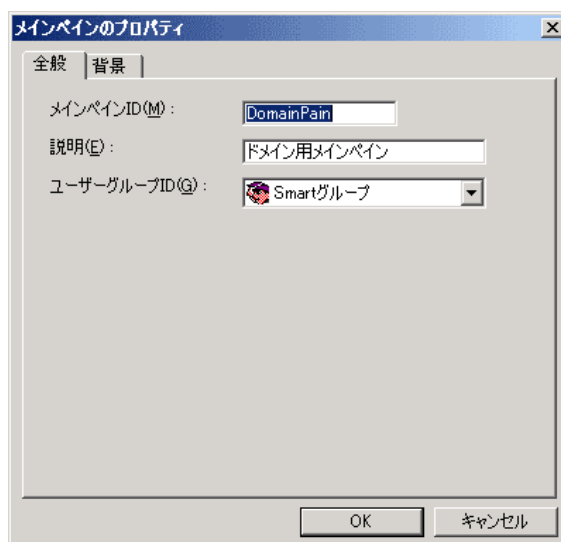


図 4-5 メインペインのプロパティ画面 (新規作成)

メインペインの編集

メインペインを編集するには、左側のパーツエリアからアイテム部品を選択し、右側のメインペインにドラッグ&ドロップします。

メインペインアイテムは移動、リサイズが可能です。メインペインアイテムを移動する場合は、メインペインアイテムを選択したままドラッグします。メインペインアイテムをリサイズする場合は、アイテム選択時のコーナー及び、各コーナーの中間に位置する8つのボックスのうち一つをドラッグします(図 4-6)。

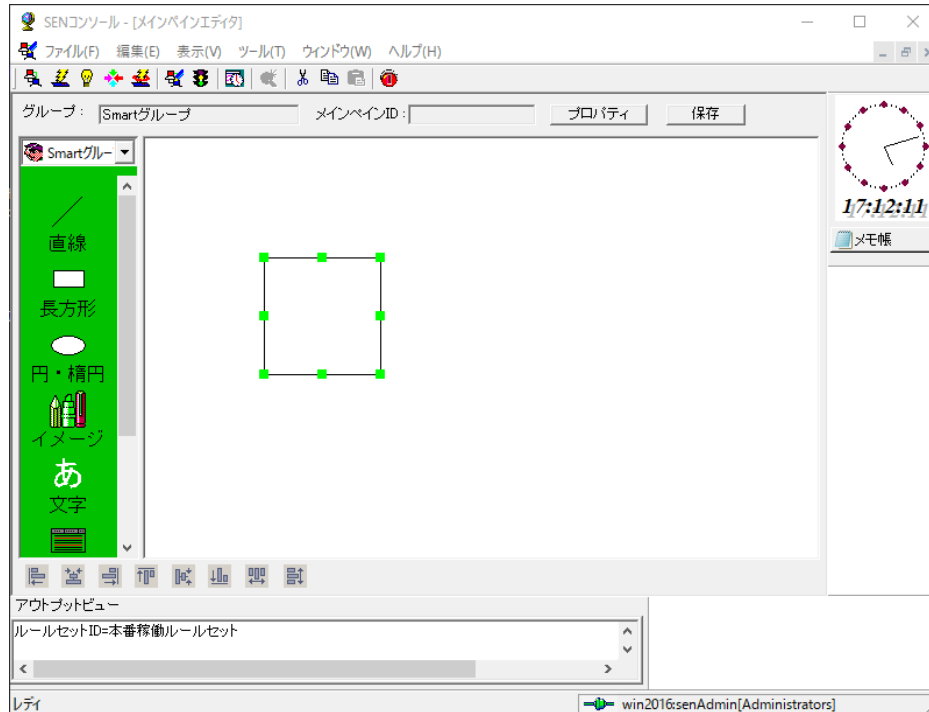


図 4-6 メインペインアイテムのリサイズボックス(例)

各コーナーのボックスをドラッグすると縦横比固定でリサイズします。Shift キーを押したままドラッグすると縦横比固定を解除した状態でリサイズします。各コーナーの中間に位置するボックスをドラッグすると縦横比固定が解除された状態でリサイズします。Shift キーを押したままドラッグすると縦横比固定の状態でリサイズします。ただし、複数のメインペインアイテムを選択している場合はリサイズできません。

メインペインアイテムを整列する場合は、メインペインアイテムを複数選択してから図 4-7 の整列ボタンを押します。横方向に対して左寄せ、中央揃え、右寄せ、等間隔の整列が、縦方向に対して上寄せ、中央揃え、下寄せ、等間隔の整列が可能です。



図 4-7 整列ボタン



SEN Web サービスでは、メインペインアイテム選択時のフォーカスの範囲内でその背後にあるアイテムを選択できません。そのため、直線や円・楕円アイテムの背後で見えているアイテムでも選択できない場合があります。メインペインアイテムを重ねて配置する場合は、ご注意ください。

メインペインアイテムのプロパティ

メインペインアイテムのプロパティを設定するには、コンテキストメニューから[プロパティ]を選択します(図 4-8)。

以下、[全般]タブ、[アクション]タブおよび[関連ビュー]タブについて説明します。各メインペインアイテム固有のタブについては、「**4.1.3 メインペインアイテムのプロパティ**」を参照して下さい。

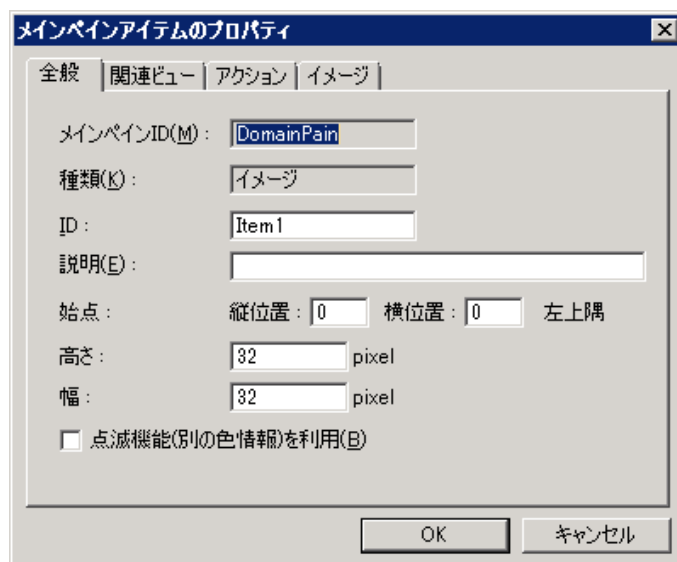


図 4-8 メインペインアイテムプロパティ画面 (全般タブ)

[全般]タブでは、すべてのメインペインアイテムに共通な項目について設定します。

表 4.1-1 メインペインアイテムプロパティ項目一覧 (全般タブ)

項目	内容	省略
メインペイン ID :	メインペインアイテムが所属しているメインペインの ID を表示します。	—
種類 :	メインペインアイテムの種類を表示します。種類は、直線、長方形、円・楕円、イメージ、文字、リスト、結合アイテムがあります。	—
ID :	メインペインアイテムの ID を指定します。同一メインペイン内でユニークな必要があります。	不可
説明 :	コメントを指定します。	可能
縦位置 :	メインペインアイテムの左上隅を始点として、その縦位置を指定します。単位は pixel です。直線、ガントチャート、実行システムでは指定できません。	不可
横位置 :	メインペインアイテムの左上隅を始点として、その横位置を指定します。単位は pixel です。直線、ガントチャート、実行システムでは指定できません。	不可
高さ :	メインペインアイテムの高さを指定します。直線、ガントチャート、実行システムでは指定できません。	不可

幅：	メインペインアイテムの幅を指定します。直線、ガントチャート、実行システムでは指定できません。	不可
点滅機能を(別の色情報)利用：	メインペインアイテムをブリンクさせる場合にチェックします。各メインペインアイテムのブリンクの設定については、「4.1.3 メインペインアイテムのプロパティ」を参照して下さい。	—



SEN Web サービスでは、サイズが0(始点と終点の座標が同じ)の直線アイテムは表示されません。

[関連ビュー] タブではコンテキストメニューの[ビューを開く]に表示されるジャンプ(ハイパーリンク)を編集する事ができます(図 4-9)。

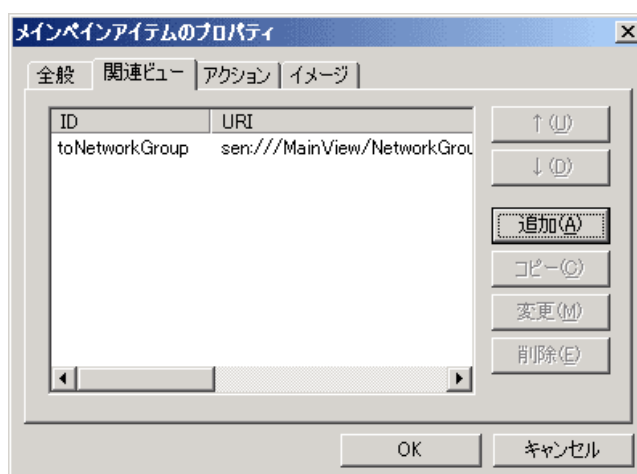


図 4-9 メインペインアイテムプロパティ画面 (関連ビュータブ)

表 4.1-2 メインペインアイテムプロパティ画面のボタン (関連ビュータブ)

ボタン	機能
↑：	選択した関連ビューの順番を繰り上げます。順番はメインペインアイテムのコンテキストメニューの[ビューを開く]の表示順番に反映されません。
↓：	選択した関連ビューの順番を繰り下げます。順番はメインペインアイテムのコンテキストメニューの[ビューを開く]の表示順番に反映されません。
追加：	関連ビューを追加します。
コピー：	選択した関連ビューをコピーします。
変更：	選択した関連ビューを変更します。
削除：	選択した関連ビューを削除します。

[追加]、[コピー]および[変更]ボタンを押すと図 4-10 が表示されます。

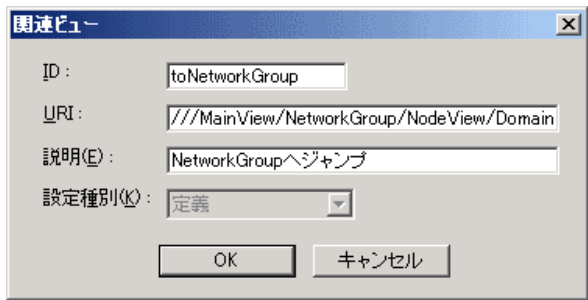


図 4-10 関連ビュー設定追加画面

表 4.1-3 関連ビュー設定追加項目一覧

項目	内容	省略
ID :	メインペインアイテムのコンテキストメニュー[ビューを開く]を選択した時に表示される、関連ビューの ID を指定します。	不可
URI :	<p>関連ビューへのパスを指定します。 関連ビューへのパスは URL 形式で指定します。</p> <p>◇メインペインへのパスの場合： sen:///MainView/グループ ID/カテゴリ ID/ツリーパス ここでツリーパスには、メインペインが割り付けられるビューアイテムグループのパスを指定します。 (例) sen:///MainView/GRP1/NodeView/Tokyo/HQ</p> <p>◇メインペインアイテムへのパスの場合： sen:///MainView/グループ ID/カテゴリ ID/ツリーパス #アイテム ID アイテム ID にはメインペインアイテムの ID を指定します。 (例) sen:///MainView/GRP1/NodeView/Tokyo/HQ#Node01</p> <p>◇イベントビューへのパスの場合： sen:///EventView/グループ ID/表示方法#シーケンス ID シーケンス ID にはイベントのシーケンス ID を指定します。 (例) sen:///EventView/GRP1/{メッセージすべて} #12610</p> <p>◇コマンドのパスの場合 sen:/// commandexe/コマンドパス 引数 引数を指定する場合は、” (バーティカルバー)” を使用します。 URI で環境変数を利用する場合は、<>を使用します。 (例)</p>	不可

	<pre>sen:///commandexe/<SENSVHOME>\\bin\\sjENB_Pmctrl run U1</pre> <p>◇任意の URL の場合： (例)http://www.nri.co.jp/index.html</p> <p>SEN で提供される URI については、「5.2.1.4 Senju EnterpriseNavigator が提供する URI」を参照して下さい。</p>	
説明：	コメントを指定します。	可能
設定種別：	<p>関連ビューの種類を指定します。 "定義"または"付加"を選択します。 種類が"定義"の関連ビューは、アイテムのリセットによる影響を受けません。 種類が"付加"の関連ビューは、アイテムのリセットにより削除されます。</p>	—

[アクション] タブではコンテキストメニューの[アクションの実行]に表示されるアクションを編集する事ができます(図 4-11)。

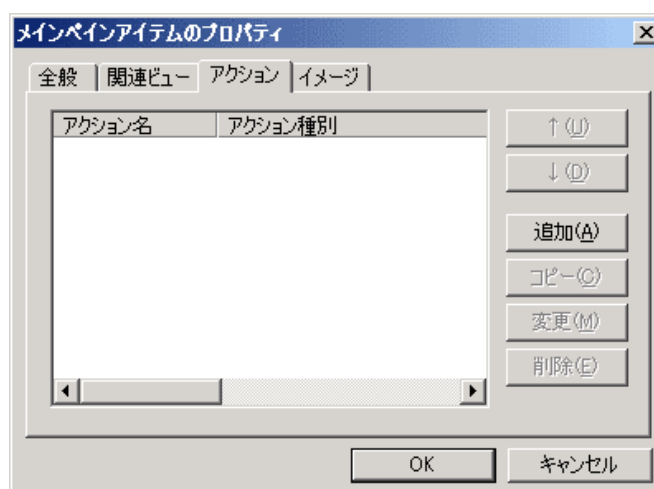


図 4-11 メインペインアイテムプロパティ画面 (アクションタブ)

表 4.1-4 メインペインアイテムのプロパティ画面のボタン (アクションタブ)

ボタン	機能
↑ :	選択したアクションの順番を繰り上げます。順番はメインペインアイテムのコンテキストメニューの[アクションの実行]の表示順番に反映されます。
↓ :	選択したアクションの順番を繰り下げます。順番はメインペインアイテムのコンテキストメニューの[アクション]の表示順番に反映されます。
追加 :	アクションを追加します。
コピー :	選択したアクションをコピーします。
変更 :	選択したアクションを変更します。

削除:	選択したアクションを削除します。
-----	------------------

[追加]、[コピー]および[変更]ボタンを押すと図 4-12 が表示されます。

図 4-12 アクション設定追加画面

[SEN サーバーによる実行]を選択するとメインペインアイテムに関連付けられた SEN サーバー上で実行するアクションの編集ができます。(表 4.1-5)

表 4.1-5 アクション設定追加項目一覧 (SEN サーバーによる実行)

項目	内容	省略
アクション名 :	メインペインアイテムのコンテキストメニュー[アクションの実行]を選択した時に表示される、アクションの名前を指定します。	不可
説明 :	コメントを指定します。	可能
コマンドシーケンス :	SEN サーバーで実行するコマンドをフルパスで指定します。	不可
設定種別 :	アクションの種類を指定します。 "定義"または"付加"を選択します。 種類が"定義"のアクションは、アイテムのリセットによる影響を受けません。 種類が"付加"のアクションは、アイテムのリセットにより削除されます。 ここでは、"定義"のみ選択できます。	—

[SEN サーバーによるイベント生成]を選択するとメインペインアイテムに関連付けられた SEN サーバー上で生成するイベントの編集ができます。(表 4.1-6)

表 4.1-6 アクション設定追加項目一覧 (SEN サーバーによるイベント生成)

項目	内容	省略
アクション名 :	メインペインアイテムのコンテキストメニュー[アクションの実行]を選択した時に表示される、アクションの名前を指定します。	不可
説明 :	コメントを指定します。	可能
イベントクラス名 :	SEN サーバーで生成するイベントクラス名を指定します。	—
イベントプロパティ :	指定したイベントクラス名の各プロパティに設定する値を指定します。 編集するプロパティ値を選択し[変更]ボタンを押下すると図 4-13 の編集画面が表示されます。	可能
設定種別 :	アクションの種類を指定します。 "定義"または"付加"を選択します。 種類が"定義"のアクションは、アイテムのリセットによる影響を受けません。 種類が"付加"のアクションは、アイテムのリセットにより削除されます。 ここでは、"定義"のみ選択できます。	—

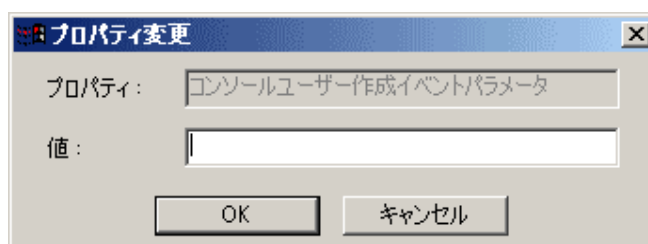


図 4-13 イベントプロパティ編集画面

[千手によるコマンドの実行]を選択するとメインペインアイテムに関連付けられた Senju Operation Conductor 上で実行するアクションの編集ができます。(表 4.1-7)

表 4.1-7 アクション設定追加項目一覧 (千手による千手コマンドの実行)

項目	内容	省略
アクション名 :	メインペインアイテムのコンテキストメニュー[アクションの実行]を選択した時に表示される、アクションの名前を指定します。	不可
説明 :	コメントを指定します。	可能
ドメイン名 :	現在接続中の任意の Senju Operation Conductor アダプタドメイン名を指定します。	不可
コマンド種別 :	“千手コマンド”か“ユーザーコマンド”か指定します。	—
コマンドグループ名 :	コマンドが所属するコマンドグループ名を指定します。	不可
コマンド名 :	コマンド名を指定します。	不可
実行ノード指定 :	実行ノード指定を”なし”、”ノード指定”、”ノードグループ指定”から指定します。 「コマンド種別」で“ユーザーコマンド”を選択した場合に指定できます。	—
実行ユーザー名 :	実行ユーザー名を指定します。 「コマンド種別」で“ユーザーコマンド”を選択した場合に指定できます。	可能
実行ノード/ノードグループ ID :	実行ノード/ノードグループ ID を指定します。実行ノード/ノードグループ ID を指定します。	※1
パラメータ	指定したコマンドのパラメータを指定します。 複数のパラメータを指定する場合、カンマで区切る必要があります。	可能
設定種別 :	アクションの種類を指定します。 "定義"または"付加"を選択します。 種類が"定義"のアクションは、アイテムのリセットによる影響を受けません。 種類が"付加"のアクションは、アイテムのリセットにより削除されます。 ここでは、"定義"のみ選択できます。	—

※1：「実行ノード指定」で”ノード指定”または”ノードグループ指定”を選択した場合、省略できません。

コンテキストメニューの操作

メインペインエディタにおける各アイテムのコンテキストメニューから実行可能な操作について説明します。

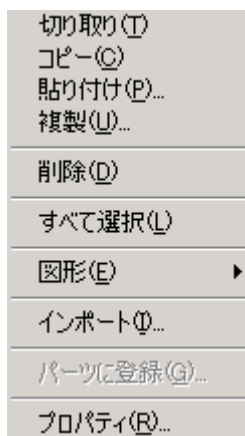


図 4-14 メインペインエディタのコンテキストメニュー

<切り取り>

選択範囲をカットし、クリップボードに格納します。

<コピー>

選択範囲を複製し、クリップボードに格納します。

<貼り付け>

クリップボードに格納されているメインペインアイテムをペーストします。

ペーストするメインペインアイテムと、貼り付け先メインペイン内にあるメインペインアイテムの ID が重複する場合は、図 4-15 が表示されます。

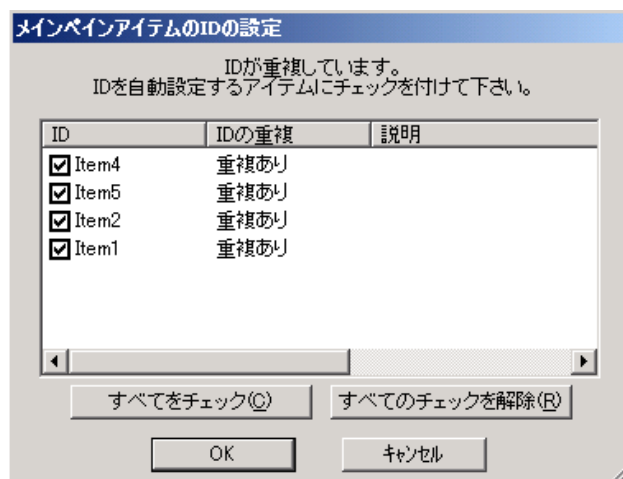


図 4-15 メインペインアイテムの ID の設定画面

図 4-15 では重複するメインペインアイテムの ID を一覧表示します。ID のチェックボックスをチェックし、[OK]ボタンを押すと、貼り付けられたメインペインアイテムに自動でユニークなメインペインアイテム ID を設定します。

[すべてをチェック]を押すとすべてのチェックボックスをチェックします。[すべてのチェックを解除]を押すとすべてのチェックを解除します。

<複製>

コピーと貼り付けの動作を同時に実行します。複製されたメインペインアイテムと、複製先メインペイン内にあるメインペインアイテムの ID が重複する場合は、図 4-15 が表示されます。

<削除>

選択したメインペインアイテムを削除します。削除を選択すると、以下の確認ダイアログが表示されます。[はい]を押すと削除されます。

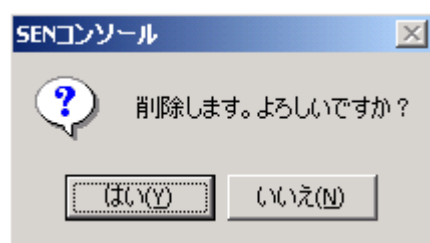


図 4-16 メインペインアイテム削除確認ダイアログ

<すべて選択>

すべてのメインペインアイテムを選択します。

<図形>

図形メニューには、5 つのサブメニューがあります。

<グループ化>

選択した複数のメインペインアイテムをグループ化し、一つの結合アイテムを作成します。Shift キーを押すか、範囲指定でドラッグする事により複数のメインペインアイテムを選択する事ができます。

<グループ解除>

結合アイテムを解除します。

<最前面に移動>

選択したメインペインアイテムを最前面に表示します。他のメインペインアイテムと表示の一部が重なる場合に使用します。

<最背面に移動>

選択したメインペインアイテムを最背面に表示します。他のメインペインアイテムと表示の一部が重なる場合に使用します。

〈サイズを元に戻す〉

サイズを変更したメインペインアイテムをデフォルトのサイズに戻します。デフォルトのサイズに戻せるのは、画像が設定されたイメージ及び結合されたアイテムになります。サイズを変更していない場合は、何も動作はしません。

〈インポート〉

定義データからのインポートによるアイテムの自動生成を行う事ができます。詳細は「**4.1.5 インポートによるメインペインアイテムの自動生成(千手ノード定義)**」を参照して下さい。

〈パーツに登録〉

グループ化した結合アイテムをパーツエリアにアイテム部品として登録します。使用頻度の高い結合アイテムを登録する事により、結合アイテムの再利用が簡単になります。

パーツに登録する結合アイテムには、パーツエリアに表示するアイコン ID を設定する必要があります。詳細は「**4.1.3 メインペインアイテムのプロパティ**」を参照して下さい。

4.1.3 メインペインアイテムのプロパティ

以下、各メインペインアイテムのプロパティ設定画面について説明します。

a) 直線

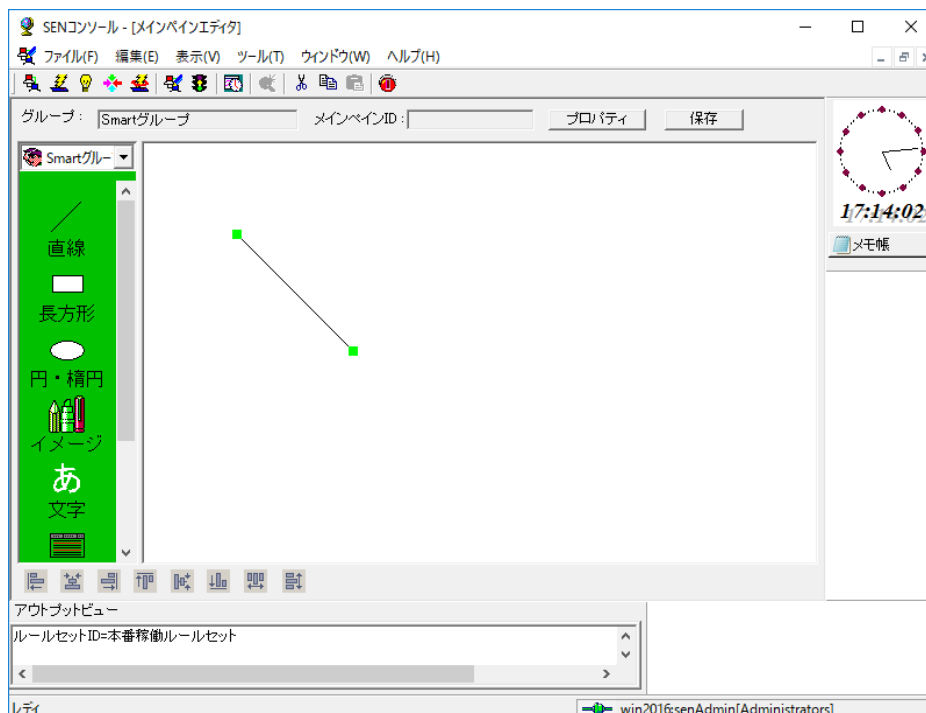


図 4-17 直線アイテム

直線アイテムのプロパティには[線]タブと[色]タブとがあります。[線]タブでは線の太さおよび線種を指定できます(図 4-18)。線の太さは Pixel 単位で指定します。線種は、実線、破線、点線、一点破線、二点破線から選択可能です。

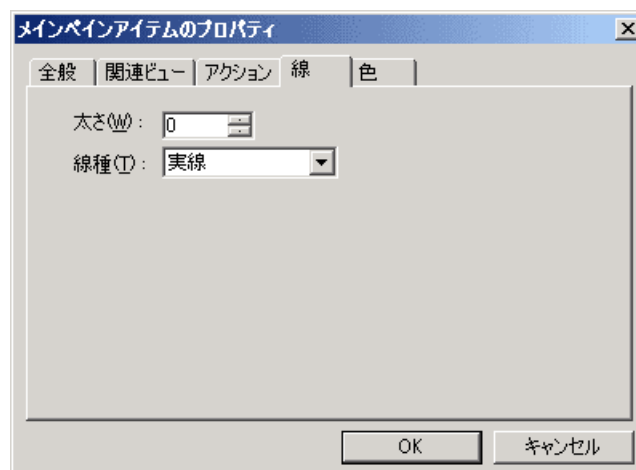


図 4-18 直線アイテムのプロパティ画面 (線タブ)

[色]タブでは線の色を指定できます(図 4-19)。色の指定は、[参照]ボタンを押す事によりカラーパレット(図 4-20)から選択する事ができます。

[全般]タブにて「点滅機能(別の色情報)を利用」をチェックしている場合は、[別の線の色]をチェックして別の線の色を指定します。この設定により線をブリンク表示する事ができます。なお、[全般]タブにて「点滅機能(別の色情報)を利用」をチェックしていない場合は、[別の線の色]を指定してもブリンク表示されません。

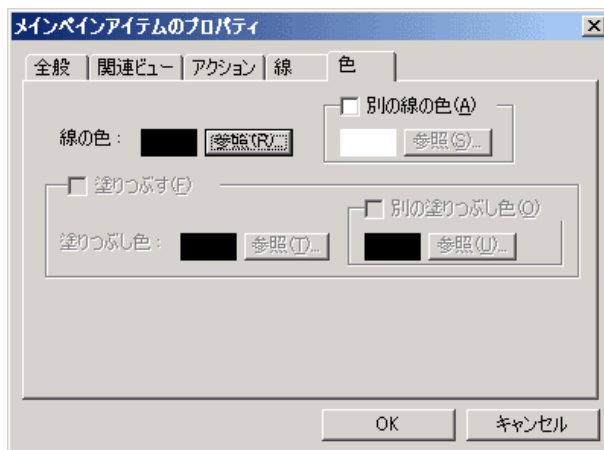


図 4-19 直線アイテムのプロパティ画面(色タブ)



図 4-20 色の設定画面

b) 長方形

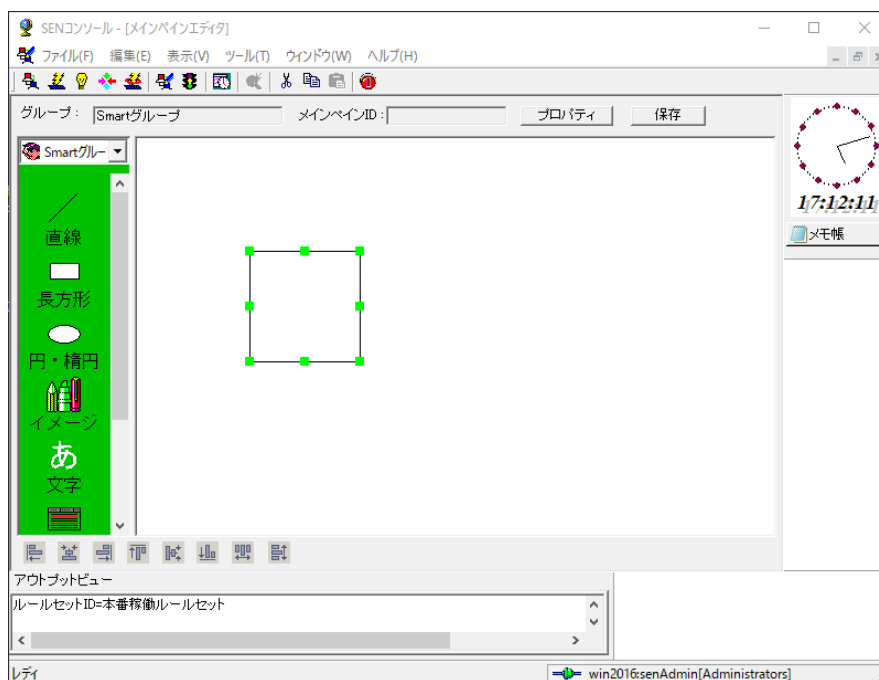


図 4-21 長方形アイテム

長方形アイテムのプロパティの[色]タブでは、長方形の線の色と塗りつぶし色を変更できます。線の色を変更するには[線の色]を変更します。塗りつぶし色を変更するには”塗りつぶす“をチェックしたうえで、[塗りつぶし色]を変更します。色の指定は、[参照]ボタンを押す事によりカラーパレット(図 4-20)から選択する事ができます。

[全般]タブにて「点滅機能(別の色情報)を利用」をチェックしている場合は、[別の線の色]をチェックして別の線の色を指定します。この設定により線をブリンク表示する事ができます。なお、[全般]タブにて「点滅機能(別の色情報)を利用」をチェックしていない場合は、[別の線の色]を指定してもブリンク表示されません。

なお、塗りつぶし色の設定も同様です。

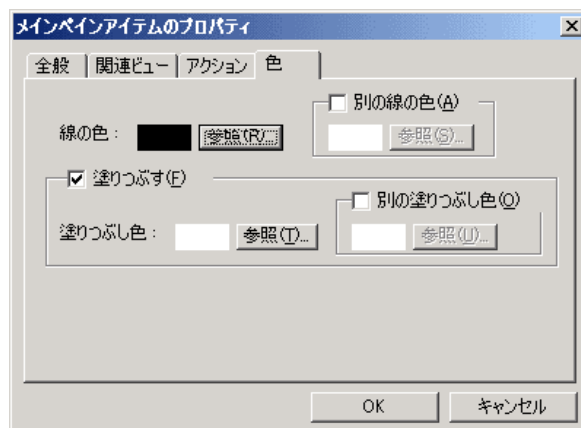


図 4-22 長方形アイテムのプロパティ画面 (色タブ)

c) 円・楕円

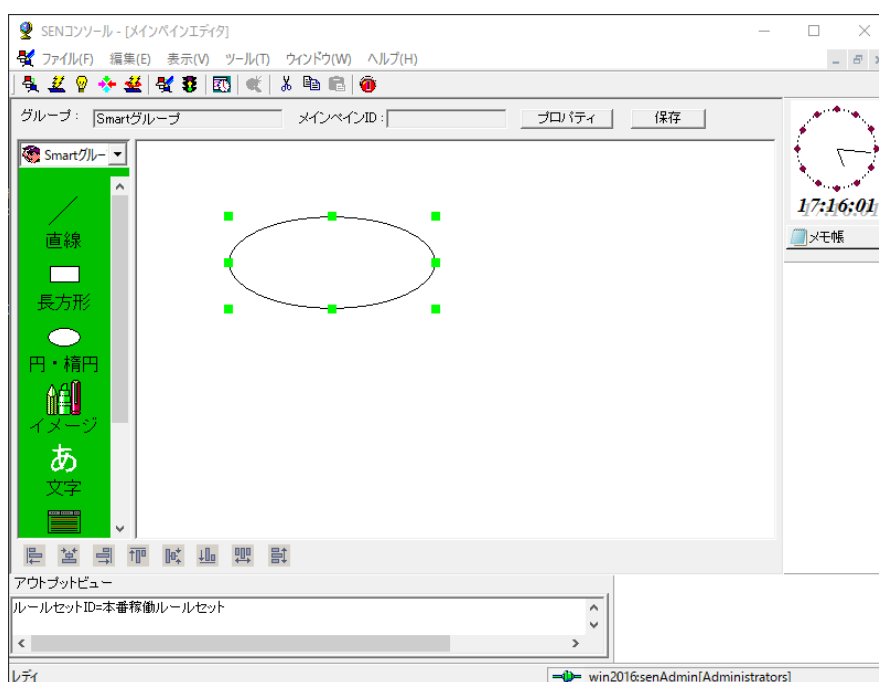


図 4-23 円・楕円アイテム

円・楕円アイテムのプロパティの[色]タブでは、円・楕円の線の色と塗りつぶし色を変更できます。色の指定は、[参照]ボタンを押す事によりカラーパレット(図 4-20)から選択する事ができます。

[全般]タブにて「点滅機能(別の色情報)を利用」をチェックしている場合は、[別の線の色]をチェックして別の線の色を指定します。この設定により線をブリンク表示する事ができます。なお、[全般]タブにて「点滅機能(別の色情報)を利用」をチェックしていない場合は、[別の線の色]を指定してもブリンク表示されません。

なお、塗りつぶし色の設定も同様です。

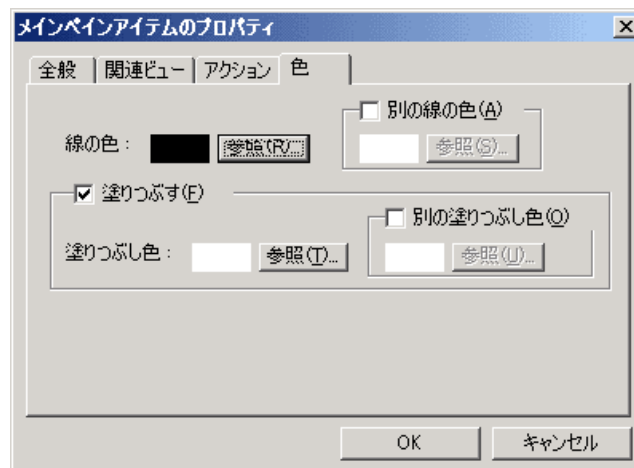


図 4-24 円・楕円アイテムのプロパティ画面（色タブ）

d) イメージ

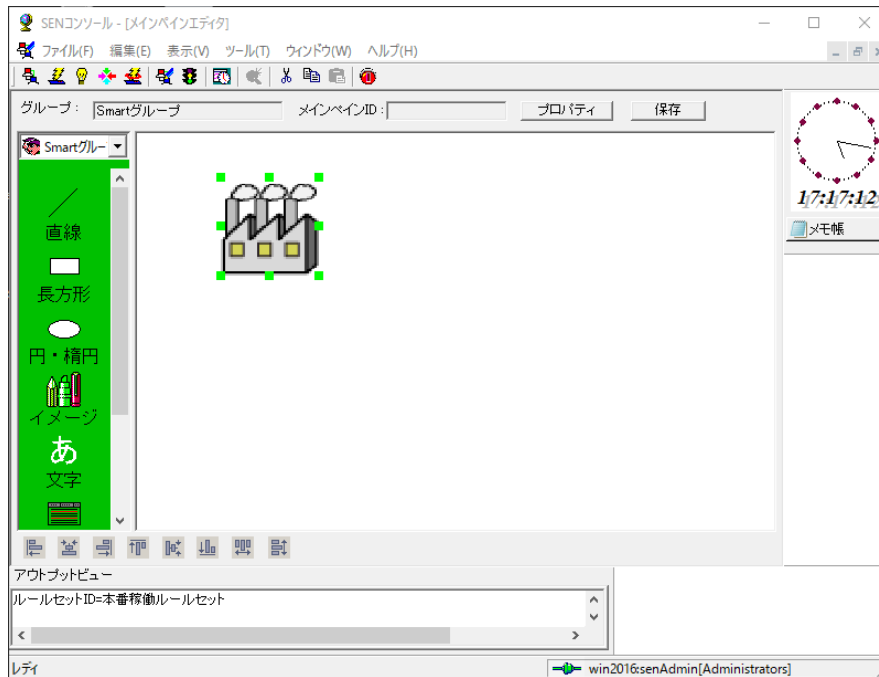


図 4-25 イメージアイテム

イメージアイテムの[イメージ]タブでは、アイテムに割り付けるイメージ ID を指定します。

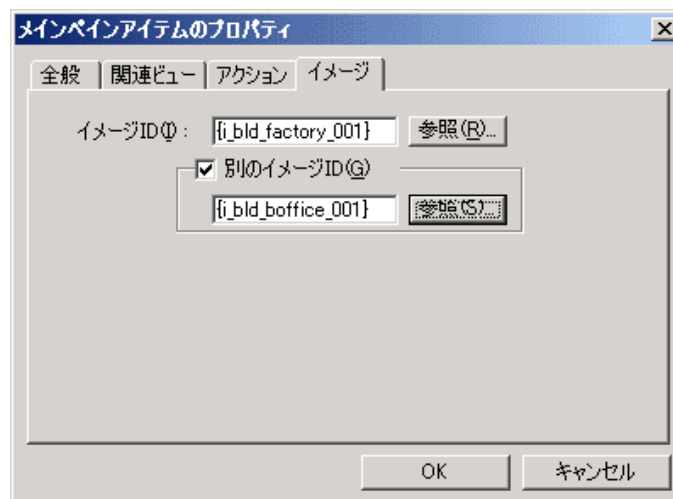


図 4-26 イメージアイテムのプロパティ画面 (イメージタブ)

[参照]ボタンを押すとイメージリスト画面が表示されます(図 4-27)。イメージ種別は Windows アイコン、Windows ビットマップ、PNG、JPEG、TIFF 形式を選択します。イメージアイテムに表示するイメージ ID をリストから選び[OK]ボタンを押します。なお、イメージはあらかじめアップロードして登録しておく必要があります。

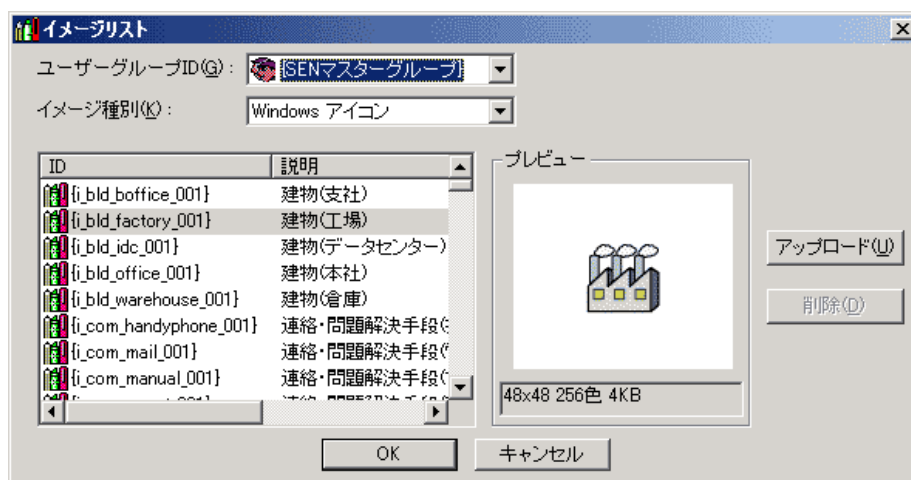


図 4-27 イメージリスト画面

[全般]タブにて「点滅機能(別の色情報)を利用」をチェックしている場合は、[別のイメージ ID]をチェックして別のイメージ ID を指定します。この設定によりイメージをブリンク表示することができます。なお、[全般]タブにて「点滅機能(別の色情報)を利用」をチェックしていない場合は、[別のイメージ ID]を指定してもブリンク表示されません。



SEN Web サービスでは、イメージアイテムの描画能力は Web ブラウザに依存します。イメージアイテムをリサイズし、本来のイメージより拡大した場合、SEN コンソールに比べ Web ブラウザでは画質が落ちてしまいます。



SEN Web サービスでは、HTTP の URL として使用できない文字を ID に含むイメージアイテムは表示されません。使用できない文字の詳細は「**6.2 制限事項**」を参照して下さい。

e) 文字

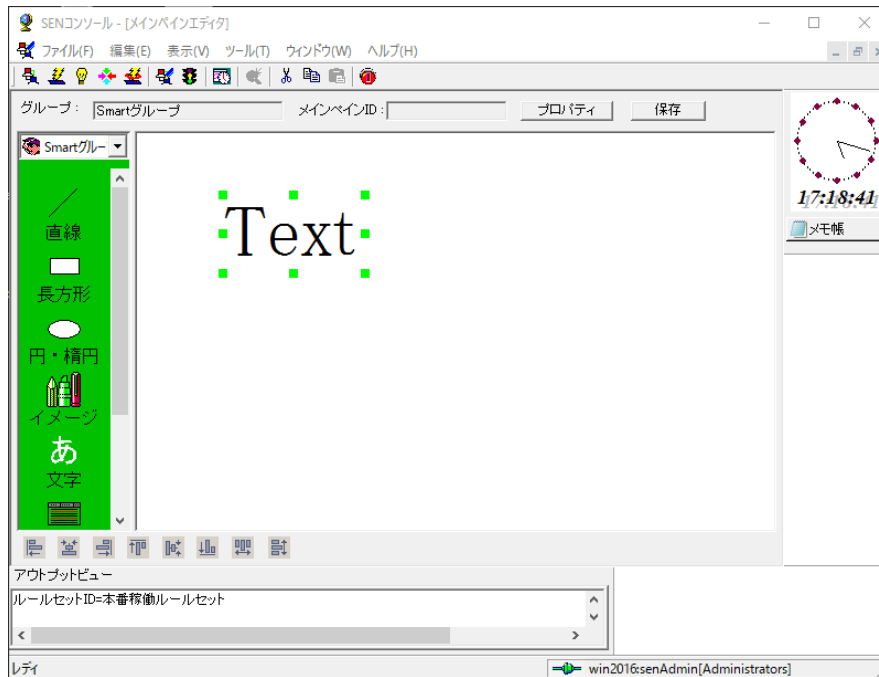


図 4-28 文字アイテム

文字アイテムのプロパティの[文字]タブでは、文字アイテムに表示する文字列、フォント、およびフォーマット(位置合わせ)を指定できます。



図 4-29 文字アイテムのプロパティ画面(文字タブ)

表示する文字列はテキストフィールドに入力します。改行も入力可能です。

フォントの指定は[フォント選択]ボタンを押下し、フォント選択画面を表示します(図4-30)。フォント名、スタイル、サイズを指定して[OK]ボタンを押します。

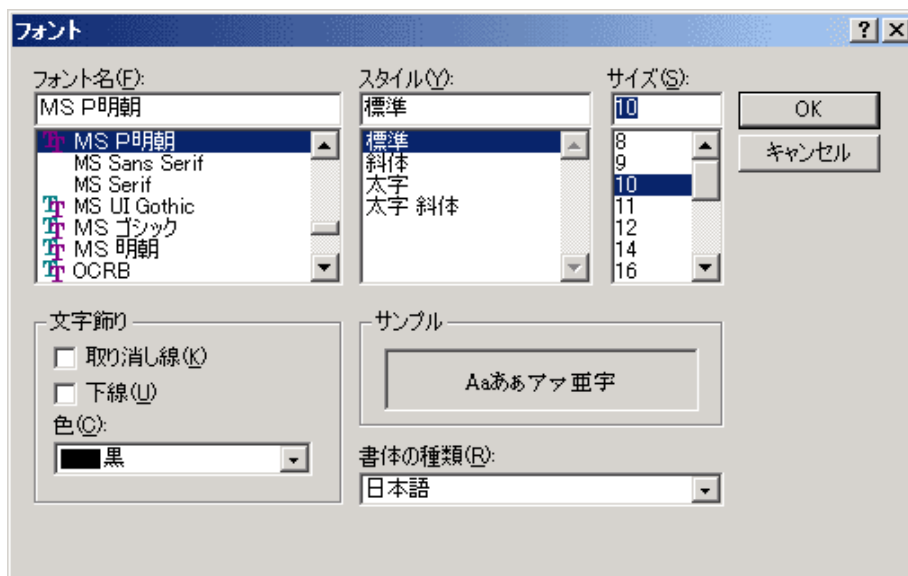


図 4-30 フォント画面

垂直方向の位置合わせについては、[シングルライン]をチェックした場合のみ指定可能で、上寄せ、センタリング、下寄せから選択します。水平方向の位置合わせについては、左寄せ、センタリング、右寄せから選択します。

[全般]タブにて「点滅機能(別の色情報)を利用」をチェックしている場合は、[別の文字の色]をチェックして別の文字の色を指定します。この設定により文字をブリンク表示する事ができます。なお、[全般]タブにて「点滅機能(別の色情報)を利用」をチェックしていない場合は、[別の文字の色]を指定してもブリンク表示されません。

f) リスト

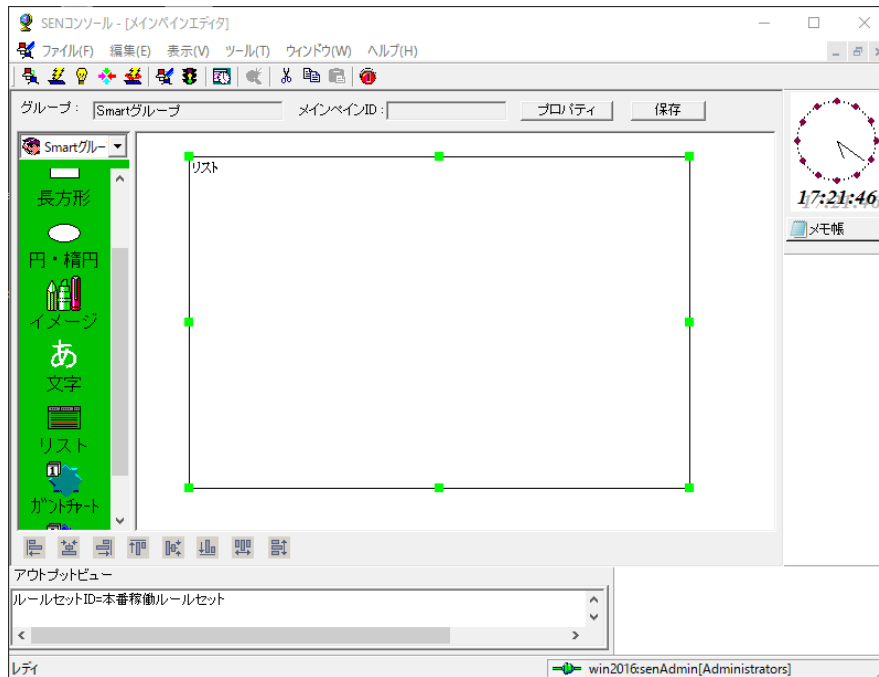


図 4-31 リストアイテム

リストアイテムのプロパティの[リスト]タブでは、リストに表示するカラム、初期データを指定します。

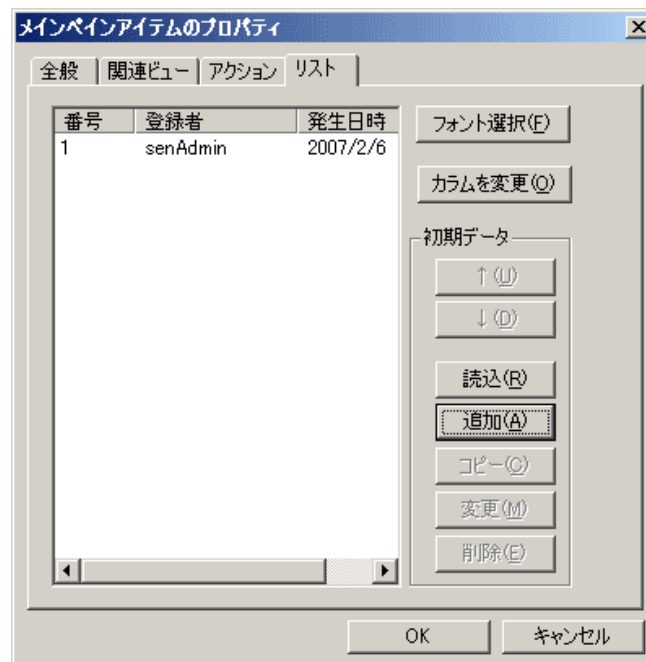


図 4-32 リストアイテムのプロパティ画面(リストタブ)

リストのフォントを設定する場合は、[フォント選択]ボタンを押下し、フォント選択画面を表示します(図 4-33)。フォント名、スタイル、サイズを指定して[OK]ボタンを押します。

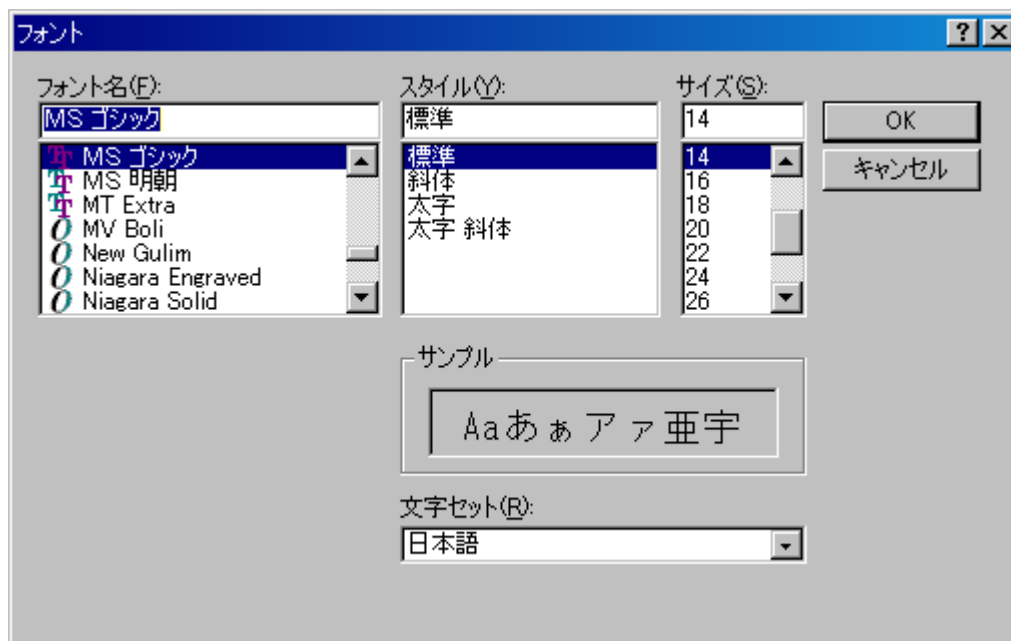


図 4-33 フォント選択画面(メインペインリストアイテム)

リストに表示するカラムを設定する場合は、[カラムを変更]ボタンを押下し、カラムリスト画面を表示します(図 4-34)。

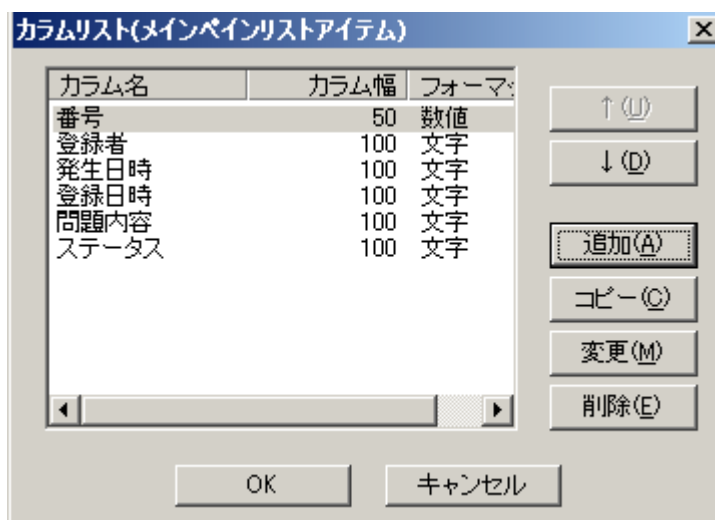


図 4-34 カラムリスト画面(メインペインリストアイテム)

表 4.1-8 カラムリスト画面のボタン (メインペインリストアイテム)

ボタン	機能
↑ :	選択したカラムの表示順番を一つ上にします。
↓ :	選択したカラムの表示順番を一つ下にします。
追加 :	新しいカラムを追加します。
コピー :	選択したカラムをコピーします。
変更 :	選択したカラムを変更します。
削除 :	選択したカラムを削除します。

[追加]、[コピー]および[変更]ボタンを押すと図 4-35 が表示されます。

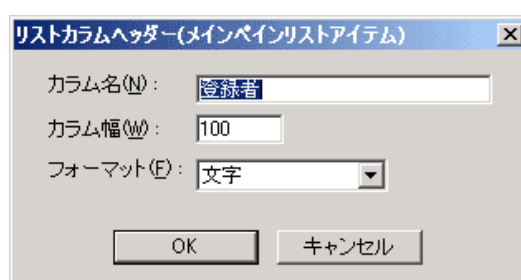


図 4-35 リストカラムヘッダー画面 (メインペインリストアイテム)

表 4.1-9 リストカラムヘッダー項目一覧 (メインペインリストアイテム)

項目	内容	省略
カラム名 :	カラムタイトルに表示させる名称を指定します。	不可
カラム幅 :	カラム幅を指定します。単位はピクセルになります。	不可
フォーマット :	カラムの表示フォーマットを指定します。文字または数値のいずれかを指定できます。数値を指定した場合、フィールドの表示は右寄せになります。また、ソートする際のソート順は数値として比較します。文字を指定した場合は、フィールドの表示は左寄せになります。ソートの際のソート順は文字として比較します。	—



例外として、最も左のカラムは、フォーマットに数値を指定した場合も、左寄せで表示されます。ただし、ソート順は数値として比較します。



SEN Web サービスでは、リストアイテムのセル数やセル内のデータサイズが大きい場合、リストアイテムの表示に時間が掛かる場合があります。



SEN Web サービスでは、リストアイテムの縦スクロールバーはカラムの右端に表示されます。リストアイテム全体の幅がリストの列幅より狭い場合、縦スクロールバーは表示されません。横スクロールバーを右端にスクロールさせれば、縦スクロールバーが表示されます。

リストに初期データを追加する場合は、リストアイテムのプロパティ画面の[リスト]タブ(図 4-31)で[追加]ボタンまたは、[読込]ボタンを押下します。

画面から初期データを指定する場合は、[追加]ボタンを押下します(図 4-36)。

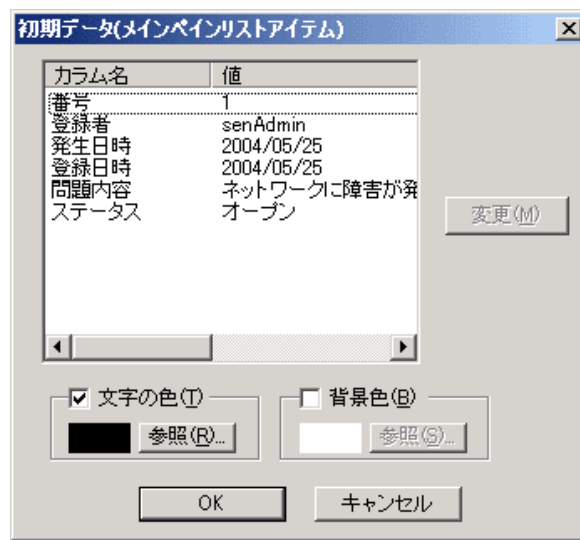


図 4-36 初期データ画面 (メインペインリストアイテム)

値を設定するカラム名を選択し[変更]ボタンを押下して、初期データのセル画面を表示します(図 4-37)。値フィールドにカラムに設定する値を指定して[OK] ボタンを押します。

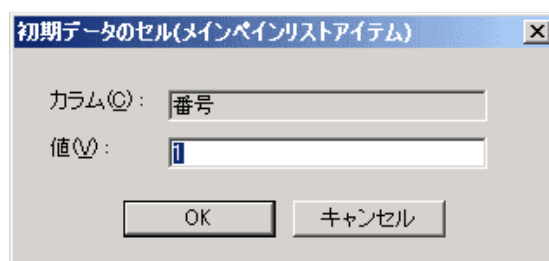


図 4-37 初期データのセル画面 (メインペインリストアイテム)

ファイルから初期データを読み込む場合は、[読込]ボタンを押下します(図 4-38)。

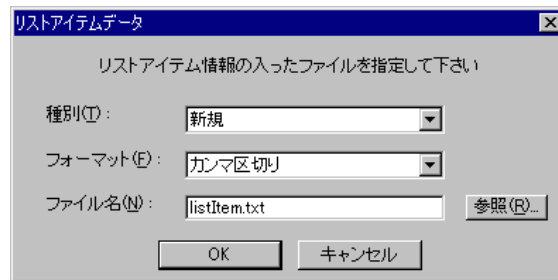


図 4-38 リスト初期データファイル読み込み画面(メインペインリストアイテム)

表 4.1-10 リスト初期データファイル読み込み項目一覧(メインペインリストアイテム)

項目	内容	省略
種別：	ファイルの読込方法を指定します。 新規または追加のいずれかを指定します。 新規を指定した場合、リストアイテムの内容をすべて削除した後、ファイルに定義された内容を初期値として反映します。 追加を指定した場合、現在のリストアイテム内容にファイルに定義された内容を追加します。	—
フォーマット：	初期データのファイルフォーマットを指定します。 カンマ区切りまたはタブ区切りを指定します。	—
ファイル名：	初期データが定義されたファイルを指定します。 指定するファイルは「フォーマット」で指定したフォーマットで記述されたファイルとなります。 またファイル内で「//」で始まる行はコメントとして扱い、リストアイテムには読み込まれません(図 4-39)。	不可

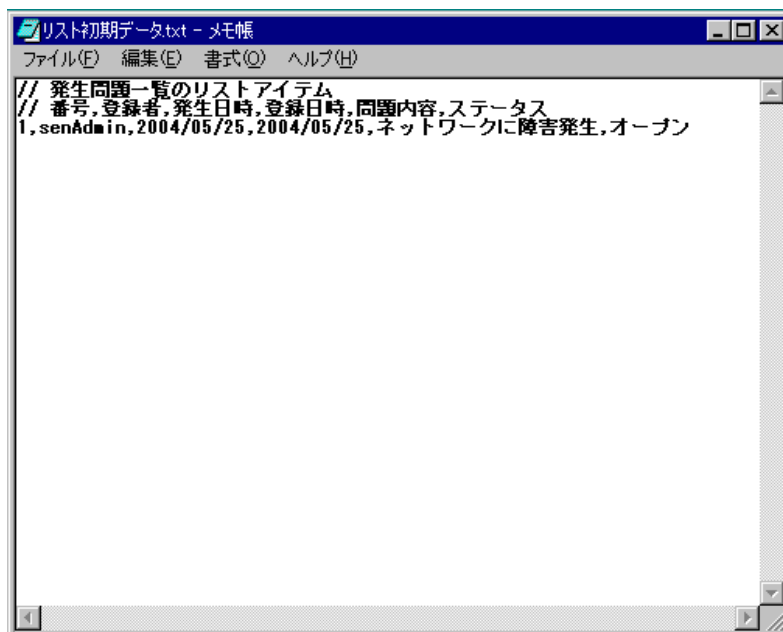


図 4-39 リスト初期データ定義ファイルの例

リストアイテムでは行ごとに文字の色、背景色を指定できます。色の指定は、[文字の色]または[背景色]チェックボックスをチェックし、[参照]ボタンを押す事によりカラーパレット(図 4-20)から選択する事ができます。

リストの初期データをコピーする場合は、リストアイテムのプロパティ画面の[リスト]タブ(図 4-32)からコピー元となる初期データを選択し、[コピー]ボタンを押します。初期データ画面が表示されますので、各項目を指定して[OK]ボタンを押します。

リストの初期データの値を変更する場合は、リストアイテムのプロパティ画面の[リスト]タブ(図 4-32)から変更する初期データを選択し、[変更]ボタンを押します。初期データ画面が表示されますので、追加の場合と同様に各項目を指定して[OK]ボタンを押します。

リストの初期データを削除する場合は、リストアイテムのプロパティ画面の[リスト]タブ(図 4-32)から削除する初期データを選択し、[削除]ボタンを押します。

リストの初期データの表示順番を変更する場合は、リストアイテムのプロパティ画面の[リスト]タブ(図 4-32 リストアイテムのプロパティ画面(リストタブ))から表示順番を変更する初期データを選択し、[↑]または[↓]ボタンを押します。[↑]ボタンは、初期データの表示順番を一つ上にします。[↓]ボタンは、初期データの表示順番を一つ下にします。

g) ガントチャート

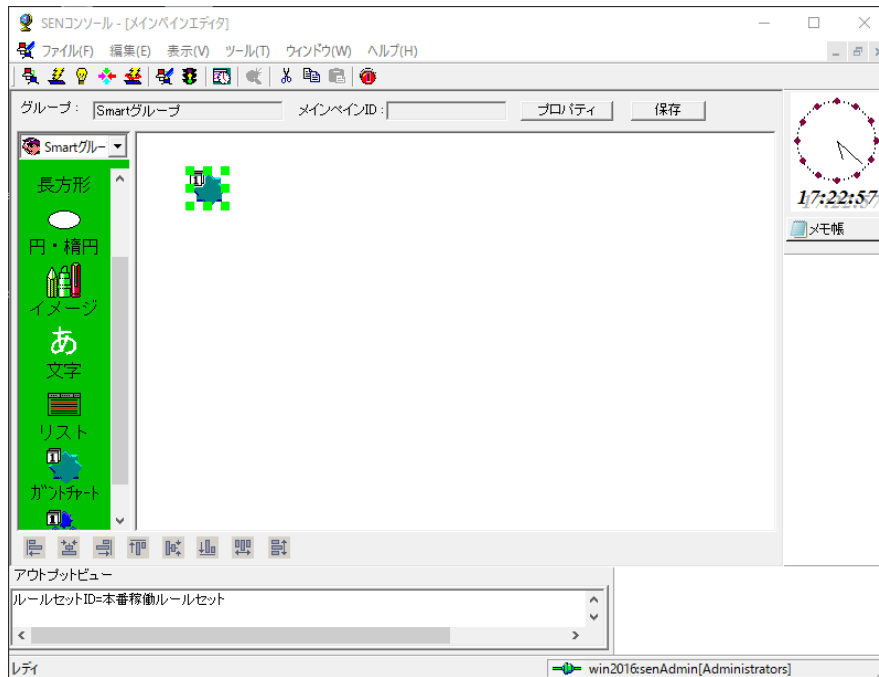


図 4-40 ガントチャート

ガントチャートは、千手ジョブスケジュール情報(フレームステータス)のインポートを行う際に使用するアイテムです。詳細は、「**4.1.6 インポートハンドラによるメインペインの自動生成(千手ジョブスケジュール情報)**」を参照して下さい。

h) 実行システム

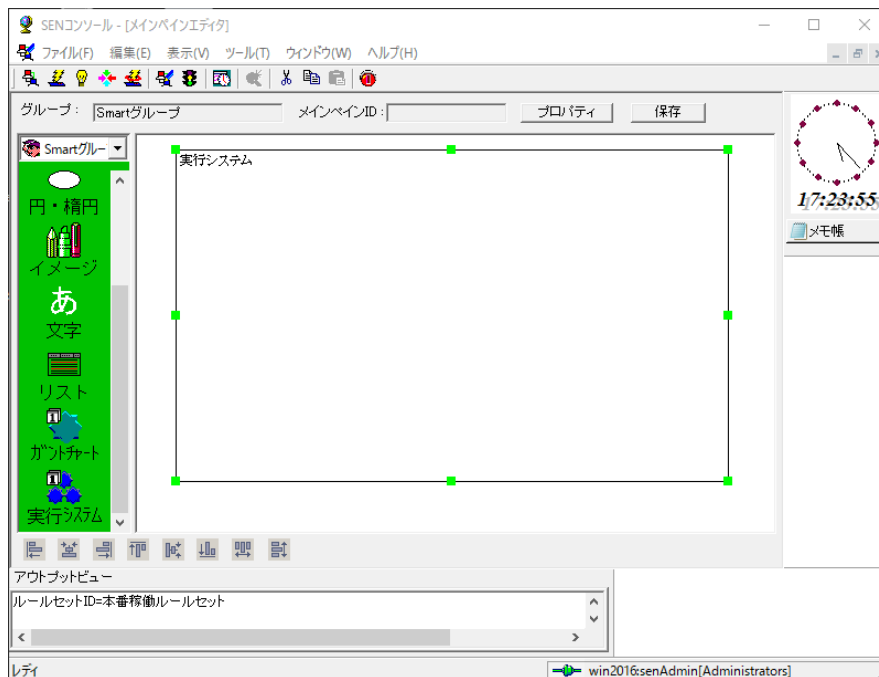


図 4-41 実行システム

実行システムは、千手ジョブスケジュール情報(定義・ステータス)のインポートを行う際に使用するアイテムです。詳細は、「**4.1.6 インポートハンドラによるメインペインの自動生成(千手ジョブスケジュール情報)**」を参照して下さい。

i) 結合アイテム

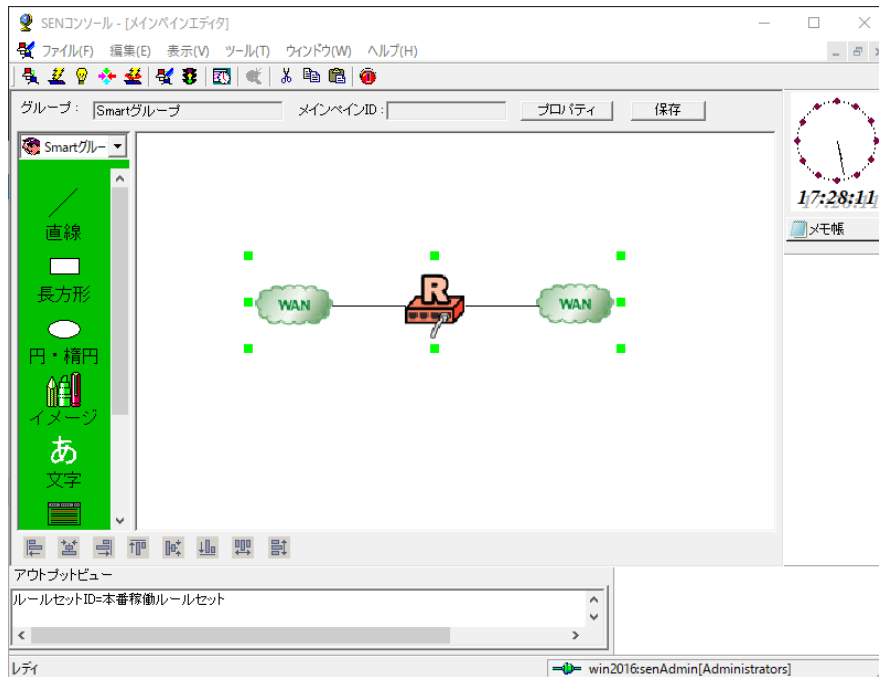


図 4-42 結合アイテム

結合アイテムは複数のメインペインアイテムを同時に選択し、コンテキストメニューの[図形]→[グループ化]を選択する事により作成します。図 4-42 は、長方形アイテム、線アイテムを結合し、1個の結合アイテムを作成した例です。

結合アイテムプロパティの[結合アイテム]タブ(図 4-43)では、結合アイテムの内部構造が表示され、パーツ登録時に必要なアイコン ID およびショートカットプロパティを指定します。

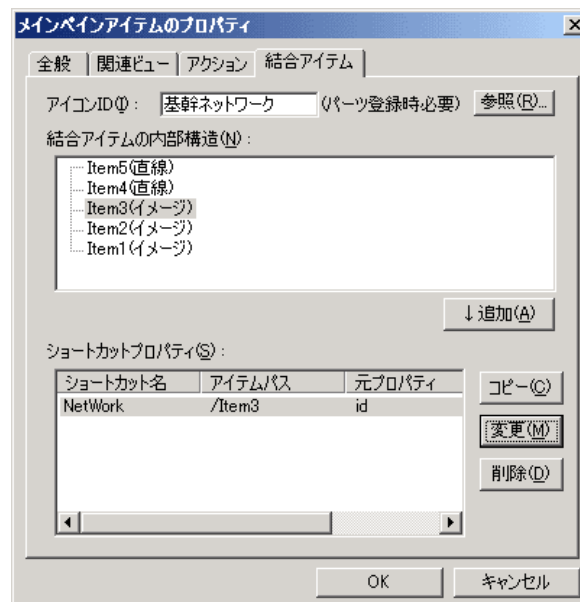


図 4-43 結合アイテムのプロパティ画面(結合アイテムタブ)

結合アイテムの内部構造リストに表示されているメインペインアイテムのコンテキストメニューのプロパティを選択することで結合前のアイテムのプロパティが表示されます。

これにより、結合アイテム内部のアイテムのプロパティを変更することができます。

パーツ登録時に必要なアイコン ID は、[参照]ボタンを押すと、イメージアイテムと同様にイメージリスト画面が表示されますので、イメージ ID を選択して[OK]ボタンを押します。

結合アイテムの内部構造には、結合アイテムを構成する各アイテムがツリー構造で表示されます。

ショートカットプロパティは、ルールを作成する際に直感的また簡潔なインターフェースを提供します。ショートカットプロパティでは、結合アイテムを構成する各アイテムのプロパティへのショートカットを設定します。ルールから結合アイテムを構成する各アイテムのプロパティへアクセスする方法には二通りの方法があります。一つ目は結合アイテムを構成する各アイテムへのフルパスを指定する方法です。この場合は、"/メインペインの ID /結合アイテムの ID /結合アイテム内部の ID /結合アイテム内部の ID /…/プロパティ"の形式で指定します。二つ目は結合アイテムのショートカットプロパティを使用する方法です。上記の"結合アイテム内部の ID /結合アイテム内部の ID /…/プロパティ"をショートカットプロパティに設定し、"/メインペインの ID /結合アイテムの ID /ショートカットプロパティ"と指定します。これはフルパスを指定した場合と同じ結果を得る事ができます。

ショートカットプロパティの作成は、結合アイテムの内部構造画面からショートカットを作成するアイテムを選択し [追加]ボタンを押します。結合アイテムのショートカットプロパティ設定画面(図 4-44)が表示されます

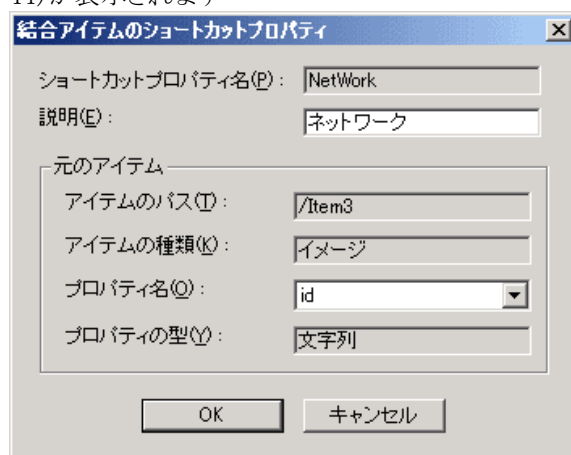


図 4-44 結合アイテムのショートカットプロパティ

表 4.1-11 結合アイテムのショートカットプロパティの項目

項目	内容	省略
ショートカットプロパティ名：	ショートカットプロパティ名を指定します。ルールからはこの名前アクセスします。	不可
説明：	コメントを指定します。	可能
元のアイテムプロパティ名：	ショートカットプロパティ名を設定しアクセスする、元のプロパティ名を指定します。	—

ショートカットプロパティをコピーする場合は、結合アイテムのプロパティ画面からコピー元となるショートカットプロパティを選択し、[コピー]ボタンを押します。結合アイテムのショートカットプロパティ画面が表示されますので、各項目を指定して[OK]ボタンを押します。

ショートカットプロパティの属性を変更する場合は、結合アイテムのプロパティ画面から変更するショートカットプロパティを選択し、[変更]ボタンを押します。結合アイテムのショートカットプロパティ画面が表示されますので、追加の場合と同様に各項目を指定して[OK]ボタンを押します。

ショートカットプロパティを削除する場合は、結合アイテムのプロパティ画面から削除するショートカットプロパティを選択し、[削除]ボタンを押します。

4.1.4 メインペインの保存

編集したメインペインを保存する場合は、[保存]ボタンを押します。確認画面で[はい]ボタンを押します(図 4-45)。

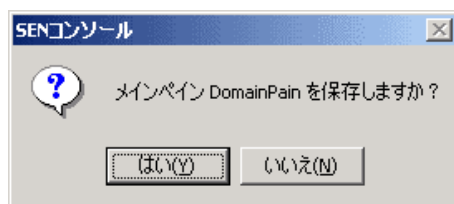


図 4-45 メインペイン保存確認画面

新規保存の場合は、図 4-46 のメインペインのプロパティ画面が表示されます。メインペインのプロパティ画面は、[プロパティ]ボタンを押した場合にも表示されます。既存のメインペインを上書保存する場合は、そのまま現在のプロパティで保存されます。

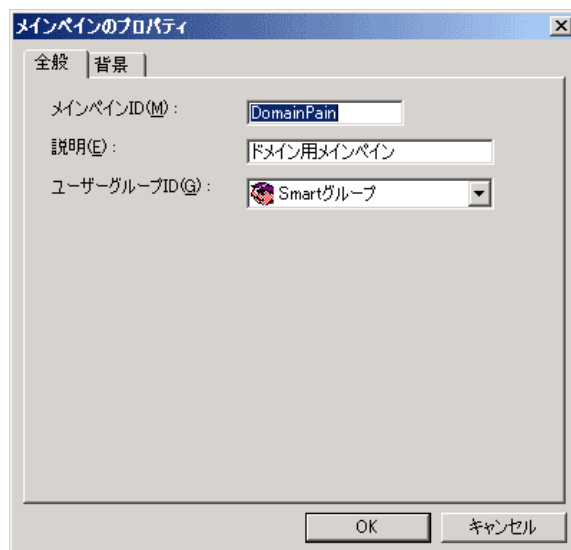


図 4-46 メインペインのプロパティ画面 (全般タブ)

[全般]タブでは下記項目を指定し、[OK]ボタンを押します。

表 4.1-12 メインペインのプロパティ項目一覧 (全般タブ)

項目	内容	省略
メインペイン ID :	メインペイン ID を指定します。SEN サーバー内で他のグループと名前が重ならないようにユニークにする必要があります。	不可
説明 :	コメントを指定します。	可能
ユーザーグループ ID :	メインペインが属すユーザーグループをコンボボックスより選択します。	—

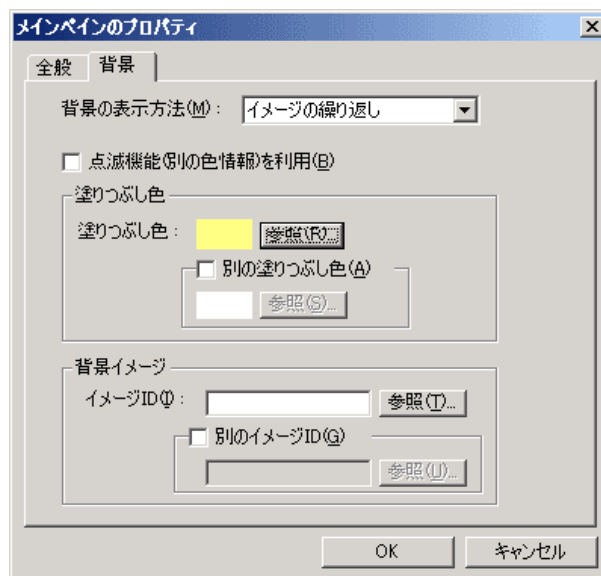


図 4-47 メインペインプロパティ画面 (背景タブ)

[背景]タブでは下記項目を指定し、[OK]ボタンを押します。

表 4.1-13 メインペインプロパティ項目一覧 (背景タブ)

項目	内容	省略
背景の表示方法：	"単一色による塗りつぶし"または"イメージの繰り返し"を選択します。 "単一色による塗りつぶし"を選択した場合は、[塗りつぶし色]で設定する単一色でメインペインの背景を塗りつぶします。 "イメージの繰り返し"を選択した場合は、[背景イメージ]で設定するイメージをメインペインの背景に繰り返し表示します。	—
点滅機能 (別の色情報) を利用：	背景をブリンクさせる場合にチェックします。 [背景の表示方法]に"単一色による塗りつぶし"を選択した場合は、[別の塗りつぶし色]で指定した色でブリンク表示を行います。 [背景の表示方法]に"イメージの繰り返し"を選択した場合は、[別のイメージ ID]で指定したイメージでブリンク表示を行います。	—
塗りつぶし色：	背景の色を指定します。 色の指定は、[参照]ボタンを押す事によりカラーパレット(図 4-48)から選択する事ができます。 [点滅機能 (別の色情報) を利用]をチェックしている場合は、[別の塗りつぶし色]をチェックし、別の塗りつぶし色を指定します。この設定により背景のブリンク表示を行います。 なお、[点滅機能 (別の色情報) を利用]をチェックしていない場合は、[別の塗りつぶし色]を指定してもブリンク表示を行いません。	—

背景イメージ：	<p>背景に設定するイメージを指定します。</p> <p>[参照]ボタンを押すとイメージリスト画面が表示されます(図 4-49)。イメージ種別は Windows アイコン、Windows ビットマップ、PNG、JPEG、TIFF 形式を選択します。イメージアイテムに表示するイメージ ID をリストから選びます。なお、イメージはあらかじめアップロードして登録しておく必要があります。</p> <p>[点滅機能 (別の色情報) を利用]をチェックしている場合は、[別のイメージ ID]をチェックし、別のイメージ ID を指定します。この設定により背景のブリンク表示を行います。</p> <p>なお、[点滅機能 (別の色情報) を利用]をチェックしていない場合は、[別のイメージ ID]を指定してもブリンク表示を行いません。</p>	※1
---------	--	----

※1：「背景の表示方法」で「イメージの繰り返し」を選択した場合、省略できません。



図 4-48 色の設定画面

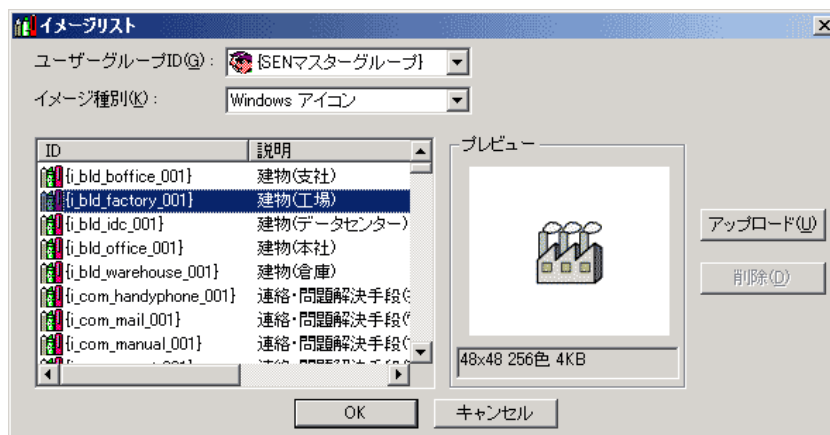


図 4-49 イメージリスト画面



ビューアイテムグループに割り当て済みのメインペインを編集後、その編集結果をメインビューに反映するためには、メインビューの該当するビューアイテムグループアイコンのコンテキストメニューから[定義の反映]を実行する必要があります。



メインペインプロパティ画面の[背景]タブの背景イメージに大きなサイズのイメージを使用すると、環境によっては動作が重くなる事があります。背景イメージには、1024×1024 以下のサイズのイメージを使用するか、小さいサイズのイメージを"イメージの繰り返し"設定により繰り返し表示する事を推奨します。



SEN Web サービスでは、メインペインの背景は表示されません。



SEN Web サービスでは、メインペインアイテムの URI などの長さの制限があります。詳細は「**6.2 制限事項**」を参照して下さい。

4.1.5 インポートによるメインペインアイテムの自動生成(千手ノード定義)

メインペインエディタのメインペインのコンテキストメニューからインポートを選択することで、定義データからのインポートによるアイテムの自動生成を行うことができます。

本機能は、接続された千手ドメイン(マネージャ)から関連イベントをあらかじめ所属しているグループに分配させている場合のみ適用可能です。



図 4-50 メインペインエディタ用インポート画面

メインペインエディタ用インポート画面(図 4-50)では、以下の項目を指定して[OK]ボタンを押す事により、指定したクラスのインスタンスがメインペインアイテムとして自動的にインポートされます。

表 4.1-14 メインペインエディタ用インポート項目一覧

項目	内容	省略
ドメイン ID :	接続先の Senju Operation Conductor アダプタドメイン ID を指定します。	可能
クラス :	イベントクラスとして”千手ノード定義”を指定します。	可能
ユニークキー :	クラスインスタンスを特定するためのユニークキーを指定します。 正規表現による指定が可能です。正規表現では、最初の0の一致する文字列が抽出されます。例えば、 (^sen[0-9]{0,2}) を指定した場合、"sen"、"sen01"、"sen02"などのキーをもつインスタンスがマッチします。また、 (^sen[0-9]{0,2})ABC を指定した場合、"sen1ABC"、"sen12ABC"などのキーをもつインスタンスがマッチしますが、インポートされる文字列は、"sen1"、"sen12"となります。このように、インポート対象から部分的な文字列のみをインポートする事も可能です。	可能

パーツ ID :	インポート時に生成するメインペインアイテムのパーツ ID (結合アイテムの ID) を指定します。	—
----------	---	---



インポートを行う前に、一つ以上の結合アイテムをアイテム部品として登録する必要があります。

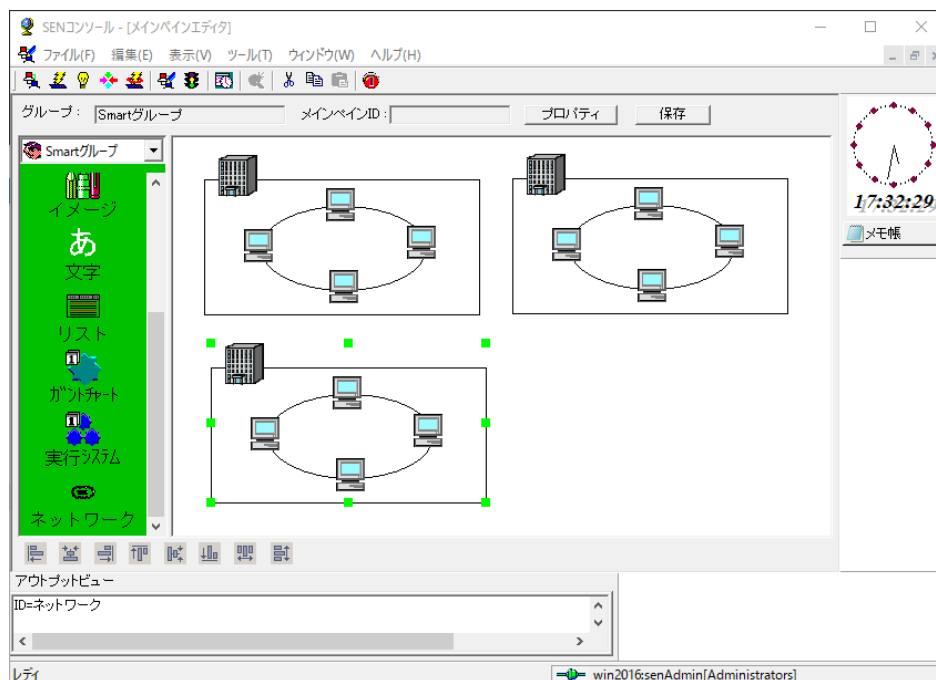


図 4-51 インポートされたメインペインアイテム

図 4-51 は、ドメインおよびクラスを指定して、すべての千手管理対象ノードをメインペインアイテムとしてインポートした例です。この例では千手ノード定義クラスを使用していますが、千手ノードグループ定義クラスなど他のクラスを使用する場合も、同様の操作でインポートによるアイテムの自動生成を行う事ができます。



千手ノード定義のインポート後、接続先の千手ドメインに新規ノードが追加された場合、その結果をメインペインに反映させるためには、再度千手ノード定義のインポートを行う必要があります。その際、千手ドメインに新規追加されたノードは、再インポート時にはメインペイン左上のアイテムと重なって表示されますので注意して下さい。

また、接続先の千手ドメインに属するノードを削除した場合、再度千手ノード定義のインポートを行っても、メインペインへはそのノードの削除が反映されません。接続先の千手ドメインのノードを削除し、その結果をメインペインに反映させる場合には、手動で該当ノードをメインペインから削除して下さい。



千手ノード定義と千手ノードグループ定義のインポートでは、メインペインのサイズ 上限値(2048x2048)の範囲外に結合アイテムが表示される事があります。範囲外にある結合アイテムは、メインペインのサイズ 上限値内に移動させ編集して下さい。
範囲外にある結合アイテムの移動を試みると、いったん 2048x2048 の範囲内に強制的に移動させます。

4.1.6 インポートハンドラによるメインペインの自動生成(千手ジョブスケジュール情報)

インポートハンドラを用いたメインペインの自動生成手順について説明します。インポートハンドラでは、千手ジョブスケジュール情報(実行システム定義・ステータス、フレームステータス)を指定して、インポートする事ができます。



SEN Web サービスでは、メインペインの千手ジョブスケジュール情報は表示されません。

インポートハンドラによるメインペイン自動生成では、下記の手順を実行する必要があります。

- ① キーによる分配ルールの指定によるイベントのグループへの割り当て
- ② インポート先となるメインペインの雛形の定義
- ③ ビューアイテムグループ作成時のインポートハンドラ指定



インポートハンドラによるメインペイン自動生成は、必ず上記順番で実行して下さい。

以下、これらの具体的な手順について説明します。

(1) キーによる分配ルール指定によるイベントのグループへの割り当て

実行システムおよびフレーム用メインペインを自動生成するためのイベントをグループに対して割り当てる分配ルールを定義する必要があります。これは、ルールセットエディタを用いて行います。ルールセットエディタの使用の詳細は、「**5.1.6 ルールの編集**」を参照して下さい。

ルールセットエディタを表示し、[分配]タブを選択します(図 4-52)。

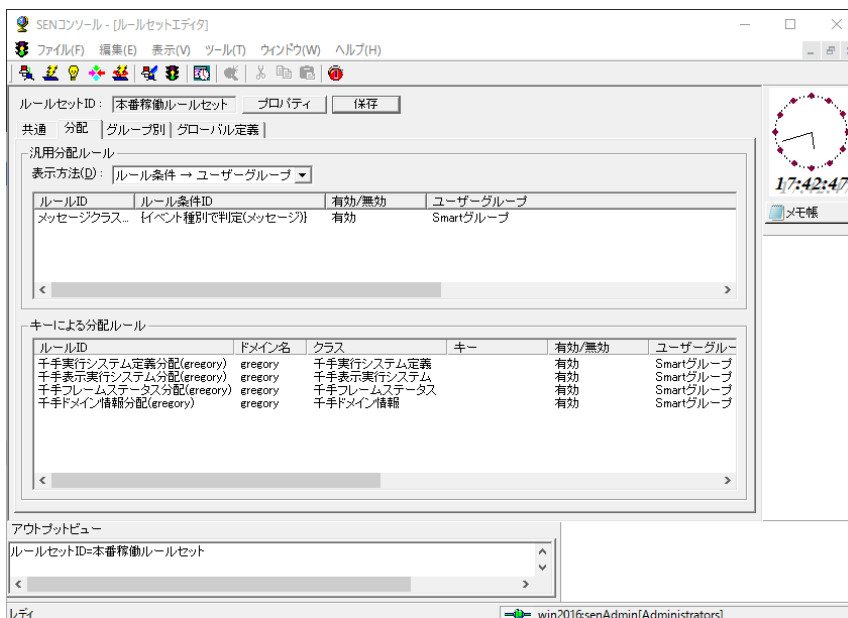


図 4-52 ルールセットエディタ画面(分配タブ)

キーによる分配ルールリストボックスのコンテキストメニューから[新規作成]を選び、キーによるユーザーグループへの分配画面を表示します(図 4-53)。

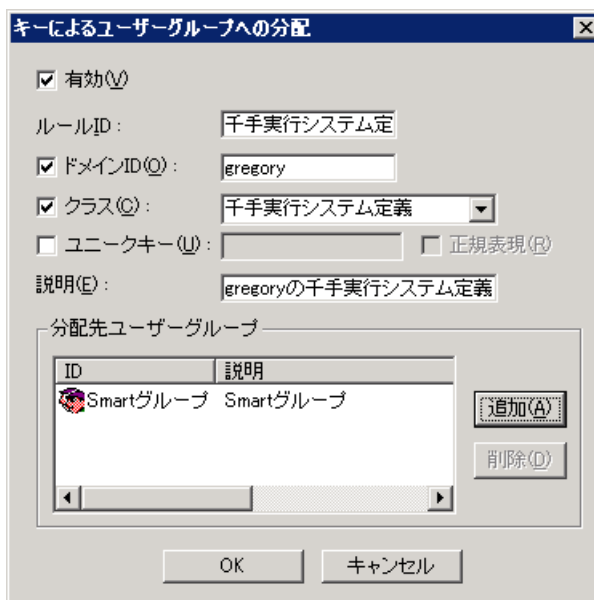


図 4-53 キーによるユーザーグループへの分配画面

キーによるユーザーグループへの分配画面では、下記項目を指定し、[OK]ボタンを押します。

表 4.1-15 キーによるユーザーグループへの分配項目一覧

項目	内容	省略
有効チェックボックス	このルールを有効にする場合はチェックします。ルー	—

ス :	ルを無効にする場合はチェックを外します。デフォルトは有効です。	
ルール ID :	このルールの ID を指定します。	不可
ドメイン ID :	対象となる Senju Operation Conductor アダプタドメイン名を指定します。	可能
クラス :	イベントクラスを指定します。	可能
ユニークキー :	イベントを選択するためのユニークキーの文字列を指定します。クラスに属すすべてのイベントを対象とする場合は指定する必要はありません。正規表現による指定も可能です。	可能
説明 :	コメントを指定します。	可能
分配先ユーザーグループ :	イベントの分配先となるグループ一覧を指定します。グループを追加するには[追加]ボタンを押します。	不可

以下の4つのイベントクラスすべてに対して、グループへの分配を定義する必要があります。

- 千手実行システム定義
- 千手表示実行システム
- 千手フレームステータス
- 千手ドメイン情報

すべてのルール定義が完了したらルールセットを保存し、ルールセットの反映を実行します。

【ユニークキーの指定について】

キーによる分配ルールで、ユニークキーを用いて対象となるイベントの絞り込みを行う場合は、下記の要領で指定して下さい。

千手実行システム定義:

千手実行システム定義イベントクラスでは、ユニークキーは“運用日付. 実行システム名”という形式になります。正規表現では、例えば次のように指定する事ができます。

```
(^[0-9]{8}\.(JOBSYS001)$)
```

上記の例では、任意の運用日付(YYYYMMDD)の”JOBSYS001”の実行システムにマッチします。

千手表示実行システム:

千手表示実行システムイベントクラスも、実行システム定義と同様、ユニークキーは“運用日付. 実行システム名”という形式になります。基本的に、表示実行システムのユニークキーの指定は、実行システム定義と同じにするべきです。

千手フレームステータス:

千手フレームステータスイventクラスでは、ユニークキーは“運用日付. フレーム名”という形式になります。正規表現では、例えば次のように指定する事ができます。

```
(^[0-9]{8}\.(SFRAME001)$)
```

上記の例では、任意の運用日付(YYYYMMDD)の”SFRAME001”のフレームにマッチします。

千手ドメイン情報:

千手ドメイン情報イベントクラスでは、ユニークキーは文字列”千手ドメイン時刻”、“千手ドメインバージョン”、“千手プロキシサーバーバージョン”となります。

(2) インポート先メインペインの雛形の定義

メインペインエディタを用いて、インポート先となるメインペインの雛形を定義します。

インポート先のグループを指定してメインペインエディタを新規に表示した後、パーツエリアより“実行システム”パーツを選択して、メインペイン描画領域にドラッグ&ドロップします(図 4-54)。

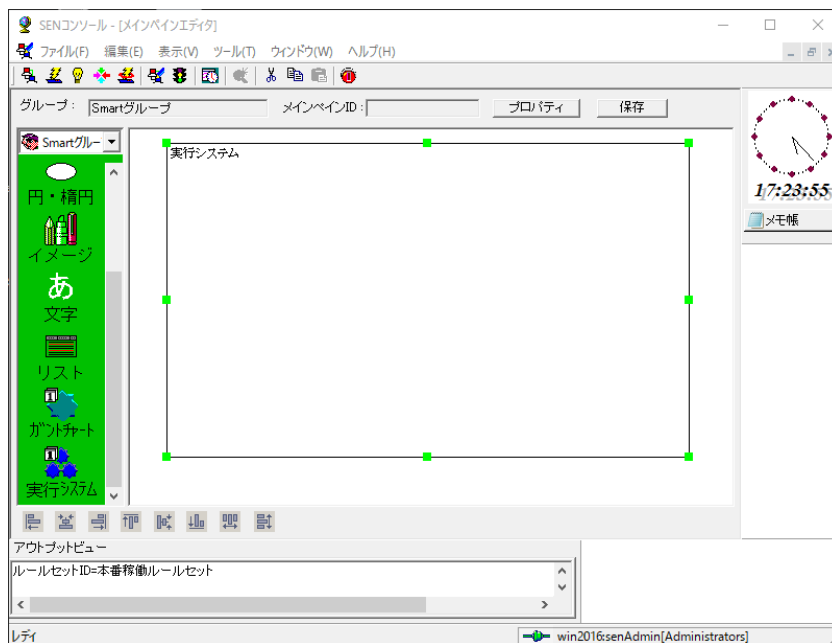


図 4-54 実行システム用メインペインの雛形画面

実行システム表示エリアが表示されますので、サイズおよび配置場所を変更して、メインペインを保存します(図 4-55)。

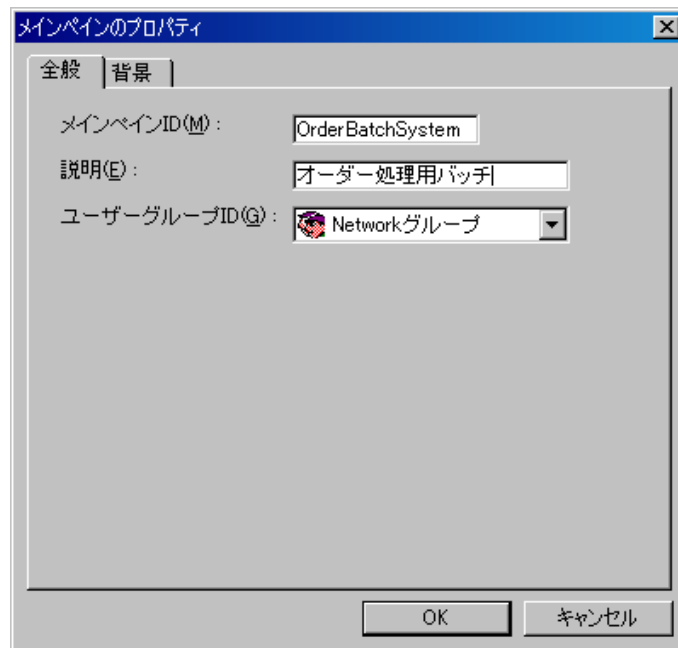


図 4-55 実行システム用メインペインのプロパティ画面

同様にインポート先のグループを指定してメインペインエディタを新規に表示した後、パーツエリアより“ガントチャート” パーツを選択して、メインペイン描画領域にドラッグ&ドロップします(図 4-56)。

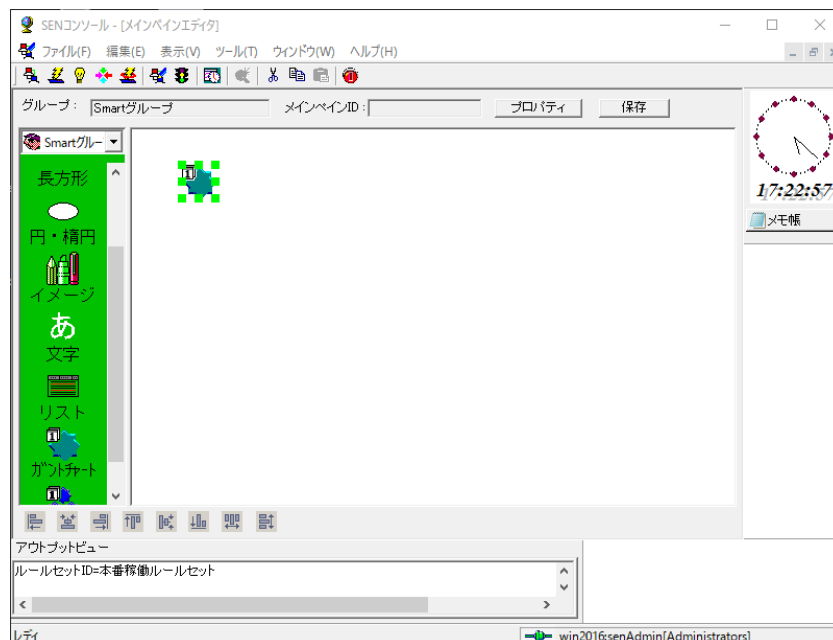


図 4-56 フレーム用メインペインの雛形画面

ガントチャートは、アイコンの左上座標を起点として右側および下側に描画されます。実際にどれだけの描画領域が必要かは実行時に決定されますので(フレームの数、フレームの実行時間によります)、アイコンの右側および下側にはこれ以外の部品を配置しないで下さい。

編集が終了したらフレーム用メインペインを保存します(図 4-57)。

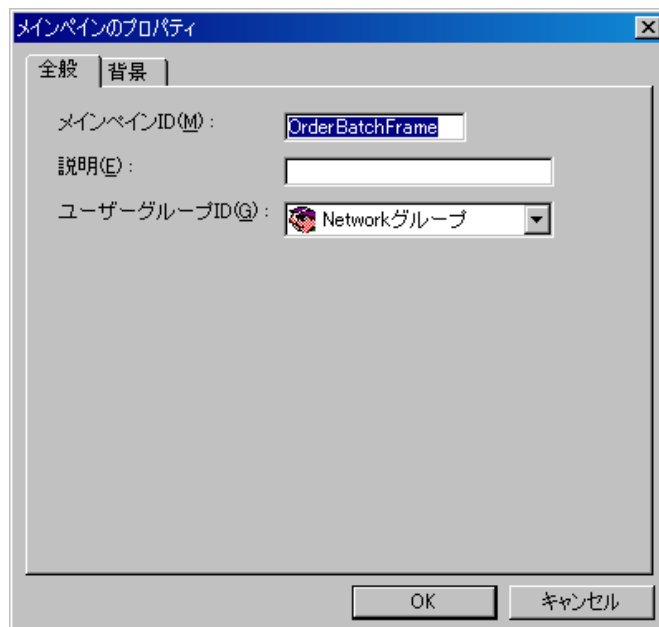


図 4-57 フレーム用メインペインのプロパティ画面

(3) ビューアイテムグループ作成時のインポートハンドラ指定

インポート先となるビューカテゴリのツリーペインのコンテキストメニューから、[子グループの作成]を選択し、ビューアイテムグループ画面を表示します(図 4-58)。

図 4-58 ビューアイテムグループ画面

ビューアイテムグループ画面では、下記項目を指定し、OK ボタンを押します。

表 4.1-16 ビューアイテムグループ項目一覧

項目	内容	省略
ID :	ビューアイテムグループの ID を指定します。	不可
アイコン ID :	ビューアイテムグループに割り当てるアイコンの ID を指定します。アイコン ID は、[参照]ボタンを押す事により、すでに定義されたアイコンの一覧から選択する事が可能です。アイコン ID で使用するイメージは、あらかじめ SEN サーバーにアップロードしておく必要があります。	不可
説明 :	コメントを指定します。	可能
インポートハンドラ :	“千手実行システム” のみ指定が可能です。	—
システム用メインペイン ID :	実行システム用メインペイン ID を指定します。定義済メインペイン一覧から参照して指定する場合は[参照]ボタンを押します。	不可
フレーム用メインペイン ID :	フレーム用メインペイン ID を指定します。フレーム用メインペイン ID は、[参照]ボタンを押す事により、すでに定義されたメインペインの一覧から選択する事が可能です。	不可
ドメイン ID :	対象となる Senju Operation Conductor アダプタドメイン ID を指定します。省略した場合は、すべてのド	可能

メインが対象になります。

上記(1)~(3)の手順が完了すると、図 4-59 および図 4-60 のような実行システムおよびフレーム用メインペインが生成されます。インポートしたビューアイテムグループの下に各実行システムに対応するツリーノードが自動的に生成されます。

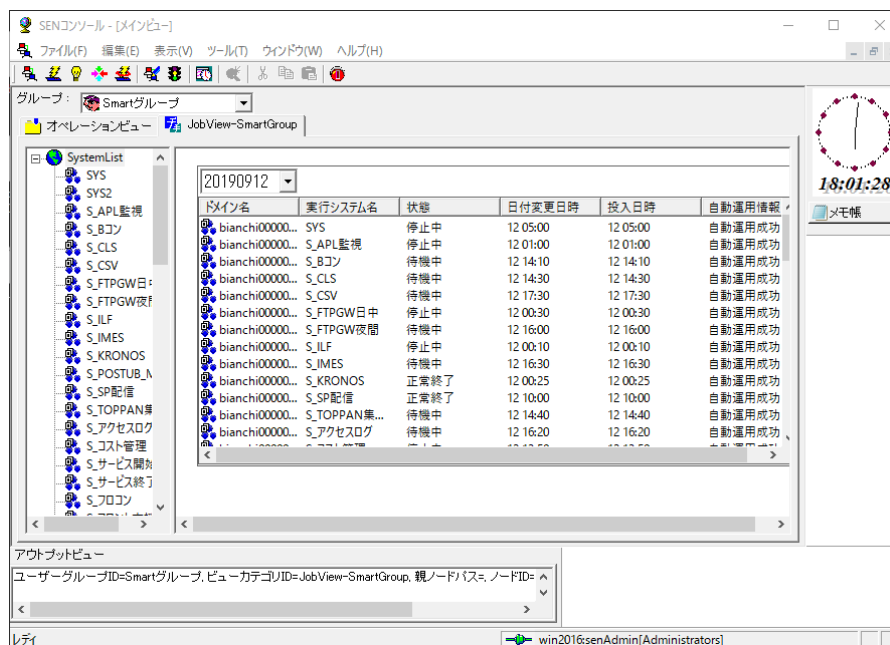


図 4-59 インポートされた実行システム用メインペイン

実行システム用メインペインでは、実行システムの一覧が表示されます。これは千手ブラウザのジョブモニタで[実行システム]タブを選択した場合に相当します。運用日付はコンボボックスにより切り替える事ができます。デフォルトでは最新の運用日付が表示されます。

実行システム用メインペインは、実行システムのステータスに応じて自動的に更新されます。

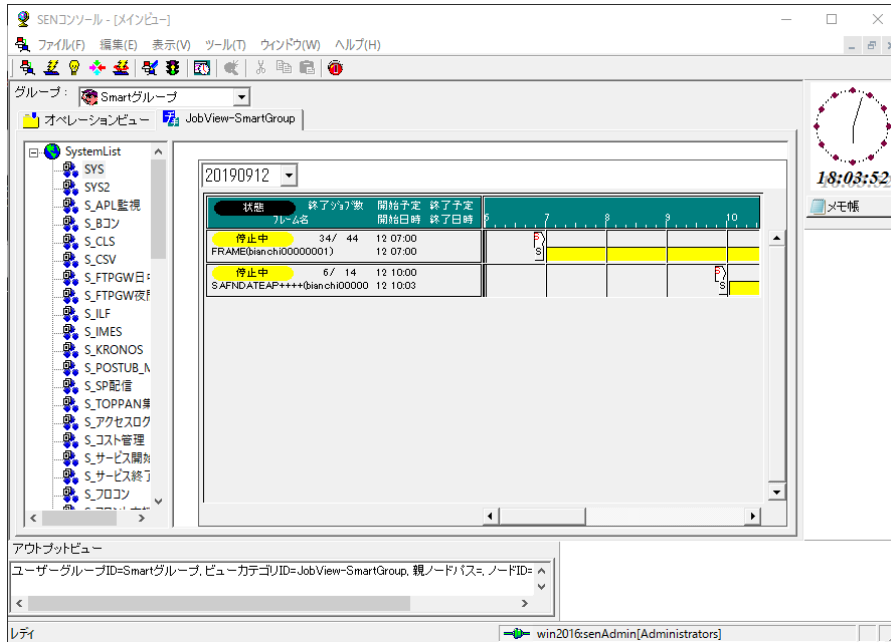


図 4-60 インポートされたフレーム用メインペイン

フレーム用メインペインでは、実行システムに対するフレームの一覧が表示されます。これは千手ブラウザのジョブモニタで[フレーム]タブを選択した場合に相当します。運用日付はコンボボックスにより切り替える事ができます。デフォルトでは最新の運用日付が表示されます。

フレーム用メインペインは、フレームのステータスに応じて自動的に更新されます。



千手ブラウザと SEN コンソールに表示される内容の整合性を保つため、インポートハンドラにより自動生成された実行システムやガントチャートに対するイベントは、共通ルールの早期イベント破棄ステージでは破棄されません。



実行システムやガントチャートをインポートしたビューアイテムグループに対し、ビューアイテムグループのリセットを行った場合、実行システムやガントチャートを除くアイテムのみがリセットされます。実行システムまたはガントチャートの表示はリセットされません。

5 ルール作成ガイド

5

ルール作成ガイド

この章では、ルールの作成方法について詳しく説明します。

5	ルール作成ガイド	5-1
5.1	ルールの作成・編集	5-4
5.1.1	ルールの考え方	5-5
5.1.2	ルール処理の流れ	5-6
5.1.3	ルール記述方法	5-10
5.1.3.1	ルール記述時の制限事項	5-13
5.1.4	ルール条件の編集	5-16
5.1.4.1	簡易ルール条件作成	5-23
5.1.5	アクションテンプレートの編集	5-25
5.1.5.1	アクションテンプレートの新規作成・編集	5-25
5.1.6	ルールの編集	5-29
5.1.6.1	ルールセットの新規作成・変更	5-29
5.1.6.2	ルールセットエディタの基本構成	5-33
5.1.6.3	共通ルールの編集	5-38
5.1.6.4	分配ルールの編集	5-71
5.1.6.5	グループ別ルールの編集	5-74
5.1.6.6	共通ルールとグループ別ルールの違い	5-75
5.1.6.7	グローバル定義ルールの編集	5-76
5.1.6.8	ルールアクションの記述	5-79
5.1.7	コンソールルールの編集	5-81
5.1.8	ルールセットの反映	5-84
5.1.9	オブジェクトブラウザ	5-86
5.1.9.1	オブジェクトブラウザの基本操作	5-87
5.1.10	ルールセットのシミュレーション	5-90
5.1.10.1	イベントビューからの実行	5-90
5.1.10.2	メニューバーからの実行	5-91
5.1.10.3	シミュレーション結果の解説	5-92
5.1.11	チューニングガイド	5-95
5.1.11.1	共通ルールおよびグループ別ルールに要する処理時間の調査	5-95
5.1.11.2	共通グループ及びグループ別ルールの時間あたりのルール処理数の調査	5-96
5.2	リファレンス	5-97
5.2.1	ルール内で参照可能な変数	5-97
5.2.1.1	サーバー側ルールで参照可能な変数	5-97
5.2.1.2	コンソールルールで参照できる変数	5-133
5.2.1.3	ルール内で参照可能な変数の有効範囲	5-143
5.2.1.4	SenjuEnterpriseNavigator が提供する URI	5-145
5.2.2	イベントクラス一覧	5-146
5.2.2.1	共通イベントクラス	5-146

5.2.2.2 メール受信連携サブシステム	5-150
5.2.2.3 シスログ連携サブシステム.....	5-152
5.2.2.4 SNMP トラップ連携サブシステム.....	5-153
5.2.2.5 千手連携サブシステムのイベントクラス.....	5-154
5.2.2.6 メール送信連携サブシステム	5-190
5.2.2.7 TELStaff 連携サブシステム.....	5-191
5.2.2.8 savic-netEVmodel30 連携サブシステム	5-192
5.2.2.9 NMAcos アダプタサブシステムのイベントクラス.....	5-193
5.2.2.10 Senju Service Manager 連携サブシステムのイベントクラス	5-194
5.3 ルール事例集.....	5-195
5.3.1 シチュエーションによるルール事例.....	5-196
5.3.1.1 イベントをフィルタリングする	5-198
5.3.1.2 到着したイベントの情報を変更する	5-201
5.3.1.3 イベント到着時にメインペインを変更する	5-204
5.3.1.4 イベントのステータス変更時にメインペインを変更する	5-207
5.3.1.5 イベントのステータス変更時にイベントの情報を変更する	5-209
5.3.1.6 イベント到着時に外部コマンドを非同期実行する	5-211
5.3.1.7 メール送信依頼到着時にメールを送信する	5-213
5.3.1.8 電話呼び出し依頼到着時に TELstaff から電話をかける.....	5-214
5.3.1.9 イベント到着時にメールを送信する	5-215
5.3.1.10 イベント到着時に TELstaff から電話をかける	5-216
5.3.1.11 イベントが到着してから一定の時間後にアクションを実行する.....	5-217
5.3.1.12 定期的に同じアクションを実行する	5-219
5.3.1.13 受信メールをインシデント登録する	5-220
5.3.1.14 受信メールをインシデントまたはインシデント候補登録する	5-222
5.3.1.15 受信メールをプロセス登録する	5-228
5.3.1.16 受信メールをプロセスまたはイベント登録する.....	5-230
5.3.1.17 受信メールをプロセスの経過情報に自動追加する	5-236
5.3.1.18 コンソールへメッセージボックスを表示する.....	5-241
5.3.1.19 コンソールへ警報音を通知する	5-242
5.3.1.20 色定義を行う	5-244
5.3.1.21 タグ値をコンソールのメッセージボックスへ表示する	5-247

5.1 ルールの作成・編集

本節では、ルールセットエディタを用いてルール作成を行うための手順について詳しく説明します。

5.1.1 ルールの考え方

SEN サーバーで受信したイベントは、if-then 型のルールにより処理がなされます。

ルールとは、もし～であれば～する、という‘条件’-‘ルールアクション’の組として記述され、基本的に特定の条件を満たすイベントをトリガとしてルールアクションを実行します。すなわち、イベントを受信するたびに、そのイベントがルール条件にマッチするかどうかチェックし、マッチした場合は、指定されたルールアクションを実行(発火)させます。

ルールは、SEN サーバー内で共通に定義される共通ルールと、各グループに定義されるグループ別ルールとがあります。さらにイベントを各グループに振り分けるための分配ルール、ルール全体で共通な変数や初期処理、終了処理などを定義するグローバル定義ルール、各グループに設定され SEN コンソール上で実行するコンソールルールがあります。

共通ルールとグローバル定義ルールは全グループで共通に適用されるルールであり、Administrators 役割をもつユーザーのみ設定可能です。

分配ルールは、イベントを各グループに振り分けるためのルールであり、Administrators 役割をもつユーザーのみ設定可能です。

グループ別ルールは、各グループに設定するルールであり、各グループの Managers 役割を持つユーザーまたは Administrators 役割をもつユーザーが設定可能です。

コンソールルールは、各グループに設定され、SEN コンソール上で実行するルールであり、各グループの Managers 役割を持つユーザーまたは Administrators 役割をもつユーザーが設定可能です。

5.1.2 ルール処理の流れ

ルール処理の全体の流れを図 5.1-1 に示します。

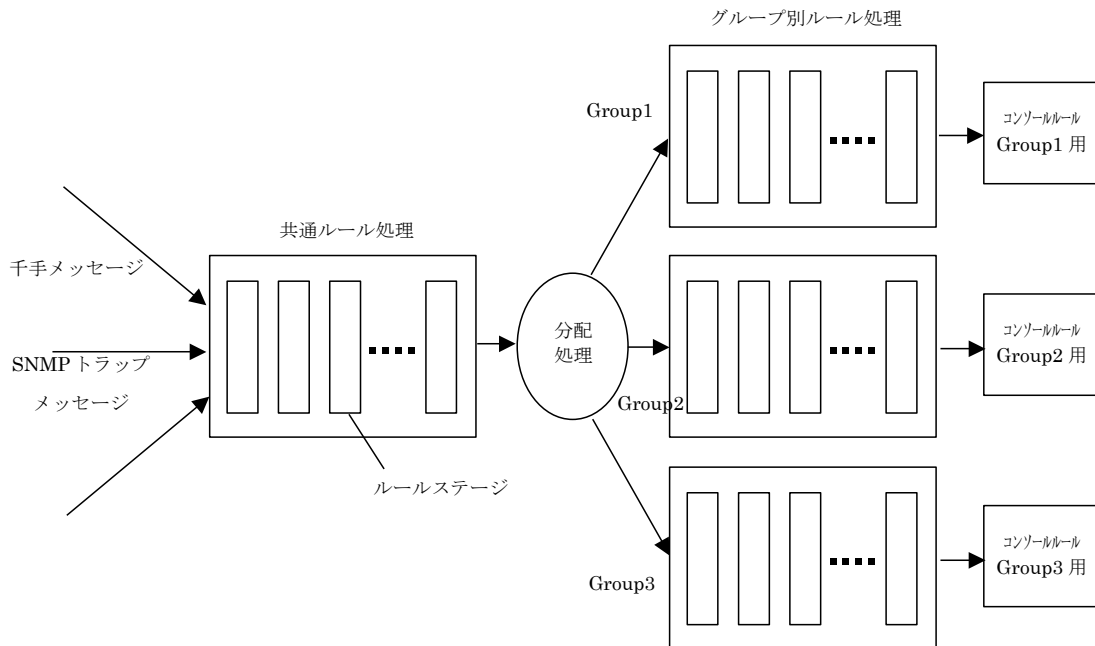


図 5.1-1 ルール処理全体の流れ

SEN サーバーに入ってくる各種イベントは、まず共通ルール処理に渡されます。共通ルール処理では、すべてのグループに共通のルールが、入力されたすべてのイベントに対して適用されます。この中は複数のルールステージに分かれており、各ステージが順にパイプライン処理されます。

ステージはルール処理の仕方に応じて 6 のステージに分かれています。ステージには、イベントの破棄、イベントをトリガとするルールアクションの実行などがあります。また、過去のイベントを参照しルールアクションを実行するなど、より高度なルールを作成する場合には、[高度な設定]チェックボックスをチェックして下さい。高度な設定用に 5 ステージが追加され、合計 11 のステージが使用できます。

共通ルール処理が完了すると、分配処理に移ります。ここでは、イベントを指定された条件により各グループ別ルール処理に振り分けます。分配ルールには、汎用分配ルールによる分配と、キーによる分配の 2 通りがあります。汎用分配ルールによる分配では、イベントのプロパティとその値を指定しての分配を行います。キーによる分配では、イベントクラスとそのユニークキーを指定しての分配を行います。

グループ別ルール処理では、振り分けられたイベントに対し、共通ルール処理と同様にステージ処理されます。各グループに分配されたイベントは、元のイベントがグループ毎に複製されます。すなわち同一のイベントを複数のグループに分配する事もできますし、分配後、各グループ毎にイベントのプロパティを変更する事も可能です(例えばグループ A に分配したイベントのステータスを“対処完了”とし、グループ B に分配したイベントのステータスを“受付済”にするなど)。

ここまでの処理はすべて SEN サーバー上で実行されます。グループ別ルール処理が完了後、イベントはコンソールルールに渡されます。コンソールルールは各グループに設定され SEN コンソール上で実行されます。コンソールルールでは、メッセージ画面の表示や警報装置の鳴動などの処理が実行されます。



どのグループにも分配されなかったイベントは{その他}グループに振り分けられます。

以下、各ルールステージについて説明します。

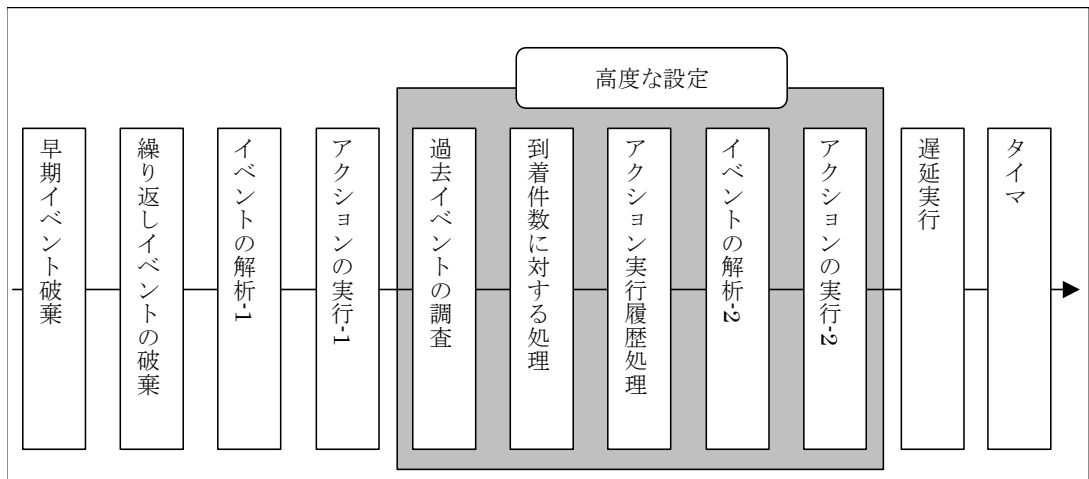


図 5.1-2 ルールステージの流れ

1) 早期イベント破棄

SEN サーバーで受信したイベントのうち必要のないものを早期に破棄するためのステージです。これは、共通ルールの場合、その時点でイベントは破棄され、後続のステージおよび分配ルール、グループ別ルールには進みません。グループ別ルールの場合、その時点でイベントは破棄され、後続のステージには進みません。不要なイベントは可能な限り早期イベント破棄ステージで破棄すべきです。不要なイベントを後続ステージに通過させる事は、ルール処理のパフォーマンスの悪化につながるだけでなく、ディスク容量を圧迫する事になります。

2) 繰り返しイベントの破棄

SEN サーバーで受信したイベントのうち繰り返し送られてくるイベントを破棄するためのステージです。ある障害が原因で同じイベントが幾つも送られてくる場合に、このステージで不要なイベントを破棄します。トリガとなったイベントを基準に、指定した期間内に、指定した回数分到着した同じイベントを破棄します。

3) イベントの解析-1

後続ステージで使用するために、イベント内容を解析して属性の付加や変更を行うためのステージです。ここでは、現在のイベントに含まれる内容を解析し、イベントに新たにユーザー定義属性を付加したり、または既存の属性の値を変更したりします。また、例えばイベントとメインペインやメインペインアイテムとの関連付けやイベントへの付加情報の追加を行います。

4) アクションの実行-1

現在のイベントがルール条件にマッチした場合にルールアクションを実行するためのステージです。ルールアクションでは、メインビューにおけるメインペインアイテムに対する各種操作(背景色の変更、プロパティ値の変更等)、SEN サーバー上での任意の外部コマンド実行、メール送信を行う事が可能です。

5) 過去イベントの調査(高度な設定)

過去イベントを参照してルールアクションを実行するためのステージです。このステージでは2つのルール条件を使用します。現在のイベントが一番目のルール条件にマッチしたならば、過去のイベントを参照する必要があると判断され、過去イベントに対して二番目のルール条件にマッチすればルールアクションを実行します。調査する過去イベントの範囲(過去何秒以内)をパラメータとして指定します。

6) 到着件数に対する処理(高度な設定)

5)と同様、過去イベントを参照してのルールアクションを実行するためのステージです。このステージでは2つのルール条件を使用します。現在のイベントが一番目のルール条件にマッチしたならば、過去のイベントを参照する必要があると判断され、過去イベントが二番目のルール条件に指定件数マッチすればルールアクションを実行します。調査する過去イベントの範囲(過去何秒以内)およびカウントする件数をパラメータとして指定します。

5)はルール条件にマッチする過去イベントが1件あればルールアクションを実行しますが、6)はルール条件にマッチする過去イベントが指定件数存在しなければルールアクションは実行されません。

7) アクション実行履歴処理(高度な設定)

過去のアクション実行履歴を参照してのルールアクションを実行するためのステージです。このステージでは2つのルール条件を使用します。現在のイベントが一番目のルール条件にマッチしたならば、過去のアクション履歴を参照する必要があると判断し、アクション履歴が二番目のルール条件にマッチすればルールアクションを実行します。ここで、アクション履歴として参照可能なのは、外部コマンドの実行履歴およびメール送信履歴です。

本ステージの利用例としては、ある障害が連続して発生した場合に、それに応じて外部コマンドやメール送信が連続して実行される事を抑止する場合等が挙げられ

ます。

8) イベントの解析-2(高度な設定)

3)と同様、イベント内容を解析して属性を付加したり変更するためのステージです。ここでは、現在のイベントに含まれる内容を解析し、イベントに新たにユーザー定義属性を付加したり、または既存の属性の値を変更したりします。また、例えばイベントとメインペインやメインペインアイテムとの関連付けやイベントへの付加情報の追加を行います。

通常はイベントの解析-1 ステージで記述すべきですが、後続のステージの処理を実行してからでないとは判断できないようなケースではこのステージで記述する事になります。

9) アクションの実行-2(高度な設定)

4)と同様、現在のイベントがルール条件にマッチした場合にルールアクションを実行するためのステージです。

これについても通常はアクションの実行-1 ステージで記述すべきですが、後続のステージの処理を実行してからでないとは判断できないようなケースではこのステージで記述する事になります。

10) 遅延実行

2つの条件が指定時間内に成立しなかった場合に、ルールアクションを実行するステージです。

現在のイベントが一番目のルール条件にマッチし、指定時間内に二番目のルール条件にマッチするイベントが到着しなかった場合にルールアクションを実行します。

本ステージの利用例としては、障害イベントが到着した後、30秒以内に復旧イベントが到着しなかったら、管理者にメール送信する場合等が挙げられます。

11) タイマ

ルール条件-1が成立したときに、定期的にルールアクションを実行するステージです。

現在のイベントが一番目のルール条件にマッチしたときにパラメータ-2で指定された秒数間隔で、ルール-2が成立するまでのあいだ、ルールアクションが実行されます。

5.1.3 ルール記述方法

ルールの構成要素を図 5.1-3 に示します。

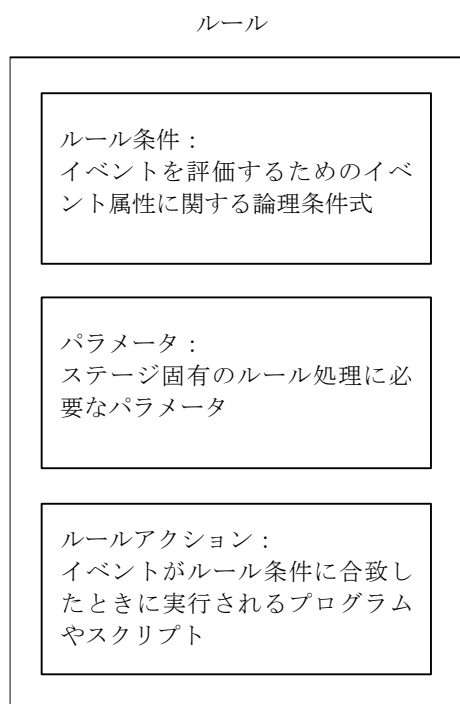


図 5.1-3 ルールの構成要素

ルール条件

ルール条件では現在または過去のイベント、アクション実行履歴を評価するための論理条件式を記述します。ルールステージによって、ルール条件を 1 つ指定する場合とルール条件を 2 つ指定する場合があります。

ルール条件は、単純条件式か、任意の数のルール条件を AND 条件または OR 条件で連結したものを指定できます。条件式は、JScript の文法に従う必要があります。JScript 言語の詳細は、Microsoft 社の Web サイト等を参照して下さい。

ルール条件の定義例を以下に示します。

例)

- ① 現在のイベントの“メッセージ ID”プロパティが"!ANM201”

```
currentEvent.prop("メッセージ ID") == "!ANM201"
```

- ② 現在のイベントの“メッセージ ID”プロパティが"!ANM201”であり、かつ“発生元ノード ID”プロパティが"NODE01”

```
currentEvent.prop("メッセージ ID") == "!ANM201" &&
```

```
currentEvent.prop("発生元ノード ID") == "NODE01"
```

③現在のイベントが 7:00 から 20:00 までに発生したかどうかの条件

```
currentEvent.prop("発生日時").substr(11,8) >= "07:00:00" && currentEvent.prop("発生日時").substr(11,8) <= "20:00:00"
```



ルール条件の記述の最後には、“;” は不要です。詳細は「5.1.3.1 ルール記述時の制限事項」を参照して下さい。

パラメータ

ルールには、パラメータを指定するケースがあります。指定可能なパラメータはルールのステージによって異なります。表 5.1-1 に、各ルールステージと指定可能なパラメータの一覧を示します。

表 5.1-1 ルールパラメータ

ステージ名	指定パラメータ
早期イベント破棄	なし
繰り返しイベントの破棄	抑止期間(秒)
	抑止回数
イベントの解析-1	なし
アクションの実行-1	なし
過去イベントの調査	調査する過去イベントの範囲(秒)
到着件数に対する処理	調査する過去イベントの範囲(秒)
	到着イベント数
アクション実行履歴処理	調査する過去イベントの範囲(秒)
イベントの解析-2	なし
アクションの実行-2	なし
遅延実行	指定時間(秒)
タイマ	指定時間(秒)

ルールアクション

ルールアクションでは、イベントがルール条件に合致したときに実行される任意のプログラムやスクリプトを記述します。ルールアクションは JScript のステートメントとして記述します。変数や関数を定義する事も可能です。

ルールアクションの記述例を下記に示します。

例)

① イベントメッセージの色を赤に変更する

```
currentEvent.color = 255;
```

② メインビューのアイテムの背景色を赤に変更

```
globalContext.mainViewTPNode("/GroupName/ViewCategory/
```

```
TreePath").item("/ItemName").prop("bgColor") = 255;
```

- ③ 受信したイベントの発生元ノード ID と一致するアイテム ID をもつメインペインアイテムの背景色を赤に変更

```
var panePath = globalContext.mainViewTPNode(
    "/GroupName/ViewCategory/TreePath");
var targetItem = panePath.item(
    "/" + currentEvent.prop("発生元ノード ID"));
if (targetItem) {
    targetItem.prop("bgColor") = 255;
}
```



ルールアクションの記述の最後には、“;” が必要です。詳細は「5.1.3.1 ルール記述時の制限事項」を参照して下さい。

5.1.3.1 ルール記述時の制限事項

Senju Enterprise Navigator システムのルールの記述には、以下の制限事項があります。

- ルール条件とルールアクションにおけるセミicolon”;"の違い
JScript の文は最後にセミicolon”;"を記述します。ルールアクションを記述する場合は、JScript の言語仕様に従い、文の最後にセミicolon”;"が必要です。
しかし、ルール条件を記述する場合は、文の最後にセミicolon”;"は不要です。これは、Senju Enterprise Navigator では、ルール条件を if 文の判定式に使用するためです。
- 変数宣言
変数は必ずキーワード `var` で宣言して下さい。 `var` 文を省略しても構わない場合がありますが、これはお勧めできません。
 `var` 文の詳細は、JScript の言語仕様を参照して下さい。
例)
○ : `var abc = "Senju Enterprise Navigator";`
× : `abc = "Senju Enterprise Navigator";`
- 改行コード
ENBASEvent の `guide` メンバなど、ルール内で Senju Enterprise Navigator システム内の文字列型変数に改行を代入する場合には、`"\r\n"`を使用して下さい。



SEN Web サービスでは、名称に改行コードが含まれている場合、Web ブラウザで正しく動作または表示しない項目があります。対象の項目については「6.2 制限事項」を参照して下さい。

- 変数・関数名
変数と関数名には、アンダースコア”_”から始まる名称は使用できません。
アンダースコアで始まる変数・関数名は、Senju Enterprise Navigator システム内で予約しています。
- スクリプトタイムアウト
共通ルール、各グループ別ルールにおけるルール処理は、30 秒でルールが強制終了されます。
- 無限ループ
`for` 文や `while` 文などの繰り返し処理を使う場合には、無限ループにならないよう十分注意して下さい。ルール処理にて無限ループが発生すると、一定時間後にルールをタイムア

ウトとして中断するとともに、同時に処理を行ったイベントへの処理や変更が破棄します。

- イベントの破棄

イベントの破棄ステージ以外でイベントの破棄を実施する場合は、主に `dropEvent` を利用しますが、`dropEvent` は対象のイベントに破棄フラグを立てるだけで、以降のルールは処理されるということに注意して下さい。(Senju Enterprise Navigator システムではイベントを決められた保証期間内保持しますが、破棄フラグが立っているイベントは保持されず、過去イベント取得などの機能を使用しても取得できないので注意して下さい。)

破棄と同時にルール処理を終えたい場合は、`return` 文と一緒に記述します。

```
globalContext.dropEvent( currentEvent );  
return;
```

ただし、`function` 文内で上記の記述をした場合は `function` を `return` で抜けるだけで後続のルールは処理されます。破棄と同時にルール処理を終えたい場合は `function` 文内に記述しないで下さい。

- `return` 文

イベントの破棄および `function` 文以外で `return` 文を使用しないで下さい。Senju Enterprise Navigator システムでは、`function` 文以外で `return` 文を使用すると、以降のルールが処理されません。

- 変数のスコープ

「グローバル関数・変数定義」（共通及びグループ別の関数変数定義も同様）に定義した変数と同じ名前の変数を任意のルールステージで再定義することはお勧めできません。任意のルールステージで再定義した時点で、そのルールステージだけでなく、別のルールステージにおいても「グローバル関数・変数定義」に定義した変数を参照できなくなるためです。

これは Jscript のスコープの仕様です。

- WScript オブジェクトの `Run` メソッドの使用禁止

WScript オブジェクトの `Run` メソッドは使用しないで下さい。ルールが正常終了しない恐れがあります。

- イベントの処理数

Senju Enterprise Navigator システムでは、同じドメインから同時刻に受信したイベントは、最大 3000 件までを一まとめとして配列構造の変数にセットされ、`for` ループでまとめてルール処理されます。

- ・ グローバル関数・変数のコール

「グローバル関数・変数定義」(共通及びグループ別の関数変数定義も同様)は、まとめて処理される単位ごとに 1 回、宣言部がコールされます。そのため、イベント 1 件に対して、毎回宣言部がコールされ、変数の値が初期化されることがないため、注意が必要です。

また、グローバル初期化処理、グローバル終了処理についても同様です。



変更したイベントの情報が制限値を超えた場合、SEN Web サービスに接続できません。制限値については[6.2 制限事項]を参照して下さい。

5.1.4 ルール条件の編集

ルール条件を編集するには、メニューバーから[ツール]->[ルール条件]を選択するか、各ステージのルール定義画面からルール条件 ID の[参照...]ボタンを押す事により、ルール条件リスト画面を表示します(図 5.1-4)。ルール条件リスト画面では、各グループに定義されているルール条件の一覧が表示されます。新たにルール条件を追加定義するには、[追加]ボタンを押すか、または簡易追加ボタンを押します。既存のルール条件を変更するには、エントリーを選択して[変更]ボタンを押します。

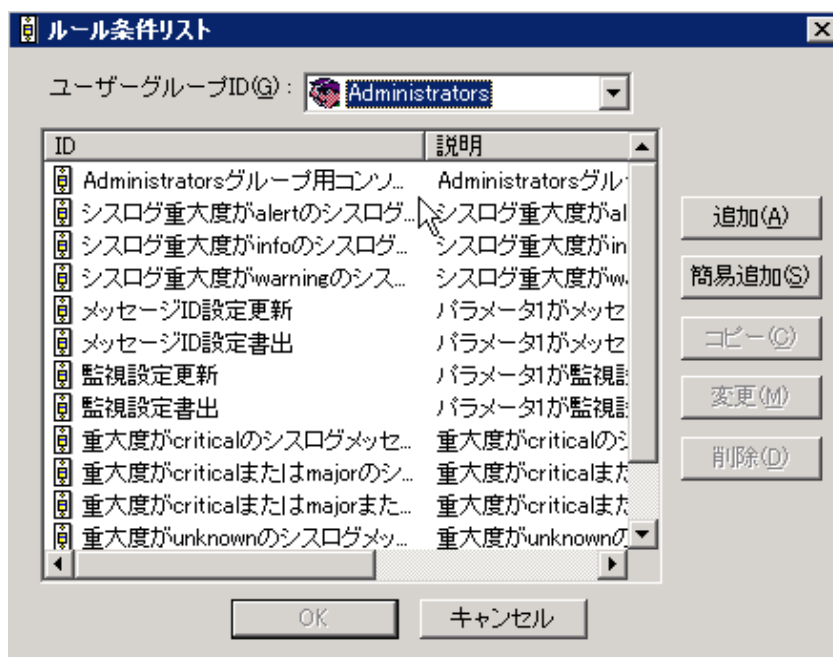


図 5.1-4 ルール条件リスト画面

ルール条件設定画面(図 5.1-6)が表示されたら、下記項目を指定します。

表 5.1-2 ルール条件リスト項目一覧

項目	内容
ID:	ルール条件 ID を指定します。変更の場合は読み取り専用になります。
説明:	コメントを指定します。
ユーザーグループ ID:	ルール条件が所属するグループの ID をコンボボックスより選択します。
カレントイベントクラス:	現在のイベントとして対象となるイベントのクラスを指定します。
条件の種類:	条件式か複数の条件の結合かを指定します。 単純条件式を指定する場合は、条件式を指定します。 任意の数のルール条件を AND 条件または OR 条件で連結する場合は、複数の条件の結合を指定します。

デフォルトで用意された「{SEN マスターグループ}」に所属するユーザーは、システム提供のルール条件を選択できます。システム提供のルール条件は、汎用的に利用可能なルール条件を提供します。

表 5.1-3 システム提供のルール条件一覧

ルール条件ID	説明
{イベントステータスで判定(オープン)}	カレントイベントのステータスがオープンならば真となります。
{イベントステータスで判定(割当済)}	カレントイベントのステータスが割当済ならば真となります。
{イベントステータスで判定(受付済)}	カレントイベントのステータスが受付済ならば真となります。
{イベントステータスで判定(対処完了)}	カレントイベントのステータスが対処完了ならば真となります。
{イベント種別で判定(SNMPトラップメッセージ)}	カレントイベントのクラス種別がSNMPトラップメッセージならば真となります。
{イベント種別で判定(イベント)}	カレントイベントのクラス種別がイベントならば真となります。
{イベント種別で判定(イベントステータス変更イベント)}	カレントイベントのクラス種別がイベントステータス変更イベントならば真となります。
{イベント種別で判定(カスタムメッセージ)}	カレントイベントのクラス種別がカスタムメッセージならば真となります。
{イベント種別で判定(コンソールユーザー作成イベント)}	カレントイベントのクラス種別がコンソールユーザー作成イベントならば真となります。
{イベント種別で判定(シスログメッセージ)}	カレントイベントのクラス種別がシスログメッセージならば真となります。
{イベント種別で判定(メールメッセージ)}	カレントイベントのクラス種別がメールメッセージならば真となります。
{イベント種別で判定(メッセージ)}	カレントイベントのクラス種別がメッセージならば真となります。
{イベント種別で判定(千手メッセージ)}	カレントイベントのクラス種別が千手メッセージならば真となります。
{イベント種別で判定(千手操作リクエストすべて)}	カレントイベントのクラス種別がランブック実行リクエスト、コマンド実行リクエスト、ジョブ一時停止リクエスト、ジョブスキップリクエスト、ジョブ起動時刻変更リクエストの何れかならば真となります。
{イベント種別で判定(内部イベント)}	カレントイベントのクラス種別が内部イベントならば真となります。
{イベント重大度で判定(Clear)}	カレントイベントの重大度がClearならば真となります。
{イベント重大度で判定(Critical)}	カレントイベントの重大度がCriticalならば真となります。
{イベント重大度で判定(Major)}	カレントイベントの重大度がMajorならば真となります。
{イベント重大度で判定(Minor)}	カレントイベントの重大度がMinorならば真となります。
{イベント重大度で判定(Unknown)}	カレントイベントの重大度がUnknownならば真となります。
{イベント重大度で判定(Warning)}	カレントイベントの重大度がWarningならば真となります。
{メッセージ種別で判定(E)}	カレントイベントのメッセージ種別がEの千手メッセージならば真となります。
{メッセージ種別で判定(I)}	カレントイベントのメッセージ種別がIの千手メッセージならば真となります。
{メッセージ種別で判定(W)}	カレントイベントのメッセージ種別がWの千手メッセージならば真となります。



カレントイベントクラスには、過去イベントに対するイベントクラスを指定する事はできません。過去イベントのイベントクラスについては、historyElement を用いてユーザー自身で記述する必要があります(図 5.1-5)。

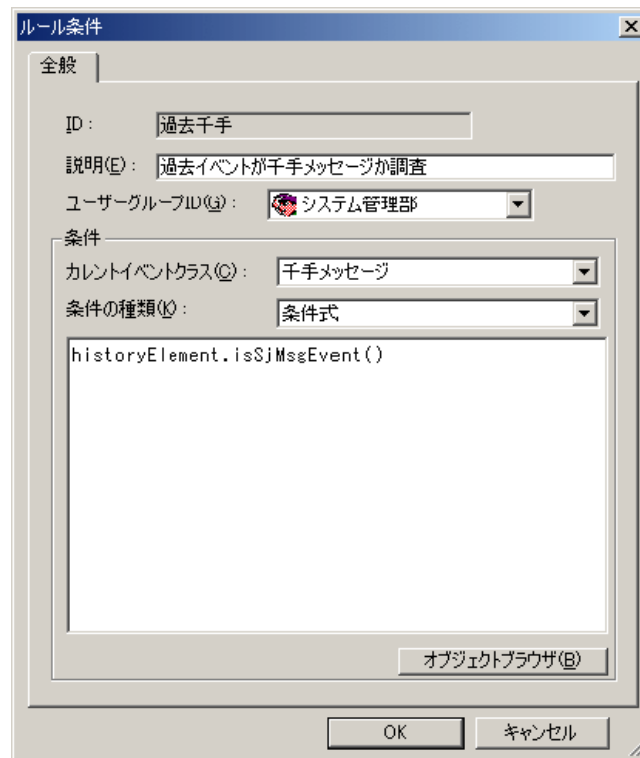


図 5.1-5 過去イベントに対するルール条件の指定

条件の種類として“条件式”を選択した場合は、図 5.1-6 のように画面下部の領域に条件式を記述します。JScript における論理式の形式 (If ステートメントの括弧の中) で記述します。なお条件式の記述には、コメントを含む事はできません。

ルール条件設定画面およびルール編集画面では、[オブジェクトブラウザ]ボタンを押下し、オブジェクトブラウザを起動できます。オブジェクトブラウザは、ルール条件やルールアクションの記述を補助する支援ツールです。オブジェクトブラウザの詳細は、「**5.1.9 オブジェクトブラウザ**」を参照して下さい。

条件式の記述後、[OK]ボタンを押します。

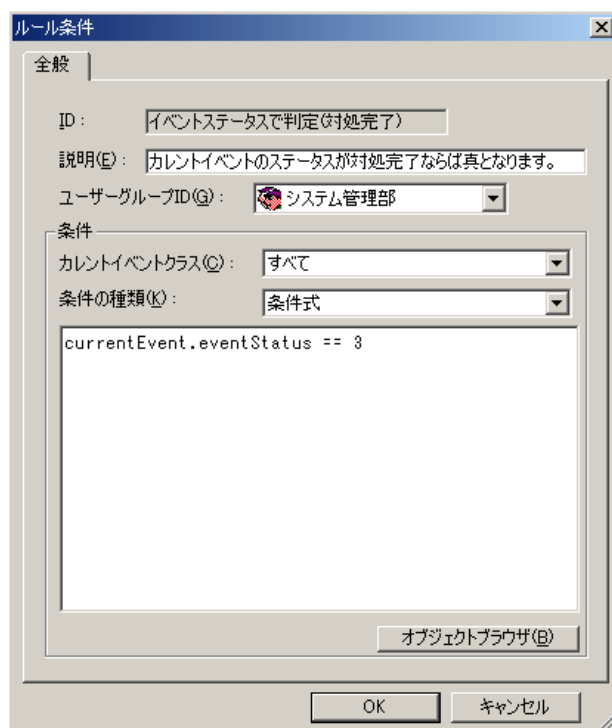


図 5.1-6 ルール条件設定画面(条件式)

条件の種類として“複数の条件の結合”を選択した場合は、図 5.1-7 の画面に切り替わります。図 5.1-7 のように画面下部の領域に組み合わせるべきルール条件 ID のリストと“AND”条件または“OR”条件を指定します。[論理]コンボボックスで“AND”または“OR”を選択します。ルール条件 ID リストに追加する場合は、[追加]ボタンを押すと、ルール条件リスト画面が表示されますので(図 5.1-8)、追加すべきルール条件 ID を選択して[OK]ボタンを押します。ルール条件 ID は一度に複数選択する事も可能です。

“複数の条件の結合”で指定するルール条件 ID には、“条件式”で作成されたルールと“複数の条件の結合”で作成されたルールのいずれも指定可能です。複数のルール条件を組み合わせる事で、複雑なルール条件を作る事ができます。例えば、(A AND B) OR (C AND D)を実現するルール条件を考えます。まず A,B,C,D の 4 つのルール条件を、条件の種類“条件式”としてそれぞれ作成します。次に(A AND B)を、条件の種類“複数の条件の結合”として作成します。(C AND D)についても同様に、条件の種類“複数の条件の結合”として作成します。最後に(A AND B)と(C AND D)の OR を実現するルール条件を、条件の種類“複数の条件の結合”として作成します。このように複数のルール条件を組み合わせる事で、複雑なルール条件を作る事ができます。

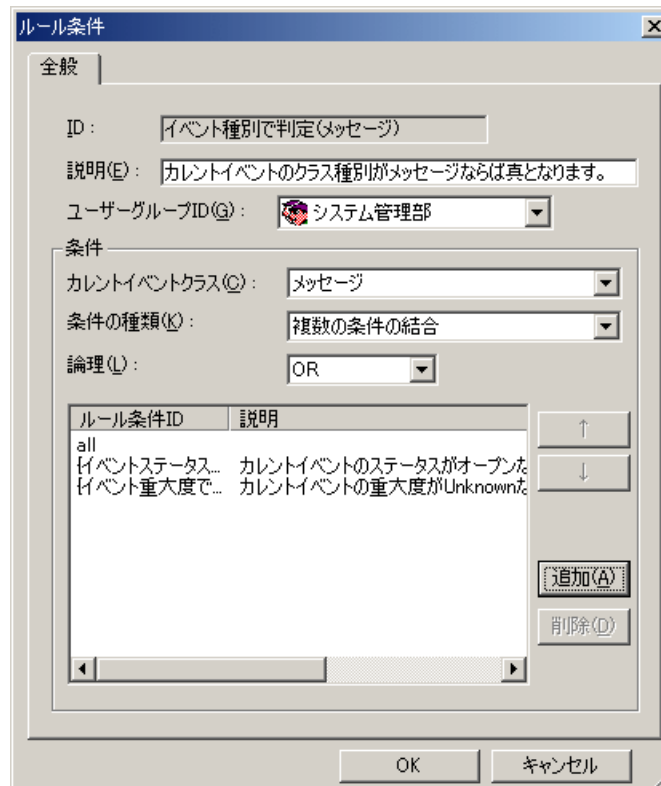


図 5.1-7 ルール条件設定画面(複数の条件の結合)

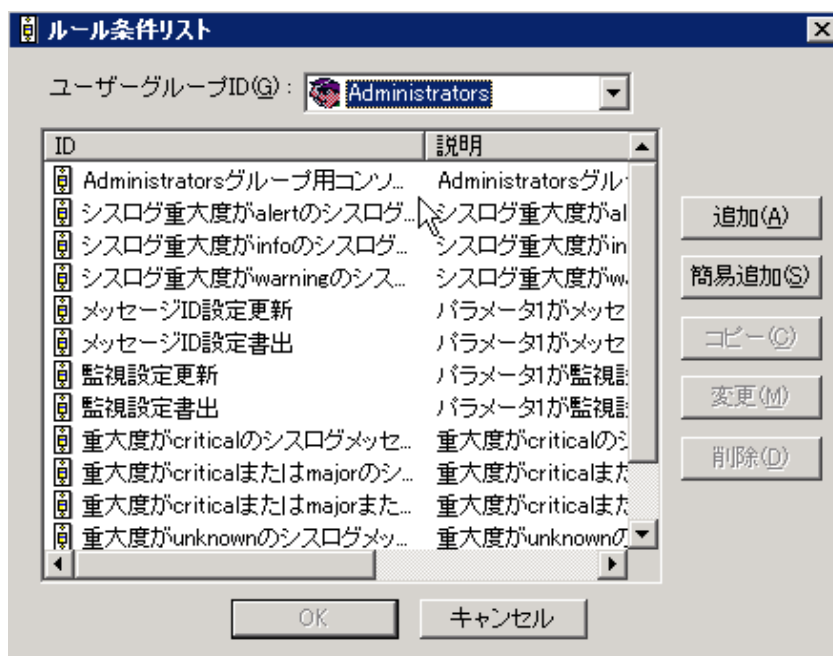


図 5.1-8 ルール条件リスト画面



ルール条件の編集結果が有効になるタイミングは、以下のようになります。

- ・ルールセットで用いるルール条件
ルールセットの反映を実行後に編集結果が有効になります。
- ・イベントビュー表示方法で用いるルール条件
ルール編集後すぐに編集結果が反映されなります。
- ・イベントフィルタで用いるルール条件
ルール編集後すぐに編集結果が反映されます。

5.1.4.1 簡易ルール条件作成

ルール条件リストで簡易ボタンを押すか、イベントのコンテキストメニューからルール条件の作成を選択することにより簡単にルール条件を作成することができます。

簡易ルール条件作成画面(図 5.1-9)では、下記項目を指定します。

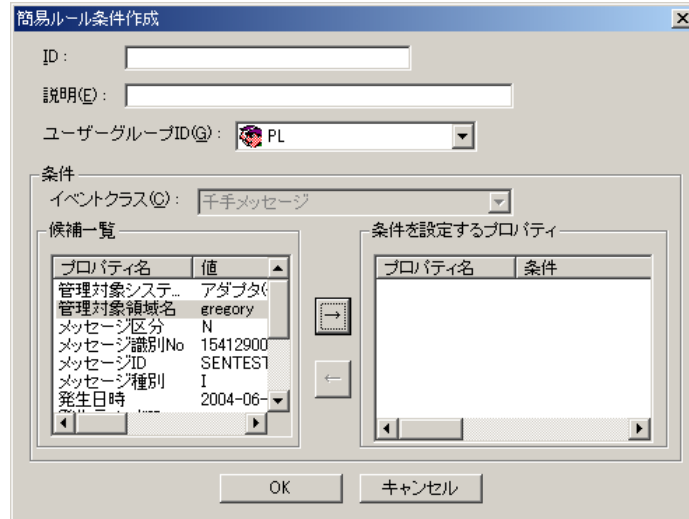


図 5.1-9 簡易ルール条件作成画面

表 5.1-4 簡易ルール条件作成項目一覧

項目	内容	省略
ID:	ルール条件の ID を指定します。	不可
説明:	コメントを指定します。	可能
ユーザーグループ ID	ルール条件が所属するグループをコンボボックスより選択します。	—
イベントクラス	現在のイベントとして対象となるイベントのクラスを指定します。	—
候補一覧	ルールの条件式の候補となるプロパティ一覧が表示されます。イベントのコンテキストメニューから作成した場合は、到着したイベントのプロパティの値が表示されます。	—
条件を設定するプロパティ	条件を設定したプロパティの一覧が表示されます。設定したプロパティの条件と値が表示されます。条件を設定するプロパティには複数のプロパティが指定できます。	可能

条件を設定するプロパティに、条件を追加するには条件の候補一覧からプロパティのひとつを選択し[→]を押下すると、プロパティ画面が表示されます。(図

5.1-10)

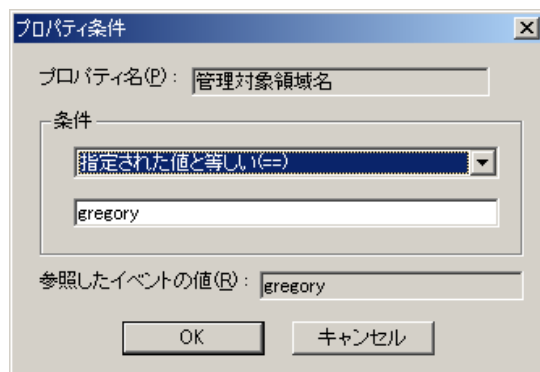


図 5.1-10 プロパティ条件画面

プロパティ条件画面では以下の項目を指定します。

表 5.1-5 プロパティ条件項目一覧

項目	内容	省略
条件	コンボボックスから比較演算子を選択します。比較演算子には表 5.1-6 のものがあります。入力フィールドには到着イベントのプロパティと比較する値を指定します。イベントビューのコンテキストメニューから作成する場合は、参照したイベントの値に、イベントのプロパティの値が表示されています。	可能

表 5.1-6 簡易ルール作成で指定できる比較演算子

比較演算子	説明
指定された値以上(>=)	到着したイベントのプロパティが指定された値以上のときに真となります。
指定された値より大きい(>)	到着したイベントのプロパティが指定された値よりも大きいときに真となります。
指定された値と等しい(==)	到着したイベントのプロパティが指定された値と同じであれば真となります。
指定された値より小さい(<)	到着したイベントのプロパティが指定された値よりも小さいときに成立します。
指定された値以下(<=)	到着したイベントのプロパティが指定された値以下の時に真となります。
指定された文字を含む	到着したイベントのプロパティに指定した文字列が含まれているときに真となります。
指定された文字を含まない	到着したイベントのプロパティに指定した文字列が含まれないときに真となります。

簡易ルール条件作成画面で[OK]ボタンを押すと、直ちにルール条件が追加されるのではなく、ルール条件作成ウィンドウ(図 5.1-6)が表示されます。ルール条件に追加する前に、条件式を編集する事が可能です。

5.1.5 アクションテンプレートの編集

5.1.5.1 アクションテンプレートの新規作成・編集

アクションテンプレートを使用せず、ルールを編集する場合は、「5.1.6 ルールの編集」を参照して下さい。

メニューバーから[ツール]->[アクションテンプレート]を選択することにより、アクションテンプレートリスト画面を表示します。(図 5.1-11) アクションテンプレートリスト画面では、各グループに定義されているアクションテンプレートの一覧が表示されます。新たにアクションテンプレートを追加定義するには、[追加]ボタンを押します。既存のアクションテンプレートを変更するには、エントリーを選択して[変更]ボタンを押します。

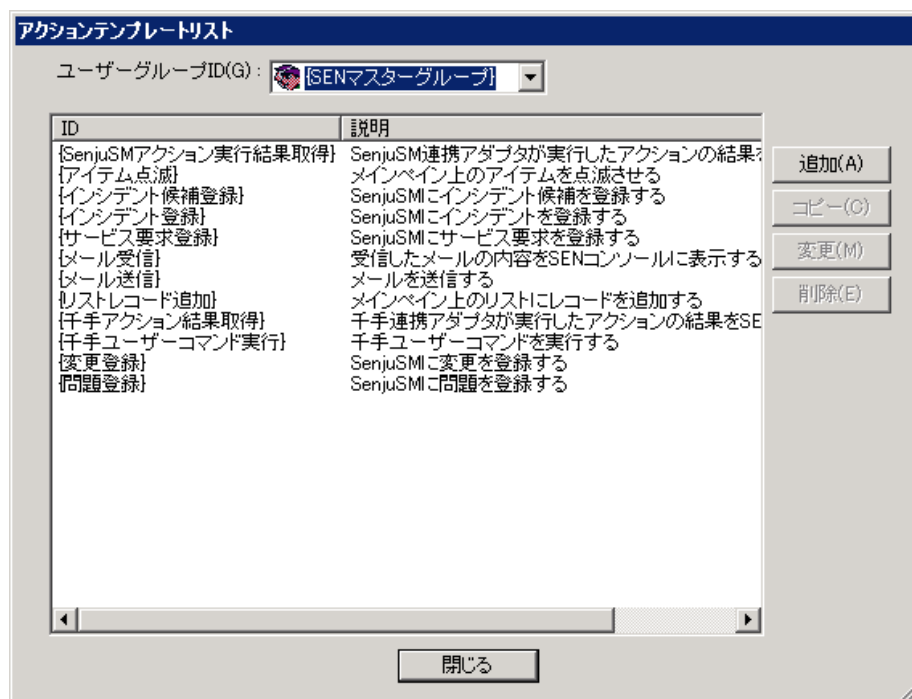


図 5.1-11 アクションテンプレートリスト画面

図 5.1-12 アクションテンプレート設定画面

アクションテンプレート設定画面(図 5.1-12)が表示されたら、下記項目を指定します。

表 5.1-7 アクションテンプレートリスト項目一覧

項目	内容
ユーザーグループ ID:	アクションテンプレートが所属するグループの ID をコンボボックスより選択します。
アクションテンプレート ID:	アクションテンプレート ID を指定します。変更の場合は読み取り専用になります。
説明:	コメントを指定します。
パラメータ	パラメータを指定することが可能です。パラメータは 0 個～10 個まで指定可能です。
アクション	実行するルールアクションのスクリプトを指定します。

新たにパラメータを追加定義するには、[追加]および、エントリーを選択して[コピー]ボタンを押すとアクションテンプレートパラメータ設定画面(図 5.1-13)が表示されます。既存の

パラメータを変更するには、エントリーを選択して[変更]ボタンを押します。パラメータを削除する場合には、エントリーを選択して[削除]ボタンを押下します。

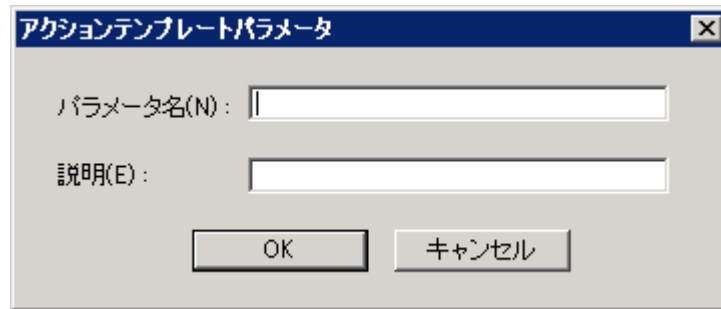


図 5.1-13 アクションテンプレートパラメータ設定画面

アクションテンプレートパラメータ設定画面(図 5.1-13)が表示されたら、下記項目を指定します。

表 5.1-8 アクションテンプレートパラメータリスト項目一覧

項目	内容
パラメータ名:	パラメータ名を指定します。
説明:	コメントを指定します。

アクションテンプレートパラメータ設定画面(図 5.1-13)の[OK]ボタンを押下することにより、編集中のアクションテンプレートパラメータ設定が、アクションテンプレート設定画面の「パラメータ」一覧に反映されます。

パラメーター一覧からパラメータを選択し[↑][↓]ボタンを押下することにより、パラメータの順番を入れ替えることが可能です。

アクションテンプレートのパラメータを利用する場合、アクションテンプレートのアクションの中で、「\$」+パラメータ名 で参照することができます。例えば、パラメータに指定した「PARAM」の値を利用する場合は、アクションに「\$PARAM」と記述して下さい。これによりスクリプト内に記述している「\$PARAM」と記述している箇所がルールセット反映時に自動的にパラメータの値が設定されます。

システム提供のアクションテンプレートは、汎用的に利用可能なアクションテンプレートを提供します。

アクションテンプレート設定画面では、[オブジェクトブラウザ]ボタンを押下し、オブジェクトブラウザを起動できます。オブジェクトブラウザは、ルール条件やルールアクションの記述を補助する支援ツールです。オブジェクトブラウザの詳細は、「5.1.9 オブジェクトブラウザ」を参照して下さい。

アクションの記述後、[OK]ボタンを押します。

アクションテンプレートの編集後に変更を有効にするには、ルールセットの反映を行う必要があります。

アクションテンプレートを削除する場合には、アクションテンプレートリスト画面(図 5.1-11)で、アクションテンプレートを選択し、削除ボタンを押します。



ID はシステム全体でユニークになるようにします。違うユーザーグループでも同じ ID を使用することはできません。



アクションテンプレートの個数の上限は 1,000 個です。
{SEN マスターグループ} のシステム定義も含まれます。

5.1.6 ルールの編集

5.1.6.1 ルールセットの新規作成・変更

ルールは、ルールセットエディタを用いて作成します。ルールセットエディタを表示するには、メニューバーから[ファイル] -> [ルールセットエディタを開く]を選択するか、ツールバーから[ルールセットエディタ]ボタンを選択します。

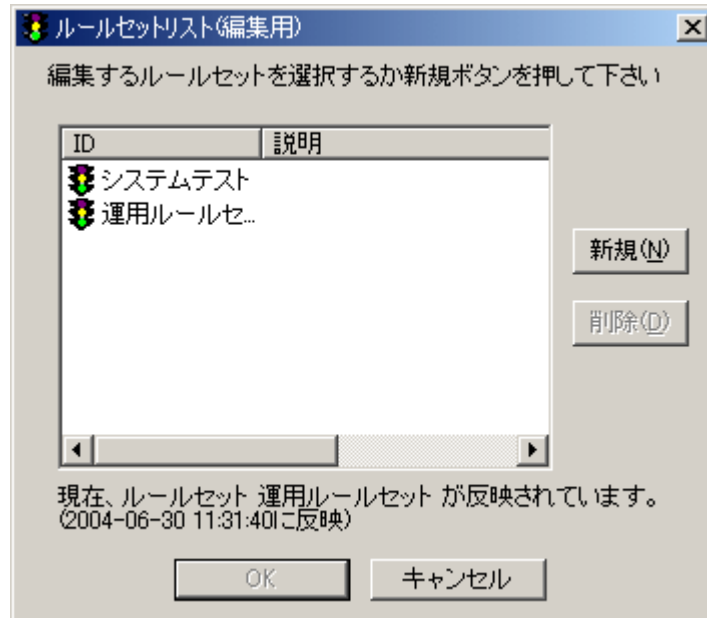


図 5.1-14 ルールセットリスト画面

ルールセットリスト画面(図 5.1-14)で、新規にルールセットを作成する場合には、[新規]ボタンを押します。すでに作成済みのルールセットを編集する場合には、ルールセットを選択して[OK]ボタンを押します。図 5.1-15 のルールセットエディタ画面が表示されます。



図 5.1-15 ルールセットエディタ画面

新規ルールセットを作成する場合は、最初に[プロパティ]ボタンを押します。ルールセッ

トのプロパティ画面でルールセットの ID と説明を指定し、[OK]ボタンを押します。

図 5.1-16 ルールセットのプロパティ画面

表 5.1-9 ルールセットのプロパティ項目一覧

項目	内容	省略
ID:	ルールセットの ID を指定します。	不可
説明:	コメントを指定します。	可能
ルールエンジン	SEN サーバーにてルールセットのアクションを実行するエンジンを選択して下さい。 JScript	—
ルール構文チェック	現在、未サポート。	—
ルール実行証跡に記録する:	各ルール ID のルール実行証跡をとるかどうかを指定します。	—

ルール実行証跡を記録すると、イベントごとにどのルール ID を通過したか、またルールアクションを実行したかどうかを記録します。ルール実行証跡は、イベントのプロパティのルール実行証跡に表示されます。ルール実行証跡では表 5.1-10 の項目が出力されます。また、addRuleExecutionTrace()メソッドを利用する事により、ルールからルール実行証跡に追加する事ができます。

表 5.1-10 ルール実行証跡に出力される項目

項目	内容
S:ルール ID	ルール ID のルールが開始した事を表します。
X:ルール ID	ルール ID のルールアクションが実行された事を表します。
E:ルール ID	ルール ID のルールが終了した事を表します。
ON:ルール ID	ルール ID でタイマが ON になった事を表します。
OFF:ルール ID	ルール ID でタイマが OFF になった事を表します。

既存のルールセットをコピーして新たにルールセットを作成する場合は、既存のルールセット(コピー元)を開いた状態で、[プロパティ]ボタンを押します。ルールセットのプロパティ画面で、ID、説明を変更し、[OK]ボタンを押します。これにより新しい ID のルールセットがコピーされます。

編集したルールセットを保存する場合は、[保存]ボタンを押します。ルールセット保存画面(図 5.1-17)で[はい]ボタンを押します。

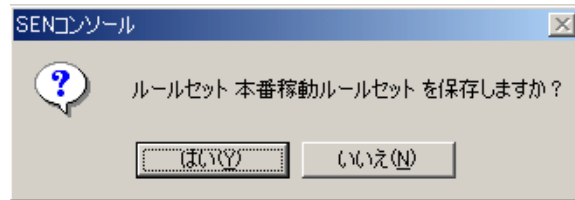


図 5.1-17 ルールセット保存確認画面



ルールセットエディタを使用する際、編集対象のルールセットに含まれるルール内容は、いったん SEN コンソール内にコピーされます。SEN コンソール内で編集したルール内容は、[保存]ボタンを押す事により、SEN サーバーに保存されます。

同一グループに所属する Managers 役割のユーザーまたは Administrators 役割のユーザーが同じルールセットを同時に編集した場合、図 5.1-18 のダイアログが表示されます。



図 5.1-18 上書き確認画面

ここで[はい]ボタンを選択した場合、後から保存したルール内容で先に保存したルール内容を上書きします。例えば、Managers 役割のユーザーA と Administrators 役割のユーザーB がルールセット S を編集するため、同時にルールセットエディタを使用する場合を考えます。ユーザーA がルールセット S に含まれるグループ別ルール R1 とグループ別ルール R2 を編集して保存した後、ユーザーB がグループ別ルール R2 のみを別の内容に編集して保存した場合、結果グループ別ルール R1 は編集前の内容、グループ別ルール R2 はユーザーB が編集した内容になります。ルールセットの編集を行う場合には、同一グループの Managers 役割のユーザーまたは Administrators 役割のユーザーで、同時に編集を行わない事を推奨します。なお、所属するグループが異なる Manager 役割同士の場合、ルール内容はグループ毎に独立に保存されますので、この限りではありません。

せん。

ルールセットを削除する場合には、ルールセットリスト画面(図 5.1-14)でルールセットを選択し、削除ボタンを押します。ルールセット削除画面(図 5.1-19)で[はい]ボタンを押します。

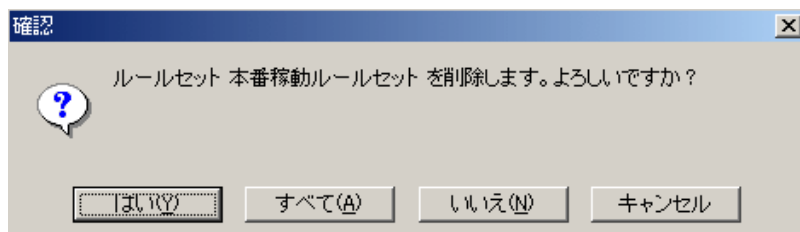


図 5.1-19 ルールセット削除確認画面

5.1.6.2 ルールセットエディタの基本構成

先に述べたようにルールは4つのカテゴリに分けられ、ルールセットエディタ画面上では、タブで区切られた4つのページに分けられます。

5.1.6.2.1 共通タブ

共通タブ(図 5.1-20)では、Senju Enterprise Navigator システム内で共通なルールを定義します。ここで定義したルールはすべてのグループに対して適用されます。左側のボタンを選択する事で各ルールステージのルール一覧を表示する事ができます。[すべて]ボタンを選択した場合は、すべてのステージのルール一覧を表示できます。

右側の[関数・変数定義]ボタンを押す事により、共通ルールのステージ間で共通に使える関数および変数を宣言するためのステージ用関数・変数定義画面を表示できます。

共通ルールは Administrators 役割をもつユーザーのみ編集可能です。



図 5.1-20 ルールセットエディタ画面 (共通タブ)

5.1.6.2.2 分配タブ

分配タブ(図 5.1-21)では、イベントを各グループに割り当てるためのルールを定義します。分配ルールは、汎用分配ルールとキーによる分配ルールとに分けられます。

汎用分配ルールでは、イベントをルール条件によって各グループに振り分けます。汎用分配ルールの[表示方法]コンボボックスは”ルール条件→ユーザーグループ”(ルール条件からユーザーグループへの対応)のみ選択できます。

キーによる分配ルールでは、イベントクラスおよびユニークキーを指定する事によりグループに振り分けます。インポートハンドラを用いたメインペインの自動生成を行う場合には、必ずキーによる分配ルールを使用して下さい。

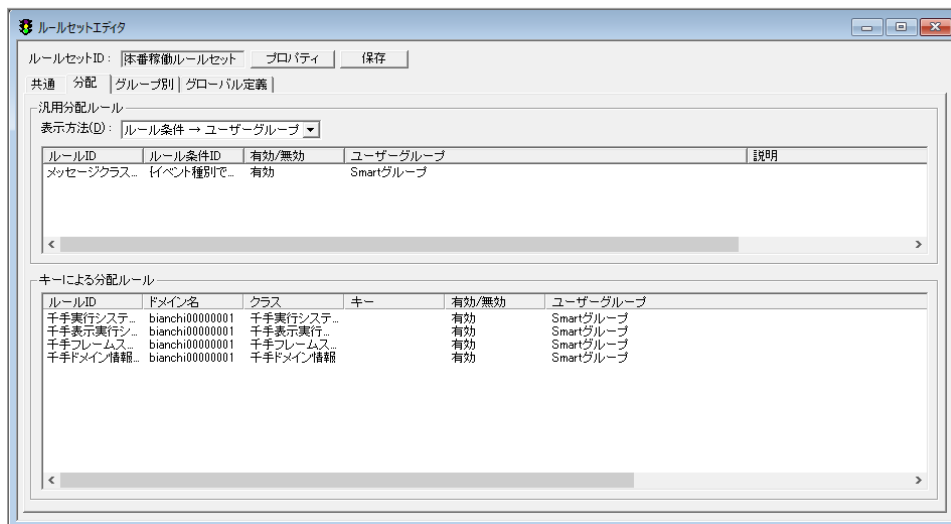


図 5.1-21 ルールセットエディタ画面 (分配タブ)

5.1.6.2.3 グループ別タブ

グループ別タブ(図 5.1-22)では、各グループ別のルールを定義します。グループは[グループ]コンボボックスを選択する事により切り替えます。[グループ]コンボボックスにはログインしたユーザーが属するグループのみ表示されます。共通ルールと同様、左側のボタンを選択する事で各ルールステージのルール一覧を表示する事ができます。[すべて]ボタンを選択した場合は、すべてのステージのルール一覧を表示できます。

右側の[関数・変数定義]ボタンを押す事により、各グループ別ルールのステージ間で共通に使える関数および変数を宣言するためのステージ用関数・変数定義画面を表示できます。

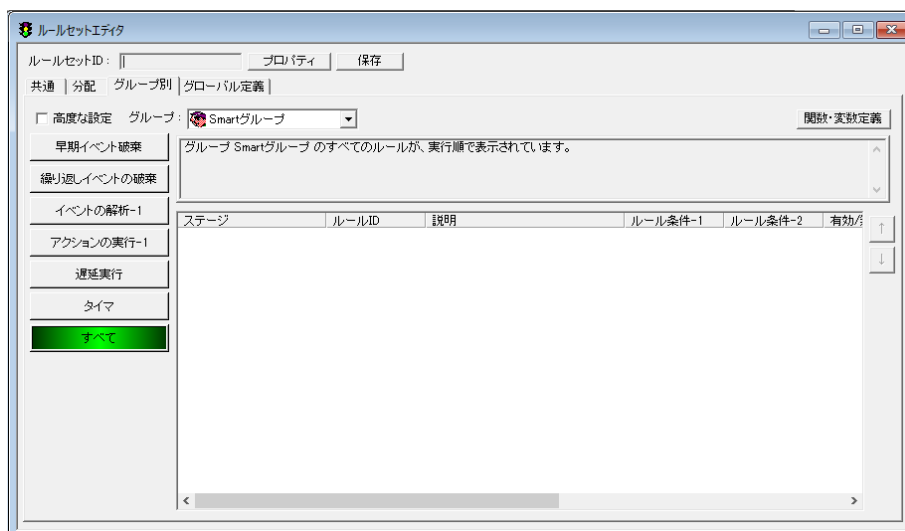


図 5.1-22 ルールセットエディタ画面 (グループ別タブ)

5.1.6.2.4 グローバル定義タブ

グローバル定義タブ(図 5.1-23)では、グローバル定義ルールを定義します。グローバル定義ルールには、各ルールセットで共通に参照される変数または関数を定義します。

グローバル定義タブ画面は、グローバル初期化処理、グローバル終了処理、グローバル定義の3つの入力フィールドに分かれています。

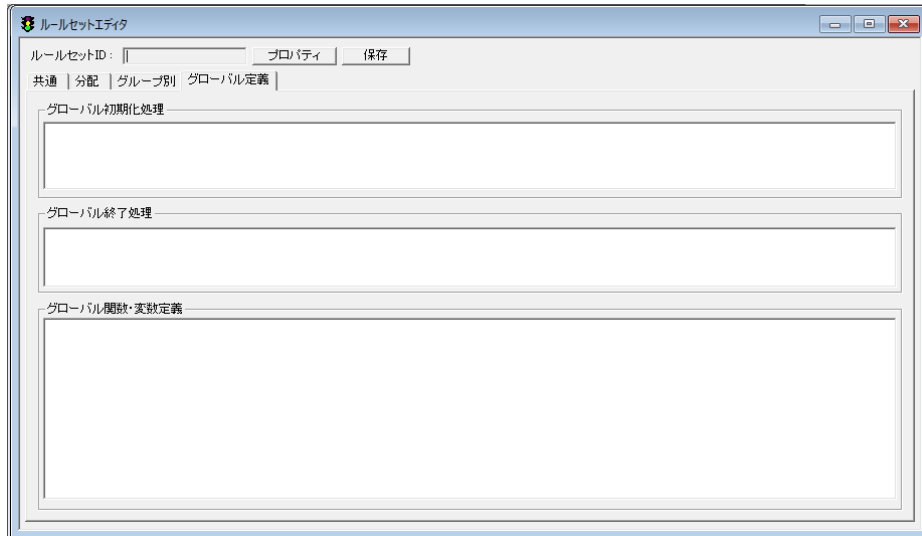


図 5.1-23 ルールセットエディタ画面 (グローバル定義タブ)

5.1.6.2.5 アクセス権

各役割のアクセス権を表 5.1-11 に示します。

表 5.1-11 アクセス権

	Administrators	Managers	Operators	Users
各タブに対する処理				
共通ルールの編集	◎	×	×	×
共通ルールの参照	◎	◎	◎	◎
分配ルールの編集	◎	×	×	×
分配ルールの参照	◎	◎	◎	◎
グループ別ルールの編集	◎	○	×	×
グループ別ルールの参照	◎	○	○	○
グローバル定義ルールの編集	◎	×	×	×
グローバル定義ルールの参照	◎	○	○	○

◎：すべてのグループに対して可能

○：自グループに対してのみ可能

×：不可

5.1.6.3 共通ルールの編集

共通ルールは、ルールセットエディタの共通タブで編集します。共通ルールは、各ステージにルールを定義していきます。

以下、関数・変数定義と各ステージのルール編集手順について説明します。

A) 関数・変数定義

共通ルールのステージ間で共通に使える関数および変数を記述するには、[関数・変数定義]ボタンを押します。関数・変数定義に記述された関数および変数は共通ルール内のすべてのステージから参照できますが、グループ別ルールやグローバル定義からは参照できません。

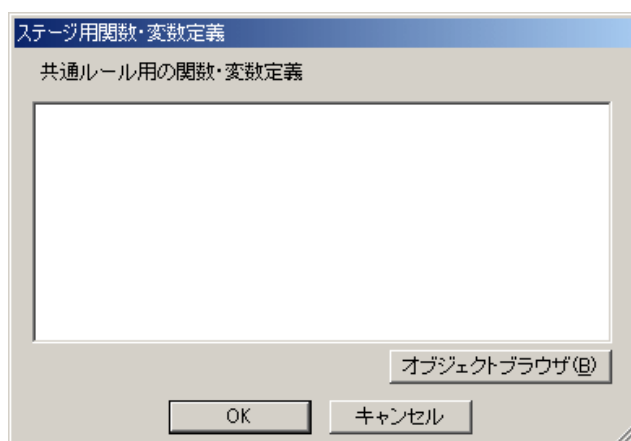


図 5.1-24 ステージ用関数・変数定義画面

B) 早期イベント破棄ステージ

早期イベント破棄ステージのルールを新規に作成するには、[早期イベント破棄]ボタンを押し、ルール一覧リストボックスのコンテキストメニューから[新規作成]を選択します。既存のルールを変更するにはルール一覧からエントリーを選択してダブルクリックするか、コンテキストメニューから[プロパティ]を選択します。

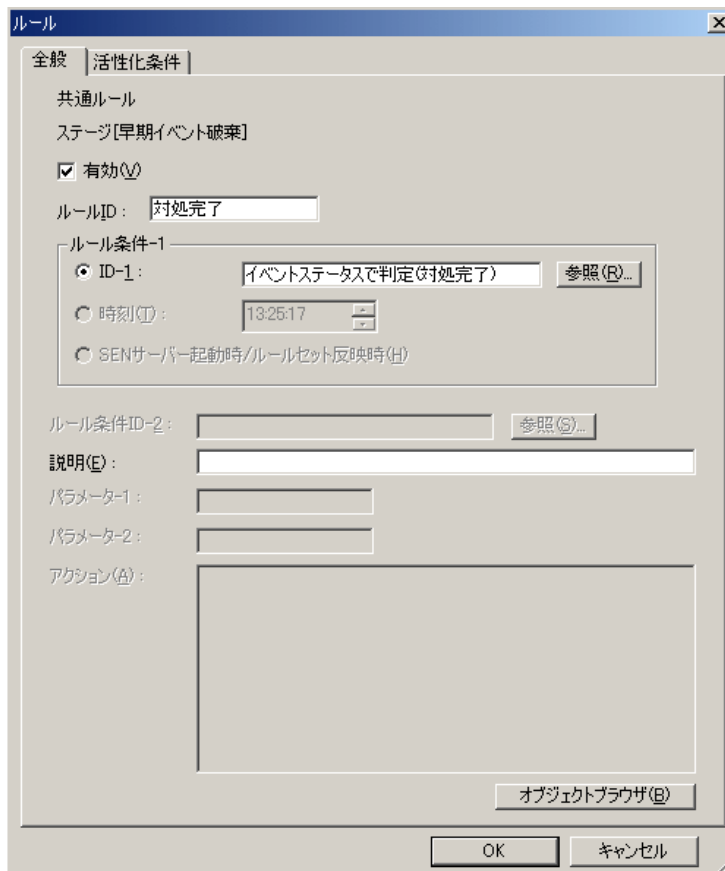


図 5.1-25 共通ルール定義画面（早期イベント破棄）

早期イベント破棄ステージ用共通ルール定義画面(図 5.1-25)が表示されたら、[全般]タブで下記項目を指定します。

表 5.1-12 共通ルール定義項目一覧(早期イベント破棄)

項目	内容	省略
有効チェックボックス：	このルールを有効にする場合はチェックします。ルールを無効にする場合はチェックを外します。デフォルトは有効です。	—
ルール ID：	ルール ID を指定します。	不可
ルール条件 ID-1：	現在のイベントに対するルール条件の ID を指定します。この条件にマッチした場合は、イベントは破棄されます。定義済みのルール条件を参照するには[参照]ボタンを押します。ルール条件はあらかじめ定義して	不可

項目	内容	省略
	おく必要があります。ルール条件の設定方法については、「 5.1.4 ルール条件の編集 」を参照して下さい。	
説明：	コメントを指定します。	可能

ルールの活性化条件(ルールを有効/無効にする時間範囲)を指定するには、[活性化条件]タブを選択します(図 5.1-26)。デフォルトでは常に有効になっています。

ここでは、ルールを有効にする日時範囲、無効にする日時範囲を指定することができます。

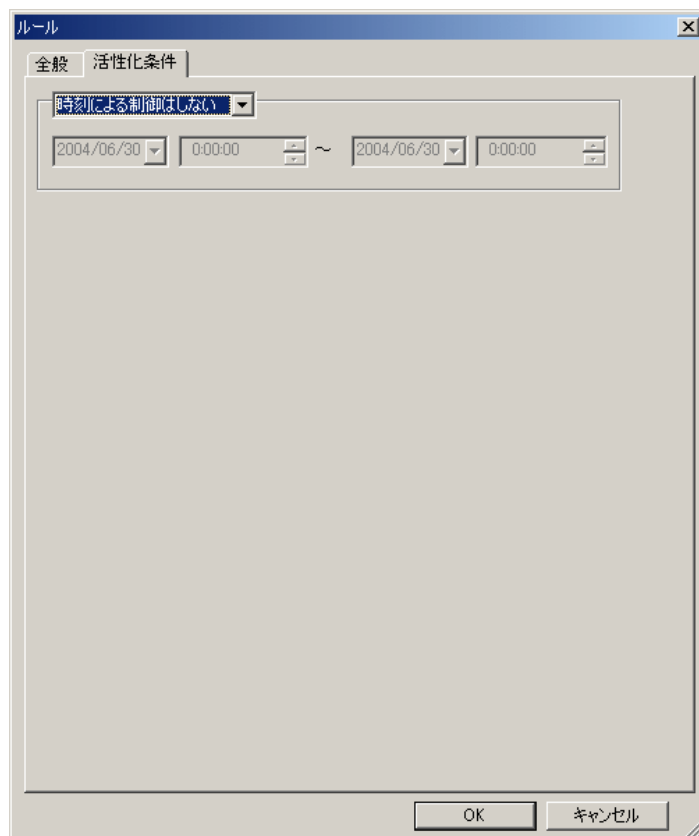


図 5.1-26 共通ルール定義画面(活性化条件タブ)

表 5.1-13 活性化条件

項目	内容
時刻による制御はしない	時刻による活性化の制御は行いません。常にルールは有効となります。
以下の日時に有効	指定した日時にはルールは有効となります。その他の日時ではルールは無効となります。
以下の日時に無効	指定した日時にはルールは無効となります。その他の日時ではルールは有効となります。
以下の時刻に有効	指定した時刻にはルールは有効となります。その他の時刻ではルールは無効となります。
以下の時刻に無効	指定した時刻にはルールは無効となります。その他の時刻ではルールは有効となります。

C) 繰り返しイベントの破棄ステージ

繰り返しイベントの破棄ステージのルールを新規に作成するには、[繰り返しイベントの破棄]ボタンを押し、ルールの一覧リストボックスのコンテキストメニューから[新規作成]を選択します。既存のルールを変更するにはルール一覧からエントリーを選択してダブルクリックするか、コンテキストメニューから[プロパティ]を選択します。

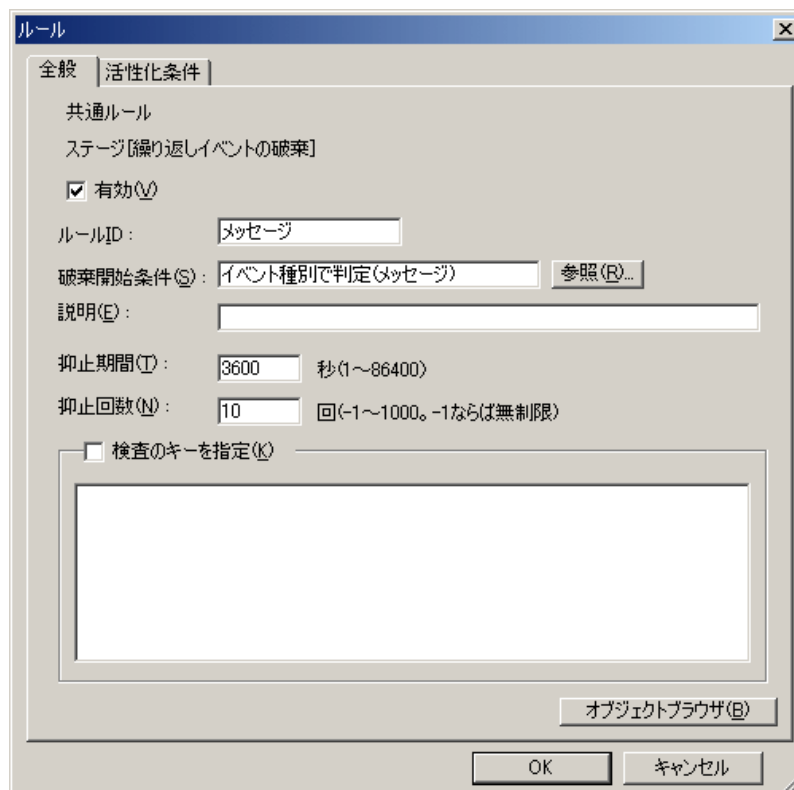


図 5.1-27 共通ルール定義画面(繰り返しイベントの破棄)

繰り返しイベントの破棄ステージ用共通ルール定義画面(図 5.1-27)が表示されたら、[全般]タブで下記項目を指定します。

表 5.1-14 共通ルール定義項目一覧 (繰り返しイベントの破棄)

項目	内容	省略
有効チェックボックス:	このルールを有効にする場合はチェックします。ルールを無効にする場合はチェックを外します。デフォルトは有効です。	—
ルール ID:	ルール ID を指定します。	不可
破棄開始条件:	現在のイベントに対するルール条件の ID を指定します。定義済みのルール条件を参照するには[参照]ボタンを押します。ルール条件はあらかじめ定義しておく必要があります。ルール条件の設定方法については、「5.1.4 ルール条件の編集」を参照して下さい。	不可
説明:	コメントを指定します。	可能
抑止期間:	繰り返しイベントを抑止する時間範囲を秒単位で指定します。値の範囲は、(1~86400)のあいだで指定します。	不可

項目	内容	省略
抑止回数:	繰り返しイベントを抑止する回数を指定します。値の範囲は、(-1 ~1000)のあいだで指定します。 -1を指定すると、パラメータ-1で指定した時間範囲の間は無制限に抑止されます。	不可
検査のキーを指定:	検査のキーを指定する場合はチェックします。チェックした場合、抑止するイベントの種類を表現できる文字列または式を指定して下さい。 例えば、あるメッセージ ID にたいしてノード名をキーに指定しておけばそれぞれのノードのメッセージに対して繰り返しイベントの破棄を行います。	可能

ルールの活性化条件を指定するには[活性化条件]タブを選択します。指定方法は、B) 早期イベント破棄ステージと同様です。

D) イベントの解析-1 ステージ

イベントの解析-1 ステージのルールを新規に作成するには、[イベントの解析-1]ボタンを押し、ルール一覧リストボックスのコンテキストメニューから[新規作成]→[ルール条件・アクションを記述](D-2))もしくは、[新規作成]→[アクションテンプレートを使用](D-1))を選択します。既存のルールを変更するにはルール一覧からエントリーを選択してダブルクリックするか、コンテキストメニューから[プロパティ]を選択します。

D-1) アクションテンプレートを使用したルールの編集

アクションテンプレートを使用せず、ルールを編集する場合は、「アクションテンプレートを使用しないルールの編集」を参照して下さい。

ルール(アクションテンプレート使用)

全般 | 活性化条件 |

共通ルール
ステージ[イベントの解析-1]

有効(V)

ルールID:

ルール条件-1

ID-1: 参照(R)...

時刻(T):

センサー起動時/ルールセット反映時(H)

ルール条件ID-2: 参照(S)...

説明(E):

パラメータ-1:

パラメータ-2:

アクションテンプレートID(A): 参照(U)...

パラメータ

パラメータ	値	説明
domain_name	smtp	メール送信連携アダプタの...
from	testuser001@sensmtp.c...	差出人
to	testuser002@sensmtp.c...	宛先
subject	カスタムメッセージ受信	件名
body	カスタムメッセージを受信...	本文

値:

オブジェクトブラウザ(B)

OK キャンセル

図 5.1-28 共通ルール定義画面(イベントの解析-1) (アクションテンプレート使用)

イベントの解析-1 ステージ用共通ルール定義画面(アクションテンプレート使用) (図 5.1-28)が表示されたら、[全般]タブで下記項目を指定します。

表 5.1-15 共通ルール定義項目一覧 (イベントの解析-1) (アクションテンプレート使用)

項目	内容	省略
有効チェックボックス:	このルールを有効にする場合はチェックします。ルールを無効にする場合はチェックを外します。デフォルトは有効です。	—
ルール ID:	ルール ID を指定します。	不可
ルール条件 ID-1:	現在のイベントに対するルール条件の ID を指定します。定義済みのルール条件を参照するには[参照]ボタンを押します。ルール条件はあらかじめ定義しておく必要があります。ルール条件の設定方法については、「 5.1.4 ルール条件の編集 」を参照して下さい。	不可
説明:	コメントを指定します。	可能
アクションテンプレート ID:	現在のイベントに対するアクションテンプレートの ID を指定します。定義済みのアクションテンプレートを参照するには[参照]ボタンを押します。アクションテンプレートはあらかじめ定義しておく必要があります。アクションテンプレートの設定方法については、「 5.1.5 アクションテンプレートの編集 」を参照して下さい。	不可
パラメータ 値	パラメータが存在する場合に値を指定します。パラメータで指定した値が、アクションに使用されます。値を指定する場合は、パラメータ一覧からエントリーを選択して、値を入力します。	可能

ルールの活性化条件を指定するには[活性化条件]タブを選択します。指定方法は、**B) 早期イベント破棄ステージ**と同様です。

D-2) アクションテンプレートを使用しないルールの編集

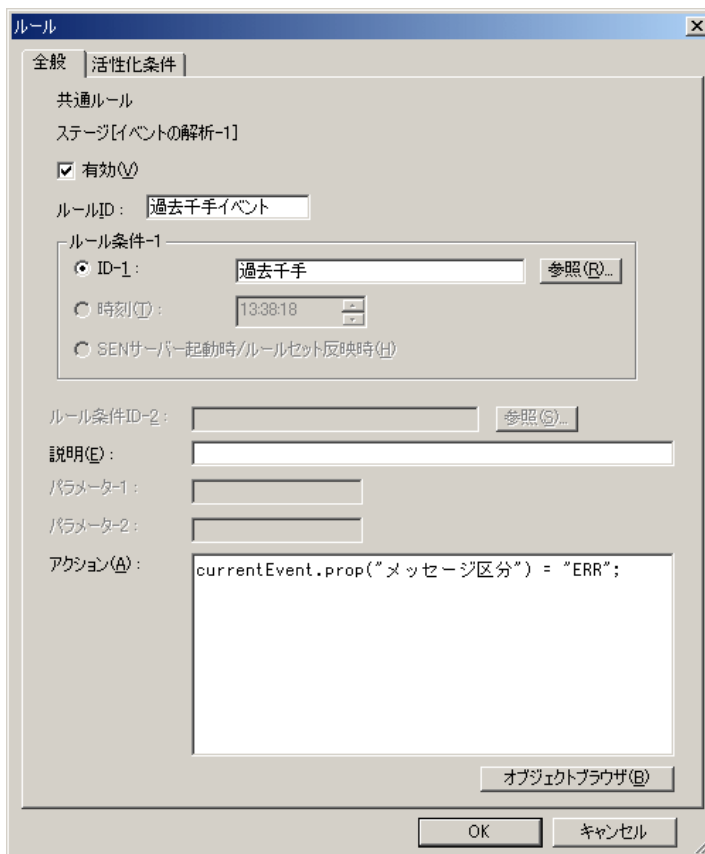


図 5.1-29 共通ルール定義画面(イベントの解析-1)

イベントの解析-1 ステージ用共通ルール定義画面(図 5.1-29)が表示されたら、[全般] タブで下記項目を指定します。

表 5.1-16 共通ルール定義項目一覧 (イベントの解析-1)

項目	内容	省略
有効チェックボックス:	このルールを有効にする場合はチェックします。ルールを無効にする場合はチェックを外します。デフォルトは有効です。	—
ルール ID:	ルール ID を指定します。	不可
ルール条件 ID-1:	現在のイベントに対するルール条件の ID を指定します。定義済みのルール条件を参照するには[参照]ボタンを押します。ルール条件はあらかじめ定義しておく必要があります。ルール条件の設定方法については、「5.1.4 ルール条件の編集」を参照して下さい。	不可
説明:	コメントを指定します。	可能
アクション:	当該ステージで実行するルールアクションのスクリプトを指定します。	※1

※1: 省略した場合、アクションが実行されません。

ルールの活性化条件を指定するには[活性化条件]タブを選択します。指定方法は、
B) 早期イベント破棄ステージと同様です。

E) アクションの実行-1 ステージ

アクションの実行-1 ステージのルールを新規に作成するには、[アクションの実行-1]ボタンを押し、ルーラー一覧リストボックスのコンテキストメニューから[新規作成]->[ルール条件・アクションを記述](E-2))もしくは、[新規作成]->[アクションテンプレートを使用](E-1))を選択します。既存のルールを変更するにはルーラー一覧からエントリーを選択してダブルクリックするか、コンテキストメニューから[プロパティ]を選択します。

E-1) アクションテンプレートを使用したルールの編集

アクションテンプレートを使用せず、ルールを編集する場合は、「アクションテンプレートを使用しないルールの編集」を参照して下さい。

ルール(アクションテンプレート使用)

全般 | 活性化条件

共通ルール
 ステージ[アクションの実行-1]
 有効(V)
 ルールID: メール送信
 ルール条件-1
 ID-1: [メッセージ種別で判定(E)] 参照(R)...
 時刻(T): 0:00:00
 センサー起動時/ルールセット反映時(H)
 ルール条件ID-2: 参照(S)...
 説明(E): [メッセージ種別で判定(E)の場合にメールを送信する。]
 パラメータ-1:
 パラメータ-2:
 アクションテンプレートID(A): [メール送信] 参照(U)...
 パラメータ

パラメータ	値	説明
domain_name	smtp	メール送信連携アダプタの...
from	testuser001@smtp.ne.jp	差出人
to	testuser002@smtp.ne.jp	宛先
subject	エラーメッセージ受信	件名
body	エラーメッセージを受信し...	本文

値:
 オブジェクトブラウザ(B)
 OK キャンセル

図 5.1-30 共通ルール定義画面(アクションの実行-1) (アクションテンプレート使用)

アクションの実行-1 ステージ用共通ルール定義画面(アクションテンプレート使用) (図 5.1-30)が表示されたら、[全般]タブで下記項目を指定します。

表 5.1-17 共通ルール定義項目一覧 (アクションの実行-1) (アクションテンプレート使用)

項目	内容	省略
有効チェックボックス:	このルールを有効にする場合はチェックします。ルールを無効にする場合はチェックを外します。デフォルトは有効です。	—
ルール ID:	ルール ID を指定します。	不可
ルール条件 ID-1:	現在のイベントに対するルール条件の ID を指定します。定義済みのルール条件を参照するには[参照]ボタンを押します。ルール条件はあらかじめ定義しておく必要があります。ルール条件の設定方法については、「 5.1.4 ルール条件の編集 」を参照して下さい。	不可
説明:	コメントを指定します。	可能
アクションテンプレート ID:	現在のイベントに対するアクションテンプレートの ID を指定します。定義済みのアクションテンプレートを参照するには[参照]ボタンを押します。アクションテンプレートはあらかじめ定義しておく必要があります。アクションテンプレートの設定方法については、「 5.1.5 アクションテンプレートの編集 」を参照して下さい。	不可
パラメータ 値	パラメータが存在する場合に値を指定します。パラメータで指定した値が、アクションに使用されます。値を指定する場合は、パラメータ一覧からエントリーを選択して、値を入力します。	可能

ルールの活性化条件を指定するには[活性化条件]タブを選択します。指定方法は、**B) 早期イベント破棄ステージ**と同様です。

E-2) アクションテンプレートを使用しないルールの編集

図 5.1-31 共通ルール定義画面(アクションの実行-1)

アクションの実行-1 ステージ用共通ルール定義画面(図 5.1-31)が表示されたら、[全般]タブで下記項目を指定します。

表 5.1-18 共通ルール定義項目一覧 (アクションの実行-1)

項目	内容	省略
有効チェックボックス:	このルールを有効にする場合はチェックします。ルールを無効にする場合はチェックを外します。デフォルトは有効です。	—
ルール ID:	ルール ID を指定します。	不可
ルール条件 ID-1:	現在のイベントに対するルール条件の ID を指定します。定義済みのルール条件を参照するには[参照]ボタンを押します。ルール条件はあらかじめ定義しておく必要があります。ルール条件の設定方法については、「5.1.4 ルール条件の編集」を参照して下さい。	不可
説明:	コメントを指定します。	可能
アクション:	当該ステージで実行するルールアクションのスクリプトを指定します。	※1

※1: 省略した場合、アクションが実行されません。

ルールの活性化条件を指定するには[活性化条件]タブを選択します。指定方法は、B)早期イベント破棄ステージと同様です。

過去イベントの調査ステージ（高度な設定）

過去イベントの調査ステージのルールを新規に作成するには、[過去イベントの調査]ボタンを押し、ルーラー一覧リストボックスのコンテキストメニューから[新規作成]->[ルール条件・アクションを記述](F-2))もしくは、[新規作成]->[アクションテンプレートを使用](F-1))を選択します。既存のルールを変更するにはルーラー一覧からエントリーを選択してダブルクリックするか、コンテキストメニューから[プロパティ]を選択します。

F-1) アクションテンプレートを使用したルールの編集

アクションテンプレートを使用せず、ルールを編集する場合は、「アクションテンプレートを使用しないルールの編集」を参照して下さい。

ルール(アクションテンプレート使用)

全般 | 活性化条件 |

共通ルール
ステージ[過去イベントの調査]

有効(V)

ルールID:

ルール条件-1

ID-1: 参照(R)...

時刻(T):

センサー起動時/ルールセット反映時(H)

ルール条件ID-2: 参照(S)...

説明(E):

パラメータ-1: (1~3600)

パラメータ-2:

アクションテンプレートID(A): 参照(U)...

パラメータ

パラメータ	値	説明
user_grp_name	グループA	ユーザーグループ名
view_category_id	カテゴリ1	ビューカテゴリID
view_item_grp_id	アイテム	ビューアイテムグループID
list_id	001	リストのID
column1_val	グループA	追加レコードの1番目のカ...
column2_val	アイテム001	追加レコードの2番目のカ...
column3_val		追加レコードの3番目のカ...

値:

オブジェクトブラウザ(B)

OK キャンセル

図 5.1-32 共通ルール定義画面(過去イベントの調査ステージ) (アクションテンプレート使用)

過去イベントの調査ステージ用共通ルール定義画面(アクションテンプレート使用) (図 5.1-32)が表示されたら、[全般]タブで下記項目を指定します。

表 5.1-19 共通ルール定義項目一覧 (過去イベントの調査ステージ) (アクションテンプレート使用)

項目	内容	省略
有効チェックボックス:	このルールを有効にする場合はチェックします。ルールを無効にする場合はチェックを外します。デフォルトは有効です。	—
ルール ID:	ルール ID を指定します。	不可
ルール条件 ID-1:	現在のイベントに対するルール条件の ID を指定します。定義済みのルール条件を参照するには[参照]ボタンを押します。ルール条件はあらかじめ定義しておく必要があります。ルール条件の設定方法については、「 5.1.4 ルール条件の編集 」を参照して下さい。 現在のイベントは currentEvent として参照できます。 この条件にマッチした場合は、ルール条件 ID-2 を評価します。	不可
ルール条件 ID-2:	過去のイベントに対するルール条件の ID を指定します。定義済みのルール条件を参照するには[参照]ボタンを押します。ルール条件はあらかじめ定義しておく必要があります。ルール条件の設定方法については、「 5.1.4 ルール条件の編集 」を参照して下さい。 指定するルール条件は条件フィールドのカレントイベントクラスを"すべて"に指定して下さい。 過去イベントは historyElement として参照できます。historyElement については「 表 5.2-1 サーバルールから参照可能な変数一覧 」を参照して下さい。 この条件にマッチした場合は、ルールアクションを実行します。	不可
説明:	コメントを指定します。	可能
パラメータ-1:	過去イベントを調査する時間範囲を秒単位で指定します。値の範囲は、(1~3600)のあいだで指定します。 (例) 60 → 過去 60 秒以内の到着イベントが対象	不可
アクションテンプレート ID:	現在のイベントに対するアクションテンプレートの ID を指定します。定義済みのアクションテンプレートを参照するには[参照]ボタンを押します。アクションテンプレートはあらかじめ定義しておく必要があります。アクションテンプレートの設定方法については、「 5.1.5 アクションテンプレートの編集 」を参照して下さい。	不可
パラメータ 値	パラメータが存在する場合に値を指定します。パラメータで指定した値が、アクションに使用されます。値を指定する場合は、パラメータ一覧からエントリーを選択して、値を入力します。	可能

ルールの活性化条件を指定するには[活性化条件]タブを選択します。指定方法は、
B)早期イベント破棄ステージと同様です。

F-2) アクションテンプレートを使用しないルールの編集

図 5.1-33 共通ルール定義画面(過去イベントの調査)

過去イベントの調査ステージ用共通ルール定義画面(図 5.1-33)が表示されたら、[全般]タブで下記項目を指定します。

表 5.1-20 共通ルール定義項目一覧 (過去イベントの調査)

項目	内容	省略
有効チェックボックス:	このルールを有効にする場合はチェックします。ルールを無効にする場合はチェックを外します。デフォルトは有効です。	—
ルール ID:	ルール ID を指定します。	不可
ルール条件 ID-1:	現在のイベントに対するルール条件の ID を指定します。定義済みのルール条件を参照するには[参照]ボタンを押します。ルール条件はあらかじめ定義しておく必要があります。ルール条件の設定方法については、「 5.1.4 ルール条件の編集 」を参照して下さい。 現在のイベントは <code>currentEvent</code> として参照できます。 この条件にマッチした場合は、ルール条件 ID-2 を評価します。	不可
ルール条件 ID-2:	過去のイベントに対するルール条件の ID を指定します。定義済みのルール条件を参照するには[参照]ボタンを押します。ルール条件はあらかじめ定義しておく必要があります。ルール条件の設定方法については、「 5.1.4 ルール条件の編集 」を参照して下さい。	不可

項目	内容	省略
	指定するルール条件は条件フィールドのカレントイベントクラスを"すべて"に指定して下さい。 過去イベントは historyElement として参照できます。 historyElement については「表 5.2-1 サーバルールから参照可能な変数一覧」を参照して下さい。 この条件にマッチした場合は、ルールアクションを実行します。	
説明:	コメントを指定します。	可能
パラメータ-1:	過去イベントを調査する時間範囲を秒単位で指定します。値の範囲は、(1~3600)のあいだで指定します。 (例)60 → 過去 60 秒以内の到着イベントが対象	不可
アクション:	当該ステージで実行するルールアクションのスクリプトを指定します。	※1

※1: 省略した場合、アクションが実行されません。

ルールの活性化条件を指定するには[活性化条件]タブを選択します。指定方法は、
B)早期イベント破棄ステージと同様です。



過去イベントの調査ステージにおいてルールアクションに何も記入されていない場合はスクリプトが生成されません。



共通ルールの「過去イベントの調査」では、ソースイベントを処理対象とするため参照のみで更新はできません。グループ別ルールの「過去イベントの調査」では、ディスパッチされたイベントを処理対象とするため参照も更新も可能です。

F) 到着件数に対する処理ステージ（高度な設定）

到着件数に対する処理ステージのルールを新規に作成するには、[到着件数に対する処理]ボタンを押し、ルール一覧リストボックスのコンテキストメニューから[新規作成]->[ルール条件・アクションを記述](G-2)もしくは、[新規作成]->[アクションテンプレートを使用](G-1))を選択します。既存のルールを変更するにはルール一覧からエントリーを選択してダブルクリックするか、コンテキストメニューから[プロパティ]を選択します。

G-1) アクションテンプレートを使用したルールの編集

アクションテンプレートを使用せず、ルールを編集する場合は、「アクションテンプレートを使用しないルールの編集」を参照して下さい。

ルール(アクションテンプレート使用)

全般 | 活性化条件 |

共通ルール
ステージ [到着件数に対する処理]

有効(V)

ルールID: コマンド実行

ルール条件-1

ID-1: イベント重大度で判定(Critical) 参照(R)...

時刻(T): 0:00:00

センサー再起動時/ルールセット反映時(H)

ルール条件ID-2: イベントステータスで判定(オープン) 参照(S)...

説明(E):

パラメータ-1: 60 (1~3600)

パラメータ-2: 1 (1~1000)

アクションテンプレートID(A): 任意ユーザーコマンド実行 参照(U)...

パラメータ

パラメータ	値	説明
domain_name	test_senju	千手連携アダプタのドメイ...
user_command_grp	user_commandグループ	ユーザーコマンドグループ名
user_command	command_sleep	ユーザーコマンド名

値:

オブジェクトブラウザ(B)

OK キャンセル

図 5.1-34 共通ルール定義画面(到着件数に対する処理) (アクションテンプレート使用)

到着件数に対する処理ステージ用共通ルール定義画面(アクションテンプレート使用) (図 5.1-34)が表示されたら、[全般]タブで下記項目を指定します。

表 5.1-21 共通ルール定義項目一覧 (到着件数に対する処理) (アクションテンプレート使用)

項目	内容	省略
有効チェックボックス:	このルールを有効にする場合はチェックします。ルールを無効にする場合はチェックを外します。デフォルトは有効です。	—
ルール ID:	ルール ID を指定します。	不可
ルール条件 ID-1:	現在のイベントに対するルール条件の ID を指定します。定義済みのルール条件を参照するには[参照]ボタンを押します。ルール条件はあらかじめ定義しておく必要があります。ルール条件の設定方法については、「 5.1.4 ルール条件の編集 」を参照して下さい。 現在のイベントは <code>currentEvent</code> として参照できます。 この条件にマッチした場合は、ルール条件 ID-2 を評価します。	不可
ルール条件 ID-2:	過去のイベントに対するルール条件の ID を指定します。定義済みのルール条件を参照するには[参照]ボタンを押します。ルール条件はあらかじめ定義しておく必要があります。ルール条件の設定方法については、「 5.1.4 ルール条件の編集 」を参照して下さい。 過去イベントは <code>historyElement</code> として参照できます。 <code>historyElement</code> については「 表 5.2-1 サーバルールから参照可能な変数一覧 」を参照して下さい。 パラメータ-2 で指定された回数、この条件にマッチした場合は、ルールアクションを実行します。なおルールアクションが実行された時点でカウントされた回数は初期化されます。	不可
説明:	コメントを指定します。	可能
パラメータ-1:	過去イベントを調査する時間範囲を秒単位で指定します。値の範囲は、(1~3600)のあいだで指定します。 (例) 60 → 過去 60 秒以内の到着イベントが対象	不可
パラメータ-2:	ルール条件 ID-2 を評価してルールアクションを実行するしきい値となる回数を指定します。値の範囲は、(1~1000)のあいだで指定します。	不可
アクションテンプレート ID:	現在のイベントに対するアクションテンプレートの ID を指定します。定義済みのアクションテンプレートを参照するには[参照]ボタンを押します。アクションテンプレートはあらかじめ定義しておく必要があります。アクションテンプレートの設定方法については、「 5.1.5 アクションテンプレートの編集 」を参照して下さい。	不可
パラメータ 値	パラメータが存在する場合に値を指定します。パラメータで指定した値が、アクションに使用されます。値を指定する場合は、パラメータ一覧からエントリーを選択して、値を入力します。	可能

ルールの活性化条件を指定するには[活性化条件]タブを選択します。指定方法は、
B) 早期イベント破棄ステージと同様です。

G-2)アクションテンプレートを 사용하지 ないルールの編集

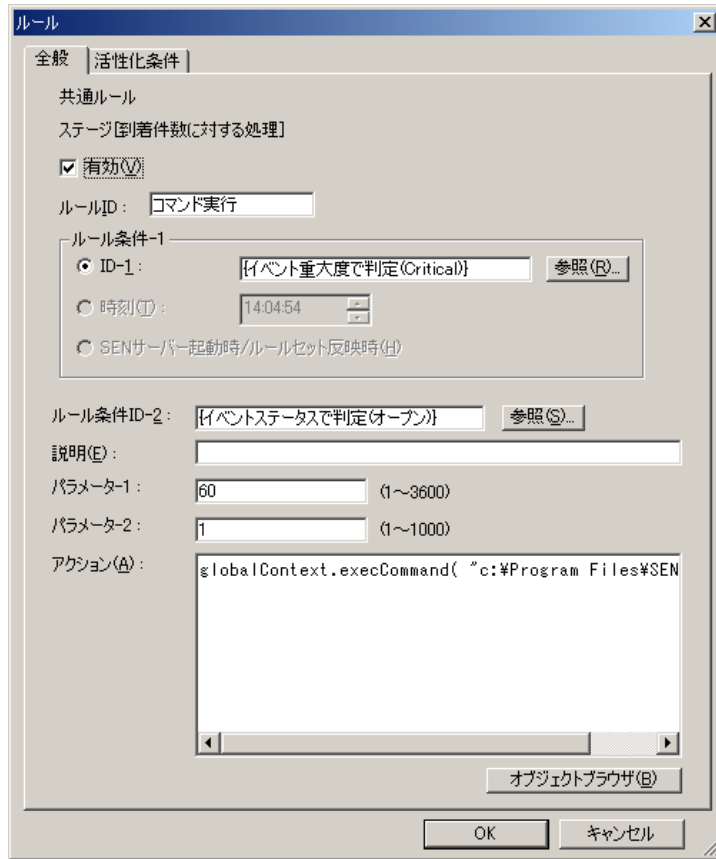


図 5.1-35 共通ルール定義画面(到着件数に対する処理)

到着件数に対する処理ステージ用共通ルール定義画面(図 5.1-35)が表示されたら、[全般]タブで下記項目を指定します。

表 5.1-22 共通ルール定義項目一覧 (到着件数に対する処理)

項目	内容	省略
有効チェックボックス:	このルールを有効にする場合はチェックします。ルールを無効にする場合はチェックを外します。デフォルトは有効です。	—
ルール ID:	ルール ID を指定します。	不可
ルール条件 ID-1:	現在のイベントに対するルール条件の ID を指定します。定義済みのルール条件を参照するには[参照]ボタンを押します。ルール条件はあらかじめ定義しておく必要があります。ルール条件の設定方法については、「5.1.4 ルール条件の編集」を参照して下さい。 現在のイベントは currentEvent として参照できます。 この条件にマッチした場合は、ルール条件 ID-2 を評価します。	不可
ルール条件 ID-2:	過去のイベントに対するルール条件の ID を指定します。定義済みのルール条件を参照するには[参照]ボタンを押します。ルール条件はあらかじめ定義しておく必要があります。ルール条件の設定方法については、「5.1.4 ルール条件の編集」を参照して下さい。	不可

項目	内容	省略
	過去イベントは historyElement として参照できます。 historyElement については「表 5.2-1 サーバルールから参照可能な変数一覧」を参照して下さい。 パラメータ-2 で指定された回数、この条件にマッチした場合は、ルールアクションを実行します。なおルールアクションが実行された時点でカウントされた回数は初期化されます。	
説明:	コメントを指定します。	可能
パラメータ-1:	過去イベントを調査する時間範囲を秒単位で指定します。値の範囲は、(1~3600)のあいだで指定します。 (例)60 → 過去 60 秒以内の到着イベントが対象	不可
パラメータ-2:	ルール条件 ID-2 を評価してルールアクションを実行するしきい値となる回数を指定します。値の範囲は、(1~1000)のあいだで指定します。	不可
アクション:	当該ステージで実行するルールアクションのスクリプトを指定します。	※1

※1：省略した場合、アクションが実行されません。

ルールの活性化条件を指定するには[活性化条件]タブを選択します。指定方法は、B) 早期イベント破棄ステージと同様です。



到着イベントに対する処理ステージにおいてルールアクションに何も記入されない場合はスクリプトが生成されません。

G) アクション実行履歴処理ステージ（高度な設定）

アクション実行履歴処理ステージのルールを新規に作成するには、[アクション実行履歴処理]ボタンを押し、ルール一覧リストボックスのコンテキストメニューから[新規作成]->[ルール条件・アクションを記述](H-2))もしくは、[新規作成]->[アクションテンプレートを使用](H-1))を選択します。既存のルールを変更するにはルール一覧からエントリーを選択してダブルクリックするか、コンテキストメニューから[プロパティ]を選択します。

H-1) アクションテンプレートを使用したルールの編集

アクションテンプレートを使用せず、ルールを編集する場合は、「アクションテンプレートを使用しないルールの編集」を参照して下さい。

ルール(アクションテンプレート使用)

全般 | 活性化条件 |

共通ルール
ステージ[アクション実行履歴処理]

有効(V)

ルールID:

ルール条件-1

ID-1: 参照(R)...

時刻(T):

センサー再起動時/ルールセット反映時(H)

ルール条件ID-2: 参照(S)...

説明(E):

パラメータ-1: (1~3600)

パラメータ-2:

アクションテンプレートID(A): 参照(U)...

パラメータ

パラメータ	値	説明
system_name	システム	システム名
create_user	担当者A	起票者
escalation_user	担当者B	エスカレーション先名
title	千手履歴	タイトル
incident_content	履歴を記載します。	インシデント内容
domain_name	test_SenjuSM	SenjuSM連携アダプタのド...

値:

オブジェクトブラウザ(B)

OK キャンセル

図 5.1-36 共通ルール定義画面(アクション実行履歴処理) (アクションテンプレート使用)

アクション実行履歴処理ステージ用共通ルール定義画面(アクションテンプレート使用) (図 5.1-36)が表示されたら、[全般]タブで下記項目を指定します。

表 5.1-23 共通ルール定義項目一覧 (アクション実行履歴処理) (アクションテンプレート使用)

項目	内容	省略
有効チェックボックス:	このルールを有効にする場合はチェックします。ルールを無効にする場合はチェックを外します。デフォルトは有効です。	—
ルール ID:	ルール ID を指定します。	不可
ルール条件 ID-1:	現在のイベントに対するルール条件の ID を指定します。定義済みのルール条件を参照するには[参照]ボタンを押します。ルール条件はあらかじめ定義しておく必要があります。ルール条件の設定方法については、「 5.1.4 ルール条件の編集 」を参照して下さい。 現在のイベントは <code>currentEvent</code> として参照できます。 この条件にマッチした場合は、ルール条件 ID-2 を評価します。	不可
ルール条件 ID-2:	アクション実行履歴に対するルール条件の ID を指定します。定義済みのルール条件を参照するには[参照]ボタンを押します。ルール条件はあらかじめ定義しておく必要があります。ルール条件の設定方法については、「 5.1.4 ルール条件の編集 」を参照して下さい。 アクション実行履歴は <code>actHistoryElement</code> として参照できます。 <code>actHistoryElement</code> については「 表 5.2-1 サーバルールから参照可能な変数一覧 」を参照して下さい。 この条件にマッチした場合は、ルールアクションを実行します。	不可
説明:	コメントを指定します。	可能
パラメータ-1:	過去イベントを調査する時間範囲を秒単位で指定します。値の範囲は、(1~3600)のあいだで指定します。 (例) 60 → 過去 60 秒以内の到着イベントが対象	不可
アクションテンプレート ID:	現在のイベントに対するアクションテンプレートの ID を指定します。定義済みのアクションテンプレートを参照するには[参照]ボタンを押します。アクションテンプレートはあらかじめ定義しておく必要があります。アクションテンプレートの設定方法については、「 5.1.5 アクションテンプレートの編集 」を参照して下さい。	不可
パラメータ 値	パラメータが存在する場合に値を指定します。パラメータで指定した値が、アクションに使用されます。値を指定する場合は、パラメータ一覧からエントリーを選択して、値を入力します。	可能

ルールの活性化条件を指定するには[活性化条件]タブを選択します。指定方法は、
B)早期イベント破棄ステージと同様です。

H-2) アクションテンプレートを 사용하지 ないルールの編集

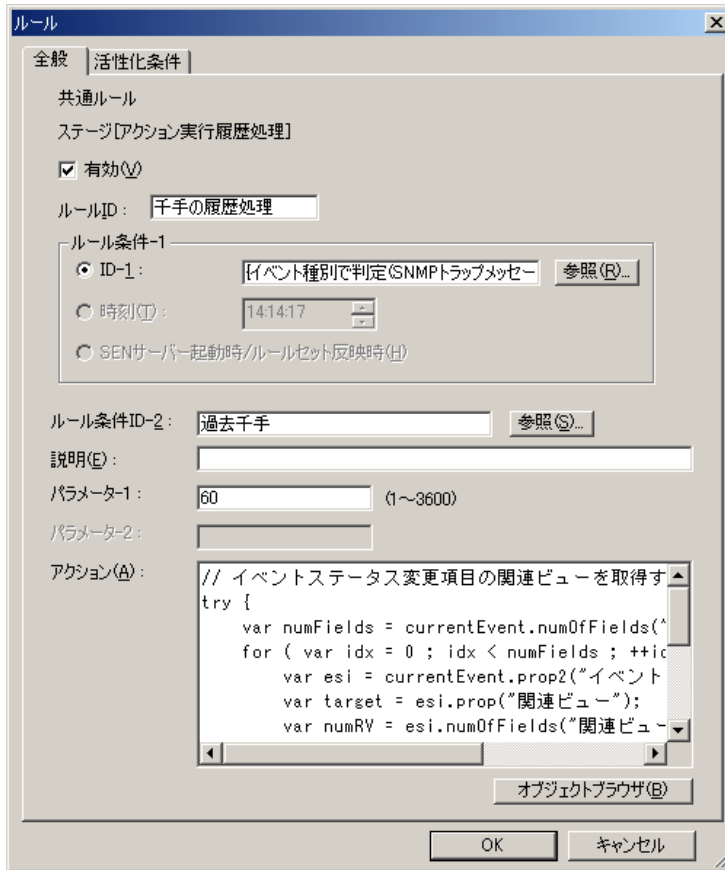


図 5.1-37 共通ルール定義画面(アクション実行履歴処理)

アクション実行履歴処理ステージ用共通ルール定義画面(図 5.1-37)が表示されたら、[全般]タブで下記項目を指定します。

表 5.1-24 共通ルール定義項目一覧 (アクション実行履歴処理)

項目	内容	省略
有効チェックボックス:	このルールを有効にする場合はチェックします。ルールを無効にする場合はチェックを外します。デフォルトは有効です。	—
ルール ID:	ルール ID を指定します。	不可
ルール条件 ID -1:	現在のイベントに対するルール条件の ID を指定します。定義済みのルール条件を参照するには[参照]ボタンを押します。ルール条件はあらかじめ定義しておく必要があります。ルール条件の設定方法については、「5.1.4 ルール条件の編集」を参照して下さい。 現在のイベントは <code>currentEvent</code> として参照できます。 この条件にマッチした場合は、ルール条件 ID -2 を評価します。	不可
ルール条件 ID-2:	アクション実行履歴に対するルール条件の ID を指定します。定義済みのルール条件を参照するには[参照]ボタンを押します。ルール条件はあらかじめ定義しておく必要があります。ルール条件の設定方法については、「5.1.4 ルール条件の編集」を参照して下さい。	不可

項目	内容	省略
	アクション実行履歴は actHistoryElement として参照できます。 actHistoryElement については「表 5.2-1 サーバルールから参照可能な変数一覧」を参照して下さい。 この条件にマッチした場合は、ルールアクションを実行します。	
説明:	コメントを指定します。	可能
パラメータ-1:	アクション実行履歴を調査する時間範囲を秒単位で指定します。 値の範囲は、(1~3600)のあいだで指定します。 (例)60 → 過去 60 秒以内のアクション実行履歴が対象	不可
アクション:	当該ステージで実行するルールアクションのスクリプトを指定します。	※1

※1: 省略した場合、アクションが実行されません。

ルールの活性化条件を指定するには[活性化条件]タブを選択します。指定方法は、B) 早期イベント破棄ステージと同様です。

H) イベントの解析-2 ステージ（高度な設定）

イベントの解析-2 ステージのルールを新規に作成するには、[イベントの解析-2]ボタンを押し、ルール一覧リストボックスのコンテキストメニューから[新規作成]->[ルール条件・アクションを記述]もしくは、[新規作成]->[アクションテンプレートを使用]を選択します。既存のルールを変更するにはルール一覧からエントリーを選択してダブルクリックするか、コンテキストメニューから[プロパティ]を選択します。

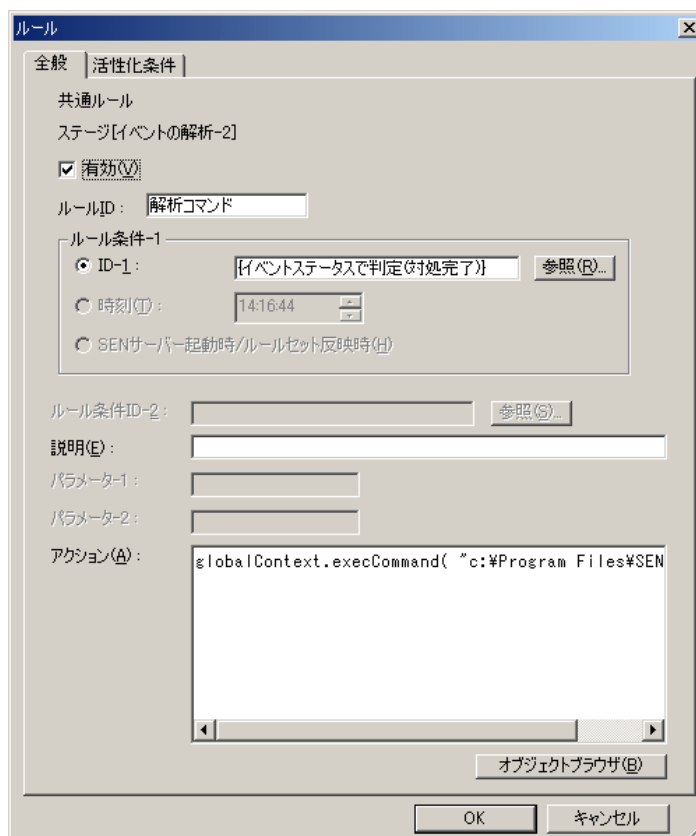


図 5.1-38 共通ルール定義画面(イベントの解析-2)

イベントの解析-2 ステージのルールで設定する項目は、D)イベントの解析-1 ステージと同様です。

l) アクションの実行-2 ステージ（高度な設定）

アクションの実行-2 ステージのルールを新規に作成するには、[アクションの実行-2]ボタンを押し、ルーラー一覧リストボックスのコンテキストメニューから[新規作成]->[ルール条件・アクションを記述]もしくは、[新規作成]->[アクションテンプレートを使用]を選択します。既存のルールを変更するにはルーラー一覧からエントリーを選択してダブルクリックするか、コンテキストメニューから[プロパティ]を選択します。

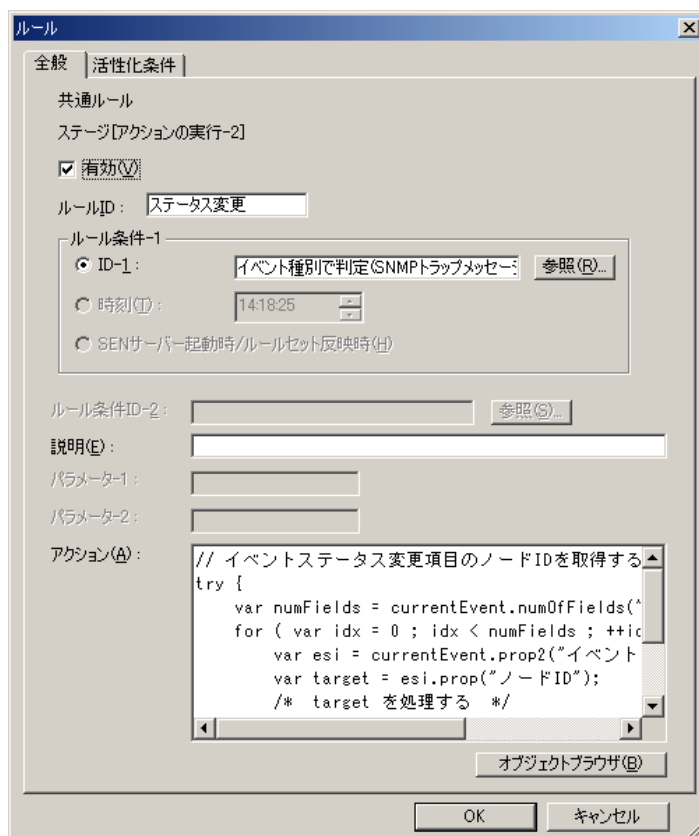


図 5.1-39 共通ルール定義画面(アクションの実行-2)

アクションの実行-2 ステージのルールで設定する項目は、E)アクションの実行-1 ステージと同様です。

J) 遅延実行ステージ

遅延実行ステージのルールを新規に作成するには、[遅延実行]ボタンを押し、ルール一覧リストボックスのコンテキストメニューから[新規作成]->[ルール条件・アクションを記述](K-2)もしくは、[新規作成]->[アクションテンプレートを使用](K-1)を選択します。既存のルールを変更するにはルール一覧からエントリーを選択してダブルクリックするか、コンテキストメニューから[プロパティ]を選択します。

K-1) アクションテンプレートを使用したルールの編集

アクションテンプレートを使用せず、ルールを編集する場合は、「アクションテンプレートを使用しないルールの編集」を参照して下さい。

ルール(アクションテンプレート使用)

全般 | 活性化条件 |

共通ルール
ステージ[遅延実行]

有効(V)

ルールID: 外部コマンド実行

ルール条件-1

ID-1: イベント種別で判定(メッセージ) 参照(R)...

時刻(T): 11:37:37

センサー起動時/ルールセット反映時(H)

ルール条件ID-2: イベント種別で判定(カスタムメッセージ) 参照(S)...

説明(E):

パラメータ-1: 3600 (1~172800)

パラメータ-2:

アクションテンプレートID(A): 千手ユーザーコマンド実行 参照(U)...

パラメータ

パラメータ	値	説明
domain_name	test_senju	千手連携アダプタのドメイ...
user_command_grp	user_commandグループ	ユーザーコマンドグループ名
user_command	command	ユーザーコマンド名

値:

オブジェクトブラウザ(B)

OK キャンセル

図 5.1-40 共通ルール定義画面(遅延実行) (アクションテンプレート使用)

遅延実行ステージ用共通ルール定義画面(アクションテンプレート使用) (図 5.1-40)が表示されたら、[全般]タブで下記項目を指定します。

表 5.1-25 共通ルール定義項目一覧 (遅延実行) (アクションテンプレート使用)

項目	内容	省略
有効チェックボックス:	このルールを有効にする場合はチェックします。ルールを無効にする場合はチェックを外します。デフォルトは有効です。	—
ルール ID:	ルール ID を指定します。	不可
ルール条件 ID-1:	現在のイベントに対するルール条件の ID を指定します。定義済みのルール条件を参照するには[参照]ボタンを押します。ルール条件はあらかじめ定義しておく必要があります。ルール条件の設定方法については、「 5.1.4 ルール条件の編集 」を参照して下さい。 現在のイベントは <code>currentEvent</code> として参照できます。 この条件にマッチした場合は、ルール条件 ID-2 を評価します。	不可
ルール条件 ID-2:	時刻を指定した場合はこの時刻からパラメータ-1 で指定した時間内にルール条件 ID -2 にマッチするイベントが到着したかどうかを評価します。 現在のイベントに対するルール条件の ID を指定します。定義済みのルール条件を参照するには[参照]ボタンを押します。ルール条件はあらかじめ定義しておく必要があります。ルール条件の設定方法については、「 5.1.4 ルール条件の編集 」を参照して下さい。 現在のイベントは <code>currentEvent</code> として参照できます。 パラメータ-1 で指定した時間内にこの条件が成立しなければ、ルールアクションを実行します。	不可
説明:	コメントを指定します。	可能
パラメータ-1:	過去イベントを調査する時間範囲を秒単位で指定します。値の範囲は、(1~3600)のあいだで指定します。 (例) 60 → 過去 60 秒以内の到着イベントが対象	不可
アクションテンプレート ID:	現在のイベントに対するアクションテンプレートの ID を指定します。定義済みのアクションテンプレートを参照するには[参照]ボタンを押します。アクションテンプレートはあらかじめ定義しておく必要があります。アクションテンプレートの設定方法については、「 5.1.5 アクションテンプレートの編集 」を参照して下さい。	不可
パラメータ 値	パラメータが存在する場合に値を指定します。パラメータで指定した値が、アクションに使用されます。値を指定する場合は、パラメータ一覧からエントリーを選択して、値を入力します。	可能

ルールの活性化条件を指定するには[活性化条件]タブを選択します。指定方法は、
B) 早期イベント破棄ステージと同様です。

K-2) アクションテンプレートを 사용하지 않는 룰의 편집

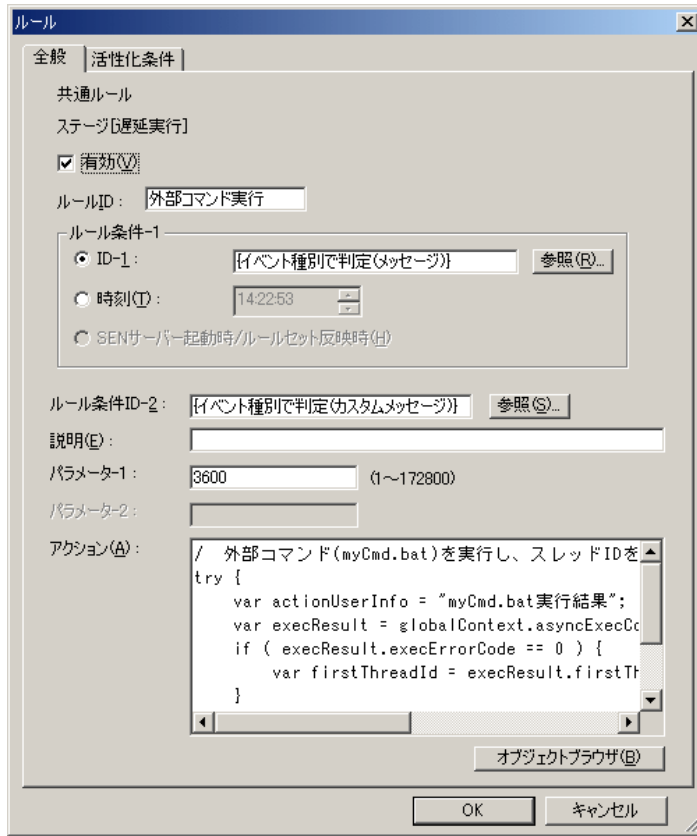


図 5.1-41 共通ルール定義画面(遅延実行)

遅延実行ステージ用共通ルール定義画面(図 5.1-41)が表示されたら、[全般]タブで下記項目を指定します。

表 5.1-26 共通ルール定義項目一覧 (遅延実行)

項目	内容	省略
有効チェックボックス:	このルールを有効にする場合はチェックします。ルールを無効にする場合はチェックを外します。デフォルトは有効です。	—
ルール ID:	ルール ID を指定します。	不可
ルール条件 ID -1:	現在のイベントに対するルール条件の ID を指定します。定義済みのルール条件を参照するには[参照]ボタンを押します。ルール条件はあらかじめ定義しておく必要があります。ルール条件の設定方法については、「5.1.4 ルール条件の編集」を参照して下さい。 現在のイベントは currentEvent として参照できます。 この条件にマッチした場合は、ルール条件 ID -2 を評価します。 時刻を指定した場合はこの時刻からパラメータ-1 で指定した時間内にルール条件 ID -2 にマッチするイベントが到着したかどうかを評価します。	不可

項目	内容	省略
ルール条件 ID-2:	現在のイベントに対するルール条件の ID を指定します。定義済みのルール条件を参照するには[参照]ボタンを押します。ルール条件はあらかじめ定義しておく必要があります。ルール条件の設定方法については、「 5.1.4 ルール条件の編集 」を参照して下さい。 現在のイベントは <code>currentEvent</code> として参照できます。 パラメータ-1 で指定した時間内にこの条件が成立しなければ、ルールアクションを実行します。	不可
説明:	コメントを指定します。	可能
パラメータ-1:	ルール条件 ID -1 にマッチするイベント到着後、ルールアクションを実行するまでの待機時間を秒単位で指定します。ここで指定した時間内にルール条件 ID -2 にマッチするイベントが到着しなければ、ルールアクションが実行されます。値の範囲は、(1～172800)のあいだで指定します。	不可
アクション:	当該ステージで実行するルールアクションのスクリプトを指定します。	※1

※1：省略した場合、アクションが実行されません。

ルールの活性化条件を指定するには[活性化条件]タブを選択します。指定方法は、B) 早期イベント破棄ステージと同様です。

K) タイマステージ

タイマステージのルールを作成するには、[タイマ]ボタンを押し、ルール一覧リストボックスのコンテキストメニューから[新規作成]->[ルール条件・アクションを記述](L-2))もしくは、[新規作成]->[アクションテンプレートを使用](L-1))を選択します。既存のルールを変更するにはルール一覧からエントリーを選択してダブルクリックするか、コンテキストメニューから[プロパティ]を選択します。

L-1) アクションテンプレートを使用したルールの編集

アクションテンプレートを使用せず、ルールを編集する場合は、「アクションテンプレートを使用しないルールの編集」を参照して下さい。

ルール(アクションテンプレート使用)

全般 | 活性化条件 |

共通ルール
ステージ[タイマ]

有効(V)

ルールID: 定期チェック

ルール条件-1

ID-1: [参照(R)...]

時刻(T): 11:29:07

センサーサーバー起動時/ルールセット反映時(H)

ルール条件ID-2: [イベント種別で判定(カスタムメッセージ)] [参照(S)...]

説明(E):

パラメータ-1: 300 (1~172800)

パラメータ-2:

アクションテンプレートID(A): [任意アクション結果取得] [参照(U)...]

パラメータ

パラメータ	値	説明
-------	---	----

値:

オブジェクトブラウザ(B)

OK キャンセル

図 5.1-42 共通ルール定義画面(タイマ) (アクションテンプレート使用)

タイマステージ用共通ルール定義画面(アクションテンプレート使用) (図 5.1-42)が表示されたら、[全般]タブで下記項目を指定します。

表 5.1-27 共通ルール定義項目一覧 (タイマ) (アクションテンプレート使用)

項目	内容	省略
有効チェックボックス:	このルールを有効にする場合はチェックします。ルールを無効にする場合はチェックを外します。デフォルトは有効です。	—
ルール ID:	ルール ID を指定します。	不可
ルール条件 ID-1:	ルール条件-1 では、現在のイベントに対するルール条件の ID、あるいは時刻、SEN サーバー起動時/ルールセット反映時のいずれかを指定します。定義済みのルール条件を参照するには[参照]ボタンを押します。ルール条件はあらかじめ定義しておく必要があります。ルール条件の設定方法については、「 5.1.4 ルール条件の編集 」を参照して下さい。 時刻の範囲は「00:00:01～23:59:59」のあいだで指定します。	不可
ルール条件 ID-2:	現在のイベントに対するルール条件の ID を指定します。定義済みのルール条件を参照するには[参照]ボタンを押します。ルール条件はあらかじめ定義しておく必要があります。ルール条件の設定方法については、「 5.1.4 ルール条件の編集 」を参照して下さい。 現在のイベントは <code>currentEvent</code> として参照できます。	不可
説明:	コメントを指定します。	可能
パラメータ-1:	ルール条件-1 にマッチしたあと、ルール条件-2 が成立するまでルールアクションを実行する時間間隔を秒単位で指定します。値の範囲は、(1～172800)のあいだで指定します。	不可
アクションテンプレート ID:	現在のイベントに対するアクションテンプレートの ID を指定します。定義済みのアクションテンプレートを参照するには[参照]ボタンを押します。アクションテンプレートはあらかじめ定義しておく必要があります。アクションテンプレートの設定方法については、「 5.1.5 アクションテンプレートの編集 」を参照して下さい。	不可
パラメータ 値	パラメータが存在する場合に値を指定します。パラメータで指定した値が、アクションに使用されます。値を指定する場合は、パラメータ一覧からエントリーを選択して、値を入力します。	可能

ルールの活性化条件を指定するには[活性化条件]タブを選択します。指定方法は、
B)早期イベント破棄ステージと同様です。

L-2) アクションテンプレートを 사용하지 ないルールの編集

図 5.1-43 共通ルール定義画面(タイマ)

タイマステージ用共通ルール定義画面(図 5.1-43)が表示されたら[全般]タブで下記項目を指定します。

表 5.1-28 共通ルール定義項目一覧(タイマ)

項目	内容	省略
有効チェックボックス:	このルールを有効にする場合はチェックします。ルールを無効にする場合はチェックを外します。デフォルトは有効です。	—
ルール ID:	ルール ID を指定します。	不可
ルール条件 ID -1:	ルール条件-1 では、現在のイベントに対するルール条件の ID、あるいは時刻、SEN サーバー起動時/ルールセット反映時のいずれかを指定します。定義済みのルール条件を参照するには[参照]ボタンを押します。ルール条件はあらかじめ定義しておく必要があります。ルール条件の設定方法については、「5.1.4 ルール条件の編集」を参照して下さい。 時刻の範囲は「00:00:01～23:59:59」のあいだで指定します。	不可

項目	内容	省略
ルール条件 ID-2:	現在のイベントに対するルール条件の ID を指定します。定義済みのルール条件を参照するには[参照]ボタンを押します。ルール条件はあらかじめ定義しておく必要があります。ルール条件の設定方法については、「 5.1.4 ルール条件の編集 」を参照して下さい。 現在のイベントは <code>currentEvent</code> として参照できます。	不可
説明:	コメントを指定します。	可能
パラメータ-1:	ルール条件-1 にマッチしたあと、ルール条件-2 が成立するまでルールアクションを実行する時間間隔を秒単位で指定します。値の範囲は、(1~172800)のあいだで指定します。	不可
アクション:	当該ステージで実行するルールアクションのスクリプトを指定します。	※1

※1: 省略した場合、アクションが実行されません。

5.1.6.4 分配ルールの編集

分配ルールはルールセットエディタの分配タブで編集します。分配ルールは、汎用分配ルールとキーによる分配ルールに分けられます。汎用分配ルールでは、ルール条件の指定によるグループへの分配ルールを定義します。キーによる分配ルールでは、イベントクラスならびにユニークキーの指定によるグループへの分配ルールを定義します。インポートハンドラを用いたメインペインの自動生成を行う場合には、必ずキーによる分配ルールを使用して下さい。

どのグループにも割り当てられなかったイベントは、イベントビューの{その他}グループに割り当てられます。

A) 汎用分配ルール

汎用分配ルールでは、ルール条件の指定によるグループへの分配ルールを定義します。汎用分配ルールを新規作成するには、汎用分配ルール一覧リストボックスのコンテキストメニューから[新規作成]を選択します。

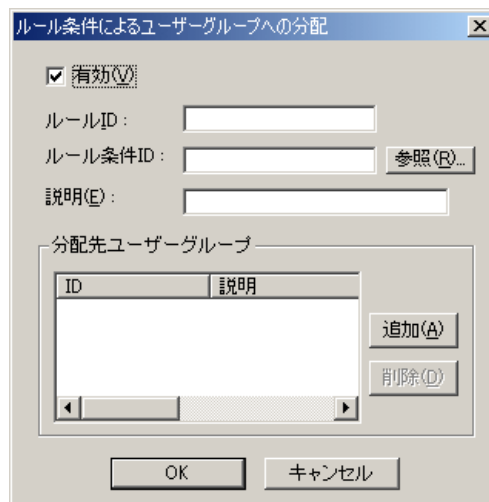


図 5.1-44 ルール条件によるユーザーグループへの分配画面

汎用分配ルール定義画面(図 5.1-44)が表示されたら、下記項目を指定し、[OK]ボタンを押します。

表 5.1-29 ルール条件によるユーザーグループへの分配項目一覧

項目	内容	省略
有効チェックボックス:	このルールを有効にする場合はチェックします。ルールを無効にする場合はチェックを外します。デフォルトは有効です。	—
ルール ID:	ルール ID を指定します。	不可
ルール条件 ID:	現在のイベントに対するルール条件の ID を指定します。定義済みのルール条件を参照するには[参照]ボタンを押します。ルール条件はあらかじめ定義しておく必要があります。ルール条件の設定方法については、「5.1.4 ルール条件の編集」を参照して下さい。	不可

項目	内容	省略
	現在のイベントは <code>currentEvent</code> として参照できます。 この条件にマッチした場合は、指定されたグループにイベントを振り分けます。	
説明:	コメントを指定します。	可能
分配先ユーザーグループ:	イベントの分配先となるグループの一覧を指定します。グループをリストに追加するには、[追加] ボタンを押します。 図 5.1-45 のユーザーグループリストから分配するグループを選んで[OK]ボタンを押します。	不可

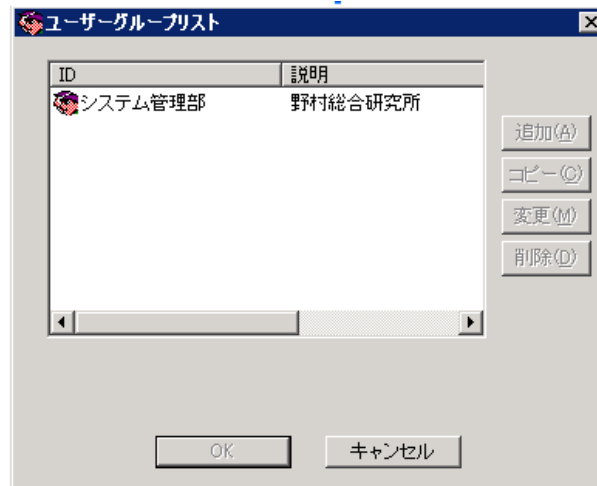


図 5.1-45 ユーザーグループリスト画面

B) キーによる分配ルール

キーによる分配ルールでは、イベントクラスならびにユニークキーの指定によるグループへの分配ルールを定義します。キーによる分配ルールを新規作成するには、キーによる分配ルール一覧リストボックスのコンテキストメニューから[新規作成]を選択します。

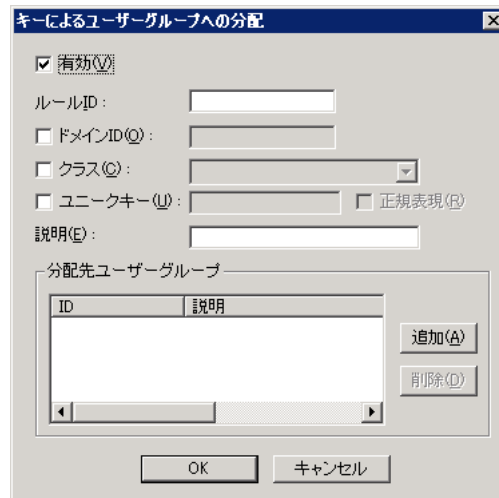


図 5.1-46 キーによるユーザーグループへの分配画面

キーによる分配ルール定義画面(図 5.1-46)が表示されたら、下記項目を指定し、[OK] ボタンを押します。

表 5.1-30 キーによるユーザーグループへの分配項目一覧

項目	内容	省略
有効チェックボックス:	このルールを有効にする場合はチェックします。ルールを無効にする場合はチェックを外します。デフォルトは有効です。ドメイン ID、クラス、ユニークキーを指定せず、分配先ユーザーグループのみを指定した場合は、分配先ユーザーグループに指定したグループに、すべてのイベントが分配されます。	—
ルール ID:	ルール ID を指定します。	不可
ドメイン ID:	分配対象となるイベントのドメイン ID を指定します。ドメイン ID を指定する場合はチェックボックスをチェックします。	可能
クラス:	分配対象となるイベントのクラス名を指定します。クラスはコンボボックスより選択します。サポートされるイベントクラスの一覧は、 【5.2.2 イベントクラス一覧】 を参照して下さい。	可能
ユニークキー:	分配対象となるイベントのユニークキーと比較する文字列を指定します。各イベントのユニークキーについては、 【5.2.2 イベントクラス一覧】 を参照して下さい。正規表現チェックボックスをチェックした場合は、正規表現として比較されます。 【例】 ([a-zA-Z]{0,2}America) → America、MrAmerica などにマッチします。	可能
説明:	コメントを指定します。	可能
分配先ユーザーグループ:	イベントの分配先となるグループの一覧を指定します。グループをリストに追加するには、[追加] ボタンを押します。 図 5.1-45 ユーザーグループリスト画面から分配するグループを選んで[OK]ボタンを押します。	不可

5.1.6.5 グループ別ルールの編集

グループ別ルールは、ルールセットエディタのグループ別タブで編集します。グループ別ルールでは、各グループに分配されたイベントに対して適用されるルールを定義します。グループを切り替えるには[グループ]コンボボックスを選択します。

グループ別ルールも共通ルールと同じく、関数・変数定義と11のルールステージに分けられており、各設定項目についても共通ルールと同じです。各設定項目の詳細は、

「5.1.6.3 共通ルールの編集」を参照して下さい。

5.1.6.6 共通ルールとグループ別ルールの違い

共通ルールとグループ別ルールは、共に関数・変数定義と11のルールステージから構成され、各設定項目についても同じですが、参照する各変数の意味や位置付けは異なります。以下に、共通ルールとグループ別ルールで参照する各変数の違いを示します。

表 5.1-31 共通ルールとグループ別ルールの違い

	共通ルール	グループ別ルール
関数・変数定義	共通ルールのステージ間でのみ共通に使える関数および変数を参照できます。	各グループ別ルールのステージ間でのみ共通に使える関数および変数を参照できます。
グローバルに参照可能なオブジェクト (globalContext)	共通ルール処理実行内でのグローバルな状態を表します。	グループ別ルール処理実行内でのグローバルな状態を表します。
現在処理対象となっているイベント (currentEvent)	SENサーバー到着直後のイベントを参照します。	各グループへの分配ルール処理実行直後のイベントを参照します。
過去イベント (historyElement)	ルール処理前となるSENサーバー到着直後の過去イベントを参照します。 共通ルールでは、過去イベントのプロパティの参照のみが可能です。ただし、以下の過去イベントは参照できません。 ・内部イベント ・イベント変更イベント ・コンソールユーザー作成イベント	各グループへの分配ルール処理およびグループ別ルール処理実行後のイベントを参照します。 グループ別ルールでは、過去イベントのプロパティの参照および変更が可能です。
アクション実行履歴 (actHistoryElement)	共通ルール処理実行内でのアクション実行履歴を表します。	グループ別ルール処理実行内でのアクション実行履歴を表します。

5.1.6.7 グローバル定義ルールの編集

グローバル定義ルールは全グループで共通に適用されるルールであり、Administrators 役割をもつユーザーのみ設定可能です。グローバル定義ルールには、ルール内で参照目的として使用する変数や関数のみを記述して下さい。

グローバル定義ルールは、ルールセットエディタのグローバル定義タブで編集します。グローバル定義タブでは、下記項目を指定します。

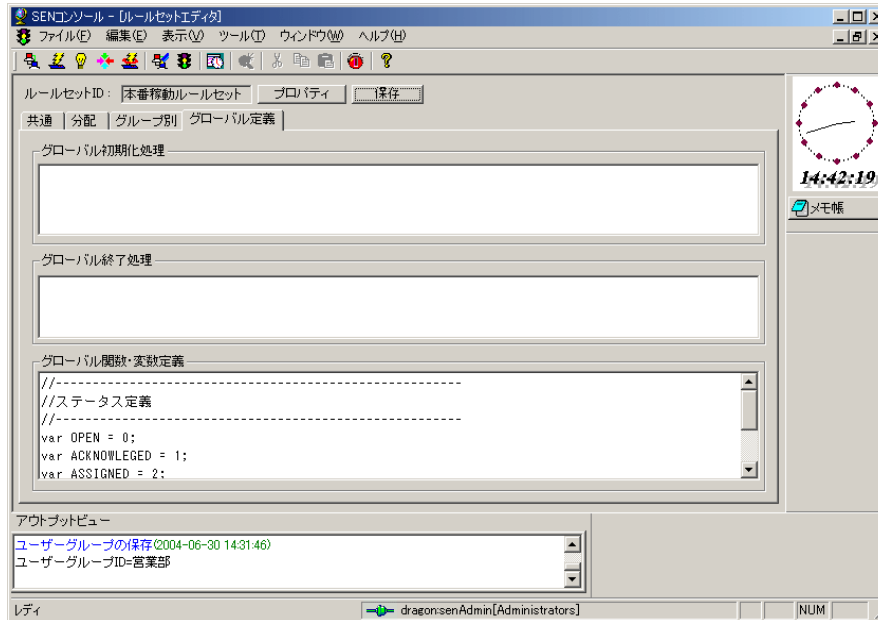


図 5.1-47 ルールセットエディタ画面（グローバル定義タブ）

◆ グローバル初期化処理

グローバル初期化処理では、ルール処理の最初に行う処理を記述します。例えば、ユーザー定義変数の初期化やファイルのオープン、データベース接続確立などがあげられます。以下にグローバル初期化の記述例を掲げます。

```
// 定義してある各ユーザー定義変数を初期化する。
myFSO = globalContext.createObject( "Scripting.FileSystemObject", null );
myOutputFile = myFSO.CreateTextFile( "c:¥¥temp¥¥test.log",true, false );
cnct = globalContext.createObject( "adodb.connection", null );
```

```
// ADO(ActiveX Data Object)オブジェクトをオープンし、データベースに接続する
var ret = cnct.Open("Provider=sqloledb", "sampleuser", "sampleuser");
```

◆ グローバル終了処理

グローバル終了処理では、ルール処理の最後に行う処理を記述します。以下にグロー

バル終了処理の記述例を掲げます。

```
// ユーザー定義ファイルをクローズする
myOutputFile.close();

// ADO オブジェクトをクローズする
cnct.Close();
```

◆ グローバル定義

グローバル定義では、ルールの中で共通に参照するような変数や関数などを記述します。例えば、日付から曜日を取得するようなユーティリティ関数などをここで定義しておくこと、これらをルール条件やルールアクションの中で呼び出す事ができます。

```
// 色を定義する
var RED = 255;
var GREEN = 255 << 8;
var BLUE = 255 << 16;

// イベント重大度を定義する
var CLEAR = 0;
var UNKNOWN = 1;
var WARNING = 2;
var MINOR = 3;
var MAJOR = 4;
var CRITICAL = 5;
var NONE = 6;

// イベントステータスを定義する
var OPEN = 0;
var ACKNOWLEDGED = 1;
var ASSIGNED = 2;
var CLOSED = 3;

// 日付から曜日を取得する関数を定義する
function getDayOfWeek(datetime) {
    var yyyy = datetime.substr(0,4);
    var mm = datetime.substr(5,2);
    var dd = datetime.substr(8,2);
    var objdate = new Date(yyyy, mm - 1, dd);
```

```
    return objdate.getDay();
}

// その他ユーザー定義変数を宣言する。
var myFSO;           // ファイルシステムオブジェクト
var myOutputFile;   // テストログファイル用オブジェクト
var cnct;           // ADO 用オブジェクト
```



グローバル初期化処理内からグローバル関数・変数定義に記述した変数や関数を参照する事はできますが、グローバル関数・変数定義内からグローバル初期化処理に記述した変数や関数を参照する事はできません。



グローバル定義と共通ルールの関数・変数定義およびグループ別ルールの関数・変数定義とは、参照可能なスコープが異なります。グローバル定義は、共通ルールとすべてのグループ別ルールのステージから参照できます。共通ルールの関数・変数定義は、共通ルールのステージでのみ参照できます。グループ別ルールの関数・変数定義は、各グループ別ルールのステージでのみ参照できます。

5.1.6.8 ルールアクションの記述

各ルール定義におけるルールアクションの記述は JScript の構文に従う必要があります。

ルール条件設定画面およびルール編集画面では、[オブジェクトブラウザ]ボタンを押下し、オブジェクトブラウザを起動できます。オブジェクトブラウザは、ルール条件やルールアクションの記述を補助する支援ツールです。オブジェクトブラウザの詳細は、「**5.1.9 オブジェクトブラウザ**」を参照して下さい。

ルールアクションでは基本的に任意の JScript のステートメントを記述する事が可能ですが、いくつかの留意事項がありますので以下に記述します。

ローカル変数の使用

ルールアクション内でローカル変数を定義し、使用する事が可能です。ローカル変数はそのルールアクション内でのみ有効です。

(例) `var i = 0;`

関数の使用

ルールアクション内で関数を定義する事が可能です。関数は使用前に定義する必要があります。関数はそのルールアクション内でのみ有効です。

(例)

```
function isOdd(x) {
    if (x % 2 == 1) return true;
    else return false;
}
```

グローバル変数の使用

ルールアクション内でユーザー独自の値をルール実行後も引き続き保持したい場合があります。その場合は `globalContext` の `globalUV` プロパティを使用して、変数を格納する事ができます。

(例) `globalContext.globalUV("CustomerName") = "ABC Foods";`

処理に時間のかかるスクリプトの禁止

ルールアクション内に記述するスクリプト処理は開始後速やかに終了する必要があります。イベント処理はシーケンシャルに実行されるため、ルールアクション内での処理に時間がかかると、以降の処理はそれだけ待たされます。例えば、ユーザーからの操作を待つようなスクリプトは記述すべきではありません。

一回のスクリプトの実行に 30 秒以上要した場合には、スクリプトの実行を強制停止します。



スクリプトの実行が強制終了された場合は、ルール実行証跡は残りません。



globalContext.sendMail()メソッドは将来廃止される可能性があります。代わりに、メール送信連携アダプタを利用してメール送信する PRODUCER.mlAsyncSendEvent を使用して下さい。



ルールアクションに記述可能な文字数の上限は 30720 Byte です。

5.1.7 コンソールルールの編集

コンソールルールは、各グループに設定され、SEN コンソール上で実行します。コンソールルールでは、GUI 上でのダイアログの表示や警報装置の鳴動といった処理を実行します。

コンソールルールは、メニューバーから[ツール]-> [メンテナンス]->[SEN コンソールルール]を選択して、コンソールルール編集画面を表示します。

コンソールルール

ユーザーグループID(G): システム管理部

有効(V)

ルールエンジン (J): JScript9

ルールの構文チェック(C)

説明(E):

ルール(B):

```
if ((currentEvent.eventStatus == 0)&&(currentClientContext.displayMessage(\"メッセージ'))
```

オブジェクトブラウザ(B)

2021-07-05 17:07:33 に保存されています。

OK キャンセル

図 5.1-48 コンソールルール編集画面

コンソールルールはグループ毎に指定します。コンソールルールを有効にする場合は、[有効]チェックボックスをチェックします。コンソールルールは、ステージに分かれてはおらず、またルール条件やルールアクションの区別はありません。[ルール]フィールドに Jscript 構文に従い記述します。

コンソールルール編集画面では、コンソールルールを実行するエンジンに「JScript」を選択し[オブジェクトブラウザ]ボタンを押下し、オブジェクトブラウザを起動できます。オブジェクトブラウザは、ルール条件やルールアクションの記述を補助する支援ツールです。オブジェクトブラウザの詳細は、「5.1.9 オブジェクトブラウザ」を参照して下さい。

コンソールルールは、グループ別ルールの最後のステージを通過したイベントに対して適用されます。またステータス変更を行った過去イベントに対しても、再度コンソールルールが実行されます。したがって、コンソールルールを適用するイベントをさらに絞る場合は、ユーザー自身が if ステートメントなどを記述する必要があります。

コンソールルールを記述したら[OK]ボタンを押して保存します。



コンソールルールはサーバールールと異なり、保存と同時に有効になります。したがってルールセットの反映は必要ありません。



ルールの構文チェックは現在、未サポート。

コンソールルールで実行可能な処理一覧を表 5.1-32 に示します。詳細は、「5.2.1 ルール内で参照可能な変数」を参照して下さい。

表 5.1-32 コンソールルールで実行可能な処理一覧

処理概要	ルール記述方法
ポップアップダイアログの表示	clientContext.displayMessage()メソッドを使用します。
ビーブ音の鳴動	clientContext.messageBeep()メソッドを使用します。
Wave Sound の鳴動	clientContext.playSound()メソッドを使用します。
コンソールログファイルへのログ出力	clientContext.outputToLogFile()メソッドを使用します。
パトランプの鳴動	clientContext.patLamp.active プロパティを使用します。

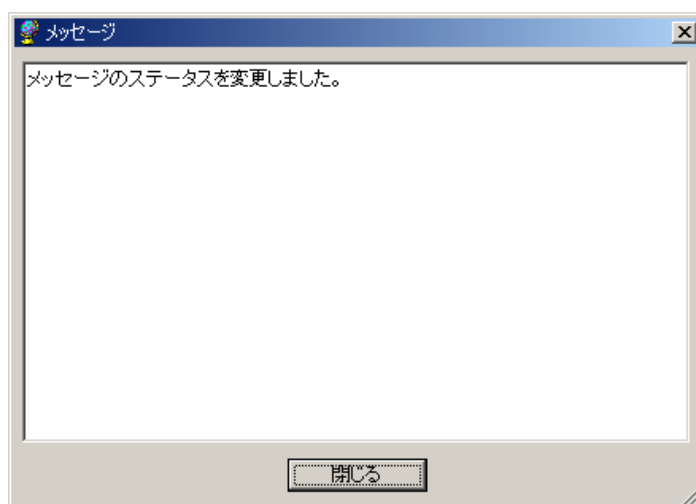


図 5.1-49 clientContext.displayMessage()メソッドによるポップアップダイアログ画面



イベントビューのコンテキストメニューからステータス変更を行った場合にもイベントの変更が通知され、コンソールルールが実行されます。新規に到着したイベントに対してのみルールを実行する場合は、例えば、

```
if (currentEvent.eventStatus == 0 ...)
```

のように記述します。これはイベントステータスが"オープン"であるイベントに対してのみルールが実行されます。

5.1.8 ルールセットの反映

新規作成または変更したルールセットを有効にするには、ルールセットの反映を行います。ルールセットの反映は、メニューバーから[ツール]->[メンテナンス(管理者)]->[ルールセットの反映]を選択します。ルールセットリスト(選択用)画面(図 5.1-50)で反映するルールセットを選択し、[OK]ボタンを押します。なお、ルールセットリスト(選択用)画面下部には、現在有効なルールセットの ID と、そのルールセットが反映された日時が表示されます。

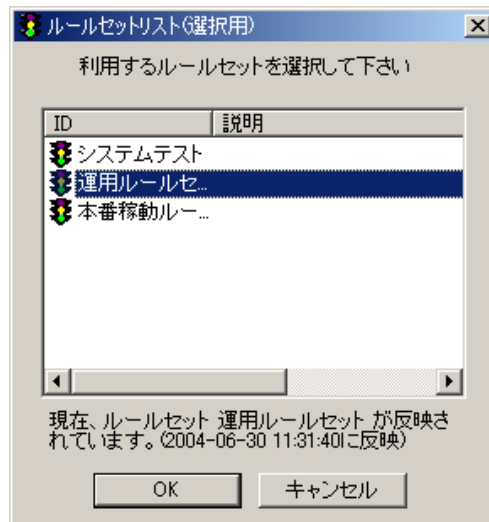


図 5.1-50 ルールセットリスト(選択用)画面

ルールセット保存確認画面(図 5.1-51)が表示されたら、[はい]ボタンを押します。



図 5.1-51 ルールセット反映確認画面

ルールセット反映成功画面(図 5.1-52)が表示されたら、選択されたルールセットが有効となり、ルールセットに記述されたルール処理が行われます。

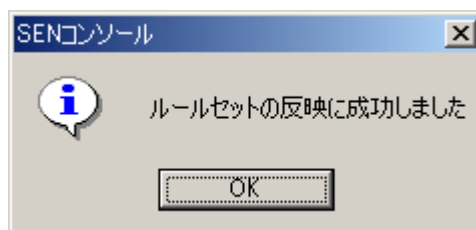


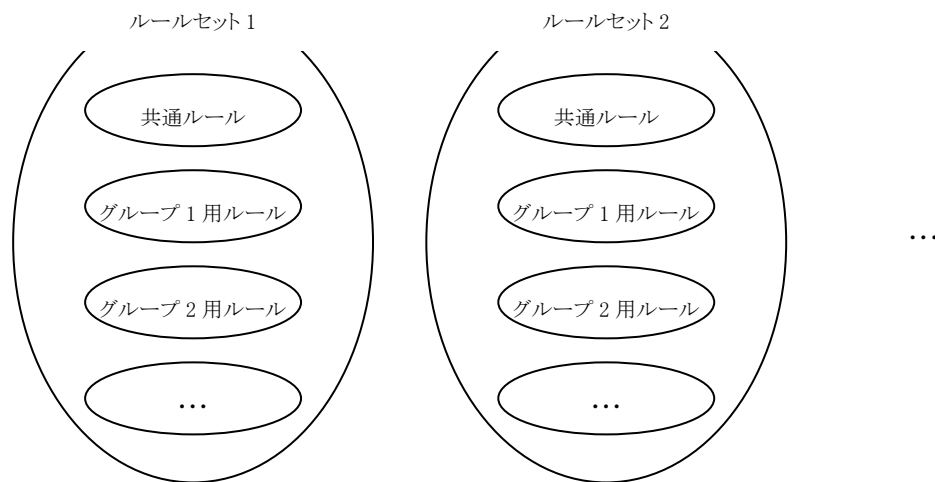
図 5.1-52 ルールセット反映成功画面



ルールセット内のルール定義内容を変更した場合は、必ずルールセットの反映を行う必要があります。なお、ルールが参照するルール条件はルールと独立に変更する事が可能ですが、この場合も変更したルール条件を有効にするにはルールセットの反映を行う必要があります。



ルールセットの反映は、下図のように、選択されたルールセットに対して保存されている共通ルールとすべてのグループ別ルールが一斉に反映されます。



5.1.9 オブジェクトブラウザ

オブジェクトブラウザは、ルール条件やルールアクションの記述を補助する支援ツールです。各イベントのプロパティやメソッド、メインビューのメインペインやメインペインアイテムのプロパティに関して、その説明とサンプルとなるスクリプトテンプレートを提供します。

オブジェクトブラウザを表示する場合は、メニューバーから[表示]->[オブジェクトブラウザ]を選択します。また、ルール条件設定画面、ルール編集画面、コンソールルール編集画面にもオブジェクトブラウザを表示するためのボタンがあります。

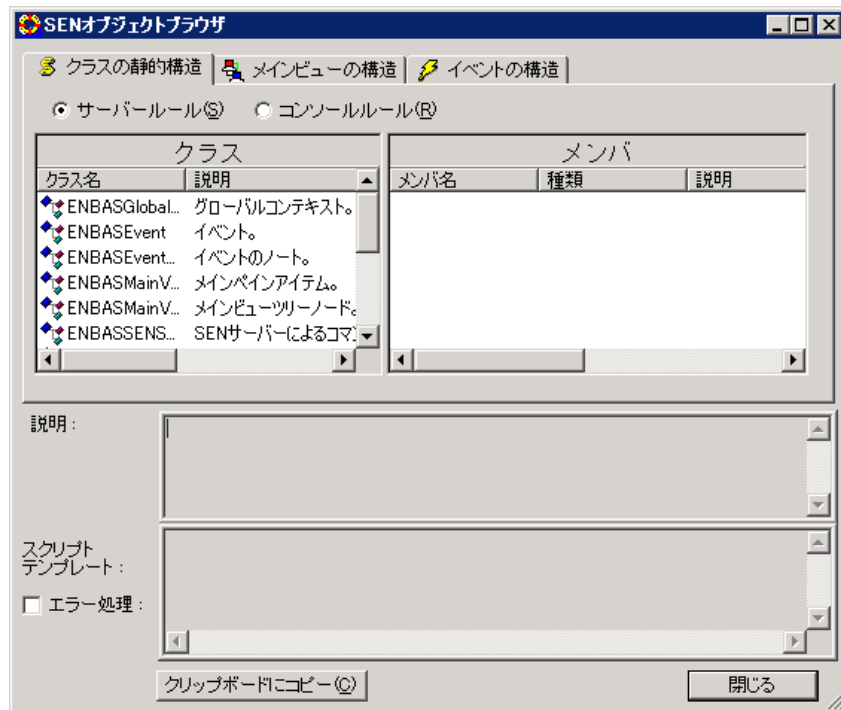


図 5.1-53 オブジェクトブラウザ画面

5.1.9.1 オブジェクトブラウザの基本操作

オブジェクトブラウザの基本的な使用方法は、参照するイベントのプロパティやメソッドなどを選択し、スクリプトテンプレート欄にその内容を表示します。[クリップボードにコピー]ボタンを押すと、スクリプトテンプレート欄の内容がクリップボードにコピーされるので、編集集中のルール条件やルールアクションにペーストし使用して下さい。なお、[エラー処理]チェックボックスをチェックする事により、エラー時の処理を含めたスクリプトテンプレートを表示します。

5.1.9.1.1 クラスの静的構造

[クラスの静的構造]タブでは、イベントクラスの種類に依存しない Senju Enterprise Navigator 共通のクラスに関するプロパティやメソッドのスクリプトテンプレートを参照できます。

[サーバールール]ラジオボタンを選択する事により、共通ルール、分配ルール、グループ別ルールおよびグローバル定義の SEN サーバー上でのルール処理に使用するクラスの一覧を参照できます。[コンソールルール]ラジオボタンを選択する事により、コンソールルールおよびイベントビュー表示方法の SEN コンソール上でのルール処理に使用するクラスの一覧を参照できます。

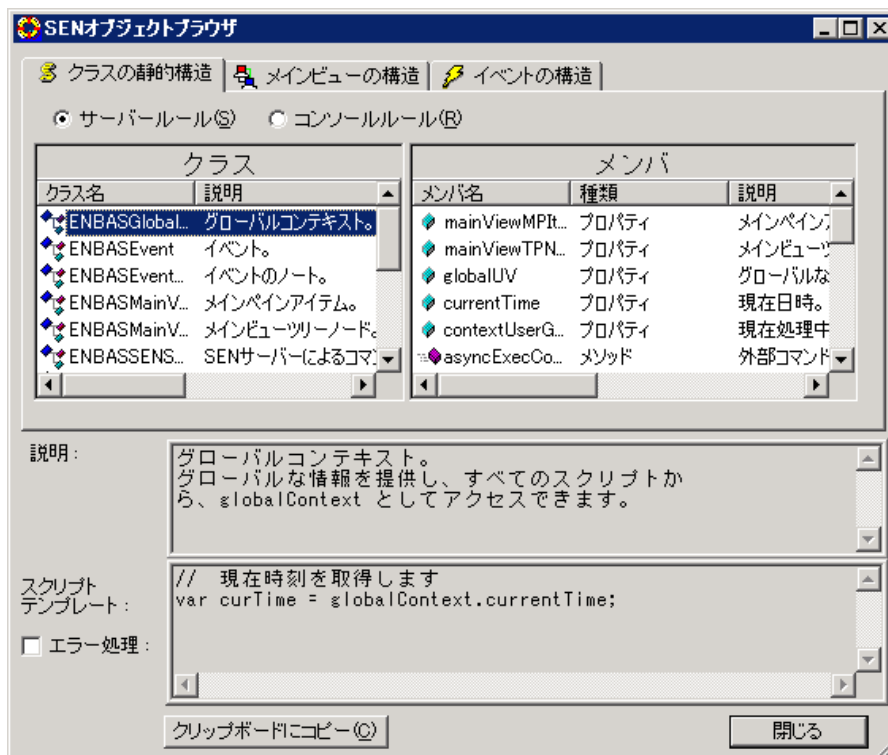


図 5.1-54 オブジェクトブラウザ画面(クラスの静的構造タブ)

5.1.9.1.2 メインビューの構造

[メインビューの構造]タブでは、メインビューのメインペインやメインペインアイテムのプロパティへアクセスするスクリプトテンプレートを参照できます。

[グループ]コンボボックスを選択する事により、ユーザーグループを切り替えます。

[カテゴリ]コンボボックスを選択する事により、ビューカテゴリを切り替えます。

[メインペインの倍率]スライダーを変更する事により、メインペインの表示倍率を変更できます。

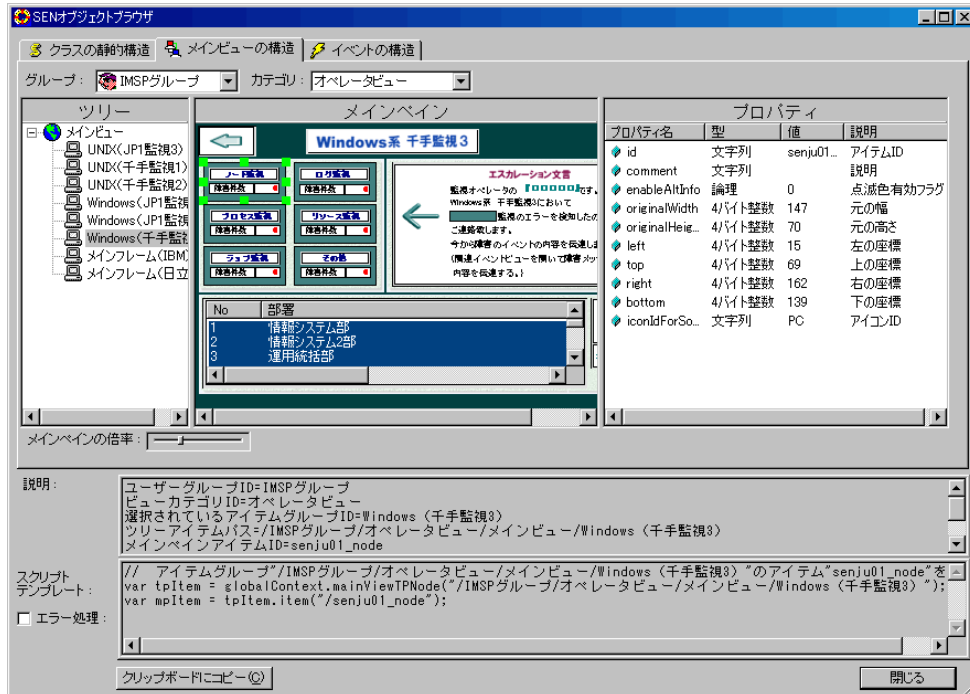


図 5.1-55 オブジェクトブラウザ画面(メインビューの構造タブ)

5.1.9.1.3 イベントの構造

[イベントの構造]タブでは、現在 SEN サーバーが認識可能なすべてのイベントクラスのプロパティを参照できます。

基本クラスとしてメッセージクラスを継承しているイベントクラスの場合、[基本クラスのフィールドを含めて表示]チェックボックスのチェックを外すと、継承元クラスのフィールドを非表示にできます。

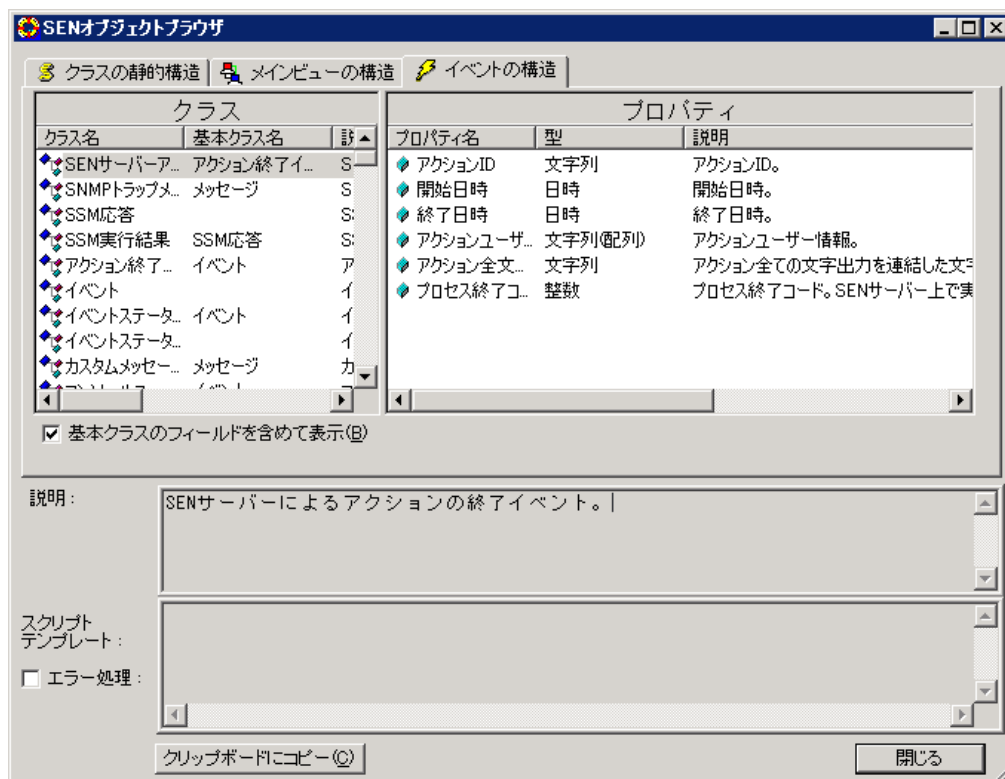


図 5.1-56 オブジェクトブラウザ画面(イベントの構造タブ)

5.1.10 ルールセットのシミュレーション

ルールセットシミュレーションには、イベントビューからシミュレーション対象のイベントを選択し実行する方法と、メニューバーから[ルールセットのシミュレーション]メニューを選択し実行する方法があります。

5.1.10.1 イベントビューからの実行

イベントビューからは、特定のイベントに対してルールセットのシミュレーションを実行できます。

イベントビューからイベントエントリーを選択し、コンテキストメニューから[ルールセットのシミュレーション]を選ぶと、図 5.1-57 のルールセット実行シミュレーション画面を表示します。ルールセット ID にはシミュレーション適用するルールセット ID を指定します。定義済みの一覧から選択する場合は、[参照]ボタンを押します。想定日時はシミュレーション実行を想定する日時を指定します。この日時にシミュレーションが実行されるという意味ではありません。イベントフィルタが設定してある場合、[イベントフィルタを含める]にチェックすると、イベントフィルタの適用を考慮したシミュレーションを実行します。

複数のイベントを対象にシミュレーションを実行する場合は、イベントビューから Shift キーや Ctrl キーを使用して複数のイベントエントリーを選択し、コンテキストメニューから[ルールセットシミュレーション]を選びます。

ルールセット実行シミュレーション画面で実行ボタンを押すと、図 5.1-58 のシミュレーション結果画面が表示されます。

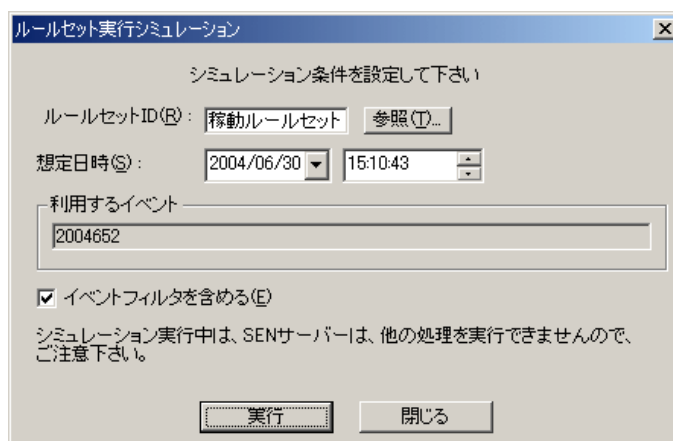


図 5.1-57 ルールセット実行シミュレーション画面（イベントビュー）

```

メッセージ
ルールセット(id=本番稼働ルールセット)のシミュレーション
シミュレーション想定日時=20040630151043.20
シミュレーション実行日時=20040630151059.09
===== ↓ スクリプト(共通ステージと分配ルール) ↓ =====
00000 //-----
00001 //ステータス定義
00002 //-----
00003 var OPEN = 0;
00004 var ACKNOWLEDGED = 1;
00005 var ASSIGNED = 2;
00006
00007
00008
00009
00010 function _commonRule0 {
00011   globalContext.outputToFile( 7, "ステージ繰り返しイベントの破棄-メッセージ");
00012   if ((typeof(currentEvent) != typeof(undefined)) && currentEvent.isInstanceOf("[C64C47FE-E291-4BA9-B273-266
00013     globalContext.ruleProcessReport(4,10,"メッセージ");
00014     if ( currentEvent.checkRepetitionWithEnableTime(3600,10,{BE87ED32-4761-48e5-8F02-89A6036177CB-0} ,0
00015       globalContext.outputMessage("このイベントを破棄しました");
00016       globalContext.ruleProcessReport(4,100,"メッセージ");
00017       return false;
00018     }
00019   } else {
00020     globalContext.ruleProcessReport(4,11,"メッセージ");
00021   }
00022   globalContext.outputMessage("");
00023   globalContext.outputToFile( 7, "ステージイベントの解析-1-過去千手イベント");
00024   if ((typeof(currentEvent) != typeof(undefined)) && currentEvent.isInstanceOf("[4F1C35BC-E001-4A7D-A896-8f
00025     "このイベントは、ステージイベントとして実行された")

```

閉じる

図 5.1-58 ルールセットシミュレーション結果画面

5.1.10.2 メニューバーからの実行

メニューバーからは、指定した時間範囲内に到着したイベントに対してルールセットのシミュレーションを実行することができます。

メニューバーから「ツール」→「ルールセットのシミュレーション」を選択し、図 5.1-59 のルールセット実行シミュレーション画面を表示します。ルールセット ID にはシミュレーション適用するルールセット ID を指定します。定義済みの一覧から選択する場合は、[参照]ボタンを押します。想定日時はシミュレーション実行を想定する日時を指定します。この日時にシミュレーションが実行されるという意味ではありません。イベントフィルタが設定してある場合、[イベントフィルタを含める]にチェックすると、イベントフィルタの適用を考慮したシミュレーションを実行します。

利用するイベントには、シミュレーション対象とするイベントの到着時間範囲を指定します。

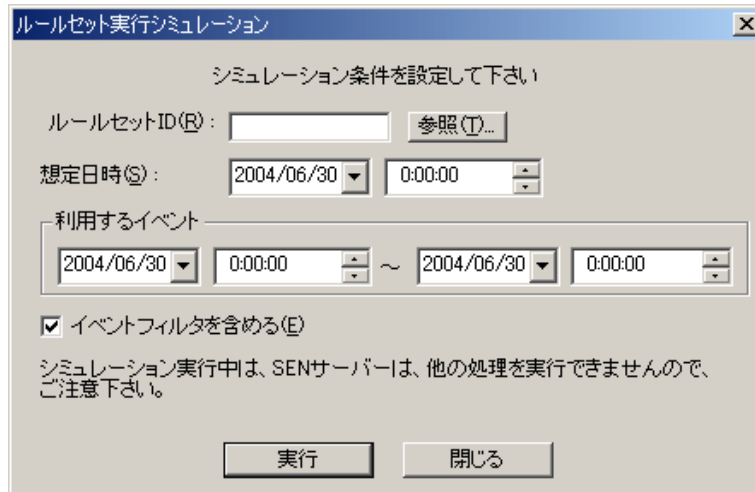


図 5.1-59 ルールセット実行シミュレーション画面（メニューバー）

5.1.10.3 シミュレーション結果の解説

ルールセットのシミュレーションの実行結果例を図 5.1-60 に示します。これは図 5.1-58 の画面内に表示されるメッセージを抜粋したものです。以下、この実行結果例の内容について説明します。

```

ルールセット(id=RuleSet)のシミュレーション
シミュレーション想定日時=20020927215549.85
シミュレーション実行日時=20020927215553.671
===== ↓ スクリプト (共通ステージと分配ルール) ↓ =====
00000 function _commonRule() {
00001 return true;
00002 }
.....
00018 _userGlobalInit();
00019 _dispatchRuleInit();
00020 for ( _idxEv = 0 ; _idxEv < globalContext.numOfEvents ; ++_idxEv ) {
00021 currentEvent = globalContext.eventAt(_idxEv);
00022 if ( !_commonRule() ) continue;
00023 _dispatchRule();
00024 }
00025 _userGlobalTerm();
===== ↑ スクリプト (共通ステージと分配ルール) ↑ =====
===== ↓ スクリプト (グループ別 ID=g1 用ルール) ↓ =====
00000 function _groupRule() {
00001 globalContext.outputToLogFile( 7, 'ステージ:アクションの実行-1-1');
00002 if ( currentEvent.isInstanceOf('{4F1C35BC-E001-4A7D-A896-8BD26D02C2C4}') ) {
00003 globalContext.outputMessage('このルールアクションを実行します');
00004 currentEvent.color = 255;
00005 currentEvent.colour = 255;
00006 }
.....
00016
00017 _userGlobalInit();
00018 for ( _idxEv = 0 ; _idxEv < globalContext.numOfEvents ; ++_idxEv ) {
00019 currentEvent = globalContext.eventAt(_idxEv);
00020 if ( !_groupRule() ) continue;
00021 }
00022 _userGlobalTerm();

```

```

===== ↑ スクリプト(グループ別 ID=g1 用ルール) ↑ =====

=====以上が実行するスクリプト. 以下は実行結果=====
共通ルール(共通ステージと分配ルール)を実行します
ENBASGlobalContext::get_numOfEvents() 結果=1
currentEvent 用に 0 番目が選択されました. イベント=domainName=test, baseFlag=false,
...
outputToLogFile(7, 分配ステージ:ユーザーグループへの分配-1)
イベント(sequenceId = 5633)
ENBASEvent::isInstanceOf(4F1C35BC-E001-4A7D-A896-8BD26D02C2C4) 結果=true
イベント(sequenceId=5633)は, g1 に分配されました
ENBASGlobalContext::get_numOfEvents() 結果=1

共通ルール (共通ステージと分配ルール)の実行は成功しました

グループ別(ID=g1)ルールを実行します
ENBASGlobalContext::get_numOfEvents() 結果=1
currentEvent 用に 0 番目が選択されました. イベント=domainName=test, baseFlag=false,
...
イベント(sequenceId = 5637)
ENBASEvent::isInstanceOf(4F1C35BC-E001-4A7D-A896-8BD26D02C2C4) 結果=true
このルールアクションを実行します
ENBASEvent::put_color(255). 設定処理は行われません
スクリプト実行中のエラー[code=0, source=Microsoft JScript 実行時エラー, description=オブジェクト
でサポートされていないプロパティまたはメソッドです。 , scode=-2146827850,
sourceContext=0, lineNumber=5,charPosition=0,currentGroupContext=g1]
IActiveScript::ParseScriptText error in ENBServerRuleMgr::RunScript()
HRESULT=-2147352319

グループ別(ID=g1)ルールの実行に失敗しました

```

図 5.1-60 ルールセットシミュレーション結果の例

最初の行はシミュレーションを実行したルールセット ID を表示しています。2 行目のシミュレーション想定日時は、図 5.1-57 で指定したルールの実行を想定した日時を表示しています。3 行目のシミュレーション実行日時は、実際にシミュレーションを実行した日時を表示しています。

“スクリプト(共通ステージと分配ルール)”で囲まれた 1 番目のブロックには、共通ルールと分配ルールで実行された下記スクリプトの内容が表示されます。

<code>_commonRule()</code>	共通ルールで実行されるスクリプトの内容です。
<code>_dispatchRuleInit()</code>	拡張用。
<code>_dispatchRule()</code>	分配ルールで実行される内容です。
<code>_userGlobalInit()</code>	グローバル定義ルールのグローバル初期化処理で実行されるスクリプトの内容です。
<code>_userGlobalTerm()</code>	グローバル定義ルールのグローバル終了処理で実行されるスクリプトの内容です。

“スクリプト(グループ別 ID=~用ルール)”で囲まれた 2 番目のブロックには、グループ別ルールで実行された下記スクリプトの内容が表示されます。グループ別ルールは、ルール毎に別々に実行されます。

<code>_groupRule()</code>	各グループ別ルールで実行されるスクリプトの内容です。
<code>_userGlobalInit()</code>	グローバル定義ルールのグローバル初期化処理で実行されるスクリプトの内容です。
<code>_userGlobalTerm()</code>	グローバル定義ルールのグローバル終了処理で実行されるスクリプトの内容です。

“以上が実行するスクリプト. 以下は実行結果”以降の最後のブロックには、シミュレーションを実行した各イベントのプロパティおよびルール毎の処理結果が表示されます。

ルールセットのシミュレーションでは、ルールアクションは実際に実行されず、図 5.1-61 のように実行トレース結果のみが出力されます。

```

イベント(sequenceId = 5637)
ENBASEvent::isInstanceOf(4F1C35BC-E001-4A7D-A896-8BD26D02C2C4) 結果=true
このルールアクションを実行します
ENBASEvent::put_color(255). 設定処理は行われません

```

図 5.1-61 ルールセットシミュレーション結果の例 (実行トレース結果)

また、ルールにエラーが存在する場合は、図 5.1-62 のようなエラー内容が出力されます。グループの ID を `currentGroupContext` の値から、エラーが発生したスクリプトの行番号を `lineNumber` の値から参照し、該当するルールスクリプトのエラーを修正して下さい。

```

スクリプト実行中のエラー[code=0, source=Microsoft JScript 実行時エラー, description=オブジェクト
でサポートされていないプロパティまたはメソッドです。 , scode=-2146827850,
sourceContext=0, lineNumber=5,charPosition=0,currentGroupContext=g1]
IActiveScript::ParseScriptText error in ENBServerRuleMgr::RunScript()
HRESULT=-2147352319

```

図 5.1-62 ルールセットシミュレーション結果の例 (ルールにエラーがある場合)

5.1.11 チューニングガイド

5.1.11.1 共通ルールおよびグループ別ルールに要する処理時間の調査

SEN サーバーが共通ルールおよびグループ別ルールに要した処理時間は、sjENB_ServerPerf_RuleTime.log ログファイルに出力されます。

ここでは Microsoft Excel を利用し、sjENB_ServerPerf_RuleTime.log から共通ルールおよびグループ別ルールに要した処理時間を調査する方法を説明します。

- (1) sjENB_ServerPerf_RuleTime.log ログファイルを SEN サーバーから Microsoft Excel がインストールされた PC にコピーします。ログファイルの出力先は「**3.3.6 ログファイルの運用**」を参照して下さい。
- (2) Microsoft Excel にて sjENB_ServerPerf_RuleTime.log ファイルを開きます。Excel より「ファイルを開く」で開いてテキストファイルウィザードにて区切り文字に「タブ」をチェックし、すべての列を「文字列」として設定してオープンして下さい。表示される内容は、左から順にヘッダー(処理日時、SEN サーバー名、ログレベル)、ルールの種類(共通ルールまたはグループ別ルール)、処理時間(単位ミリ秒)、処理したイベント数となります。ルールの種類は、共通ルールの場合"Common"と表示され、グループ別ルールの場合は"Group(ID=ユーザーグループ名)"と表示されます。
- (3) 処理時間÷処理イベント数の結果が、1 イベントのルール処理に要した時間となります。この結果から、ボトルネックとなるルール処理を検出し、ルールのチューニングを行って下さい。

	A	B	C	D	E
88	[Jun 28 15:30:58.01 2004] dragon INFO	Group(ID=Smartグループ)	0	1	
89	[Jun 28 15:31:10.09 2004] dragon INFO	Common	0	1	
90	[Jun 28 15:31:10.10 2004] dragon INFO	Group(ID=Smartグループ)	16	1	
91	[Jun 28 15:31:28.01 2004] dragon INFO	Common	0	1	
92	[Jun 28 15:31:28.01 2004] dragon INFO	Group(ID=Smartグループ)	0	1	
93	[Jun 28 15:31:30.10 2004] dragon INFO	Common	0	1	
94	[Jun 28 15:31:30.10 2004] dragon INFO	Group(ID=Smartグループ)	0	1	
95	[Jun 28 15:31:50.12 2004] dragon INFO	Common	0	1	
96	[Jun 28 15:31:50.12 2004] dragon INFO	Group(ID=Smartグループ)	0	1	
97	[Jun 28 15:31:58.01 2004] dragon INFO	Common	0	1	
98	[Jun 28 15:31:58.03 2004] dragon INFO	Group(ID=Smartグループ)	0	1	
99	[Jun 28 15:32:10.14 2004] dragon INFO	Common	15	1	
100	[Jun 28 15:32:10.14 2004] dragon INFO	Group(ID=Smartグループ)	0	1	
101	[Jun 28 15:32:28.01 2004] dragon INFO	Common	0	1	
102	[Jun 28 15:32:28.01 2004] dragon INFO	Group(ID=Smartグループ)	0	1	
103	[Jun 28 15:32:30.14 2004] dragon INFO	Common	0	1	

図 5.1-63 Microsoft Excel 画面

5.1.11.2 共通グループ及びグループ別ルールの時間あたりのルール処理数の調査

SEN サーバーが、ある時間帯に共通ルール及びグループ別ルールが処理した回数は、sjENB_ServerPerf_RuleCount.log ログファイルに出力されます。

ここでは Microsoft Excel を利用し、sjENB_ServerPerf_RuleCount.log から、共通ルールおよびグループ別ルールで、ある時間帯に処理した回数を調査する方法を説明します。

- (1) sjENB_ServerPerf_RuleCount.log ログファイルを SEN サーバーから Microsoft Excel がインストールされた PC にコピーします。ログファイルの出力先は「**3.3.6 ログファイルの運用**」を参照して下さい。
- (2) Microsoft Excel にて sjENB_ServerPerf_RuleCount.log ファイルを開きます。Excel より「ファイルを開く」で開いてテキストファイルウィザードにて区切り文字に「タブ」をチェックし、すべての列を「文字列」として設定してオープンして下さい。パフォーマンス調査におけるルール情報の記録間隔で設定した時間間隔ごとに表示されます。
- (3) 表示される内容は、先ずパフォーマンスを測定している時間帯が記録されています。その次にルール ID ごとの処理回数が表示され、左から順にユーザーグループ、ルール ID、条件-1 成立回数、条件-1 不成立回数、条件-2 成立回数、条件-2 不成立回数、アクションの実行回数となります。最後にユーザーグループごとにイベントの入力数、出力数が表示され、左から順に、ユーザーグループ ID、入力数、出力数になります。ユーザーグループは、共通ルールの場合"Common"と表示され、グループ別ルールの場合は"Group(ID=ユーザーグループ名)"と表示されます。

	A	B	C	D	E	F	G
1855	[Jun 29 2015:48:71 2004]	josef INFO	2004-06-29	2010:48~2004-06-29	2015:48		
1856	ユーザーグループID	ルールID	条件-1 成立	条件-1 不成立	条件-2 成立	条件-2 不成立	アクションの実行
1857	Common	CheckCaseTimer	1				1
1858	Common	Color		247			
1859	Common	D-1		18			
1860	Common	D-2		18			
1861	Common	D-3		18			
1862	Common	D-4		18			
1863	Common	D-5		18			
1864	Common	D-6		18			
1865	Common	NMCEvent		18			
1866	Common	RuleID001		247			
1867	Common	RuleID001 0		247			
1868	Common	RuleID001 1		247			
1869	Common	RuleID001 2	247				
1870	Common	RuleID001 4		254		254	
1871	Common	RuleID001 3		247			
1872	PL	CheckCaseTimer				3	
1873	SEN001	RuleID001 5	5	242			5
1874	SEN001	RuleID001 8		247			
1875	SEN001	RuleID001 9		247			
1876							
1877		入力数		出力数			
1878	Common		265	265			
1879	SEN001		247	247			
1880							

図 5.1-64 Microsoft Excel 画面

5.2 リファレンス

5.2.1 ルール内で参照可能な変数

5.2.1.1 サーバー側ルールで参照可能な変数

サーバー側ルールのルール条件およびルールアクションから参照可能な変数(インスタンス)の一覧を表 5.2-1 に示します。

表 5.2-1 サーバルールから参照可能な変数一覧

変数名	型(オブジェクト)	説明
globalContext	ENBASGlobalContext	SEN サーバーでのルール実行において、グローバルに参照可能なインスタンスです。 共通ルール処理では、共通ルール処理実行内でのグローバルな状態を表します。グループ別ルール処理では、グループ別ルール処理実行内でのグローバルな状態を表します。共通ルール処理とグループ別ルール処理とで、参照するインスタンスは独立しています。
currentEvent	ENBASEvent	現在処理対象となっているイベントを参照します。 共通ルール処理では、SEN サーバー到着直後のイベントを参照します。グループ別ルール処理では、各グループへの分配ルール処理実行直後のイベントを参照します。
historyElement	ENBASEvent	過去イベントを参照します。 共通ルール処理では、ルール処理前となる SEN サーバー到着直後の過去イベントを参照します。グループ別ルール処理では、各グループへの分配ルール処理およびグループ別ルール処理実行後のイベントを参照します。
actHistoryElement	ENBASActionHistory	アクション実行履歴を参照します。 共通ルール処理では、共通ルール処理実行内でのアクション実行履歴を表します。グループ別ルール処理では、グループ別ルール処理実行内でのアクション実行履歴を表します。共通ルール処理とグループ別ルール処理とで、参照するインスタンスは独立しています。

以下、サーバー側ルールにおいて定義される各オブジェクトのプロパティならびにメソッドについて説明します。なお、実際の使用例は「5.3 ルール事例集」を参照して下さい。

1) イベントオブジェクト(ENBASEvent)

SEN サーバーにおけるイベントは ENBASEvent というオブジェクトで表されます。現在イベント(currentEvent)、過去イベント(historyElement)などはすべて ENBASEvent オブジェクトです。

ENBASEvent オブジェクトのプロパティ一覧を表 5.2-2 に示します。

表 5.2-2 ENBASEvent オブジェクトプロパティ一覧

名前	型	パラメータ	読み書き属性	説明
effect	Number	なし	読み取り専用	イベントの更新モード 0=new(新規) 1=delete(削除) 2=modify(変更)
dataClassId	String	なし	読み取り専用	クラス ID 文字列
dataClassName	String	なし	読み取り専用	クラス文字列
uniqueKey	String	なし	読み取り専用	ユニークキー
prop	セットした値による	name(String)	読み書き可	属性値 パラメータにはフィールド名文字列(name)を指定します。この値をルールから変更する場合、後続のルール処理に影響を与えないよう十分注意する必要があります。
prop2	セットした値による	name(String), index(Number)	読み書き可	属性値 一つのフィールドに複数の値が格納されているフィールドに対して用います。パラメータにはフィールド名文字列(name)と、何番目の値を参照するか番号(index)を指定します。prop2 において index=0 とした場合は、prop で指定した場合と同じになります。prop と同様、この値をルールから変更する場合、後続のルール処理に影響を与えないよう十分注意する必要があります。
numOfFields	Number	name(String)	読み取り専用	1つのフィールドに含まれる値の数 prop2 のインデックスの上限を求める時に利用します。prop2 のインデックスには、0 から(numOfFields で得られる値-1)までの範囲を指定できます。
uv	セットした値による	name(String)	読み書き可	ユーザー定義属性値 パラメータ name にユーザー変数名文字列を指定します。 例) currentEventuv("NRI") = 1; この値はイベントプロパティ画面のユーザー定義変数タブに表示されます。
domainName	String	なし	読み取り専用 (読み書き可)	ドメイン名 スクリプト内で作成したイベントに対してのみ、読み書き可能です。
userId	String	なし	読み取り専用	ユーザーID コンソールユーザー作成イベントの送信元ユーザーの ID が表示されます。
userGroupId	String	なし	読み取り専用	ユーザーグループ ID

名前	型	パラメータ	読み書き属性	説明
				分配前または、分配後どこにも所属されなかったイベントについては、"" となります。
color	Number	なし	読み書き可	文字色 (RGB 数値で指定) -1 ならば指定なし。
bgColor	Number	なし	読み書き可	背景色 (RGB 数値で指定) -1 ならば指定なし。
eventSeverity	Number	なし	読み書き可	重大度 0= clear(クリア) 1= unknown(不定) 2= warning(警告) 3= minor(軽度) 4= major(重大) 5= critical(致命的) 6= none(なし)
eventStatus	Number	なし	読み書き可	イベントステータス 0=オープン (OPEN) 1=受付済 (ACKNOWLEDGED) 2=割当済 (ASSIGNED) 3=対処完了 (CLOSED)
arrivedTime	Object	なし	読み取り専用	SEN サーバーへのイベント到着時刻 (作成したイベントの場合は作成時刻) ENBASTime オブジェクトのインスタンスを返します。
changedTime	Object	なし	読み取り専用	イベントの変更時刻 ENBASTime オブジェクトのインスタンスを返します。変更が無い場合は null が入ります。
sequenceId	String	なし	読み取り専用	SEN イベントシーケンス ID 64bit 整数を文字列で表現したものに なります。
sourceSequenceId	String	なし	読み取り専用	分配前のイベントの SEN イベントシーケンス ID。分配前のイベントまたは分配されなかったイベントは、sequenceId と同じ値となります。
guide	String	なし	読み書き可	イベントに対して付加するガイド情報。
note	Object	index(Number)	読み取り専用	イベントに記入されたノート。 パラメータには何番目の値を参照するか番号(index)を指定します。 ENBASEventNote オブジェクトのインスタンスを返します。
numOfNotes	Number	なし	読み取り専用	イベントに記入されたノート数。 note のインデックスの上限を求める時に利用します。 note のインデックスには、0 から (numOfNotes で得られる値-1) までの範囲を指定できます。
changedTimeOfEventStatus	Object	Status(Number)	読み取り専用	ステータス別のイベント変更時刻。 パラメータにはステータスの値 (status:0~3) を指定します。 ENBASTime オブジェクトのインスタンスを返します。変更が無い場合は null が入ります。
numOfActions	Number	なし	読み取り専用	イベントに設定されたアクション数。 AddServerAction メソッドにより設定されたアクション数を返します。
numOfActionExecResults	Number	なし	読み取り専用	イベントの実行されたアクション結果数。 AddServerAction メソッドにより設定されたアクションが実行された回数を返します。

名前	型	パラメータ	読み書き属性	説明
actionExecResult	Object	index(Number)	読み取り専用	イベントのアクション結果。 パラメータには何番目の値を参照するかの番号(index)を指定します。 ENBASSEnServerActionExecResult オブジェクトのインスタンスを返します。
ruleExecutionTrace	String	なし	読み取り専用	イベントのルール実行証跡。 このイベントがどのようなルールを通ったかが記録されます。

ENBASEvent オブジェクトのメソッド一覧を表 5.2-3 に示します。

表 5.2-3 ENBASEvent オブジェクトメソッド一覧

名前	戻り値	パラメータ	説明
isMsgEvent	Boolean	なし	メッセージクラスおよびその派生クラス (千手メッセージ、ホストゲートウェイメッセージ等) のイベントなら true を返します。メッセージクラス以外であれば false を返します。
isSjMsgEvent	Boolean	なし	千手メッセージクラスイベントなら true を、それ以外は false を返します。
isSEnSystemMsgEvent	Boolean	なし	Senju Enterprise Navigator の内部イベントなら true を、それ以外は false を返します。
isInstanceOf	Boolean	clsIdOrName (String)	指定された clsIdOrName のインスタンスならば true を返します。clsIdOrName はクラス ID 文字列またはクラス名が指定可能です。なお、clsIdOrName として基本クラスが与えられた場合も true となります。
addRelPage	なし	name(String), uri(String)	パラメータ name で指定されたキーで関連ビュー uri を追加します。関連ビューは URI 形式で指定できます。ここで追加した値はイベントプロパティ画面の関連ページタブに表示されます。
addRelPage2	なし	targetIndex(Number) name(String), uri (String)	基本的に addRelPage と同じですが、パラメータ targetIndex で挿入位置を指定して、関連ビューを追加できます。
addAuxInfo	なし	name(String), info(String)	パラメータ name で指定されたキーでユーザー定義付加情報 info を追加します。ここで追加した値はイベントプロパティ画面の付加情報タブに表示されます。
send	なし	なし	作成したイベントを送信します。 作成したイベントでなければ、メソッドは失敗します。
checkRepetition	Boolean	duration(Number), numEvents(Number), key(String), bDrop (Boolean)	一定時間内に受信した重複イベントをチェックするためのメソッドです。これは重複イベントに対するアクション実行ならびにイベントビューへの表示を抑止するのに用いる事ができます。イベントの解析またはアクションの実行ステージのルールアクションで使用する事を想定しています。

名前	戻り値	パラメータ	説明
			<p>duration 秒内に同一ルール条件で受信したイベントをカウントし、bDrop が true の場合は、numEvents 回までのイベントを破棄します(メモリ上に保持しない)。ただし、以降のルール処理は実行されます。bDrop が false の場合は、イベントを破棄しません(メモリ上に保持する)。同一ルール条件で numEvents 回受信すると、bDrop に関わらずイベントは破棄されず(メモリ上に保持する)、その時点でカウンタがリセットされます。カウンタがリセットされた時点から duration 秒以内に numEvents 回、同一ルール条件のイベントを受信しなかった場合は、duration 秒経過後カウンタはリセットされます。イベントが numEvents に達するまでは、このメソッドの戻り値は true が返り、numEvents 回受信したら false が返ります。</p> <p>key にはカウンタをユニークに特定するためのキー値を指定します。これはルール全体でユニークである必要があります。</p> <p>なお、本メソッドにより生成される重複イベントカウント用の内部変数は、下記のタイミングで削除されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • duration で指定した時間以上経過すれば、自動的に削除されます。 • globalContext の dropCheckRepetitionKey メソッドにより明示的に削除できます。
addServerAction	なし	actionName(String) commandSequence(String), actionUserInfo(String)	<p>パラメータ actionName で指定されたキーでアクション commandSequence を追加します。</p> <p>パラメータ actionUserInfo に設定した値はアクション終了イベントに入ります。また、パラメータ actionUserInfo の欄には「(String)」とありますが、Jscript 文字配列、SafeArray 文字配列も処理できます。</p> <p>ここで追加した値はイベントのコンテキストメニュー、アクションの実行に表示されます。</p>
sjAddSenjuCommand	なし	actionName(String) domainName(String) commandGroupName(String) commandName(String) nodeType(Number) username(String) nodeGroupName(String) params(String) actionUserInfo(String)	<p>パラメータ actionName で指定されたキーで commandGroupName と commandName で指定された千手コマンドを追加します。</p>

名前	戻り値	パラメータ	説明
			<p><code>domainName</code> にはアクションが実行される千手プロデューサのドメイン名が入ります。<code>nodeType</code>にはアクションを実行するノードの指定を行います(0=なし、1=ノード指定、2=ノードグループ指定)。<code>userName</code>にはコマンドを実行するユーザー名が入ります(ノード/ノードグループ指定の場合)。<code>nodeGroupName</code>にはノード指定ならノード名、ノードグループ指定ならグループ名が入ります。<code>params</code>はコマンドパラメータを指定します。コマンドで決められた順番にパラメータを格納した配列を指定して下さい。また、千手上では省略可能なパラメータも必ず空文字("")で指定して下さい。<code>actionUserInfo</code>に設定した値はアクション終了イベントに入ります。</p>
<code>sjAddUserCommand</code>	なし	<code>actionName(String)</code> <code>domainName(String)</code> <code>commandGroupName(String)</code> <code>commandName(String)</code> <code>nodeType(Number)</code> <code>username(String)</code> <code>nodeGroupName(String)</code> <code>params(String)</code> <code>actionUserInfo(String)</code>	<p>パラメータ <code>actionName</code> で指定されたキーで <code>commandGroupName</code> と <code>commandName</code> で指定されたユーザーコマンドを追加します。</p> <p><code>commandGroupName</code> には「コマンドグループ名」または「コマンドグループ名 ¥フォルダ名」の形式で指定します。<code>domainName</code> にはアクションが実行される千手プロデューサのドメイン名が入ります。<code>nodeType</code>にはアクションを実行するノードの指定を行います(0=なし、1=ノード指定、2=ノードグループ指定)。<code>userName</code>にはコマンドを実行するユーザー名が入ります(ノード/ノードグループ指定の場合)。<code>nodeGroupName</code>にはノード指定ならノード名、ノードグループ指定ならグループ名が入ります。<code>params</code>はコマンドパラメータを指定します。コマンドで決められた順番にパラメータを格納した配列を指定して下さい。また、千手上では省略可能なパラメータも必ず空文字("")で指定して下さい。<code>actionUserInfo</code>に設定した値はアクション終了イベントに入ります。</p>
<code>addRuleExecutionTrace</code>	なし	<code>msg(String)</code>	<p>パラメータ <code>msg</code> で指定されたルール実行証跡を追加します。</p> <p>ここで追加した値はイベントプロパティ画面のルール実行証跡タブに表示されます。</p>
<code>addMailTemplate</code>	なし	<code>templateName(String)</code> , <code>rcptTo(String)</code> , <code>cc(String)</code> , <code>subject(String)</code> , <code>params(String)</code>	<p>パラメータ <code>templateName</code> で指定されたキーでメールテンプレートを追加します。</p> <p>パラメータ <code>rcptTo</code> は宛先メールアドレスを指定します。</p> <p>パラメータ <code>cc</code> はカーボンコピーの宛先メールアドレスを指定します。</p> <p>パラメータ <code>subject</code> は件名を指定します。</p> <p>パラメータ <code>params</code> は拡張用パラメータです。常に <code>null</code> を指定して下さい。</p> <p>複数の宛先メールアドレスを指定する場合は、';'または、';'にて区切って指定します。</p> <p>ここで追加した値はイベントのコンテキストメニュー、メールを送るに表示されません。</p>

名前	戻り値	パラメータ	説明
addCreateEvent	なし	eventName(String) clsIdOrName(String) propertys (String) values (String) msg (String) params (String)	<p>パラメータ eventName で指定されたキーで SEN サーバーに CIsIdOrName クラスのイベントを送信するアクションを追加します。パラメータ CIsIdOrName はイベントクラスの ID またはクラス名を指定します。</p> <p>パラメータ propatys は CIsIdOrName で指定したイベントのプロパティを、パラメータ values はそのプロパティに設定する値を指定します。propatys と values には同じ数の配列を設定し、配列のインデックスをペアとして指定します。</p> <p>パラメータ msg はイベント送信後に表示される確認メッセージを指定します。空(“”)を指定すると何も表示されません。</p> <p>パラメータ params は拡張用パラメータです。常に null を指定して下さい。</p>
formatMessage	String	なし	イベントの情報を文字列にして取得します。

2) イベントノートオブジェクト (ENBASEventNote)

ENBASEventNote オブジェクトは、イベントに記入されたノートを表すオブジェクトです。

これは `CurrentEvent.note` の結果により参照できます。

ENBASEventNote オブジェクトのプロパティ一覧を表 5.2-4 に示します。

表 5.2-4 ENBASEventNote オブジェクトプロパティ一覧

名前	型	パラメータ	読み書き属性	説明
writeName	String	なし	読み取り専用	ノートの記入者名。
writtenTime	Object	なし	読み取り専用	ノートの記入時刻。 ENBASTime オブジェクトのインスタンスを返します。
loginUserId	String	なし	読み取り専用	記入したユーザーのユーザーID。
beforeEventStatus	Number	なし	読み取り専用	ノートの記入前イベントステータス。
afterEventStatus	Number	なし	読み取り専用	ノートの記入後イベントステータス。
note	String	なし	読み取り専用	ノート

3) グローバルコンテキストオブジェクト(ENBASGlobalContext)

SEN サーバーにおけるルール実行コンテキストを保持する globalContext は ENBASGlobalContext というオブジェクトで表されます。これは、現在処理中のイベントに関する情報やメインビュー(メインペイン)における各アイテムへの参照、ユーザー定義変数などを格納するものです。

ENBASGlobalContext オブジェクトのプロパティ一覧を表 5.2-5 に示します。

表 5.2-5 ENBASGlobalContext オブジェクトプロパティ一覧

名前	型	パラメータ	読み書き属性	説明
mainView TPNode	Object	nodePath(String)	読み書き可	パラメータ nodePath で表されるメインペインツリーノードのオブジェクトへの参照を取得します。nodePath は、"/grpId/categoryId/treePath"の形式で指定します。メインペインツリーノードは、ENBASMainViewTPNode オブジェクトのインスタンスです。
mainView MPIItemDef	Object	itemPath(String)	読み取り専用	パラメータ itemPath で表されるメインペインアイテムのオブジェクトへの参照を取得します。itemPath は、基本アイテムの場合は"/メインペインの ID/メインペインアイテムの ID"で、結合アイテムの場合は、"/メインペインの ID/結合アイテムの ID/結合アイテム内部の ID /..."の形式で指定可能です。
currentTime	Object	なし	読み取り専用	現在時刻(SEN サーバーのタイムゾーンに基づくローカルタイム)を取得します。ENBASTime オブジェクトのインスタンスを返します。なおルール内で時刻を扱う場合には、必ずこのオブジェクトを使って下さい。
globalUV	セットした値による	name(String)	読み書き可	ユーザー定義変数へのアクセスのための領域です。パラメータ name をキーとしてユーザー定義変数にアクセスできます。 例) globalUV("Application ID")
contextUser GroupId	String	なし	読み取り専用	現在ルール処理中のユーザーグループ ID を取得できます。共通ルールならば空文字です。

ENBASGlobalContext オブジェクトのメソッド一覧を表 5.2-6 に示します。

表 5.2-6 ENBASGlobalContext オブジェクトメソッド一覧

名前	戻り値	パラメータ	説明
asyncExecCommand	Object	commandSequence (String), actionUserInfo (String) relObject (Object)	パラメータ commandSequence で指定された外部コマンドを実行します。パラメータ actionUserInfo には、アクション終了イベントに入る文字列または文字列配列を指定します。パラメータ relObject は現在、サポートされていません。null を指定して下さい。コマンド実行結果は、ENBASSENServerExecResult オブジェクトのインスタンスとして返されます。 例) globalContext.asyncExecCommand("c:¥¥test.cmd -a","テストコマンド",null);

名前	戻り値	パラメータ	説明
execCommand	Object	commandName (String), params (String)	<p>パラメータ <code>commandName</code> で指定された外部コマンドを実行します。パラメータ <code>params</code> には、コマンド実行に必要なパラメータを指定します。コマンド実行結果は、<code>ENBASENServerExecResult</code> オブジェクトのインスタンスとして返されます。</p> <p><code>execCommand</code> は従来との互換性のために残されており、将来廃止される可能性があります。代わりに、<code>asyncExecCommand</code> を使用して下さい。</p> <p>例)</p> <pre>globalContext.execCommand("c:\¥¥test.cmd", ");</pre>
sendMail	なし	mailFrom (String), rcptTo (String...), cc (String...), subject (String), contents (String), attachments (String)	<p>指定された内容でメールを送信します。以下のパラメータを指定します。</p> <p><code>mailFrom</code>: 発信元メールアドレス。 <code>rcptTo</code>: 宛先メールアドレス。 複数の宛先は、','または','にて区切って指定します。 <code>cc</code>: カーボンコピーの宛先メールアドレス。 複数の宛先は、','または','にて区切って指定します。 <code>subject</code>: 件名。 <code>contents</code>: メールの内容。 <code>attachments</code>: 添付ファイル名。 添付ファイルを利用しない場合は、<code>null</code> を指定して下さい。 指定する場合は、文字列または、文字列の配列にて指定して下さい。 ファイル名には、環境変数名を含むことができます。</p> <p><code>sendMail</code> は従来との互換性のために残されており、将来廃止される可能性があります。代わりに、メール送信連携アダプタを利用してメール送信する <code>mlAsyncSendMail</code> を使用して下さい。</p> <p>例) <code>globalContext.sendMail("mailFrom_sen@nri.co.jp", "rcptTo_sen@nri.co.jp,rcptTo_senju@nri.co.jp", "", "Alert notification by SEN Server", "This message is automatically sent by SEN Server. Please discard.", "");</code></p>
outputToLogFile	なし	level(Number), msg (String)	<p>パラメータ <code>msg</code> で指定された内容を、パラメータ <code>level</code> で指定したログレベルにて、ログファイル(<code>sjENB_Server.log</code>)に出力します。</p> <p>パラメータ <code>level</code> は、以下の値が指定可能です。</p> <p>3=エラー(ERR レベル) 4=警告(WARNING レベル) 5=注意(NOTICE レベル) 6=情報(INFO レベル) 7=詳細調査(DEBUG レベル)</p>
outputToUserLogFile	なし	level(Number) fileName(String) msg(String)	<p>パラメータ <code>msg</code> で指定された内容を、パラメータ <code>level</code> で指定したログレベルにて、パラメータ <code>fileName</code> で指定したログファイルに出力します。</p> <p>パラメータ <code>level</code> は、以下の値が指定可能です。</p> <p>3=エラー(ERR レベル) 4=警告(WARNING レベル) 5=注意(NOTICE レベル) 6=情報(INFO レベル) 7=詳細調査(DEBUG レベル)</p> <p>出力先は<code>%SENSVHOME%\log</code> フォルダ下となります。</p>

名前	戻り値	パラメータ	説明
outputToEventLog	なし	level(Number) source(String) type(Number) category(Number) eventid(Number) msg(String)	パラメータ msg で指定された内容を、パラメータ level で指定したログレベルにて、パラメータ source で指定したイベントログにイベントを出力します。 3=エラー(ERR レベル) 4=警告(WARNING レベル) 5=注意(NOTICE レベル) 6=情報(INFO レベル) 7=詳細調査(DEBUG レベル) source を省略する場合は空文字("")を指定して下さい。省略した場合は「sjENB_Server」と表示されます。 category は、イベントログを分類したい場合に設定します。分類不要の場合は 0 を設定して下さい。 eventid は、ソース名を指定した場合のみ有効です。イベント ID を指定したい場合に設定します。指定しない場合は 0 を設定して下さい。 出力先はイベントログとなります。
outputMessage	なし	msg (String)	メッセージを出力します。 シミュレーションモードならばシミュレーション結果内、そうでなければ詳細ログレベルでログに出力されます。
createEvent	Object	clsIdOrName(String)	イベントのオブジェクトを作成します。 パラメータ clsOrName にクラス名かクラス ID を設定する事で、そのクラスのオブジェクトを生成する事が可能。
createSjMsgEvent	Object	なし	千手メッセージクラスイベントのオブジェクトを作成します。
dropGlobalUV	なし	varName (String), ignoreNotExist(Boolean)	ユーザー定義変数を削除します。 パラメータ varName にユーザー定義変数の名称を指定します。 ignoreNotExist=true を指定すると、削除対象が存在しなくてもエラーになりません。
dropMatchedGlobalUV	なし	varName(String), findMode(Number), ignoreNotExist(Boolean)	ユーザー定義変数を削除します。 パラメータ varName にユーザー定義変数の名称を指定します。 パラメータ findMode で削除対象のユーザー定義変数を検索する方法を指定します。 0=varName で指定した値と前方一致 1=varName で指定した値と後方一致 2=varName で指定した値と部分一致 3=varName で指定した値と完全一致 全てのユーザー定義変数を削除する場合には、null を指定して下さい。 ignoreNotExist=true を指定すると、削除対象が存在しなくてもエラーになりません。
dropCheckRepetitionKey	なし	key(String), ignoreNotExist(Boolean)	ENBASEvent オブジェクトの checkRepetition メソッドにより生成される、重複イベントカウント用内部変数を削除します。 パラメータ key に checkRepetition をユニークに特定するためのキー値を指定します。 ignoreNotExist=true を指定すると、削除対象が存在しなくてもエラーになりません。通常は、ignoreNotExist=true を指定して下さい。
outputToSENConsole	なし	userGroupId(String) msg(String)	接続中の SEN コンソールにメッセージを送信します。 userGroupId は送信先のユーザーグループ。空文字ならばすべての SEN コンソールを意味します。 グループ別ルールでは、userGroupId は、そのユーザーグループ ID が指定されていなければエラーになります。

名前	戻り値	パラメータ	説明
parseAsTime	Object	BSTR str	文字列をパースし、フォーマットが、YYYY-MM-DDTHH:MM:SS または YYYY-MM-DD HH:MM:SS ならば、ENBASTime オブジェクトのインスタンスを作成します。
getProducer	Object	domainName(String) params(Number)	一つのドメインを表すプロデューサのインスタンスをドメイン名から取得します。 パラメータ domainName にインスタンスを取得したいドメイン名を指定して下さい。 パラメータ params は拡張用パラメータです。常に null を指定して下さい。 取得するオブジェクトは ENBASProducer オブジェクトのインスタンスです。
getEventById	Object	seqId(String)	過去イベントをシーケンス ID から取得します。 パラメータ seqId に取得したいイベントのシーケンス ID を指定します。共通ルール内では到着イベントのみにアクセス可能であり、グループ別ルールでは、該当するグループのイベントのみにアクセス可能です。 ENBASEvent オブジェクトのインスタンスを返します。
dropEvent	なし	ev (ENBASEvent)	イベントに破棄のマークを付けます。 破棄のマークが付いたイベントはメモリ上に保持しないようにし、イベント量を削減します。 ただし、以降のルール処理は実行されます。
createObject	Object	progId (String) params(Number)	パラメータ progId に指定された COM オブジェクトを生成しインスタンスを返します。 パラメータ params は拡張用パラメータです。常に null を指定して下さい。



千手連携アダプタが連携先の千手ドメインと接続していない時などアダプタが指定したドメインと接続できていない状態で getProducer メソッドを呼び出すとスクリプトエラーになります。getProducer メソッドを try~catch で囲むようにして、エラーが発生してもルール処理を継続できるようにして下さい。なお、ドメインと接続できていない場合は、イベントビューにその旨のメッセージが出力されます。getProducer メソッドでスクリプトエラーが発生した場合、まず、イベントビューを参照し、ドメインとの接続状況を確認して下さい。

4) ENBASMainViewTPNode オブジェクト

ENBASMainViewTPNode オブジェクトは、メインビューにおけるツリーペインの各ツリーノード(ビューアイテムグループ)を表すものです。これは、globalContext の mainViewTPNode プロパティにより参照でき、割り付けられたメインペインの各アイテムへの参照を保持します。

ENBASMainViewTPNode オブジェクトのプロパティ一覧を表 5.2-7 に示します。

表 5.2-7 ENBASMainViewTPNode のプロパティ一覧

名前	型	パラメータ	読み書き属性	説明
treeNodeId	String	なし	読み取り専用	ツリーノード ID
iconId	String	なし	読み書き可	アイコン ID
comment	String	なし	読み書き可	コメント
nodeType	Number	なし	読み取り専用	ノード種別 0=汎用ノード 1=実行システムインポート ハンドラにより生成された ベースとなるノード 2=実行システムインポートに より作成された表示実行 システムノード
sourceMain PanelId	String	なし	読み取り専用	生成元メインペイン ID
childNode	Object	index(Number)/ name (String)	読み書き可	子ツリーノード パラメータ index に子ツリーノード のインデックスを指定するか、また は name にツリーノードパスを指定 する事により、ツリーノード (ENBASMainViewTPNode) オブ ジェクトを取得できます。ツリーノ ードパスは、"/nodeId/..."で指定 可能です。
numOfchildNodes	Number	なし	読み取り専用	割り付けられたメインペイン下の子 ツリーノードの数を返します。
item	Object	index(Number)/ name (String)	読み書き可	メインペインアイテム パラメータ index にアイテムのイン デックスを指定するか、または name にアイテムパスを指定する事 により、メインペインアイテム (ENBASMainViewMPItem) オブ ジェクトを取得できます。アイテム パスは、"/itemId/..."で指定可能 です。
numOfItems	Number	なし	読み取り専用	割り付けられたメインペインに含ま れるメインペインアイテムの数を返 します。
mpBgDrawMethod	Number	なし	読み書き可	ツリーノードに対するメインペイン 背景の描画方法を指定します。

名前	型	パラメータ	読み書き属性	説明
				0=単色による塗りつぶし 色は mpBgSolidColor で指定します。 1=イメージの繰り返し イメージIDは mpBgImageId で指定します。
mpBgEnableAltInfo	Boolean	なし	読み書き可	ツリーノードに対するメインペインの背景を点滅させるかどうかを設定します。 true=点滅は有効。 点滅用の別の背景色は mpBgSolidAltColor で指定します。 false=点滅は無効 点滅用の別のイメージIDは mpBgAltImageId で指定します。
mpBgSolidColor	Number	なし	読み書き可	ツリーノードに対するメインペイン背景を塗りつぶす色を指定します。
mpBgSolidAltColor	Number	なし	読み書き可	ツリーノードに対するメインペイン背景を点滅させる場合に、点滅用の別の色を指定します。
mpBgImageId	String	なし	読み書き可	ツリーノードに対するメインペイン背景描画用のイメージ ID を指定します。
mpBgAltImageId	String	なし	読み書き可	ツリーノードに対するメインペイン背景を点滅させる場合に点滅用の別のイメージ ID を指定します。

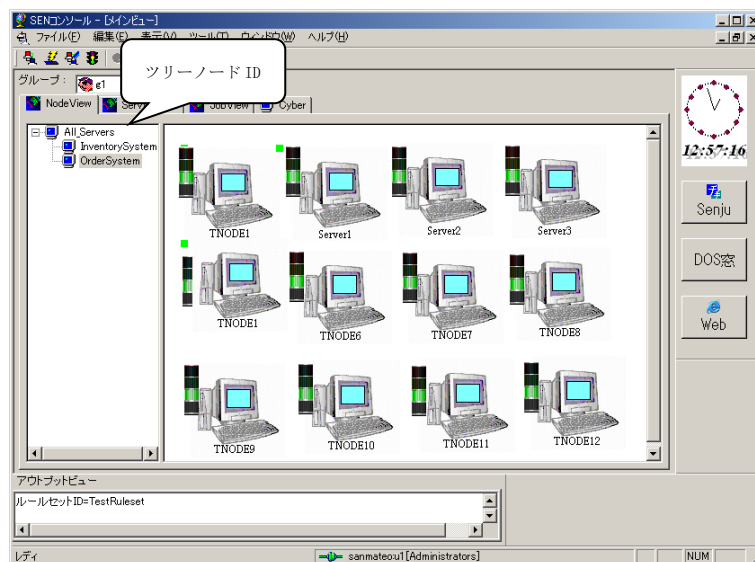


図 5.2-1 メインビュー

ENBASMainViewTPNode オブジェクトのメソッド一覧を表 5.2-8 に示します。

表 5.2-8 ENBASMainViewTPNode のメソッド一覧

名前	戻り値	パラメータ	説明
resetAllItems	なし	なし	割り付けられたメインペイン全体を定義したメインペインに置き換えます。割り当てられたメインペインに存在する各アイテムのプロパティを定義時状態に戻すとともに、元のメインペインに追加(または削除)されたアイテムを削除(または追加)します。ビューアイテムグループでの、"定義の反映"と同じ機能です。
resetItem	なし	item(String)	item で指定されるアイテムのプロパティを定義状態にリセットします。パラメータの欄には「(String)」とありますが、Jscript 文字配列、SafeArray 文字配列も処理できます。
resetTreeNodees	なし	なし	ビューアイテムグループ以下全てのメインペインを定義したメインペインに置き換えます。ビューアイテムグループでの、"定義の反映"と同じ機能です。

5) ENBASMainViewMPIItem オブジェクト

ENBASMainViewMPIItem オブジェクトは、メインペインアイテムを表すものです。メインペインアイテムの各属性を保持します。

ENBASMainViewMPIItem オブジェクトのプロパティ一覧を表 5.2-9 に示します。

表 5.2-9 ENBASMainViewMPIItem のプロパティ一覧

名前	型	パラメータ	読み書き属性	説明
prop	セットした値による	propName (String)	読み書き可	パラメータ propName で指定した属性値を返します。指定可能な属性名はアイテムオブジェクトの種類によって異なります。 例) prop("bgColor")
propUV	セットした値による	category(Number), propName (String)	読み書き可	ユーザー定義プロパティ パラメータ category には以下の値を指定します。 0=定義 1=状態 パラメータ propName にプロパティの名称を指定します。 この値はメインペインアイテムプロパティ画面の定義タブに表示されます。
className	String	なし	読み取り専用	アイテムクラス名 "MainViewMPIItemLine" =直線 "MainViewMPIItemRectangle" = 長方形 "MainViewMPIItemArc" =円・楕円 "MainViewMPIItemImage" = イメージ "MainViewMPIItemText" =文字 "MainViewMPIItemCombinedItem" = 結合アイテム 各アイテムについては、「4.1.3 メインペインアイテムのプロパティ」を参照して下さい。
innerItem	Object	index(Number)/ name (String)	読み取り専用	パラメータ index にアイテムのインデックスを指定するか、または name にアイテムパスを指定する事により、結合アイテム内のアイテムを返します。 結合アイテムでのみ使用可能です。
numOfInnerItems	Number	なし	読み取り専用	結合アイテム内のアイテム数 結合アイテムでのみ使用可能です。
innerItemProp	セットした値による	itemPath(String), propName(String)	読み書き可	結合アイテム内で使われるアイテムのプロパティ パラメータ itemPath には結合アイテム内のアイテムへのパスを指定します。アイテムパスは、"itemId/..."で指定可能です。パラメータ propName は、アイテムのプロパティ名を指定します。 結合アイテムでのみ使用可能です。
numOfRelEvents	Number	なし	読み取り専用	そのアイテムに関連している関連イベントの数
relEvent	Object	index(Number)	読み取り専用	そのアイテムに関連しているイベントを得ます。パラメータにはインデックス(0オリジン)を指定します。

ENBASMainViewMPIItem オブジェクトのメソッド一覧を表 5.2-10 に示します。

表 5.2-10 ENBASMainViewMPIItem のメソッド一覧

名前	戻り値	パラメータ	説明
dropPropUV	なし	category(Number), varName (String), ignoreNotExist(Bo olean)	ユーザー定義プロパティを削除します。 パラメータ category には以下の値を指定し ます。 0=定義 1=状態 パラメータ varName にプロパティの名称を 指定します。 ignoreNotExist=true を指定すると、削除対 象が存在しなくてもエラーになりません。
addRelPage	なし	name(String) uri(String) comment(String)	パラメータ name で指定されたキーで関連ビ ュー url を追加します。関連ビューは URL 形式で指定できます。 ここで追加した値はメインペインアイテムプ ロパティ画面の関連ビュータブに表示され ます。
addRelPage2	なし	targetIndex(Numb er) name(String) uri(String) comment(String)	基本的に addRelPage と同じですが、パラメ ータ targetIndex で挿入位置を指定して、関 連ビューを追加できます。
addServerAction	なし	actionName(String) commandSequenc e(String) actionUserInfo(Str ing) comment(String)	パラメータ actionName で指定されたキーで アクション commandSequence を追加しま す。 パラメータ actionUserInfo に設定した値は アクション終了イベントに入ります。また、パ ラメータ actionUserInfo の欄には「(String)」 とありますが、Jscript 文字配列、SafeArray 文字配列も処理できます。 ここで追加した値はメインペインアイテムの コンテキストメニュー、アクションタブに表示 されます。
sjAddSenjuComm and	なし	actionName(String) domainName(Strin g) commandGroupNa me(String) commandName(Str ing) nodeType(Number) userName (String) nodeGroupName(String) params(String) actionUserInfo(Str ing) commnet (String)	パラメータ actionName で指定されたキーで commandGroupName と commandName で 指定された千手コマンドを追加します。 domainName にはアクションが実行される千 手プロデューサのドメイン名が入ります。 nodeType にはアクションを実行するノード の指定を行います(0=なし、1=ノード指定、 2=ノードグループ指定)。userName にはコ マンドを実行するユーザー名が入ります(ノ ード/ノードグループ指定の場合)。 nodeGroupName にはノード指定ならノード 名、ノードグループ指定ならグループ名が 入ります。params はコマンドパラメータを指 定します。コマンドで決められた順番にパラ メータを格納した配列を指定して下さい。ま た、千手上では省略可能なパラメータも必 ず空文字("")で指定して下さい。 actionUserInfo に設定した値はアクション終 了イベントに入ります。 comment には説明を指定して下さい。
sjAddUserComma nd	なし	actionName(String) domainName(Strin g) commandGroupNa me(String) commandName(Str ing) nodeType(Number) userName (String)	パラメータ actionName で指定されたキーで commandGroupName と commandName で 指定されたユーザーコマンドを追加しま す。 commandGroupName には「コマンドグルー プ名」または「コマンドグループ名 ¥フォル ダ名」の形式で指定します。

名前	戻り値	パラメータ	説明
		nodeGroupName(String) params(String) actionUserInfo(String) comment (String)	domainName にはアクションが実行される千手プロデューサのドメイン名が入ります。 nodeType にはアクションを実行するノードの指定を行います(0=なし、1=ノード指定、2=ノードグループ指定)。userName にはコマンドを実行するユーザー名が入ります(ノード/ノードグループ指定の場合)。 nodeGroupName にはノード指定ならノード名、ノードグループ指定ならグループ名が入ります。params はコマンドパラメータを指定します。コマンドで決められた順番にパラメータを格納した配列を指定して下さい。また、千手上では省略可能なパラメータも必ず空文字("")で指定して下さい。 actionUserInfo に設定した値はアクション終了イベントに入ります。 comment には説明を指定して下さい。
addCreateEvent	なし	eventName(String) clsIdOrName(String) propatys (String) values (String) msg (String) params (String)	パラメータ eventName で指定されたキーで SEN サーバーに ClsIdOrName クラスのイベントを送信するアクションを追加します。 パラメータ ClsIdOrName はイベントクラスの ID またはクラス名を指定します。 パラメータ propatys は ClsIdOrName で指定したイベントのプロパティを、パラメータ values はそのプロパティに設定する値を指定します。propatys と values には同じ数の配列を設定し、配列のインデックスをペアとして指定します。 パラメータ msg はイベント送信後に表示される確認メッセージを指定します。空("")を指定すると何も表示されません。 パラメータ params は拡張用パラメータです。常に null を指定して下さい。

ENBASMainViewMPIItem オブジェクトは、図形クラスによって prop プロパティの引数に指定できる項目が異なります。以下、各図形クラスの prop プロパティの一覧を示します。

表 5.2-11 ENBASMainViewMPIItem 共通の prop プロパティ一覧

引数名	型	説明
id	String	メインビューアイテム ID 読み取り専用。
comment	String	コメント
enableAltInfo	Bool	別の色情報の有効フラグ

表 5.2-12 ENBASMainViewMPIItemLine の prop プロパティ一覧

引数名	型	説明
x0	Number	始点 X 座標 画面左上が原点となります。
y0	Number	始点 Y 座標 画面左上が原点となります。
x1	Number	終点 X 座標 画面左上が原点となります。
y1	Number	終点 Y 座標 画面左上が原点となります。
color	Number	色

引数名	型	説明
		RGB 数値で指定します。
altColor	Number	点減色 RGB 数値で指定します。
style	Number	線のスタイル 0=PS_SOLID(実線) 1=PS_DASH(破線) 2=PS_DOT (点線) 3=PS_DASHDOT(一点鎖線) 4= PS_DASHDOTDOT(二点鎖線)
lineWidth	Number	線の幅 0は Windows デフォルトの線幅で描画します。

表 5.2-13 ENBASMainViewMPIItemRect の prop プロパティ一覧

引数名	型	説明
left	Number	左座標 画面左上が原点となります。 右座標より小さい値を指定して下さい。
top	Number	上座標 画面左上が原点となります。 下座標より小さい値を指定して下さい。
right	Number	右座標 画面左上が原点となります。 左座標より大きい値を指定して下さい。
bottom	Number	下座標 画面左上が原点となります。 上座標より大きい値を指定して下さい。
color	Number	線の色 RGB 数値で指定します。
altColor	Number	線の点減色 RGB 数値で指定します。
bgColor	Number	塗りつぶしの色 RGB 数値で指定します。
altBgColor	Number	塗りつぶしの点減色 RGB 数値で指定します。

表 5.2-14 ENBASMainViewMPIItemArc の prop プロパティ一覧

引数名	型	説明
left	Number	左座標 画面左上が原点となります。 右座標より小さい値を指定して下さい。
top	Number	上座標 画面左上が原点となります。 下座標より小さい値を指定して下さい。
right	Number	右座標 画面左上が原点となります。 左座標より大きい値を指定して下さい。
bottom	Number	下座標 画面左上が原点となります。 上座標より大きい値を指定して下さい。
color	Number	線の色 RGB 数値で指定します。
altColor	Number	線の点減色 RGB 数値で指定します。
bgColor	Number	塗りつぶしの色 RGB 数値で指定します。
altBgColor	Number	塗りつぶしの点減色 RGB 数値で指定します。

表 5.2-15 ENBASMainViewMPIItemImage の prop プロパティ一覧

引数名	型	説明
left	Number	左座標 画面左上が原点となります。 右座標より小さい値を指定して下さい。
top	Number	上座標 画面左上が原点となります。 下座標より小さい値を指定して下さい。
right	Number	右座標 画面左上が原点となります。 左座標より大きい値を指定して下さい。
bottom	Number	下座標 画面左上が原点となります。 上座標より大きい値を指定して下さい。
imageId	String	イメージ ID
altImageId	String	点滅イメージ ID

表 5.2-16 ENBASMainViewMPIItemText の prop プロパティ一覧

引数名	型	説明
left	Number	左座標 画面左上が原点となります。 右座標より小さい値を指定して下さい。
top	Number	上座標 画面左上が原点となります。 下座標より小さい値を指定して下さい。
right	Number	右座標 画面左上が原点となります。 左座標より大きい値を指定して下さい。
bottom	Number	下座標 画面左上が原点となります。 上座標より大きい値を指定して下さい。
color	Number	文字の色 RGB 数値で指定します。
text	Number	文字列

表 5.2-17 ENBASMainViewMPIItemCombinedItem の prop プロパティ一覧

引数名	型	説明
originalWidth	Number	結合時の結合アイテムの幅 読み取り専用。
originalHeight	Number	結合時の結合アイテムの高さ 読み取り専用。
left	Number	左座標 画面左上が原点となります。 右座標より小さい値を指定して下さい。
top	Number	上座標 画面左上が原点となります。 下座標より小さい値を指定して下さい。
right	Number	右座標 画面左上が原点となります。 左座標より大きい値を指定して下さい。
bottom	Number	下座標 画面左上が原点となります。 上座標より大きい値を指定して下さい。

表 5.2-18 ENBASMainViewMPIItemList の prop プロパティ一覧

引数名	型	説明
left	Number	左座標 画面左上が原点となります。 右座標より小さい値を指定して下さい。
top	Number	上座標 画面左上が原点となります。 下座標より小さい値を指定して下さい。
right	Number	右座標 画面左上が原点となります。 左座標より大きい値を指定して下さい。
bottom	Number	下座標 画面左上が原点となります。 上座標より大きい値を指定して下さい。
data	Object	ENBASMPListItemData オブジェクトのインスタンス。 読取専用。

6) ENBASProducer

ENBASProducer オブジェクトは、一つのドメインを表します。

globalContext.getProducer()の結果から参照できます。

ENBASProducer オブジェクトのプロパティ一覧を表 5.2-19 に示します。

表 5.2-19 ENBASProducer のプロパティ一覧

名前	型	パラメータ	読み書き属性	説明
domainName	String	なし	読み取り専用	ドメイン名

ENBASProducer オブジェクトのメソッド一覧を表 5.2-20 に示します。

表 5.2-20 ENBASProducer のメソッド一覧

名前	戻り値	パラメータ	説明	プロデューサーアクション実行結果に格納されているイベントクラスの順番
sjAsyncCheckJobNetStartTime	Object	scheduledId(String) frameId(String) parentNetId(String) jobId(String) checkCond(Number) actionUserInfo(String)	jobNetId で指定したジョブ/ネットの起動時刻と、上位ネット(フレーム含む)の起動時刻を比較し、関連の有るジョブネット情報を取得します。この関数は非同期処理で動作します。scheduledId は運用日付を指定します。frameId にはフレーム名を指定します。parentNetId にはジョブ/ネットの親ネット名を指定します。jobNetId にはジョブ/ネットのジョブ/ネット名を指定します。checkCond にはチェック条件を指定します(0=同一時刻を NG とする、1=同一時刻を OK とする)actionUserInfo はアクションユーザー情報を指定します。アクション終了イベントに入ります。指定しない場合は null、指定する場合は文字列または文字列の配列で指定して下さい。	①共通アクション結果 ②千手応答 ③千手フレーム
sjAsyncExecSenjuCommand	Object	commandGroupName(String) commandName(String) nodeType(Number) userName(String) nodeGroupName(String) params(String) actionUserInfo(String) relObject(Object)	連携している千手マネージャ上で千手コマンドを実行します。この関数は非同期処理で動作します。commandGroupName にコマンドグループ名を、commandName にコマンド名を指定します。nodeType は実行ノードを指定します(0=なし、1=ノード指定、2=ノードグループ指定)。userName はノード/ノードグループ指定時にノード名を指定します。nodeGroupName はノード指定ならノード名を、ノードグループ指定ならグループ名を指定します。params はコマンドパラメータを指定します。コマンドで決められた順番にパラメータを格納した配列を指定して下さい。また、千手上では省略可能なパラメータも必ず空文字("")で指定して下さい。	①共通アクション結果 ②千手応答 ③コマンド実行応答

名前	戻り値	パラメータ	説明	プロデューサアクション実行結果に格納されているイベントクラスの順番
			<p>actionUserInfo はアクションユーザー情報を指定します。アクション終了イベントに入ります。指定しない場合は null、指定する場合は文字列または文字列の配列で指定して下さい。</p> <p>relObject は関連オブジェクトです。現在、サポートされていません。null を指定して下さい。</p>	
sjAsyncExecUserCommand	Object	commandGroupName(String) commandName(String) nodeType(Number) userName(String) nodeGroupName(String) params(String) actionUserInfo(String) relObject(Object)	<p>連携している千手マネージャ上でユーザーコマンドを実行します。この関数は非同期処理で動作します。</p> <p>commandGroupName にコマンドグループ名を、commandName にコマンド名を指定します。</p> <p>commandGroupName には「コマンドグループ名」または「コマンドグループ名 ¥ フォルダ名」の形式で指定します。</p> <p>nodeType は実行ノードを指定します (0=なし、1=ノード指定、2=ノードグループ指定)。</p> <p>userName はノード/ノードグループ指定時にノード名を指定します。</p> <p>nodeGroupName はノード指定ならノード名を、ノードグループ指定ならグループ名を指定します。</p> <p>params はコマンドパラメータを指定します。コマンドで決められた順番にパラメータを格納した配列を指定して下さい。また、千手では省略可能なパラメータも必ず空文字("")で指定して下さい。</p> <p>actionUserInfo はアクションユーザー情報を指定します。アクション終了イベントに入ります。指定しない場合は null、指定する場合は文字列または文字列の配列で指定して下さい。</p> <p>relObject は関連オブジェクトです。現在、サポートされていません。null を指定して下さい。</p>	①共通アクション結果 ②千手応答 ③コマンド実行応答
sjAsyncGetJobRoute	Object	scheduledId(String) frameId(String) parentNetIdA(String) jobNetIdA(String) parentNetIdB(String) jobNetIdB(String) days(Number) outputKind(Number) actionUserInfo(String) fid(String)	<p>frameId で指定したフレーム内において、jobNetIdA の後ろに jobNetIdB が存在するかどうかを確認し、存在すればその間の経路をすべて調べ、結果として返します。経路上のジョブの履歴を取得する事もできます。この関数は非同期処理で動作します。</p> <p>履歴を取得する場合、days で何日前までの履歴を取得するか指定できます。</p> <p>outputKind で結果をアクション終了イベントで取得するか、またはファイルに出力するかを指定できます (0=イベント、1=イベントとファイル、2=ファイル)。出力区分でファイルを選択した場合 「%SENSVHOME%\dat\ens\output」にファイルが出力されます。</p> <p>ファイル出力に対応しているイベントクラスは、表 5.2-21 ファイル出力に対応しているイベントクラス名一覧を参照して下さい。</p>	①共通アクション結果 ②千手応答 ③コマンド実行応答

名前	戻り値	パラメータ	説明	プロデューサアクション実行結果に格納されているイベントクラスの順番
			<p>actionUserInfo はアクションユーザー情報を指定します。アクション終了イベントに入ります。指定しない場合は null、指定する場合は文字列または文字列の配列で指定して下さい。</p> <p>fid は結果をファイル出力する際に、ファイル名に含める識別子を指定します。</p>	
sjAsyncGetJob Report	Object	scheduledId(String) frameId(String) outputKind(Number) actionUserInfo(String) fid(String)	<p>frameId で指定したフレームの稼働履歴を取得します。この関数は非同期処理で動作します。</p> <p>outputKind で結果をアクション終了イベントで取得するか、またはファイルに出力するかを指定できます (0=イベント、1=イベントとファイル、2=ファイル)。出力区分でファイルを選択した場合</p> <p>「%SENSVHOME%\dat\ens\output」にファイルが出力されます。</p> <p>ファイル出力に対応しているイベントクラスは、表 5.2-21 ファイル出力に対応しているイベントクラス名一覧を参照して下さい。</p> <p>actionUserInfo はアクションユーザー情報を指定します。アクション終了イベントに入ります。指定しない場合は null、指定する場合は文字列または文字列の配列で指定して下さい。</p> <p>fid は結果をファイル出力する際に、ファイル名に含める識別子を指定します。</p>	①共通アクション結果 ②千手応答 ③コマンド実行応答
sjAsyncGetJob Statistics	Object	scheduledId (String) kind(Number) frameId(String) parentNetId(String) jobNetId(String) days(Number) outputKind(Number) actionUserInfo(String) fid(String)	<p>scheduledId で指定した運用日付から days で指定した日数分前までのフレーム及びネット、ジョブの統計情報を取得します。この関数は非同期処理で動作します。</p> <p>kind は取得する情報の種類を指定します (1=フレーム、2=ネット、3=ジョブ)。取得したいフレーム及びネット、ジョブの統計情報と同じ数の配列を指定して下さい。frameId、parentNetId、jobNetId には同じ数の配列を、配列のインデックスをペアとして指定して下さい。配列の最大数は 10 です。</p> <p>frameId はフレーム名を指定します。</p> <p>parentNetId は jobNetId で指定するジョブの親ネット名を指定します。フレーム及びネット指定時は空文字を指定します。</p> <p>jobNetId はジョブ及びネット名を指定します。フレーム指定時は空文字を指定します。</p> <p>outputKind で結果をアクション終了イベントで取得するか、またはファイルに出力するかを指定できます (0=イベント、1=イベントとファイル、2=ファイル)。出力区分でファイルを選択した場合</p> <p>「%SENSVHOME%\dat\ens\output」にファイルが出力されます。</p>	①共通アクション結果 ②千手応答 ③コマンド実行応答

名前	戻り値	パラメータ	説明	プロデューサアクション実行結果に格納されているイベントクラスの順番
			<p>ファイル出力に対応しているイベントクラスは、表 5.2-21 ファイル出力に対応しているイベントクラス名一覧を参照して下さい。</p> <p><code>actionUserInfo</code> はアクションユーザー情報を指定します。アクション終了イベントに入ります。指定しない場合は <code>null</code>、指定する場合は文字列または文字列の配列で指定して下さい。</p> <p><code>fid</code> は結果をファイル出力する際に、ファイル名に含める識別子を指定します。</p>	
<code>sjSyncGetData</code>	Object	<code>classId(String)</code> <code>uniqueKey(String)</code> <code>outputKind(Number)</code> <code>fid(String)</code> <code>maxGettingNum(Number)</code>	<p>千手マネージャからデータを取得します。</p> <p>この関数は同期処理で動作します。30 秒経過しても同期処理が終了しない場合、タイムアウトとして処理を中断し、エラーを返します。</p> <p><code>classId</code> で取得するクラス名を指定します。</p> <p><code>uniqueKey</code> で取得するデータのキーを指定します。空文字を設定するとすべてのデータを取得します。</p> <p><code>outputKind</code> で結果をアクション終了イベントで取得するか、またはファイルに出力するかを指定できます (0=イベント、1=イベントとファイル、2=ファイル)。出力区分でファイルを選択した場合 「%SENSVHOME%\dat\ens\output」にファイルが出力されます。</p> <p>ファイル出力に対応しているイベントクラスは、表 5.2-21 ファイル出力に対応しているイベントクラス名一覧を参照して下さい。</p> <p><code>fid</code> は結果をファイル出力する際に、ファイル名に含める識別子を指定します。</p> <p><code>maxGettingNum</code> は取得したいデータの上限值を指定します。1 以上の数値を指定でき、省略も可能です。省略した場合は上限なしと判断されます。</p>	①共通アクション結果 ②千手応答 ③コマンド実行応答
<code>sjSyncGetDataByKey</code>	Object	<code>classId(String)</code> <code>fieldId(String)</code> <code>key(String)</code> <code>cond(Number)</code> <code>param(Number)</code> <code>outputKind(Number)</code> <code>fid(String)</code>	<p>千手マネージャから検索条件を指定してデータを取得します。</p> <p>この関数は同期処理で動作します。</p> <p><code>classId</code> で取得するクラス名を指定します。</p> <p><code>fieldId</code> で検索対象とするデータのフィールド名を指定します。配列にて複数指定可能です。</p> <p><code>key</code> で検索するデータのキーを指定します。配列にて複数指定可能です。</p> <p><code>fieldId</code> と <code>key</code> で指定する値の数は同一でなければなりません。</p> <p><code>cond</code> で <code>fieldId</code> と <code>key</code> の結合条件を指定できます(0=AND、1=OR)。2 つ以上指定された場合に指定します。</p> <p><code>param</code> は 拡張用パラメータです。現在は、0 を指定して下さい。</p>	①共通アクション結果 ②千手応答 ③コマンド実行応答

名前	戻り値	パラメータ	説明	プロデューサアクション実行結果に格納されているイベントクラスの順番
			<p>outputKind で結果をアクション終了イベントで取得するか、またはファイルに出力するかを指定できます (0=イベント、1=イベントとファイル、2=ファイル)。出力区分でファイルを選択した場合</p> <p>「%SENSVHOME%\dat\ens\output」にファイルが出力されます。</p> <p>ファイル出力に対応しているイベントクラスは、表 5.2-21 ファイル出力に対応しているイベントクラス名一覧を参照して下さい。</p> <p>fid は結果をファイル出力する際に、ファイル名に含める識別子を指定します。</p>	
sjSyncCheckJobRelation	Object	scheduledId(String) frameId(String) parentNetIdA(String) jobNetIdA(String) parentNetIdB(String) jobNetIdB(String)	frameId で指定したフレーム内において、jobNetIdA の後ろに jobNetIdB が存在するかどうかを確認します。この関数は同期処理で動作します。	①共通アクション結果 ②千手応答 ③コマンド実行応答
sjSyncGetParentNet	Object	jobId(String)	jobId で指定したジョブを子を持つネットを取得します。この関数は同期処理で動作します。	①共通アクション結果 ②千手応答 ③コマンド実行応答
spAsyncSendEvent	Object	eventName(String) fieldKeys(String) fieldVals(String) params(String) actionUserInfo(String)	Senju Service Manager へ eventName で指定したイベントを自動登録します。 fieldKeys で登録対象とするデータのフィールド名を指定します。配列にて複数指定可能です。 fieldVals で登録するデータを指定します。配列にて複数指定可能です。 fieldKeys と fieldVals で指定する値の数は同一でなければなりません。 params は拡張用パラメータです。null を指定して下さい。 actionUserInfo はアクションユーザー情報を指定します。アクション終了イベントに入ります。指定しない場合は null、指定する場合は文字列または文字列の配列で指定して下さい。	①共通アクション結果 ②SSM 応答 ③SSM 実行結果
mlAsyncSendEvent	Object	eventName(String) actionUserInfo(String)	メール送信プロデューサにて、eventName で指定したメール送信依頼イベントの内容を自動で送信します。 To:に指定できるパラメータは 1020 バイトです。Senju Operation Conductor にて、1020 バイトを越える To:を指定した場合、1021 バイト以降はアドレスが読み込まれません。 actionUserInfo はアクションユーザー情報を指定します。アクション終了イベントに入ります。指定しない場合は null、指定する場合は文字列または文字列の配列で指定して下さい。	①共通アクション結果 ②共通アクション結果 ③共通アクション結果
mlAsyncSendMail	Object	mailFrom(String) rcptTo(String) cc(String) subject(String) contents(String) attachments(String) actionUserInfo(String)	メール送信プロデューサにて、指定した内容でメールを送信します。 mailFrom は送信元メールアドレスを指定します。 rcptTo は宛先メールアドレスを指定します。 cc はカーボンコピーの宛先メールアドレスを指定します。指定しない場合は "" を指定して下さい。	①共通アクション結果 ②共通アクション結果 ③共通アクション結果

名前	戻り値	パラメータ	説明	プロデューサアクション実行結果に格納されているイベントクラスの順番
			<p>rcptTo と cc で複数の宛先を指定する場合は、';' または、',' にて区切って指定します。</p> <p>subject はメールの件名を指定します。</p> <p>contents はメールの本文を指定します。</p> <p>attachments は添付ファイルを指定します。添付ファイルを利用しない場合は null、指定する場合は文字列または、文字列の配列にて指定して下さい。ファイル名には環境変数名を含むことができます。</p> <p>actionUserInfo はアクションユーザー情報を指定します。アクション終了イベントに入ります。指定しない場合は null、指定する場合は文字列または文字列の配列で指定して下さい。</p>	
mlAsyncSendMailEx	Object	mailFrom(String) rcptTo(String) cc(String) bcc(String) subject(String) contents(String) attachments(String) actionUserInfo(String)	<p>メール送信プロデューサにて、指定した内容でメールを送信します。</p> <p>mailFrom は送信元メールアドレスを指定します。</p> <p>rcptTo は宛先メールアドレスを指定します。</p> <p>cc はカーボンコピーの宛先メールアドレスを指定します。指定しない場合は "" を指定して下さい。</p> <p>bcc はカーボンコピーの宛先メールアドレスを指定します。指定しない場合は "" を指定して下さい。</p> <p>rcptTo、cc と bcc で複数の宛先を指定する場合は、';' または、',' にて区切って指定します。</p> <p>subject はメールの件名を指定します。</p> <p>contents はメールの本文を指定します。</p> <p>attachments は添付ファイルを指定します。添付ファイルを利用しない場合は null、指定する場合は文字列または、文字列の配列にて指定して下さい。ファイル名には環境変数名を含むことができます。</p> <p>actionUserInfo はアクションユーザー情報を指定します。アクション終了イベントに入ります。指定しない場合は null、指定する場合は文字列または文字列の配列で指定して下さい。</p>	①共通アクション結果 ②共通アクション結果 ③共通アクション結果
tlAsyncSendEvent	Object	eventName(String) actionUserInfo(String)	<p>TELstaff プロデューサにて、eventName で指定した電話呼出イベントの内容を自動で送信します。</p> <p>actionUserInfo はアクションユーザー情報を指定します。アクション終了イベントに入ります。指定しない場合は null、指定する場合は文字列または文字列の配列で指定して下さい。</p>	①共通アクション結果 ②電話応答
tlAsyncTelCall	Object	telId(String) readingContent(String) actionUserInfo(String)	<p>TELstaff プロデューサにて、指定した内容で電話呼び出しを行います。</p> <p>telId は TELstaff サーバーに設定した連絡網グループ ID と連絡網 ID を指定します。</p> <p>"連絡網グループ ID/連絡網 ID" という形で指定して下さい。</p>	①共通アクション結果 ②電話応答

名前	戻り値	パラメータ	説明	プロデューサアクション実行結果に格納されているイベントクラスの順番
			<p>(連絡網グループ ID「003」、連絡網 ID「0001」の場合、「003/0001」と指定します。)</p> <p>readingContent は読み上げメッセージを指定します。指定しない場合は""を指定して下さい。</p> <p>actionUserInfo はアクションユーザー情報を指定します。アクション終了イベントに入ります。指定しない場合はnull、指定する場合は文字列または文字列の配列で指定して下さい。</p>	

表 5.2-21 ファイル出力に対応しているイベントクラス名一覧

名前	ファイル出力に対応しているイベントクラス名
sjAsyncGetJobRoute	千手ジョブ経路取得結果
sjAsyncGetJobReport	千手ジョブ稼働履歴取得結果
sjAsyncGetJobStatistics	千手ジョブ稼働統計取得結果
sjSyncGetData	<ul style="list-style-type: none"> ・千手稼働日カレンダー ・千手動作環境 ・千手トリガ ・千手ジョブ ・千手システム ・千手リソース ・千手ネット ・千手営業日カレンダー ・千手動作環境プール ・千手ジョブレポート
sjSyncGetDataByKey	<ul style="list-style-type: none"> ・千手稼働日カレンダー ・千手動作環境 ・千手トリガ ・千手ジョブ ・千手システム ・千手リソース ・千手ネット ・千手営業日カレンダー ・千手動作環境プール ・千手ジョブレポート

7) ENBASSEServerExecResult オブジェクト

ENBASSEServerExecResult オブジェクトは、globalContext.asyncExecCommand()の結果を表すものです。

ENBASSEServerExecResult オブジェクトのプロパティ一覧を表 5.2-22 に示します。

表 5.2-22 ENBASSEServerExecResult のプロパティ一覧

名前	型	パラメータ	読み書き属性	説明
actionName	String	なし	読み取り専用	アクション名
actionType	Number	なし	読み取り専用	アクション種別 0=SEN サーバーによる実行 1=予約用 2=メール送信
execErrorCode	Number	なし	読み取り専用	実行エラーコード 0=成功 それ以外=GetLastError() による OS のエラーコード値
actionId	String	なし	読み取り専用	アクション ID
startTime	Object	なし	読み取り専用	コマンドの開始日時
endTime	Object	なし	読み取り専用	コマンドの終了日時
outputMessage	String	なし	読み取り専用	出力メッセージ コマンドが終了していなければ、例外が発生します。 execErrorCode が 0 でなければ、アクセスできません。
processId	Number	なし	読み取り専用	外部コマンドのプロセス ID
firstThreadId	Number	なし	読み取り専用	Win32 サブシステムによって最初に作られたスレッド ID を返します。
exitCode	Number	なし	読み取り専用	プログラムの終了コードを返します。 STILL_ACTIVE(259)を返すプログラムの終了コードを正しく判断するためには、checkRunning も併用して下さい。

ENBASSEServerExecResult オブジェクトのメソッド一覧を表 5.2-23 に示します。

表 5.2-23 ENBASSEServerExecResult のメソッド一覧

名前	戻り値	パラメータ	説明
waitForTerminateProcess	なし	waitTime(Number)	AsyncExecCommand により起動したプロセスの終了を待ちます。パラメータ waitTime として、ms 単位で待ち時間を指定します。値の範囲は 1ms ~ 10000ms です。waitTime 待った後もプログラムが終了しなかった場合には例外が発生します。プロセスの終了に時間がかかる場合は、SEN サーバーの動作を停止させてしまうため、このメソッドを使用する場合は注意が必要です。
writeToStdInput	なし	data(String)	標準入力にデータを書き込みます。
readFromStdOutput	String	なし	標準出力からデータを読み込みます。
readFromStdError	String	なし	標準エラー出力からデータを読み込みます。
checkRunnig	Bool	なし	プログラムがまだ動作しているかチェックします。プログラムの起動に失敗している場合でも、BOOL_FALSE が結果となります。

8) ENBASProducerActionExecResult オブジェクト

ENBASProducerActionExecResult オブジェクトは、
actHistoryElement.actionExecResult や ENBASProducer の各メソッドの実行結果から参照する事ができます。

ENBASProducerActionExecResult オブジェクトのプロパティ一覧を表 5.2-24 に示します。

表 5.2-24 ENBASProducerActionExecResult のプロパティ一覧

名前	型	パラメータ	読み書き属性	説明
actionName	String	なし	読み取り専用	アクション名
actionType	Number	なし	読み取り専用	アクション種別 0=SEN サーバーによる実行 1=予約用 2=メール送信
execErrorCode	Number	なし	読み取り専用	実行エラーコード 0=成功 それ以外=GetLastError() による OS のエラーコード値
actionId	String	なし	読み取り専用	アクション ID
startTime	Object	なし	読み取り専用	コマンドの開始日時
endTime	Object	なし	読み取り専用	コマンドの終了日時
outputMessage	String	なし	読み取り専用	出力メッセージ コマンドが終了していなければ、例外が発生します。 execErrorCode が 0 でなければ、アクセスできません。
producerActionType	Number	なし	読み取り専用	プロデューサにおけるアクション種別 1=千手コマンド/ユーザーコマンド 実行結果 10=ジョブ統計情報 11=ジョブ稼働履歴 12=ジョブ経路取得結果 23=ジョブネット起動時刻チェック結果
numOfActionResults	Number	なし	読み取り専用	プロデューサにおけるアクションの実行結果の数
actionResult	Object	index(Numbe r)	読み取り専用	プロデューサにおけるアクションの実行結果
actionStartOk	Bool	なし	読み取り専用	プロデューサでアクションが実行中かどうか調べます
exitStatus	Number	なし	読み取り専用	プロデューサにおけるアクションの終了ステータス

ENBASProducerActionExecResult オブジェクトのメソッド一覧を表 5.2-25 に示します。

表 5.2-25 ENBASProducerActionExecResult のメソッド一覧

名前	戻り値	パラメータ	説明
waitForTerminateProcess	なし	waitTime(Number)	AsyncExecCommand により起動したプロセスの終了を待ちます。パラメータ waitTime として、ms 単位で待ち時間を指定します。値の範囲は 1ms ~ 10000ms です。waitTime 待った後もプログラムが終了しなかった場合には例外が発生します。プロセスの終了に時間がかかる場合は、SEN サーバーの動作を停止させてしまうため、このメソッドを使用する場合は注意が必要です。
writeToStdInput	なし	msg(String)	標準入力にデータを書き込みます。

名前	戻り値	パラメータ	説明
readFromStdOutput	String	なし	標準出力からデータを読み込みます。
readFromStdError	String	なし	標準エラー出力からデータを読み込みます。
checkRunnig	Bool	なし	プログラムがまだ動作しているかチェックします。プログラムの起動に失敗している場合でも、BOOL_FALSE が結果となります。

9) ENBASSendMailResult オブジェクト

ENBASSendMailResult オブジェクトは、actHistoryElement.actionExecResult の結果から参照する事ができます。

ENBASSendMailResult オブジェクトのプロパティ一覧を表 5.2-26 に示します。

表 5.2-26 ENBASSendMailResult のプロパティ一覧

名前	型	パラメータ	読み書き属性	説明
actionName	String	なし	読み取り専用	アクション名
actionType	Number	なし	読み取り専用	アクション種別 0=SEN サーバーによる実行 1=予約用 2=メール送信
execErrorCode	Number	なし	読み取り専用	実行エラーコード 0=成功 それ以外=GetLastError() による OS のエラーコード値
actionId	String	なし	読み取り専用	アクション ID
startTime	Object	なし	読み取り専用	コマンドの開始日時
endTime	Object	なし	読み取り専用	コマンドの終了日時
outputMessage	String	なし	読み取り専用	出力メッセージ コマンドが終了していなければ、例外が発生します。 execErrorCode が 0 でなければ、アクセスできません。
mailFrom	String	なし	読み取り専用	発信元メールアドレス
rcptTo	String	なし	読み取り専用	宛先メールアドレス
cc	String	なし	読み取り専用	カーボンコピーの宛先メールアドレス
subject	String	なし	読み取り専用	メールの件名

ENBASSendMailResult オブジェクトのメソッド一覧を表 5.2-27 に示します。

表 5.2-27 ENBASSendMailResult のメソッド一覧

名前	戻り値	パラメータ	説明
waitForTerminateProcess	なし	waitTime(Number)	asyncExecCommand により起動したプロセスの終了を待ちます。パラメータ waitTime として、ms 単位で待ち時間を指定します。値の範囲は 1ms ~ 10000ms です。waitTime 待った後もプログラムが終了しなかった場合には例外が発生します。プロセスの終了に時間がかかる場合は、SEN サーバーの動作を停止させてしまうため、このメソッドを使用する場合は注意が必要です。
writeToStdInput	なし	msg(String)	標準入力にデータを書き込みます。
readFromStdOutput	String	なし	標準出力からデータを読み込みます。
readFromStdError	String	なし	標準エラー出力からデータを読み込みます。
checkRunnig	Bool	なし	プログラムがまだ動作しているかチェックします。プログラムの起動に失敗している場合でも、BOOL_FALSE が結果となります。

10) ENBASTime オブジェクト

ENBASTime オブジェクトは、日付、時刻表示のためのオブジェクトです。

ENBASTime オブジェクトのプロパティ一覧を表 5.2-28 に示します。

表 5.2-28 ENBASTime オブジェクトのプロパティ一覧

名前	型	パラメータ	読み書き属性	説明
year	Number	なし	読み書き可	西暦(1オリジン)
month	Number	なし	読み書き可	月(1オリジン)
dayOfMonth	Number	なし	読み書き可	日(1オリジン)
hour	Number	なし	読み書き可	時
minute	Number	なし	読み書き可	分
second	Number	なし	読み書き可	秒
milliSecond	Number	なし	読み書き可	ミリ秒
dayOfWeek	Number	なし	読み取り専用	曜日 0=日曜日 1=月曜日 2=火曜日 3=水曜日 4=木曜日 5=金曜日 6=土曜日

ENBASTime オブジェクトのメソッド一覧を表 5.2-29 に示します。

表 5.2-29 ENBASTime オブジェクトのメソッド一覧

名前	戻り値	パラメータ	説明
toString	String	なし	YYYYMMDDHHMMSS.ss 形式の文字列を返します。
add	なし	year(Number) month(Number) day(Number) hour(Number) minute(Number) second(Number)	指定された年月日時分秒を加算します。計算結果が 1970/1/1 9:00:01~2100/12/31 23:59:59 以外になった場合、エラーを返します。
getDateString	String	なし	YYYY-MM-DD 形式の文字列を返します。
getTimeString	String	なし	HH:MM:SS 形式の文字列を返します。
getDateTimeString	String	なし	YYYY-MM-DD HH:MM:SS 形式の文字列を返します。
getISOString	String	なし	YYYY-MM-DDTHH:MM:SS 形式の文字列を返します。
getUNIXTime	Number	なし	UNIX 時刻(1970/1/1 00:00:00 UTC からの秒数)を返します。

11) ENBASActionHistory オブジェクト

ENBASActionHistory オブジェクトは、アクション実行履歴を表すものです。

ENBASActionHistory オブジェクトのプロパティ一覧を表 5.2-30 に示します。

表 5.2-30 ENBASActionHistory オブジェクトプロパティ一覧

名前	型	パラメータ	読み書き属性	説明
actionId	String	なし	読み取り専用	アクション ID アクションのユニーク性を保証するための ID です。
userGroupId	String	なし	読み取り専用	このアクションを実行したユーザーグループの ID
actionTime	Object	なし	読み取り専用	アクションの実行時刻 ENBASTime オブジェクトのインスタンスを返します。
actionType	Number	なし	読み取り専用	アクションの実行種別 0=コマンド実行 1=メール送信
actionParam	String	index(Number)	読み取り専用	実行パラメータ パラメータ index には、複数のパラメータがある場合に、何番目のパラメータを参照するか指定する。
numOfActionParams	Number	なし	読み取り専用	コマンド実行時につけたパラメータの数
actionExecResult	Object	なし	読み取り専用	アクションの実行結果 actionType が 0 の場合は ENBASSEnServerExecResult が返ります。 actionType が 1 の場合は ENBASSendMailResult が返ります。

12) ENBASDataElement オブジェクト

ENBASDataElement オブジェクトは、繰り返しのある属性を表します。

ENBASDataElement オブジェクトのプロパティ一覧を表 5.2-31 に示します。

表 5.2-31 ENBASDataElement オブジェクトのプロパティ

名前	型	パラメータ	読み書き属性	説明
prop	セットした値による	fieldId (String)	読み書き可	フィールドクラス ID よりデータを取得します。prop2 において index を 0 とした場合と同じです。
prop2	セットした値による	fieldId(String), index(Number)	読み書き可	フィールドクラス ID およびインデックスによりデータを取得します。同じフィールドクラスが複数ある場合に用います。
numOfFields	Number	name(String)	読み取り専用	指定したフィールドクラスのフィールド数を返します。prop2 のインデックスの上限を求めるために使用します。

13) ENBASMPListItemData オブジェクト

ENBASMPListItemData オブジェクトは、メインペイン上のリストアイテムを表します。

ENBASMPListItemData オブジェクトのプロパティ一覧を表 5.2-32 に示します。

表 5.2-32 ENBASMPListItemData オブジェクトのプロパティ

名前	型	パラメータ	読み書き属性	説明
numOfColumns	Number	なし	読み取り専用	リストのカラム数を返します。
numOfItems	Number	なし	読み取り専用	リストの行数を返します。
cellValue	String	row(Number) column(Number)	読み書き可	セルの値を設定します。 現在の行より大きな row が設定されたときには、その値まで拡張されます。
itemTextColor	Number	row(Number)	読み書き可	文字の色を設定します。-1 ならば指定なしになります。 現在の行より大きな row が設定されたときには、その値まで拡張されます。
itemBgColor	Number	row(Number)	読み書き可	背景色を設定します。-1 ならば指定なしになります。 現在の行より大きな row が設定されたときには、その値まで拡張されます。

ENBASMPListItemData オブジェクトのメソッド一覧を表 5.2-33 に示します。

表 5.2-33 ENBASMPListItemData オブジェクトのメソッド一覧

名前	戻り値	パラメータ	説明
deleteItem	なし	row(Number)	指定された行を削除します。
deleteAllItems	なし	なし	全行を削除します。
findItem	Number	startRow(Number) column(Number) targetStr(String)	アイテムを startRow の位置から検索します。column に指定されたカラムが targetStr である行を求めます。発見できない場合は、-1 を返します。
readItems	Number	type(Number) format(Number) fileName(String) params(String)	fileName で指定されたファイルからリストのアイテムデータを読み込みます。 type でリストアイテムを新規か追加のどちらで読み込むか指定します(0=新規, 1=追加)。 format で読込対象のファイルがカンマ区切りかタブ区切りかを指定します(0=カンマ区切り, 1=タブ区切り)。 params は拡張用パラメータです。常に null を指定して下さい。
writeItems	Number	format(Number) fileName(String) params(String)	fileName で指定されたファイルにリストのアイテムデータを書き込みます。 format でカンマ区切りかタブ区切り、どちらで書き込まれるかを指定します(0=カンマ区切り, 1=タブ区切り)。 params は拡張用パラメータです。常に null を指定して下さい。
sumItems	Number	type(Number) rowOrColumn(Num ber) start(Number) end(Number) params(Number)	start と end で指定された範囲の合計値を返します。 type で計算対象を行とするか列とするかを指定します(0=行, 1=列)。 rowOrColumn で計算対象とする行または列の番号を指定します。 params は拡張用パラメータです。常に null を指定して下さい。
maxItem	Number	type(Number) rowOrColumn(Num ber) start(Number)	start と end で指定された範囲内にある最大値を持つ行または列の番号で返します。

名前	戻り値	パラメータ	説明
		end(Number) params(Number)	type で検索対象を行とするか列とするかを指定します(0=行,1=列)。 rowOrColumn で検索対象とする行または列の番号を指定します。 params は拡張用パラメータです。常に null を指定して下さい。
minItem	Number	type(Number) rowOrColumn(Number) start(Number) end(Number) params(Number)	start と end で指定された範囲内にある最小値を持つ行または列の番号で返します。 type で検索対象を行とするか列とするかを指定します(0=行,1=列)。 rowOrColumn で検索対象とする行または列の番号を指定します。 params は拡張用パラメータです。常に null を指定して下さい。
countIfItems	Number	type(Number) rowOrColumn(Number) start(Number) end(Number) target (String or Number) condition (Number) params(Number)	start と end で指定された範囲内にある検索条件に一致したセルの個数を返します。 type で計算対象を行とするか列とするかを指定します(0=行,1=列)。 rowOrColumn で計算対象とする行または列の番号を指定します。 target で検索対象とする文字列または数値を指定します。 condition で検索条件を指定します。(0=以上, 1=以下, 2=より大きい, 3=より小さい, 4=全一致, 5=部分一致, 6=前方一致, 7=後方一致) params は拡張用パラメータです。常に null を指定して下さい。
sumIfItems	Number	type(Number) rowOrColumn(Number) start(Number) end(Number) target(Number) condition (Number) params(Number)	start と end で指定された範囲内にある検索条件に一致したセルの合計値を返します。 type で計算対象を行とするか列とするかを指定します(0=行,1=列)。 rowOrColumn で計算対象とする行または列の番号を指定します。 target で検索対象とする文字列または数値を指定します。 condition で検索条件を指定します。(0=以上, 1=以下, 2=より大きい, 3=より小さい, 4=全一致, 5=部分一致, 6=前方一致, 7=後方一致) params は拡張用パラメータです。常に null を指定して下さい。

5.2.1.2 コンソールルールで参照できる変数

コンソールルールから参照可能な変数(インスタンス)の一覧を表 5.2-34 に示します。

表 5.2-34 コンソールルールから参照可能な変数一覧

変数名	型(オブジェクト)	説明
clientContext	ENBASClientContext	SEN コンソールでのルール実行における状態を保持します。
currentEvent	ENBASClientEvent	現在処理対象となっているイベントを参照します。

1) クライアントコンテキストオブジェクト(ENBASClientContext)

コンソールルール内におけるグローバルな状態を保持するオブジェクトです。現在時刻や警報装置(パトランプ)デバイスへの参照などを格納します。

ENBASClientContext のプロパティ一覧を表 5.2-35 に示します。

表 5.2-35 ENBASClientContext プロパティ一覧

名前	型	パラメータ	読み書き属性	説明
currentTime	Object	なし	読み取り専用	現在時刻(クライアントのタイムゾーンに基づくローカルタイム)を返します。 ENBASClientTime オブジェクトのインスタンスを返します。
patLamp	Object	なし	読み取り専用	パトランプデバイス ENBASPatLamp オブジェクトのインスタンスを返します。

ENBASClientContext のメソッド一覧を表 5.2-36 に示します。

表 5.2-36 ENBASClientContext メソッド一覧

名前	戻り値	パラメータ	説明
messageBeep	なし	beepType(Number), bCyclic(Boolean)	ビーブ音を鳴動します。 パラメータ beepType によりビーブ音の種類を指定できます。 -1 = 標準ビーブ音 0x00 = 一般の警告音 0x10 = システムエラー音 0x20 = メッセージ(問合わせ) 0x30 = メッセージ(警告)音 0x40 = メッセージ(情報)音 パラメータ bCyclic の値が true の場合、繰り返し鳴動します。パラメータ bCyclic の値が false の場合、一度のみ鳴動します。
playSound	なし	fileName(String), bCyclic(Boolean)	WAVE サウンドを再生します。 パラメータ fileName には、WAVE サウンドファイルをフルパスで指定して下さい。指定されるファイル名が空文字(“”)の場合、SEN コンソールの警報装置設定にて設定されたデフォルトのファイルが利用されます。 パラメータ bCyclic の値が true の場合、繰り返し再生します。パラメータ bCyclic の値が false の場合、一度のみ再生します。 連続して playSound メソッドを実行した場合、実行指示した順に WAVE サウンドが再生されます。
displayMessage	なし	msg(String)	SEN コンソール上にメッセージボックスを表示します。

名前	戻り値	パラメータ	説明
			パラメータ <code>msg</code> に表示するメッセージを指定します。
<code>outputToLogFile</code>	なし	<code>level</code> (Number), <code>msg</code> (String)	パラメータ <code>msg</code> で指定された内容を、パラメータ <code>level</code> で指定したログレベルにて、ログファイル (<code>sjENB_Console.log</code>)に出力します。 パラメータ <code>level</code> は、以下の値が指定可能です。 3=エラー(ERR レベル) 4=警告(WARNING レベル) 5=注意(NOTICE レベル) 6=情報(INFO レベル) 7=詳細調査(DEBUG レベル)
<code>createObject</code>	Object	<code>progId</code> (String) <code>params</code> (Number)	パラメータ <code>progId</code> に指定された COM オブジェクトを生成しインスタンスを返します。 パラメータ <code>params</code> は拡張用パラメータです。常に <code>null</code> を指定して下さい。

2) クライアントイベントオブジェクト(ENBASClientEvent)

コンソールルールおよびイベントビュー表示方法で参照されるイベントオブジェクトです。

ENBASEvent オブジェクトとはプロパティおよびメソッドが若干異なります。

ENBASClientEvent のプロパティ一覧を表 5.2-37 に示します。

表 5.2-37 ENBASClientEvent プロパティ一覧

名前	型	パラメータ	読み書き属性	説明
effect	Number	なし	読み取り専用	イベントの効果 0=EFFECT_NEW(新規) 1=EFFECT_DELETE(削除) 2=EFFECT_MODIFY(変更) 3=EFFECT_NEW_OR_MODIFY (新規または変更)
dataClassId	String	なし	読み取り専用	クラス ID 文字列
dataClassName	String	なし	読み取り専用	クラス文字列
uniqueKey	String	なし	読み取り専用	ユニークキー
prop	セットした 値による	clsIdOrName (String)	読み取り専用	属性値 パラメータにはフィールド名文字列 (clsIdOrName)を指定します。
prop2	セットした 値による	clsIdOrName (String), index(Number)	読み取り専用	属性値 一つのフィールドに複数の値が格納さ れているフィールドに対して用います。 パラメータにはフィールド名文字列 (clsIdOrName)と、何番目の値を参照す るかの番号(index)を指定します。prop2 において index=0 とした場合は、prop で 指定した場合と同じになります。
numOfFields	Number	clsIdOrName (String)	読み取り専用	1つのフィールドに含まれる値の数 prop2 のインデックスの上限を求める時 に利用します。
uv	セットした 値による	name(String)	読み取り専用	ユーザー定義属性値 パラメータ name にユーザー変数名文字 列を指定します。 例) uv("NRI")
domainName	String	なし	読み取り専用	ドメイン名
userGroupId	String	なし	読み取り専用	ユーザーグループ ID 分配前または、分配後どこにも所属され なかったイベントについては、"" となりま す。
color	Number	なし	読み取り専用	文字色(RGB 数値で指定) -1 ならば指定なし。
bgColor	Number	なし	読み取り専用	文字色(RGB数値で指定) -1 ならば指定なし
eventSeverity	Number	なし	読み取り専用	重大度 0= clear(クリア) 1= unknown(不定) 2= warning(警告) 3= minor(軽度) 4= major(重大) 5= critical(致命的) 6= none(なし)
eventStatus	Number	なし	読み取り専用	イベントステータス 0=オープン(OPEN) 1=受付済(ACKNOWLEDGED) 2=割当済(ASSIGNED) 3=対処完了(CLOSED)
arrivedTime	Object	なし	読み取り専用	SEN サーバーへのイベント到着時刻(作 成したイベントの場合は作成時刻) ENBASClientTime オブジェクトのインス タンスを返します。
changedTime	Object	なし	読み取り専用	イベントの変更時刻

名前	型	パラメータ	読み書き属性	説明
				ENBASClientTime オブジェクトのインスタンスを返します。変更が無い場合は null が入ります。
sequenceId	String	なし	読み取り専用	SEN イベントシーケンス ID 64bit 整数を文字列で表現したのになります。
sourceSequenceId	String	なし	読み取り専用	分配前のイベントの SEN イベントシーケンス ID。分配前のイベントまたは分配されなかったイベントは、sequenceId と同じ値となります。
guide	String	なし	読み取り専用	イベントに対して付加するガイド情報
notes	Objekt	index(Number)	読み取り専用	イベントに記入されたノート。 パラメータには何番目の値を参照するか番号(index)を指定します。 ENBASClientEventNote オブジェクトのインスタンスを返します。
numOfNotes	Number	なし	読み取り専用	イベントに記入されたノート数。 note のインデックスの上限を求める時に利用します。 note のインデックスには、0 から (numOfNotes で得られる値-1)までの範囲を指定できます。
changedTimeOfEventStatus	Objekt	status(Number)	読み取り専用	ステータス別のイベント変更時刻。 パラメータにはステータスの値 (status:0 ~3)を指定します。 ENBASClientTime オブジェクトのインスタンスを返します。変更が無い場合は null が入ります。
numOfActions	Number	なし	読み取り専用	イベントに設定されたアクション数。 AddServerAction メソッドにより設定されたアクション数を返します。
numOfActionExecResults	Number	なし	読み取り専用	イベントの実行されたアクション結果数。 AddServerAction メソッドにより設定されたアクションが実行された回数を返します。
actionExecResult	Objekt	index(Number)	読み取り専用	イベントのアクション結果。 パラメータには何番目の値を参照するか番号(index)を指定します。 ENBASClientSENServerActionExecResult オブジェクトのインスタンスを返します。
ruleExecutionTrace	String	なし	読み取り専用	イベントのルール実行証跡。 このイベントがどのようなルールを通ったかが記録されます。

ENBASClientEvent のメソッド一覧を表 5.2-38 に示します。

表 5.2-38 ENBASClientEvent メソッド一覧

名前	戻り値	パラメータ	説明
isMsgEvent	Boolean	なし	メッセージクラスおよびその派生クラス(千手メッセージ、ホストゲートウェイメッセージ等)のイベントなら true を返します。メッセージクラス以外であれば false を返します。
isSjMsgEvent	Boolean	なし	千手メッセージクラスイベントなら true を、それ以外は false を返します。
isSENSystemMsgEvent	Boolean	なし	Senju Enterprise Navigator の内部イベントなら true を、それ以外は false を返します。
isInstanceOf	Boolean	clsIdOrName(String)	指定された clsIdOrName のインスタンスならば true を返します。clsIdOrName はクラス ID 文字列またはクラス名が指定可能です。なお、clsIdOrName として基本クラスが与えられた場合

名前	戻り値	パラメータ	説明
			も true となります。

3) イベントノートオブジェクト (ENBASClientEventNote)

ENBASClientEventNote オブジェクトは、イベントに記入されたノートを表すオブジェクトです。

これは `CurrentEvent.note` の結果により参照できます。

ENBASClientEventNote のプロパティ一覧を表 5.2-39 に示します。

表 5.2-39 ENBASClientEventNote オブジェクトプロパティ一覧

名前	型	パラメータ	読み書き属性	説明
writerName	String	なし	読み取り専用	ノートの記入者名。
writtenTime	Object	なし	読み取り専用	ノートの記入時刻。 ENBASClientTime オブジェクトのインスタンスを返します。
loginUserId	String	なし	読み取り専用	記入したユーザーのユーザーID。
beforeEventStatus	Number	なし	読み取り専用	ノートの記入前イベントステータス。
afterEventStatus	Number	なし	読み取り専用	ノートの記入後イベントステータス。
note	String	なし	読み取り専用	ノート

4) ASClientSENServerExecResult オブジェクト

ENBASClientSENServerExecResult オブジェクトは、
globalContext.AsyncExecCommand()の結果を表すものです。

ENBASClientSENServerExecResult オブジェクトのプロパティ一覧を表 5.2-40 に示します。

表 5.2-40 ENBASClientSENServerExecResult のプロパティ一覧

名前	型	パラメータ	読み書き属性	説明
actionName	String	なし	読み取り専用	アクション名
actionType	Number	なし	読み取り専用	アクション種別 0=SEN サーバーによる実行 1=予約用 2=メール送信
execErrorCode	Number	なし	読み取り専用	実行エラーコード 0=成功 それ以外=GetLastError() による OS のエラーコード値
ActionId	String	なし	読み取り専用	アクション ID
StartTime	Object	なし	読み取り専用	コマンドの開始日時
EndTime	Object	なし	読み取り専用	コマンドの終了日時
outputMessage	String	なし	読み取り専用	出力メッセージ コマンドが終了していなければ、例外が発生します。 execErrorCode が 0 でなければ、アクセスできません。
Processed	Number	なし	読み取り専用	外部コマンドのプロセス ID
firstThreadId	Number	なし	読み取り専用	Win32 サブシステムによって最初に作られたスレッド ID を返します。
ExitCode	Number	なし	読み取り専用	プログラムの終了コードを返します。 STILL_ACTIVE(259)を返すプログラムの終了コードを正しく判断するためには、checkRunning も併用して下さい。

5) ENBASClientSendMailResult オブジェクト

現在サポートされていません。

ENBASClientSendMailResult オブジェクトのプロパティ一覧を表 5.2-41 に示します。

表 5.2-41 ENBASClientSendMailResult のプロパティ一覧

名前	型	パラメータ	読み書き属性	説明
actionName	String	なし	読み取り専用	アクション名
actionType	Number	なし	読み取り専用	アクション種別 0=SEN サーバーによる実行 1=予約用 2=メール送信
execErrorCode	Number	なし	読み取り専用	実行エラーコード 0=成功 それ以外=GetLastError() による OS のエラーコード値
ActionId	String	なし	読み取り専用	アクション ID
StartTime	Object	なし	読み取り専用	コマンドの開始日時
endTime	Object	なし	読み取り専用	コマンドの終了日時
outputMessage	String	なし	読み取り専用	出力メッセージ コマンドが終了していなければ、例外が発生します。 execErrorCode が 0 でなければ、アクセスできません。
mailFrom	String	なし	読み取り専用	発信元メールアドレス
rcptTo	String	なし	読み取り専用	宛先メールアドレス
Cc	String	なし	読み取り専用	カーボンコピーの宛先メールアドレス
subject	String	なし	読み取り専用	メールの件名

6) ENBASClientTime オブジェクト

コンソールルールで参照される日付、時刻表示のためのオブジェクトです。

ENBASClientTime オブジェクトのプロパティ一覧を表 5.2-42 に示します。

表 5.2-42 ENBASClientTime オブジェクトのプロパティ一覧

名前	型	パラメータ	読み書き属性	説明
year	Number	なし	読み取り専用	西暦(1オリジン)
month	Number	なし	読み取り専用	月(1オリジン)
dayOfMonth	Number	なし	読み取り専用	日(1オリジン)
hour	Number	なし	読み取り専用	時
minute	Number	なし	読み取り専用	分
second	Number	なし	読み取り専用	秒
milliSecond	Number	なし	読み取り専用	ミリ秒
dayOfWeek	Number	なし	読み取り専用	曜日 0=日曜日 1=月曜日 2=火曜日 3=水曜日 4=木曜日 5=金曜日 6=土曜日

7) パトランプオブジェクト(ENBASPatLamp)

コンソールルールでのパトランプオブジェクトです。

ENBASPatLamp のプロパティ一覧を表 5.2-43 に示します。

表 5.2-43 ENBASPatLamp オブジェクトプロパティ一覧

名前	型	パラメータ	読み書き属性	説明
comPortName	String	なし	読み取り専用	パトランプが接続されている COM ポート名 読み取り専用。
Active	Boolean	なし	読み書き可	パトランプのアクティブ状態 active が true の場合に、On になります。 active が false の場合に、Off になります。

8) ENBASClientDataElement オブジェクト

ENBASClientDataElement オブジェクトは、繰り返しのある属性を表します。

ENBASClientDataElement のプロパティ一覧を表 5.2-44 に示します。

表 5.2-44 ENBASClientDataElement オブジェクトプロパティ一覧

名前	型	パラメータ	読み書き属性	説明
Prop	セットした値による	fieldId (String)	読み書き可	フィールドクラス ID よりデータを取得します。prop2 において index を 0 とした場合と同じです。
Prop2	セットした値による	fieldId(String), index(Number)	読み書き可	フィールドクラス ID およびインデックスによりデータを取得します。同じフィールドクラスが複数ある場合に用います。
numOfFields	Number	name(String)	読み取り専用	指定したフィールドクラスのフィールド数を返します。prop2 のインデックスの上限を求めるために使用します。

5.2.1.3 ルール内で参照可能な変数の有効範囲

表 5.2-45 変数の有効範囲一覧

	global Context	client Context	current Event	history Element	actHistory Element
早期イベント破棄					
ルール条件-1	○	×	○	×	×
繰り返しイベントの破棄					
ルール条件-1	○	×	○	×	×
イベントの解析-1					
ルール条件-1	○	×	○	×	×
アクション	○	×	○	×	×
アクションの実行-1					
ルール条件-1	○	×	○	×	×
アクション	○	×	○	×	×
過去イベントの調査					
ルール条件-1	○	×	○	×	×
ルール条件-2	○	×	○	○	×
アクション	○	×	○	○	×
到着件数に対する処理					
ルール条件-1	○	×	○	×	×
ルール条件-2	○	×	○	○	×
アクション	○	×	○	○	×
アクション実行履歴処理					
ルール条件-1	○	×	○	×	○
ルール条件-2	○	×	○	×	○
アクション	○	×	○	×	○
イベントの解析-2					
ルール条件-1	○	×	○	×	×
アクション	○	×	○	×	×
アクションの実行-2					
ルール条件-1	○	×	○	×	×
アクション	○	×	○	×	×
遅延実行					
ルール条件-1	○	×	○	×	×
ルール条件-2	○	×	○	×	×
アクション	○	×	×	×	×

	global Context	client Context	current Event	history Element	actHistory Element
タイマ					
ルール条件-1	○	×	×	×	×
ルール条件-2	○	×	×	×	×
アクション	○	×	×	×	×
コンソールルール					
アクション	×	○	○	×	×
イベントビュー					
表示方法	×	○	○	×	×
イベントフィルタビュー					
ルール条件	×	×	○	×	×



グローバル定義に記述された関数内で上記変数を使用する場合は、その関数が呼ばれるステージに依存します。

5.2.1.4 SenjuEnterpriseNavigator が提供する URI

表 5.2-46 に SenjuEnterpriseNavigator が提供する URI 一覧を示します。

表 5.2-46 SenjuEnterpriseNavigator が提供する URI 一覧

関連ビュー	URI	説明	例
イベントビュー	sen:///EventView/[グループ ID]/[表示方法]#[シーケンス ID]	グループ ID: ユーザーグループ ID 表示方法: イベントビューの表示方法 ID シーケンス ID: イベントのシーケンス ID	sen:///EventView/GRP1/{メッセージすべて} #12610
メインビュー	sen:///MainView/[グループ ID]/[カテゴリ ID]/[ツリーパス]#[アイテム ID]	グループ ID: ユーザーグループ ID カテゴリ ID: メインビューのカテゴリ ID ツリーパス: メインビューのツリーパス アイテム ID: メインビューのメインページアイテム ID	sen:///MainView/GRP1/NodeView/Tokyo/HQ#Node01
メインビュー	sen:///commandexe/[コマンドパス][引数]	コマンドパス: SEN コンソールをインストールした端末上のコマンドのパス 引数: コマンドの引数(複数指定可能) ※引数を指定する場合は、コマンドパスと引数の間に” (バーティカルバー)”が必要です。 ※環境変数を利用する場合は、<>を使用し”<環境変数>”と記載します。<>内に”<”、>”を指定することはできません。	sen:///commandexe/<SENSVHOME>\bin\\sjENB_Pmctrl\run U1

5.2.2 イベントクラス一覧

ここでは、Senju Enterprise Navigator システムにおけるイベントクラスの一覧ならびに各クラスのフィールド一覧を示します。各クラスのフィールドは、prop または prop2 プロパティでアクセスします。prop2 プロパティは同一のフィールドクラス名が複数存在する場合に使用します。

5.2.2.1 共通イベントクラス

表 5.2-47 共通イベントクラス一覧

項番	クラス名	UUID
1	内部イベント	{6038E266-5B5F-4569-9A9E-AFBD5E9012A4}
2	カスタムメッセージ	{D667126B-72AA-4583-9B68-5A5412D1608B}
3	アクション終了イベント	{7205F92F-29F7-4fa3-9D5F-9B42BAEB5F8E}
4	SEN サーバーアクション終了イベント	{11A70F95-9C26-47bf-B12C-6D597B28F863}
5	プロデューサアクション終了イベント	{F74E2AEB-ABFC-4E02-8F4E-9EB23118B0E6}
6	コンソールユーザー作成イベント	{DFB5171E-BF1D-44e6-8491-69A665806DEF}
7	イベントステータス変更イベント	{50162001-E58E-4825-900B-C87D11CD2376}
8	メインペインアイテムリセットイベント	{010CE332-5507-40d6-9836-22DA5D76B8A5}
9	メインペイン定義反映イベント	{333062F3-82C3-4abd-BB77-13CCDFBF1EFD}
10	共通アクション結果	{8150E959-DB3E-4856-B3FE-E798509CF09B}

表 5.2-48 内部イベントクラスの prop プロパティ一覧

引数名	型	説明
管理対象システム名	String	管理対象システム名
管理対象領域名	String	SEN サーバー名
メッセージ区分	String	"S"
メッセージ識別 No	String	同一管理対象領域内で発生したイベントに対する識別する番号 No
発生元ノード ID	String	SEN サーバー名
発生元 APPL 名	String	メッセージの発生元を表すアプリケーション名
メッセージ種別	String	メッセージの種別 "I" = 通常メッセージ "E" = 障害メッセージ
発生日時	String	イベント発生日時("YYYY-MM-DD HH:MM:SS")
メッセージ ID	String	メッセージ ID
メッセージテキスト	String	メッセージテキスト文字列
タグ情報リスト	Object	タグ情報の配列(オカレンス)

※ユニークキーは、UUID 文字列です。

表 5.2-49 カスタムメッセージクラスの prop プロパティ一覧

引数名	型	説明
管理対象システム名	String	"アダプタ(イベント送信コマンド)"
管理対象領域名	String	引数で指定します。デフォルトはコマンド実行元ホスト名+"イベント送信コマンド"です。
メッセージ区分	String	"N"
メッセージ識別 No	Number	引数で指定します。デフォルトは"0"です。
発生元ノード ID	String	引数で指定します。デフォルトはコマンド実行元ホスト名です。
発生元 APPL 名	String	引数で指定します。デフォルトは"sJENX_SendEvent"です。

引数名	型	説明
メッセージ種別	String	引数で指定します。
発生日時	String	引数で指定します。デフォルトはコマンド実行元のローカル時刻です。
メッセージ ID	String	引数で指定します。
メッセージテキスト	String	メッセージテキスト文字列
タグ情報リスト	Object	タグ情報の配列(オカレンス)
ユーザー定義値 1	String	ユーザーが自由に定義可能な値1
ユーザー定義値 2	String	ユーザーが自由に定義可能な値2
ユーザー定義値 3	String	ユーザーが自由に定義可能な値3

※ユニークキーは、UUID 文字列です。

表 5.2-50 アクション終了イベントクラスの prop プロパティ一覧

引数名	型	説明
アクション ID	String	アクション ID
開始日時	String	アクションが実行された日時
終了日時	String	アクションが終了した日時
アクションユーザー情報	String	アクション実行時に指定した文字列
アクション全文字出力	String	アクションすべての出力を連結した文字列

※ユニークキーは、文字列” TerminateAction”です。

表 5.2-51 SEN サーバーアクション終了イベントクラスの prop プロパティ一覧

引数名	型	説明
アクション ID	String	アクション ID
開始日時	String	アクションが実行された日時
終了日時	String	アクションが終了した日時
アクションユーザー情報	String	アクション実行時に指定した文字列
アクション全文字出力	String	アクションすべての出力を連結した文字列
プロセス終了コード	Number	実行したプロセスの終了コード

※ユニークキーは、文字列” TerminateAction”です。

表 5.2-52 プロデューサアクション終了イベントクラスの prop プロパティ一覧

引数名	型	説明
アクション ID	String	アクション ID
開始日時	String	アクションが実行された日時
終了日時	String	アクションが終了した日時
アクションユーザー情報	String	アクション実行時に指定した文字列
アクション全文字出力	String	アクションすべての出力を連結した文字列
プロデューサアクション実行結果	Object	アクション実行結果(オカレンス)
プロデューサーアクション種別	Number	プロデューサーアクション種別
プロデューサーアクション起動成功フラグ	Number	アクション起動が成功したかを表すフラグ
プロデューサーアクションメッセージ	String	アクションの出力メッセージ
終了ステータス	Number	実行したプロセスの終了コード

表 5.2-53 コンソールユーザー作成イベントクラスの prop2 プロパティ一覧

引数名	型	説明
コンソールユーザー作成イベントパラメータ	String	ユーザーにより設定された任意の 3 つのパラメータ(オカレンス) index に 0 を指定した場合は、イベントの送信画面のパラメータ(1)フィールドで指定した、1 番目のパラメータを参照します。 index に 1 を指定した場合は、イベントの送信画面のパラメータ(2)フィールドで指定した、2 番目のパラメータを参照します。 index に 2 を指定した場合は、イベントの送信画面のパラメータ(3)フィールドで指定した、3 番目のパラメータを参照します。
発生元	String	イベントの発生元でイベントの送信画面より送信した場合は「メニュー」が設定されます。
発生元詳細情報	String	イベントの発生元の詳細情報でイベントの送信画面より送信した場合は「メニュー/ツールメニュー/コンソールイベントの送信」が設定されます。

表 5.2-54 イベントステータス変更イベントクラスの prop2 プロパティ一覧

引数名	型	説明
イベントステータス変更項目	Object	ステータス変更されたイベントに対する変更項目の配列

表 5.2-55 イベントステータス変更項目クラスの prop プロパティ一覧

引数名	型	説明
イベント ID	String	変更対象イベントのイベント ID
ドメイン ID	String	変更対象イベントのドメイン ID
ノード ID	String	変更対象イベントのノード ID
ユーザー ID	String	変更対象イベントのステータスを変更したユーザー ID
ユーザーグループ ID	String	変更対象イベントがディスパッチされたグループのグループ ID
旧イベント状態	Number	変更対象イベントの変更前のステータス(0~3)
新イベント状態	Number	変更対象イベントの変更後のステータス(0~3)
関連ビュー	Object	変更対象イベントの関連ビュー URL の配列(ENBASDataElement オブジェクトのインスタンス)

引数名	型	説明
		関連ビューは1つのイベントに複数関連づけられる可能性があるため、 prop2 プロパティにてアクセスします。配列の個数は numOfFields プロパティで取得できます。

※変更対象イベントとはイベントステータスが変更されたイベントを指します。

表 5.2-56 メインペインアイテムリセットイベントクラスの **prop** プロパティ一覧

引数名	型	説明
リセットアイテムグループパス	String	リセット対象となったビューアイテムグループへのパス
リセットアイテム	String	リセット対象となったメインペインアイテム ID メインペインアイテム指定でのリセットの場合のみセットされます。

表 5.2-57 メインペイン定義反映イベントクラスの **prop** プロパティ一覧

引数名	型	説明
メインペイン定義反映グループパス	String	定義反映の対象となったビューアイテムグループへのパス

表 5.2-58 共通アクション結果クラスの **prop** プロパティ一覧

引数名	型	説明
アクション ID	String	アクション ID
成功フラグ	Number	アクション起動が成功したかを表すフラグ
エラーコード	Number	エラーコード
出力メッセージ	String	アクションの出力メッセージ
出力ファイル名	String	アクションの出力ファイル名

5.2.2.2 メール受信連携サブシステム

表 5.2-59 イベントクラス一覧

項番	クラス名	UUID
1	メールメッセージ	{311BB267-00FC-49EC-91C0-3867FB455CD6}
2	添付ファイル情報	{A09FE225-A8A1-43B0-B885-7D6512A49C00}
3	HTML ファイル情報	{39C509CD-7EB4-4359-8684-ECBFFB510755}
4	挿入ファイル情報	{B8998150-9A3F-4CCC-8DD1-037E2F36EEFD}
5	メールロウデータ出力結果メッセージ	{97EE22C2-0508-43DC-BA7A-7141F6F797C3}

表 5.2-60 メールメッセージクラスの prop プロパティ一覧

引数名	型	説明
管理対象システム名	String	"アダプタ(Mail-Receive)"
管理対象領域名	String	SEN コンフィグレータにより設定したドメイン名
メッセージ区分	String	"N"
メッセージ識別 No	String	0 固定
発生元ノード ID	String	メール受信元メールサーバーホスト名または IP アドレス
発生元 APPL 名	String	メールヘッダーの「X-Mailer」
メッセージ種別	String	メッセージの種別 "1"固定
発生日時	String	メールヘッダーの「Date」
メッセージ ID	String	"!ENX154"
メッセージテキスト	String	"メールメッセージを受信しました。"
タグ情報リスト	Object	タグ情報の配列(オカレンス)
From:	String	メールメッセージヘッダー情報の送信元
To:	String	メールメッセージヘッダー情報の宛先(オカレンス)
Cc:	String	メールメッセージヘッダー情報のカーボンコピー(オカレンス)
Bcc:	String	メールメッセージヘッダー情報のブラインドカーボンコピー(オカレンス)
Subject:	String	メールメッセージヘッダー情報の件名
Received:	String	メールメッセージヘッダー情報の経由サーバー名(オカレンス)
Message-ID:	String	メールメッセージヘッダー情報の文書識別子
Content-Type:	String	メールメッセージヘッダー情報の文書タイプ
Sender:	String	メールメッセージヘッダー情報の送信者
Organization:	String	メールメッセージヘッダー情報の所属組織名
References:	String	メールメッセージヘッダー情報のリファレンス(オカレンス)
X-Priority:	String	メールメッセージヘッダー情報のプライオリティ
メールサイズ	String	メールメッセージのサイズ(Byte)
メール本文	String	メールメッセージ本文情報
添付ファイルサイズ	String	添付ファイルのサイズ
添付ファイル格納先	String	添付ファイルの格納先
添付ファイル数	Number	添付ファイル数
添付ファイルリスト	添付ファイル情報	添付ファイルリスト
HTML ファイルの合計サイズ	String	HTML ファイルの合計サイズ
HTML ファイルの格納先	String	HTML ファイルの格納先
HTML ファイル数	Number	HTML ファイル数
HTML ファイルリスト	HTML ファイル情報	HTML ファイルリスト
挿入ファイルの合計サイズ	String	挿入ファイルの合計サイズ
挿入ファイルの格納先	String	挿入ファイルの格納先
挿入ファイル数	Number	挿入ファイル数

引数名	型	説明
挿入ファイルリスト	挿入ファイル情報	挿入ファイルリスト

※ユニークキーは、UUID 文字列です。

表 5.2-61 添付ファイル情報クラスの prop プロパティ一覧

引数名	型	説明
添付ファイル名	String	添付ファイル名
出力ファイル名	String	出力ファイル名
添付ファイルサイズ	Number	添付ファイルサイズ
エンコード方法	String	エンコード方法

※ユニークキーは、UUID 文字列です。

表 5.2-62 HTML ファイル情報クラスの prop プロパティ一覧

引数名	型	説明
HTML ファイル名	String	HTML ファイル名
出力ファイル名	String	出力ファイル名
HTML ファイルサイズ	Number	HTML ファイルサイズ
エンコード方法	String	エンコード方法

※ユニークキーは、UUID 文字列です。

表 5.2-63 挿入ファイル情報クラスの prop プロパティ一覧

引数名	型	説明
挿入ファイル名	String	挿入ファイル名
出力ファイル名	String	出力ファイル名
挿入ファイルサイズ	Number	挿入ファイルサイズ
エンコード方法	String	エンコード方法
Content-ID	String	Content-ID
Content-Disposition	String	Content-Disposition

※ユニークキーは、UUID 文字列です。

表 5.2-64 メールロウデータ出力結果メッセージの prop プロパティ一覧

引数名	型	説明
管理対象システム名	String	"アダプタ(Mail-Receive)"
管理対象領域名	String	SEN コンフィグレータにより設定したドメイン名
メッセージ区分	String	"N"
メッセージ識別 No	String	0 固定
発生元ノード ID	String	メール受信元メールサーバーホスト名または IP アドレス
発生元 APPL 名	String	メールヘッダーの「X-Mailer」
メッセージ種別	String	メッセージの種別 "I" 固定
発生日時	String	メールヘッダーの「Date」
メッセージ ID	String	"!ENX154"
メッセージテキスト	String	"メールメッセージを受信しました。"
タグ情報リスト	Object	タグ情報の配列(オカレンス)
MailRawFilePath	String	メールロウデータファイルのパス

5.2.2.3 シスログ連携サブシステム

表 5.2-65 共通イベントクラス一覧

項番	クラス名	UUID
1	シスログメッセージ	{CF565E64-9D5A-4d4a-ADE3-4C4F98A45CA0}

表 5.2-66 シスログメッセージクラスの prop プロパティ一覧

引数名	型	説明
管理対象システム名	String	"アダプタ(Syslog)"
管理対象領域名	String	SEN サーバー名+" (Syslog)"
メッセージ区分	String	"N"
メッセージ識別 No	String	0 固定
発生元ノード ID	String	シスログ送信元ホスト名またはIPアドレス
発生元 APPL 名	String	"Syslog"
メッセージ種別	String	メッセージの種別 "1"固定
発生日時	String	シスログの受信時刻
メッセージ ID	String	メッセージ ID
メッセージテキスト	String	メッセージテキスト文字列
タグ情報リスト	Object	タグ情報の配列(オカレンス)
SYSLOG ファシリティ	String	ログの分類
SYSLOG 重大度	String	ログのレベルの重要度

※ユニークキーは、UUID 文字列です。

5.2.2.4 SNMPトラップ連携サブシステム

表 5.2-67 共通イベントクラス一覧

項番	クラス名	UUID
1	SNMPトラップメッセージ	{6921AEC4-1935-4F8C-BA77-396C9F7D1157}

表 5.2-68 SNMPトラップメッセージクラスの prop プロパティ一覧

引数名	型	説明
管理対象システム名	String	"アダプタ(SNMP-Trap)"
管理対象領域名	String	SEN サーバー名+(SNMP-Trap)"
メッセージ区分	String	"N"
メッセージ識別 No	String	0 固定
発生元ノード ID	String	SNMPトラップ送信元ホスト名または IP アドレス
発生元 APPL 名	String	「SNMP-Agent」または sjENX_Trapd
メッセージ種別	String	メッセージの種別 "I" = 通常メッセージ "E" = 障害メッセージ "W" = 警告メッセージ
発生日時	String	イベント発生日時("YYYY-MM-DD HH:MM:SS")
メッセージ ID	String	メッセージ ID
メッセージテキスト	String	メッセージテキスト文字列
タグ情報リスト	Object	タグ情報の配列(オカレンス)
SNMPトラップタイプ	String	TrapType coldStart、warmStart 等
SNMPトラップ関連情報	String	SNMP-Trap で通知される付加情報 複数ある場合は「,」で区切って出力する。
SNMPバージョン	String	受信した SNMP-Trap のバージョン v1 または v2c または v3
コミュニティ名	String	SNMPバージョンが v1 または v2c の場合に設定する 受信した SNMP-Trap のコミュニティ名
sysUpTime	String	最後に初期化されてからの経過時間
セキュリティエンジン ID	String	SNMPバージョンが v3 の場合に設定する SNMPセキュリティエンジン ID("0xHHHHHHHHH...")
セキュリティ名	String	SNMPバージョンが v3 の場合に設定する SNMPユーザー名

※ユニークキーは、UUID 文字列です。

5.2.2.5 千手連携サブシステムのイベントクラス

表 5.2-69 イベントクラス一覧

項番	クラス名	UUID
1	千手メッセージ	{4F1C35BC-E001-4A7D-A896-8BD26D02C2C4}
2	千手ノード定義	{809D6C23-EFDC-465A-8219-651C4E10012B}
3	千手ノードステータス	{1A3BA823-2242-4C7C-8360-E6CD81A07D51}
4	千手ノードグループ定義	{F426274D-DE6F-4B46-A33C-237E84E9FCDA}
5	千手特別監視対象外ノード ID	{F025514C-AF87-408C-A2F3-B60A1F0713C2}
6	千手実行システム定義	{9C1AF49F-FC37-4F16-9323-E6EEC30CC694}
7	千手表示実行システム	{A3BD6E09-E502-4AB0-8784-88B1F166EE31}
8	千手フレームステータス	{20425285-AFF2-408F-BA1E-1F139375A7FC}
9	千手ドメイン情報	{372C292F-22D3-427C-AE4B-3E3BD3B6D86A }
10	千手監視用カテゴリ	{3C76182B-3715-4FB5-8F9F-E68EB016A635}
11	千手監視項目	{AA3F970A-F0B5-4149-ADCF-1B83465A62C9}
12	千手監視タスク	{7BBE8F72-B3B8-4059-8448-F1D2E8A1B675}
13	千手ディスクカバー定義	{34D22822-D74B-4C1C-8B2F-629EC2BAA208}
14	千手グラフ定義	{44CF7438-DD66-44D1-8EBC-405328C65B6A}
15	千手週間スケジュール	{9BF1DE35-EAF0-4349-9CBB-D65EB9C26F3B}
16	千手営業日カレンダー	{6303DC73-00FA-41C9-AD18-2FF91591733B}
17	千手稼働日カレンダー	{50276D70-77C5-440F-A5E6-4B7833F25C11}
18	千手動作環境	{1BBF90F0-B743-4EC0-BB98-3BFC0B3B4E9C}
19	千手トリガ	{53D4175B-CE13-4CF3-B288-C59100BF490D}
20	千手ジョブ	{7E5188D3-33B1-4571-B68A-0596DE0C1435}
21	千手システム	{AD288C1C-52F6-48A9-9810-104AF29D0EA6}
22	千手ジョブサービスグループ	{44AA4362-1C83-46D0-B3A8-C852D97E2E52}
23	千手ジョブサービスチェック項目	{962A19C1-3771-4D4D-B31F-D43EEDF1F7E5}
24	千手運用日付	{9CD36CEC-2F7A-45BC-B8DB-B6D125489959}
25	千手実行動作環境	{8C89E931-E772-440F-BC46-44418B447945}
26	千手トリガステータス	{35A7EEC8-F7FA-4D76-8E1C-E6B3E1D67289}
27	千手コマンドグループ	{C37E6AC1-614B-4B24-A4D7-A5144C1CBA55}
28	千手ユーザーコマンドグループ	{59429111-CD5D-4000-8893-3ACC3A41A4B8}
29	千手ユーザーコマンドフォルダ	{0F7481D6-B15D-40D4-837A-FE3F9722134C}
30	千手パラメータ	{B0C61EBD-18C4-4CD9-B256-B24B37B26C40}
31	千手コマンド実行応答	{B7BD2735-DEBD-4AA6-9F43-3B32C6270C53}
32	千手プロセス状態応答	{DAE8546C-4C41-44AD-BC62-E9ADAE2F696D}
33	千手ディスク状態応答	{AFEDFD3F-D03D-46AB-9099-E7138E4DD266}
34	千手システムジョブテンプレート	{9CE87882-8685-49F2-8EF8-323997983D7E}
35	千手ユーザージョブテンプレート	{78144ACE-564C-4F12-8ED8-F22FF7CC3CE6}
36	千手リソース	{6CCE3CFF-8C7B-4138-8E84-A3B68B2D6201}
37	千手ネット	{FAFF9DE9-6EB4-4B9E-BD8C-0C52E7B5D0AF}
38	千手フレーム	{61CEFCF0-4845-47AC-A84D-96B0EE76BBB2}
39	千手動作環境プール	{FD05B781-F9E2-4E9D-9BC3-D91D195B9148}
40	千手メッセージフィルタ	{12D0DE54-7F1B-417B-BDB7-AA00BE9A4221}
41	千手ログフィルタ	{1E149CED-BD8A-457F-8D7D-9FE19A2AFC3D}
42	千手イベントログフィルタ	{21D11A4F-755F-4A56-ADB9-92D00F6735DF}
43	千手タスクスケジュール	{ED34EE3F-92B9-496F-A20D-03E689D375D7}
44	千手ジョブレポート	{CE38254C-5C1A-44DA-8003-7AE68C148BFE}
45	千手ジョブレポート統計情報条件	{E6BA4753-BA04-4DA1-8738-F84CE37580CC}
46	千手サービス構成応答情報	{F78530D9-0710-4F1A-8531-E5B3CEB79FB7 }
47	千手ジョブ稼働履歴取得結果	{3050F3D7-65A0-4A9D-B1FE-6B7A37D446A2}
48	千手ジョブ経路取得結果	{2E126414-CCD8-4130-A616-5DCF90CA0908}
49	千手ソフトウェア/バッチ構成応答情報	{E4B46948-1871-4F26-BD0C-7562CA2912AA}
50	千手ディスク構成応答情報	{BF079832-250D-4054-B8C8-0CE39987BEC6}
51	千手ネットワーク構成応答情報	{B3994945-0111-4E76-A7C5-98C211CF59F5}
52	千手バッチ構成応答情報	{CD6CDC83-BF0C-4F61-9392-4CA0F57B0795}
53	千手ホスト構成応答情報	{CE5E427C-8DC2-4AB8-B6FC-72CD53D2DDBFD}
54	千手基本構成応答情報	{D819BEFB-013E-438A-A5F7-833EAFB28788}
55	千手構成応答情報	{DCB7C7EF-ADC9-486A-B0F2-60E6CDE149B7}

項番	クラス名	UUID
56	千手文字列リスト応答	{F2E2E166-CDDF-4763-9731-87827F0CB51F}
57	メール送信メッセージ	{D4919D75-8535-4CA7-A4F6-696201368B60}
58	電話呼出メッセージ	{9821866B-B404-4220-81A4-A5A9A1DFD660}
59	電話応答	{310D2B16-F705-46E7-A23E-D79700D7294A}
60	ランブック実行リクエスト	{15A64FFE-DE53-45B8-8925-C6E03A33E498}
61	コマンド実行リクエスト	{F5CBDA5F-8DC9-4CFF-8E36-A2ED32BB7733}
62	ジョブ一時停止リクエスト	{27E02859-63B8-41DD-A88C-08BAD2A79D4E}
63	ジョブスキップリクエスト	{B723D7AC-3616-4B89-A8EA-AA340726CB7B}
64	ジョブ起動時刻変更リクエスト	{399C2C68-87CB-41A4-B938-2851CF607863}
65	千手分岐条件一覧	{0928A8B1-636C-4B0F-B692-8F580398CE4D}
66	千手分岐条件項目	{6CDD254F-83CB-4938-9F54-BC234D094951}

表 5.2-70 千手メッセージクラスの prop プロパティ一覧

引数名	型	説明
管理対象システム名	String	アダプタ(千手)
管理対象領域名	String	SEN コンフィグレートにより設定したドメイン名
メッセージ区分	String	メッセージ区分 "N"=千手メッセージ "S"=内部イベント
メッセージ識別 No	Number	メッセージのシーケンス番号(ユニークキー)
メッセージ ID	String	メッセージ ID
メッセージ種別	String	千手メッセージレベル "I" =通常メッセージ "E" =障害メッセージ "R" =応答メッセージ
発生日時	String	イベント発生日時("YYYY-MM-DD HH:MM:SS")
発生元ノード ID	String	イベント発生元ノード ID
発生元 APPL 名	String	イベント発生元プロセス名
メッセージテキスト	String	メッセージテキスト文字列
タグ情報リスト	Object	タグ情報の配列(オカレンス)
ノード名	String	着信時点のイベント発生元ノード名
メッセージ文字色	Number	表示する際の文字色
メッセージ背景色	Number	表示する際の背景色
警報装置設定	Number	警報装置の鳴動設定
メッセージガイド	String	メッセージのガイド
対応種別	String	千手メッセージアクションの対応種別
マネージャ到着日時	String	千手マネージャに到着した日時("YYYY-MM-DD HH:MM:SS")
マネージャアクション	String	千手メッセージアクションのアクション
ルール ID	String	千手メッセージアクションのルール ID
ノート	String	千手メッセージアクションの出力メッセージ

表 5.2-71 千手ノード定義クラスの prop プロパティ一覧

引数名	型	説明
ノード ID	String	監視対象エージェントのノード ID(ユニークキー)
ノード名	String	監視対象エージェントのノード名
ロングホスト名	String	監視対象エージェントのロングホスト名
OS	Number	OS 種別
モニタリング	Number	ノードのモニタリング設定
パッケージ	Number	ノードのパッケージ設定
ジョブスケジュール	Number	ノードのジョブスケジュール設定
帳票管理	Number	ノードの帳票管理設定

引数名	型	説明
コンフィグレーション	Number	ノードのコンフィグレーション設定
ランブックオートメーション	Number	ノードのランブックオートメーション設定
ノードグループ ID	String	ノードグループの ID。(オカレンス)
監視時間帯営業日カレンダー名	String	監視時間帯 営業日カレンダー名
監視時間帯週間スケジュール名	String	監視時間帯 週間スケジュール名
自動運転	Number	自動運転 1:自動運転する 0:自動運転しない
自動運転営業日カレンダー名	String	自動運転 営業日カレンダー名
自動運転週間スケジュール名	String	自動運転 週間スケジュール名
自動運転電源制御装置	String	自動運転 電源制御装置
千手マネージャノード名	String	千手マネージャノード名
千手コンソール名	String	千手コンソール名
リソース監視検査間隔	Number	リソース監視 検査間隔 [分]
オラクル監視検査間隔	Number	オラクル監視 検査間隔 [秒]
ディスク監視検査間隔	Number	ディスク監視 検査間隔 [秒]
ログ監視検査間隔	Number	ログ監視 検査間隔 [秒]
CPU 使用率しきい値	Number	リソース監視 CPU 使用率しきい値 [%]
CPU 使用率警告しきい値	Number	リソース監視 CPU 使用率警告しきい値 [%]
稼働プロセス数しきい値	Number	リソース監視 稼働プロセス数しきい値 [個]
稼働プロセス数警告しきい値	Number	リソース監視 稼働プロセス数警告しきい値 [個]
仮想メモリ使用率しきい値	Number	リソース監視 仮想メモリ使用率しきい値 [%]
仮想メモリ使用率警告しきい値	Number	リソース監視 仮想メモリ使用率警告しきい値 [%]
イベントログ監視検査間隔	Number	イベントログ監視 検査間隔 [秒]
監視対象イベントログリスト	Object	監視対象イベントログリスト(オカレンス) 千手文字列ペアのリスト
イベントログアカウント	String	イベントログアカウント
イベントログパスワード	String	イベントログパスワード
監視対象ログファイルリスト	Object	監視対象ログファイルリスト(オカレンス) 千手文字列ペアのリスト
監視対象ユーザー起動プロセスリスト	String	監視対象ユーザー起動プロセスリスト(オカレンス)
監視対象ディスクリスト	Object	千手ディスク監視項目のリスト(オカレンス)
監視対象千手起動プロセスリスト	Object	千手起動プロセス監視項目のリスト (オカレンス)
監視対象オラクルテーブルスペースリスト	Object	千手オラクル監視項目のリスト(オカレンス)
ディスクカバーフラグ	Number	ディスクカバーフラグ
SNMPトラップ受信フラグ	Number	SNMPトラップ受信フラグ
Ping 監視フラグ	Number	Ping 監視フラグ
Ping 監視間隔	Number	Ping 監視間隔
Ping パケットサイズ	Number	Ping パケットサイズ
Ping リトライ数	Number	Ping リトライ数
Ping タイムアウト	Number	Ping タイムアウト
Ping 正常時アクション	Object	千手監視用アクションのリスト(オカレンス)
Ping 異常時アクション	Object	千手監視用アクションのリスト(オカレンス)
リモート KVM	String	リモート KVM
リモート KVM アカウント	String	リモート KVM アカウント
リモート KVM パスワード	String	リモート KVM パスワード
リモート KVM ターゲットデバイス名	String	リモート KVM ターゲットデバイス名
リモート KVM ターゲットホスト名	String	リモート KVM ターゲットホスト名
リモート KVM サーバーアドレス	String	リモート KVM 認証サーバーアドレス

引数名	型	説明
リモート KVM サーバーポート番号	String	リモート KVM サーバーポート番号
プローブノード ID	String	プローブノード ID
WMI アカウント	String	WMI アカウント
WMI パスワード	String	WMI パスワード
SNMP バージョン	String	SNMP バージョン
SNMP リトライ数	Number	SNMP リトライ数
SNMP タイムアウト	Number	SNMP タイムアウト
SNMP コミュニティ名	String	SNMP コミュニティ名
ログ監視接続方式	String	ログ監視接続方式
TELNET アカウント	String	TELNET アカウント
TELNET パスワード	String	TELNET パスワード
TELNET ポート番号	String	TELNET ポート番号
SSH アカウント	String	SSH アカウント
SSH パスワード	String	SSH パスワード
SSH ポート番号	String	SSH ポート番号
SSH バージョン	String	SSH バージョン
SSH 認証方式	String	SSH 認証方式
SSH パスフレーズ	String	SSH パスフレーズ
SSH 秘密鍵ファイル	String	SSH 秘密鍵ファイル
文字コード	String	文字コード
仮想サーバーホスト種別	String	仮想サーバーホスト種別
仮想サーバーホスト名	String	仮想サーバーホスト名
仮想サーバー名	String	仮想サーバー名
仮想サーバーアカウント	String	仮想サーバーアカウント
仮想サーバーパスワード	String	仮想サーバーパスワード
プローブノード ID デフォルト値	String	プローブノード ID デフォルト値
WMI アカウントデフォルト値	String	WMI アカウントデフォルト値
WMI アカウントパスワードデフォルト値	String	WMI アカウントパスワードデフォルト値
SNMP バージョンデフォルト値	String	SNMP バージョンデフォルト値
SNMP リトライ数デフォルト値	Number	SNMP リトライ数デフォルト値
SNMP タイムアウトデフォルト値	Number	SNMP タイムアウトデフォルト値
SNMP コミュニティ名デフォルト値	String	SNMP コミュニティ名デフォルト値
ログ監視接続方式デフォルト値	String	ログ監視接続方式デフォルト値
TELNET アカウントデフォルト値	String	TELNET アカウントデフォルト値
TELNET パスワードデフォルト値	String	TELNET パスワードデフォルト値
TELNET ポート番号デフォルト値	String	TELNET ポート番号デフォルト値
SSH アカウントデフォルト値	String	SSH アカウントデフォルト値
SSH パスワードデフォルト値	String	SSH パスワードデフォルト値
SSH ポート番号デフォルト値	String	SSH ポート番号デフォルト値
SSH バージョンデフォルト値	String	SSH バージョンデフォルト値
SSH 認証方式デフォルト値	String	SSH 認証方式デフォルト値
SSH パスフレーズデフォルト値	String	SSH パスフレーズデフォルト値
SSH 秘密鍵ファイルデフォルト値	String	SSH 秘密鍵ファイルデフォルト値
文字コードデフォルト値	String	文字コードデフォルト値
センサーのシステム情報取得方法	Number	センサーのシステム情報の取得方法 1: WMI 2: SNMP
ディスク監視取得方法	Number	ディスク監視取得方法

引数名	型	説明
プロセス監視取得方法	Number	プロセス監視取得方法
IP アドレス	String	IP アドレス
エージェント情報	Object	エージェント情報(オカレンス) 千手文字列ペアのリスト

表 5.2-72 千手ノードステータスクラスの prop プロパティ一覧

引数名	型	説明
ノード ID	String	監視対象エージェントノード ID (ユニークキー)
監視状態	Number	監視状態 1=監視対象 0=監視対象外
稼働状態	Number	稼働状態 1=稼働中 0=停止中
特別監視対象外状態	Number	特別監視対象外状態 1=特別監視対象外 0=監視対象
CPU 使用率	Number	リソース監視 CPU 使用率(%)
CPU 使用率しきい値	Number	リソース監視 CPU しきい値
CPU 使用率警告しきい値	Number	リソース監視 CPU 警告しきい値
CPU 状態	Number	リソース監視 CPU 状態 1=正常 0=異常
仮想メモリ使用量	Number	リソース監視 仮想メモリ使用量
仮想メモリ全体	Number	リソース監視 仮想メモリ全体
仮想メモリしきい値	Number	リソース監視 仮想メモリしきい値
仮想メモリ警告しきい値	Number	リソース監視 仮想メモリ警告しきい値
仮想メモリ状態	Number	リソース監視 仮想メモリ状態 1=正常 0=異常
稼働中監視プロセス数	Number	プロセス監視 仮想メモリ状態
正常停止監視プロセス数	Number	プロセス監視 正常停止監視プロセス数
警告停止監視プロセス数	Number	プロセス監視 警告停止監視プロセス数
異常停止監視プロセス数	Number	プロセス監視 異常停止監視プロセス数
プロセス状態	Number	プロセス監視 プロセス状態 1=正常 0=異常
稼働プロセス数	Number	リソース監視 稼働プロセス数
稼働プロセス数しきい値	Number	リソース監視 稼働プロセス数しきい値 [個]
稼働プロセス数警告しきい値	Number	リソース監視 稼働プロセス数警告しきい値 [個]
稼働プロセス状態	Number	リソース監視 稼働プロセス状態 1=正常 0=異常
正常ディスク数	Number	ディスク監視 正常ディスク数
警告ディスク数	Number	ディスク監視 警告ディスク数
異常ディスク数	Number	ディスク監視 異常ディスク数
ディスク状態	Number	ディスク監視 ディスク状態
正常オラクル数	Number	オラクル監視 正常オラクル数
異常オラクル数	Number	オラクル監視 異常オラクル数
正常ユーザー項目数	Number	正常ユーザー項目数
警告ユーザー項目数	Number	警告ユーザー項目数

引数名	型	説明
異常ユーザー項目数	Number	異常ユーザー項目数
Ping 応答確認	Number	Ping 応答確認。
テーブルスペースステータスリスト	Object	千手オラクル監視ステータスのリスト(オカレンス)
ユーザー監視項目ステータスリスト	Object	千手ユーザー項目監視ステータスのリスト(オカレンス)
監視用カテゴリの状態	Object	千手監視用カテゴリ状態のリスト(オカレンス)

表 5.2-73 千手ノードグループ定義クラスの prop プロパティ一覧

引数名	型	説明
ノードグループ ID	String	ノードグループ ID (ユニークキー)
ノードグループ名	String	ノードグループ名
ノードグループタイプ	String	ノードグループタイプ
説明	String	説明

表 5.2-74 千手特別監視対象外ノード ID クラスの prop プロパティ一覧

引数名	型	説明
ノード ID	String	特別監視対象外ノード ID
開始日時	String	開始日時
終了日時	String	終了日時

表 5.2-75 千手実行システム定義クラスの prop プロパティ一覧

引数名	型	説明
運用日付	String	運用日付 (ユニークキー)
実行システム名	String	実行システム名 (ユニークキー)
実行システム項目	Object	実行システム項目のリスト(オカレンス)

※ユニークキーは、運用日付と実行システム名の連結キーです。

表 5.2-76 実行システム項目クラスの prop プロパティ一覧

引数名	型	説明
フレーム名	String	フレーム名
起動時刻	String	起動時刻
起動日付	String	起動日付
スキップ指定	Number	スキップ指定
一時停止指定	Number	一時停止指定
所要時間	String	所要時間
正常時コマンド	String	正常時コマンド
異常時コマンド	String	異常時コマンド

表 5.2-77 千手表示実行システムクラスの prop プロパティ一覧

引数名	型	説明
運用日付	String	運用日付(ユニークキー)
実行システム名	String	実行システム名(ユニークキー)
状態	Number	実行システム状態(表 5.2-79 参照)
状態文字列	String	状態文字列(表 5.2-79 参照)
日付変更日時	String	日付変更日時
投入日時	String	投入日時
説明	String	説明

※ユニークキーは、運用日付と実行システム名の連結キーです。

表 5.2-78 千手フレームステータスクラスの prop プロパティ一覧

引数名	型	説明
運用日付	String	フレーム運用日付(ユニークキー)
フレーム名	String	フレーム名(ユニークキー)
スキップ状態	Number	スキップ状態
一時停止状態	Number	一時停止状態
状態	Number	フレーム状態(表 5.2-79 参照)
状態文字列	String	状態文字列(表 5.2-79 参照)
モード	Number	モード
全ジョブ数	Number	全ジョブ数
終了ジョブ数	Number	終了ジョブ数
開始予定日時	String	開始予定日時
所要時間	String	所要時間
開始日時	String	開始日時
終了日時	String	終了日時
正常時コマンド	String	正常時コマンド
異常時コマンド	String	異常時コマンド

※ユニークキーは、運用日付とフレーム名の連結キーです。

表 5.2-79 実行システムおよびフレームステータスの状態と状態文字列値一覧

状態	状態文字列
78	未投入
87	待機中
119	起動待ち
82	稼働中
69	正常終了
65	異常終了
97	異常あり
88	停止中
115	スキップ待ち

状態	状態文字列
83	スキップ終了
104	一時停止待ち
72	一時停止

表 5.2-80 千手ドメイン情報クラスの prop プロパティ一覧

引数名	型	説明
データ区分	Number	0=ドメイン時刻 1=ドメインバージョン 2=PxySvr バージョン 3=OS 種類
データ値	String	ドメイン時刻: "YYYY-MM-DD HH:MM:SS" ドメインバージョン: "X.X.X" PxySvr バージョン: "X.X.X" OS 種類: "WinNT", "UNIX"

※ユニークキーは、文字列"千手ドメイン時刻"、"千手ドメインバージョン"、"千手プロキシサーバーバージョン"、"千手マネージャ OS"です。

表 5.2-81 千手監視用カテゴリ状態クラスの prop プロパティ一覧

引数名	型	説明
カテゴリ ID	Number	カテゴリ ID
正常数	Number	正常数
警告数	Number	警告数
異常数	Number	異常数

表 5.2-82 千手オラクル監視ステータスクラスの prop プロパティ一覧

引数名	型	説明
テーブルスペース名	String	テーブルスペース名
使用率	Number	使用率 [%]
しきい値	Number	しきい値 [%]
状態	Number	状態 1: 正常 0: 異常

表 5.2-83 千手ユーザー項目監視ステータスクラスの prop プロパティ一覧

引数名	型	説明
ユーザー監視項目名	String	ユーザー監視項目名
値	String	値
状態	Number	状態 1: 正常 0: 異常

表 5.2-84 千手文字列ペアクラスの prop プロパティ一覧

引数名	型	説明
キー	String	キー
値	String	値

表 5.2-85 千手ディスク監視項目クラスの prop プロパティ一覧

引数名	型	説明
ユーザー監視項目名	String	ファイルシステム名
使用率の上限値	Number	使用率の上限値 [%]

表 5.2-86 千手起動プロセス監視項目クラスの prop プロパティ一覧

引数名	型	説明
プロセス名	String	プロセス名
実行ユーザー名	String	実行ユーザー名
最大再起動回数	Number	最大再起動回数
起動シーケンス	String	起動シーケンス

表 5.2-87 千手オラクル監視項目クラスの prop プロパティ一覧

引数名	型	説明
テーブルスペース名	String	テーブルスペース名
しきい値	Number	しきい値
パスワード	String	パスワード
SID	String	SID

表 5.2-88 千手監視用カテゴリクラスの prop プロパティ一覧

引数名	型	説明
カテゴリ ID	Number	ID
親カテゴリ ID	Number	親カテゴリ ID
カテゴリ名	String	カテゴリ名
千手カテゴリフラグ	Number	千手カテゴリフラグ 0: カスタムカテゴリ 1: 千手カテゴリ
説明	String	説明

表 5.2-89 千手監視用アクション情報クラスの prop プロパティ一覧

引数名	型	説明
アクション ID	Number	アクション ID
有効フラグ	Number	有効フラグ 0: 有効 1: 無効
アクション用パラメータ	String	アクション用パラメータ

表 5.2-90 千手監視用パラメータクラスの prop プロパティ一覧

引数名	型	説明
パラメータ名	String	パラメータ名
オプション	String	オプション
値	String	値
一覧表示コマンド	Number	一覧表示コマンド
パラメータの属性	Number	パラメータの属性(オカレンス)

表 5.2-91 千手監視詳細設定情報クラスの prop プロパティ一覧

引数名	型	説明
正常時アクション	Object	千手監視用アクションのリスト(オカレンス)
警告時アクション	Object	千手監視用アクションのリスト(オカレンス)
異常時アクション	Object	千手監視用アクションのリスト(オカレンス)
履歴データ保存期間	Number	履歴データ保存期間
履歴データサマリ方法	Number	履歴データサマリ方法(オカレンス)

表 5.2-92 千手監視項目クラスの prop プロパティ一覧

引数名	型	説明
監視項目 ID	Number	監視項目 ID(ユニークキー)
監視項目名	String	監視項目名
千手カテゴリフラグ	Number	千手カテゴリフラグ
カテゴリ ID	Number	カテゴリ ID
エクステンション ID	Number	エクステンション ID
監視項目種別	Number	監視項目種別
監視項目の特殊型番号	Number	監視項目の特殊型番号
利用可能情報	String	利用可能情報
説明	String	説明
計算式 ID	Number	計算式 ID
計算結果の型 ID	Number	計算結果の型 ID
計算結果の比較方法 ID	Number	計算結果の比較方法 ID
しきい値	String	しきい値(デフォルト値)
警告しきい値	String	警告しきい値(デフォルト値)
条件 ID	Number	条件 ID(デフォルト値)
単位	String	単位
計算式の変数	String	計算式の変数(オカレンス)
コマンド名	String	コマンド名
パラメータ	Object	千手監視用パラメータのリスト(オカレンス)
監視種別用特殊パラメータ	String	監視種別用特殊パラメータ(オカレンス)
検査間隔	Number	検査間隔(デフォルト値)
監視詳細設定情報	Object	千手監視詳細設定情報(デフォルト値)

表 5.2-93 千手監視タスククラスの prop プロパティ一覧

引数名	型	説明
監視タスク ID	Number	監視タスク ID (ユニークキー)
監視タスク名	String	監視タスク名
監視項目名	String	監視項目名
千手カテゴリフラグ	Number	千手カテゴリフラグ 1=千手カテゴリ、0=カスタムカテゴリ
カテゴリ ID	Number	カテゴリ ID
エクステンション ID	Number	エクステンション ID
監視タスク種別	Number	監視タスク種別 0=コマンド、1=WMI、2=SNMP、3=ICMP
監視タスクの特殊型番号	Number	監視タスクの特殊型番号
利用可能情報	String	利用可能情報 2^0=Windows、2^1=UNIX、2^2=センサー
監視項目の説明	String	監視項目の説明
監視対象ノード ID	Number	監視対象ノード ID
プローブノード種別	Number	プローブノード種別 0=監視対象ノードのデフォルトプローブノード ID (監視対象ノードが千手エージェントならばこれはプローブノード ID と監視対象ノード ID が一致する)と同じ。1=プローブノード ID を指定。
プローブノード ID	String	プローブノード ID
計算式 ID	Number	計算式 ID
計算結果の型 ID	Number	計算結果の型 ID D/S/F/S。
計算結果の比較方法 ID	Number	計算結果の比較方法 ID 1~5 の整数。省略不可。
しきい値	String	しきい値
警告しきい値	String	警告しきい値
条件 ID	Number	条件 ID 1~7 の整数。
単位	String	単位
計算式の変数	String	計算式の変数(オカレンス)
コマンド名	String	コマンド名
パラメータ	Object	千手監視用パラメータのリスト(オカレンス)
監視種別用特殊パラメータ	String	監視種別用特殊パラメータ(オカレンス)
コマンドシーケンス	String	コマンドシーケンス
旧エージェント/カスタム監視タスク用コマンドシーケンス	String	旧エージェント/カスタム監視タスク用コマンドシーケンス
検査間隔	Number	検査間隔
監視詳細設定情報	Object	千手監視詳細設定情報
タスクスケジュール名	String	タスクスケジュール名
タスクスケジュールパラメータ	Objec	タスクスケジュールパラメータ
監視動作	Number	監視動作 1: 監視中 2: 停止中 3: 一時停止中 11: 監視依頼中 12: 一時停止依頼中 13: 削除依頼中

表 5.2-94 千手監視タスクスケジューラクラスの prop プロパティ一覧

引数名	型	説明
スケジュール番号	Number	スケジュール番号
判別種別	Number	判別種別
しきい値	String	しきい値
警告しきい値	String	警告しきい値
条件 ID	Number	条件 ID
検査間隔	Number	検査間隔

表 5.2-95 千手ディスカバー除外アドレスクラスの prop プロパティ一覧

引数名	型	説明
開始 IP アドレス	String	開始 IP アドレス
終了 IP アドレス	String	終了 IP アドレス

表 5.2-96 千手ディスカバー用例外コミュニティ名クラスの prop プロパティ一覧

引数名	型	説明
開始 IP アドレス	String	開始 IP アドレス
終了 IP アドレス	String	終了 IP アドレス
コミュニティ名	String	コミュニティ名

表 5.2-97 千手ディスカバー用ノードアドレス情報クラスの prop プロパティ一覧

引数名	型	説明
ノード ID	String	ノード ID
IP アドレス	String	IP アドレス

表 5.2-98 千手ディスカバー定義クラスの prop プロパティ一覧

引数名	型	説明
ディスカバー ID	Number	ディスカバー ID
ディスカバー名	String	ディスカバー名(ユニークキー)
コレクタノード ID	String	コレクタノード ID
検査間隔	Number	検査間隔
リトライ回数	Number	リトライ回数
タイムアウト	Number	タイムアウト
開始 IP アドレス	String	開始 IP アドレス
終了 IP アドレス	String	終了 IP アドレス
サブネットマスク	String	サブネットマスク
SNMP バージョン	String	SNMP バージョン "1"=SNMPv1、"2c"=SNMPv2c
SNMP コミュニティ名	String	SNMP コミュニティ名
追加のコミュニティ名情報	Object	千手ディスカバー用補助コミュニティ名のリスト(オカレンス)
除外 IP アドレス	Object	千手ディスカバー除外アドレスのリスト(オカレンス)
例外コミュニティ名情報	Object	例外コミュニティ名情報。
ノードアドレス情報	Object	千手ディスカバー用ノードアドレス情報のリスト(オカレンス)
ディスカバー状態	Number	ディスカバー状態

引数名	型	説明
		1: 監視中 2: 停止中 3: 一時停止中 11: 監視依頼中 12: 一時停止依頼中 13: 削除依頼中
説明	String	説明
GUIの表示情報	String	GUIの表示情報

表 5.2-99 千手グラフの監視タスクの円グラフ情報クラスの prop プロパティ一覧

引数名	型	説明
ラベル名	String	ラベル名
表示フラグ	Number	表示フラグ 0=その他にイれる、1=表示する。
下限	String	下限 検査は監視対象の結果の型に依存。計算結果の型が文字列以外ならば省略不可。
下限制約	Number	下限制約 1=以上、6=より大きい、4=等しい、3=異なる。省略不可。計算結果の型が文字列以外ならば省略不可。
上限	String	上限 検査は監視対象の結果の型に依存。下限制約に依存。
上限制約	Number	上限制約 5=より小さい、2=以下。下限制約に依存。
文字列の値	String	文字列の値
色	String	色 RRGGBB 形式。省略不可。"0x"はつけない。
スタイル	String	拡張用

表 5.2-100 千手グラフの監視タスククラスの prop プロパティ一覧

引数名	型	説明
監視タスク ID	Number	監視タスク ID 存在している監視タスク ID。
サマリ方法	Number	サマリ方法 0=平均値、1=最小値、2=最大値、3=合計値、4=最新値。
X 軸方向の期間変更フラグ	Number	X 軸方向の期間変更フラグ 0=変更無し、1=相対、2=絶対
X 軸方向の期間変更の値	String	X 軸方向の期間変更の値
データ解析用パラメータ	String	データ解析用パラメータ
グラフ種別	Number	グラフ種別 1=折れ線グラフ、2=棒グラフ、3=積み上げ折れ線グラフ、4=積み上げ棒グラフ、5=円グラフ
色	String	色 RRGGBB 形式。円グラフ以外で有効。省略可能。"0x"はつけない。
スタイル	String	拡張用
軸番号	Number	軸番号 1=左、2=右。円グラフ以外で有効。
軸範囲固定フラグ	Number	軸範囲固定フラグ 0=固定無し、1=固定
Y 軸固定時の下限	Number	Y 軸固定時の下限

引数名	型	説明
Y 軸固定時の上限	Number	Y 軸固定時の上限
項目名の表示項目のフラグ	Number	項目名の表示項目のフラグ 0bit 目=監視対象名 1bit 目=監視タスク名 2bit 目=監視対象ノード名 3bit 目=サマリ方法
フィルタ設定	String	フィルタ設定。
円グラフ情報	Object	千手グラフの監視タスクの円グラフ情報のリスト(オカレンス) 1 個以上、5 個以下。円グラフのとき有効。

表 5.2-101 千手グラフ定義クラスの prop プロパティ一覧

引数名	型	説明
グラフ ID	Number	グラフ ID
グラフ名	String	グラフ名(ユニークキー)
X 軸種別	Number	X 軸種別 0=時系列、1=監視対象
表示単位	Number	表示単位 1=日単位、2=週単位、3=月単位。
データ表示対象の範囲種別	Number	データ表示対象の範囲種別 0=まで、1=から
表示対象	Number	表示対象 0=時間指定、1=this(今日/今週/今月)、2=last(昨日/先週/先月)。
表示開始年	String	表示開始年 YYYYMMDDHHMMSS 形式。
期間	Number	期間 単位: 日間/週間/ヶ月
使用するサマリテーブル	Number	使用するサマリテーブル 1=5 分、2=1 時間、3=1 日。
公開 WEB ユーザー名	String	公開 WEB ユーザー名(オカレンス)
グラフに用いる監視タスクリスト	Object	千手グラフの監視タスクのリスト(オカレンス)
組み合わせタイプ	Number	組み合わせタイプ 1=できるかぎり合成する、2=監視タスクごとに合成する、3=監視対象ごとに合成する。
説明	String	説明

表 5.2-102 千手監視対象状態取得結果情報クラスの prop プロパティ一覧

引数名	型	説明
監視タスク ID	Number	監視タスク ID
サマリ方法	Number	サマリ方法 0=平均値、1=最小値、2=最大値、3=合計値、4=最新値
監視対象名	String	監視対象名
結果	String	結果
状態	Number	状態
取得日付	Number	取得日付
カテゴリ ID	Number	カテゴリ ID
エクステンション ID	Number	エクステンション ID

表 5.2-103 千手監視対象状態取得結果クラスの prop プロパティ一覧

引数名	型	説明
チケット番号	Number	チケット番号
クライアント ID	Number	クライアント ID
接続フラグ	Number	接続フラグ
状態	Number	状態
エラーコード	Number	エラーコード
出力メッセージ	String	出力メッセージ
監視対象の一覧	Object	千手監視対象状態取得結果情報のリスト(オカレンス)

表 5.2-104 千手ディスカバー結果のインターフェース情報クラスの prop プロパティ一覧

引数名	型	説明
インターフェース番号	Number	インターフェース番号
IPアドレス	String	IPアドレス
サブネットマスク	String	サブネットマスク
説明	String	説明
インターフェースタイプ	Number	インターフェースタイプ
MTU	Number	MTU
速度	Number	速度
物理アドレス	String	物理アドレス
設定状態	Number	設定状態 1: up 2: down 3: testing
現在の状態	Number	現在の状態 1: up 2: down 3: testing
取得日付	Number	取得日付 YYYY/MM/DD HH:MM:SS 形式

表 5.2-105 千手ディスカバー結果情報クラスの prop プロパティ一覧

引数名	型	説明
ホスト名	String	ホスト名
ノード種別	Number	ノード種別
IPアドレス	String	IPアドレス
ベンダーID	Number	ベンダーID
ベンダー名	String	ベンダー名
システムの説明	String	システムの説明
ルータ種別	Number	ルータ種別
取得日付	Number	取得日付 YYYY/MM/DD HH:MM:SS 形式
SNMP ステータス	Number	SNMP ステータス
インターフェース情報	Object	千手ディスカバー結果のインターフェース情報のリスト(オカレンス)

表 5.2-106 千手ディスカバー結果クラスの prop プロパティ一覧

引数名	型	説明
ディスカバーID	Number	ディスカバーID
ディスカバー結果	Object	千手ディスカバー結果情報(オカレンス)

表 5.2-107 千手週間スケジュールクラスの prop プロパティ一覧

引数名	型	説明
週間スケジュール名	String	週間スケジュール名(ユニークキー)
稼働時間帯	String	稼働時間帯
説明	String	説明

表 5.2-108 千手年カレンダークラスの prop プロパティ一覧

引数名	型	説明
年	Number	年
月別稼働日リスト	String	月別稼働日リスト(オカレンス)

表 5.2-109 千手営業日カレンダークラスの prop プロパティ一覧

引数名	型	説明
営業日カレンダー名	String	営業日カレンダー名(ユニークキー)
年別稼働日リスト	Object	千手年カレンダーのリスト(オカレンス)
説明	String	説明

表 5.2-110 千手稼働日カレンダー稼働条件クラスの prop プロパティ一覧

引数名	型	説明
稼働条件インデックス	Number	稼働条件インデックス 1 から始まる連続番号
種類	Number	種類 0: 稼働条件/営業日で指定 1: 稼働条件/日付で指定 2: 稼働条件/曜日で指定 3: 稼働条件/直接日付で指定 10: 非稼働条件/営業日で指定 11: 非稼働条件/日付で指定 12: 非稼働条件/曜日で指定 13: 非稼働条件/直接日付で指定
パラメータ 1	Number	パラメータ 1 種類 = 0, 10: 営業日で指定 の場合 1~31 月初から数えた営業日 -1~-31 月末から数えた営業日 種類 = 1, 11: 日付で指定 の場合 1~31 月の日付 種類 = 2, 12: 曜日で指定 の場合 週をビットパターンで指定 bit0: 最終週 bit1: 第 1 週 bit2: 第 2 週 bit3: 第 3 週 bit4: 第 4 週 bit5: 第 5 週 種類 = 3, 13: 直接日付で指定 の場合 月 (1~12)
パラメータ 2	Number	パラメータ 2 種類 = 0, 10: 営業日で指定 の場合

引数名	型	説明
		予約 種類= 1、11: 日付で指定 の場合 予約 種類= 2、12: 曜日で指定 の場合 曜日をビットパターンで指定 bit0: 日曜 bit1: 月曜 bit2: 火曜 bit3: 水曜 bit4: 木曜 bit5: 金曜 bit6: 土曜 種類= 3、13: 直接日付で指定 の場合 日(1~31)
非営業日の場合の振替日	Number	非営業日の場合の振替日 0: 当日 1: 指定日前の営業日 2: 指定日後の営業日 3: 休止
非営業日の場合の振替営業日数	Number	非営業日の場合の振替営業日数 非営業日の場合の振替日=1: 指定日前の営業日の場合 N 営業日前(1~31) 非営業日の場合の振替日=1: 指定日前の営業日の場合 N 営業日後(1~31)

表 5.2-111 千手稼働日カレンダークラスの prop プロパティ一覧

引数名	型	説明
稼働日カレンダー名	String	稼働日カレンダー名(ユニークキー)
営業日カレンダー名	String	営業日カレンダー名
稼働条件リスト	Object	千手稼働日カレンダー稼働条件のリスト(オカレンス)
年別稼働日リスト	Object	千手年カレンダーのリスト(オカレンス)
説明	String	説明

表 5.2-112 千手動作環境クラスの prop プロパティ一覧

引数名	型	説明
動作環境名	String	動作環境名(ユニークキー)
ノード/ノードグループ ID	String	ノード/ノードグループ ID
実行ユーザー名	String	実行ユーザー名
同時稼働ジョブ数	Number	同時稼働ジョブ数
環境変数リスト	Object	千手文字列ペアのリスト(オカレンス)
説明	String	説明

表 5.2-113 千手トリガクラスの prop プロパティ一覧

引数名	型	説明
トリガ名	String	トリガ名(ユニークキー)
トリガ種類	Number	トリガ種類 0: イベント待ちトリガ

引数名	型	説明
		1: ファイル待ちトリガ(最初からファイルがあったら即監視終了) 3: ファイル待ちトリガ(最初からファイルがあった場合未監視、削除されたら監視開始、ファイルが再作成されたら監視終了)。 5: ファイル待ちトリガ(ファイルが完成していれば監視終了) 7: ファイル待ちトリガ(最初からファイルがあった場合未監視、削除されたら監視開始、ファイルが再作成後完成したら監視終了)。 8: 終了待ち(フレームが正常(スキップ)終了した場合に設定)
ファイル待ちトリガノード ID	String	ファイル待ちトリガノード ID
ファイル待ちトリガファイル名	String	ファイル待ちトリガファイル名
終了待ちトリガフレーム名	String	終了待ちトリガフレーム名 運用日付.フレーム[.ネット[.ジョブ]] 形式 運用日付 0~9 の範囲 0: 当日 1~9: xx 日前
説明	String	説明
変更予約フラグ	Number	変更予約フラグ設定 1: 変更予約設定あり 0: 変更予約設定なし
予約定義有効日	String	予約定義有効日
予約のトリガ種類	Number	予約のトリガ種類
予約ファイル待ちトリガファイル名	String	予約ファイル待ちトリガファイル名
正規表現使用フラグ	Number	正規表現使用フラグ

表 5.2-114 千手ジョブクラスの prop プロパティ一覧

引数名	型	説明
ジョブ名	String	ジョブ名(ユニークキー)
起動シーケンス	String	起動シーケンス
終了しきい値	Number	終了しきい値
判定条件式	Number	判定条件式
動作環境名	String	動作環境名
説明	String	説明
変更予約フラグ	Number	変更予約フラグ設定 1: 変更予約設定あり 0: 変更予約設定なし
予約定義有効日	String	予約定義有効日
予約起動コマンド	String	予約起動コマンド

表 5.2-115 千手システム項目クラスの prop プロパティ一覧

引数名	型	説明
ネット名	String	ネット名
稼働日カレンダー名	String	稼働日カレンダー名
起動時刻	String	起動時刻
運用開始日	String	運用開始日
スキップ指定	Number	スキップ指定
一時停止指定	Number	一時停止指定
動作環境名	String	動作環境名
所要時間	String	所要時間
正常時コマンド	String	正常時コマンド

引数名	型	説明
異常時コマンド	String	異常時コマンド

表 5.2-116 千手システムクラスの prop プロパティ一覧

引数名	型	説明
実行システム名	String	実行システム名(ユニークキー)
自動サイクル運用	Number	自動サイクル運用 1: 自動サイクル運用を行う 0: 自動サイクル運用を行わない
運用基準時刻	String	運用基準時刻
ネットリスト	Object	千手システム項目のリスト(オカレンス)
説明	String	説明

表 5.2-117 千手ジョブサービスチェック項目クラスの prop プロパティ一覧

引数名	型	説明
ジョブサービスグループ名	String	ジョブサービスグループ名
チェック項目名	String	チェック項目名
チェック時刻	String	チェック時刻 HH:MM 形式(00:00~99:59)
チェック項目種類	Number	チェック項目種類 1: ジョブ 2: ネット 3: フレーム 4: 実行システム
IDリスト	Object	IDリスト 種類 = 1: ジョブの場合 IDリスト[0]: フレーム ID IDリスト[1]: ネット ID IDリスト[2]: ジョブ ID 種類 = 2: ネットの場合 IDリスト[0]: フレーム ID IDリスト[1]: ネット ID 種類 = 3: フレームの場合 IDリスト[0]: フレーム ID 種類 = 4: フレームの場合 IDリスト[0]: 実行システム ID
チェック内容	Number	チェック内容 1: 自動サイクル成功 2: 起動済み 3: 終了(正常のみ) 4: 終了(正常、スキップ)
正常時メッセージ送信フラグ	Number	正常時メッセージ送信フラグ 1=送信する 0=送信しない
正常時メッセージID	String	正常時メッセージ ID
異常時メッセージ送信フラグ	Number	異常時メッセージ送信フラグ 0=送信しない 1=送信する
異常時メッセージID	String	異常時メッセージ ID
回復時メッセージ送信フラグ	Number	回復時メッセージ送信フラグ 1=送信する 0=送信しない
回復時メッセージID	String	回復時メッセージ ID
説明	String	説明

表 5.2-118 千手ジョブサービスグループクラスの prop プロパティ一覧

引数名	型	説明
ジョブサービスグループ名	String	ジョブサービスグループ名(ユニークキー)
説明	String	説明

表 5.2-119 千手運用日付クラスの prop プロパティ一覧

引数名	型	説明
運用日付	String	運用日付(ユニークキー)

表 5.2-120 千手実行動作環境クラスの prop プロパティ一覧

引数名	型	説明
運用日付	String	運用日付(ユニークキー)
動作環境名	String	動作環境名(ユニークキー)
ノード/ノードグループ ID	String	ノード/ノードグループ ID
実行ユーザー名	String	実行ユーザー名
同時稼働ジョブ数	Number	同時稼働ジョブ数
環境変数リスト	Object	千手文字列ペアのリスト(オカレンス)

※ユニークキーは、運用日付と動作環境名の連結キーです。

表 5.2-121 千手トリガステータスクラスの prop プロパティ一覧

引数名	型	説明
運用日付	String	運用日付(ユニークキー)
トリガ名	String	トリガ名(ユニークキー)
トリガ状態	Number	トリガ状態 0: 不明 1: ON 2: OFF 3: 削除
トリガ種類	Number	トリガ種類 0: イベント待ちトリガ 1: ファイル待ちトリガ(最初からファイルがあったら即監視終了) 3: ファイル待ちトリガ(最初からファイルがあった場合未監視、削除されたら監視開始、ファイルが再作成されたら監視終了)。 5: ファイル待ちトリガ(ファイルが完成していれば監視終了) 7: ファイル待ちトリガ(最初からファイルがあった場合未監視、削除されたら監視開始、ファイルが再作成後完成したら監視終了)。 8: 終了待ち(フレームが正常(スキップ)終了した場合に設定)
ファイル待ちトリガノード ID	String	ファイル待ちトリガ ノード ID
ファイル待ちトリガファイル名	String	ファイル待ちトリガ ファイル名
終了待ちトリガフレーム名	String	終了待ちトリガフレーム名 運用日付.フレーム[.ネット[.ジョブ]] 形式

引数名	型	説明
		運用日付 0~9 の範囲 0: 当日 1~9: xx 日前
説明	String	説明

※ユニークキーは、運用日付とトリガ名の連結キーです。

表 5.2-122 千手コマンドクラスの prop プロパティ一覧

引数名	型	説明
コマンド名	String	コマンド名
説明	String	説明
コマンドシーケンス	String	コマンドシーケンス

表 5.2-123 千手コマンドグループクラスの prop プロパティ一覧

引数名	型	説明
コマンドグループ名	String	コマンドグループ名(ユニークキー)
説明	String	説明
コマンドリスト	Object	千手コマンドのリスト(オカレンス)

表 5.2-124 千手ユーザーコマンドグループクラスの prop プロパティ一覧

引数名	型	説明
コマンドグループ名	String	コマンドグループ名(ユニークキー)
説明	String	説明
コマンドリスト	Object	千手コマンドのリスト(オカレンス)

表 5.2-125 千手ユーザーコマンドフォルダクラスの prop プロパティ一覧

引数名	型	説明
コマンドグループ名	String	コマンドグループ名(ユニークキー)
フォルダ名	String	フォルダ名
説明	String	説明
コマンドリスト	Object	千手コマンドのリスト(オカレンス)

表 5.2-126 千手パラメータクラスの prop プロパティ一覧

引数名	型	説明
パラメータグループ名	String	パラメータグループ名(ユニークキー)
動的リスト生成	Number	動的リスト生成
文字数変更	Number	文字数変更 1: 可 0: 不可
データ変更	Number	データ変更 1: 可 0: 不可
パラメータ最大入力可能文字数	Number	パラメータ最大入力可能文字数 -1: 無効
パラメータリスト	Object	千手文字列ペアのリスト(オカレンス)

表 5.2-127 千手コマンド実行応答クラスの prop プロパティ一覧

引数名	型	説明
チケット番号	Number	チケット番号
クライアント ID	Number	クライアント ID
継続フラグ	Number	継続フラグ
状態	Number	状態
エラーコード	Number	エラーコード
出力メッセージ	String	出力メッセージ
終了ステータス	Number	終了ステータス
出力	String	出力

表 5.2-128 千手応答クラスの prop プロパティ一覧

引数名	型	説明
チケット番号	Number	チケット番号
クライアント ID	Number	クライアント ID
継続フラグ	Number	継続フラグ
状態	Number	状態
エラーコード	Number	エラーコード
出力メッセージ	String	出力メッセージ

表 5.2-129 千手プロセス状態項目クラスの prop プロパティ一覧

引数名	型	説明
プロセス名	String	プロセス名
プロセスタイプ	Number	プロセスタイプ 'D': 千手デーモンプロセス 'R': 千手プロセス 'P': ユーザー起動プロセス 'E': コマンド.
状態	Number	状態 'U': 稼働中 'D': 異常終了 'S': 正常終了 'Z': 稼働前 '&': 切断
監視対象	Number	監視対象 1: 監視対象 0: 監視対象外
実行ユーザー名	String	ユーザー名
自動再起動回数	Number	自動再起動回数 -1: down
最大再起動回数	Number	最大再起動回数 -1: 無限

表 5.2-130 千手ディスク状態項目クラスの prop プロパティ一覧

引数名	型	説明
ディスク名	String	ディスク名
マウント先	String	マウント先
使用量	Number	使用量
未使用量	Number	未使用量
全体	Number	全体

引数名	型	説明
使用率	Number	使用率

表 5.2-131 千手システムジョブテンプレートクラスの prop プロパティ一覧

引数名	型	説明
ジョブテンプレート ID	String	ジョブテンプレート ID(ユニークキー)
ジョブテンプレート名	String	ジョブテンプレート名
ジョブテンプレート	String	ジョブテンプレート
説明	String	説明

表 5.2-132 千手ユーザージョブテンプレートクラスの prop プロパティ一覧

引数名	型	説明
ジョブテンプレート ID	String	ジョブテンプレート ID(ユニークキー)
ジョブテンプレート名	String	ジョブテンプレート名
ジョブテンプレート	String	ジョブテンプレート
説明	String	説明

表 5.2-133 千手リソースクラスの prop プロパティ一覧

引数名	型	説明
リソース ID	String	リソース ID(ユニークキー)
リソース値	Number	リソース値

表 5.2-134 千手ネット項目リソースクラスの prop プロパティ一覧

引数名	型	説明
リソース ID	String	リソース ID
リソース消費値	Number	リソース消費値

表 5.2-135 千手フレーム項目リソースクラスの prop プロパティ一覧

引数名	型	説明
リソース ID	String	リソース ID
リソース値	Number	リソース値
リソース消費値	Number	リソース消費値

表 5.2-136 千手ネット項目クラスの prop プロパティ一覧

引数名	型	説明
ジョブ/ネット名	String	ジョブ/ネット名
ジョブ/ネット種別	Number	ジョブ/ネット種別
前ジョブ/ネット種別リスト	Number	前ジョブ/ネット種別リスト(オカレンス)

引数名	型	説明
前ジョブ/ネット名リスト	String	前ジョブ/ネット名リスト(オカレンス)
稼働日カレンダー名	String	稼働日カレンダー名
スキップ指定	Number	スキップ指定
一時停止指定	Number	一時停止指定
動作環境名	String	動作環境名
開始予定日時	String	開始予定時刻
開始予定時刻種類	Number	開始予定時刻種類 1: 絶対時刻 0: 相対時刻
所要時間	String	所要時間
先行トリガリスト	String	先行トリガリスト(オカレンス)
正常時コマンド	String	正常時コマンド
異常時コマンド	String	異常時コマンド
リソースリスト	Object	千手ネット項目リソースのリスト(オカレンス)
開始時刻監視	String	開始時刻監視 HH:MM 形式
開始時刻監視種類	Number	開始時刻監視種類 1: 絶対時刻(HH:MM に起動) 0: 相対時刻(フレーム開始から HH:MM 後に起動)
終了時刻監視	String	終了時刻監視 HH:MM 形式
終了時刻監視種類	Number	終了時刻監視種類 1: 絶対時刻(HH:MM に起動) 0: 相対時刻(フレーム開始から HH:MM 後に起動)
異常時動作	Number	異常時動作 ジョブのみ許可 0: なし 1: 再起動 2: スキップ
異常時再起動回数	Number	異常時再起動回数 1~10
異常時再起動間隔	String	異常時再起動間隔 HH:MM 形式(00:00~99:59)
繰り返し回数	Number	繰り返し回数 1~512 0 の場合は指定なし
繰り返し間隔	String	繰り返し間隔 HH:MM 形式(00:00~99:59)
繰り返し動作	Number	繰り返し動作 0: 正常するまで待つ 1: 重複実行する 2: スキップする
繰り返し打ち切り時刻	String	繰り返し打ち切り時刻 HH:MM 形式(空の場合は指定なし)
繰り返し打ち切り時刻種類	Number	繰り返し打ち切り時刻種類 1: 絶対時刻(HH:MM に起動) 0: 相対時刻(フレーム開始から HH:MM 後に起動)
異常時ネット終了時動作	Number	異常時ネット終了時動作 0: なし 1: スキップ 2: 再ラン
異常時ネット下限閾値	String	異常時ネット下限閾値 1~2147483647 空または 0 の場合は指定なし
異常時ネット上限閾値	String	異常時ネット上限閾値 1~2147483647 空または 0 の場合は指定なし
スキップ指定(動作モード切替時)	Number	スキップ指定(動作モード切替時)(オカレンス)
判定元ジョブ名	String	判定元ジョブ名
説明	String	説明

引数名	型	説明
デフォルト分岐	Number	デフォルト分岐
分岐条件一覧	Object	分岐条件一覧(オカレンス)
遅延監視(開始時刻)の自身への遅延時アクション	Number	遅延監視(開始時刻)の自身への遅延時アクション
遅延監視(開始時刻)の後続への遅延時アクション	Number	遅延監視(開始時刻)の後続への遅延時アクション
遅延監視(終了時刻)の自身への遅延時アクション	Number	遅延監視(終了時刻)の自身への遅延時アクション
遅延監視(終了時刻)の後続への遅延時アクション	Number	遅延監視(終了時刻)の後続への遅延時アクション
所要時間監視の自身への遅延時アクション	Number	所要時間監視の自身への遅延時アクション
所要時間監視の後続への遅延時アクション	Number	所要時間監視の後続への遅延時アクション

表 5.2-137 千手ネットクラスの prop プロパティ一覧

引数名	型	説明
ネット名	String	ネット名(ユニークキー)
定義有効日	String	定義有効日(ユニークキー)
定義有効終了日	String	定義有効終了日
説明	String	説明
ジョブ/ネットリスト	Object	千手ネット項目のリスト(オカレンス)

※ユニークキーは、ネット名と定義有効日の連結キーです。

表 5.2-138 千手フレーム項目クラスの prop プロパティ一覧

引数名	型	説明
インデックス	Number	インデックス 1 から始まる連続番号
階層	Number	階層 1 から始まる正の整数
ジョブ/ネット名	String	ジョブ/ネット名
ジョブ/ネット種別	Number	ジョブ/ネット種別
前ジョブ/ネット種別リスト	Number	前ジョブ/ネット種別リスト(オカレンス)
前ジョブ/ネット名リスト	String	前ジョブ/ネット名リスト(オカレンス)
スキップ指定	Number	スキップ指定
一時停止指定	Number	一時停止指定
開始予定日時	String	開始予定時刻
開始予定時刻種類	Number	開始予定時刻種類 1: 絶対時刻 0: 相対時刻
所要時間	String	所要時間
先行トリガリスト	String	先行トリガリスト(オカレンス)
正常時コマンド	String	正常時コマンド
異常時コマンド	String	異常時コマンド
動作環境名	String	動作環境名
ノード/ノードグループ ID	String	ノード/ノードグループ ID

引数名	型	説明
実行ユーザー名	String	実行ユーザー名
同時稼働ジョブ数	Number	同時稼働ジョブ数
終了しきい値	Number	終了しきい値
判定条件式	Number	判定条件式
起動シーケンス	String	起動シーケンス
リソースリスト	Object	千手フレーム項目リソースのリスト(オカレンス)
開始時刻監視	String	開始時刻監視 HH:MM 形式 空の場合は指定なし
開始時刻監視種類	Number	開始時刻監視種類 1: 絶対時刻(HH:MM に起動) 0: 相対時刻(フレーム開始から HH:MM 後に起動)
終了時刻監視	String	終了時刻監視 HH:MM 形式 空の場合は指定なし
終了時刻監視種類	Number	終了時刻監視種類 1: 絶対時刻(HH:MM に起動) 0: 相対時刻(フレーム開始から HH:MM 後に起動)
異常時動作	Number	異常時動作 ジョブのみ許可 0: なし 1: 再起動 2: スキップ
異常時再起動回数	Number	異常時再起動回数 1~10
異常時再起動間隔	String	異常時再起動間隔 HH:MM 形式(00:00~99:59)
繰り返し回数	Number	繰り返し回数 1~512 0の場合は指定なし
繰り返し間隔	String	繰り返し間隔 HH:MM 形式(00:00~99:59)
繰り返し動作	Number	繰り返し動作 起動時刻が到着した場合 0: 正常するまで待つ 1: 重複実行する 2: スキップする
繰り返し打ち切り時刻	String	繰り返し打ち切り時刻 HH:MM 形式 空の場合は指定なし
繰り返し打ち切り時刻種類	Number	繰り返し打ち切り時刻種類 1: 絶対時刻(HH:MM に起動) 0: 相対時刻(フレーム開始から HH:MM 後に起動)
異常時ネット終了時動作	Number	異常時ネット終了時動作 0: なし 1: スキップ 2: 再ラン
異常時ネット下限閾値	String	異常時ネット下限閾値 1~2147483647 空または0の場合は指定なし
異常時ネット上限閾値	String	異常時ネット上限閾値 1~2147483647 空または0の場合は指定なし
判定元ジョブ名	String	判定元ジョブ名
デフォルト分岐	Number	デフォルト分岐
分岐条件一覧	Object	分岐条件(オカレンス)
遅延監視(開始時刻)の自身への遅延時アクション	Number	遅延監視(開始時刻)の自身への遅延時アクション
遅延監視(開始時刻)の後続への遅延時アクション	Number	遅延監視(開始時刻)の後続への遅延時アクション

引数名	型	説明
遅延監視(終了時刻)の自身への遅延時アクション	Number	遅延監視(終了時刻)の自身への遅延時アクション
遅延監視(終了時刻)の後続への遅延時アクション	Number	遅延監視(終了時刻)の後続への遅延時アクション
所要時間監視の自身への遅延時アクション	Number	所要時間監視の自身への遅延時アクション
所要時間監視の後続への遅延時アクション	Number	所要時間監視の後続への遅延時アクション

表 5.2-139 千手フレームクラスの prop プロパティ一覧

引数名	型	説明
運用日付	String	運用日付(ユニークキー)
フレーム名	String	フレーム名(ユニークキー)
実行システム名	String	実行システム名
フレーム項目リスト	Object	千手フレーム項目のリスト(オカレンス)

※ユニークキーは、運用日付とフレーム名の連結キーです。

表 5.2-140 千手動作環境プールクラスの prop プロパティ一覧

引数名	型	説明
動作環境プール名	String	動作環境プール名。
説明	Number	説明。
動作環境プールリスト	String	動作環境プールリスト(配列)。

表 5.2-141 千手メッセージフィルタ処理クラスの prop プロパティ一覧

引数名	型	説明
送信元ノード ID パターン	String	送信元ノード ID パターン '%': 全ノード
メッセージレベルパターン	Number	メッセージレベルパターン '%': 全レベル 'E': 障害メッセージのみ 'T': 通常メッセージのみ 'R': 応答メッセージのみ
メッセージ ID パターン	String	メッセージ ID パターン '%': 全メッセージ
メッセージ内容パターン	String	メッセージ内容パターン 空文字: すべて
発信元パターン	String	発信元パターン 空文字: すべて
対応種別パターン	String	対応種別パターン 空文字: すべて
ルール ID パターン	String	ルール ID パターン 空文字: すべて

表 5.2-142 千手メッセージフィルタクラスの prop プロパティ一覧

引数名	型	説明
メッセージフィルタ ID	String	メッセージフィルタ ID
送信種別	Number	送信種別 1: 送信(設定にマッチするものは抑止) 0: 抑止(設定にマッチするものは送信)
千手メッセージフィルタ処理	String	千手メッセージフィルタ処理クラスのリスト

表 5.2-143 千手ログフィルタ処理クラスの prop プロパティ一覧

引数名	型	説明
処理	String	処理 1: 送信 0: 抑止
送信メッセージ ID	String	送信メッセージ ID
付加メッセージ開始フィールド番号	Number	付加メッセージ開始フィールド番号 -1: 付加メッセージなし 0: 付加メッセージ全体 1~32: 付加メッセージ開始フィールド番号
付加メッセージ終了フィールド番号	Object	付加メッセージ終了フィールド番号 -1: 終了フィールド番号無効 1~32: 付加メッセージ開始フィールド番号
判定条件	String	判定条件

表 5.2-144 千手ログフィルタクラスの prop プロパティ一覧

引数名	型	説明
ログフィルタ ID	String	ログフィルタ ID
送信メッセージ ID	String	送信メッセージ ID
正規表現使用フラグ	Number	正規表現使用フラグ 1: 正規表現を使用する 0: 正規表現を使用しない
千手ログフィルタ処理	Object	千手ログフィルタ処理クラスのリスト

表 5.2-145 千手イベントログフィルタ処理クラスの prop プロパティ一覧

引数名	型	説明
処理	String	処理 1: 送信 0: 抑止
送信メッセージ ID	String	送信メッセージ ID
付加メッセージ開始フィールド番号	Number	付加メッセージ開始フィールド番号 -1: 付加メッセージなし 0: 付加メッセージ全体 1~32: 付加メッセージ開始フィールド番号
付加メッセージ終了フィールド番号	Object	付加メッセージ終了フィールド番号 -1: 終了フィールド番号無効 1~32: 付加メッセージ開始フィールド番号

表 5.2-146 千手イベントログフィルタクラスの prop プロパティ一覧

引数名	型	説明
イベントログフィルタ ID	String	イベントログフィルタ ID
送信メッセージ ID	String	送信メッセージ ID
正規表現使用フラグ	Number	正規表現使用フラグ 1: 正規表現を使用する 0: 正規表現を使用しない
千手イベントログフィルタ処理	Object	千手イベントログフィルタ処理クラスのリスト

表 5.2-147 千手タスクスケジューラクラスの prop プロパティ一覧

引数名	型	説明
タスクスケジューラ名	String	タスクスケジューラ名
説明	String	説明
稼働時間帯	String	稼働時間帯
ラベルリスト	String	ラベルリスト

表 5.2-148 千手ジョブレポートクラスの prop プロパティ一覧

引数名	型	説明
ジョブレポート ID	String	ジョブレポート ID
稼働履歴種別	Number	稼働履歴種別
稼働履歴日付	String	稼働履歴日付
稼働履歴運用日付	String	稼働履歴運用日付
稼働履歴フレーム名	String	稼働履歴フレーム名
統計情報種別	Number	統計情報種別
統計情報期間	Number	統計情報期間
統計情報日付	String	統計情報日付
統計情報開始運用日付	String	統計情報開始運用日付
統計情報終了運用日付	String	統計情報終了運用日付
統計情報グラフ種類	Number	統計情報グラフ種類
統計情報条件リスト	Object	千手ジョブレポート統計情報条件クラスのリスト

表 5.2-149 千手ジョブレポート統計情報条件クラスの prop プロパティ一覧

引数名	型	説明
フレーム名	String	フレーム名
親ネット名	String	親ネット名
ジョブ/ネット名	String	ジョブ/ネット名
色	String	色

表 5.2-150 千手サービス構成応答情報クラスの prop プロパティ一覧

引数名	型	説明
チケット番号	Number	チケット番号

引数名	型	説明
クライアント ID	Number	クライアント ID
継続フラグ	Number	継続フラグ
状態	Number	状態
エラーコード	Number	エラーコード
出力メッセージ	String	出力メッセージ
ホスト名	String	ホスト名
名称	String	名称
説明	String	説明
スタートアップ	String	スタートアップ

表 5.2-151 千手ジョブ稼働履歴取得結果クラスの prop プロパティ一覧

引数名	型	説明
チケット番号	Number	チケット番号
クライアント ID	Number	クライアント ID
継続フラグ	Number	継続フラグ
状態	Number	状態
エラーコード	Number	エラーコード
出力メッセージ	String	出力メッセージ
開始運用日付	String	開始運用日付
終了運用日付	String	終了運用日付
フレーム名	String	フレーム名
ネット名	String	ネット名
ジョブ名	String	ジョブ名
稼働履歴一覧	String	稼働履歴一覧

表 5.2-152 千手ジョブ経路取得結果クラスの prop プロパティ一覧

引数名	型	説明
チケット番号	Number	チケット番号
クライアント ID	Number	クライアント ID
継続フラグ	Number	継続フラグ
状態	Number	状態
エラーコード	Number	エラーコード
出力メッセージ	String	出力メッセージ
運用日付	String	運用日付
フレーム名	String	フレーム名
ネット名	String	ネット名
ジョブ名	String	ジョブ名
履歴フラグ	String	履歴フラグ
ジョブ経路リスト	String	ジョブ経路リスト

表 5.2-153 千手ソフトウェア/パッチ構成応答情報クラスの prop プロパティ一覧

引数名	型	説明
チケット番号	Number	チケット番号
クライアント ID	Number	クライアント ID
継続フラグ	Number	継続フラグ
状態	Number	状態
エラーコード	Number	エラーコード
出力メッセージ	String	出力メッセージ
ホスト名	String	ホスト名
名称	String	名称
バージョン	String	バージョン

表 5.2-154 千手ディスク構成応答情報クラスの prop プロパティ一覧

引数名	型	説明
チケット番号	Number	チケット番号
クライアント ID	Number	クライアント ID
継続フラグ	Number	継続フラグ
状態	Number	状態
エラーコード	Number	エラーコード
出力メッセージ	String	出力メッセージ
ホスト名	String	ホスト名
名称	String	名称
付加情報	String	付加情報
種類	String	種類
ファイルシステム	String	ファイルシステム
容量	String	容量

表 5.2-155 千手ネットワーク構成応答情報クラスの prop プロパティ一覧

引数名	型	説明
チケット番号	Number	チケット番号
クライアント ID	Number	クライアント ID
継続フラグ	Number	継続フラグ
状態	Number	状態
エラーコード	Number	エラーコード
出力メッセージ	String	出力メッセージ
ホスト名	String	ホスト名
名称	String	名称
MAC アドレス	String	MAC アドレス
IP アドレス	String	IP アドレス
ファイルシステム	String	ファイルシステム
サブネットマスク	String	サブネットマスク

表 5.2-156 千手パッチ構成応答情報クラスの prop プロパティ一覧

引数名	型	説明
チケット番号	Number	チケット番号
クライアント ID	Number	クライアント ID
継続フラグ	Number	継続フラグ
状態	Number	状態
エラーコード	Number	エラーコード
出力メッセージ	String	出力メッセージ
ホスト名	String	ホスト名
名称	String	名称
リリース/適用日時	String	リリース/適用日時

表 5.2-157 千手ホスト構成応答情報クラスの prop プロパティ一覧

引数名	型	説明
チケット番号	Number	チケット番号
クライアント ID	Number	クライアント ID
継続フラグ	Number	継続フラグ
状態	Number	状態
エラーコード	Number	エラーコード

引数名	型	説明
出力メッセージ	String	出力メッセージ
ホスト名	String	ホスト名
システム名	String	システム名
OS	String	OS
ホスト OS	String	ホスト OS
OS バージョン	String	OS バージョン
SP バージョン	String	SP バージョン
OS ディレクトリ	String	OS ディレクトリ
メーカー	String	メーカー
モデル名	String	モデル名
BIOS メーカー	String	BIOS メーカー
BIOS バージョン	String	BIOS バージョン
物理メモリ	String	物理メモリ
仮想メモリ	String	仮想メモリ
CPU1	String	CPU1
CPU2	String	CPU2
CPU3	String	CPU3
CPU4	String	CPU4
HDD1	String	HDD1
HDD2	String	HDD2
HDD3	String	HDD3
HDD4	String	HDD4
CD-ROM	String	CD-ROM
キーボード	String	キーボード
マウス	String	マウス
ビデオカード	String	ビデオカード
説明	String	説明
現在時刻	String	現在時刻
OS 稼働時間	String	OS 稼働時間

表 5.2-158 千手基本構成応答情報クラスの prop プロパティ一覧

引数名	型	説明
チケット番号	Number	チケット番号
クライアント ID	Number	クライアント ID
継続フラグ	Number	継続フラグ
状態	Number	状態
エラーコード	Number	エラーコード
出力メッセージ	String	出力メッセージ
ホスト名	String	ホスト名
名称	String	名称
値	String	値

表 5.2-159 千手構成応答情報クラスの prop プロパティ一覧

引数名	型	説明
チケット番号	Number	チケット番号
クライアント ID	Number	クライアント ID
継続フラグ	Number	継続フラグ
状態	Number	状態
エラーコード	Number	エラーコード
出力メッセージ	String	出力メッセージ
ホスト名	String	ホスト名
名称	String	名称
値	String	値

表 5.2-160 千手文字列リスト応答クラスの prop プロパティ一覧

引数名	型	説明
チケット番号	Number	チケット番号
クライアント ID	Number	クライアント ID
継続フラグ	Number	継続フラグ
状態	Number	状態
エラーコード	Number	エラーコード
出力メッセージ	String	出力メッセージ
文字列リスト	String	文字列リスト

表 5.2-161 ランブック実行リクエストクラスの prop プロパティ一覧

引数名	型	説明
管理対象システム名	String	管理対象システム名
管理対象領域名	String	SEN サーバー名
メッセージ区分	String	"S"
メッセージ識別 No	String	同一管理対象領域内で発生したイベントに対する識別する番号 No
発生元ノード ID	String	SEN サーバー名
発生元 APPL 名	String	"sjENS_Pcc"
メッセージ種別	String	"I"
発生日時	String	イベント発生日時("YYYY-MM-DD HH:MM:SS")
メッセージ ID	String	"!ENS221"
メッセージテキスト	String	メッセージテキスト文字列
タグ情報リスト	Object	タグ情報の配列(オカレンス)
登録番号	String	リクエストを識別する番号
案件区分	String	案件区分
案件登録番号	String	申請を識別する番号
登録元表示用案件番号	String	申請番号(サービス要求 ID)
稼働ノード	String	ランブックの稼働先ノード
キャンセルフラグ	String	"0":通常 "1":キャンセル
リクエストステータス	String	リクエストのステータス。ステータスの内訳は"依頼待"、"依頼中"、"依頼成功"、"依頼失敗"
実行結果	String	リクエストの受け付け結果およびランブックの実行結果
ブック名	String	ランブックの名称
実行予定日時	String	ランブックの起動日時

表 5.2-162 コマンド実行リクエストクラスの prop プロパティ一覧

引数名	型	説明
管理対象システム名	String	管理対象システム名
管理対象領域名	String	SEN サーバー名
メッセージ区分	String	"S"
メッセージ識別 No	String	同一管理対象領域内で発生したイベントに対する識別する番号 No
発生元ノード ID	String	SEN サーバー名
発生元 APPL 名	String	"sjENS_Pcc"
メッセージ種別	String	"I"
発生日時	String	イベント発生日時("YYYY-MM-DD HH:MM:SS")
メッセージ ID	String	"!ENS221"
メッセージテキスト	String	メッセージテキスト文字列
タグ情報リスト	Object	タグ情報の配列(オカレンス)

引数名	型	説明
登録番号	String	リクエストを識別する番号
案件区分	String	案件区分
案件登録番号	String	申請を識別する番号
登録元表示用案件番号	String	申請番号(サービス要求 ID)
キャンセルフラグ	String	"0":通常 "1":キャンセル
リクエストステータス	String	リクエストのステータス。ステータスの内訳は"依頼待"、"依頼中"、"依頼成功"、"依頼失敗"
実行結果	String	リクエストの受け付け結果およびコマンドの実行結果
コマンドシーケンス	String	コマンドシーケンス
実行予定日時	String	コマンドの起動日時

表 5.2-163 ジョブ一時停止リクエストクラスの prop プロパティ一覧

引数名	型	説明
管理対象システム名	String	管理対象システム名
管理対象領域名	String	SEN サーバー名
メッセージ区分	String	"S"
メッセージ識別 No	String	同一管理対象領域内で発生したイベントに対する識別する番号 No
発生元ノード ID	String	SEN サーバー名
発生元 APPL 名	String	"sjENS_Pcc"
メッセージ種別	String	"I"
発生日時	String	イベント発生日時("YYYY-MM-DD HH:MM:SS")
メッセージ ID	String	"!ENS221"
メッセージテキスト	String	メッセージテキスト文字列
タグ情報リスト	Object	タグ情報の配列(オカレンス)
登録番号	String	リクエストを識別する番号
案件区分	String	案件区分
案件登録番号	String	申請を識別する番号
登録元表示用案件番号	String	申請番号(サービス要求 ID)
キャンセルフラグ	String	"0":通常 "1":キャンセル "2":ステータス手動変更(解除指示待ち) "3":ステータス手動変更(依頼成功)
リクエストステータス	String	リクエストのステータス 内訳は"依頼待"、"依頼中"、"依頼成功"、"依頼失敗"
実行結果	String	リクエストの受け付け結果およびジョブ一時停止の実行結果
ジョブ操作指示名	String	リクエストの内容 内訳は"一時停止指定"、"一時停止解除"
システム名	String	システムの名称
フレーム名	String	フレームの名称
ネット名	String	ネットの名称
ジョブ名	String	ジョブの名称
運用日付	String	運用日付
解除予定日時	String	ジョブ一時停止を解除する予定日時
指定リミット日時	String	フレーム生成待ちのリミット日時

表 5.2-164 ジョブスキップリクエストクラスの prop プロパティ一覧

引数名	型	説明
管理対象システム名	String	管理対象システム名
管理対象領域名	String	SEN サーバー名

引数名	型	説明
メッセージ区分	String	"S"
メッセージ識別 No	String	同一管理対象領域内で発生したイベントに対する識別する番号 No
発生元ノード ID	String	SEN サーバー名
発生元 APPL 名	String	"sjENS_Pcc"
メッセージ種別	String	"I"
発生日時	String	イベント発生日時("YYYY-MM-DD HH:MM:SS")
メッセージ ID	String	"!ENS221"
メッセージテキスト	String	メッセージテキスト文字列
タグ情報リスト	Object	タグ情報の配列(オカレンス)
登録番号	String	リクエストを識別する番号
案件区分	String	案件区分
案件登録番号	String	申請を識別する番号
登録元表示用案件番号	String	申請番号(サービス要求 ID)
キャンセルフラグ	String	"0":通常 "1":キャンセル
リクエストステータス	String	リクエストのステータス 内訳は"依頼待"、"依頼中"、"依頼成功"、"依頼失敗"
実行結果	String	リクエストの受け付け結果およびジョブ一時停止の実行結果
ジョブ操作指示名	String	リクエストの内容 内訳は"スキップ指定"、"スキップ解除"
システム名	String	システムの名称
フレーム名	String	フレームの名称
ネット名	String	ネットの名称
ジョブ名	String	ジョブの名称
運用日付	String	運用日付
指定リミット日時	String	フレーム生成待ちのリミット日時

表 5.2-165 ジョブ起動時刻変更リクエストクラスの prop プロパティ一覧

引数名	型	説明
管理対象システム名	String	管理対象システム名
管理対象領域名	String	SEN サーバー名
メッセージ区分	String	"S"
メッセージ識別 No	String	同一管理対象領域内で発生したイベントに対する識別する番号 No
発生元ノード ID	String	SEN サーバー名
発生元 APPL 名	String	"sjENS_Pcc"
メッセージ種別	String	"I"
発生日時	String	イベント発生日時("YYYY-MM-DD HH:MM:SS")
メッセージ ID	String	"!ENS221"
メッセージテキスト	String	メッセージテキスト文字列
タグ情報リスト	Object	タグ情報の配列(オカレンス)
登録番号	String	リクエストを識別する番号
案件区分	String	案件区分
案件登録番号	String	申請を識別する番号
登録元表示用案件番号	String	申請番号(サービス要求 ID)
キャンセルフラグ	String	"0":通常 "1":キャンセル
リクエストステータス	String	リクエストのステータス 内訳は"依頼待"、"依頼中"、"依頼成功"、"依頼失敗"
実行結果	String	リクエストの受け付け結果およびジョブ一時停止の実行結果
ジョブ操作指示名	String	リクエストの内容 内訳は"起動時刻変更"、"起動時刻変更+遅延監視時刻変更"

引数名	型	説明
システム名	String	システムの名称
フレーム名	String	フレームの名称
ネット名	String	ネットの名称
ジョブ名	String	ジョブの名称
運用日付	String	運用日付
指定リミット日時	String	フレーム生成待ちのリミット日時
起動予定時刻	String	ジョブ/ネットの起動予定時刻
遅延監視予定時刻	String	ジョブ/ネットの遅延監視予定時刻

表 5.2-166 千手分岐条件一覧クラスの prop プロパティ一覧

引数名	型	説明
AND 条件リスト	Object	AND 条件リスト

表 5.2-167 千手分岐条件クラスの prop プロパティ一覧

引数名	型	説明
終了しきい値	String	終了しきい値
条件	Number	条件

5.2.2.6 メール送信連携サブシステム

表 5.2-168 メール送信メッセージクラスの prop プロパティ一覧

引数名	型	説明
管理対象システム名	String	管理対象システム名
管理対象領域名	String	管理対象領域名
メッセージ区分	String	メッセージ区分
メッセージ識別 No	String	メッセージ識別 No
メッセージ ID	String	メッセージ ID
メッセージ種別	String	メッセージ種別
発生日時	String	発生日時
発生元ノード ID	String	発生元ノード ID
発生元 APPL 名	String	発生元 APPL 名
メッセージテキスト	String	メッセージテキスト
タグ情報リスト	Object	タグ情報の配列(オカレンス)
From:	String	メール送信メッセージヘッダー情報の送信元
To:	String	メール送信メッセージヘッダー情報の宛先
Cc:	String	メール送信メッセージヘッダー情報のカーボンコピー
Bcc:	String	メール送信メッセージヘッダー情報のブラインドカーボンコピー
Subject:	String	メール送信メッセージヘッダー情報の件名
Received:	String	メール送信メッセージヘッダー情報の経由サーバー名
Message-ID:	String	メール送信メッセージヘッダー情報の文書識別子
Content-Type:	String	メール送信メッセージヘッダー情報の文書タイプ
Sender:	String	メール送信メッセージヘッダー情報の送信者
Organization:	String	メール送信メッセージヘッダー情報の所属組織名
X-Priority:	String	メール送信メッセージ優先度
メールサイズ	String	メール送信メッセージのサイズ(Byte)
メール本文	String	メール送信メッセージ本文情報
添付ファイルサイズ	String	格納されているファイルの合計サイズ
添付ファイル格納先	String	添付されているファイルの格納先
添付ファイル数	Number	添付ファイルの数
添付ファイルリスト	Object	添付ファイルリスト

5.2.2.7 TELStaff 連携サブシステム

表 5.2-169 電話呼出メッセージクラスの prop プロパティ一覧

引数名	型	説明
管理対象システム名	String	管理対象システム名
管理対象領域名	String	管理対象領域名
メッセージ区分	String	メッセージ区分
メッセージ識別 No	String	メッセージ識別 No
メッセージ ID	String	メッセージ ID
メッセージ種別	String	メッセージ種別
発生日時	String	発生日時("YYYY-MM-DD HH:MM:SS")
発生元ノード ID	String	発生元ノード ID
発生元 APPL 名	String	発生元 APPL 名
メッセージテキスト	String	メッセージテキスト
タグ情報リスト	Object	タグ情報の配列(オカレンス)
障害 ID	Number	障害 ID
連絡設定フラグ	Number	連絡設定フラグ
連絡網グループ ID/連絡網 ID	String	連絡網グループ ID/連絡網 ID
読み上げメッセージ内容	String	読み上げメッセージ内容

表 5.2-170 電話応答クラスの prop プロパティ一覧

引数名	型	説明
障害 ID	Number	障害 ID
連絡設定フラグ	Number	連絡設定フラグ
連絡網グループ ID/連絡網 ID	String	連絡網グループ ID/連絡網 ID
読み上げメッセージ内容	String	読み上げメッセージ内容
アクション ID	String	アクション ID
到着日時	String	到着日時
開始日時	String	開始日時
電話依頼受付受信時間	String	電話依頼受付受信時間
終了日時	String	終了日時
依頼実施済フラグ	Number	依頼実施済フラグ
依頼受付済フラグ	Number	依頼受付済フラグ
依頼終了フラグ	Number	依頼終了フラグ
依頼結果	Number	依頼結果
出力メッセージ	String	出力メッセージ

5.2.2.8 savic-netEVmodel30 連携サブシステム

表 5.2-171 イベントクラス一覧

項番	クラス名	UUID
1	Savic-netEVmodel30 メッセージ	{CA5CC4B5-0843-42A9-8E88-D53612542D73}

表 5.2-172 savic-netEVmodel30 メッセージクラスの prop プロパティ一覧

引数名	型	説明
管理対象システム名	String	"アダプタ(savic-netEV model30)"
管理対象領域名	String	稼働条件定義ファイルにて設定したドメイン名
メッセージ区分	String	"N"
メッセージ識別 No	String	0 固定
発生元ノード ID	String	稼働条件定義ファイルにて設定した NS-2232 のホスト名または IP アドレス
発生元 APPL 名	String	稼働条件定義ファイルにて設定した NS-2232 のポート番号
メッセージ種別	String	メッセージの種別 "I"固定
発生日時	String	イベント発生日時("YYYY-MM-DD HH:MM:SS")
メッセージ ID	String	"!ENX304"
メッセージテキスト	String	" savic-netEV model30 のメッセージを受信しました。"
タグ情報リスト	Object	タグ情報の配列(オカレンス)
印字色	String	savic-netEVmodel30 メッセージの印字色情報
警報レベル	String	savic-netEVmodel30 メッセージの警報レベル情報
警報発生時刻	String	savic-netEVmodel30 メッセージの警報発生時刻情報
メッセージラベル	String	savic-netEVmodel30 メッセージのメッセージラベル情報
管理点コード	String	savic-netEVmodel30 メッセージの管理点コード情報
ビルグループ名称	String	savic-netEVmodel30 メッセージのビルグループ名称情報
管理点名称	String	savic-netEVmodel30 メッセージの管理点名称情報
警報	String	savic-netEVmodel30 メッセージの警報情報
コマンド/計測値/積算値	String	savic-netEVmodel30 メッセージのコマンド/計測値/積算値情報
ステータス	String	savic-netEVmodel30 メッセージのステータス情報

※ユニークキーは、UUID 文字列です。

5.2.2.9 NMAcos アダプタサブシステムのイベントクラス

表 5.2-173 イベントクラス一覧

項番	クラス名	UUID
1	nmAcos アダプタメッセージ	{7AEFF434-411B-4D86-B43B-05A631C84467}
2	nmAcos アダプタ応答	{1F08D7FE-45A2-44CC-BD1B-3B40EBD34052}
3	nmAcos コマンド実行結果	{D90DDBD8-D1CA-49B9-89A7-3E7E16E29C03}

表 5.2-174 nmAcos アダプタメッセージクラスの prop プロパティ一覧

引数名	型	説明
管理対象システム名	String	"アダプタ(NMAcos)"
管理対象領域名	String	NMAcos アダプタ稼働ホスト名
メッセージ区分	String	"N"
メッセージ識別 No	String	0 固定
発生元ノード ID	String	NMAcos アダプタ稼働ホスト名
発生元 APPL 名	String	"sjENX_NMAcosRcvd"
メッセージ種別	String	"I"
発生日時	String	イベント発生日時("YYYY-MM-DD HH:MM:SS")
メッセージ ID	String	メッセージ ID
メッセージテキスト	String	メッセージテキスト文字列
タグ情報リスト	Object	タグ情報の配列(オカレンス)
ホスト種別	String	稼働定義ファイルで指定したホスト種別
通信リソース名	String	稼働定義ファイルで指定した通信リソース名
LU 番号	String	稼働定義ファイルで指定した LU 番号

表 5.2-175 nmAcos アダプタ応答クラスの prop プロパティ一覧

引数名	型	説明
状態	Number	状態
エラーコード	Number	エラーコード
出力メッセージ	String	出力メッセージ

表 5.2-176 nmAcos コマンド実行結果クラスの prop プロパティ一覧

引数名	型	説明
受信データ内容	String	コマンド実行結果の内容

5.2.2.10 Senju Service Manager 連携サブシステムのイベントクラス

表 5.2-177 イベントクラス一覧

項番	クラス名	UUID
1	SSM 応答	{7152D9EA-06A8-4612-AC1B-60D0A8A59CD0}
2	SSM 実行結果	{3D6C6DC5-EA6A-40C4-AD42-F10FA37B5F40}

表 5.2-178 SSM 応答クラスの prop プロパティ一覧

引数名	型	説明
終了コード	Numver	終了コード 0=成功 1=失敗 2=警告終了
ステータスコード	Numver	ステータスコード 0=成功 1=不明なイベントクラス 2=キューへの格納に失敗 3=添付ファイルの登録に失敗 4=イベント連携ファイルへの登録に失敗 5=前スタド失敗 6=スタド失敗 7=後スタド失敗
出力メッセージ	String	出力メッセージ

表 5.2-179 SSM 実行結果クラスの prop プロパティ一覧

引数名	型	説明
終了コード	Number	SSM 応答クラスと同様
ステータスコード	Number	SSM 応答クラスと同様
出力メッセージ	String	SSM 応答クラスと同様
実行結果	String	スタドの実行結果コード
実行メッセージ	String	スタドが返すメッセージ
URL	String	SSM から通知された URL
画面 ID	String	SSM から通知された画面 ID
登録番号	String	SSM から通知された登録番号

5.3 ルール事例集

本節では、実際にルールを記述する際に参考となるような具体的なルール事例集を紹介します。

5.3.1 シチュエーションによるルール事例

典型的なシチュエーションに応じて、具体的なルールの記述手順を説明します。

説明では、使用するルールのステージおよび各ルールのプロパティで指定する内容を記述しています。ルールプロパティの詳細な設定方法については、「**2 操作ガイド**」を参照して下さい。なお、例で用いているメッセージ ID やメッセージ種別の値に特に意味はありません。

ここで紹介するシチュエーションは以下のとおりです。

シチュエーション	ステージ	説明
イベントをフィルタリングする	・早期イベント破棄 ・繰り返しイベントの破棄	到着したイベントをフィルタリングします
到着したイベントの情報を変更する	・アクションの実行-1 ・アクションの実行-2	到着したイベントを編集します
イベント到着時にメインペインを変更する	・アクションの実行-1 ・アクションの実行-2	イベント到着時に画面（メインビュー）を変更します
イベントのステータス変更時にメインペインを変更する	・アクションの実行-1 ・アクションの実行-2	イベントのステータス変更時に画面（メインビュー）を変更します
イベントのステータス変更時にイベントの情報を変更する	・アクションの実行-1 ・アクションの実行-2	イベントのステータス変更時にステータスを変更したイベントを編集します
イベント到着時に外部コマンドを非同期実行する	・アクションの実行-1 ・アクションの実行-2	イベント到着時に SEN サーバー上の外部コマンドを非同期実行します
メール送信依頼到着時にメールを送信する	・アクションの実行-1 ・アクションの実行-2	メール送信依頼受信時にメールを送信します
電話呼び出し依頼到着時に TELstaff から電話をかける	・アクションの実行-1 ・アクションの実行-2	電話呼び出し依頼受信時に TELstaff から電話をかけます
イベント到着時にメールを送信する	・アクションの実行-1 ・アクションの実行-2	イベント到着時にメールを送信します
イベント到着時に TELstaff から電話をかける	・アクションの実行-1 ・アクションの実行-2	イベント到着時に TELstaff から電話をかけます
イベントが到着してから一定の時間後にアクションを実行する	・遅延実行	イベントが到着してから一定時間後に指定のアクションを実行します
定期的に同じアクションを実行する	・タイマ	イベントの到着に関わらず、一定の間隔で指定のアクションを実行します
受信メールをインシデント登録	・イベントの解析-1 ・イベントの解析-2	受信したメールを Senju Service Manager のインシデントとして登録します
受信メールをインシデントまたはインシデント候補登録する	・イベントの解析-1 ・イベントの解析-2	受信したメールを Senju Service Manager にインシデント、またはインシデント候補として登録します
受信メールをプロセス登録する	・イベントの解析-1 ・イベントの解析-2	受信したメールを Senju Service Manager のプロセスとして登録します
受信メールをプロセスまたはイベント登録する	・イベントの解析-1 ・イベントの解析-2	受信したメールを Senju Service Manager にプロセス、またはイベント管理のイベントとして登録します
受信メールをプロセスの経過情報に自動追加する	・イベントの解析-1 ・イベントの解析-2	Senju Service Manager のプロセスから送信されたメールに対しての返信メールをプロセスに自動経過追加します。
コンソールへメッセージボックスを表示する	・アクションの実行-1 ・アクションの実行-2	SEN コンソール上にメッセージボックスを出力します

シチュエーション	ステージ	説明
コンソールへ警報音を通知する	・コンソールルール	SEN コンソール上で警報音を鳴らします
色定義を行う	・グローバル定義	グローバル定義に色を定義しておく と、ルール条件やルールアクション の中で呼び出す事ができます

5.3.1.1 イベントをフィルタリングする

不要なイベントを受信した場合にそのイベントをフィルタリングし、画面(イベントビュー)に表示させない方法には、以下の方法があります。

- ・ イベントを破棄する
- ・ イベントをグループに分配しない
- ・ 表示方法で見えなくする

ここでは、これらの方法のうち、“イベントを破棄する”、“イベントをグループ”に分配しないを説明します。

5.3.1.1.1 イベントを破棄する

SEN サーバー全体で不要なイベントは共通ルールの“早期イベント破棄”ステージと“繰り返しイベントの破棄”ステージで破棄します。イベントをグループ毎に割り当てた後で破棄する場合は、グループ別ルールの“早期イベント破棄”ステージと“繰り返しイベントの破棄”ステージを利用します。

イベントの破棄では、イベントがもつプロパティ(メッセージ ID、発生元ノード ID、メッセージ種別、メッセージテキスト等)と出力間隔、出力回数により、そのイベントを破棄するかどうか判定します。たとえば、あるメッセージ ID を持つようなイベントを破棄する、ある発生元ノード ID からのイベントを破棄する、ある文字列を含むようなイベントを破棄する、特定曜日のイベントを破棄するといった例が考えられます。

- メッセージ ID を条件としたイベントの破棄

メッセージ ID が"!ANM103"の“メッセージ”クラスのイベントを破棄する例です。

この場合のルールは以下のように記述できます。

使用ステージ :	早期イベント破棄
ルール条件 1 :	カレントイベントクラス : "メッセージ" 条件式 : currentEvent. prop("メッセージ ID") == "!ANM103"
アクション :	なし

- メッセージ ID と出力回数を条件としたイベントの破棄

メッセージ ID の"!ANM103"の“メッセージ”クラスのイベントが、10 秒間に 6 回出力される場合に、2~6 回目を破棄する例です。

この場合のルールは以下のように記述できます。

使用ステージ :	繰り返しイベントの破棄
ルール条件 1 :	カレントイベントクラス : "メッセージ" 条件式 : currentEvent. prop("メッセージ ID") == "!ANM103" 抑止期間 : 10 抑止回数 : 5
検査のキー :	なし

5.3.1.1.2 イベントをグループに分配しない

SEN サーバー内にいくつかのグループが存在する場合、そのグループ内で使用しないイベントは分配ルールで振り分けを行わないようにします。

イベントの分配では、イベントがもつプロパティ(メッセージ ID、発生元ノード ID、メッセージ種別、メッセージテキスト等)により、そのイベントをどのグループに分配するかを判定します。たとえば、“SEN_GROUP_1”グループと“SEN_GROUP_2”グループが存在する場合に、重要度が critical のイベントはすべてのグループに分配する、17 時～24 時の間に出力されたイベントは“SEN_GROUP_1”にのみ分配するといった例が考えられます。

- イベントクラスによる分配

イベントクラスが“千手メッセージ”であるようなイベントを”SEN_GROUP_1”にのみ分配する例です。

この場合のルールは以下のように記述できます。

- 準備

- ユーザーグループ“SEN_GROUP_1”を作成する

ルール種別 :	汎用分配ルール
ルール条件 ID :	カレントイベントクラス : “千手メッセージ” 条件式 : なし
分配先ユーザーグループ :	“SEN_GROUP_1”

- イベントの重要度による分配

すべてのクラスのイベントで、イベントの重大度が warning(2)以上 critical(5)以下のイベントを、“SEN_GROUP_1”、“SEN_GROUP_2”に分配する例です。

この場合のルールは以下のように記述できます。

- 準備

- ユーザーグループ“SEN_GROUP_1”を作成する
- ユーザーグループ“SEN_GROUP_2”を作成する

ルール種別 :	汎用分配ルール
ルール条件 ID :	カレントイベントクラス : “すべて” 条件式 : <code>currentEvent.eventSeverity >= 2 && currentEvent.eventSeverity <= 5</code>
分配先ユーザーグループ :	“SEN_GROUP_1”、 “SEN_GROUP_2”

5.3.1.2 到着したイベントの情報を変更する

イベントを受信したときに、文字色を変更する、背景色を変更する、重要度を変更する、ガイドを付加する、手順書へのリンクを付加する、などを行う方法を説明します。

- イベントの文字色、背景色を変更する

イベントの種別が”E(ERROR)”の場合に、文字色を白、背景色を赤に変更する例です。

この場合のルールは以下のように記述できます。

使用ステージ :	アクションの実行-1
ルール条件 1 :	カレントイベントクラス : “メッセージ” 条件式 : currentEvent. prop(“メッセージ種別”) == “E”
アクション :	//色の定義 var WHITE = 0xffffffff; var RED = 0x0000ff; currentEvent. color = WHITE; //文字色の変更 currentEvent. bgColor = RED; //背景色の変更

- イベントの重大度を変更する

発生元 APPL 名が“ORACLE”で、イベントの種別が“E(ERROR)”の場合にイベント重大度を CRITICAL に変更する例です。

この場合のルールは以下のように記述できます。

使用ステージ :	アクションの実行-1
ルール条件 1 :	カレントイベントクラス : “メッセージ” 条件式 : currentEvent. prop(“発生元 APPL 名”) == “ORACLE” && currentEvent. prop(“メッセージ種別”) == “E”
アクション :	//重大度の定義 var CLEAR = 0; var UNKNOWN = 1; var WARNING = 2; var MINOR = 3; var MAJOR = 4; var CRITICAL = 5; var NONE = 6; currentEvent. eventSeverity = CRITICAL;

- イベントのステータスを変更する

イベントの種別が“E(ERROR)”で、イベントの発生日時が 20 時から翌朝 5 時の間の場合は、イベントのステータスを対処完了に変更する例です。

この場合のルールは以下のように記述できます。

使用ステージ :	アクションの実行-1
ルール条件 1 :	カレントイベントクラス : “メッセージ” 条件式 : <pre>currentEvent.prop("メッセージ種別") == "E" && (globalContext.parseAsTime(currentEvent.prop("発生日時")).getTimeString() > "20:00:00" globalContext.parseAsTime(currentEvent.prop("発生日時")).getTimeString() < "05:00:00")</pre>
アクション :	<pre>//ステータスの定義 var OPEN = 0; var ACKNOWLEDGED = 1; var ASSIGNED = 2; var CLOSED = 3; currentEvent.eventStatus = CLOSED;</pre>

- 千手メッセージにガイドを付与する

千手メッセージの発生日時が日曜日の場合は、連絡先として“NRI 野村 太郎 09 0-XXXX-XXXX”をガイドに付与する例です。

この場合のルールは以下のように記述できます。

使用ステージ :	アクションの実行-1
ルール条件 1 :	カレントイベントクラス : “千手メッセージ” 条件式 : <pre>globalContext.parseAsTime(currentEvent.prop("発生日時")).dayOfWeek == 0</pre>
アクション :	<pre>currentEvent.guide = "NRI¥r¥n" + "野村 太郎¥r¥n" + "090-XXXX-XXXX";</pre>

- イベントに手順書をリンクする

イベントの ID が“!ANM103”で、発生元ノード ID が“nri001”の場合は、手順書 (C:¥unyou¥doc¥manual.doc) をリンクする例です。

この場合のルールは以下のように記述できます。

- 準備
 - SEN コンソールを起動する PC に以下のファイルを作成する
C:¥unyou¥doc¥manual.doc

使用ステージ :	アクションの実行-1
ルール条件 1 :	カレントイベントクラス : “メッセージ” 条件式 : <pre>currentEvent.prop("メッセージ ID") == "!ANM103" && currentEvent.prop("発生元ノード ID") == "nri001"</pre>
アクション :	<pre>currentEvent.addRelPage2(0, "手順書", "file://C:/unyou/doc/manual.doc");</pre>

- イベントに WEB の URL をリンクする

イベントの ID が“!ANM103”で、発生元ノード ID が“nri001”の場合は、WEB サイト (<http://www.xxxx.co.jp/manual/200.html>) をリンクする例です。

この場合のルールは以下のように記述できます。

- 準備
 - 以下の URL のリンク先が存在するように設定する
<http://www.xxxx.co.jp/manual/200.html>

使用ステージ :	アクションの実行-1
ルール条件 1 :	カレントイベントクラス : “メッセージ” 条件式 : currentEvent.prop(“メッセージ ID”) == “!ANM103” && currentEvent.prop(“発生元ノード ID”) == “nri001”
アクション :	currentEvent.addRelPage2 (0, “WEB サイト”, “ http://www.xxx.co.jp/manual/200.html ”);

5.3.1.3 イベント到着時にメインペインを変更する

イベント到着時にメインペインを変更するルールは、グループ別ルールで記述します。例えば、あるサーバーの障害イベントを受信したときに、そのサーバーを表すメインペイン上のアイテムを赤く点滅させる、などを行う方法を説明します。

- メインペイン上のアイテムを赤く点滅させる

イベントの ID が“!ANM103”で、発生元ノード ID が“nri001”の場合は、メインペイン上のアイテムを赤く点滅させる例です。

この場合のルールは以下のように記述できます。

- 準備
 - ユーザーグループ“SEN_GROUP_1”を作成する
 - イベントを”SEN_GROUP_1”へ分配するルールを作成する
 - ユーザーグループ“SEN_GROUP_1”にビューカテゴリ“VIEW_1”を作成する
 - ビューカテゴリ“VIEW_1”にメインペイン“MAINPAIN_1”を作成する
 - メインペイン“MAINPAIN_1”にアイテム“nri001(種類:長方形)”を作成する
 - アイテム“nri001”は結合アイテムとしない

使用ステージ :	アクションの実行-1 (“SEN_GROUP_1” グループのグループ別ルール)
ルール条件 1 :	カレントイベントクラス : “メッセージ” 条件式 : currentEvent.prop(“メッセージ ID”) == “!ANM103” && currentEvent.prop(“発生元ノード ID”) == “nri001”
アクション :	//画面の変更 //色の定義 var RED = 0x0000ff; //メインペインへのパスの設定 var tpPath = “/SEN_GROUP_1/VIEW_1/MAINPAIN_1”; //メインペインの指定 var tpNode = globalContext.mainViewTPNode(tpPath); //メインペイン上のアイテムの指定 var mpItem = tpNode.item(“/nri001”); //点滅色の指定 mpItem.prop(“altBgColor”) = RED; //点滅の実行 mpItem.prop(“enableAltInfo”) = true; //イベントとメインペイン上のアイテムとの関連付け //関連付け currentEvent.addRelPage2(0 , “mainview” , “sen:///MainView” + tpPath + “#nri001”);

- メインペイン上のアイテムを赤く点滅させる(結合アイテムの場合)
 - イベントの ID が"!ANM103"で、発生元ノード ID が"nri001"の場合は、メインペイン上のアイテムを赤く点滅させる例です。
 - この場合のルールは以下のように記述できます。
 - ・ 準備
 - ユーザーグループ"SEN_GROUP_1"を作成する
 - イベントを"SEN_GROUP_1"へ分配するルールを作成する
 - ユーザーグループ"SEN_GROUP_1"にビューカテゴリ"VIEW_1"を作成する
 - ビューカテゴリ"VIEW_1"にメインペイン"MAINPAIN_1"を作成する
 - メインペイン"MAINPAIN_1"にアイテム"nri001"を作成する
 - アイテム"nri001"を結合アイテムとする
 - アイテム"nri001"にショートカットプロパティ"blinkColor"および"blink"を作成する
 - ショートカットプロパティ"blinkColor"が結合アイテムを構成する要素のプロパティ"altBgColor"を示すよう設定する
 - ショートカットプロパティ"blink"が結合アイテムを構成する要素のプロパティ"enableAltInfo"を示すよう設定する

使用ステージ :	アクションの実行-1 ("SEN_GROUP_1" グループのグループ別ルール)
ルール条件 1 :	カレントイベントクラス : "メッセージ" 条件式 : currentEvent.prop("メッセージ ID") == "!ANM103" && currentEvent.prop("発生元ノード ID") == "nri001"
アクション :	//画面の変更 //色の定義 var RED = 0x0000ff; //メインペインへのパスの設定 var tpPath = "/SEN_GROUP_1/VIEW_1/MAINPAIN_1"; //メインペインの指定 var tpNode = globalContext.mainViewTPNode(tpPath); //メインペイン上のアイテムの指定 var mpItem = tpNode.item("/nri001"); //点滅色の指定 mpItem.prop("blinkColor") = RED; //点滅の実行 mpItem.prop("blink") = true; //イベントとメインペイン上のアイテムとの関連付け //関連付け currentEvent.addRelPage2(0 , "mainview" , "sen://MainView" + tpPath + "#nri001");

- メインペイン上のカウンタをインクリメントする

イベントの ID が"!ANM103"で、発生元ノード ID が"nri001"の場合は、メインペイン上のカウンタをインクリメントする例です。

この場合のルールは以下のように記述できます。

- 準備
 - ユーザーグループ"SEN_GROUP_1"を作成する
 - イベントを"SEN_GROUP_1"へ分配するルールを作成する
 - "SEN_GROUP_1"グループにビューカテゴリ"VIEW_1"を作成する
 - ビューカテゴリ"VIEW_1"にメインペイン"MAINPAIN_1"を作成する
 - メインペイン"MAINPAIN_1"にアイテム"nri001(種類:文字)"を作成する

使用ステージ :	アクションの実行-1 ("SEN_GROUP_1" グループのグループ別ルール)
ルール条件 1 :	カレントイベントクラス : "メッセージ" 条件式 : currentEvent.prop("メッセージ ID") == "!ANM103" && currentEvent.prop("発生元ノード ID") == "nri001"
アクション :	//画面の変更 //色の定義 var RED = 0x0000ff; //メインペインへのパスの設定 var tpPath = "/SEN_GROUP_1/VIEW_1/MAINPAIN_1"; //メインペインの指定 var tpNode = globalContext.mainViewTPNode(tpPath); //メインペイン上のアイテムの指定 var mpItem = tpNode.item("/nri001"); //現在の値の取得 (文字として格納されているため、整数型に変換) var counter = parseInt(mpItem.prop("text")); //インクリメント counter++; //値の格納 (文字として格納するため、型を変換) mpItem.prop("text") = counter.toString(); //イベントとメインペイン上のアイテムとの関連付け //関連付け currentEvent.addRelPage2(0 , "mainview" , "sen:///MainView" + tpPath + "#nri001");

5.3.1.4 イベントのステータス変更時にメインペインを変更する

イベントのステータス変更時にメインペインを変更するルールは、グループ別ルールで記述します。例えば、あるサーバーの障害イベントを受信したときに、そのサーバーを現すメインペイン上のアイテムを赤く点滅させる。そして、該当のイベントのステータスを“対処完了”にしたときに点滅を停止する、といった場合の後者の処理を行う方法を説明します。イベントのステータスを変更した場合は、SENの内部で“イベントステータス変更イベント”というイベントが発生します。イベントのステータス変更時の処理は、この“イベントステータス変更イベント”を使用して行います。

- メインペイン上のアイテムの点滅を停止する

イベントのステータス変更(オープン→対処完了)時に、メインペイン上のアイテムの点滅を停止する例です。

この場合のルールは以下のように記述できます。

- 準備
 - 「メインペイン上のアイテムを赤く点滅させる」の準備を行う
 - ユーザーグループ“SEN_GROUP_1”を作成する
 - イベントを”SEN_GROUP_1”へ分配するルールを作成する

使用ステージ :	アクションの実行-1 (“SEN_GROUP_1”グループのグループ別ルール)
ルール条件 1 :	カレントイベントクラス : “イベントステータス変更イベント” 条件式 : なし
アクション :	<pre>//ステータスの定義 var OPEN = 0; var ACKNOWLEDGED = 1; var ASSIGNED = 2; var CLOSED = 3; //同時にステータスを変更した数を取得 var numOfFields = currentEvent.numOfFields("イベントステータス変更項目"); //1 つずつ処理する for (var idx = 0 ; idx < numOfFields ; idx++) { var ev = currentEvent.prop2("イベントステータス変更項目", idx); //ステータスを”オープン” から” 対処完了” にしたとき if (ev.prop("旧イベント状態") == OPEN && ev.prop("新イベント状態") == CLOSED) { //関連付けされている数を取得 var numOfRelPages = ev.numOfFields("関連ビュー"); //1 つずつ処理する for (var idy = 0 ; idy < numOfRelPages ; idy++) { var relPage = ev.prop2("関連ビュー", idy);</pre>

```
var tpPath = getNodePath(relPage);
var mpPath = getItemPath(relPage);
var tpItem = globalContext.mainViewTPNode(tpPath);
var mpItem = tpItem.item(mpPath);

//点滅を停止する
mpItem.prop("enableAltInfo") = false;
    }
}
}
//関連ビューからメインペインのパスを取得する処理
function getNodePath( viewPath ) {
    var s = viewPath.slice("sen:///MainView".length,
        viewPath.lastIndexOf("#", viewPath.length));
    return s;
}

//関連ビューからメインペイン上のアイテム名を取得する処理
function getItemPath(viewPath) {
    var s = viewPath.slice(viewPath.lastIndexOf("#",
        viewPath.length) + 1,viewPath.length);
    return "/" + s;
}
```

5.3.1.5 イベントのステータス変更時にイベントの情報を変更する

イベントのステータス変更時に、ステータスを変更したイベントの情報を変更する処理は、グループ別ルールで記述します。例えば、あるイベントのステータスを変更したときに、該当のイベントの情報を変更するような処理を行う方法を説明します。

- ノートの内容を報告書に反映する

SEN コンソールから“報告書を作る”や“メールを送る”を実行する場合、イベントのノートの情報を参照することができません。“報告書を作る”や“メールを送る”は、イベントの UV にはアクセス可能であるため、イベントのステータス変更時に UV に転記します。

この場合のルールは以下のように記述できます。尚、下記ルールを適用した場合、“報告書を作る”と“メールを送る”においてノートの内容を%currentEvent.uv(“note”)%で参照することができるようになります。

- 準備
 - 報告書自動作成テンプレートを作成する
詳細は「インストールガイド」の「6.2.8 報告書自動作成機能のテンプレート」を参照して下さい。
 - メール自動作成テンプレートを作成する
詳細は「インストールガイド」の「6.2.7 メール自動作成機能のテンプレート」を参照して下さい。
 - ユーザーグループ“SEN_GROUP_1”を作成する
 - イベントを”SEN_GROUP_1”へ分配するルールを作成する

使用ステージ :	アクションの実行-1 (“SEN_GROUP_1” グループのグループ別ルール)
ルール条件 1 :	カレントイベントクラス : “イベントステータス変更イベント” 条件式 : なし
アクション :	<pre>//同時にステータスを変更した数を取得 var numOffields = currentEvent.numOffields(“イベントステータス変更項目”); //1 つずつ処理する for (var idx = 0 ; idx < numOffields ; idx++) { var ev = currentEvent.prop2(“イベントステータス変更項目” , idx); var eventId = ev.prop(“イベント ID”); var sourceEvent = globalContext.getEventById(eventId); var notes = sourceEvent.uv(“note”); if (typeof(notes) == typeof(undefined)) { notes = “”; } } var numOfNotes = sourceEvent.numOfNotes;</pre>

```
for ( idy = 0 ; idy < numOfNotes ; idy++ ) {
    var note = sourceEvent.note( idy );
    var record = note.writtenTime.getTimeString()
                + " : " + note.writerName
                + " " + note.note + "¥r¥n";
    if ( notes.indexOf( record ) == -1 ) {
        notes += record;
    }
}
sourceEvent.uv("note") = notes;
}
```

5.3.1.6 イベント到着時に外部コマンドを非同期実行する

イベントの到着時に外部コマンドを非同期で実行する処理は、“アクションの実行-1” ステージまたは、“アクションの実行-2” ステージで行います。例えば、あるノードがダウンしたというイベントを受信した場合、SEN サーバーから該当サーバーに対して `tracert` コマンドや `Telnet` 連携コマンドを実行し、実行結果をノードがダウンしたというイベントのガイドに出力する処理を行う方法を説明します。`tracert` コマンドや `Telnet` 連携コマンドは結果が返るまで数秒必要であるため、非同期で実行します。

- `tracert` コマンドを実行する

イベントの ID が “!ANM103 (サーバーダウン)” の場合は、該当のサーバーに対して `tracert` コマンドを実行する例です。

- 準備

- SEN サーバーが該当サーバーの名前解決をできること (DNS、hosts ファイル等で名前解決できるよう設定する)
 - ユーザーグループ “SEN_GROUP_1” を作成する
 - イベントを “SEN_GROUP_1” へ分配するルールを作成する

使用ステージ :	アクションの実行-1 (“SEN_GROUP_1” グループのグループ別ルール)
ルール条件 1 :	カレントイベントクラス : “千手メッセージ” 条件式 : <code>currentEvent.prop(“メッセージ ID”) == “!ANM103”</code>
アクション :	<code>//イベントが発生したノードを取得 var node = currentEvent.prop(“発生元ノードID”); //該当のノードに対して tracert コマンドを実行する var command = “cmd /c tracert ” + node; var actionUserInfo = currentEvent.sequenceId; globalContext.asyncExecCommand(command , actionUserInfo, null);</code>

- `Telnet` 連携コマンドを実行する

イベントの ID が “!ANM103 (サーバーダウン)” の場合は、該当のサーバーに対して `Telnet` 連携コマンドを実行する例です。

- 準備

- ユーザーグループ “SEN_GROUP_1” を作成する
 - イベントを “SEN_GROUP_1” へ分配するルールを作成する



“Linux 接続 01” には、コンフィグレータで設定した `Telnet` 連携の接続情報 ID を設定して下さい。

使用ステージ :	アクションの実行-1
----------	------------

	(“SEN_GROUP_1” グループのグループ別ルール)
ルール条件 1 :	カレントイベントクラス : “千手メッセージ” 条件式 : <code>currentEvent.prop(“メッセージ ID”) == “!ANM103”</code>
アクション :	<code>//イベントが発生したノードを取得 var node = currentEvent.prop(“発生元ノードID”); // プロパティ“発生元ノードID”の値を取得する // Linux接続01には、コンフィグレータで設定した、Telnet連携の接続情報IDを設定して下さい var command = “sjENX_Telnet.exe -s ” + node + “ -i Linux接続01”; var actionUserInfo = currentEvent.sequenceId; globalContext.asyncExecCommand(command, actionUserInfo, null);</code>

- コマンドの結果をガイドに出力する

コマンドが終了したときに発生する“アクション終了イベント”を受信した場合は、元のイベントのガイドにアクション実行結果を出力する例です。

- 準備(どちらか一方、または両方)
 - 「tracert コマンドを実行する」の準備を行う
 - 「Telnet 連携コマンドを実行する」の準備を行う
 - ユーザーグループ“SEN_GROUP_1”を作成する
 - イベントを”SEN_GROUP_1”へ分配するルールを作成する

使用ステージ :	アクションの実行-1 (“SEN_GROUP_1” グループのグループ別ルール)
ルール条件 1 :	カレントイベントクラス : “アクション終了イベント”
アクション :	<code>//コマンドを実行した元のイベントを取得する var numOffFields = currentEvent.numOffFields(“アクションユーザー情報”); if (numOffFields != 0) { //元のイベントのシーケンスIDを取得 var sequenceId = currentEvent.prop2(“アクションユーザー情報”, 0); //元のイベントにアクセス var ev = globalContext.getEventById(sequenceId); //元のイベントのガイドに実行結果を貼り付ける ev.guide = ev.guide + currentEvent.prop(“アクション全文字出力”); }</code>

5.3.1.7 メール送信依頼到着時にメールを送信する

メール送信依頼到着時にメールを送信する処理は、“アクションの実行-1”ステージまたは、“アクションの実行-2”ステージで行います。メール送信メッセージを受信した場合、メール送信メッセージの内容に従いメールを送信する処理を行う方法を説明します。

- メール送信メッセージの内容でメールを送信する

メール送信メッセージを受信した場合、メール送信メッセージの内容に従いメールを送信する例です。

この場合のルールは以下のように記述します。

- 準備
 - SMTP サーバーの設定を行う
 - メール送信連携アダプタを起動する



“MAIL_SEND”には、コンフィグレータで設定したメール送信連携のドメイン名を設定して下さい。

使用ステージ：	アクションの実行-1
ルール条件 1：	カレントイベントクラス：“メール送信メッセージ” 条件式：なし
アクション：	//アクションユーザー情報の設定 var actionUserInfo = new Array(“メール送信依頼実行結果”); // “MAIL_SEND”には、コンフィグレータで設定したメール送信連携のドメイン名を設定して下さい var pd = globalContext.getProducer(“MAIL_SEND”, null); var execResult = pd.mlAsyncSendEvent(currentEvent, actionUserInfo);

5.3.1.8 電話呼び出し依頼到着時に TELstaff から電話をかける

電話呼び出し依頼到着時に TELstaff から電話をかける処理は、“アクションの実行-1”ステージまたは、“アクションの実行-2”ステージで行います。電話呼出メッセージを受信した場合、電話呼出メッセージの内容に従い TELstaff から電話をかける処理を行う方法を説明します。

- 電話呼出メッセージの内容で TELstaff から電話をかける

電話呼出メッセージを受信した場合、電話呼出メッセージの内容に従い TELstaff から電話をかける例です。

この場合のルールは以下のように記述します。

- 準備
 - TELstaff サーバーの設定を行う
 - TELstaff 連携アダプタを起動する



“TELSTAFF”には、コンフィグレータで設定した TELstaff 連携のドメイン名を設定して下さい。

使用ステージ：	アクションの実行-1
ルール条件 1：	カレントイベントクラス：“電話呼出メッセージ” 条件式：なし
アクション：	//アクションユーザー情報の設定 var actionUserInfo = new Array(“電話呼び出し依頼実行結果”); // “TELSTAFF”には、コンフィグレータで設定した TELstaff 連携のドメイン名を設定して下さい var pd = globalContext.getProducer(“TELSTAFF”, null); var execResult = pd.tlAsyncSendEvent(currentEvent, actionUserInfo);

5.3.1.9 イベント到着時にメールを送信する

イベントの到着時にメールを送信する処理は、“アクションの実行-1”ステージまたは、“アクションの実行-2”ステージで行います。例えば、あるノードがダウンしたというイベントを受信した場合、担当者にメールを送信する処理を行う方法を説明します。

- メールを送信する

イベントの ID が“!ANM103(サーバーダウン)”の場合、サーバー管理担当者にメールを送信する例です。

この場合のルールは以下のように記述します。

- 準備
 - SMTP サーバーの設定を行う
 - メール送信連携アダプタを起動する



“MAIL_SEND”には、コンフィグレータで設定したメール送信連携のドメイン名を設定して下さい。
宛先メールアドレス（カーボンコピー含む）には存在する宛先メールアドレスを設定して下さい。

使用ステージ :	アクションの実行-1
ルール条件 1 :	カレントイベントクラス : “千手メッセージ” 条件式 : <code>currentEvent.prop(“メッセージ ID”) == “!ANM103”</code>
アクション :	<pre>// 発信元メールアドレスの設定 var fromAddr = “fromAddr@example.com”; // 宛先メールアドレスの設定 var rptAddr = “rptAddr1@example.com, rptAddr2@example.com”; // カーボンコピーの宛先メールアドレスの設定 var ccAddr = “ccAddr1@example.com, ccAddr1@example.com”; // 件名の設定 var subject = “障害連絡”; // 本文の設定 var contents = currentEvent.prop(“メッセージテキスト”); // 添付ファイルの設定 var attachments = null; // アクションユーザー情報の設定 var actionUserInfo = new Array(“メール送信実行結果”); // “MAIL_SEND”には、コンフィグレータで設定したメール送信連携のドメイン名を設定して下さい var pd = globalContext.getProducer(“MAIL_SEND”, null); var execResult = pd.mlAsyncSendMail(fromAddr, rptAddr, ccAddr, subject, contents, attachments, actionUserInfo);</pre>

5.3.1.10 イベント到着時に TELstaff から電話をかける

イベントの到着時に TELstaff から電話をかける処理は、“アクションの実行-1”ステージまたは、“アクションの実行-2”ステージで行います。例えば、あるノードがダウンしたというイベントを受信した場合、担当者に TELstaff から電話をかける処理を行う方法を説明します。

- TELstaff から電話をかける

イベントの ID が“!ANM103(サーバーダウン)”の場合は、サーバー管理担当者に TELstaff から電話をかける例です。

この場合のルールは以下のように記述します。

- 準備
 - TELstaff サーバーの設定を行う
 - TELstaff 連携アダプタを起動する



“TELSTAFF”には、コンフィグレータで設定した TELstaff 連携のドメイン名を設定して下さい。

連絡網グループ ID/連絡網 ID “001/0001”には、存在する連絡網グループ ID/連絡網 ID を設定して下さい。

使用ステージ :	アクションの実行-1
ルール条件 1 :	カレントイベントクラス : “千手メッセージ” 条件式 : <code>currentEvent.prop(“メッセージ ID”) == “!ANM103”</code>
アクション :	<pre>//連絡網グループ ID/連絡網 ID の設定 //TELstaff サーバーに存在する連絡網グループ ID/連絡網 ID を設定して下さい。 var telId = “001/0001”; //読み上げメッセージの設定 var readingContent = “障害が発生しました。”; //アクションユーザー情報の設定 var actionUserInfo = new Array(“電話呼び出し実行結果”); // “TELSTAFF”には、コンフィグレータで設定した TELstaff 連携のドメイン名を設定して下さい var pd = globalContext.getProducer(“TELSTAFF”, null); var execResult = pd.tlAsyncTelCall(telId, readingContent, actionUserInfo);</pre>

5.3.1.11 イベントが到着してから一定の時間後にアクションを実行する

あるイベントを受信してから、一定時間以内に別のイベントを受信しなかった場合にアクションを実行する処理は、遅延実行のステージで行います。例えば、あるノードがダウンしたというメッセージが発生してから、5分以内に該当のノードから復旧メッセージが来なかった場合に、障害と判断して担当者にメールを送信するような処理を行う方法を説明します。

- 5分以内にサーバーが復旧しない場合は担当者にメールを送信する

イベントの ID が"!ANM103(サーバーダウン)"の場合は、5分以内にイベント ID が"!ANM102(サーバー起動)"のイベントが来ない場合に障害と判断して、担当者にメールを送信する例です。

この場合のルールは以下のように記述できます。

- 準備
 - SMTP サーバーの設定を行う
 - メール送信連携アダプタを起動する



"MAIL_SEND"には、コンフィグレータで設定したメール送信連携のドメイン名を設定して下さい。

宛先メールアドレス（カーボンコピー含む）には存在する宛先メールアドレスを設定して下さい。

使用ステージ :	遅延実行
ルール条件 1 :	カレントイベントクラス : "千手メッセージ" 条件式 : <code>currentEvent.prop("メッセージ ID") == "!ANM103" && currentEvent.prop("発生元ノード ID") == "nri001"</code>
ルール条件 2 :	カレントイベントクラス : "千手メッセージ" 条件式 : <code>currentEvent.prop("メッセージ ID") == "!ANM102" && currentEvent.prop("発生元ノード ID") == "nri001"</code>
パラメータ-1 :	300
アクション :	<pre>//発信元メールアドレスの設定 var fromAddr = "fromAddr@example.com"; //宛先メールアドレスの設定 var rptAddr = "rptAddr1@example.com, rptAddr2@example.com"; //カーボンコピーの宛先メールアドレスの設定 var ccAddr = "ccAddr1@example.com, ccAddr1@example.com"; //件名の設定 var subject = "障害連絡"; //本文の設定 var contents = "障害が発生しました。"; //添付ファイルの設定 var attachments = null; //アクションユーザー情報の設定 var actionUserInfo = new Array("メール送信実行結果");</pre>

```
// "MAIL_SEND"には、コンフィグレータで設定したメール送信連携の  
ドメイン名を設定して下さい  
var pd = globalContext.getProducer( "MAIL_SEND", null );  
var execResult = pd.mIAsyncSendMail( fromAddr, rptAddr, ccAddr,  
subject, contents, attachments, actionUserInfo );
```

5.3.1.12 定期的な同じアクションを実行する

決まった時刻にアクションを実行する処理は、“タイマ” ステージで行います。例えば、SEN アダプタを導入したサーバーに対して定期的にヘルスチェックを行い、ヘルスチェックに失敗した場合に、障害イベントを出力するような処理を行う方法を説明します。

- 5分置きにサーバー“nri001”に ping を発行する

5分置きにサーバー“nri001”に ping を発行し、ヘルスチェックに失敗した場合に、障害イベントを出力する例です。

この場合のルールは以下のように記述できます。

- 準備
 - SEN サーバーが該当サーバーの名前解決をできること
(DNS、hosts ファイル等で名前解決できるよう設定する)

使用ステージ:	タイマ
ルール条件 1:	SEN サーバー起動時/ルールセット反映時
ルール条件 2:	カレントイベントクラス: "すべてのイベント" 条件式: false
パラメータ -1:	300
アクション:	<pre>//ノード" nri001" に対してpingコマンドを発行 var command = "cmd /c ping -n 1 nri001 find ¥"Lost = 0 ¥"; var actionUserInfo = null; var execResult = globalContext.asyncExecCommand(command , actionUserInfo, null); try{ //コマンドの終了を10秒待つ execResult.waitForTerminateProcess(10000); if (execResult.exitCode != 0) { //対象のノードからの応答がない var ev = globalContext.createEvent("千手メッセージ"); //ev のプロパティを設定する ev.prop("メッセージID") = "SEN999"; ev.prop("メッセージテキスト") = "nri001との接続が切れました"; ev.send(); } } catch(e) { globalContext.outputToFile(3 , "コマンドが所定の時間内に終了しませんでした。"); }</pre>

5.3.1.13 受信メールをインシデント登録する

メールを受信した場合に、メールの内容を基にして Senju Service Manager に対してインシデントとして登録する方法を説明します。

- 受信メールをインシデントとして登録する

メールを受信した場合、インシデント登録の必須項目である「システム名」と「起票者」と「エスカレーション先名」は固定値 (SSM 初期システム、SSM) をセット、「SSM のタイトル」と「経過 1 のタイトル」はメールの subject をセット、「SSM のインシデント内容」と「経過 1 の内容」はメールの本文をセット、添付ファイルがある場合には「経過 1 の経過添付ファイル」に添付ファイルをセットしてインシデントとして登録する例です。

この場合のルールは以下のように記述できます。

- 準備
 - SSM DB サーバーを設定する
 - Senju Service Manager 連携アダプタを起動する



“SSMDBSV”には、コンフィグレータで設定した Senju Service Manager 連携のドメイン名を設定して下さい。

使用ステージ :	イベントの解析-1
ルール条件 1 :	カレントイベントクラス : “メールメッセージ” 条件式 : なし
アクション :	<pre>//このルールを実行する際には //Senju Service Managerの接続情報 (SSM DBサーバー名等) //をSENコンフィグレータにて登録しておくこと。 //デフォルトシステム var DefaultSys = “SSM初期システム”; //デフォルト起票者、エスカレーション先名 var DefaultSend = “SSM”; //プロパティ“メール本文”、“Subject:” (件名) の値を取得する var mailsubject = currentEvent.prop(“Subject:”); var mailbody = currentEvent.prop(“メール本文”); //インシデント登録 var fields = new Array; // SSM連携用配列宣言 var vals = new Array; // SSM連携用配列宣言 fields.push(“システム名”); vals.push(DefaultSys); fields.push(“起票者”); vals.push(DefaultSend); fields.push(“エスカレーション先名”); vals.push(DefaultSend); fields.push(“タイトル”);</pre>

```
vals.push(mailsubject);

fields.push("インシデント内容");
vals.push(mailbody);

fields.push("経過タイトル");
vals.push(mailsubject);

fields.push("経過内容");
vals.push(mailbody);

fields.push("登録モード");
vals.push("001");

//添付ファイルを全て追加する
if (currentEvent.numOfFields("添付ファイルリスト") > 0) {
    var fileArray = new Array();
    for ( idx = 0 ; idx<currentEvent.numOfFields("添付ファイルリ
スト") ; ++idx ) {
        fields.push("経過添付ファイル名");
        vals.push(currentEvent.prop2("添付ファイルリスト",
idx).prop("出力ファイル名"));
    }
}

//"SSMDBSV"には、コンフィグレータで設定した Senju Service Manager
連携のドメイン名を設定して下さい
var pd = globalContext.getProducer( "SSMDBSV", null );
var execResult = pd.spAsyncSendEvent( "インシデント", fields,
vals, null, "SSMインシデント登録実行結果" );
```

5.3.1.14 受信メールをインシデントまたはインシデント候補登録する

メールを受信した場合に、メールの内容を基にして Senju Service Manager に対してインシデント、またはインシデント候補として登録する方法を説明します。

- 利用シーン

トラブルが発生した旨のメールを受信し、メールの宛先ごとに紐付けられた登録者情報をファイルより取得し、メール内容に付加してインシデントとして登録する。登録者情報の該当データがファイルにない場合はインシデント候補として登録する。

- 受信メールをインシデント、またはインシデント候補として登録する

メールを受信した場合、インシデント登録の必須項目である「システム名」と「起票者」と「エスカレーション先名」は「宛先メールアドレス(To)」をキーにしてあらかじめ作成しておいた登録者情報ファイルより取得し、インシデントとして登録する。登録者情報ファイルに該当するデータがなかった場合にはインシデント候補として登録する。

この場合のルールは以下のように記述できます。

- 準備

- SSM DB サーバーを設定する
- 登録者情報ファイルを作成する
- Senju Service Manager 連携アダプタを起動する

登録者情報ファイル

- 解説:

- 受信メールの宛先メールアドレス(To:)と、リストの[*To]でマッチングを行ない、マッチしたリストのシステム名・起票者・エスカレーション先名を取得する。

- レイアウト:

宛先メールアドレス (To:)	マッチングキー 指定した文字列との完全一致で true
カンマ (半角)	","
システム名	Senju Service Manager のシステム名を指定
カンマ (半角)	","
起票者	Senju Service Manager のユーザーID
カンマ (半角)	","
エスカレーション先名	Senju Service Manager のユーザーID 複数指定の場合は、";" (セミコロン) で区切る

- ファイル内容サンプル:

```
[*To], [システム名], [起票者], [エスカレーション先名]
user@A-System.com, A システム, Auser, Auser
user2@A-System.com, A システム, Auser2, Auser2
user@B-System.com, B システム, Buser, Buser
user@C-System.com, C システム, Cuser, Cuser ; Cuser2
```

- 備考:

- リストの項目の追加、並び順を変更した場合にはルールの変更が必要です。



「システム名」と「起票者」の整合性を合わせて下さい。対象システムの職責を持たない「起票者」で登録した場合、その「起票者」での登録されたインシデントは、参照、更新不可となります。（検索対象となりません）。もし上記の状態となった場合は、そのシステムの職責も持った、ユーザーで対象のインシデントを修正して下さい（起票者の修正は不可ですが、システム名の変更は可能）。

グローバル定義：	<pre>//登録者情報ファイル var registRdFile = "C:¥¥Program Files¥¥SEN¥¥Server¥¥dat¥¥enb¥¥wtable¥¥Regist_info.txt"; //インシデント、インシデント候補 var direct = "インシデント"; var candidate = "インシデント候補"; //マルチラインテキスト項目の場合の文字数を制限する function string_edit_process(msgstr, lmt) { //メッセージのバイト数を lmt byte以下に制限 var len = 0; var iCode; for(idx=0;idx<msgstr.length;idx++){ iCode = msgstr.charCodeAt(idx); if((iCode>=0 && iCode<=255) (iCode>=0xff61 && iCode<=0xff9f)) { len += 1; }else{ len += 2; } if (len > lmt) { return msgstr.substr(0, idx) + "¥r¥n" + "（以下のメ ッセージは省略されました）"; break; } } return msgstr; }</pre>
----------	---

使用ステータス：	イベントの解析-1
ルール条件 1：	カレントイベントクラス：“メールメッセージ” 条件式：なし
アクション：	<pre>//このルールを実行する際には //Senju Service Managerの接続情報（SSM DBサーバー名等） //をSENコンフィグレータにて登録しておくこと。 //登録者情報ファイルを作成しておくこと。 //イベントに関連付けるユーザー変数定義 currentEvent.uv("登録フラグ") = ""; currentEvent.uv("登録用起票者") = ""; currentEvent.uv("登録用システム名") = ""; currentEvent.uv("登録用エスカレーション先名") = ""; currentEvent.uv("送信者メールアドレス") = ""; //送信者メールアドレスの取得</pre>

```

var MailFrom = currentEvent.prop("From:");
if (MailFrom.indexOf("¥<") != -1 && MailFrom.indexOf("¥>") != -1) {
    var sfpos = MailFrom.indexOf("¥<") + 1;
    var efpos = MailFrom.indexOf("¥>");
    MailFrom = MailFrom.substring(sfpos, efpos);
}
currentEvent.uv("送信者メールアドレス") = MailFrom;

//To取得
var MailTo = new Array; //メールの宛先 (To)
for ( idx = 0 ; idx<currentEvent.numOfFields("To:"); ++idx ) {
    MailTo[idx] = currentEvent.prop2("To:", idx);
    if (MailTo[idx].indexOf("¥<") != -1 &&
MailTo[idx].indexOf("¥>") != -1) {
        var stpos = MailTo[idx].indexOf("¥<") + 1;
        var etpos = MailTo[idx].indexOf("¥>");
        MailTo[idx] = MailTo[idx].substring(stpos, etpos);
    }
}

//登録者情報ファイルを全て読み込む
var rgst_rc; //1行のデータ
var rgst_splrc; //1行のデータを項目ごとに区切った配列
var rgst_to = new Array; //宛先メールアドレス (To)
var rgst_kihyou = new Array; //登録用起票者
var rgst_system = new Array; //登録用システム名
var rgst_esca = new Array; //登録用エスカレーション先名
var rgst_file_found = true; //必須登録情報ファイルの有無

//FileSystemObjectのインスタンスを生成
var fso = globalContext.createObject("Scripting.FileSystemObject",
null);
if (fso.FileExists(registRdFile)) {
    var dt = fso.OpenTextFile(registRdFile, 1);
    var rgst_j = 0;
    do {
        rgst_rc = dt.ReadLine(); //1行読み込む
        rgst_rc = rgst_rc.replace( /¥"/g, "" ); // 「"」 (ダブルクウ
オート)を一括削除
        rgst_splrc = rgst_rc.split(","); // 「,」 (カンマ) ごとに項
目に分ける
        //ヘッダー情報以外のデータ取得
        if ( rgst_splrc[1].indexOf("¥[") == -1 ) {
            rgst_to[rgst_j] = rgst_splrc[0];
            rgst_system[rgst_j] = rgst_splrc[1];
            rgst_kihyou[rgst_j] = rgst_splrc[2];
            rgst_esca[rgst_j] = rgst_splrc[3];
            rgst_j++;
        }
    } while(dt.AtEndOfStream==false);
    dt.Close();
    dt = null;
} else {
    //ファイルが見つからなかった場合、ログにエラーレベル3で出力
    globalContext.outputToLogFile( 3, "登録者情報ファイルが見つかり
ません: " + registRdFile );
    rgst_file_found = false;
}
}

```

```

//登録者情報ファイルから、宛先メールアドレスに対応した
//必須項目のデータ（起票者・システム名・エスカレーション先名）を取得する
var Direct_Flag = false; //ファイルにマッチした情報があったか否か
for (i=0;i<MailTo.length;i++) {
  for (j=0;j<rgst_to.length;j++) {
    if ( MailTo[i] == rgst_to[j] ) {
      currentEvent.uv("登録用起票者") = rgst_kihyou[j];
      currentEvent.uv("登録用システム名") = rgst_system[j];
      currentEvent.uv("登録用エスカレーション先名") =
rgst_esca[j];
      Direct_Flag = true; //ファイルにマッチした情報があり
      break;
    }
  }
  if ( Direct_Flag == true ) {
    //既にマッチした情報がある場合にはループを抜ける
    break;
  }
}

//ファイルのデータ取得できたら、各種送信処理を行う
if ( rgst_file_found == true ) {
  if ( Direct_Flag == true ) {
    currentEvent.uv("登録フラグ") = direct; //インシデント
  } else {
    currentEvent.uv("登録フラグ") = candidate; //インシデント
候補
  }
} else {
  currentEvent.uv("登録フラグ") = "regist_file is not found!";
}

```



“SSMDBSV”には、コンフィグレータで設定した Senju Service Manager 連携のドメイン名を設定して下さい。

使用ステージ：	イベントの解析-1
ルール条件 1：	カレントイベントクラス：“メールメッセージ” 条件式： currentEvent.uv("登録フラグ") == direct currentEvent.uv("登録フラグ") == candidate
アクション：	<pre> //発生日時より年月日を取得 var sendDate = currentEvent.prop("発生日時").substr(0, 4) + currentEvent.prop("発生日時").substr(5, 2) + currentEvent.prop(" 発生日時").substr(8, 2); //発生日時より時刻を取得 var sendTime = currentEvent.prop("発生日時").substr(11, 2) + currentEvent.prop("発生日時").substr(14, 2); //Subjectより80文字をタイトルとして取得 var title = currentEvent.prop("Subject:").substr(0, 80); //タイトルに「'」または「”」が含まれる場合は削除 title = title.replace(/'/g, ""); title = title.replace(/"/g, ""); </pre>

```
//To取得
var toHeaderStr = "";
for ( idx = 0 ; idx<currentEvent.numOfFields("To:") ; ++idx ) {
    if (idx >= 1) {
        toHeaderStr += ",";
    }
    toHeaderStr += currentEvent.prop2("To:", idx);
}

//Cc取得
var ccHeaderStr = "";
if (currentEvent.numOfFields("Cc:") > 0) {
    for ( idx = 0 ; idx<currentEvent.numOfFields("Cc:") ;
    ++idx ) {
        if (idx >= 1) {
            ccHeaderStr += ",";
        }
        ccHeaderStr += currentEvent.prop2("Cc:", idx);
    }
} else {
    ccHeaderStr = "";
}

//インシデント内容文生成
var msg = "《受信日時》 ¥r¥n " + currentEvent.prop("発生日時") +
"¥r¥n"
        + "《From》 ¥r¥n " + currentEvent.prop("From:") +
"¥r¥n"
        + "《To》 ¥r¥n " + toHeaderStr + "¥r¥n"
        + "《Cc》 ¥r¥n " + ccHeaderStr + "¥r¥n"
        + "《Subject》 ¥r¥n " + currentEvent.prop("Subject:")
+ "¥r¥n"
        + "《メール本文》 ¥r¥n " + currentEvent.prop("メール
本文") + "¥r¥n¥r¥n";

//インシデント内容文の文字数を制限する
msg = string_edit_process(msg, 3960);

//転送用：項目・内容を変数へ登録
var fields = new Array;
var vals = new Array;

fields.push("タイトル");
vals.push(title);

fields.push("インシデント内容");
vals.push(msg);

fields.push("経過タイトル");
vals.push(title);

fields.push("経過内容");
vals.push(msg);

fields.push("起票日");
vals.push(sendDate);

fields.push("起票時刻");
vals.push(sendTime);
```

```
fields.push("登録モード");
vals.push("001");

if ( currentEvent.uv("登録フラグ") == direct ) {
    //インシデントの場合
    fields.push("起票者");
    vals.push(currentEvent.uv("登録用起票者"));

    fields.push("システム名");
    vals.push(currentEvent.uv("登録用システム名"));

    var esca_array = currentEvent.uv("登録用エスカレーション先名")
    .split(";");
    for ( idx = 0; idx<esca_array.length; ++idx ){
        fields.push("エスカレーション先名");
        vals.push(esca_array[idx]);
    }
}else{
    //インシデント候補の場合
    fields.push("送信者アドレス");
    vals.push(currentEvent.uv("送信者メールアドレス"));
}

//添付ファイルを全て追加する
if (currentEvent.numOfFields("添付ファイルリスト") > 0) {
    var fileArray = new Array();
    for ( idx = 0 ; idx<currentEvent.numOfFields("添付ファイルリスト") ; ++idx ) {
        fields.push("経過添付ファイル名");
        vals.push(currentEvent.prop2("添付ファイルリスト",
idx).prop("出力ファイル名"));
    }
}

//"SSMDBSV"は、コンフィグレータで設定した Senju Service Manager 連携のドメイン名を設定して下さい
var pd = globalContext.getProducer( "SSMDBSV", null );
var execResult = pd.spAsyncSendEvent( currentEvent.uv("登録フラグ"), fields, vals, null, "SSM" + currentEvent.uv("登録フラグ") + "登録実行結果" );
```

5.3.1.15 受信メールをプロセス登録する

メールを受信した場合に、メールの内容を基にして Senju Service Manager に対しプロセスとして登録する方法を説明します。

- 受信メールをプロセスとして登録する

メールを受信した場合、プロセス登録の必須項目である「システム」と「起票者」と「エスカレーション先」は固定値 (SSM 初期システム、SSM) をセット、「SSM のタイトル」と「経過 1 のタイトル」はメールの subject をセット、「SSM のテキスト 6」と「経過 1 の内容」はメールの本文をセット、添付ファイルがある場合には「経過 1 の経過添付ファイル」に添付ファイルをセットしてプロセスとして登録する例です。

この場合のルールは以下のように記述できます。

- 準備
 - SSM DB サーバーを設定する
 - Senju Service Manager 連携アダプタを起動する



「データ種別 ID」は、Senju Service Manager における「画面 ID」のことを指します。

詳細については Senju Service Manager のマニュアルを参照して下さい。



“SSMDBSV”には、コンフィグレータで設定した Senju Service Manager 連携のドメイン名を設定して下さい。

使用ステージ :	イベントの解析-1
ルール条件 1 :	カレントイベントクラス : “メールメッセージ” 条件式 : なし
アクション :	<pre>//このルールを実行する際には //Senju Service Managerの接続情報 (SSM DBサーバー名等) //をSENコンフィグレータにて登録しておくこと。 //デフォルトシステム var DefaultSys = "SSM初期システム"; //デフォルト起票者、エスカレーション先名 var DefaultSend = "SSM"; //プロパティ“メール本文”、“Subject:” (件名) の値を取得する var mailsubject = currentEvent.prop("Subject:"); var mailbody = currentEvent.prop("メール本文"); //プロセス登録 var fields = new Array; // SSM連携用配列宣言 var vals = new Array; // SSM連携用配列宣言 fields.push("データ種別ID"); vals.push("01000001"); fields.push("システム"); vals.push(DefaultSys);</pre>

```
fields.push("起票者");
vals.push(DefaultSend);

fields.push("エスカレーション先");
vals.push(DefaultSend);

fields.push("タイトル");
vals.push(mailsubject);

fields.push("テキスト6");
vals.push(mailbody);

fields.push("経過タイトル");
vals.push(mailsubject);

fields.push("経過内容");
vals.push(mailbody);

fields.push("登録モード");
vals.push("001");

//添付ファイルを全て追加する
if (currentEvent.numOfFields("添付ファイルリスト") > 0) {
    var fileArray = new Array();
    for ( idx = 0 ; idx<currentEvent.numOfFields("添付ファイルリスト") ; ++idx ) {
        fields.push("経過添付ファイル");
        vals.push(currentEvent.prop2("添付ファイルリスト",
idx).prop("出力ファイル名"));
    }
}

//"SSMDBSV"には、コンフィグレータで設定した Senju Service Manager
連携のドメイン名を設定して下さい
var pd = globalContext.getProducer( "SSMDBSV", null );
var execResult = pd.spAsyncSendEvent( "プロセス管理", fields,
vals, null, "SSMプロセス登録実行結果" );
```

5.3.1.16 受信メールをプロセスまたはイベント登録する

メールを受信した場合に、メールの内容を基にして Senju Service Manager に対してプロセス、またはイベント管理のイベントとして登録する方法を説明します。

- 利用シーン

トラブルが発生した旨のメールを受信し、メールの宛先ごとに紐付けられた登録者情報をファイルより取得し、メール内容に付加してプロセスとして登録する。登録者情報の該当データがファイルにない場合はイベント管理のイベントとして登録する。

- 受信メールをプロセス、またはイベントとして登録する

メールを受信した場合、プロセス登録の必須項目である「システム」と「起票者」と「エスカレーション先」は「宛先メールアドレス(To)」をキーにしてあらかじめ作成しておいた登録者情報ファイルより取得し、プロセスとして登録する。登録者情報ファイルに該当するデータがなかった場合にはイベント管理のイベントとして登録する。登録者情報ファイルが存在しない場合、ログにエラーを出力し、プロセスおよびイベントの登録を行わない。

この場合のルールは以下のように記述できます。

- 準備

- SSM DB サーバーを設定する
- 登録者情報ファイルを作成する
- Senju Service Manager 連携アダプタを起動する

登録者情報ファイル

- 解説:

- 受信メールの宛先メールアドレス(To:)と、リストの[*To]でマッチングを行ない、マッチしたリストのシステム・起票者・エスカレーション先を取得する。

- レイアウト:

宛先メールアドレス (To:)	マッチングキー 指定した文字列との完全一致で true
カンマ (半角)	","
システム	Senju Service Manager のシステム名を指定
カンマ (半角)	","
起票者	Senju Service Manager のユーザーID
カンマ (半角)	","
エスカレーション先	Senju Service Manager のユーザーID 複数指定の場合は、";" (セミコロン) で区切る

- ファイル内容サンプル:

```
[*To], [システム], [起票者], [エスカレーション先]
user@A-System.com, A システム, Auser, Auser
user2@A-System.com, A システム, Auser2, Auser2
user@B-System.com, B システム, Buser, Buser
user@C-System.com, C システム, Cuser, Cuser ;Cuser2
```

- 備考:

- リストの項目の追加、並び順を変更した場合にはルールの変更が必要です。



「システム」と「起票者」の整合性を合わせて下さい。対象システムの職責を持たない「起票者」で登録した場合、その「起票者」での登録されたプロセスは、参照、更新不可となります。(検索対象となりません)。もし上記の状態となった場合は、そのシステムの職責も持った、ユーザーで対象のプロセスを修正して下さい(起票者の修正は不可ですが、システム名の変更は可能)。



「データ種別 ID」は、Senju Service Manager における「画面 ID」のことを指します。詳細については Senju Service Manager のマニュアルを参照して下さい。

グローバル定義 :	<pre>//登録者情報ファイル var registRdFile = "C:¥¥Program Files¥¥SEN¥¥Server¥¥dat¥¥enb¥¥wtable¥¥Regist_info.txt"; //プロセス管理、イベント管理 var direct = "プロセス管理"; var candidate = "イベント管理"; //マルチラインテキスト項目の場合の文字数を制限する function string_edit_process(msgstr, lmt) { //メッセージのバイト数を lmt byte以下に制限 var len = 0; var iCode; for(idx=0;idx<msgstr.length;idx++){ iCode = msgstr.charCodeAt(idx); if((iCode>=0 && iCode<=255) (iCode>=0xff61 && iCode<=0xff9f)) { len += 1; }else{ len += 2; } if (len > lmt) { return msgstr.substr(0, idx) + "¥r¥n" + " (以下のメ ッセージは省略されました) "; break; } } return msgstr; }</pre>
-----------	---

使用ステー ジ :	イベントの解析-1
ルール条件 1 :	カレントイベントクラス : "メールメッセージ" 条件式 : なし
アクション :	<pre>//このルールを実行する際には //Senju Service Managerの接続情報 (SSM DBサーバー名等) //をSENコンフィグレータにて登録しておくこと。 //登録者情報ファイルを作成しておくこと。 //イベントに関連付けるユーザー変数定義 currentEvent.uv("登録フラグ") = "";</pre>

```

currentEvent.uv("登録用起票者") = "";
currentEvent.uv("登録用システム") = "";
currentEvent.uv("登録用エスカレーション先") = "";
currentEvent.uv("送信元アドレス") = "";

//送信元アドレスの取得
var MailFrom = currentEvent.prop("From:");
if (MailFrom.indexOf("¥<") != -1 && MailFrom.indexOf("¥>") != -1) {
    var sfpos = MailFrom.indexOf("¥<") + 1;
    var efpos = MailFrom.indexOf("¥>");
    MailFrom = MailFrom.substring(sfpos, efpos);
}
currentEvent.uv("送信元アドレス") = MailFrom;

//To取得
var MailTo = new Array; //メールの宛先 (To)
for ( idx = 0 ; idx<currentEvent.numOfFields("To:"); ++idx ) {
    MailTo[idx] = currentEvent.prop2("To:", idx);
    if (MailTo[idx].indexOf("¥<") != -1 &&
        MailTo[idx].indexOf("¥>") != -1) {
        var stpos = MailTo[idx].indexOf("¥<") + 1;
        var etpos = MailTo[idx].indexOf("¥>");
        MailTo[idx] = MailTo[idx].substring(stpos, etpos);
    }
}

//登録者情報ファイルを全て読み込む
var rgst_rc; //1行のデータ
var rgst_splrc; //1行のデータを項目ごとに区切った配列
var rgst_to = new Array; //宛先メールアドレス (To)
var rgst_kihyou = new Array; //登録用起票者
var rgst_system = new Array; //登録用システム
var rgst_esca = new Array; //登録用エスカレーション先
var rgst_file_found = true; //必須登録情報ファイルの有無

//FileSystemObjectのインスタンスを生成
var fso =
globalContext.createObject("Scripting.FileSystemObject", null);
if (fso.FileExists(registRdFile)) {
    var dt = fso.OpenTextFile(registRdFile, 1);
    var rgst_j = 0;
    do {
        rgst_rc = dt.ReadLine(); //1行読み込む
        rgst_rc = rgst_rc.replace(/¥/g, ""); //「¥」(ダブルク
ウオート)を一括削除
        rgst_splrc = rgst_rc.split(","); //「,」(カンマ)ごとに
項目に分ける
        //ヘッダ情報以外のデータ取得
        if ( rgst_splrc[1].indexOf("¥[" ) == -1 ) {
            rgst_to[rgst_j] = rgst_splrc[0];
            rgst_system[rgst_j] = rgst_splrc[1];
            rgst_kihyou[rgst_j] = rgst_splrc[2];
            rgst_esca[rgst_j] = rgst_splrc[3];
            rgst_j++;
        }
    } while (dt.AtEndOfStream==false);
    dt.Close();
    dt = null;
}

```

```

} else {
    //ファイルが見つからなかった場合、ログにエラーレベル3で出力
    globalContext.outputToLogFile( 3, "登録者情報ファイルが見つかりません: " + registRdFile );
    rgst_file_found = false;
}

//登録者情報ファイルから、宛先メールアドレスに対応した
//必須項目のデータ（起票者・システム・エスカレーション先）を取得する
var Direct_Flag = false; //ファイルにマッチした情報があったか否か
for (i=0;i<MailTo.length;i++) {
    for (j=0;j<rgst_to.length;j++) {
        if ( MailTo[i] == rgst_to[j] ) {
            currentEvent.uv("登録用起票者") = rgst_kihyou[j];
            currentEvent.uv("登録用システム") = rgst_system[j];
            currentEvent.uv("登録用エスカレーション先") =
rgst_esca[j];
            Direct_Flag = true; //ファイルにマッチした情報があり
            break;
        }
    }
    if ( Direct_Flag == true ) {
        //既にマッチした情報がある場合にはループを抜ける
        break;
    }
}

//ファイルのデータ取得できたら、各種送信処理を行う
if ( rgst_file_found == true ) {
    if ( Direct_Flag == true ) {
        currentEvent.uv("登録フラグ") = direct; //プロセス管理
    } else {
        currentEvent.uv("登録フラグ") = candidate; //イベント管理
    }
} else {
    currentEvent.uv("登録フラグ") = "regist_file is not found!";
}

```



“SSMDBSV”には、コンフィグレータで設定した Senju Service Manager 連携のドメイン名を設定して下さい。

使用ステージ :	イベントの解析-1
ルール条件 1 :	カレントイベントクラス : “メールメッセージ” 条件式 : currentEvent.uv(“登録フラグ”) == direct currentEvent.uv(“登録フラグ”) == candidate
アクション :	//発生日時より年月日を取得 var sendDate = currentEvent.prop(“発生日時”).substr(0, 4) + currentEvent.prop(“発生日時”).substr(5, 2) + currentEvent.prop(“ 発生日時”).substr(8, 2); //発生日時より時刻を取得 var sendTime = currentEvent.prop(“発生日時”).substr(11, 2) +

```
currentEvent.prop("発生日時").substr(14,2);

//Subjectより80文字をタイトルとして取得
var title = currentEvent.prop("Subject:").substr(0,80);

//タイトルに「'」または「”」が含まれる場合は削除
title = title.replace(/'/g,"");
title = title.replace(/"/g,"");

//To取得
var toHeaderStr = "";
for ( idx = 0 ; idx<currentEvent.numOfFields("To:") ; ++idx ) {
    if (idx >= 1) {
        toHeaderStr += ",";
    }
    toHeaderStr += currentEvent.prop2("To:", idx);
}

//Cc取得
var ccHeaderStr = "";
if (currentEvent.numOfFields("Cc:") > 0) {
    for ( idx = 0 ; idx<currentEvent.numOfFields("Cc:") ;
    ++idx ) {
        if (idx >= 1) {
            ccHeaderStr += ",";
        }
        ccHeaderStr += currentEvent.prop2("Cc:", idx);
    }
} else {
    ccHeaderStr = "";
}

//内容文生成
var msg = "《受信日時》 ¥r¥n " + currentEvent.prop("発生日時") +
"¥r¥n"
        + "《From》 ¥r¥n " + currentEvent.prop("From:") +
"¥r¥n"
        + "《To》 ¥r¥n " + toHeaderStr + "¥r¥n"
        + "《Cc》 ¥r¥n " + ccHeaderStr + "¥r¥n"
        + "《Subject》 ¥r¥n " + currentEvent.prop("Subject:")
+ "¥r¥n"
        + "《メール本文》 ¥r¥n " + currentEvent.prop("メール
本文") + "¥r¥n¥r¥n";

//内容文の文字数を制限する
msg = string_edit_process(msg, 3960);

//転送用：項目・内容を変数へ登録
var fields = new Array;
var vals = new Array;

fields.push("データ種別ID");
if (currentEvent.uv("登録フラグ") == direct) {
    vals.push("01000001");
} else {
    vals.push("03000001");
}

fields.push("タイトル");
```

```
vals.push(title);

fields.push("テキスト6");
vals.push(msg);

fields.push("経過タイトル");
vals.push(title);

fields.push("経過内容");
vals.push(msg);

fields.push("起票日");
vals.push(sendDate);

fields.push("起票時刻");
vals.push(sendTime);

fields.push("登録モード");
vals.push("001");

if ( currentEvent.uv("登録フラグ") == direct ) {
    //プロセス管理の場合
    fields.push("起票者");
    vals.push(currentEvent.uv("登録用起票者"));

    fields.push("システム");
    vals.push(currentEvent.uv("登録用システム"));

    var esca_array = currentEvent.uv("登録用エスカレーション先")
    .split(";");
    for ( idx = 0; idx<esca_array.length; ++idx ) {
        fields.push("エスカレーション先");
        vals.push(esca_array[idx]);
    }
}else{
    //イベント管理の場合
    fields.push("送信元アドレス");
    vals.push(currentEvent.uv("送信元アドレス"));
}

//添付ファイルを全て追加する
if (currentEvent.numOfFields("添付ファイルリスト") > 0) {
    var fileArray = new Array();
    for ( idx = 0 ; idx<currentEvent.numOfFields("添付ファイルリスト") ; ++idx ) {
        fields.push("経過添付ファイル");
        vals.push(currentEvent.prop2("添付ファイルリスト",
idx).prop("出力ファイル名"));
    }
}

//"SSMDBSV"は、コンフィグレータで設定した Senju Service Manager 連携のドメイン名を設定して下さい
var pd = globalContext.getProducer( "SSMDBSV", null );
var execResult = pd.spAsyncSendEvent( currentEvent.uv("登録フラグ"), fields, vals, null, "SSM" + currentEvent.uv("登録フラグ") + "登録実行結果" );
```

5.3.1.17 受信メールをプロセスの経過情報に自動追加する

Senju Service Manager のプロセス詳細画面から「メール送信機能」により送信されたメールに対し返信を行った場合に、メール送信したプロセスに返信メールの内容を自動経過追加する方法を説明します。

● 利用シーン

ユーザーからの問合せメールを受信した際、メールの宛先ごとに紐付けられた登録者情報をファイルより取得し、メール内容に付加してイベント管理のイベントとして登録する。

Senju Service Manager 上でイベント管理のイベントをプロセスとして登録し、プロセスのメール送信機能を利用してユーザーに回答メールを返信する。

回答メールに対しユーザーから再度問合せなどの返信があった場合、返信メールの内容を対象プロセスの経過情報に自動登録する。

自動登録する際、対象プロセスが存在しない場合はイベント管理のイベントとして登録する。



経過情報への自動追加はプロセスの「メール送信機能」を利用して送信したメールに対する返信のみとなります。
返信したユーザーからのメールであっても、新規メールおよび「メール送信機能」により送信したメール以外に対する返信メールは自動追加されません。



返信メールのメールヘッダがユーザーによって変更された場合、経過情報の自動追加は行われない場合があります。



「データ種別 ID」は、Senju Service Manager における「画面 ID」のことを指します。詳細については Senju Service Manager のマニュアルを参照して下さい。



経過情報への自動追加(登録モード：113)を指定した場合、指定できるデータ種別 ID は「01000001」のみとなります。

● 受信メールをプロセスの経過情報に自動追加する

メールを受信した場合、メールヘッダの References 情報を解析し自動経過追加対象のプロセスを検索し、経過追加する。References 情報が存在しない場合もしくは対象プロセスがない場合はイベント管理のイベントとして登録する。

上記の処理はフィールド名「登録モード」に「113」を指定することで実行する。

この場合のルールは以下のように記述できます。

● 準備

- SSM DB サーバーを設定する

➤ Senju Service Manager 連携アダプタを起動する

グローバル定義 :	<pre>//マルチラインテキスト項目の場合の文字数を制限する function string_edit_process(msgstr, lmt) { //メッセージのバイト数を lmt byte以下に制限 var len = 0; var iCode; for(idx=0;idx<msgstr.length;idx++){ iCode = msgstr.charCodeAt(idx); if((iCode>=0 && iCode<=255) (iCode>=0xff61 && iCode<=0xff9f)) { len += 1; }else{ len += 2; } if (len > lmt) { return msgstr.substr(0, idx) + "¥r¥n" + " (以下のメ ッセージは省略されました) "; break; } } return msgstr; } //マルチラインテキスト項目の場合の文字数を制限する function string_edit_process(msgstr, lmt) { //メッセージのバイト数を lmt byte以下に制限 var len = 0; var iCode; for(idx=0;idx<msgstr.length;idx++){ iCode = msgstr.charCodeAt(idx); if((iCode>=0 && iCode<=255) (iCode>=0xff61 && iCode<=0xff9f)) { len += 1; }else{ len += 2; } if (len > lmt) { return msgstr.substr(0, idx) + "¥r¥n" + " (以下のメ ッセージは省略されました) "; break; } } return msgstr; } //ToとCcのヘッダをつなげた一文を取得する関数 function takeHeader(key) { var headerStr = ""; for (idx = 0 ; idx<currentEvent.numOfFields(key) ; ++idx) { if (idx >= 1) { headerStr += " "; } headerStr += currentEvent.prop2(key, idx); } return headerStr; } }</pre>
-----------	---



“SSMDBSV”には、コンフィグレータで設定した Senju Service Manager 連携のドメイン名を設定して下さい。

使用ステージ :	イベントの解析-1
ルール条件 1 :	カレントイベントクラス : “メールメッセージ” 条件式 : なし
アクション :	<pre>//発生日時より年月日を取得 var sendDate = currentEvent.prop("発生日時").substr(0, 4) + currentEvent.prop("発生日時").substr(5, 2) + currentEvent.prop(" 発生日時").substr(8, 2); //発生日時より時刻を取得 var sendTime = currentEvent.prop("発生日時").substr(11, 2) + currentEvent.prop("発生日時").substr(14, 2); //Subjectより80文字をタイトルとして取得 var title = currentEvent.prop("Subject:").substr(0, 80); //タイトルに「'」または「”」が含まれる場合は削除 title = title.replace(/'/g, ""); title = title.replace(/"/g, ""); //To取得 var toHeaderStr = ""; toHeaderStr = takeHeader("To:"); //Cc取得 var ccHeaderStr = ""; ccHeaderStr = takeHeader("Cc:"); //内容文生成 var msg = "《受信日時》 ¥r¥n " + currentEvent.prop("発生日時") + "¥r¥n" + "《From》 ¥r¥n " + currentEvent.prop("From:") + "¥r¥n" + "《To》 ¥r¥n " + toHeaderStr + "¥r¥n" + "《Cc》 ¥r¥n " + ccHeaderStr + "¥r¥n" + "《Subject》 ¥r¥n " + currentEvent.prop("Subject:") + "¥r¥n" + "《メール本文》 ¥r¥n " + currentEvent.prop("メール 本文") + "¥r¥n¥r¥n"; //Referencesの値を取得する var idx; var refItem = ""; for (idx = 0 ; idx<currentEvent.numOfFields("References:") ; ++idx) { refItem = currentEvent.prop2("References:", idx); // 1つ目のReferences情報のみ取得 break; } //送信元アドレスの取得 var MailFrom = currentEvent.prop("From:"); var MailFromName = " "; if (MailFrom.indexOf("<") != -1 && MailFrom.indexOf(">") != -</pre>


```
1) {
    var sfnpos = 0;
    var efnpos = MailFrom.indexOf("¥<");
    MailFromName = MailFrom.substring(sfnpos, efnpos);

    var sfpos = MailFrom.indexOf("¥<") + 1;
    var efpos = MailFrom.indexOf("¥>");
    MailFrom = MailFrom.substring(sfpos, efpos);
}

//内容文の文字数を制限する
msg = string_edit_process(msg, 3960);

//転送用：項目・内容を変数へ登録
var fields = new Array;
var vals = new Array;

fields.push("データ種別ID");
vals.push("01000001");

fields.push("タイトル");
vals.push(title);

fields.push("テキスト6");
vals.push(msg);

fields.push("起票日");
vals.push(sendDate);

fields.push("起票時刻");
vals.push(sendTime);

fields.push("経過タイトル");
vals.push(title);

fields.push("経過内容");
vals.push(msg);

fields.push("経過対応日");
vals.push(sendDate);

fields.push("経過対応時刻");
vals.push(sendTime);

fields.push("送信元");
vals.push(MailFromName);

fields.push("送信元アドレス");
vals.push(MailFrom);

fields.push("申請者メールアドレス");
vals.push(currentEvent.prop("From:"));

fields.push("経過FROM");
vals.push(currentEvent.prop("From:"));

fields.push("経過TO");
vals.push(toHeaderStr);
```

```
fields.push("経過CC");
vals.push(ccHeaderStr);

fields.push("経過追加条件");
vals.push(refItem);

//添付ファイルを全て追加する
if (currentEvent.numOfFields("添付ファイルリスト") > 0) {
    var fileArray = new Array();
    for ( idx = 0 ; idx<currentEvent.numOfFields("添付ファイルリ
スト") ; ++idx ) {
        fields.push("経過添付ファイル");
        vals.push(currentEvent.prop2("添付ファイルリスト",
idx).prop("出力ファイル名"));
    }
}

fields.push("登録モード");
vals.push("113");

//"SSMDBSV"は、コンフィグレータで設定したSenju Service Manager連
携のドメイン名を設定して下さい
var pd = globalContext.getProducer("SSMDBSV", null);
var execResult = pd.spAsyncSendEvent("プロセス管理", fields,
vals, null, "SSM" + "プロセス管理" + "登録実行結果");
```

5.3.1.18 コンソールへメッセージボックスを表示する

ある条件のイベントを受信した場合に、SEN コンソールにメッセージボックスを表示するケースです。たとえば、管理者への通知が必要なイベントを受信したときに、SEN コンソールにメッセージボックスをポップアップ表示させるような例が考えられます。

- SEN コンソールへのメッセージボックス表示(サーバルール)

イベントの重大度(eventSeverity)プロパティの値が”major”(=4)または”critical”(=5)の場合に、SEN コンソールにメッセージボックスを表示する例です。

この場合のルールは以下のように記述できます。

使用ステージ :	アクションの実行-1
ルール条件 1 :	カレントイベントクラス : “メッセージ” 条件式 : currentEvent.eventSeverity == 4 currentEvent.eventSeverity == 5
アクション :	globalContext.outputToSENConsole(“SEN_GROUP”, “Fatal error occurred!”);

- SEN コンソールへのメッセージボックス表示(コンソールルール)

上記と同様のことをコンソールルールによっても実現できます。ただし、コンソールルールはグループ別のルールのみ指定することができます。

この場合のルールは以下のように記述できます。

- 準備
 - ユーザーグループ“SEN_GROUP”を作成する

グループ :	SEN_GROUP
ルール記述 :	<pre> if (currentEvent.isInstanceOf(“メッセージ”)) { if (currentEvent.eventSeverity == 4 currentEvent.eventSeverity == 5) { clientContext.displayMessage(“Fatal error occurred!”); } } </pre>

5.3.1.19 コンソールへ警報音を通知する

ある条件のイベントを受信した場合に、SEN コンソール上で警報音(パトランプ、ビーブ音、サウンド)を鳴動するケースです。たとえば、管理者への通知が必要なイベントを受信したときに、パトランプを鳴動するような例が考えられます。

- SEN コンソールでのパトランプ鳴動 (コンソールルール)

イベントの重大度(eventSeverity)プロパティの値が”major”(=4)または”critical”(=5)の場合に、SEN コンソールに接続されたパトランプを鳴動させる例です。

この場合のルールは以下のように記述できます。

- 準備
 - ユーザーグループ“SEN_GROUP”を作成する

グループ :	SEN_GROUP
ルール記述 :	<pre>if (currentEvent.isInstanceOf("メッセージ")) { if (currentEvent.eventSeverity == 4 currentEvent.eventSeverity == 5) { clientContext.patLamp.active = true; } }</pre>

- SEN コンソールでのビーブ音鳴動 (コンソールルール)

イベントの重大度(eventSeverity)プロパティの値が”major”(=4)または”critical”(=5)の場合に、SEN コンソールでビーブ音を繰り返し鳴動させる例です。

この場合のルールは以下のように記述できます。

- 準備
 - ユーザーグループ“SEN_GROUP”を作成する

グループ :	SEN_GROUP
ルール記述 :	<pre>if (currentEvent.isInstanceOf("メッセージ")) { if (currentEvent.eventSeverity == 4 currentEvent.eventSeverity == 5) { clientContext.messageBeep(-1, true); } }</pre>

- SEN コンソールでのサウンド再生(コンソールルール)

イベントの重大度(eventSeverity)プロパティの値が”major”(=4)または”critical”(=5)の場合に、SEN コンソールでサウンドファイルを再生させる例です。この場合は、メニューの警報装置設定で指定されたデフォルトのサウンドファイルが1回だけ再生されます。

この場合のルールは以下のように記述できます。

- 準備
 - ユーザーグループ“SEN_GROUP”を作成する

グループ :	SEN_GROUP
ルール記述 :	<pre>if (currentEvent.isInstanceOf("メッセージ")) { if (currentEvent.eventSeverity == 4 currentEvent.eventSeverity == 5) { clientContext.playSound("", false); } }</pre>

5.3.1.20 色定義を行う

グローバル定義にルールの中で共通に参照するような色を定義しておく、これらをルール条件やルールアクションの中で呼び出す事ができます。

- 色定義のサンプル

グローバル関数・変数定義 :	<pre> var ALICEBLUE = (255<<16) + (247<<8) + (239); var ANTIQUEWHITE = (210<<16) + (232<<8) + (249); var AQUAMARINE = (186<<16) + (183<<8) + (67); var BLACK = (23<<16) + (5<<8) + (21); var BLANCHEDALMOND = (198<<16) + (232<<8) + (254); var BLUE = (255<<16) + (53<<8) + (21); var BLUEVIOLET = (223<<16) + (49<<8) + (121); var BROWN = (23<<16) + (5<<8) + (152); var CADETBLUE = (147<<16) + (134<<8) + (87); var CORAL = (65<<16) + (101<<8) + (247); var CORNFLOWERBLUE = (141<<16) + (27<<8) + (21); var CYAN = (255<<16) + (254<<8) + (87); var DARKGOLDENROD = (23<<16) + (120<<8) + (175); var DARKGREEN = (23<<16) + (65<<8) + (37); var DARKKHAKI = (89<<16) + (173<<8) + (183); var DARKLIVEGREEN = (23<<16) + (65<<8) + (74); var DARKORANGE = (23<<16) + (128<<8) + (248); var DARKORCHID = (126<<16) + (27<<8) + (125); var DARKSALMON = (107<<16) + (139<<8) + (225); var DARKSEAGREEN = (129<<16) + (179<<8) + (139); var DARKSLATEBLUE = (86<<16) + (56<<8) + (43); var DARKSLATEGRAY = (60<<16) + (56<<8) + (37); var DARKSLATEGREY = (60<<16) + (56<<8) + (37); var DARKTURQUOISE = (156<<16) + (156<<8) + (59); var DARKVIOLET = (206<<16) + (45<<8) + (132); var DEEPPINK = (135<<16) + (40<<8) + (245); var DEEPSKYBLUE = (255<<16) + (185<<8) + (59); var DIMGRAY = (65<<16) + (62<<8) + (70); var DIMGREY = (65<<16) + (62<<8) + (70); var DODGERBLUE = (255<<16) + (137<<8) + (21); var FIREBRICK = (23<<16) + (5<<8) + (128); var FLORALWHITE = (238<<16) + (249<<8) + (255); var FORESTGREEN = (88<<16) + (146<<8) + (78); var GHOSTWHITE = (255<<16) + (247<<8) + (247); var GOLD = (23<<16) + (160<<8) + (212); var GOLDENROD = (116<<16) + (218<<8) + (237); var GRAY = (110<<16) + (111<<8) + (115); var GREEN = (23<<16) + (251<<8) + (95); var GREENYELLOW = (23<<16) + (251<<8) + (177); var GREY = (110<<16) + (111<<8) + (115); var HOTPINK = (171<<16) + (96<<8) + (246); var INDIANRED = (23<<16) + (34<<8) + (94); var KHAKI = (110<<16) + (169<<8) + (173); var LAVENDERBLUSH = (244<<16) + (238<<8) + (253); var LAWNGREEN = (23<<16) + (247<<8) + (135); var LEMONCHIFFON = (198<<16) + (248<<8) + (255); var LIGHTBLUE = (255<<16) + (223<<8) + (173); var LIGHTCORAL = (113<<16) + (116<<8) + (231); var LIGHTCYAN = (255<<16) + (255<<8) + (224); var LIGHTGOLDENROD = (114<<16) + (216<<8) + (236); </pre>
----------------	---

```
var LIGHTGOLDENRODYELLOW = (204<<16) + (248<<8) + (250);
var LIGHTGRAY = (157<<16) + (159<<8) + (160);
var LIGHTGREY = (157<<16) + (159<<8) + (160);
var LIGHTPINK = (186<<16) + (175<<8) + (250);
var LIGHTSALMON = (107<<16) + (150<<8) + (249);
var LIGHTSEAGREEN = (159<<16) + (169<<8) + (62);
var LIGHTSKYBLUE = (250<<16) + (202<<8) + (130);
var LIGHTSLATEBLUE = (255<<16) + (106<<8) + (115);
var LIGHTSLATEGRAY = (141<<16) + (123<<8) + (109);
var LIGHTSLATEGREY = (141<<16) + (123<<8) + (109);
var LIGHTSTEELBLUE = (206<<16) + (143<<8) + (114);
var LIGHTYELLOW = (220<<16) + (254<<8) + (255);
var LIMEGREEN = (23<<16) + (163<<8) + (65);
var MAGENTA = (255<<16) + (62<<8) + (244);
var MAROON = (65<<16) + (5<<8) + (129);
var MEDIUMAQUAMARINE = (129<<16) + (135<<8) + (52);
var MEDIUMBLUE = (198<<16) + (45<<8) + (21);
var MEDIUMFORESTGREEN = (53<<16) + (114<<8) + (52);
var MEDIUMGOLDENROD = (84<<16) + (185<<8) + (204);
var MEDIUMORCHID = (181<<16) + (72<<8) + (176);
var MEDIUMPURPLE = (215<<16) + (103<<8) + (132);
var MEDIUMSEAGREEN = (84<<16) + (103<<8) + (48);
var MEDIUMSLATEBLUE = (128<<16) + (90<<8) + (94);
var MEDIUMSPRINGGREEN = (23<<16) + (128<<8) + (52);
var MEDIUMTURQUOISE = (205<<16) + (204<<8) + (72);
var MEDIUMVIOLETRED = (107<<16) + (34<<8) + (202);
var MIDNIGHTBLUE = (84<<16) + (27<<8) + (21);
var MINTCREAM = (249<<16) + (255<<8) + (245);
var MISTYROSE = (221<<16) + (225<<8) + (253);
var NAVAJOWHITE = (163<<16) + (218<<8) + (253);
var NAVY = (103<<16) + (5<<8) + (21);
var NAVYBLUE = (103<<16) + (5<<8) + (21);
var OLDLACE = (226<<16) + (243<<8) + (252);
var OLIVEDRAB = (23<<16) + (128<<8) + (101);
var ORANGE = (23<<16) + (122<<8) + (248);
var ORANGERED = (23<<16) + (56<<8) + (246);
var ORCHID = (237<<16) + (125<<8) + (229);
var PALEGOLDENROD = (158<<16) + (228<<8) + (237);
var PALEGREEN = (103<<16) + (216<<8) + (121);
var PALETURQUOISE = (236<<16) + (235<<8) + (174);
var PALEVIOLETRED = (135<<16) + (101<<8) + (209);
var PAPAYAWHIP = (207<<16) + (236<<8) + (254);
var PEACHPUFF = (176<<16) + (213<<8) + (252);
var PINK = (190<<16) + (175<<8) + (250);
var PLUM = (143<<16) + (59<<8) + (185);
var POWDERBLUE = (227<<16) + (220<<8) + (173);
var RED = (23<<16) + (34<<8) + (246);
var ROSYBROWN = (129<<16) + (132<<8) + (179);
var ROYAL = (222<<16) + (96<<8) + (43);
var SADDLEBROWN = (23<<16) + (49<<8) + (126);
var SALMON = (107<<16) + (139<<8) + (225);
var SANDYBROWN = (77<<16) + (154<<8) + (238);
var SEAGREEN = (117<<16) + (137<<8) + (78);
var SIENNA = (23<<16) + (65<<8) + (138);
var SKYBLUE = (255<<16) + (152<<8) + (102);
var SLATEBLUE = (161<<16) + (124<<8) + (115);
var SLATEGRAY = (131<<16) + (115<<8) + (101);
var SLATEGREY = (131<<16) + (115<<8) + (101);
var SPRINGGREEN = (44<<16) + (160<<8) + (74);
```

```
var STEELBLUE = (160<<16) + (99<<8) + (72);  
var TAN = (121<<16) + (175<<8) + (216);  
var THISTLE = (211<<16) + (185<<8) + (210);  
var TRANSPARENT = (23<<16) + (5<<8) + (21);  
var TURQUOISE = (219<<16) + (198<<8) + (67);  
var VIOLET = (201<<16) + (56<<8) + (141);  
var VIOLETRED = (138<<16) + (53<<8) + (233);  
var WHEAT = (169<<16) + (218<<8) + (243);  
var WHITE = (255<<16) + (255<<8) + (255);  
var WHITESMOKE = (243<<16) + (244<<8) + (244);  
var YELLOW = (23<<16) + (252<<8) + (255);  
var YELLOWGREEN = (23<<16) + (208<<8) + (82);
```


5.3.1.21 タグ値をコンソールのメッセージボックスへ表示する

ある条件の千手メッセージを受信した場合に、タグ値を取得し SEN コンソールにメッセージボックスを表示するケースです。たとえば、管理者への通知が必要なイベントを受信したときに、SEN コンソールにメッセージボックスをポップアップ表示させるような例が考えられます。

- SEN コンソールへのメッセージボックス表示(サーバールール)

千手メッセージのメッセージ種別の値が”障害”(=”E”)の場合に、タグ値を取得し SEN コンソールにメッセージボックスを表示する例です。

この場合のルールは以下のように記述できます。

使用ステージ :	アクションの実行-1
ルール条件 1 :	カレントイベントクラス : ”千手メッセージ” 条件式 : currentEvent. prop(”メッセージ種別”) == ”E”
アクション :	<pre>try { var Obj = currentEvent.getTagByKey("NodeInfo.ipAddress"); var nodeIP = Obj.prop("タグ値"); globalContext.outputToSENConsole("SEN_GROUP", "ERR " + currentEvent.prop("発生元ノードID") + "(" + nodeIP + ")"); } catch (e) { // IPアドレス取得エラー globalContext.outputToSENConsole("SEN_GROUP", "ERR " + currentEvent.prop("発生元ノードID")); }</pre>

- SEN コンソールへのメッセージボックス表示(コンソールルール)

上記と同様のことをコンソールルールによっても実現できます。ただし、コンソールルールはグループ別のルールのみ指定することができます。

この場合のルールは以下のように記述できます。

- 準備
 - ユーザーグループ”SEN_GROUP”を作成する

グループ :	SEN_GROUP
ルール記述 :	<pre>if (currentEvent instanceof("千手メッセージ")) { if (currentEvent. prop("メッセージ種別") == "E") { try { var Obj = currentEvent.getTagByKey("NodeInfo.ipAddress"); var nodeIP = Obj.prop("タグ値"); clientContext. displayMessage ("ERR " + currentEvent.prop("発生元ノードID") + "(" + nodeIP + ")"); } catch (e) {</pre>

```
// IPアドレス取得エラー
clientContext.displayMessage(
    "ERR " + currentEvent.prop("発生元ノードID")
);
}
}
}
```

6 資料集

6

資料集

6	資料集	6-1
6.1	メッセージ一覧	6-5
6.1.1	内部イベント	6-5
6.1.2	メールメッセージ	6-13
6.1.3	SNMP トラップメッセージ	6-13
6.1.4	シスログメッセージ	6-13
6.1.5	savic-netEVmodel30 メッセージ	6-13
6.1.6	nmAcos アダプタメッセージ	6-14
6.1.7	メール送信メッセージ	6-14
6.1.8	電話呼出メッセージ	6-14
6.2	制限事項	6-15
6.3	トラブルシューティング	6-22
6.4	構成プロセス一覧	6-26
6.5	SENJU SERVICE AUTOMATION の実行結果	6-28
6.6	コマンドリファレンス	6-32
6.6.1	イベント送信コマンド	6-32
6.6.2	Telnet 連携コマンド	6-43
6.6.3	イベントファイル変換コマンド	6-45
6.6.4	UUID 作成コマンド	6-48
6.7	システム提供のアクションテンプレート	6-49
6.7.1	Senju/SM に登録する	6-50
6.7.1.1	SenjuSM 連携_インシデント登録	6-50
6.7.1.2	SenjuSM 連携_サービス要求登録	6-52
6.7.1.3	SenjuSM 連携_変更登録	6-54
6.7.1.4	SenjuSM 連携_問題登録	6-56
6.7.1.5	SenjuSM 連携_アクション実行結果取得	6-58
6.7.2	イベントをファイル出力する	6-59
6.7.2.1	イベント出力_CSV ファイル	6-63
6.7.2.2	イベント出力_Excel ファイル	6-65
6.7.3	メールを送信する	6-67
6.7.3.1	メール送信連携_メール送信	6-67
6.7.4	メールの内容を表示する	6-69
6.7.4.1	メール受信連携_アウトプットビュー出力	6-69
6.7.5	メインペインを操作する	6-71
6.7.5.1	メインペイン操作_アイテム点滅	6-71
6.7.5.2	メインペイン操作_リストレコード追加	6-73
6.7.6	対応不要のイベントのステータスを「対処完了」に変更する	6-75
6.7.6.1	千手メッセージフィルタ_正規表現指定	6-75

6.7.6.2	千手メッセージフィルタ_オペレーション指示.....	6-77
6.7.6.3	千手メッセージフィルタ_メール通知.....	6-79
6.7.6.4	千手メッセージフィルタ_開始終了指定.....	6-81
6.7.6.5	千手メッセージフィルタ_重複メッセージ.....	6-83
6.7.6.6	千手メッセージフィルタ_出力間隔指定.....	6-86
6.7.6.7	千手メッセージフィルタ_連続発生.....	6-88
6.7.6.8	千手メッセージフィルタ_連続発生文字列指定.....	6-90
6.7.7	千手のコマンドを実行する.....	6-92
6.7.7.1	千手連携_千手ユーザーコマンド実行.....	6-92
6.7.7.2	千手連携_アクション結果取得.....	6-94
6.8	SEN コンソールと SEN WEB サービスの表示の違い.....	6-95
6.8.1	一覧.....	6-95
6.8.2	詳細.....	6-96
6.8.2.1	メインペインアイテムの背景.....	6-96
6.8.2.2	始点と終点と同じ座標の直線アイテム.....	6-96
6.8.2.3	イメージアイテムの拡大.....	6-96
6.8.2.4	ツリーペインのビューアイテムグループ表示順.....	6-97
6.8.2.5	メインペインに自動生成した千手ジョブスケジュール情報.....	6-97
6.8.2.6	直線、円・楕円アイテムの背後にあるメインペインアイテム.....	6-97
6.8.2.7	リストアイテムの縦スクロールバーの表示位置.....	6-97
6.8.2.8	リストアイテムのソート順.....	6-97
6.8.2.9	下位のビューアイテムグループを選択したままツリーペインを閉じる.....	6-98
6.8.2.10	ツリーペインでのダブルクリック.....	6-98
6.8.2.11	リストアイテムでレコードがない部分の背景色.....	6-98
6.8.2.12	リストアイテムカラム幅の最小値.....	6-98
6.8.2.13	リストアイテムのヘッダー表示位置.....	6-98
6.8.2.14	Shift キーを押しながらリストアイテムカラム幅をリサイズ.....	6-98
6.8.2.15	関連ビューの表示順.....	6-98
6.8.2.16	アクションの表示順.....	6-99
6.8.2.17	重大度のデフォルト表示値.....	6-99
6.8.2.18	記入者の入力欄.....	6-99
6.8.2.19	「メッセージ文字色」と「メッセージ背景色」の値.....	6-99
6.8.2.20	フィールドの説明.....	6-99
6.8.2.21	メインビュー、外部サイト以外のビューを開く.....	6-99
6.8.2.22	ユーザー権限.....	6-99
6.9	用語集.....	6-101
6.9.1	共通及び基本用語.....	6-101
6.9.2	SEN サーバー、SEN コンソール、SEN Web サービス.....	6-103

6.9.3 ルール処理.....	6-107
6.9.4 Senju Operation Conductor 連携.....	6-109
6.9.5 Senju Service Manager 連携.....	6-110
6.9.6 メール連携.....	6-111
6.9.7 SNMP トラップ連携.....	6-112
6.9.8 シスログ連携.....	6-114
6.9.9 ACOS ホスト連携.....	6-115
6.9.10 TELstaff 連携.....	6-116
6.9.11 Senju Service Automation 連携.....	6-117

6.1 メッセージ一覧

ここでは、Senju Enterprise Navigator システム内部で発生する可能性のあるメッセージ一覧を示します。

種別欄にて、“I”は通常メッセージを、“W”は警告メッセージを、“E”は障害メッセージを意味します。

6.1.1 内部イベント

表 6.1-1 メッセージ一覧

項番	メッセージ ID	種別	メッセージテキスト	意味	対処
1	!SEN001	E	ルール実行中にスクリプトエラーが発生しました。([エラー内容])	SEN サーバーのルールの実行において、エラーが発生しました。()内にスクリプトエラーの内容が入ります。	SEN サーバーのルール及びログを確認し、ルールを修正して下さい。
2	!SEN002	I	ルールセットが反映されました。([ルールセット ID])	ルールセットが反映され、新しいルールセットが有効になりました。()内にルールセット ID が入ります。	なし。
3	!SEN003	I	サーバー設定が変更されました。([サーバー設定内容])	SEN サーバーの設定が変更されました。()内に変更内容(有効なルールセットの設定/SMTP サーバー名の設定/自動バックアップの設定/バックアップディレクトリの設定/過去イベントファイルのバックアップの設定/ログの設定/表示条件の設定)が入ります。	なし。
4	!SEN004	I	ルールセットシミュレーションを開始しました。([ルールセット ID])	ルールセットのシミュレーションが開始されました。()内にルールセット ID が入ります。	なし。
5	!SEN005	I	ルールセットシミュレーションが終了しました。([ルールセット ID])	ルールセットのシミュレーションが終了しました。()内にルールセット ID が入ります。	なし。
6	!SEN006	I	SEN サーバーデータのバックアップを開始しました。	SEN サーバーのデータのバックアップ処理が開始しました。	なし。
7	!SEN007	I	SEN サーバーデータのバックアップが正常終了しました。([ディレクトリ数、ファイル数])	SEN サーバーのデータのバックアップ処理が正常終了しました。()内にバックアップのディレクトリやファイル数が入ります。	なし。
8	!SEN008	E	SEN サーバーデータのバックアップが異常終了しました。([ディレクトリ数、ファイル数])	SEN サーバーのデータのバックアップ処理が異常終了しました。()内にバックアップのディレクトリやファイル数が入ります。	SEN サーバーのログを確認し、バックアップに失敗した原因を調査して下さい。特に、ディスクの空き容量、ファイルの書き込み権限、ディレクトリの書き込み権限を確認して下さい。また物理的なハードディスク障害の場合、イベントログに OS よりログが出力されます。
9	!SEN009	E	SEN サーバーデータの保存エラーが発生しました。	SEN サーバーのファイル作成/書き込み/名前の変更/削除処理において、エラーが発生しました。	SEN サーバーのログを確認し、データ保存に失敗した原因を調査して下さい。特に、ディスクの空き容量、ファイルの書き込み権限、ディレクトリの書き込み権限を確認して下さい。また物理的なハードディスク障害の場合、イベントログに OS よりログが出力されます。
10	!SEN010	E	イベント送信元(プロデューサ)が種別を報告する前に切断しました。	イベント送信元(プロデューサ)が SEN サーバーに接続しましたが、プロデューサの種別を報告する前に切断しました。	イベント送信元のログを確認し、イベント送信元が切断した原因を調査して下さい。
11	!SEN011	I	SEN サーバーを起動しました。	SEN サーバーが起動しました。	なし。

項番	メッセージID	種別	メッセージテキスト	意味	対処
				SEN サーバー起動後、最初に SEN サーバーに出力されるイベントです。	
12	!SEN012	E	SEN サーバーの設定情報ファイルが破損しています。([設定情報ファイル名])設定を初期化します。	SEN サーバーの設定情報ファイルが破損しています。()内に ServerVariable.SEN あるいは ServerSettingData.SEN が入ります。	なし。
13	!SEN013	I	メモリが設定された上限値を超えたため、メモリ上のイベントをディスクに保存しました。	メモリ上で保持しているイベント情報が上限を超えたためディスクへ出力した。	なし。
14	!SEN014	W	ルール実行中に過去イベント数が最大数を超えました(処理は続行されます)。	ルールセット実行中に過去イベントの調査ステージまたは到着件数に対する処理ステージにて処理対象の過去イベント件数が最大数(1000件)を超えたため古いイベントを除外した。	なし。
15	!ENB001	I	プロセスの起動を検知しました。(ID=[プロセス識別子] command=[コマンドシーケンス])	管理対象プロセスの起動を検知した場合に出力します。ID にプロセス識別子、command にコマンドシーケンスが入ります。	なし。
16	!ENB002	I	プロセスの停止を検知しました。(ID=[プロセス識別子] command=[コマンドシーケンス])	管理対象プロセスが停止要求により停止した場合に出力します。ID にプロセス識別子、command にコマンドシーケンスが入ります。	なし。
17	!ENB003	E	プロセスをハングアップと判断し停止要求を行いません。(ID=[プロセス識別子] command=[コマンドシーケンス])	管理対象プロセスが一定期間応答を返しませんでした。プロセスをハングアップと判断し停止を行いません。ID にプロセス識別子、command にコマンドシーケンスが入ります。	カスタマーサポートへ連絡して下さい。
18	!ENB004	E	プロセスの起動に失敗しました。(ID=[プロセス識別子] command=[コマンドシーケンス] 再起動回数=[再起動回数])	管理対象プロセスの起動に失敗した場合に出力します。ID にプロセス識別子、command にコマンドシーケンス、再起動回数に再起動させた回数が入ります。	システム管理者へ連絡して下さい。
19	!ENB005	E	プロセスの停止を検知しました。(ID=[プロセス識別子] command=[コマンドシーケンス])	管理対象プロセスの異常停止を検知した場合に出力します。ID にプロセス識別子、command にコマンドシーケンスが入ります。	システム管理者へ連絡して下さい。
20	!ENB201	I	プロセスの起動を検知しました。(ID=[プロセス識別子] command=[コマンドシーケンス])	管理対象プロセスの起動を検知した場合に出力します。ID にプロセス識別子、command にコマンドシーケンスが入ります。	なし。
21	!ENB202	I	プロセスの停止を検知しました。(ID=[プロセス識別子] command=[コマンドシーケンス])	管理対象プロセスが停止要求により停止した場合に出力します。ID にプロセス識別子、command にコマンドシーケンスが入ります。	なし。
22	!ENB203	E	プロセスをハングアップと判断し停止要求を行いません。(ID=[プロセス識別子] command=[コマンドシーケンス])	管理対象プロセスが一定期間応答を返しませんでした。プロセスをハングアップと判断し停止を行いません。ID にプロセス識別子、command にコマンドシーケンスが入ります。	カスタマーサポートへ連絡して下さい。
23	!ENB204	E	プロセスの起動に失敗しました。(ID=[プロセス識別子] command=[コマンドシーケンス] 再起動回数=[再起動回数])	管理対象プロセスの起動に失敗した場合に出力します。ID にプロセス識別子、command にコマンドシーケンス、再起動回数に再起動させた回数が入ります。	システム管理者へ連絡して下さい。
24	!ENB205	E	プロセスの停止を検知しました。(ID=[プロセス識別子] command=[コマンドシーケンス])	管理対象プロセスの異常停止を検知した場合に出力します。ID にプロセス識別子、command にコマンドシーケンスが入ります。	システム管理者へ連絡して下さい。
25	!ENS001	E	千手ドメインの接続に失敗しました。(domainName = [ドメイン名])	千手ドメインへのログインに失敗した場合に出力されます。domainName に SEN コンフィグレータで設定したドメイン名が入ります。	SEN コンフィグレータでホスト名、ユーザー名、パスワードが正しいか確認して下さい。
26	!ENS002	E	千手ドメインより切断されました。	接続中の千手ドメインより切断された場	対象の千手マネージャが正常に動

項番	メッセージ ID	種別	メッセージテキスト	意味	対処
			(domainName = [ドメイン名])	合に出力されます。domainName に SEN コンフィグレータで設定したドメイン名が入ります。	作していないか、又はネットワーク障害が発生していない事を確認して下さい。 千手システムは自動再接続機能があるため、その後にメッセージ!ENS003 が出力される事があります。 システム管理者へ連絡して下さい。
27	!ENS003	I	千手ドメインに接続しました。 (domainName = [ドメイン名])	千手ドメインと接続した場合に出力されます。domainName に SEN コンフィグレータで設定したドメイン名が入ります。	なし。
28	!ENS004	I	千手ドメインと切断しました。 (domainName = [ドメイン名])	千手ドメインと切断した場合に出力されます。domainName に SEN コンフィグレータで設定したドメイン名が入ります。	なし。
29	!ENS005	E	メッセージフィルタ MessageFilterName を設定できませんでした (Invalid message filter ID.)	SEN コンフィグレータで設定されたメッセージフィルタが接続した千手ドメインに存在しません。	SEN コンフィグレータで設定したメッセージフィルタが該当の千手ドメインに存在するか確認して下さい。
30	!ENS101	E	接続が切れました(千手ドメイン名: サブシステム名:プロセス名)	接続している千手ドメインのプロセスと通信が切れた場合に出力されます。 千手ドメイン名:千手システムのドメイン名が入ります。SEN コンフィグレータで設定したドメイン名ではありません。 サブシステム名:”ジョブスケジュー”、”帳票管理” プロセス名:SpPrintNodeClnt、 SpPrinterClnt、 SpFormClnt、 SpChartClnt、 SpTriggerClnt、 SpFrameClnt、 SpFrameClnt:YYYYMMDD	千手ドメインのシステム管理者へ連絡して下さい。
31	!ENS201	E	Senju Service Manager DB の接続に失敗しました。(dsn = [DSN 名])	Senju Service Manager DB との接続に失敗した場合に出力されます。dsn に ODBC データソースアドミニストレータで定義した DSN(データソース名)が入ります。	以下のいずれかが原因で接続に失敗していると考えられます。 ・SSM DB サーバー上の Oracle のサービスが起動していない。 ・SEN コンフィグレータの Senju Service Automation 設定画面(全般)の Senju Service Manager DB 接続情報の設定内容に誤りがある。 ・ODBC データソースアドミニストレータで定義した DSN の設定内容に誤りがある。 ・tnsnames.ora に設定しているホスト名に誤りがある。 システム管理者へ連絡して下さい。
32	!ENS202	E	Senju Service Manager DB より切断されました。(dsn = [DSN 名])	Senju Service Manager DB との接続が切れた場合に出力されます。dsn に ODBC データソースアドミニストレータで定義した DSN(データソース名)が入ります。	SSM DB サーバー上の Oracle のサービスが停止している可能性があります。システム管理者へ連絡して下さい。
33	!ENS203	I	Senju Service Manager DB に接続しました。(dsn = [DSN 名])	Senju Service Manager DB との接続に成功した場合に出力されます。dsn に ODBC データソースアドミニストレータで定義した DSN(データソース名)が入ります。	なし。
34	!ENS204	E	Senju Service Automation 機能を停止しました。([停止理由])	Senju Service Automation 機能が停止した場合に出力されます。()内には機能が停止した理由が入ります。	カスタマーサポートへ連絡して下さい。

項番	メッセージID	種別	メッセージテキスト	意味	対処
35	!ENS205	E	Senju Service Manager DB から Senju Service Automation 機能のステータス情報を取得できませんでした。	Senju Service Manager DB から Senju Service Automation 機能のステータス情報を取得できない場合に出力されます。	カスタマーサポートへ連絡して下さい。
36	!ENS206	I	Senju Service Manager DB から接続先名を取得できました。([接続先名])	Senju Service Manager DB から接続先名(連携先の Senju Operation Conductor ドメイン名)の取得に成功した場合、出力されます。()内には接続先名が入ります。	なし。
37	!ENS207	E	Senju Service Manager DB から接続先名を取得できませんでした。([接続先名])	Senju Service Manager DB から接続先名(連携先の Senju Operation Conductor ドメイン名)の取得に失敗した場合、出力されます。()内には接続先名が入ります。	SEN コンフィグレータの Senju Service Automation 設定画面(全般)で設定した Senju Operation Conductor 連携設定名(=接続先名)が Senju Service Manager に登録されていません。システム管理者へ連絡して下さい。
38	!ENS211	E	Senju Service Manager DB への更新に失敗しました。([更新失敗の理由])([リクエストの詳細][ログ情報])	Senju Service Manager で申請したリクエストの依頼結果を Senju Service Manager DB に更新する際にエラーになった場合、出力されます。()内には更新失敗の理由、リクエストの詳細、ログ情報が入ります。	なし。
39	!ENS221	I	Senju Operation Conductor への依頼に成功しました。([依頼成功メッセージ])([リクエストの詳細])	Senju Service Manager で申請したリクエストの依頼が成功した場合、出力されます。()内には依頼成功メッセージ、リクエストの詳細が入ります。	なし。
40	!ENS222	E	Senju Operation Conductor への依頼に失敗しました。([受け付け出来なかった理由])([リクエストの詳細])	Senju Service Manager で申請したリクエストが受け付けられなかった場合、出力されます。()内には受け付け出来なかった理由、リクエストの詳細が入ります。	Senju Service Manager の申請画面にも依頼失敗の理由が表示されます。依頼失敗の理由を元に再申請を行うなど、対応を行って下さい。
41	!ENS223	I	Senju Operation Conductor への依頼をキャンセルしました。([キャンセルメッセージ])([リクエストの詳細])	Senju Service Manager で申請をキャンセルした場合、出力されます。()内にはキャンセルメッセージ、キャンセルされた申請のリクエストの詳細が入ります。	なし。
42	!ENX401	I	Senju Service Manager アダプタを開始します。	Senju Service Manager 連携アダプタを開始した場合に出力されます。	なし。
43	!ENX402	I	Senju Service Manager アダプタを停止します。	Senju Service Manager 連携アダプタを停止した場合に出力されます。	なし。
44	!ENX403	I	Senju Service Manager に接続しました。(domainName=[ドメイン名],portNumber=[ポート番号])	Senju Service Manager ドメインと接続した場合に出力されます。domainName に SEN コンフィグレータで設定したドメイン名が入ります。portNumber に SEN コンフィグレータで設定したポート番号が入ります。	なし。
45	!ENX411	E	Senju Service Manager との接続に失敗しました。(domainName=[ドメイン名],portNumber=[ポート番号])	Senju Service Manager ドメインと接続に失敗した場合に出力されます。domainName に SEN コンフィグレータで設定したドメイン名が入ります。portNumber に SEN コンフィグレータで設定したポート番号が入ります。	SEN コンフィグレータでドメイン名、ポート番号が正しいか確認して下さい。
46	!ENX412	E	Senju Service Manager より切断されました。(domainName=[ドメイン名],portNumber=[ポート番号])	接続中の Senju Service Manager ドメインより切断された場合に出力されます。domainName に SEN コンフィグレータで設定したドメイン名が入ります。portNumber に SEN コンフィグレータで設定したポート番号が入ります。	対象の Senju Service Manager イベント受信プロセスが正常に動作していないか、又はネットワーク障害が発生していない事を確認して下さい。 Senju Service Manager 連携アダプタは自動再接続機能があるため、その後にメッセージ!ENX403 が出力される事があります。 システム管理者へ連絡して下さい。
47	!ENX151	I	メール受信アダプタを開始します。	メール受信アダプタを開始した場合に	なし。

項番	メッセージ ID	種別	メッセージテキスト	意味	対処
				出力されます。	
48	!ENX152	I	メール受信アダプタを停止しました。	メール受信アダプタを停止した場合に出力されます。	なし。
49	!ENX153	I	メールサーバーに接続しました。 (ServerName=[メールサーバー名])	メールサーバーと接続した場合に出力されます。ServerName に SEN コンフィグレータで設定したメールサーバー名が入ります。	なし。
50	!ENX161	E	メールサーバーの接続に失敗しました。([障害原因](ServerName=[メールサーバー名]))	メールサーバーへのログインに失敗した場合に出力されます。 0内に以下の障害原因が入ります。 ・通信リソースが確保できません ・メールサーバー名の名前解決に失敗しました ・メールサーバーから応答がありません ・メールサーバーと接続できませんでした ・ログインに失敗しました ・メールサーバーからコマンド応答がありません ・メールサーバーからエラーが通知されました ・通信障害が発生しました ServerName に SEN コンフィグレータで設定したメールサーバー名が入ります。	SEN コンフィグレータでメールサーバー名、ユーザーアカウント名、パスワードが正しいか確認して下さい。 対象のメールサーバーが正常に動作しているか、又はネットワーク障害が発生していない事を確認して下さい。
51	!ENX162	E	メールサーバーより切断されました。([障害原因](ServerName=[メールサーバー名]))	メールサーバーと切断した場合に出力されます。 0内に以下の障害原因が入ります。 ・通信リソースが確保できません ・メールサーバー名の名前解決に失敗しました ・メールサーバーから応答がありません ・メールサーバーと接続できませんでした ・ログインに失敗しました ・メールサーバーからコマンド応答がありません ・メールサーバーからエラーが通知されました ・通信障害が発生しました ServerName に SEN コンフィグレータで設定したメールサーバー名が入ります。	対象のメールサーバーが正常に動作しているか、又はネットワーク障害が発生していない事を確認して下さい。
52	!ENX163	E	メールメッセージの受信に失敗しました。	メールメッセージの取得に失敗した場合に出力されます。	メール受信連携アダプタのログファイルを確認し、メールメッセージの取得に失敗した原因を調査して下さい。
53	!ENX167	E	アクセストークンの更新に失敗しました。([ユーザーアカウント][クライアント ID])	OAuth2 認証に使用するアクセストークンの更新に失敗し、メールメッセージの取得に失敗した場合に出力されます。	SEN コンフィグレータでメールサーバー名、ユーザーアカウント名、パスワード、OAuth2 認証情報が正しいか確認して下さい。 対象のメールサーバーが正常に動作しているか、又はネットワーク障害が発生していない事を確認して下さい。
54	!ENX168	W	7 日以内にリフレッシュトークンの有効期限が切れます。SEN コンフィグレータで「トークン取得」を実施してください。([ユーザーアカウント][クライアント ID])	OAuth2 認証情報のリフレッシュトークン有効期限が 7 日以内になった場合に出力されます。	SEN コンフィグレータで[トークン取得]を実行してください。
55	!ENX169	W	リフレッシュトークンの有効期限が	OAuth2 認証情報のリフレッシュトークン	SEN コンフィグレータで[トークン取

項番	メッセージ ID	種別	メッセージテキスト	意味	対処
			切れています。SEN コンfigurator で「トークン取得」を実施してください。([ユーザーアカウント][クライアント ID])	有効期限が切れている場合に出力されます。	[得]を実行してください。
56	!ENX102	I	SNMPトラップ監視を停止しました。	SNMPトラップ監視を終了した場合に出力されます。	なし。
57	!ENX111	W	定義ファイルの記述に誤りがあるため一部のデータの読み込みに失敗しました。([定義ファイル名])	記述誤りのため、定義ファイルの一部を読みとばした場合に出力されます。詳細な情報は SNMPトラップ受信アダプタのログファイルに出力されます。()に定義ファイル名が出力されます。	定義ファイルを正しく修正し、サービスを再起動して下さい。
58	!ENX112	W	定義ファイルの読み込みに失敗したため定義情報なしとして起動します。([定義ファイル名])	定義ファイルの読み込みに失敗しました。ファイルが存在しないかアクセス権がない可能性があります。()に定義ファイル名が出力されます。	出力されたファイルを確認して下さい。
59	!ENX121	E	SNMPトラップポートが他システムで使用されているためプロセスを終了します。	SNMPトラップ受信用ポートが既に使用されているため SNMPトラップ受信アダプタを終了しました。	SNMPトラップポートを使用しているシステムを停止するか、SNMPトラップ受信アダプタが起動しないように定義を変更して下さい。
60	!ENX201	I	シスログ監視を開始します。	シスログ監視を開始した場合に出力されます。	なし。
61	!ENX202	I	シスログ監視を停止しました。	シスログ監視を終了した場合に出力されます。	なし。
62	!ENX211	W	定義ファイルの記述に誤りがあるため一部のデータの読み込みに失敗しました。([定義ファイル名])	記述誤りのため、定義ファイルの一部を読みとばした場合に出力されます。詳細な情報はシスログ受信アダプタのログファイルに出力されます。()に定義ファイル名が出力されます。	定義ファイルを正しく修正し、サービスを再起動して下さい。
63	!ENX212	W	定義ファイルの読み込みに失敗したため定義情報なしとして起動します。([定義ファイル名])	定義ファイルの読み込みに失敗しました。ファイルが存在しないかアクセス権がない可能性があります。()に定義ファイル名が出力されます。	出力されたファイルを確認して下さい。
64	!ENX221	E	シスログ受信ポートが他システムで使用されているためプロセスを終了します。	シスログ受信用ポートが既に使用されているためシスログ受信アダプタを終了しました。	シスログポートを使用しているシステムを停止するか、シスログ受信アダプタが起動しないように定義を変更して下さい。
65	!ENX222	E	通信アクセスに失敗しました。	通信アクセスに失敗したため、シスログ受信アダプタを終了しました。詳細な情報はシスログ受信アダプタのログファイルに出力されます。	シスログ受信アダプタのログファイルを確認し、通信障害が発生した原因を調査して下さい。特に、ネットワークの設定、LAN ケーブルの接触不良などが考えられます。システム管理者へ連絡して下さい。
66	!ENX223	E	システム障害が発生しました。	システム障害が発生したため、シスログ受信アダプタを終了しました。詳細な情報はシスログ受信アダプタのログファイルに出力されます。	シスログ受信アダプタのログファイルを確認し、システム障害が発生した原因を調査して下さい。特に、マシンのメモリ使用状況を確認して下さい。システム管理者へ連絡して下さい。
67	!ENX301	I	savic-netEV model30 アダプタを開始します。	savic-netEV model30 アダプタを開始した場合に出力されます。	なし。
68	!ENX302	I	savic-netEV model30 アダプタを停止します。	savic-netEV model30 アダプタが停止した場合に出力されます。	なし。
69	!ENX303	I	プロトコル変換機ホストに接続しました。(HostName=[ホスト名])	savic-netEV model30 アダプタが指定のホストと接続した場合に出力されます。	なし。
70	!ENX311	E	サーバーの接続に失敗しました。(ServerName=[サーバー名]、PortNumber=[ポート番号])	savic-netEV model30 アダプタが指定のホストとの接続に失敗した場合に出力されます。	接続先ホスト名、ポート番号が正しいか確認して下さい。
71	!ENX312	E	プロトコル変換機ホストより切断されました。(HostName=[ホスト名])	savic-netEV model30 アダプタが指定のホストより接続を切断された場合に出	対象のホストが正常に動作しているか、又はネットワーク障害が発生

項番	メッセージ ID	種別	メッセージテキスト	意味	対処
				力されます。	していない事を確認して下さい。
72	!ENX351	I	NMAcos アダプタを開始します。	NMAcos アダプタを開始した場合に出力されます。	なし。
73	!ENX352	I	NMAcos アダプタを停止します。	NMAcos アダプタが停止した場合に出力されます。	なし。
74	!ENX353	I	ACOS ホストに接続しました。 (ResourceName=[リソース名], LuNumber=[LU 番号])	NMAcos アダプタが指定の ACOS ホストと接続した場合に出力されます。 ResourceName に定義ファイルで設定したリソース名、LuNumber に定義ファイルで設定した LU 番号が入ります。	なし。
75	!ENX361	E	ACOS ホストとの接続に失敗しました。 (ResourceName=[リソース名], LuNumber=[LU 番号])	NMAcos アダプタが指定の ACOS ホストとの接続に失敗した場合に出力されます。 ResourceName に定義ファイルで設定したリソース名、LuNumber に定義ファイルで設定した LU 番号が入ります。	定義ファイルのリソース名、LU 番号が正しいか確認して下さい。
76	!ENX362	E	ACOS ホストより切断されました。 (ResourceName=[リソース名], LuNumber=[LU 番号])	NMAcos アダプタが指定の ACOS ホストより接続を切断された場合に出力されます。 ResourceName に定義ファイルで設定したリソース名、LuNumber に定義ファイルで設定した LU 番号が入ります。	対象の ACOS ホストが正常に動作しているか、又はネットワーク障害が発生していない事を確認して下さい。
77	!ENX501	I	イベント連携アダプタを開始します。	イベント連携アダプタを開始した場合に出力されます。	なし。
78	!ENX502	I	イベント連携アダプタを停止します。	イベント連携アダプタが停止した場合に出力されます。	なし。
79	!ENX511	E	イベント抜けが発生しました。	イベント連携アダプタが受信するイベント量が大量のため、イベントのロストが発生した際に出力されます。	各運用管理ツールからのイベント量に応じて、複数のイベント連携アダプタを起動するようにして下さい。
80	!ENX451	I	メール送信アダプタを開始します。	メール送信アダプタを開始した場合に出力されます。	なし。
81	!ENX452	I	メール送信アダプタを停止します。	メール送信アダプタが停止した場合に出力されます。	なし。
82	!ENX461	E	メールサーバーとの接続に失敗しました。([障害原因](ServerName=[メールサーバー名]))	メールサーバーへのログインに失敗した場合に出力されます。 0内に以下の障害原因が入ります。 ・通信リソースが確保できません ・POP before SMTP 認証サーバー名の名前解決に失敗しました ・POP before SMTP 認証サーバーから応答がありません ・POP before SMTP 認証サーバーと接続できませんでした ・POP before SMTP 認証サーバーと認証に失敗しました ・POP before SMTP 認証サーバーからコマンド応答がありません ・POP before SMTP 認証サーバーからエラーが通知されました ・POP before SMTP 認証サーバーと通信障害が発生しました ・メールサーバー名の名前解決に失敗しました ・メールサーバーから応答がありません ・メールサーバーと接続できませんでした ・メールサーバーと認証に失敗しました ・メールサーバーからコマンド応答がありません ・メールサーバーからエラーが通知されました ・メールサーバーと通信障害が発生し	SEN コンフィグレータでメールサーバー名、ユーザーアカウント名、パスワードが正しいか確認して下さい。 対象のメールサーバーが正常に動作しているか、又はネットワーク障害が発生していない事を確認して下さい。

項番	メッセージID	種別	メッセージテキスト	意味	対処
				ました ServerName に SEN コンフィグレータで 設定したメールサーバー名が入りま す。	
83	!ENX471	I	TELstaff 連携アダプタを開始しま す。	TELstaff 連携アダプタを開始した場 合に出力されます。	なし。
84	!ENX472	I	TELstaff 連携アダプタを停止しま す。	TELstaff 連携アダプタが停止した場 合に出力されます。	なし。

6.1.2 メールメッセージ

表 6.1-2 メッセージ一覧

項番	メッセージ ID	種別	メッセージテキスト	意味	対処
1	!ENX154	I	メールメッセージを受信しました。	メールメッセージを取得した場合に出力されます。	なし。
2	!ENX155	I	メールメッセージを受信しました。	メールメッセージを取得した場合に出力されます。 受信したメールメッセージが分割メールとなっています。分割メールの始めのメッセージのみを表示します。	ご使用のメール送信環境で、メールメッセージが分割されないように設定して下さい。

6.1.3 SNMP トラップメッセージ

表 6.1-3 メッセージ一覧

項番	メッセージ ID	種別	メッセージテキスト	意味	対処
1	!ENX103	I	SNMPトラップを受信しました。	SNMPトラップを受信した場合に出力されます。	なし。

6.1.4 シスログメッセージ

表 6.1-4 メッセージ一覧

項番	メッセージ ID	種別	メッセージテキスト	意味	対処
1	!ENX203	I	受信したシスログテキスト。	シスログを受信した場合に出力されます。	なし。
2	!ENX204	I	受信したシスログテキスト。	シスログを受信した場合に出力されます。 受信したシスログテキストが受信バッファよりも長いテキストフォーマットが RFC3164 に準拠していない可能性があります。詳細な情報はシスログ受信アダプタのログファイルに出力されます。	受信バッファが足りない場合は定義ファイルの maxMsgSize の値を大きく修正しサービスを再起動して下さい。

6.1.5 savic-netEVmodel30 メッセージ

表 6.1-5 メッセージ一覧

項番	メッセージ ID	種別	メッセージテキスト	意味	対処
1	!ENX304	I	savic-netEV model30 メッセージを受信しました。	savic-netEV model30 からのメッセージを受信した場合に出力されます。	なし。

6.1.6 nmAcos アダプタメッセージ

表 6.1-6 メッセージ一覧

項番	メッセージ ID	種別	メッセージテキスト	意味	対処
1	!ENX354	I	ACOS ホストからの受信内容。	ACOS ホストからのメッセージを受信した場合に出力されます。 先頭がタイムスタンプで始まるメッセージです。	なし。
2	!ENX355	I	ACOS ホストからの受信内容。	ACOS ホストからのメッセージを受信した場合に出力されます。 先頭がタイムスタンプで始まらないメッセージです。	なし。

6.1.7 メール送信メッセージ

表 6.1-7 メッセージ一覧

項番	メッセージ ID	種別	メッセージテキスト	意味	対処
1	!ENS455	I	メール送信依頼を受信しました。	千手ドメインからメール送信依頼を受信した場合に出力される。	なし。

6.1.8 電話呼出メッセージ

表 6.1-8 メッセージ一覧

項番	メッセージ ID	種別	メッセージテキスト	意味	対処
1	!ENS473	I	電話実施依頼を受信しました。	千手ドメインから電話実施依頼を受信した場合に出力される。	なし。

6.2 制限事項

以下に Senju Enterprise Navigator システムにおける制限事項を掲げます。

- SEN コンソールを利用する際は、Windows のアカウントは Administrators 権限のグループに所属するアカウントで稼働ノードにログオンして下さい。それ以外のアカウントでの利用はできません。
- SEN コンソールが稼働するノードは、画面のプロパティで High カラー以上の色数に設定して下さい。
- イベントビューにてイベントを右クリックして表示されるコンテキストメニューの「メールを送る」のメールテンプレートを選択するか、またはメインビューにてアイテムを右クリックして表示されるコンテキストメニューの「送る」の「メール受信者」を選択すると、Windows の「インターネットオプション」で設定されているメーラープログラムが起動します。このメーラープログラムは MAPI に準拠している必要があります。
- イベントビュー、イベントビューのプロパティ、リストアイテム等の画面で、文字列長の長いデータ(261 文字以上)を表示しようとした場合に、261 文字目が文字化けして表示されます。文字化けしていた場合でも、データは保証され、SEN 内部処理においては正常に動作します。
- ユーザーグループ ID は大文字・小文字を区別しません。
- ファイル名の最大文字数は 255 文字(パス名全体では 260 文字)です。ルール実行によりファイルを作成する際は、パスを含むファイル名が最大文字数を超えないよう設定してください。
- メール受信連携アダプタでは、エンコード方式として「base64」「Quoted-Printable」のみをサポートしています。
- メール受信連携アダプタでは、添付ファイルの形式として「attachment」と「inline」のみをサポートしています。
- Senju Operation Conductor 連携アダプタは Senju Service Manager から受信したリクエストを、予定日時あるいはリミット日時>リクエストの種類>登録順、の順で優先的に実行します。リクエストの種類の中での優先度は、一時停止／解除>スキップ／解除>起動時刻変更>ランブック実行>コマンド実行、の順となります。
- Senju Service Manager から受信したリクエストの実行が完了していない状態で Senju Operation Conductor 連携アダプタのプロセスが終了した場合、終了から 1 時間以内に Senju Operation Conductor 連携アダプタが起動すれば、リクエストの実行は再開されます。1 時間を超えた場合はリクエストの実行は行われません。
- Senju Operation Conductor 連携アダプタが同時に受信、または送信するリクエスト数には制限があり、大量に依頼すると、同じ予定日時やリミット日時のリクエストでも遅延する可能性があります。具体的な制限は表 6.2-1 を参照して下さい。
- SEN Web サービスを利用している場合、SEN コンソールにてユーザー、またはユーザーグループの追加・変更・削除を行う時は、SEN Web サービスの IIS を停止して

から行って下さい。

- SEN Web サービスでは、Web ブラウザにおいて同一ユーザーで複数のタブを開いている場合、1 つのタブでログアウトするとその他のタブもログアウトされます。
- SEN Web サービスで、同一の Web ブラウザから、既にログインしているユーザーとは異なるユーザーでログインした場合、既にログインしていたユーザーは強制的にログアウトされます。
- 以下の項目の名称に改行コードが含まれていた場合、SEN Web サービスが正しく動作しないことがあります。特にルールから作成できるものに関してご注意ください。
 - 関連ビューID(メインビュー/イベントビュー)
 - ユーザーグループ ID
 - ビューカテゴリ ID
 - ビューアイテムグループ ID
 - メインペインアイテム ID
 - 検索条件名
 - イメージ ID
 - ユーザーID
- HTTP の URL として使用できない文字("#~{}:*?<>%&+や先頭のアンダースコア、連続したピリオド、文字列先頭または最後のピリオド)をイメージアイテム ID に使用した場合、SEN Web サービスでそのイメージアイテムは表示されません。
- SEN Web サービスでは、リストアイテムはデフォルトで 100 行×30 列まで表示できます。
- SEN Web サービスでは、リストアイテムの行数や列数、表示されるメインペインアイテムの総数に比例し、表示に時間が掛かる場合があります。
- SEN Web サービスでは、メインビューの描画能力は Web ブラウザに依存するため、SEN コンソールと比較すると、レイアウトに差が出る場合があります。
- Internet Explorer 以外のブラウザで SEN Web サービスを表示した時に TIF イメージが表示されない場合があります。表示させるには、各ブラウザで TIF イメージ表示用プラグインの導入を行って下さい。

表 6.2-1 に Senju Enterprise Navigator システムにおける上限値の一覧を示します。

表 6.2-1 Senju Enterprise Navigator における上限値一覧

項番	項目	条件
1	SEN サーバーを稼働させるマシンのホスト名の長さ	29
2	ツールビューのツール数	30
3	ユーザー数の上限	100
4	ユーザーグループ数の上限	10
5	1ユーザーが所属可能なユーザーグループ数の上限	10 ※1
6	イメージ数の上限	1000

項番	項目	条件
7	1 イメージファイルのサイズの上限	5MByte
8	全イメージファイルの合計サイズの上限	100MByte
9	メインビューのカテゴリ数の上限	20
10	ノウハウが登録・参照できるイベント数の上限	5000
11	ノウハウに指定可能な文字数の上限	2048Byte
12	1ルール条件あたりの条件数の上限	10
13	ルール条件数の上限	5000
14	1分配ルール条件あたりのユーザーグループ数の上限	10
15	イベントビュー表示方法数の上限	30
16	アクション実行履歴が保存される件数の上限	1(最大 1000)
17	SEN コンソールのメッセージウィンドウの表示行数の上限※2	500
18	繰り返しイベントの破棄ステージのパラメータ 1 に指定可能な整数	1~86400
19	繰り返しイベントの破棄ステージのパラメータ 2 に指定可能な整数	-1~1000
20	過去イベントの調査ステージのパラメータ 1 に指定可能な整数	1~3600
21	到着件数に対する処理ステージのパラメータ 1 に指定可能な整数	1~3600
22	到着件数に対する処理ステージのパラメータ 2 に指定可能な整数	1~1000
23	アクション実行履歴処理ステージのパラメータ 1 に指定可能な整数	1~3600
24	遅延実行ステージのパラメータ 1 に指定可能な整数	1~172800
25	タイムステージのパラメータ 1 に指定可能な整数	1~172800
26	メインペインの拡大/縮小率(%)	10~400
27	リストカラム幅	0~1000
28	SEN サーバー/コンソールログファイル世代数の上限	100
29	SEN サーバー/コンソールログファイルサイズの上限	104857600 Byte
30	ルールセットシミュレーションにて実行可能なイベント数の上限	1000
31	メインペインエディタでの Undo 回数の上限	10
32	メインペインエディタでの Redo 回数の上限	10
33	メインペインアイテムの直線アイテムの線の太さの上限	10
34	ルール内より参照可能な過去イベント数	1000
35	1 メインペイン上に表示可能なアイテム数	1000
36	メインペインリストアイテムのレコード上限値	1000
37	メインペインリストアイテムのカラム数	30
38	メインペインリストアイテムの 1 セルに登録できるバイト数	4000Byte
39	メインペインのサイズ	2048x2048
40	メインビューのツリーペインに作成可能な階層数	20
41	1 階層のツリーペインに設定可能なメインペインの数	100
42	1 台の SEN サーバーに接続可能な SEN コンソール数の上限	ライセンスに依存(最大 20)
43	1 台の SEN サーバーが管理可能な千手ドメイン(千手マネージャ)数の上限	ライセンスに依存(最大 20)
44	1 台の SEN サーバーが管理可能な SSM 連携ドメイン数の上限	ライセンスに依存(最大 50)
45	1 台の SEN サーバーが管理可能な SNMP トラップ連携ドメイン数の上限	ライセンスに依存(最大 1)
46	1 台の SEN サーバーが管理可能なシスログ連携ドメイン数の上限	ライセンスに依存(最大 1)
47	1 台の SEN サーバーが管理可能なメール受信連携ドメイン数の上限	ライセンスに依存(最大 30)
48	1 台の SEN サーバーが管理可能な TELstaff 連携ドメイン数の上限	ライセンスに依存(最大 1)
49	1 台の SEN サーバーが管理可能な Telnet 連携ドメイン数の上限	ライセンスに依存(最大 50)
50	イベント送信コマンドに設定可能なフィールド値の数	50
51	イベント変換コマンドの最大出力件数	100000
52	ルールセットのグローバル初期化処理に記述可能な文字数	1M Byte
53	ルールセットのグローバル終了処理に記述可能な文字数	1M Byte
54	ルールセットのグローバル関数・変数定義に記述可能な文字数	1M Byte
55	イベントに追加できる関連ビューの上限値	30
56	メインペインアイテムに追加できる関連ビューの上限値	30
57	イベントに追加できるアクションの数の上限	30
58	メインペインアイテムに追加できるアクションの数の上限	30
59	イベントへ関連付けることができる報告書のテンプレート数の上限	30
60	イベントへ関連付けることができるメールのテンプレート数の上限	30
61	SEN サーバー上での同時コマンド実行数の上限※2	100

項番	項目	条件
62	千手プロデューサへの同時アクション実行数(千手コマンド、千手ユーザーコマンド等)の上限※3	50(1プロデューサあたり)
63	SSMプロデューサへの同時アクション実行数の上限	50(1プロデューサあたり)
64	SSMに連携できる添付ファイル1つあたりのサイズの上限	50MByte
65	メール送信プロデューサへの同時アクション実行数の上限	100(1プロデューサあたり)
66	TELstaffプロデューサへの同時アクション実行数の上限	50(1プロデューサあたり)
67	1イベントあたりに保存できるアクション実行結果数の上限	50
68	SENサーバーアクション終了イベント及びプロデューサーアクション終了イベントのアクション全文字出力プロパティに出力される文字数	128K Byte
69	「SENサーバーの設定」のルール情報の記録間隔に指定可能な整数	300～3600
70	「SENサーバーの設定」のパフォーマンスビューの更新間隔に指定可能な整数	300～3600
71	SENパフォーマンスビューで一つの表示方法につき表示できる項目数	10
72	アクションユーザー情報に設定することができる最大配列数	100
73	アクションユーザー情報に設定することができる1つの配列の最大サイズ	1024 Byte
74	ENBASProducer::mlAsyncSendMailで送信できるメールの総サイズ	1024 Byte
75	メール受信連携で追加できるメール受信条件数の上限	100
76	Senju Operation Conductor連携アダプタがSenju Service Managerから同時に受信できる各リクエスト(ランブック実行、コマンド実行、一時停止/解除、スキップ/解除、起動時刻変更および遅延監視時刻変更)のリクエスト数の上限	1000
77	Senju Operation Conductor連携アダプタが千手マネージャに一度に送信できるリクエスト数の上限	10
78	Senju Service Automation連携を用いたランブック実行時に千手マネージャへ連携することのできる環境変数の数の上限	20
79	SENコンフィグレータのメール受信連携アダプタ設定でのユーザーアカウントの入力文字数	50 Byte
80	イベントのユーザー変数に指定可能な文字数	512K Byte

- ※ 1 「{SEN マスターグループ}」は含めません。
- ※ 2 上限値を超すと古いものから削除されます。
- ※ 3 上限値を超えてコマンドが実行されると例外が発生します。

表 6.2-2 に SEN Web サービス接続の制限値の一覧を示します。制限値を超えたイベントが送信された場合、SEN Web サービスに接続できません。

表 6.2-2 SEN Web サービス接続の制限値一覧

項番	項目	文字長 (byte)
1	メッセージ区分	100
2	メッセージ識別 No	100
3	メッセージ ID	100
4	メッセージ種別	100
5	イベントの付加情報(名前)	100
6	イベントの関連ビュー (ID)	100
7	イベントのユーザー変数(属性名)	100
8	イベントアクションのアクション名	100
9	メインペインアイテムのビューアイテムグループパス	290
10	メインペインアイテムの結合アイテムパス	290
11	メインペインアイテム「定義」の属性名	64
12	メインペインアイテム「状態」の属性名	64

項番	項目	文字長 (byte)
13	ビューアイテムグループのパス	290

SEN コンソールにおける各種フィールドの制限を表 6.2-3 に示します。ここで、汎用 ID 文字とは、{}\おおよびコントロールコード以外の文字を意味します。

表 6.2-3 フィールドの制限

項番	項目	文字長	文字条件
1	コンソールツール ID	64 バイト以内	汎用 ID 文字のみ許可。 先頭及び最後に半角・全角空白文字不可。 両端の文字が空白以外の場合、半角・全角空白文字可。
2	コンソールツールコマンド	1024 バイト以内	コントロールコード以外。 先頭及び最後に半角・全角空白文字不可。 両端の文字が空白以外の場合、半角・全角空白文字可。
3	コンソールツールコマンドパラメータ	1024 バイト以内	コントロールコード以外。 空文字可。
4	コンソールツールコマンドディレクトリ	1024 バイト以内	コントロールコード以外。 空文字可。
5	ユーザーグループ ID	64 バイト以内	汎用 ID 文字のみ許可。 先頭及び最後に半角・全角空白文字不可。 両端の文字が空白以外の場合、半角・全角空白文字可。 “#”文字不可。
6	ユーザー ID	64 バイト以内	汎用 ID 文字のみ許可。 先頭及び最後に半角・全角空白文字不可。 両端の文字が空白以外の場合、半角・全角空白文字可。
7	説明	2048 バイト以内	コントロールコード以外。 空文字可。
8	ユーザーパスワード	64 バイト以内	コントロールコード以外。 先頭及び最後に半角・全角空白文字不可。 両端の文字が空白以外の場合、半角・全角空白文字可。
9	アイコン ID	64 バイト以内	汎用 ID 文字のみ許可。 先頭及び最後に半角・全角空白文字不可。 両端の文字が空白以外の場合、半角・全角空白文字可。
10	イメージ ID	64 バイト以内	汎用 ID 文字のみ許可。 先頭及び最後に半角・全角空白文字不可。 両端の文字が空白以外の場合、半角・全角空白文字可。
11	ローカルファイル名	1024 バイト以内	コントロールコード以外。 先頭及び最後に半角・全角空白文字不可。 両端の文字が空白以外の場合、半角・全角空白文字可。
12	メインビューカテゴリ ID	64 バイト以内	汎用 ID 文字のみ許可。 先頭及び最後に半角・全角空白文字不可。 両端の文字が空白以外の場合、半角・全角空白文字可。 “#”文字不可。
13	ビューアイテムグループ ID	64 バイト以内	汎用 ID 文字のみ許可。 先頭及び最後に半角・全角空白文字不可。 両端の文字が空白以外の場合、半角・全角空白文字可。 “#”文字不可。
14	メインペイン ID	64 バイト以内	汎用 ID 文字のみ許可。 先頭及び最後に半角・全角空白文字不可。 両端の文字が空白以外の場合、半角・全角空白文字可。
15	メインペインアイテム ID	64 バイト以内	汎用 ID 文字のみ許可。 先頭及び最後に半角・全角空白文字不可。 両端の文字が空白以外の場合、半角・全角空白文字可。
16	メインペインアイテムテキスト	1024 バイト以内	コントロールコードを含めてすべての文字列(改行なども可能)。 空文字可。
17	パーツ ID	64 バイト以内	汎用 ID 文字のみ許可。 先頭及び最後に半角・全角空白文字不可。 両端の文字が空白以外の場合、半角・全角空白文字可。
18	ルール条件 ID	64 バイト以内	汎用 ID 文字のみ許可。 先頭及び最後に半角・全角空白文字不可。 両端の文字が空白以外の場合、半角・全角空白文字可。
19	ルールセット ID	64 バイト以内	汎用 ID 文字のみ許可。 先頭及び最後に半角・全角空白文字不可。 両端の文字が空白以外の場合、半角・全角空白文字可。

項番	項目	文字長	文字条件
20	ルールアクション	30720 バイト以内	コントロールコードを含めてすべての文字列(改行なども可能)。 空文字可。
21	イベントビュー表示方法 ID	64 バイト以内	汎用 ID 文字のみ許可。 先頭及び最後に半角・全角空白文字不可。 両端の文字が空白以外の場合、半角・全角空白文字可。
22	リストカラム表示名称	64 バイト以内	コントロールコード以外。
23	リストセル	512 バイト以内	コントロールコード以外。 空文字可。
24	SMTP サーバー名	256 バイト以内	コントロールコード以外。 空文字可。
25	サーバーバックアップディレクトリ名	256 バイト以内	コントロールコード以外。 空文字可。
26	エクスポート/インポートファイル名 (ディレクトリ含む)	256 バイト以内	コントロールコード以外。 空文字可。
27	ルール ID	64 バイト以内	汎用 ID 文字のみ許可。 先頭及び最後に半角・全角空白文字不可。 両端の文字が空白以外の場合、半角・全角空白文字可。
28	パフォーマンスビュー表示方法 ID	64 バイト以内	汎用 ID 文字のみ許可。 先頭及び最後に半角・全角空白文字不可。 両端の文字が空白以外の場合、半角・全角空白文字可。
29	ノウハウ ID	64 バイト以内	汎用 ID 文字のみ許可。 先頭及び最後に半角・全角空白文字不可。 両端の文字が空白以外の場合、半角・全角空白文字可。
30	アクション名	64 バイト以内	汎用 ID 文字のみ許可。 先頭及び最後に半角・全角空白文字不可。 両端の文字が空白以外の場合、半角・全角空白文字可。
31	関連ビュー ID	64 バイト以内	汎用 ID 文字のみ許可。 先頭及び最後に半角・全角空白文字不可。 両端の文字が空白以外の場合、半角・全角空白文字可。

6.3 トラブルシューティング

ここでは、Senju Enterprise Navigator システムにおいて一般的に想定されるトラブルに対するシューティングのガイドラインについて述べます。

発生しやすいトラブルとして、まず以下の事象を確認して下さい。

- SEN サーバーとのネットワークは接続されているか。
- “SEN Process Manager”サービスが起動しているか。
- ルール処理が正常に動作しない場合、ルールセットの反映が行われているか。
- 表示および操作に時間がかかる場合、ログレベルが「詳細調査」または「トレース」レベルになっていないか。

表 6.3-1 トラブルシューティングガイドライン

項番	事象	想定される原因	対処
1	SEN サーバーにログインできない。	ユーザーIDが存在しない、またはパスワードが正しくない。	正しいユーザーID、パスワードを指定しログインして下さい。
		SEN サーバーとのネットワーク接続が切れている。	SEN サーバーとのネットワーク接続を復旧させて下さい。
		SEN サーバーのプロセスが停止している。	サービスから SEN Process Manager サービスが開始状態になっているか確認し、停止している場合はサービスを開始して下さい。
		SEN サーバーまたは SEN コンソールがインストールされた PC が稼働環境を満たしていない。	SEN サーバーまたは SEN コンソールがインストールされた PC の OS やサービスパックを確認して下さい。
		ENBASGlobalContext クラスの globalUV メンバまたは ENBASEvent クラスの uv メンバ、ENBASMainViewMPItem クラスの propUV メンバにオブジェクトを代入するルールを記述している。	SEN サーバーを再起動して下さい。SEN サーバーの起動・停止の詳細については、「 3.3.1 SEN サーバーの起動・停止 」を参照して下さい。
2	「SEN サーバーとの接続が切れました」というダイアログが表示される。	SEN サーバーとのネットワーク接続が切れている。	SEN サーバーとのネットワーク接続を復旧させて下さい。
		SEN サーバーのプロセスが停止している。	サービスから SEN Process Manager サービスが開始状態になっているか確認し、停止している場合はサービスを開始して下さい。
		クラスタ構成の SEN サーバーが現用系から待機系にフェールオーバーした。	SEN サーバーに再度ログインして下さい。
		ライセンスの有効期限が切れた。	新しいライセンスを購入して下さい。
3	イベントビューにイベント(メッセージ)が表示されない。	グループへの分配ルールが定義されていない。	ユーザーが所属するグループにイベントを分配する分配ルールを定義し、ルールセットの反映を実行して下さい。分配ルールの設定手順については、「 5.1.6 ルールの編集 」を参照して下さい。
		早期イベント破棄ルールが適用されている。	ルールの内容を確認し、問題があればルールを見直して下さい。
		イベントフィルタビューが設定されている。	イベントフィルタビューの内容を確認して、問題があれば設定を見直して下さい。
4	イベントビューに接続した各連携プロダクトからイベント(メッセ	接続先の各連携プロダクトが停止している。	接続先の各連携プロダクトが正常に稼働しているか確認して下さい。

項番	事象	想定される原因	対処
	ーシ)が表示されない。	接続設定が正しく行われていない。	各連携プロダクトとの接続設定を確認して下さい。 接続設定手順の詳細については、「インストールガイド」の「6.1 各種アダプタとの接続設定手順」を参照して下さい。
		購入したライセンス以上に連携アダプタの設定をしている。	追加ライセンスを購入して下さい。
		SNMPトラップ受信アダプタが起動していない。	SNMP-Trap ポートが他システムで使用されている場合、SNMPトラップ受信アダプタは起動しません。 SNMP-Trap ポートを使用する他システムが起動していないか確認して下さい。
5	イベントビューにメッセージが遅れて表示される。	SEN サーバーが高負荷状態になっている。	千手連携に関しては、不要なメッセージをフィルタリングするよう SEN コンフィグレートにて設定して下さい。 既に蓄積されたイベントに対する対処方法はありますが、不要なイベントを消去する事で今後のパフォーマンス改善に期待する事ができます。
6	イベントビューにコンテキストメニューからのイベントのステータス変更に時間がかかる。	SEN サーバーが高負荷状態になっている。	千手連携に関しては、不要なメッセージをフィルタリングするよう SEN コンフィグレートにて設定して下さい。 既に蓄積されたイベントに対する対処方法はありますが、不要なイベントを消去する事で今後のパフォーマンス改善に期待する事ができます。
7	イベントビューの表示方法変更による過去イベント取得で、対象とする過去イベントが取得できない。	過去イベントがすでに削除されている。 取得するイベントの上限に達したため、残りのイベントが表示されなかった。	一定期間および、一定の件数を越えた過去イベントは順次削除されます。 過去イベント取得では、グループに分配されたすべてのイベントを上限数まで取得します。そのため表示条件に合致するイベント以外のイベントを取得した時点でイベント数の上限に達した可能性があります。イベント取得期間を絞るか、イベント上限値を大きくして再度取得して下さい。
8	イベントビューのコンテキストメニューの関連ビュー表示で、関連するメインビューが表示されない。	ルールのアクションで、カレントイベントに対して addRelPage() で関連ページを定義していない。	addRelPage()メソッドによりイベントに関連づけるメインビューを定義して下さい。 addRelPage()メソッドの詳細については、「5.2.1 ルール内で参照可能な変数」を参照して下さい。
9	イベントビューのコンテキストメニューから[送る]->[メール受信者]を選択したとき、普段使用していないメーラーが起動される。	SEN コンソールでは MAPI デフォルトのメーラープログラムを起動します。	SEN コンソールから起動するメーラープログラムは MAPI の仕様に準拠している必要があります。
10	早期イベント破棄ルールによるイベントのフィルタリングがされない。	活性化条件によりルールが不活性化になっている。	活性化条件の内容を確認して下さい。
11	ルールのアクションで記述したメインペインアイテムのプロパティ変更ができない。	ルールのアクションにスクリプトエラーが存在する。 存在しないアイテムまたはプロパティに対して変更を行っている。	SEN サーバーログファイル(sjENB_Server.log)を参照し、ルール実行に関するエラーメッセージが出力されていないか確認して下さい。エラーがある場合は、Line No.からエラー箇所を特定し、アクションのスクリプトを正しく修正しルールセットの反映を実行して下さい。 メインペインアイテムまたはアイテムのプロパティへのパスを正しく指定し、ルールセットの反映を実行して下さい。ルール内でのメインペインアイテム、アイテムプロパティの指定方法の詳細は、「5.1.6 ルールの編集」を参照して下さい。
12	ルールのアクションでコマンド実行を指定してもコマンドが実行されない。	コマンドへのパスが通っていない。	execCommand()で指定するコマンドへのパスをフルパスで指定するか、コマンドへ

項番	事象	想定される原因	対処
	行されない。		のパスをシステム環境変数へ追加して下さい。execCommand メソッドの詳細については、「 5.2.1 ルール内で参照可能な変数 」を参照して下さい。
13	メインペインアイテムのコンテキストメニューからの関連イベント表示でイベントビューにイベントが表示されない。	ルールのアクションで、カレントイベントに対して addRelPage で関連ページを定義する際、メインペインアイテムを指定していない。	addRelPage()メソッドの関連ページ URL の最後に"#アイテム ID"を付けて、メインペインアイテムを指定して下さい。 addRelPage()メソッドの詳細については、「 5.2.1 ルール内で参照可能な変数 」を参照して下さい。
14	過去イベントの検索に時間がかかる。	SEN サーバーが高負荷状態になっている。 蓄積された過去イベントが大量にある。	千手連携に関しては、不要なメッセージをフィルタリングするよう SEN コンフィグレータにて設定して下さい。 既に蓄積されたイベントに対する対処方法はありますが、不要なイベントを消去する事で今後のパフォーマンス改善に期待する事ができます。
15	「Internal error(ENVCrypt::GetRandom)」というエラーが出てしまい、ログインすることができません。	OS の SP または IE のバージョンが、稼働環境を満たしていない可能性が高いです。	インストールされた SEN サーバー及び SEN コンソールの稼働環境を再度ご確認下さい。
16	「処理中です。少々お待ち下さい。」のダイアログが表示されたままになる。	SEN サーバーが高負荷状態になっている。	千手連携に関しては、不要なメッセージをフィルタリングするよう SEN コンフィグレータにて設定して下さい。 既に蓄積されたイベントに対する対処方法はありますが、不要なイベントを消去する事で今後のパフォーマンス改善に期待する事ができます。
		他の SEN コンソールからルールセットシミュレーションやバックアップが実行されている。	処理が終了するまでお待ち下さい。
17	ルールのアクションで電話呼び出しを指定しても電話呼び出しされない。	電話依頼コマンド (teldial.exe) の指定が間違っている。	SEN コンフィグレータの TELstaff 連携設定の電話依頼コマンドで指定しているコマンドの設定を再度ご確認下さい。
		連絡網グループ ID/連絡網 ID の指定が間違っている。	TELstaff サーバーの連絡網グループ ID/連絡網 ID の設定を再度ご確認下さい。
		発信制限が設定されている。	TELstaff サーバーの発信制限を変更して下さい。 TELstaff との連携については「 インストールガイド 」の「 6.1.8 TELstaff 連携アダプタとの接続設定手順 」を参照して下さい。

表 6.3-2 トラブルシューティングガイドライン (SEN Web サービス)

項番	事象	想定される原因	対処
1	SEN Web サービスにログインできない。	ユーザーIDが存在しない、またはパスワードが正しくない。	正しいユーザーID、パスワードを指定しログインして下さい。
		SEN サーバーとのネットワーク接続が切れている。	SEN サーバーとのネットワーク接続を復旧させて下さい。
		Web サービスのプロセスが停止している。	サービスから SEN Web Process Manager サービスが開始状態になっているか確認し、停止している場合はサービスを開始して下さい。
		Web サービスがインストールされた PC が稼働環境を満たしていない。	Web サービスがインストールされた PC の OS やサービスパックを確認して下さい。
2	メインビューを更新した内容が反映されない。	SEN サーバーとのネットワーク接続が切れている。	SEN サーバーとのネットワーク接続を復旧させて下さい。
3	最新のイベントが検索に該当しない。	SEN Web サービスのデータベースに最新のイベント情報が更新されていない。	SEN Web サービスにログインし直して下さい。
4	SEN Web サービスから行ったステータス変更が即時に反映されない。	SEN Web サービスのデータベースに最新のイベント情報が更新されていない。	SEN Web サービスにログインし直して下さい。
5	変更したロゴが反映されない。	Web ブラウザのキャッシュに変更前のロゴが残っている。	Web ブラウザのキャッシュを削除して下さい。
6	SEN Web サービスのログイン画面が表示されない。 (エラー画面が表示される)	SEN Web サービスのインストール後に .NET Framework 3.5 のインストールを行った。	コマンドプロンプトにて、以下のコマンドを実行して下さい。 %windir%\Microsoft.NET\Framework64\v4.0.30319\aspnet_regiis.exe /iru

6.4 構成プロセス一覧

表 6.4-1 に SEN サーバーを構成する常駐アダプタの一覧を記述します。区分が‘必須’のアダプタは必ず起動されるアダプタです。‘任意’のアダプタは必要に応じて起動されるアダプタです。

表 6.4-1 SEN サーバー構成プロセス一覧

番号	アダプタ名	区分	説明
1	sjENB_ProcMgr	必須	Senju Enterprise Navigator 管理プロセス 他の常駐アダプタの起動、停止、および稼働監視を行います。 SEN Process Manager サービスを構成するプロセスです。
2	sjENB_Server	必須	SEN サーバードメインプロセス SEN コンソールとの通信処理、イベントルール処理、各 I/F プロセスとの通信処理を行います。
3	sjENS_Pcc	任意	千手連携アダプタ 千手マネージャとの通信処理を行うアダプタです。接続する千手マネージャ(ドメイン)数分、起動されます。
4	sjENX_spd	任意	Senju Service Manager 連携アダプタ。 SEN サーバーから Senju Service Manager へインシデントやインシデント候補を送信するアダプタです。
5	sjENX_MailRcvd	任意	メール受信アダプタ メールサーバーからメールを受信するアダプタです。
6	sjENX_Trapd	任意	SNMPトラップ受信アダプタ SNMPトラップを受信するアダプタです。
7	sjENX_Syslogd	任意	シスログ受信アダプタ シスログを受信するアダプタです。
8	sjENX_EventRcvd	任意	イベント連携アダプタ イベント送信コマンドから送信されたイベントを受信し、SEN サーバーへイベントを転送するアダプタです。
9	sjENX_SavicNetEv30	任意	savic-netEV model30 メッセージ受信アダプタ savic-netEV model30 から NS-2232 経由でメッセージを受信するアダプタです。
10	sjENX_NMAcosExecd	任意	ACOS4 ホスト連携アダプタ(コマンド I/O モード) ACOS4 ホストへネットワークマネージャ経由でコマンドを投入するアダプタです。接続する LU 数分、起動されます。
11	sjENX_NMAcosRcvd	任意	ACOS4 ホスト連携アダプタ(メッセージ受信モード) ACOS4 ホストからネットワークマネージャ経由でメッセージを受信するアダプタです。接続する LU 数分、起動されます。
12	sjENX_MailSend	任意	メール送信アダプタ SEN サーバーから SMTP サーバーへメールを送信するアダプタです。
13	sjENX_TelCalld	任意	TELstaff 連携アダプタ SEN サーバーから TELstaff サーバーへ電話呼び出しを依頼するアダプタです。

なお千手連携アダプタ、メール送信アダプタ、TELstaff 連携アダプタは、以下の条件で自動再起動が行なわれます。

表 6.4-2 千手連携アダプタの自動再起動条件

内容	条件
千手マネージャー切断	千手マネージャとの切断が発生した場合に、再起動します。
SEN サーバーと切断	SEN サーバープロセスとの切断が発生した場合に、再起動します。

表 6.4-3 メール送信アダプタの自動再起動条件

内容	条件
SEN サーバーと切断	SEN サーバープロセスとの切断が発生した場合に、再起動します。

表 6.4-4 TELstaff 連携アダプタの自動再起動条件

内容	条件
SEN サーバーと切断	SEN サーバープロセスとの切断が発生した場合に、再起動します。

表 6.4-5 に SEN サーバーを構成する常駐アダプタの一覧を記述します。区分が‘必須’のアダプタは必ず起動されるアダプタです。‘任意’のアダプタは必要に応じて起動されるアダプタです。

表 6.4-5 SEN Web サービス構成プロセス一覧

番号	アダプタ名	区分	説明
1	sjENB_WsProcMgr	必須	Senju Enterprise Navigator Web 管理プロセス 他の常駐アダプタの起動、停止、および稼働監視を行います。 SEN Web Process Manager サービスを構成するプロセスです。
2	sjENB_WebSvr	必須	Web サーバーデーモン SEN サーバー、Web コンソールとの通信処理を行います。

6.5 Senju Service Automation の実行結果

表 6.5-1 にリクエストが処理されると Senju Service Manager に表示される実行結果の内容と各結果の説明を記述します。

なお、各出力内容の先頭には必ず以下の情報が付加されます。

“YYYY-MM-DD 24hh:mm:ss [申請の種類]”

[申請の種類] = ランブックオートメーション実行 | コマンド実行 | スキップ指定 |

スキップ解除 | 一時停止指定/解除 |

一時停止指定/解除(指定) | 一時停止指定/解除(解除) |

一時停止指定 | 一時停止解除 | 起動時刻変更 |

起動時刻変更 + 遅延監視時刻変更

また、出力場所とは Senju Service Manager の各リクエストの詳細画面に表示される項目の名称を指しています。

表 6.5-1 Senju Service Automation の実行結果一覧

項番	リクエストの内容	出力場所	出力内容	説明	対処
1	ランブックオートメーション実行 コマンド実行 一時停止指定、解除 一時停止指定/解除 スキップ指定、解除 起動時刻変更、起動時刻変更 + 遅延監視時刻変更	SEN 実行結果	リクエストを処理します。	Senju Enterprise Navigator から Senju Opration Conductor へリクエストが送信されました。	なし。
2	ランブックオートメーション実行 コマンド実行 一時停止指定、解除 一時停止指定/解除 スキップ指定、解除 起動時刻変更、起動時刻変更 + 遅延監視時刻変更	SEN 実行結果	キャンセルを受け付けました。	Senju Enterprise Navigator にてリクエストのキャンセルが検知されました。	なし。
3	ランブックオートメーション実行 コマンド実行 一時停止指定、解除 一時停止指定/解除 スキップ指定、解除 起動時刻変更、起動時刻変更 + 遅延監視時刻変更	SEN 実行結果	すでにリクエストを処理したためキャンセルできませんでした。	Senju Enterprise Navigator から Senju Opration Conductor 側へリクエストを送信された後だったのでキャンセル要求を却下しました。	なし。
4	ランブックオートメーション実行 コマンド実行 一時停止指定、解除 一時停止指定/解除 スキップ指定、解除 起動時刻変更、起動時刻変更 + 遅延監視時刻変更	SEN 実行結果	リクエスト内容に不正なデータが含まれているためリクエストを実行できませんでした。([カラム名]=[値])	リクエスト内容に不正なデータが含まれています。	カスタマーサポートへ連絡して下さい。

項番	リクエストの内容	出力場所	出力内容	説明	対処
5	ランブックオートメーション実行 コマンド実行 一時停止指定、解除 一時停止指定/解除 スキップ指定、解除 起動時刻変更、起動時刻変更+遅延監視時刻変更	SEN 実行結果	Senju Enterprise Navigator でリクエストが上限に達しているため、リクエストの処理を受け付けません。	Senju Enterprise Navigator の同時に受け付けられるリクエスト数が上限に達しています。	Senju Opration Conductor が起動していない、もしくは SEN サーバーが起動していない可能性があります。システム管理者へ連絡して下さい。
6	ランブックオートメーション実行 コマンド実行 一時停止指定、解除 一時停止指定/解除 スキップ指定、解除 起動時刻変更、起動時刻変更+遅延監視時刻変更	SEN 実行結果	Senju Operation Conductor への同時依頼数が上限に達しているため、リクエストの処理を行いません。	Senju Opration Conductor へ同時に送信できるリクエスト数が上限に達しています。	既に Senju Opration Conductor へ送信したリクエストの結果の返信が遅れている可能性があります。システム管理者へ連絡して下さい。
7	ランブックオートメーション実行 コマンド実行	SEN 実行結果	予約時間[YYYY-MM-DD HH:MM]を過ぎていますが、受付時間内[YYYY-MM-DD HH:MM~YYYY-MM-DD HH:MM]のリクエストのため処理を行います。	Senju Service Manager で指定された予約日時は過ぎていますが、SEN コンフィグレータの [Senju Service Automation 設定]→[高度な設定]タブ→「再起動中に予約日時を超過したリクエスト」で設定された時刻を加算すると未だ時間内のためリクエストがリカバリ実行されました。	なし。
8	一時停止指定/解除	SEN 実行結果	リクエスト実施中に指定のフレームが削除された可能性があります。	ジョブ一時停止指定/解除のリクエスト実施中に指定のジョブが存在するフレームが削除されました。	システム管理者へ連絡して下さい。
9	ランブックオートメーション実行 コマンド実行 一時停止指定、解除 一時停止指定/解除 スキップ指定、解除 起動時刻変更、起動時刻変更+遅延監視時刻変更	SEN 実行結果	Senju Enterprise Navigator の Senju Operation Conductor 連携機能が再起動されたためリクエストの結果を確認できませんでした。	リクエスト処理中に Senju Opration Conductor 連携アダプタが再起動したため、Senju Opration Conductor からリクエストの処理の結果が不明です。	システム管理者へ連絡して下さい。
10	ランブックオートメーション実行 コマンド実行 一時停止指定、解除 一時停止指定/解除 スキップ指定、解除 起動時刻変更、起動時刻変更+遅延監視時刻変更	SEN 実行結果	千手マネージャと接続できないためリクエストを処理できません。	Senju Opration Conductor 連携アダプタが千手マネージャと接続出来ていないため Senju Enterprise Navigator で受け付けているリクエストを処理できません。	システム管理者へ連絡して下さい。
11	ランブックオートメーション実行 コマンド実行 一時停止指定、解除 一時停止指定/解除 スキップ指定、解除 起動時刻変更、起動時刻変更+遅延監視時刻変更	ランブック実行結果 コマンド実行結果 フレーム・ネット・ジョブ 一時停止実行結果 フレーム・ネット・ジョブ スキップ実行結果 ネット・ジョブ起動時刻 変更実行結果	リクエストを処理しました。(終了コード)	Senju Opration Conductor からリクエストの結果を取得しました。	なし。
12	ランブックオートメーション実行 コマンド実行 一時停止指定、解除 一時停止指定/解除 スキップ指定、解除 起動時刻変更、起動時刻変更+遅延監視時刻変更	ランブック実行結果 コマンド実行結果 フレーム・ネット・ジョブ 一時停止実行結果 フレーム・ネット・ジョブ スキップ実行結果 ネット・ジョブ起動時刻 変更実行結果	リクエストの処理をキャンセルしました。	Senju Enterprise Navigator にてリクエストのキャンセルされました。	なし。

項番	リクエストの内容	出力場所	出力内容	説明	対処
13	ランブックオートメーション実行 コマンド実行 一時停止指定、解除 一時停止指定/解除 スキップ指定、解除 起動時刻変更、起動時刻変更+遅延監視時刻変更	ランブック実行結果 コマンド実行結果 フレーム・ネット・ジョブ 一時停止実行結果 フレーム・ネット・ジョブ スキップ実行結果 ネット・ジョブ起動時刻 変更実行結果	リクエストが受け付けられませんでした。	データ不正などの理由により登録されたリクエストが Senju Enterprise Navigator に受け付けられませんでした。	システム管理者へ連絡して下さい。
14	ランブックオートメーション実行 コマンド実行	ランブック実行結果 コマンド実行結果	指定された予約日時を超えているためリクエストを処理できませんでした。(受付可能日時 = YYYY-MM-DD hh:mm)	リクエストが処理されないまま予約日時を過ぎたため処理されませんでした。	Senju Opration Conductor が起動していない、もしくは SEN サーバーが起動していない可能性があります。システム管理者へ連絡して下さい。
15	ランブックオートメーション実行 コマンド実行 一時停止指定、解除 一時停止指定/解除 スキップ指定、解除 起動時刻変更、起動時刻変更+遅延監視時刻変更	ランブック実行結果 コマンド実行結果 フレーム・ネット・ジョブ 一時停止実行結果 フレーム・ネット・ジョブ スキップ実行結果 ネット・ジョブ起動時刻 変更実行結果	指定された予約日時/リミット日時が設定されている予約上限日時を超えているためリクエストを処理できませんでした。(受付可能日時 = YYYY-MM-DD hh:mm)	Senju Service Manager で指定された予約日時もしくはリミット日時が、SEN コンフィグデータの [Senju Service Automation 設定] → [高度な設定] タブ → 「予約可能な未来日付」で設定された日時を超えています。	Senju Enterprise Navigator の Senju Service Automation 設定を確認して下さい。
16	一時停止指定 一時停止指定/解除の指定 スキップ指定、解除 起動時刻変更、起動時刻変更+遅延監視時刻変更	フレーム・ネット・ジョブ 一時停止実行結果 フレーム・ネット・ジョブ スキップ実行結果 ネット・ジョブ起動時刻 変更実行結果	指定されたリミット日時を超えましたがリクエストを処理できませんでした。	リクエストが処理されないままリミット日時を過ぎたため処理されませんでした。	Senju Opration Conductor が起動していない、もしくは SEN サーバーが起動していない可能性があります。システム管理者へ連絡して下さい。
17	ランブックオートメーション実行	ランブック実行結果	本日有効なブックが存在しないためリクエストを処理できませんでした。([ブック名])	指定のブック名が存在しないか、指定した日付ではブックが無効の可能性があります。	Senju Opration Conductor のランブックオートメーション機能の定義内容を確認して下さい。
18	ランブックオートメーション実行	ランブック実行結果	指定したランブックはすでに起動しており抑止時間内のためブックの起動が抑止されました。([ブック名])	ランブックオートメーションの実行抑止機能が稼働したため指定のランブックを起動できませんでした。	Senju Opration Conductor のランブックオートメーション機能の設定内容を確認して下さい。
19	ランブックオートメーション実行	ランブック実行結果	ランブックオートメーションは Senju Opration Conductor V10.0.0 以上で利用できる機能です。([Senju Opration Conductor のバージョン])	Senju Operation Conducotr V3.0 以前ではランブックオートメーションを利用することができません。	Senju Enterprise Navigator が接続している Senju Opration Conductor のバージョンを確認して下さい。
20	一時停止指定 一時停止指定/解除の指定 スキップ指定、解除 起動時刻変更、起動時刻変更+遅延監視時刻変更	フレーム・ネット・ジョブ 一時停止実行結果 フレーム・ネット・ジョブ スキップ実行結果 ネット・ジョブ起動時刻 変更実行結果	指定されたリミット日時までに運用日付もしくはフレームが生成されなかったためリクエストを処理できませんでした。	指定されたフレーム、または指定されたジョブ/ネットを含むフレームがリミット日時までに投入されなかったためリクエストを処理できませんでした。	Senju Opration Conductor のジョブスケジュール機能の設定内容を確認して下さい。
21	一時停止指定、解除 一時停止指定/解除 スキップ指定、解除 起動時刻変更、起動時刻変更+遅延監視時刻変更	フレーム・ネット・ジョブ 一時停止実行結果 フレーム・ネット・ジョブ スキップ実行結果 ネット・ジョブ起動時刻 変更実行結果	指定されたシステムが存在しないためリクエストを処理できませんでした。([システム名])	指定されたシステムが定義されていないのでリクエストを処理できません。	Senju Opration Conductor のジョブスケジュール機能の定義内容を確認して下さい。

項番	リクエストの内容	出力場所	出力内容	説明	対処
22	一時停止指定、解除 一時停止指定/解除 スキップ指定、解除 起動時刻変更、起動時刻変更+遅延監視時刻変更	フレーム・ネット・ジョブ 一時停止実行結果 フレーム・ネット・ジョブ スキップ実行結果 ネット・ジョブ起動時刻 変更実行結果	指定されたネットが存在しないためリクエストを処理できませんでした。([ネット名])	指定されたネットが定義されていないのでリクエストを処理できません。	Senju Opration Conductor のジョブスケジュール機能の定義内容を確認して下さい。
23	一時停止指定、解除 一時停止指定/解除 スキップ指定、解除 起動時刻変更、起動時刻変更+遅延監視時刻変更	フレーム・ネット・ジョブ 一時停止実行結果 フレーム・ネット・ジョブ スキップ実行結果 ネット・ジョブ起動時刻 変更実行結果	指定されたジョブが存在しないためリクエストを処理できませんでした。([ジョブ名])	指定されたジョブが定義されていないのでリクエストを処理できません。	Senju Opration Conductor のジョブスケジュール機能の定義内容を確認して下さい。
24	一時停止解除 一時停止指定/解除	フレーム・ネット・ジョブ 一時停止実行結果	指定された予約日時までに運用日付もしくはフレームが生成されていないためリクエストを処理できませんでした。	指定されたジョブを含むフレームが予約日時までに投入されなかったのでリクエストを処理できませんでした。	Senju Opration Conductor のジョブスケジュール機能の設定内容を確認して下さい。
25	ランプックオートメーション実行 コマンド実行 一時停止指定、解除 一時停止指定/解除 スキップ指定、解除 起動時刻変更、起動時刻変更+遅延監視時刻変更	ランプック実行結果 コマンド実行結果 フレーム・ネット・ジョブ 一時停止実行結果 フレーム・ネット・ジョブ スキップ実行結果 ネット・ジョブ起動時刻 変更実行結果	申請の実施結果が確認できませんでした。	リクエスト処理中に Senju Opration Conductor 連携アダプタが再起動したため、Senju Opration Conductor からリクエストの処理の結果が不明です。	システム管理者へ連絡して下さい。

6.6 コマンドリファレンス

6.6.1 イベント送信コマンド

指定形式

```
sjENX_SendEvent -M | -E | -F ファイル名
-s SEN サーバー名 [-p ポート番号] [-d ドメイン名] [-n 管理対象システム名]
[-q メッセージ識別 No] [-h 発生元ノード ID] [-a 発生元 APPL 名]
[-t 発生日時] -l メッセージ種別 -c メッセージ ID -m メッセージテキスト
[-u1 ユーザー定義値1] [-u2 ユーザー定義値2] [-u3 ユーザー定義値3]
-f フォルダ名 -c クラス名 [-k ユニークキー] -v フィールド名 フィールド値
[-r 送信種別] [--help] [-y 同期モードの指定]
```

目的

イベント連携アダプタ経由で SEN サーバーへメッセージまたはイベントを送信します。

オプション

- -E | -M | -F ファイル名

送信モードを設定します。

第一引数には -M | -E | -F の何れかを必ず指定して下さい。

-E を指定するとユーザー指定イベント送信モード(以下イベント送信モード)に、-M を指定するとカスタムメッセージイベント送信モード(以下メッセージ送信モード)に、-F を指定するとファイルからの一括送信モード(以下ファイルモード)になります。

ファイルモードの場合 -F オプションの後に読み込み対象ファイル名(以下コマンドシーケンス定義ファイル)をフルパスで指定して下さい。コマンドシーケンス定義ファイルとは、イベント送信モード、メッセージ送信モードのコマンドシーケンスが 1 行毎に記載されているテキスト形式のファイルです。以下、コマンドシーケンス定義ファイルの例を示します。

(例)コマンドシーケンス定義ファイル

```
sjENX_SendEvent -E -c 千手メッセージ -v "メッセージテキスト" "senju"
sjENX_SendEvent -E -c メッセージ -v "メッセージテキスト" "syslog"
sjENX_SendEvent -M -l I -c TEST001 -m "THIS IS A TEST MESSAGE1."
sjENX_SendEvent -M -l I -c TEST002 -m "THIS IS A TEST MESSAGE2."
sjENX_SendEvent -M -l I -c TEST003 -m "THIS IS A TEST MESSAGE3."
```

また、コマンドシーケンス定義ファイル内では、-s、-p、-d、-f の引数が無効になるので、必ずオプションから指定して下さい。

- **SEN サーバー名**
SEN サーバーが稼働するノードのホスト名または IP アドレスを指定します。
省略する事はできません。
- **ポート番号**
接続先のイベント連携アダプタのポート番号を指定します。省略した場合は、
イベント連携アダプタを経由せず、直接 SEN サーバーにイベントが送信され
ます。
- **ドメイン名**
ドメイン名を指定します。メッセージ送信モードの場合、「管理対象領域名」プ
ロパティにも設定されます。省略した場合は、コマンドを実行したノードのホスト
名が設定されます。ファイルモードの場合、ドメイン名を指定した場合は、指定
したドメイン名が設定されます。「管理対象領域名」プロパティにも設定されま
す。イベント受信アダプタで送信した場合、ドメイン名はイベント受信連携アダ
プタで設定したドメイン名となります。
- **管理対象システム名(メッセージ送信モードのみ)**
カスタムメッセージイベントの「管理対象システム名」プロパティに設定する値を
指定します。省略した場合は、「アダプタ(イベント送信コマンド)」が設定されま
す。
- **メッセージ識別 No(メッセージ送信モードのみ)**
カスタムメッセージイベントの「メッセージ識別 No」プロパティに設定する値を
指定します。省略した場合は、0 が設定されます。
- **発生元ノード ID(メッセージ送信モードのみ)**
カスタムメッセージイベントの「発生元ノード ID」プロパティに設定する値を指
定します。省略した場合は、コマンドを実行したノードのホスト名が設定されま
す。
- **発生元アプリケーション名(メッセージ送信モードのみ)**
カスタムメッセージイベントの「発生元アプリケーション名」プロパティに設定す
る値を指定します。省略した場合は、「sjENX_SendEvent」が設定されます。
- **発生日時(メッセージ送信モードのみ)**
カスタムメッセージイベントの「発生日時」プロパティに設定する値を指定しま
す。省略した場合は、「YYYY-MM-DD hh:mm:ss」形式でコマンドを実行した
ノードのローカルタイムが設定されます。
- **メッセージ種別(メッセージ送信モードのみ)**
カスタムメッセージイベントの「メッセージ種別」プロパティに設定する値を指定
します。省略する事はできません。
- **メッセージ ID(メッセージ送信モードのみ)**
カスタムメッセージイベントの「メッセージ ID」プロパティに設定する値を指定し
ます。省略する事はできません。

- メッセージテキスト(メッセージ送信モードのみ)
カスタムメッセージイベントの「メッセージテキスト」プロパティに設定する値を指定します。省略する事はできません。
- ユーザー定義値 1(メッセージ送信モードのみ)
カスタムメッセージイベントの「ユーザー定義値 1」プロパティに設定する値を指定します。省略した場合には、空文字列が設定されます。
- ユーザー定義値 2(メッセージ送信モードのみ)
カスタムメッセージイベントの「ユーザー定義値2」プロパティに設定する値を指定します。省略した場合には、空文字列が設定されます。
- ユーザー定義値 3(メッセージ送信モードのみ)
カスタムメッセージイベントの「ユーザー定義値3」プロパティに設定する値を指定します。省略した場合には、空文字列が設定されます。
- フォルダ名(イベント送信モード及びファイルモードのみ)
クラス定義ファイルが格納されたフォルダをフルパスで指定します。省略する事はできません。
- クラス名(イベント送信モードのみ)
イベントのクラス名を指定します。省略する事はできません。
- ユニークキー(イベント送信モードのみ)
送信するイベントクラスのユニークキーを指定します。同じイベントクラスで同じユニークキーを指定した場合、新しい SEN イベントシーケンスは振られません。省略した場合には、コマンド内で自動生成し、ユニークキーを設定します。
- フィールド名・フィールド値(イベント送信モードのみ)
イベントのフィールド名と値を指定します。フィールド名とフィールド値は必ず対で指定します。省略する事はできません。
- 送信種別(ファイルモードのみ)
ファイルモードにて一括送信する際に、送信するコマンドシーケンス群の一部にエラーがあった場合の動作を指定します。`interrupt` と `continue` が指定でき、`interrupt` はエラーのコマンドシーケンスを含め残り全てをエラーとします。`continue` はエラーのコマンドシーケンスのみをエラーとし、他のコマンドシーケンスは実行されます。
- `--help`
`usage` を表示します。
- 同期モードの指定
イベント送信コマンドを同期モードで動作させる場合に指定します。省略した場合は、イベント送信コマンドは非同期で動作します。



送信されたイベントが制限値を超えた場合、SEN Web サービスに接続できません。制限値については[6.2 制限事項]を参照して下さい。

実行結果

(例)メッセージ送信モード

```
C:¥ SEN>sjENX_SendEvent -M -s senserver -p portno -l l -c !SEN999 -m "ジョブが完了しました。"
送信に成功しました。(sjENX_SendEvent -M -s senserver -p portno -l l -c !SEN999 -m "ジョブが完了しました。")
C:¥SEN>
```

(例)イベント送信モード

```
C:¥SEN>sjENX_SendEvent -E -s senserver -p portno -f "C:¥SEN" -c テストイベント -v "フィールド 1" "値 1" -v "フィールド 2" "値 2"
送信に成功しました。(sjENX_SendEvent -E -s senserver -p portno -f "C:¥SEN" -c "テストイベント" -v "フィールド 1" "値 1" -v "フィールド 2" "値 2")
C:¥SEN>
```

(例)ファイルモード

以下ファイルモードの実行結果例は、オプションの項で示したコマンドシーケンス定義ファイルを指定しています。

```
C:¥SEN>sjENX_SendEvent -F ".¥CommandSequenceDefine.txt" -f "C:¥SEN" -r interrupt -s senserver -p portno
送信に成功しました。(sjENX_SendEvent -E -s "senserver" -p "portno" -f "C:¥SEN" -c "千手メッセージ" -v "メッセージテキスト" "senju")
送信に成功しました。(sjENX_SendEvent -E -s "senserver" -p "portno" -f "C:¥SEN" -c "メッセージ" -v "メッセージテキスト" "syslog")
送信に成功しました。(sjENX_SendEvent -M -s "senserver" -p "portno" -l "l" -c "TEST001" -m "THIS IS A TEST MESSAGE1.")
送信に成功しました。(sjENX_SendEvent -M -s "senserver" -p "portno" -l "l" -c "TEST002" -m "THIS IS A TEST MESSAGE2.")
送信に成功しました。(sjENX_SendEvent -M -s "senserver" -p "portno" -l "l" -c "TEST003" -m "THIS IS A TEST MESSAGE3.")
C:¥SEN>
```

標準エラー出力

終了コードに即したメッセージを出力します。

終了コード

終了コードを以下に示します。

表 6.6-1 終了コード

終了コード	出力	内容
0	送信に成功しました。(ユーザー指定値)	イベントの送信が完了し、処理を終了しました。
1	コマンドオプションの指定に誤りがあります。(エラー詳細)(ユーザー指定値)	不正なコマンドオプションが指定されました。
2	SEN サーバー名が指定されていません。(ユーザー指定値)	SEN サーバー名が指定されていません。
3	SEN サーバー名は、31 バイト以内で指定して下さい。(ユーザー指定値)	指定された SEN サーバー名が長過ぎます。
4	ポート番号は、1～65535 の範囲で指定して下さい。(ユーザー指定値)	指定されたポート番号が不正です。

終了コード	出力	内容
6	SEN サーバーが見つかりません。(エラー詳細)(ユーザー指定値)	指定した SEN サーバーが見つかりません。
7	SEN サーバーへ接続出来ませんでした。(エラー詳細)(ユーザー指定値)	SEN サーバープロセスが起動していない、または送信元のソケット資源を使い切っている可能性があります。
8	SEN サーバーへの接続処理中にタイムアウトしました。(ユーザー指定値)	指定した送信待ち時間内に送信処理が完了しませんでした。
10	メッセージ識別 No は、0～9223372036854775807 の範囲で指定してください。(ユーザー指定値)	指定したメッセージ識別 No が不正です。
11	メッセージ種別が指定されていません。(ユーザー指定値)	メッセージ種別が指定されていません。
12	メッセージ種別は、1 バイト以内で指定してください。(ユーザー指定値)	指定したメッセージ種別が長すぎます。
13	メッセージ ID が指定されていません。(ユーザー指定値)	メッセージ ID が指定されていません。
14	メッセージ ID は、31 バイト以内で指定してください。(ユーザー指定値)	指定したメッセージ ID が長すぎます。
15	メッセージテキストが指定されていません。(ユーザー指定値)	メッセージテキストが指定されていません。
20	クラス定義ファイル格納フォルダ名を指定してください。(ユーザー指定値)	クラス定義ファイル格納フォルダ名が指定されていません。
22	ユニークキーは、128 バイト以内で指定してください。(ユーザー指定値)	指定したユニークキーが長すぎます。
23	送信区分は、0～3 の範囲で指定してください。(ユーザー指定値)	指定した送信区分が不正です。
24	クラス名を指定してください。(ユーザー指定値)	送信するイベントのクラス名が指定されていません。
27	指定されたフィールドは、クラス「ユーザー指定値」のメンバではありません。(ユーザー指定値)	指定したフィールド名が指定したクラスのフィールドではありません。
28	指定されたフィールドがクラス定義ファイル格納フォルダ「ユーザー指定値」から見つかりませんでした。(ユーザー指定値)	指定したフィールドの定義が指定したフォルダ内に見つかりません。
29	指定されたフィールドは、送信サポート対象外です。(ユーザー指定値)	指定したフィールドの定義は送信対象ではありません。
30	指定されたクラスがクラス定義ファイル格納フォルダ「ユーザー指定値」からみつかりませんでした。(ユーザー指定値)	指定したクラスの定義が指定したフォルダ内に見つかりません。
35	コマンドシーケンス定義ファイルの読み込みに失敗しました。(ユーザー指定値)	指定したコマンドシーケンス定義ファイルが不正です。
36	指定されたクラス定義ファイル格納フォルダ名は、不正なクラス定義ファイルが含まれているかクラス定義ファイルが存在しません。(ユーザー指定値)	指定したクラス定義ファイル格納フォルダ名が不正です。
37	稼働条件定義ファイルの読み込みに失敗しました。(エラー詳細)(ユーザー指定値)	指定した稼働条件定義ファイルが不正です。
38	ファイルモード読み込み対象のコマンドシーケンス定義ファイルとリカバリ出力対象のファイル名が同じです。コマンドシーケンス定義ファイルはリカバリ出力対象以外のファイルを指定して下さい。(ユーザー指定値)	指定したコマンドシーケンス定義ファイルとリカバリ出力対象ファイル名が同じです。
99	システムエラーが発生しました。(エラー詳細)	システムエラーが発生しました。



引数で同じフィールドを複数指定した場合、後に記述した値が有効になります。

<例>

以下のような場合、"ノードグループ ID"には"senju2"が設定されます。

```
sjENX_SendEvent -E -s senserver -p portnp -f "C:\SEN" -c 千手ノード定義 -v  
"ノードグループ ID" "senju1" -v "ノードグループ ID" "senju2"
```

稼働条件定義ファイル

稼働条件定義ファイルを使用する事により、運用要件に応じてイベント送信コマンドの基本設定を変更する事が可能です。稼働条件定義ファイルで変更可能な設定項目は以下となります。

- A) ログ出力設定
- B) リカバリファイル出力設定
- C) 接続先イベント連携アダプタのポート番号
- D) 送信完了待ち時間
- E) ファイルモード時の一括送信数
- F) コマンドシーケンスの引用符

稼働条件定義ファイルには、オプションで指定可能な各種設定のデフォルト値を設定する事ができます。デフォルト値を設定しておくことでコマンドシーケンスの記述が簡略化できます。

- G) デフォルト設定



上記 A~F の設定項目は、通常変更する必要はありません。特殊な運用要件で使用する場合にのみ変更して下さい。

稼働条件定義ファイルは、Senju Enterprise Navigator インストールディスクの %SENSVHOME%\dat\%enx%\sendEvent ディレクトリまたは %SENSTHOME%\dat\%enx%\sendEvent ディレクトリの稼働条件定義ファイルのサンプル sjENX_SendEventConf.xml.txt を sjENX_SendEventConf.xml に名前を変更して作成して下さい。

なお、環境変数 %SENSVHOME% は SEN サーバーの導入ディレクトリ、%SENSTHOME% は SEN サテライトの導入ディレクトリに相当します。

稼働条件定義ファイルは、以下の順序で優先し読み込まれます。

- (1) %SENSVHOME%\dat\%enx%\sendEvent ディレクトリ
- (2) %SENSTHOME%\dat\%enx%\sendEvent ディレクトリ
- (3) イベント送信コマンドと同じディレクトリ

稼働条件定義ファイルは以下の表に示す内容に従い編集して下さい。

表 6.6-2 稼働条件定義ファイル

項番	タグ名	属性名	省略	内容
1	baseSetting		可能	上記 A～F の基本設定の最上位タグです。 タグ全体省略可能です。 内容値はありません。
2		logLevel	可能	ログレベルを表す属性です。 属性値には 0～8 の範囲でレベルを設定します。 省略した場合は 6 が設定されます。
3		logSize	可能	ログ1世代のサイズを表す属性です。 属性値には 1024～UINT の最大値の範囲でサイズを指定します。 単位は Byte です。 省略した場合は 1048576 が設定されます。
4		logBackup	可能	ログの世代数を表す属性です。 属性値には 1～1024 の最大値の範囲で世代数を指定します。 省略した場合は 7 が設定されます。
5		recoveryLevel	可能	リカバリレベルを表す属性です。 属性値には 0～1 の範囲でレベルを設定します。 0 を指定した場合はエラーが起きてもリカバリファイルは出力されません。1 を指定した場合はエラーが起きた場合リカバリファイルが出力されます。 省略した場合は 0 が設定されます。
6		recoverySize	可能	リカバリファイル1世代のサイズを表す属性です。 属性値には 1024～UINT の最大値の範囲でサイズを指定します。 単位は Byte です。 省略した場合は 1048576 が設定されます。
7		recoveryBackup	可能	リカバリファイルの世代数を表す属性です。 属性値には 1～1024 の最大値の範囲で世代数を指定します。 省略した場合は 7 が設定されます。
8		recoveryFilePath	可能	リカバリファイルの出力場所を表す属性です。 属性値にはログを出力したいディレクトリを指定します。相対パスで指定した場合はイベント送信コマンドが稼働しているディレクトリがカレントディレクトリとなります。 省略した場合はカレントディレクトリとなります。
9		port	可能	送信先ポート番号を表す属性です。 属性値には 1～65535 の範囲で番号を指定して下さい。 省略した場合は 8445 が設定されます。
10		waitTime	可能	送信確認待ち時間を表す属性値です。 属性値には 0～1800 の範囲で時間を指定します。 単位は秒です。 0 を指定した場合は送信が完了するまで待ち続けます。 省略した場合は 600 が設定されます。
11		transmissionsNum	可能	ファイルモード時の一括送信数を表す属性です。 属性値には 1～INT の最大値の範囲で送信数を指定して下さい。 省略した場合は 10 が設定されます。
12		cmdSeqQuotes	可能	コマンドシーケンスの引用符を表す属性です。 属性値には引用符として利用する文字または文字列を指定します。 引用符にハイフン「-」は指定できません。 省略した場合(空「””」の場合も含む)は一般的な”(ダブルクォート)が設定されます。
13		comment	可能	稼働条件定義ファイルのコメントを表す属性です。 属性値にはコメントを指定します。 特に動作には影響ありません。

項番	タグ名	属性名	省略	内容
14		lastUpdate	可能	稼働条件定義ファイルの最終更新日時を表す属性です。 属性値には最終更新日時を指定します。 特に動作には影響ありません。
15	defaultSetting		可能	上記 G のデフォルト設定の最上位タグです。 オプションが指定されている場合はタグ全体省略可能です。 内容値はありません。
16		defaultMode	可能	モード ("M" or "E" or "F") を表す属性です。 属性値には、"M"、"E"、"F" の何れか指定します。 オプションが指定されている場合は省略可能です。
17		serverName	可能	送信先 SEN サーバー名を表す属性です。 属性値には SEN サーバー名を指定します。 オプションが指定されている場合は省略可能です。
18		domainName	可能	ドメイン名を表す属性です。 属性値にはドメイン名を指定します。 省略した場合はオプション省略時の動作に従います。
19	modeSetting		可能	モード別稼働条件設定の最上位タグです。 defaultSetting タグ内に定義されます。 オプションが指定されている場合はタグ全体省略可能です。 内容値はありません。
20	messageMode		可能	メッセージ送信モードに依存した設定の最上位タグです。 modeSetting タグ内に定義されます。 オプションが指定されている場合はタグ全体省略可能です。 内容値はありません。
21		systemName	可能	管理対象システム名を表す属性です。 属性値には管理対象システム名を指定します。 省略した場合はオプション省略時の動作に従います。
22		msgIdentificationNum	可能	メッセージ識別 No を表す属性です。 属性値には 0~INT64 の最大値の範囲で識別番号を指定します。 省略した場合はオプション省略時の動作に従います。
23		nodeId	可能	発生元ノード ID を表す属性です。 属性値にはノード ID を指定します。 省略した場合はオプション省略時の動作に従います。
24		applName	可能	発生元 APPL 名を表す属性です。 属性値にはアプリケーション名を指定します。 省略した場合はオプション省略時の動作に従います。
25		date	可能	発生日時を表す属性です。 属性値には「YYYY-MM-DD hh:mm:ss」の形式で日時を指定します。 省略した場合はオプション省略時の動作に従います。
26		msgType	可能	メッセージ種別を表す属性です。 オプションが指定されている場合は省略可能です。
27		msgId	可能	メッセージ ID を表す属性です。 属性値にはメッセージ ID を指定します。 オプションが指定されている場合は省略可能です。
28		msgText	可能	メッセージテキストを表す属性です。 属性値にはメッセージテキストを指定します。 オプションが指定されている場合は省略可能です。
29		userDefine1	可能	ユーザー定義値1を表す属性です。 属性値には「ユーザー定義値1」プロパティに設定する値を指定します。 省略した場合はオプション省略時の動作に従います。

項番	タグ名	属性名	省略	内容
30		userDefine2	可能	ユーザー定義値2を表す属性です。 属性値には「ユーザー定義値2」プロパティに設定する値を指定します。 省略した場合はオプション省略時の動作に従います。
31		userDefine3	可能	ユーザー定義値3を表す属性です。 属性値には「ユーザー定義値3」プロパティに設定する値を指定します。 省略した場合はオプション省略時の動作に従います。
32	eventMode		可能	イベント送信モードに依存した設定の最上位タグです。 modeSetting タグ内に定義されます。 オプションが指定されている場合はタグ全体省略可能です。 内容値はありません。
33		classDefinitionFilePath	可能	クラス定義ファイル格納フォルダを表す属性です。 属性値にはクラス定義ファイルが格納されているディレクトリ名を指定します。相対パスで指定した場合はコマンドを実行したディレクトリがカレントディレクトリとなります。 オプションが指定されている場合は省略可能です。 ファイルモード時にも参照されます。
34		defaultClassName	可能	イベント送信モードで送信されるクラス名を表す属性値です。 属性値にはクラス名を指定します。 ここに指定した値と同様の className 属性値を持つ classFields タグが有効になります。 オプションが指定されている場合は省略可能です。
35	classFields		可能	イベント別の「フィールド名/フィールド値」群の最上位タグです。 eventMode タグ内に定義され、イベントクラス毎に1つずつ複数定義されます。 オプションが指定されている場合はタグ全体省略可能です。 内容値はありません。
36		className	可能	「フィールド名/フィールド値」群のクラス名を表す属性値です。 属性値にはクラス名を指定します。 省略した場合は、この属性を持つ classFields タグが無効になります。 オプションが指定されている場合は省略可能です。
37		uniqueKey	可能	「フィールド名/フィールド値」群のユニークキーを表す属性です。 属性値にはユニークキーを指定します。 省略した場合はオプション省略時の動作に従います。
38		transmissionDivision	可能	「フィールド名/フィールド値」群の送信区分を表す属性値です。 属性値には下記意味を持つ 0~3 の値を指定します。 0: EFFECT_NEW 1: EFFECT_DELETE 2: EFFECT_MODIFY 3: EFFECT_NEW_OR_MODIFY 省略した場合は 3 が設定されます。
39	field		可能	フィールド名とフィールド値設定の最上位タグです。 classFields タグ内に定義され、フィールド毎に1つずつ複数定義されます。 内容値にはフィールド値となる値を指定します。 オプションが指定されている場合は省略可能です。
40		name	不可	フィールド名を表す属性です。 属性値にはフィールド名を指定します。 フィールド名とフィールド値は必ず対で指定します。

項番	タグ名	属性名	省略	内容
41	fileMode		可能	ファイルモードに依存した設定の最上位タグです。 modeSetting タグ内に定義されます。 オプションが指定されている場合はタグ全体省略可能です。 内容値はありません。
42		fileName	可能	コマンドシーケンス定義ファイル名を表す属性です。 属性値にはコマンドシーケンス定義ファイル名をパスを含めて指定します。相対パスで指定した場合はイベント送信コマンドが稼働しているディレクトリがカレントディレクトリとなります。 オプションが指定されている場合はタグ全体省略可能です。
43		transmissionType	可能	ファイルモードにて一括送信する際に送信するコマンドシーケンス群の一部にエラーがあった場合の動作を表す属性です。 属性値には、"interrupt"又は"continue"を指定します。 "interrupt"はエラーがあった場合に以降のコマンドシーケンス送信を中断しエラーのあったコマンドシーケンスを含め残り全てをエラーとして扱います。 "continue"はエラーがあった場合でも中断せず残りも継続して送信していきます。当然エラーとなったものはログや標準エラーに分かる様に出力されます。 省略した場合は interrupt が設定されます。



コマンドシーケンスの引用符にダブルコーテーション「"」を指定する場合、シングルコーテーションにて指定(cmdSeqQuotes="")もしくは、エスケープ文字を使用(cmdSeqQuotes=""")して下さい。



コマンドシーケンスの引用符をシングルコーテーション「'」で指定する場合、下記の半角符号に対してエスケープが必要です。
「^」、「&」、「<」、「>」、「|」
※^でエスケープして下さい。

(例) コマンドシーケンスの引用符をシングルコーテーション「'」で指定

```
C:¥SEN>sjENX_SendEvent -E -s localhost -c 千手メッセージ -f '%SENSVHOME%dat¥class'
-v 'メッセージテキスト' 'ジョブ<JOB001>^&<JOB002>'の ID が許可されている最大整数は
2^16-1'内容は整数ではありません'
送信に成功しました。(sjENX_SendEvent -E -s localhost -c 千手メッセージ -f 'C:¥P
rogram Files (x86)¥SEN¥Server¥dat¥class' -v 'メッセージテキスト' 'ジョブ<JOB001>
&<JOB002>'の ID が許可されている最大整数は 2^16-1'内容は整数ではありません')
C:¥SEN>
```

6.6.2 Telnet 連携コマンド

指定形式

```
sjENX_Telnet -s Telnet サーバー名 -i 接続情報 ID
```

目的

Telnet サーバーに接続し、コマンドの実行結果を取得します。

オプション

- Telnet サーバー名
接続先 Telnet サーバーのホスト名または IP アドレスを指定します。省略する事はできません。
- 接続情報 ID
Telnet サーバー接続設定の接続情報 ID を指定します。SEN コンフィグレータにて Telnet サーバーとの接続設定時に指定する接続情報 ID です。詳細は、「インストールガイド」の「6.1.11.1.1 SEN コンフィグレータにおける設定」を参照して下さい。省略する事はできません。

実行結果

(例)ls コマンドの実行

```
C:¥SEN> sjENX_Telnet -s TelnetServer -i conf01
sjENX_Telnet -s TelnetServer -i conf01

Red Hat Linux release 6.2 (Zoot)
Kernel 2.2.14-5.0 on an i686
login:
guest
Password:

%
ls
as86  grub-0.5.96.1      lilo-21.5  mbr      old_grub
bin86 grub-0_5_96_1_tar.gz lilo-21.6  nsmail
C:¥SEN>
```

標準エラー出力

終了コードに即したメッセージを出力します。

終了コード

終了コードを以下に示します。

表 6.6-3 終了コード

終了コード	出力	内容
0	実行結果。	Telnet サーバーから受信したデータ。
1	sjENX_Telnet.exe: コマンドオプションが指定されていません。	コマンドオプションが指定されていません。
2	sjENX_Telnet.exe: コマンドオプションの指定に誤りがあります。(ユーザー指定値)	不正なコマンドオプションが指定されました。
3	sjENX_Telnet.exe: 環境変数の取得に失敗しました。(SENSVHOME)	環境変数「%SENSVHOME%」が見つかりません。
4	sjENX_Telnet.exe: 定義ファイルの読み込みに失敗しました。(Telnet 連携定義ファイル名)	Telnet 連携定義ファイルの読み込みに失敗しました。
5	sjENX_Telnet.exe: 稼働定義ファイルの内容に誤りがあります。(エラーメッセージ)	Telnet 連携定義ファイルの記述に誤りがあります。
6	sjENX_Telnet.exe: サーバーに接続できません。(エラーメッセージ)	指定された Telnet サーバーに接続できませんでした。
7	sjENX_Telnet.exe: 通信がタイムアウトしました。	Telnet サーバーと通信中、一定期間応答が途絶えました。
8	sjENX_Telnet.exe: データの送受信に失敗しました。(エラーメッセージ)	Telnet サーバーへのデータの送信、又は Telnet サーバーからのデータの受信に失敗しました。
9	sjENX_Telnet.exe: 予期せぬエラーが発生しました。(エラーメッセージ)	フィールド名またはフィールド値が指定されていません。
10	sjENX_Telnet.exe: 予期せぬエラーが発生しました。(エラーメッセージ)	システムエラーが発生しました。

6.6.3 イベントファイル変換コマンド

指定形式

```
sjENU_ConvertEvent -s 開始日時 -e 終了日時 -c クラス名 -o 出力ファイル名  
-v イベントファイルフォルダ [-g ユーザーグループ名] [-f クラス定義ファイルフォル  
ダ] [-n 最大出力数]
```

目的

指定された日時の範囲にあるイベントをタブ区切りの TSV ファイル形式にて出力します。

オプション

- 開始日時
検索するイベントの開始到着日時を"YYYY-MM-DD hh:mm:ss"形式で指定します。省略する事はできません。
- 終了日時
検索するイベントの終了到着日時を"YYYY-MM-DD hh:mm:ss"形式で指定します。省略する事はできません。
- クラス名
クラス名を指定します。省略する事はできません。
- 出力ファイル名
出力ファイル名を指定します。省略する事はできません。
- イベントファイルフォルダ名
イベントファイルの格納されたフォルダを指定します。
- ユーザーグループ名
ユーザーグループ名を指定します。複数指定できます。省略可能です。
- クラス定義ファイルフォルダ名
クラス定義ファイルのフォルダを指定します。省略した場合は%SENSVHOME%¥dat¥class が設定されます
- 最大出力数
イベントの最大出力数を指定します。省略した場合は出力数に制限がかかりません。

実行結果

(例)

```

C:¥SEN>sjENU_ConvertEvent -s "2004-02-01 00:00:00" -e "2004-02-29
00:00:00" -c 千手メッセージ -o test.tsv -v "C:¥Program
Files¥SEN¥Server¥dat¥evt"
イベントファイル読み込み中...完了
過去イベント検索中...完了
イベントを 1024 件出力しました。
C:¥SEN>

```

標準エラー出力

終了コードに即したメッセージを出力します。

終了コード

終了コードを以下に示します。

表 6.6-4 終了コード

終了コード	出力	内容
0	イベントを n 件出力しました。	指定範囲のイベント変換が終了し、処理を終了しました。
1	コマンドオプションの指定に誤りがあります。 (ユーザー指定値)	不正なコマンドオプションが指定されました。
2	出力ファイル名が指定されていません。	出力先のファイル名が指定されていません。
3	開始到着日時が指定されていません。	開始到着日時が指定されていません。
4	終了到着日時が指定されていません。	終了到着日時が指定されていません。
5	クラス名が指定されていません。	クラス名が指定されていません。
6	開始到着日時は"YYYY-MM-DD hh:mm:ss"形式で指定して下さい。(ユーザー指定値)	開始到着日時が正しいフォーマットで指定されていません。
7	終了到着日時は"YYYY-MM-DD hh:mm:ss"形式で指定して下さい。(ユーザー指定値)	終了到着日時が正しいフォーマットで指定されていません。
8	最大出力数は 1~100000 の範囲で指定して下さい。	最大出力数に範囲外の値が設定されました。
9	基本情報の定義がディレクトリ「クラス定義ファイルフォルダ」からみつかりませんでした。 sjENB_Server.xml の存在を確認して下さい。	イベントファイル変換コマンドはイベントの基本情報を sjENB_Server.xml より取得しています。クラス定義ファイルフォルダには sjENB_Server.xml を格納して下さい。
10	クラス「クラス名」の定義がディレクトリ「クラス定義ファイルフォルダ」からみつかりませんでした。	指定されたクラスの定義がクラス定義ファイルフォルダから見つかりませんでした。指定クラスの定義が存在するかクラス定義ファイルフォルダを確認して下さい。
11	環境変数"SENSVHOME"の取得に失敗しました。	クラス定義ファイルフォルダ名を省略した場合、イベントファイル変換コマンド環境変数 SENSVHOME 以下を参照します。このメッセージが出力された場合はクラス定義ファイルフォルダを指定して下さい。
12	内容によります。クラス定義ローダーが返す文	クラス定義ファイルフォーマット不正です。

終了コード	出力	内容
	字列をそのまま表示します。	
13	ファイル「ファイル名」のオープンに失敗しました。(追加メッセージ)	出力ファイル名に設定されたファイルのオープンに失敗しました。括弧内に詳細なエラーメッセージが表示されます。
14	ファイル「ファイル名」への書き込みに失敗しました。(追加メッセージ)	出力ファイル名に設定されたファイルの書き込みに失敗しました。括弧内に詳細なエラーメッセージが表示されます。
15	開始到着日時は終了到着日時より前の日付を指定してください。	開始到着日時が終了到着日時より後の日付に指定されています。
16	イベントファイルフォルダ名を指定してください。	イベントファイルフォルダ名が指定されていません。
17	指定されたユーザーグループ ID のイベントは存在しませんでした。(追加メッセージ)	指定されたユーザーグループ ID のイベントが見つかりませんでした。指定のユーザーグループ ID が存在するか確認して下さい。



イベントファイル変換コマンドの出力ファイルは、ファイル名を.txtなどのテキストファイルで出力し、Excelより「ファイルを開く」で開いてテキストファイルウィザードにてすべての列を「文字列」として設定してオープンして下さい。

6.6.4 UUID 作成コマンド

指定形式

```
sjENU_UUIDGen
```

目的

新規クラス定義ファイルの作成時に必要な UUID を作成します。

オプション

なし。

実行結果

(例) 新規 UUID 作成

```
C:\ SEN>sjENU_UUIDGen
{126f2ff6-00ce-41c4-a636-f9af8f719042}
C:\ SEN>
```

標準エラー出力

終了コードに即したメッセージを出力します。

終了コード

終了コードを以下に示します。

表 6.6-5 終了コード

終了コード	出力	内容
0	UUID (例: {126f2ff6-00ce-41c4-a636-f9af8f719042})	UUID 作成が完了し、処理を終了しました。
1	異常終了 (例: The system is out of memory.)	Win32API のエラー等、内部処理に関するエラーを出力します。



UUID 作成コマンドの実行には、ネットワークカードが装着されたノードが必要です。

6.7 システム提供のアクションテンプレート

ここでは、Senju Enterprise Navigator が提供するアクションテンプレートの内容を説明します。

Senju Enterprise Navigator が提供するアクションテンプレートは以下の通りです。

表 6.7-1 システム提供のアクションテンプレート一覧

項番	シチュエーション	テンプレート ID	説明
1	Senju/SM に登録する	SenjuSM 連携_インシデント登録	Senju/SM にインシデントを登録する。
		SenjuSM 連携_サービス要求登録	Senju/SM にサービス要求を登録する。
		SenjuSM 連携_変更登録	Senju/SM に変更を登録する。
		SenjuSM 連携_問題登録	Senju/SM に問題を登録する。
		SenjuSM 連携_アクション実行結果取得	Senju/SM 連携アダプタのアクションの結果を表示する。
2	WEBHOOK で外部のシステムにイベントを連携する	WEBHOOK_Datadog 連携	イベントを Datadog に連携します。
		WEBHOOK_mattermost 連携	イベントを mattermost に連携します。
3	<p>WEBHOOK で外部システムにイベントを連携する</p> <p>6.7.1.1 WEBHOOK_Datadog 連携</p> <p><テンプレートの概要></p> <p>イベントを Datadog に連携します。</p> <p>Proxy 環境などで利用する場合や Datadog に連携したいイベント項目をカスタマイズしたい場合は、該当のアクションテンプレートをコピーして個別のアクションテンプレートを作成し、ルールの作成を実施してください。</p> <p><ルール条件の制限></p> <p>制限なし</p> <p><パラメータの内容></p> <p>以下に、パラメータの値に指定する内容を記載します。</p>	<p>イベント出力_CSV ファイル</p> <p>イベント出力_Excel ファイル</p>	<p>イベントの情報を CSV ファイルに出力する。</p> <p>イベントの情報を Excel ファイルに出力する。</p>

表 6.7-6 WEBHOOK_Datadog 連携のパラメーター一覧

項番	パラメータ名	パラメータの値
1	aggregation_key	指定することによってイベントを一つにまとめることができる文字列
2	Priority	優先度
3	tags	記載した値がそのまま Datadog 内のイベントのタグ情報として付与される

<アクションの動作>

イベントの内容を、Datadog に連携します。

ルール(アクションテンプレート使用) ×

全般 活性化条件

グループ別ルール(SENマスターグループ)
ステージ[アクションの実行-1]

有効(V)

ルールID: Datadog連携

ルール条件-1

ID-1: {イベント種別で判定(千手メッセージ)} 参照(R)...

時刻(T): 0:00:00

SENサーバー起動時/ルールセット反映時(H)

ルール条件ID-2: 参照(S)...

説明(E):

パラメータ-1:

パラメータ-2:

アクションテンプレートID(A): {WEBHOOK_Datadog連携} 参照(U)...

パラメータ

パラメータ	値	説明
aggregation_key	AG0001	指定することによってイベ...
priority	1	優先度
tags	Server	記載した値がそのままDat...

値: Server

オブジェクトブラウザ(B)

OK キャンセル

図 6.7-6 WEBHOOK_Datadog 連携を使用したルール画面

6.7.1.2 WEBHOOK_mattermost 連携

<テンプレートの概要>

イベントのプロパティを mattermost に連携します。
 連携する mattermost 環境に併せて利用いただくため、コピーして、個別のアクションテンプレートを作成し変数 `openaddr` を変更してください。

Proxy 環境などで利用する場合や Datadog に連携したいイベント項目をカスタマイズする場合についても、個別のアクションテンプレートを編集し、ルールを作成を実施してください。

<ルール条件の制限>
 制限なし

<パラメータの内容>
 以下に、パラメータの値に指定する内容を記載します。

表 6.7-7 WEBHOOK_mattermost 連携のパラメーター一覧

項番	パラメータ名	パラメータの値
1	channel	投稿先のチャンネル名
2	user_name	投稿者名(デフォルト値を上書きする)
3	icon_url	投稿者のアイコン(デフォルト値を上書きする)
4	tags	記載した値がそのまま Datadog 内のイベントのタグ情報として付与される
5	subject	@でメンションする人(here, channel が使える)

<アクションの動作>
 イベントの内容を、mattermost に連携します。

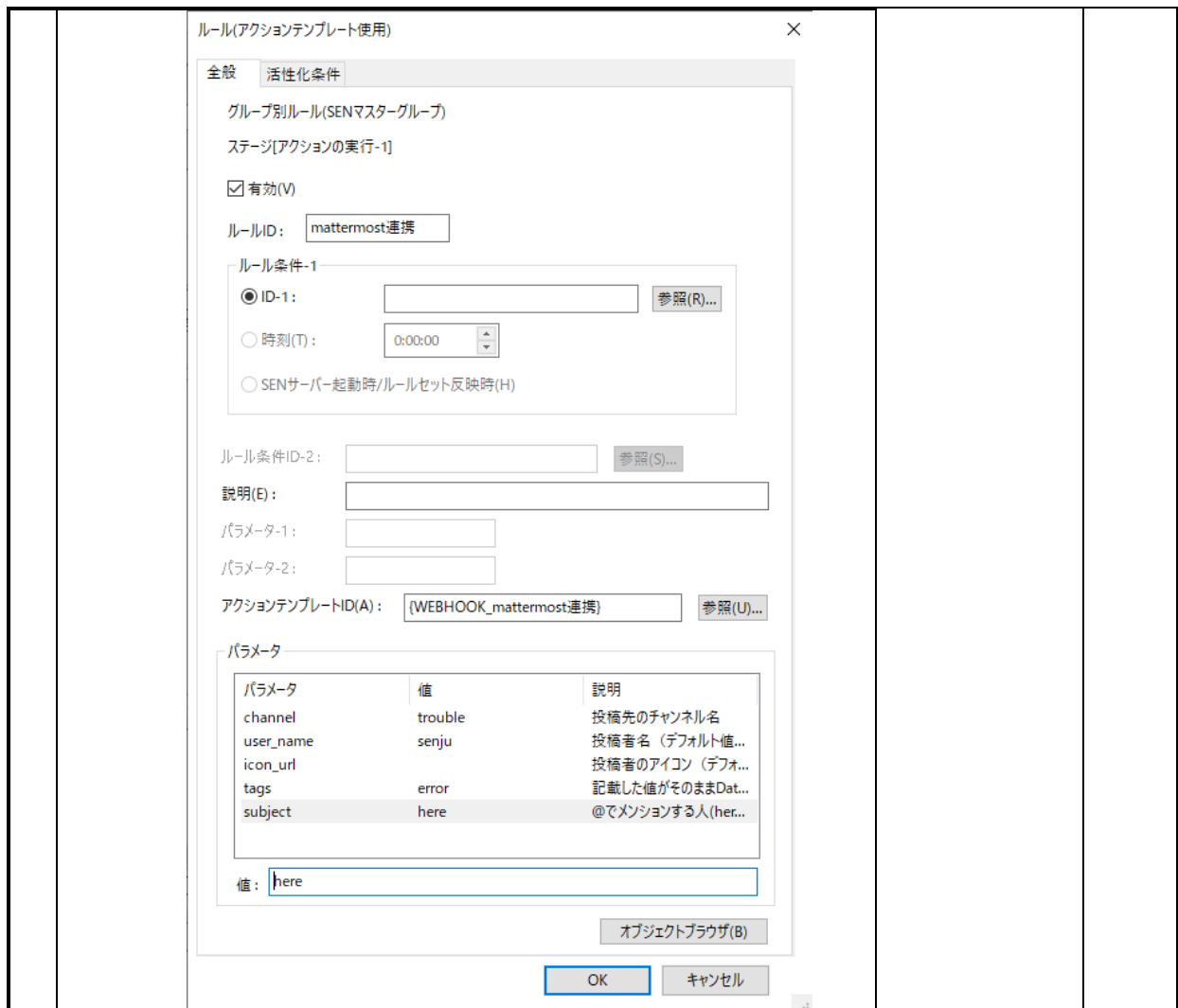


図 6.7-7 WEBHOOK_mattermost 連携を使用したルール画面

	イベントをファイル出力する		
4	メールを送信する	メール送信連携_メール送信	メールを送信する。
5	メールの内容を表示する	メール受信連携_アウトプットビュー出力	受信したメールの内容を表示する。
6	メインペインを操作する	メインペイン操作_アイテム点減	メインペイン上のアイテムを点減させる。
		メインペイン操作_リストレコード追加	メインペイン上のリストにレコードを追加する。

7	対応不要のイベントのステータスを「対処完了」に変更する	千手メッセージフィルタ_正規表現指定	メッセージテキストが指定した正規表現に合致するイベントを対処完了にする。
		千手メッセージフィルタ_オペレーション指示	オペレーションをガイドに追加する。
		千手メッセージフィルタ_メール通知	イベントが対処完了になった旨をメールで通知する。
		千手メッセージフィルタ_開始/終了メッセージ開始終了指定	開始/終了メッセージを指定して、特定の期間のイベントを対処完了にする。
		千手メッセージフィルタ_重複メッセージ	指定した期間内で、重複するイベントを対処完了にする。
		千手メッセージフィルタ_出力間隔指定	指定した間隔でイベントのステータスを対処完了にしない。
		千手メッセージフィルタ_連続発生	指定した件数を越えたイベントを対処完了にしない。
		千手メッセージフィルタ_連続発生文字列指定	指定した2つの文字列を含むイベントの件数が上限を超えた場合にイベントを対処完了にしない。
8	千手のコマンドを実行する	千手連携_千手ユーザーコマンド実行	千手ユーザーコマンドを実行する。
		千手連携_アクション結果取得	千手連携アダプタが実行したアクションの結果を表示する。

6.7.2 Senju/SM に登録する

6.7.2.1 SenjuSM 連携_インシデント登録

<テンプレートの概要>

Senju/SM にインシデントを登録します。

アクションの実行結果は「SenjuSM 連携_アクション実行結果取得」のアクションテンプレートで参照可能です。

<ルール条件の制限>

制限なし

<パラメータの内容>

以下に、パラメータの値に指定する内容を記載します。

表 6.7-2 SenjuSM 連携_インシデント登録のパラメーター一覧

項番	パラメータ名	パラメータの値
1	system_name	インシデントの登録先システム名
2	create_user	起票者のユーザー名
3	escalation_user	エスカレーション先のユーザー名
5	title	インシデントのタイトル
6	incident_content	インシデントの内容
7	domain_name	Senju/SM 連携アダプタのドメイン名

<アクションの動作>

パラメータの値で指定した内容で Senju/SM にインシデント登録します。

ルール(アクションテンプレート使用)

全般 | 活性化条件

共通ルール
ステージ[アクションの実行-1]

有効(V)

ルールID: [SenjuSM連携_インシデ]

ルール条件-1

ID-1: [イベント種別で判定(メールメッセージ)] 参照(R)...

時刻(T): [0:00:00]

SENサーバー起動時/ルールセット反映時(H)

ルール条件ID-2: [] 参照(S)...

説明(E): []

パラメータ-1: []

パラメータ-2: []

アクションテンプレートID(A): [SenjuSM連携_インシデント登録] 参照(L)...

パラメータ

パラメータ	値	説明
system_name	SSM初期システム	システム名
create_user	SSM	起票者
escalation_user	SSM	エスカレーション先名
title	インシデント登録	タイトル
incident_content	インシデントを登録します。	インシデント内容
domain_name	ssmsv	Senju/SM連携アダプタのドメイン名

値: []

オブジェクトブラウザ(O)

OK キャンセル

図 6.7-1 SenjuSM 連携_インシデント登録を使用したルール画面

6.7.2.2 SenjuSM 連携_サービス要求登録

<テンプレートの概要>

Senju/SM にサービス要求を登録します。

アクションの実行結果は「SenjuSM 連携_アクション実行結果取得」のアクションテンプレートで参照可能です。

<ルール条件の制限>

制限なし

<パラメータの内容>

以下に、パラメータの値に指定する内容を記載します。

表 6.7-3 SenjuSM 連携_サービス要求登録のパラメータ一覧

項番	パラメータ名	パラメータの値
1	system_name	サービス要求の登録先システム名
2	create_user	起票者のユーザー名
3	escalation_user	エスカレーション先のユーザー名
5	title	サービス要求のタイトル
6	service_content	サービス要求の内容
7	domain_name	Senju/SM 連携アダプタのドメイン名

<アクションの動作>

パラメータの値で指定した内容で Senju/SM にサービス要求を登録します。

ルール(アクションテンプレート使用)

全般 | 活性化条件

共通ルール
 ステージ[アクションの実行-1]

有効(V)

ルールID: [SenjuSM連携_サービス]

ルール条件-1

ID-1: [イベント種別で判定(メールメッセージ)] 参照(R)...

時刻(T): [0:00:00]

SENサーバー起動時/ルールセット反映時(H)

ルール条件ID-2: [] 参照(S)...

説明(E): []

パラメータ-1: []

パラメータ-2: []

アクションテンプレートID(A): [SenjuSM連携_サービス要求登録] 参照(L)...

パラメータ

パラメータ	値	説明
system_name	SSM初期システム	システム名
create_user	SSM	起票者
escalation_user	SSM	エスカレーション先名
title	サービス要求	タイトル
service_content	サービス要求を登録します。	サービス要求内容
domain_name	ssmsv	Senju/SM連携アダプタのドメイン名

値: []

オブジェクトブラウザ(O)

OK キャンセル

図 6.7-2 SenjuSM 連携_サービス要求登録を使用したルール画面

6.7.2.3 SenjuSM 連携_変更登録

<テンプレートの概要>

Senju/SM に変更を登録します。

アクションの実行結果は「SenjuSM 連携_アクション実行結果取得」のアクションテンプレートで参照可能です。

<ルール条件の制限>

制限なし

<パラメータの内容>

以下に、パラメータの値に指定する内容を記載します。

表 6.7-4 SenjuSM 連携_変更登録のパラメータ一覧

項番	パラメータ名	パラメータの値
1	system_name	変更の登録先システム名
2	create_user	起票者のユーザー名
3	escalation_user	エスカレーション先のユーザー名
5	title	変更のタイトル
6	change_content	変更の内容
7	domain_name	Senju/SM 連携アダプタのドメイン名

<アクションの動作>

パラメータの値で指定した内容で Senju/SM に変更を登録します。

ルール(アクションテンプレート使用)

全般 | 活性化条件

共通ルール
ステージ[アクションの実行-1]

有効(V)

ルールID: [SenjuSM連携_変更登録]

ルール条件-1

ID-1: [イベント種別で判定(メールメッセージ)] 参照(R)...

時刻(T): [0:00:00]

SENサーバー起動時/ルールセット反映時(H)

ルール条件ID-2: [] 参照(S)...

説明(E): []

パラメータ-1: []

パラメータ-2: []

アクションテンプレートID(A): [SenjuSM連携_変更登録] 参照(U)...

パラメータ

パラメータ	値	説明
system_name	SSM稼働期システム	システム名
create_user	SSM	起票者
escalation_user	SSM	エスカレーション先名
title	変更登録	タイトル
change_content	変更を登録します。	変更内容
domain_name	ssmsv	Senju/SM連携アダプタのドメイン名

値: []

オブジェクトブラウザ(O)

OK キャンセル

図 6.7-3 SenjuSM 連携_変更登録を使用したルール画面

6.7.2.4 SenjuSM 連携_問題登録

<テンプレートの概要>

Senju/SM に問題を登録します。

アクションの実行結果は「SenjuSM 連携_アクション実行結果取得」のアクションテンプレートで参照可能です。

<ルール条件の制限>

制限なし

<パラメータの内容>

以下に、パラメータの値に指定する内容を記載します。

表 6.7-5 SenjuSM 連携_問題登録のパラメータ一覧

項番	パラメータ名	パラメータの値
1	system_name	問題の登録先システム名
2	create_user	起票者のユーザー名
3	escalation_user	エスカレーション先のユーザー名
5	title	問題のタイトル
6	problem_content	問題の内容
7	domain_name	Senju/SM 連携アダプタのドメイン名

<アクションの動作>

パラメータの値で指定した内容で Senju/SM に問題を登録します。

ルール(アクションテンプレート使用)

全般 | 活性化条件

共通ルール
ステージ[アクションの実行-1]

有効(V)

ルールID: [SenjuSM連携_問題登]

ルール条件-1

ID-1: [イベント種別で判定(メールメッセージ)] 参照(R)...

時刻(T): [0:00:00]

SENサーバー起動時/ルールセット反映時(H)

ルール条件ID-2: [] 参照(S)...

説明(E): []

パラメータ-1: []

パラメータ-2: []

アクションテンプレートID(A): [SenjuSM連携_問題登録] 参照(L)...

パラメータ

パラメータ	値	説明
system_name	SSM初期システム	システム名
create_user	SSM	起票者
escalation_user	SSM	エスカレーション先名
title	問題登録	タイトル
problem_content	問題を登録します。	問題内容
domain_name	ssmsv	Senju/SM連携アダプタのドメイン名

値: []

オブジェクトブラウザ(O)

OK キャンセル

図 6.7-4 SenjuSM 連携_問題登録を使用したルール画面

6.7.2.5 SenjuSM 連携_アクション実行結果取得

<テンプレートの概要>

以下のアクションテンプレートで、Senju/SM 連携アダプタが実行したアクションの実行結果をアウトプットビューに表示します。

- SenjuSM 連携_インシデント登録
- SenjuSM 連携_サービス要求登録
- SenjuSM 連携_変更登録
- SenjuSM 連携_問題登録

<ルール条件の制限>

アクション終了イベントを指定します。

<パラメータの内容>

パラメータなし

<アクションの動作>

アクション終了イベントの成功フラグ、エラーコード、終了コード、ステータスコード、出力メッセージをアウトプットビューに表示します。

ルール(アクションテンプレート使用)

全般 | 活性化条件

共通ルール
ステージ[アクションの実行-1]

有効(V)

ルールID: SenjuSM連携_アクション

ルール条件-1

ID-1: アクション終了イベント 参照(R)...

時刻(T): 0:00:00

SENサーバー起動時/ルールセット反映時(H)

ルール条件ID-2: 参照(S)...

説明(E):

パラメータ-1:

パラメータ-2:

アクションテンプレートID(A): SenjuSM連携_アクション実行結果取得 参照(U)...

パラメータ

パラメータ	値	説明
-------	---	----

値:

オブジェクトブラウザ(O)

OK キャンセル

図 6.7-5 SenjuSM 連携_アクション実行結果取得を使用したルール画面

6.7.3 WEBHOOK で外部システムにイベントを連携する

6.7.3.1 WEBHOOK_Datadog 連携

<テンプレートの概要>

イベントを Datadog に連携します。

Proxy 環境などで利用する場合や Datadog に連携したいイベント項目をカスタマイズしたい場合は、該当のアクションテンプレートをコピーして個別のアクションテンプレートを作成し、ルールを作成を実施してください。

<ルール条件の制限>

制限なし

<パラメータの内容>

以下に、パラメータの値に指定する内容を記載します。

表 6.7-6 WEBHOOK_Datadog 連携のパラメータ一覧

項番	パラメータ名	パラメータの値
1	aggregation_key	指定することによってイベントを一つにまとめることができる文字列
2	Priority	優先度
3	tags	記載した値がそのまま Datadog 内のイベントのタグ情報として付与される

<アクションの動作>

イベントの内容を、Datadog に連携します。

ルール(アクションテンプレート使用) ×

全般 活性化条件

グループ別ルール(SENマスターグループ)
ステージ[アクションの実行-1]

有効(V)

ルールID:

ルール条件-1

ID-1: 参照(B)...

時刻(T):

SENサーバー起動時/ルールセット反映時(H)

ルール条件ID-2: 参照(S)...

説明(E):

パラメータ-1:

パラメータ-2:

アクションテンプレートID(A): 参照(U)...

パラメータ

パラメータ	値	説明
aggregation_key	AG0001	指定することによってイバ...
priority	1	優先度
tags	Server	記載した値がそのままDat...

値:

オブジェクトブラウザ(B)

OK キャンセル

図 6.7-6 WEBHOOK_Datadog 連携を使用したルール画面

6.7.3.2 WEBHOOK_mattermost 連携

<テンプレートの概要>

イベントのプロパティを mattermost に連携します。

連携する mattermost 環境に併せて利用いただくため、コピーして、個別のアクションテンプレートを作成し変数 openaddr を変更してください。

Proxy 環境などで利用する場合や Datadog に連携したいイベント項目をカスタマイズする場合についても、個別のアクションテンプレートを編集し、ルールの作成を実施してください。

<ルール条件の制限>

制限なし

<パラメータの内容>

以下に、パラメータの値に指定する内容を記載します。

表 6.7-7 WEBHOOK_mattermost 連携のパラメーター一覧

項番	パラメータ名	パラメータの値
1	channel	投稿先のチャンネル名
2	user_name	投稿者名(デフォルト値を上書きする)
3	icon_url	投稿者のアイコン(デフォルト値を上書きする)
4	tags	記載した値がそのまま Datadog 内のイベントのタグ情報として付与される
5	subject	@でメンションする人(here, channel が使える)

<アクションの動作>

イベントの内容を、mattermost に連携します。

ルール(アクションテンプレート使用) ×

全般 活性化条件

グループ別ルール(SENマスターグループ)
ステージ[アクションの実行-1]

有効(V)

ルールID:

ルール条件-1

ID-1: 参照(R)...

時刻(T):

SENサーバー起動時/ルールセット反映時(H)

ルール条件ID-2: 参照(S)...

説明(E):

パラメータ-1:

パラメータ-2:

アクションテンプレートID(A): 参照(U)...

パラメータ

パラメータ	値	説明
channel	trouble	投稿先のチャンネル名
user_name	senju	投稿者名 (デフォルト値...)
icon_url		投稿者のアイコン (デフォ...
tags	error	記載した値がそのままDat...
subject	here	@でメンションする人(her...

値:

オブジェクトブラウザ(B)

OK キャンセル

図 6.7-7 WEBHOOK_mattermost 連携を使用したルール画面

6.7.4 イベントをファイル出力する

6.7.4.1 イベント出力_CSV ファイル

<テンプレートの概要>

イベントのプロパティを CSV ファイルに出力します。

ファイルが存在しない場合は、新たにファイルが作成され、ファイルが存在する場合は追記されます。

ファイル名には、イベントクラス名が設定されます。

ファイルには、1 行目にプロパティ名、2 行目以降にイベントクラスのプロパティの値が出力されます。

<ルール条件の制限>

制限なし

<パラメータの内容>

以下に、パラメータの値に指定する内容を記載します。

表 6.7-8 イベント出力_CSV ファイルのパラメータ一覧

項番	パラメータ名	パラメータの値
1	output_dir	CSV ファイル出力先フォルダのフルパス

<アクションの動作>

イベントの内容を、パラメータの値で指定した出力先に CSV 形式でファイル出力します。

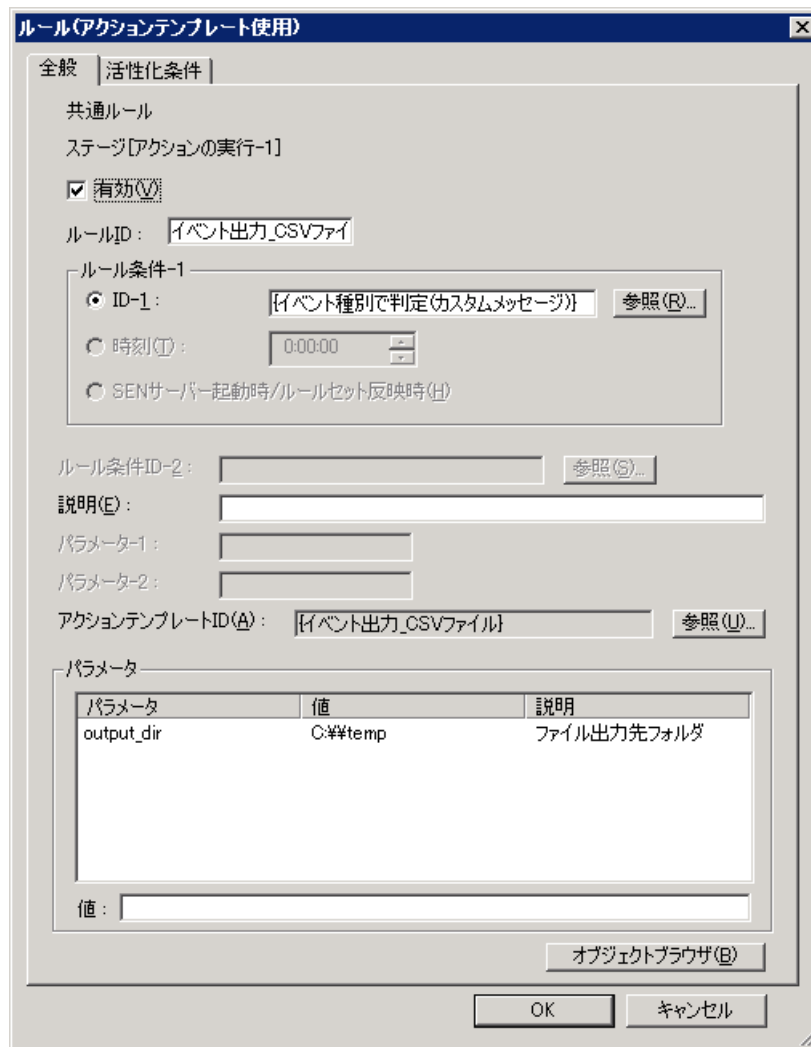


図 6.7-8 イベント出力_CSV ファイルを使用したルール画面

6.7.4.2 イベント出力_Excel ファイル

<テンプレートの概要>

イベントのプロパティを Excel ファイルに出力します。

ファイルが存在しない場合は、新たにファイルが作成され、ファイルが存在する場合は追記されます。

ファイル名には、イベントクラス名が設定されます。

ファイルには、1行目に出力されたイベントの総数、2行目にプロパティ名、3行目以降にイベントクラスのプロパティの値が出力されます。

<ルール条件の制限>

制限なし

<パラメータの内容>

以下に、パラメータの値に指定する内容を記載します。

表 6.7-9 イベント出力_Excel ファイルのパラメータ一覧

項番	パラメータ名	パラメータの値
1	output_dir	Excel ファイル出力先フォルダのフルパス

<アクションの動作>

イベントの内容を、パラメータの値で指定した出力先に Excel 形式でファイル出力します。

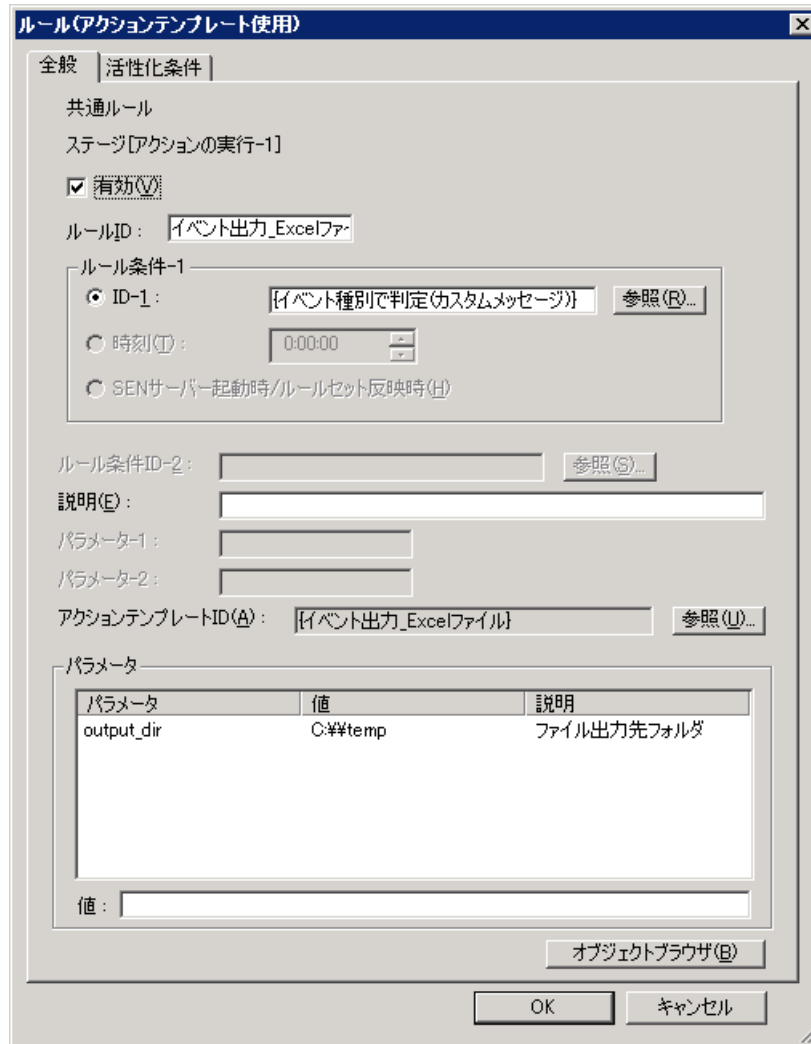


図 6.7-9 イベント出力_Excel ファイルを使用したルール画面

6.7.5 メールを送信する

6.7.5.1 メール送信連携_メール送信

<テンプレートの概要>

指定した内容でメールを送信します。

送信したメールを受信した際に、「メール受信連携_アウトプットビュー出力」のアクションテンプレートで内容を参照可能です。

<ルール条件の制限>

制限なし

<パラメータの内容>

以下に、パラメータの値に指定する内容を記載します。

表 6.7-10 メール送信連携_メール送信のパラメータ一覧

項番	パラメータ名	パラメータの値
1	domain_name	メール送信連携アダプタのドメイン名
2	from	差出人のアドレス
3	to	宛先
4	subject	メールの件名
5	body	メールの本文

<アクションの動作>

パラメータの値で指定した内容でメールを送信します。

ルール(アクションテンプレート使用)

全般 | 活性化条件

共通ルール
 ステージ[アクションの実行-1]

有効(V)

ルールID: メール送信連携_メール

ルール条件-1

ID-1: [メッセージ種別で判定(E)] 参照(R)...

時刻(T): 0:00:00

SENサーバー起動時/ルールセット反映時(H)

ルール条件ID-2: 参照(S)...

説明(E):

パラメータ-1:

パラメータ-2:

アクションテンプレートID(A): [メール送信連携_メール送信] 参照(L)...

パラメータ

パラメータ	値	説明
domain_name	mailsv	メール送信連携アダプタのドメイン名
from	fromAddr@example.com	差出人
to	toAddr@example.com	宛先
subject	障害連絡	件名
body	障害が発生しました。	本文

値:

オブジェクトブラウザ(O)

OK キャンセル

図 6.7-10 メール送信連携_メール送信を使用したルール画面

6.7.6 メールの内容を表示する

6.7.6.1 メール受信連携_アウトプットビュー出力

<テンプレートの概要>

「メール送信連携_メール送信」のアクションテンプレートで送信したメールを受信し、メールの内容を SEN コンソールのアウトプットビューに表示します。

<ルール条件の制限>

メールメッセージを指定します。

<パラメータの内容>

パラメータなし

<アクションの動作>

メールメッセージの差出人、宛先、タイトル、メール本文がアウトプットビューに表示します。

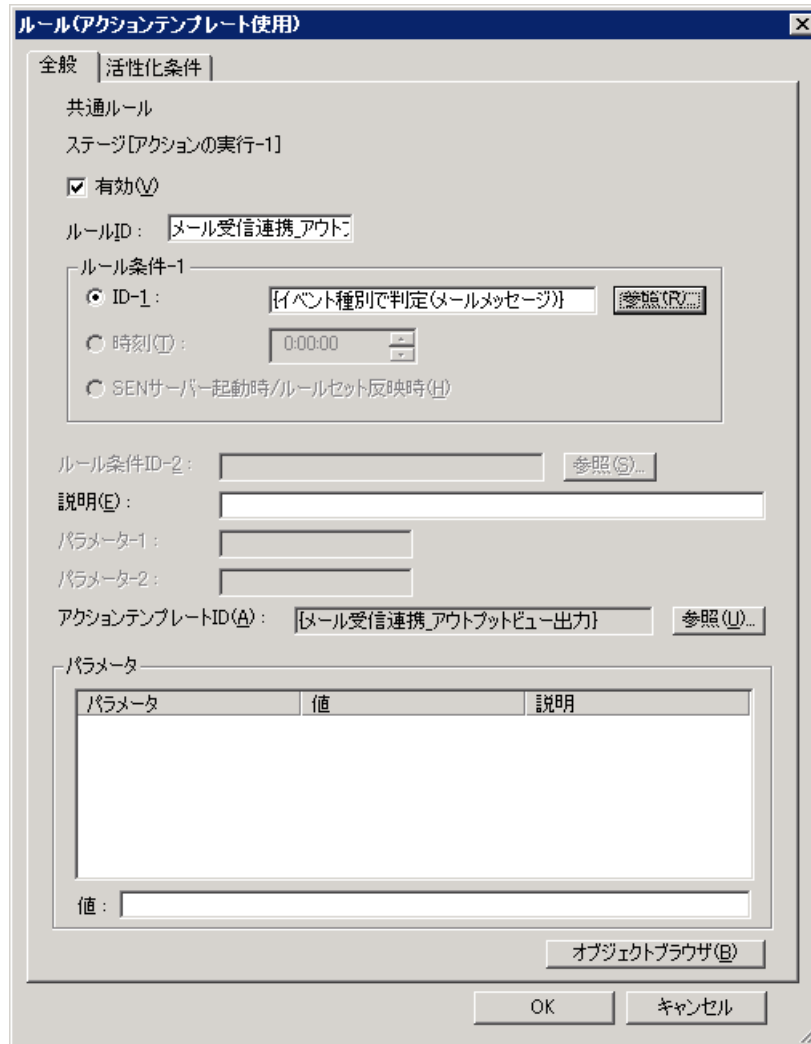


図 6.7-11 メール受信連携_アウトプットビュー出力を使用したルール画面

6.7.7 メインペインを操作する

6.7.7.1 メインペイン操作_アイテム点滅

<テンプレートの概要>

メインペインアイテムを点滅させます。

あらかじめメインビューにメインペインアイテムを作成する必要があります。

<ルール条件の制限>

制限なし

<パラメータの内容>

以下に、パラメータの値に指定する内容を記載します。

表 6.7-11 メインペイン操作_アイテム点滅のパラメーター一覧

項番	パラメータ名	パラメータの値
1	user_grp_name	メインビューを設定したユーザーグループ名
2	view_category_id	メインビューに設定したビューカテゴリ ID
3	view_item_grp_id	メインビューに設定したビューアイテムグループ ID
4	item_id	メインビューに作成したアイテムの ID

<アクションの動作>

パラメータの値で指定したメインペインアイテムが赤く点滅します。

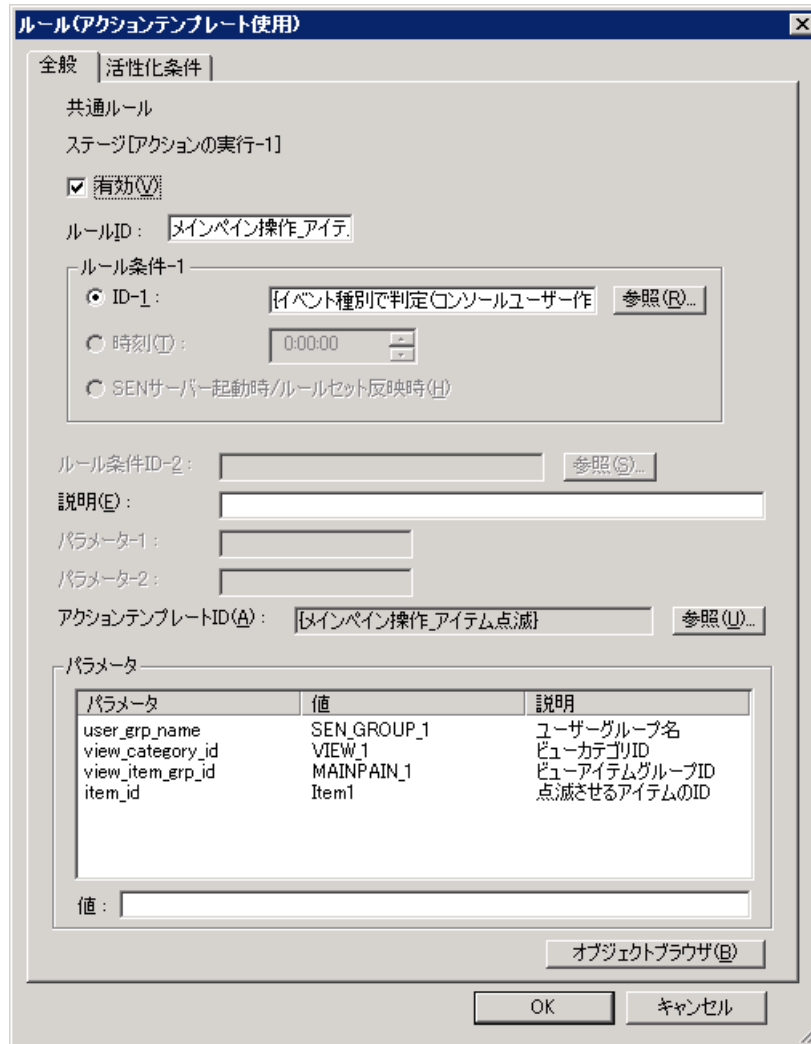


図 6.7-12 メインペイン操作_アイテム点減を使用したルール画面

6.7.7.2 メインペイン操作_リストレコード追加

<テンプレートの概要>

リストアイテムにレコードを追加します。

リストアイテムには 1000 行目まで追加可能です。

あらかじめメインビューにリストアイテムを作成する必要があります。

<ルール条件の制限>

制限なし

<パラメータの内容>

以下に、パラメータの値に指定する内容を記載します。

表 6.7-12 メインペイン操作_リストレコード追加のパラメーター一覧

項番	パラメータ名	パラメータの値
1	user_grp_name	メインビューを設定したユーザーグループ名
2	view_category_id	メインビューに設定したビューカテゴリ ID
3	view_item_grp_id	メインビューに設定したビューアイテムグループ ID
4	list_id	メインビューに作成したリストアイテムの ID
5	column1_val	リストアイテムのカラム 1 に設定する値
6	colmun2_val	リストアイテムのカラム 2 に設定する値
7	colmun3_val	リストアイテムのカラム 3 に設定する値

<アクションの動作>

パラメータの値で指定したリストアイテムにレコードを追加します。

ルール(アクションテンプレート使用)

全般 | 活性化条件

共通ルール
 ステージ[アクションの実行-1]

有効(V)

ルールID:

ルール条件-1

ID-1:

時刻(T):

SENサーバー起動時/ルールセット反映時(H)

ルール条件ID-2:

説明(E):

パラメータ-1:

パラメータ-2:

アクションテンプレートID(A):

パラメータ

パラメータ	値	説明
user_grp_name	SEN_GROUP_1	ユーザーグループ名
view_category_id	VIEW_1	ビューカテゴリID
view_item_grp_id	MAINPAIN_1	ビューアイテムグループID
list_id	listItem1	リストのID
column1_val	カラム1	追加レコードの1番目のカラムの値
column2_val	カラム2	追加レコードの2番目のカラムの値
column3_val	カラム3	追加レコードの3番目のカラムの値

値:

図 6.7-13 メインペイン操作_リストレコード追加を使用したルール画面

6.7.8 対応不要のイベントのステータスを「対処完了」に変更する

6.7.8.1 千手メッセージフィルタ_正規表現指定

<テンプレートの概要>

イベントのメッセージテキストで指定した正規表現に合致するイベントを「対処完了」にします。

<ルール条件の制限>

千手メッセージを指定します。

<パラメータの内容>

以下に、パラメータの値に指定する内容を記載します。

表 6.7-13 千手メッセージフィルタ_正規表現指定のパラメータ一覧

項番	パラメータ名	パラメータの値
1	node_id	発生元ノード ID
2	msg_id	フィルタを掛ける対象の千手メッセージ ID
3	msg_status	フィルタを掛ける対象の千手メッセージ種別
4	rgexp_msg_txt	フィルタを掛けるメッセージテキストの正規表現

<アクションの動作>

パラメータの値で指定した内容とイベントを比較し、イベントのステータスを「対処完了」に変更します。

具体的には、以下の条件をすべて満たすイベントのステータスが「対処完了」になります。

- イベントのノード ID が node_id と一致
- イベントのメッセージ ID が msg_id と一致
- イベントのメッセージ種別が msg_status と一致
- イベントのメッセージテキストが rgexp_msg_txt の正規表現を満たす



パラメータ rgexp_msg_txt の値は、JScript の正規表現で指定して下さい。

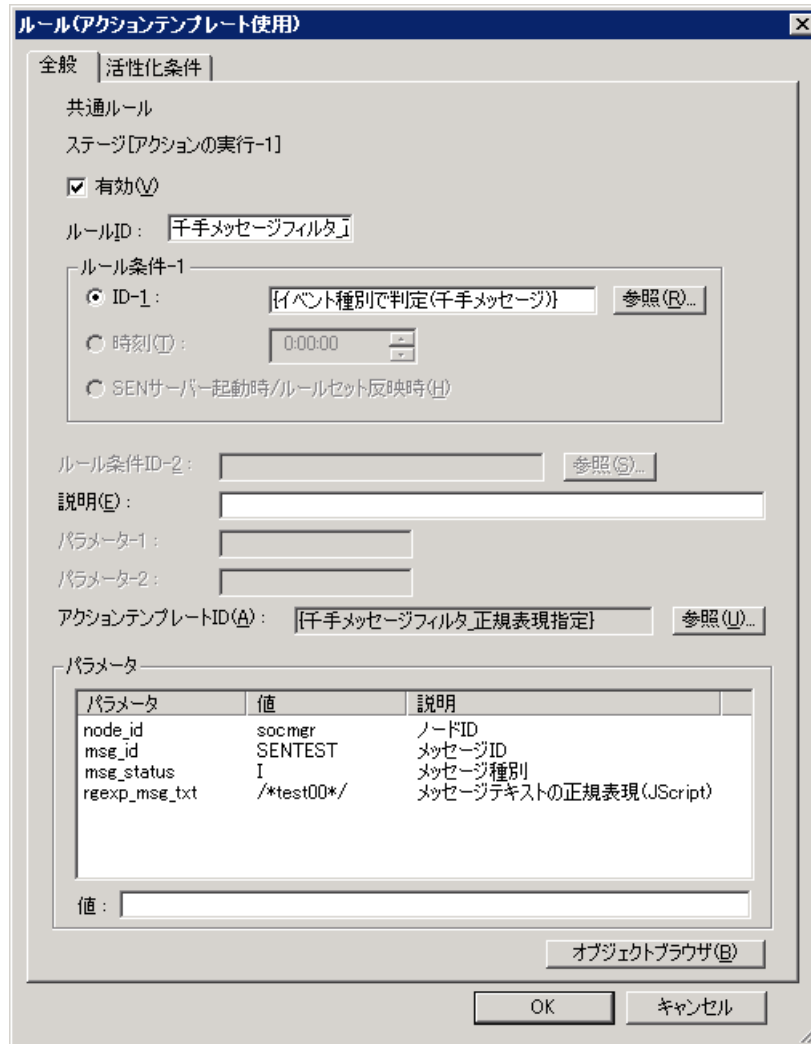


図 6.7-14 千手メッセージフィルタ_正規表現指定を使用したルール画面

6.7.8.2 千手メッセージフィルタ_オペレーション指示

<テンプレートの概要>

イベントのメッセージテキストで指定した正規表現に合致するイベントを「対処完了」にします。

また、イベントのガイドにオペレーションを記述したファイルのパスを追加します。

※オペレーションを記述したファイルを用意する必要があります。

<ルール条件の制限>

千手メッセージを指定します。

<パラメータの内容>

以下に、パラメータの値に指定する内容を記載します。

表 6.7-14 千手メッセージフィルタ_オペレーション指示

項番	パラメータ名	パラメータの値
1	node_id	発生元ノード ID
2	msg_id	フィルタを掛ける対象の千手メッセージ ID
3	msg_status	フィルタを掛ける対象の千手メッセージ種別
4	rgexp_msg_txt	フィルタを掛けるメッセージテキストの正規表現
5	file_path	オペレーション指示を記述したファイルのパス

<アクションの動作>

パラメータの値で指定した内容とイベントを比較し、イベントのステータスを「対処完了」に変更します。

具体的には、以下の条件をすべて満たすイベントのステータスが「対処完了」になります。

- イベントのノード ID が node_id と一致
- イベントのメッセージ ID が msg_id と一致
- イベントのメッセージ種別が msg_status と一致
- イベントのメッセージテキストが rgexp_msg_txt の正規表現を満たす

さらに、パラメータの値で指定したオペレーションのファイルパスを、イベントのガイドに追加します。



パラメータ rgexp_msg_txt の値は、JScript の正規表現で指定して下さい。

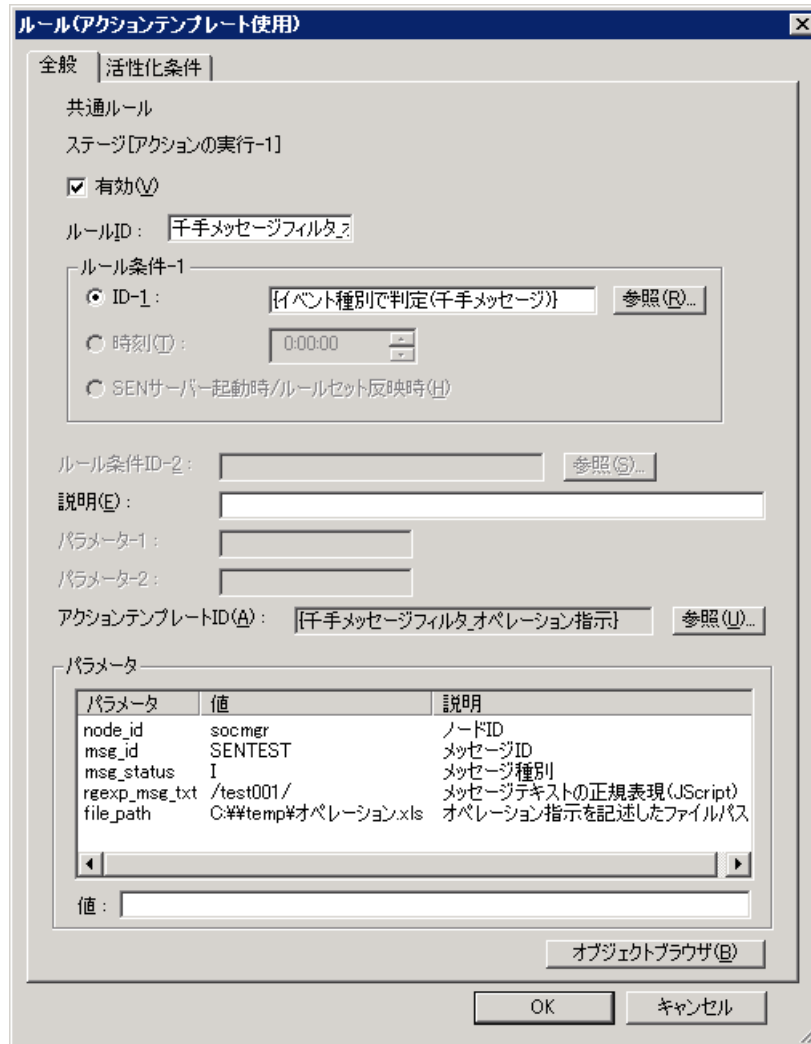


図 6.7-15 千手メッセージフィルタ_オペレーション指示を使用したルール画面

6.7.8.3 千手メッセージフィルタ_メール通知

<テンプレートの概要>

イベントのメッセージテキストで指定した正規表現に合致するイベントを「対処完了」にします。

また、イベントのメッセージテキストの内容をメールで通知します。

<ルール条件の制限>

千手メッセージを指定します。

<パラメータの内容>

以下に、パラメータの値に指定する内容を記載します。

表 6.7-15 千手メッセージフィルタ_メール通知のパラメーター一覧

項番	パラメータ名	パラメータの値
1	node_id	発生元ノード ID
2	msg_id	フィルタを掛ける対象の千手メッセージ ID
3	msg_status	フィルタを掛ける対象の千手メッセージ種別
4	rgexp_msg_txt	フィルタを掛けるメッセージテキストの正規表現
5	domain_name	メール送信連携アダプタのドメイン名
6	act_user_info	アクションユーザー情報に設定する値
7	from	差出人のアドレス
8	to	宛先
9	subject	メールの件名
10	body	メールの本文

<アクションの動作>

パラメータの値で指定した内容とイベントを比較し、イベントのステータスを「対処完了」に変更します。

具体的には、以下の条件をすべて満たすイベントのステータスが「対処完了」になります。

- イベントのノード ID が node_id と一致
- イベントのメッセージ ID が msg_id と一致
- イベントのメッセージ種別が msg_status と一致
- イベントのメッセージテキストが rgexp_msg_txt の正規表現を満たす

パラメータの値で指定した内容でメールを送信します。送信するメッセージ本文には、パラメータの値で指定した body と千手メッセージのメッセージテキストが設定されます。



パラメータ rgexp_msg_txt の値は、JScript の正規表現で指定して下さい。

ルール(アクションテンプレート使用)

全般 | 活性化条件

共通ルール
 ステージ[アクションの実行-1]

有効(V)

ルールID: 千手メッセージフィルタ

ルール条件-1

ID-1: [イベント種別で判定(千手メッセージ)] 参照(R)...

時刻(T): 0:00:00

SENサーバー起動時/ルールセット反映時(H)

ルール条件ID-2: 参照(S)...

説明(E):

パラメータ-1:

パラメータ-2:

アクションテンプレートID(A): [千手メッセージフィルタ_メール通知] 参照(L)...

パラメータ

パラメータ	値	説明
node_id	socmgr	ノードID
msg_id	SENTTEST	メッセージID
msg_status	I	メッセージ種別
rgexp_msg_txt	/test001/	メッセージテキストの正規表現(JScrip...
domain_name	mailsv	メール送信連携アダプタのドメイン名
act_user_info		アクションユーザー情報
from	fromAddr@example.com	差出人
to	toAddr@example.com	宛先

値: ステータスが対処完了になりました。

オブジェクトブラウザ(O)

OK キャンセル

図 6.7-16 千手メッセージフィルタ_メール通知を使用したルール画面

6.7.8.4 千手メッセージフィルタ_開始終了指定

<テンプレートの概要>

フィルタ開始に指定したメッセージが出てからフィルタ終了に指定したメッセージが出るまで、イベントのステータスを「対処完了」にします。

<ルール条件の制限>

千手メッセージを指定します。

<パラメータの内容>

以下に、パラメータの値に指定する内容を記載します。

表 6.7-16 千手メッセージフィルタ_開始終了指定のパラメーター一覧

項番	パラメータ名	パラメータの値
1	node_id	発生元ノード ID
2	msg_id	フィルタを掛ける対象の千手メッセージ ID
3	msg_status	フィルタを掛ける対象の千手メッセージ種別
4	rgexp_start_msg_txt	フィルタ開始となるイベントのメッセージテキストの正規表現
5	rgexp_end_msg_txt	フィルタ終了となるイベントのメッセージテキストの正規表現

<アクションの動作>

パラメータの値で指定した内容とイベントを比較します。

メッセージテキストが rgexp_start_msg_txt の正規表現を満たすイベントから、メッセージテキストが rgexp_end_msg_txt の正規表現を満たすイベントの間で、イベントのステータス変更の判定を行います。

具体的には、上記の期間中に、以下の条件をすべて満たすイベントのステータスが「対処完了」になります。

- イベントのノード ID が node_id と一致
- イベントのメッセージ ID が msg_id と一致
- イベントのメッセージ種別が msg_status と一致



パラメータ rgexp_start_msg_txt、rgexp_end_msg_txt の値は、JScript の正規表現で指定して下さい。

例えば、パラメータの値を以下の様に指定した場合、実際にイベントを受信した時の動作は表 6.7-17 のようになります。

```
node_id : socsv
msg_id : SEN_MSG
msg_status : I
rgexp_start_msg_txt : /sen002/
```


rgexp_end_msg_txt : /sen009/

表 6.7-17 アクションテンプレート実施結果例

項番	ルール処理前				ルール処理後
	ノード ID	メッセージ ID	メッセージ種別	メッセージテキスト	イベントのステータス
1	socsv	SEN0001	I	sen001	オープン
2	socsv	SEN_MSG	I	sen002	オープン
3	socsv	SEN_MSG	I	sen003	対処完了
4	socsv01	SEN_MSG	I	sen004	オープン
5	socsv	SEN_MSG	I	sen005	対処完了
6	socsv	SEN_MSG	E	sen006	オープン
7	socsv	SEN_MSG	I	sen007	対処完了
8	socsv01	SEN0001	E	sen008	オープン
9	socsv	SEN_MSG	I	sen009	オープン
10	socsv	SEN_MSG	I	sen010	オープン

※上記表の赤い行：開始/終了トリガ、青い行：ステータス変更

ルール(アクションテンプレート使用)

全般 | 活性化条件

共通ルール
ステージ[アクションの実行-1]

有効(V)

ルールID: 千手メッセージフィルタ

ルール条件-1

ID-1: イベント種別で判定(千手メッセージ) 参照(R)...

時刻(T): 0:00:00

SENサーバー起動時/ルールセット反映時(H)

ルール条件ID-2: 参照(S)...

説明(E):

パラメータ-1:

パラメータ-2:

アクションテンプレートID(A): 千手メッセージフィルタ_開始終了指定 参照(U)...

パラメータ

パラメータ	値	説明
node_id	scomgr	ノードID
msg_id	SENTEST	メッセージID
msg_status	I	メッセージ種別
rgexp_start_msg_txt	/test001/	フィルタ開始のメッセージテキストの正規表現(JScript)
rgexp_end_msg_txt	/test005/	フィルタ終了のメッセージテキストの正規表現(JScript)

値:

オブジェクトブラウザ(O)

OK キャンセル

図 6.7-17 千手メッセージフィルタ_開始終了指定を使用したルール画面

6.7.8.5 千手メッセージフィルタ_重複メッセージ

<テンプレートの概要>

同じ条件のイベントに対して、2 件目以降のステータスを「対処完了」に変更します。

<ルール条件の制限>

千手メッセージを指定します。

<パラメータの内容>

以下に、パラメータの値に指定する内容を記載します。

表 6.7-18 千手メッセージフィルタ_重複メッセージのパラメーター一覧

項番	パラメータ名	パラメータの値
1	node_id	発生元ノード ID
2	msg_id	フィルタを掛ける対象の千手メッセージ ID
3	msg_status	フィルタを掛ける対象の千手メッセージ種別
4	rgexp_msg_txt	フィルタを掛けるメッセージテキストの正規表現
5	minute	連続発生するメッセージにフィルタを掛ける期間

<アクションの動作>

パラメータの値で指定した内容とイベントを比較し、同じ条件のイベントが複数発生していた場合に、イベントのステータス変更の判定を行います。

具体的には、以下の条件をすべて満たすイベントを受信してから **minute** で指定した時間内で、同じ条件のイベントのステータスを「対処完了」にします。

- イベントのノード ID が **node_id** と一致
- イベントのメッセージ ID が **msg_id** と一致
- イベントのメッセージ種別が **msg_status** と一致
- イベントのメッセージテキストが **rgexp_msg_txt** の正規表現を満たす



パラメータ **rgexp_msg_txt** の値は、JScript の正規表現で指定して下さい。

例えば、パラメータの値を以下の様に指定した場合、実際にイベントを受信した時の動作は表 6.7-19 のようになります。

```
node_id : socsv
msg_id : SEN_MSG
msg_status : I
rgexp_msg_txt : /sen001/
minute : 5
```

表 6.7-19 アクションテンプレート実施結果例

項番	ルール処理前				カウント中の 件数	ルール処理後
	ノード ID	メッセージ ID	メッセージ 種別	メッセージ テキスト		イベントの ステータス
1	socsv01	SEN_MSG	I	sen001	-	オープン
2	socsv	SEN_MSG	I	sen001	1	オープン
3	socsv	SEN_MSG	I	sen001	2	対処完了
4	socsv	SEN0001	I	sen001	2	オープン
5	socsv	SEN_MSG	E	sen001	2	オープン
6	socsv	SEN_MSG	I	sen001	3	対処完了
7	socsv	SEN_MSG	I	sen002	3	オープン
8	socsv	SEN_MSG	I	sen001	1	オープン
9	socsv	SEN_MSG	I	sen001	2	対処完了
10	socsv01	SEN0001	E	sen001	2	オープン

※上記表の赤い行：開始トリガ、青い行：ステータス変更、緑の行：検査期間終了直後の開始トリガ

ルール(アクションテンプレート使用)

全般 | 活性化条件

共通ルール
ステージ[アクションの実行-1]

有効(V)

ルールID: 千手メッセージフィルタ

ルール条件-1

ID-1: [イベント種別で判定(千手メッセージ)] 参照(R)...

時刻(T): 0:00:00

SENサーバー起動時/ルールセット反映時(H)

ルール条件ID-2: 参照(S)...

説明(E):

パラメータ-1:

パラメータ-2:

アクションテンプレートID(A): 千手メッセージフィルタ_重複メッセージ 参照(U)...

パラメータ

パラメータ	値	説明
node_id	socmgr	ノードID
msg_id	SENTEST	メッセージID
msg_status	I	メッセージ種別
regexp_msg_txt	/test001/	メッセージテキストの正規表現(JScript)
minute	3	検査期間(分)

値:

オブジェクトブラウザ(O)

OK キャンセル

図 6.7-18 千手メッセージフィルタ_重複メッセージを使用したルール画面

6.7.8.6 千手メッセージフィルタ_出力間隔指定

<テンプレートの概要>

検査期間内でイベントのステータスを「対処完了」にする処理を、指定した間隔で実施しません。

<ルール条件の制限>

千手メッセージを指定します。

<パラメータの内容>

以下に、パラメータの値に指定する内容を記載します。

表 6.7-20 千手メッセージフィルタ_出力間隔指定のパラメーター一覧

項番	パラメータ名	パラメータの値
1	node_id	発生元ノード ID
2	msg_id	フィルタを掛ける対象の千手メッセージ ID
3	msg_status	フィルタを掛ける対象の千手メッセージ種別
4	rgexp_msg_txt	フィルタを掛けるメッセージテキストの正規表現
5	minute	連続発生するメッセージにフィルタを掛ける期間
6	Interval	フィルタを掛けないメッセージの間隔

<アクションの動作>

パラメータの値で指定した内容とイベントを比較し、一定の期間内に指定した間隔で、イベントのステータス変更の判定を行います。

基本的に、**minute** で指定した時間内に、以下の条件を満たすイベントのステータスが「対処完了」になります。ただし、**interval** で指定した間隔で、イベントのステータス変更を行いません。

- イベントのノード ID が **node_id** と一致
- イベントのメッセージ ID が **msg_id** と一致
- イベントのメッセージ種別が **msg_status** と一致
- イベントのメッセージテキストが **rgexp_msg_txt** の正規表現を満たす



パラメータ **rgexp_msg_txt** の値は、JScript の正規表現で指定して下さい。

例えば、パラメータの値を以下の様に指定した場合、実際にイベントを受信した時の動作は表 6.7-21 のようになります。

```
node_id : socsv
msg_id : SEN_MSG
msg_status : I
rgexp_msg_txt : /sen001/
```

minute : 5

interval : 3

表 6.7-21 アクションテンプレート実施結果例

項番	ルール処理前				カウント中の 件数	ルール処理後
	ノード ID	メッセージ ID	メッセージ 種別	メッセージ テキスト		イベントの ステータス
1	socsv	SEN0001	I	sen001	-	オープン
2	socsv	SEN_MSG	I	sen001	1	対処完了
3	socsv01	SEN_MSG	I	sen001	1	オープン
4	socsv	SEN_MSG	I	sen001	2	対処完了
5	socsv	SEN_MSG	I	sen001	3	オープン
6	socsv	SEN_MSG	E	sen001	3	オープン
7	socsv	SEN_MSG	I	sen001	4	対処完了
8	socsv	SEN_MSG	I	sen001	1	対処完了
9	socsv	SEN_MSG	I	sen002	1	オープン
10	socsv	SEN_MSG	I	sen001	2	対処完了

※上記表の赤い行：開始トリガ、青い行：ステータス変更、緑の行：検査期間終了直後の開始トリガ

ルール(アクションテンプレート使用)

全般 | 活性化条件

共通ルール
ステージ[アクションの実行-1]

有効(V)

ルールID: 千手メッセージフィルタ

ルール条件-1

ID-1: [イベント種別で判定(千手メッセージ)] 参照(R)...

時刻(T): 0:00:00

SENサーバー起動時/ルールセット反映時(H)

ルール条件ID-2: 参照(S)...

説明(E):

パラメータ-1:

パラメータ-2:

アクションテンプレートID(A): 千手メッセージフィルタ_出力間隔指定 参照(U)...

パラメータ

パラメータ	値	説明
node_id	socmgr	ノードID
msg_id	SENTEST	メッセージID
msg_status	I	メッセージ種別
regexp_msg_txt	/test001/	メッセージテキストの正規表現(JScript)
minute	5	検査期間(分)
interval	3	間隔(件)

値:

オブジェクトブラウザ(O)

OK キャンセル

図 6.7-19 千手メッセージフィルタ_出力間隔指定を使用したルール画面

6.7.8.7 千手メッセージフィルタ_連続発生

<テンプレートの概要>

検査期間内に発生したメッセージの件数が上限を越えるまでイベントのステータスを「対処完了」にします。

<ルール条件の制限>

千手メッセージを指定します。

<パラメータの内容>

以下に、パラメータの値に指定する内容を記載します。

表 6.7-22 千手メッセージフィルタ_連続発生のパラメーター一覧

項番	パラメータ名	パラメータの値
1	node_id	発生元ノード ID
2	msg_id	フィルタを掛ける対象の千手メッセージ ID
3	msg_status	フィルタを掛ける対象の千手メッセージ種別
4	rgexp_msg_txt	フィルタを掛けるメッセージテキストの正規表現
5	minute	連続発生するメッセージにフィルタを掛ける期間
6	count	フィルタを掛ける件数の上限

<アクションの動作>

パラメータの値で指定した内容とイベントを比較し、一定の期間内に指定した間隔で、イベントのステータス変更の判定を行います。

基本的に、**minute** で指定した時間内に、以下の条件を満たすイベントのステータスが「対処完了」になります。ただし、**count** で指定した上限を超えたイベントは、ステータスの変更を行いません。

- イベントのノード ID が **node_id** と一致
- イベントのメッセージ ID が **msg_id** と一致
- イベントのメッセージ種別が **msg_status** と一致
- イベントのメッセージテキストが **rgexp_msg_txt** の正規表現を満たす



パラメータ **rgexp_msg_txt** の値は、JScript の正規表現で指定して下さい。

例えば、パラメータの値を以下の様に指定した場合、実際にイベントを受信した時の動作は表 6.7-23 の様になります。

node_id : socsv

msg_id : SEN_MSG

msg_status : I

minute : 5

count : 2

表 6.7-23 アクションテンプレート実施結果例

項番	ルール処理前				カウント中の 件数	ルール処理後
	ノード ID	メッセージ ID	メッセージ 種別	メッセージ テキスト		イベントの ステータス
1	socsv	SEN_MSG	I	sen002	-	オープン
2	socsv	SEN_MSG	I	sen001	1	対処完了
3	socsv	SEN_MSG	E	sen001	1	オープン
4	socsv	SEN_MSG	I	sen001	2	対処完了
5	socsv	SEN0001	I	sen001	2	オープン
6	socsv01	SEN_MSG	I	sen001	2	オープン
7	socsv	SEN_MSG	I	sen001	3	オープン
8	socsv	SEN_MSG	I	sen001	1	対処完了
9	socsv	SEN_MSG	I	sen001	2	対処完了
10	socsv	SEN_MSG	I	sen001	3	オープン

※上記表の赤い行：開始トリガ、青い行：ステータス変更、

黄の行：上限を超えて通知される、緑の行：検査期間終了直後の開始トリガ

ルール(アクションテンプレート使用)

全般 | 活性化条件

共通ルール
ステージ[アクションの実行-1]

有効(V)

ルールID: 千手メッセージフィルタ

ルール条件-1

ID-1: [イベント種別で判定(千手メッセージ)] 参照(R)...

時刻(T): 0:00:00

SENサーバー起動時/ルールセット反映時(H)

ルール条件ID-2: 参照(S)...

説明(E):

パラメータ-1:

パラメータ-2:

アクションテンプレートID(A): 千手メッセージフィルタ_連続発生 参照(U)...

パラメータ

パラメータ	値	説明
node_id	socmgr	ノードID
msg_id	SENTEST	メッセージID
msg_status	I	メッセージ種別
rgexp_msg_txt	/test001/	メッセージテキストの正規表現(JScript)
minute	5	検査期間(分)
count	3	しきい値(件数)

値:

オブジェクトブラウザ(O)

OK キャンセル

図 6.7-20 千手メッセージフィルタ_連続発生を使用したルール画面

6.7.8.8 千手メッセージフィルタ_連続発生文字列指定

<テンプレートの概要>

検査期間内に発生した、2つの文字列を含むメッセージの件数が上限を越えるまでイベントのステータスを「対処完了」します。

<ルール条件の制限>

千手メッセージを指定します。

<パラメータの内容>

以下に、パラメータの値に指定する内容を記載します。

表 6.7-24 千手メッセージフィルタ_連続発生文字列指定のパラメータ一覧

項番	パラメータ名	パラメータの値
1	node_id	発生元ノード ID
2	msg_id	フィルタを掛ける対象の千手メッセージ ID
3	msg_status	フィルタを掛ける対象の千手メッセージ種別
4	msg_txt1	フィルタを掛ける対象のメッセージテキストに存在する文字列 1
5	msg_txt2	フィルタを掛ける対象のメッセージテキストに存在する文字列 2
6	minute	連続発生するメッセージにフィルタを掛ける期間
7	count	フィルタを掛ける件数の上限

<アクションの動作>

パラメータの値で指定した内容とイベントを比較し、一定の期間内に指定した間隔で、イベントのステータス変更の判定を行います。

基本的に、minute で指定した時間内に、以下の条件を満たすイベントのステータスが「対処完了」になります。ただし、count で指定した上限を超えたイベントは、ステータスの変更を行いません。

- イベントのノード ID が node_id と一致
- イベントのメッセージ ID が msg_id と一致
- イベントのメッセージ種別が msg_status と一致
- イベントのメッセージテキストが msg_txt1 の文字列を含む
- イベントのメッセージテキストが msg_txt2 の文字列を含む

例えば、パラメータの値を以下の様に指定した場合、実際にイベントを受信した時の動作は表 6.7-25 の様になります。

node_id : socsv

msg_id : SEN_MSG

msg_status : I

msg_txt1 : sen

msg_txt2 : 001

minute : 5

count : 2

表 6.7-25 アクションテンプレート実施結果例

項番	ルール処理前				カウント中の 件数	ルール処理後 イベントの ステータス
	ノード ID	メッセージ ID	メッセージ 種別	メッセージ テキスト		
1	socsv	SEN_MSG	I	sen002	1	オープン
2	socsv	SEN_MSG	I	sen001	1	対処完了
3	socsv01	SEN_MSG	I	sen001	1	オープン
4	socsv	SEN_MSG	I	sen_001	2	対処完了
5	socsv	SEN0001	I	sen001	2	オープン
6	socsv	SEN_MSG	E	sen001	2	オープン
7	socsv	SEN_MSG	I	sen_msg_001	3	オープン
8	socsv	SEN_MSG	I	sen_0001	1	対処完了
9	socsv	SEN_MSG	I	sen_0010	2	対処完了
10	socsv	SEN_MSG	I	sen_0011	3	オープン

※上記表の赤い行：開始トリガ、青い行：ステータス変更、

黄の行：上限を超えて通知される、緑の行：検査期間終了直後の開始トリガ

ルール(アクションテンプレート使用)

全般 | 活性化条件

共通ルール
ステージ[アクションの実行-1]

有効(V)

ルールID: 千手メッセージフィルタ

ルール条件-1

ID-1: [イベント種別で判定(千手メッセージ)] 参照(R)...

時刻(T): 0:00:00

SENサーバー起動時/ルールセット反映時(H)

ルール条件ID-2: 参照(S)...

説明(E):

パラメータ-1:

パラメータ-2:

アクションテンプレートID(A): 千手メッセージフィルタ_連続発生文字列指定 参照(U)...

パラメータ

パラメータ	値	説明
node_id	socmgr	ノードID
msg_id	SENTEST	メッセージID
msg_status	I	メッセージ種別
msg_txt1	test	メッセージテキスト1
msg_txt2	001	メッセージテキスト2
minute	5	検査期間(分)
count	3	フィルタ件数

値:

オブジェクトブラウザ(O)

OK キャンセル

図 6.7-21 千手メッセージフィルタ_連続発生文字列指定を使用したルール画面

6.7.9 千手のコマンドを実行する

6.7.9.1 千手連携_千手ユーザーコマンド実行

<テンプレートの概要>

千手ユーザーコマンドを実行します。

アクションの実行結果は「千手連携_アクション結果取得」のアクションテンプレートで参照可能です。

<ルール条件の制限>

制限なし

<パラメータの内容>

以下に、パラメータの値に指定する内容を記載します。

表 6.7-26 千手連携_千手ユーザーコマンド実行のパラメーター一覧

項番	パラメータ名	パラメータの値
1	domain_name	千手連携アダプタのドメイン名
2	user_command_grp	千手マネージャに存在するユーザーコマンドが保存されているグループ名
3	user_command	千手マネージャに存在するユーザーコマンド

<アクションの動作>

パラメータの値で指定した千手ユーザーコマンドを実行します。

ルール(アクションテンプレート使用)

全般 | 活性化条件

共通ルール
ステージ[アクションの実行-1]

有効(V)

ルールID: 千手連携_千手ユーザー

ルール条件-1

ID-1: イベント種別で判定(コントロールユーザー作) 参照(B)...

時刻(T): 0:00:00

SENサーバー起動時/ルールセット反映時(H)

ルール条件ID-2: 参照(S)...

説明(E):

パラメータ-1:

パラメータ-2:

アクションテンプレートID(A): 千手連携_千手ユーザーコマンド実行 参照(L)...

パラメータ

パラメータ	値	説明
domain_name	socmgr	千手連携アダプタのドメイン名
user_command_grp	sendmsg	ユーザーコマンドグループ名
user_command	sjANM_sendmsg	ユーザーコマンド名

値:

オブジェクトブラウザ(B)

OK キャンセル

図 6.7-22 千手連携_千手ユーザーコマンド実行を使用したルール画面

6.7.9.2 千手連携_アクション結果取得

<テンプレートの概要>

「千手連携_千手ユーザーコマンド実行」のアクションテンプレートで、千手連携アダプタが実行したアクションの結果をアウトプットビューに表示します。

<ルール条件の制限>

アクション終了イベントを指定します。

<パラメータの内容>

パラメータなし

<アクションの動作>

アクション終了イベントの実行結果をアウトプットビューに表示します。

ルール(アクションテンプレート使用)

全般 | 活性化条件

共通ルール
ステージ[アクションの実行-1]
 有効(V)

ルールID: 千手連携_アクション結

ルール条件-1

ID-1: アクション終了イベント 参照(R)...

時刻(T): 0:00:00

SENサーバー起動時/ルールセット反映時(H)

ルール条件ID-2: 参照(S)...

説明(E):

パラメータ-1:

パラメータ-2:

アクションテンプレートID(A): 千手連携_アクション結果取得 参照(U)...

パラメータ

パラメータ	値	説明
-------	---	----

値:

オブジェクトブラウザ(O)

OK キャンセル

図 6.7-23 千手連携_アクション結果取得を使用したルール画面

6.8 SEN コンソールと SEN Web サービスの表示の違い

6.8.1 一覧

ここでは、SEN コンソールと SEN Web サービスの表示の違いについて説明します。

表 6.8-1 SEN コンソールと SEN Web サービスの差異一覧

項番	画面	内容	SEN Web サービス	SEN コンソール
1	メインビュー	メインペインアイテムの背景	設定できません	設定できます
2	メインビュー	始点と終点が同じ座標の直線アイテム	表示されません	点で表示されます
3	メインビュー	イメージアイテムの拡大	ぼやけて表示されます	ぼやけずに表示されます
4	メインビュー	ツリーペインのビューアイテムグループ表示順	以下①～⑦の順番で表示されます ① 半角数字 ② 半角英字 ③ 全角数字 ④ 全角英字 ⑤ ひらがな ⑥ 全角カタカナ ⑦ 半角カタカナ	以下①～⑦の順番で表示されます ① 半角数字 ② 半角英字 ③ 半角カタカナ ④ 全角数字 ⑤ 全角英字 ⑥ ひらがな ⑦ 全角カタカナ
5	メインビュー	メインペインに自動生成した千手ジョブスケジュール情報	表示できません	表示できます
6	メインビュー	直線、円・楕円アイテムの背後にあるメインペインアイテム	選択できない場合があります	選択できます
7	メインビュー	リストアイテムの縦スクロールバーの表示位置	固定されず、リストアイテムの幅によって隠れる場合があります	固定
8	メインビュー	リストアイテムのソート順	以下①～⑦の順番で表示されます ① 半角数字 ② 半角英字 ③ 全角数字 ④ 全角英字 ⑤ ひらがな ⑥ 全角カタカナ ⑦ 半角カタカナ	以下①～⑦の順番で表示されます ① 半角数字 ② 半角英字 ③ 半角カタカナ ④ 全角数字 ⑤ 全角英字 ⑥ ひらがな ⑦ 全角カタカナ
9	メインビュー	下位のビューアイテムグループを選択したままツリーペインを閉じる	フォーカスが移動しません	上位のビューアイテムグループにフォーカスが移動します
10	メインビュー	ツリーペインでのダブルクリック	無効	ツリーを展開/閉じる
11	メインビュー	リストアイテムでレコードがない部分の背景色	透過で表示されません	白で表示されます
12	メインビュー	リストアイテムカラム幅の最小値	1ピクセル	0ピクセル
13	メインビュー	リストアイテムのヘッダー表示位置	左寄せ	フォーマット種別(文字、数値)によって異なります

Senju Enterprise Navigatorユーザーズガイド6.8 SENコンソールとSEN Webサービスの表示の違い

項番	画面	内容	SEN Web サービス	SEN コンソール
14	メインビュー	Shift キーを押しながらリストアイテムカラム幅をリサイズ	縦横比を維持したままリサイズします	縦横比を維持せずにリサイズします
15	メインビュー	関連ビューの表示順	以下①～⑦の順番で表示されます ① 半角数字 ② 半角英字 ③ 全角数字 ④ 全角英字 ⑤ ひらがな ⑥ 全角カタカナ ⑦ 半角カタカナ	ルールやメインペインエディタでの登録順
16	メインビュー	アクションの表示順	終了時刻の昇順	ルールやメインペインエディタでの登録順
17	イベントビュー	重大度のデフォルト表示値	「none」が表示されます	空欄が表示されます
18	イベントビュー (ステータス変更)	記入者の入力欄	記入者名にユーザーID がデフォルトで表示されます	記入者名の一覧が表示されます
19	イベントプロパティ (全般)	「メッセージ文字色」と「メッセージ背景色」の値	16 進数で表示されます	10 進数で表示されます
20	イベントプロパティ	フィールドの説明	表示されません	表示されます
21	メインビュー イベントビュー	メインビュー、外部サイト以外のビューを開く	実行できません	実行できます
22	メインビュー イベントビュー	ユーザー権限	以下の処理で権限による制限があります ・リセット ・アクションの実行 ・ステータス変更	SEN コンソールのユーザー権限は 03.管理ガイドの表 6.8-2、表 6.8-3 を参照して下さい

6.8.2 詳細

6.8.2.1 メインペインアイテムの背景

SEN Web サービスでは、メインペインの背景を表示できません。SEN コンソールのメインペインエディタで設定していても、Web ブラウザで表示すると白い背景になります。

6.8.2.2 始点と終点と同じ座標の直線アイテム

SEN Web サービスでは、始点と終点と同じ座標の直線アイテムは表示されません。

6.8.2.3 イメージアイテムの拡大

SEN Web サービスでは、イメージアイテムを拡大して表示させた場合、イメージアイテムがぼやけて表示されます。

6.8.2.4 ツリーペインのビューアイテムグループ表示順

ビューアイテムグループの表示する順番が SEN Web サービスと SEN コンソールで異なります。SEN Web サービスでは「半角数字、半角英字、全角数字、全角英字、ひらがな、全角カタカナ、半角カタカナ」の順で表示されます。SEN コンソールでは「半角数字、半角英字、半角カタカナ、全角数字、全角英字、ひらがな、全角カタカナ」の順で表示されます。

6.8.2.5 メインペインに自動生成した千手ジョブスケジュール情報

SEN Web サービスでは、自動生成した千手ジョブスケジュール情報はメインペインに表示されません。メインペインには「このアイテムはサポートしていません」のメッセージが表示されます。

6.8.2.6 直線、円・楕円アイテムの背後にあるメインペインアイテム

SEN Web サービスでは、直線と円・楕円の背後にあるメインペインアイテムが選択できない場合があります。

6.8.2.7 リストアイテムの縦スクロールバーの表示位置

SEN Web サービスでは、リストアイテムの縦スクロールバーはカラムの右端に表示されます。リストアイテム全体の幅がリストの列幅より狭い場合、縦スクロールバーは表示されません。横スクロールバーを右端にスクロールさせれば、縦スクロールバーが表示されます。

6.8.2.8 リストアイテムのソート順

リストアイテムのソートする順番が SEN Web サービスと SEN コンソールで異なります。SEN Web サービスでは「半角数字、半角英字、全角数字、全角英字、ひらがな、全角カタカナ、半角カタカナ」の順でソートされます。SEN コンソールでは「半角数字、半角英字、半角カタカナ、全角数字、全角英字、ひらがな、全角カタカナ」の順でソートされます。

6.8.2.9 下位のビューアイテムグループを選択したままツリーペインを閉じる

SEN Web サービスでは、ビューアイテムグループを選択したままツリーペインを閉じた場合、閉じた際に選択したビューアイテムグループへのフォーカスは移動しません。

6.8.2.10 ツリーペインでのダブルクリック

SEN Web サービスでは、ツリーペインの各項目をダブルクリックしても、ツリーを展開及び閉じることはできません。

6.8.2.11 リストアイテムでレコードがない部分の背景色

SEN Web サービスでは、リストアイテムのレコードがない部分の背景色は、透過表示されます。

6.8.2.12 リストアイテムカラム幅の最小値

SEN Web サービスでは、リストアイテムのカラム幅の最小値は 1 ピクセルです。

6.8.2.13 リストアイテムのヘッダー表示位置

SEN Web サービスでは、リストアイテムのカラム値の種別（文字、数値）に関係なくヘッダーの文字列は左寄せで表示されます。

6.8.2.14 Shift キーを押しながらリストアイテムカラム幅をリサイズ

SEN Web サービスでは、リストアイテムのカラム幅をリサイズする場合、Shift キーを押しながら行くと、縦横比を維持してリサイズを行います。

6.8.2.15 関連ビューの表示順

イベントビューやメインビューで関連ビューを表示する順番が SEN Web サービスと SEN コンソールで異なります。SEN Web サービスでは「半角数字、半角英字、全角数字、全角英字、ひらがな、全角カタカナ、半角カタカナ」の順で表示されます。SEN コンソールでは、ルールやメインペインエディタで登録した順番で表示されます。

6.8.2.16 アクションの表示順

イベントビューやメインビューでアクションを表示する順番が SEN Web サービスと SEN コンソールで異なります。SEN Web サービスではアクションの終了時刻の昇順で表示されます。SEN コンソールでは、ルールやメインペインエディタで登録した順番で表示されます。

6.8.2.17 重大度のデフォルト表示値

SEN Web サービスでは、重大度のデフォルト値は `none` (なし) で表示されます。

6.8.2.18 記入者の入力欄

SEN Web サービスでは、ステータス変更ダイアログの記入者の入力欄に、ユーザーID がデフォルトで表示されます。

6.8.2.19 「メッセージ文字色」と「メッセージ背景色」の値

SEN Web サービスでは、イベントプロパティ画面の全般ページの「メッセージ文字色」と「メッセージ背景色」の値は 16 進数で表示されます。

6.8.2.20 フィールドの説明

SEN Web サービスでは、イベントプロパティ画面にフィールドの説明は表示されません。

6.8.2.21 メインビュー、外部サイト以外のビューを開く

SEN Web サービスでは、メインビュー (メインペイン、メインペインアイテム) と外部サイト以外のパスで指定された関連ビュー (コマンドのパス) は開くことはできません。

6.8.2.22 ユーザー権限

SEN Web サービスでは、ユーザー権限による制限があります。役割毎の権限を

表 6.8-3 と表 6.8-4 に示します。

表 6.8-3 メインビューの権限

	Administrators	Managers	Operators	Users
ビューアイテムグループに対する処理				
ビューアイテムグループのリセット	◎	○	○	×
メインペインアイテムに対する処理				
メインペインアイテムのリセット	◎	○	○	×
メインペインアイテムへのアクションの実行	◎	○	○	×
メインペインアイテムのプロパティ参照	◎	○	○	○

◎：すべてのグループに対して可能

○：自グループに対してのみ可能

×：不可

表 6.8-4 イベントビューの権限

	Administrators	Managers	Operators	Users
イベントに対する処理				
関連するビューの参照	◎	○	○	○
イベントステータスの変更	◎	○	○	×
ノートの記事	◎	○	○	×
アクションの実行	◎	○	○	×
イベントプロパティの参照	◎	○	○	○

◎：すべてのグループに対して可能

○：自グループに対してのみ可能

×：不可

6.9 用語集

6.9.1 共通及び基本用語

SEN サーバー

Senju Enterprise Navigator システムで、管理対象となる千手システム、SNMPトラップ等の情報を集約し、ビュー管理、イベント管理、ユーザー管理などを行うためのサーバーです。なお、SEN サーバー上で動作する各種デーモンプログラムについても SEN サーバーと呼ぶことがあります。

SEN コンソール

SEN サーバーに接続され、管理者へのビューを提供するためのクライアント端末です。

SEN Web サービス

Senju Enterprise Navigator システムの操作・参照を Web ブラウザより行うための機能です。

イベント

管理対象となる千手システム、SNMPトラップ受信アダプタ等から受信したメッセージまたは、管理対象オブジェクトの状態変化を広義のイベントと呼びます。なお、狭義にはメッセージのみを指す場合がありますが、この場合はメッセージイベントと呼んで区別する事とします。イベントビューには、通常メッセージイベントのみ表示されます。

オブジェクト

Senju Enterprise Navigator システムにおける管理対象の単位です。オブジェクト自体は管理対象を抽象化した概念を指します。通常、メインビューにおいてアイコン表示される単位がオブジェクトとなり、ビュー上に表示された場合にはアイテムと呼びます。ひとつのオブジェクトを複数のアイテムとして表示させる事もできます。

クラス

共通の性質を持つ単位の集合です。クラスには属性とメソッドがあります。クラスの属性に値を与えたものがオブジェクトになります。

クラス定義ファイル

イベントのフォーマットを定義した、XML フォーマットのテキストファイルです。

Senju Enterprise Navigator システムで使用および作成されるイベントは、すべてクラス定義ファイルより読み込み使用します。

詳細は、「インストールガイド」の「6.1.4 ユーザーアプリケーションとの接続設

定手順」を参照して下さい。

役割

リソースにアクセスする際の権限を役割と呼びます。

詳細は、「**3.1.2 ユーザーの管理**」を参照して下さい。

ユーザー

SEN システムにログインする際のユーザーです。ユーザーには、かならず役割が割り当てられるとともに、1つ以上のグループに所属します。

詳細は、「**3.2.2 ユーザーの編集**」を参照して下さい。

ユーザーグループ

アクセス権が適用されるリソースをまとめた単位の事です。ユーザーグループは、任意に定義する事が可能で、任意のリソースを含む事ができます。

詳細は、「**3.2.1 グループの編集**」を参照して下さい。

ライセンス

導入時に必要な、Senju Enterprise Navigator を使用する権利の事です。

ライセンスキーと言う文字列形態で提供され、インストール作業で使用します。

リソース

SEN システムを構成する各種資源を指します。具体的には、ユーザー、グループ、ビュー（メインビュー、イベントビュー、ツールビュー、アウトプットビュー等）、ルールを総称してリソースと呼びます。

6.9.2 SEN サーバー、SEN コンソール、SEN Web サービス

{SEN マスターグループ}

システム提供データ（汎用的なイメージやルール）を管理するデフォルトで用意されたグループです。「{SEN マスターグループ}」は、変更および削除できません。また「{SEN マスターグループ}」への新規リソースの追加および、既存リソースの変更、削除はできません。

アウトプットビュー

SEN コンソール画面で、ユーザーの操作履歴をテキスト表示するウィンドウです。

詳細は、「**2.1.16 アウトプットビュー**」を参照して下さい。

イベントビュー

SEN コンソール画面、SEN Web サービス画面で、SEN サーバーに接続された千手システム、SNMPトラップ受信アダプタ等から受信したメッセージ(イベント)を一覧表示するウィンドウです。

SEN コンソールについての詳細は、「**2.1.6 イベントビュー**」を参照して下さい。

SEN Web サービスについての詳細は、「**2.2.4 イベントビュー**」を参照して下さい。

イベントフィルタビュー

SEN サーバーが受信する各種イベントに対して、フィルタリングの設定および設定の一覧を表示するウィンドウです。

詳細は、「**2.1.9 イベントフィルタビュー**」を参照して下さい。

イベントサマリビュー

SEN サーバーが現時点までに取得した各種イベントに対して、サマリを取ってその結果を表示するウィンドウです。

詳細は「**2.1.8 イベントサマリビュー**」を参照して下さい。

ノウハウビュー

SEN サーバーが受信する各種イベントから登録したイベントのノウハウを表示するウィンドウです。

詳細は「**2.1.7 ノウハウビュー**」を参照して下さい。

SEN パフォーマンスビュー

SEN サーバーの CPU 使用率やイベントの入出力数、メール送信数等のパフォーマンスを表示するウィンドウです。

詳細は「**2.1.10 SEN パフォーマンスビュー**」を参照して下さい。

イベントプロパティ

イベントに関する属性です。ID、重大度、ステータス、メッセージ ID、メッセージテキストなどが存在します。

イメージ

Senju Enterprise Navigator でサポートする画像フォーマットは、BMP、ICO、JPEG、PNG、TIFF です。

インポートハンドラ

千手ジョブスケジュール情報(実行システム定義・ステータス、フレームステータス)を指定して、メインペインを自動生成する機能です。

詳細は、「**4.1.6 インポートハンドラによるメインペインの自動生成（千手ジョブスケジュール情報）**」を参照して下さい。

エクスポート／インポート

エクスポート機能は、ルールセットやイメージなどのリソースを他の Senju Enterprise Navigator システムへ移行するため、指定したリソースを XML ファイルに出力します。

インポート機能は、ルールセットやイメージなどのリソースを他の Senju Enterprise Navigator システムから移行するため、指定した XML ファイルからリソースを読み込みます。

詳細は、「**3.2.5 エクスポート／インポート**」を参照して下さい。

オブジェクトブラウザ

ルール条件やアクションの記述を補助する支援ツールです。

詳細は、「**5.1.9 オブジェクトブラウザ**」を参照して下さい。

コンソールイベント

ユーザー定義イベントを明示的に発生する場合は、コンソールイベントを使用します。

詳細は、「**2.1.14 コンソールイベント送信**」を参照して下さい。

コンソールイベント用テンプレート

汎用的なコンソールイベントや再利用性の高いコンソールイベントをあらかじめテンプレートとして登録する事により、入力負荷の軽減や操作ミスの抑止を期待できます。

詳細は、「**2.1.14 コンソールイベント送信**」を参照して下さい。

コンソールルール

各グループに設定され、SEN コンソール上で実行します。コンソールルールでは、GUI 上

でのダイアログの表示や警報装置の鳴動といった処理を実行します。

詳細は、「[5.1.7 コンソールルールの編集](#)」を参照して下さい。

コンテキストメニュー

マウスの右クリックで表示されるメニューです。

ツリーペイン

メインビューにおいて管理対象の階層構造をツリー構造であらわしたものです。ツリーペインのノード(ビューアイテムグループと呼ばれます)をクリックする事により、その階層に対応したメインペインが表示されます。またツリー構造を利用して、上位階層のビューではおおまかな状況を把握し、下位の階層では詳細な状況を把握するといった使用も可能です。

SEN コンソールについての詳細は、「[2.1.5 メインビュー](#)」を参照して下さい。

SEN Web サービスについての詳細は、「[2.2.3 メインビュー](#)」を参照して下さい。

ツールビュー

SEN コンソール画面で、ユーティリティ(時計)や任意のプログラム、OS コマンドなどをランチャー形式で登録するためのウィンドウです。

詳細は、「[2.1.11 ツールビュー](#)」を参照して下さい

プロパティ画面

メインビューのオブジェクトやイベントビューのエントリーのコンテキストメニューで“プロパティ”を選択した時に表示されるウィンドウです。オブジェクトやイベントの属性とその値の一覧が表示されます。各属性は、タブ (SEN Web サービスの場合はリンク) でカテゴリ化されて表示されます。

バージョン情報

Senju Enterprise Navigator システムのバージョン情報が表示されます。

ビューカテゴリ

SEN コンソールのメインビューウィンドウで、上部のタブで切り替えられるツリーペインとメインペインの組です。SEN Web サービスでは、ツリーペインに表示されています。異なる視点ごとに複数のビューカテゴリを設定する事ができます。

SEN コンソールについての詳細は、「[2.1.5 メインビュー](#)」を参照して下さい。

SEN Web サービスについての詳細は、「[2.2.3 メインビュー](#)」を参照して下さい。

メインビュー

SEN コンソール、SEN Web サービス画面において、管理対象となるオブジェクトをグラフィカルに表示するウィンドウです。メインビューは、左側のツリーペインと右側のメインペインに

分けられます。メインビューは上部のタブ (SEN Web サービスの場合は画面左側のツリーペイン) により複数のビューに切り替える事ができます。複数のメインビューを同時に開く事ができます。

SEN コンソールについての詳細は、「**2.1.5 メインビュー**」を参照して下さい。

SEN Web サービスについての詳細は、「**2.2.3 メインビュー**」を参照して下さい。

メインペイン

管理対象となるオブジェクトを基本図形やビットマップイメージによりグラフィカルに表示します。

詳細は、「**2.1.5 メインビュー**」を参照して下さい。

メインペインエディタ

メインペインの作成、編集するためのエディタです。メインペインを編集するには、左側のパレットからアイテム部品を選択し、右側のメインペインにドラッグ&ドロップします。

詳細は、「**4 メインペイン作成ガイド**」を参照して下さい。

メインペインアイテム

管理対象オブジェクトを表現する基本図形やイメージの事をメインペインアイテムと呼びます。メインペインアイテムには、矩形や線分、文字、イメージといったプリミティブな図形か、プリミティブな図形を任意の数だけ組み合わせた結合図形を選ぶ事ができます。

メニューバー

SEN コンソールにおける各種ウィンドウや機能呼び出すためのメニューです。

詳細は、「**2.1.3 メニューバー**」を参照して下さい。

6.9.3 ルール処理

RGB

Senju Enterprise Navigator システムでは、メインペインで使用するアイテム(直線、長方形等)の線や塗りつぶしの色、イベントビューに表示するイベントの色をルール内から変更する事ができます。Senju Enterprise Navigator システムでは、色の指定に RGB 値を使用します。R(赤)、G(緑)、B(青)各色に対して、0~255 まで 256 段階の色を設定可能であり、0 がその色の発色なし、255 がその色を最も強く発光させた時の色を意味します。

Senju Enterprise Navigator では、RGB を3バイトで表現します。下位のバイトから順に R(赤)、G(緑)、B(青)となります。

代表的な色の設定割合を下記に示します。

赤	0x0000ff(R=255, G=0, B=0)
緑	0x00ff00(R=0, G=255, B=0)
青	0xff0000(R=0, G=0, B=255)
白	0xffffffff(R=255, G=255, B=255)
黒	0x000000(R=0, G=0, B=0)
グレー	0x808080(R=128, G=128, B=128)
紫	0xff00ff(R=255, G=0, B=255)

アクション

ルール条件が成立した時に実行されるスクリプトです。典型的なアクションとしては、メインビュー上のオブジェクトに対するステータスの変更、受信したイベントに対するステータスの変更、メールの送信、任意の外部コマンドの実行などが指定できます。アクションは JScript の構文に従う必要があります。

アクションテンプレート

利用頻度の高いアクションをテンプレートとして保存することができます。記載するアクションは JScript の構文に従う必要があります。

詳細は、「**5.1.5 アクションテンプレートの編集**」を参照して下さい。

アクセスコントロール

役割に応じて各リソースに対するアクセス権(参照、編集、作成)が決定されます。

フィルタ

特定の条件を満たすイベントのみを通過させる、または破棄するルールの事をフィルタと呼びます。

ルール

ルールとは、もし～であれば～する、という‘条件’-‘アクション’の組として記述され、基本的に特定の条件を満たすイベントをトリガとしてアクションを実行します。すなわち、イベントを受信するたびに、そのイベントがルール条件にマッチするかどうかチェックし、マッチした場合は、指定されたアクションを実行(発火)させます。

ルール条件

ルール条件は、単純条件式か、任意の数のルール条件を AND 条件または OR 条件で連結したものを指定できます。論理条件式は JScript の構文に従う必要があります。

ルールステージ

共通ルールおよびグループ別ルールは、複数のルールステージに分かれており、各ステージが順にパイプライン処理されます。

詳細は、「**5.1.2 ルール処理の流れ**」を参照して下さい。

共通ルール

すべてのユーザーグループに対して共通に適用されるルール。

分配ルール

イベントを各グループに振り分けるルールを定義します。

グループ別ルール

各グループに固有のルールを定義します。

グローバル定義ルール

各ルールセットで共通に参照される変数または関数を定義します。

ルールセット

ルールセットはルールの集合体であり、1つの Senju Enterprise Navigator システムでルールセットを複数定義する事はできますが、有効なルールセットは1つだけです。

6.9.4 Senju Operation Conductor 連携

千手ドメイン

千手システム管理対象の範囲を表します。通常、千手マネージャ 1 台で構成され、その千手マネージャ管理下の千手エージェントを含めた千手システムが 1 ドメインとなります。

Senju Enterprise Navigator システムでは、SEN コンフィグレータにて千手ドメインとの接続設定を行います。

メッセージフィルタ

千手ドメイン内で発生するメッセージを特定の条件でフィルタリングする機能です。詳細な設定方法については **Senju Operation Conductor** のマニュアルを参照して下さい。

6.9.5 Senju Service Manager 連携

Senju Service Manager

「Senju Service Manager」は、ユーザーまたはシステムから検出された両方のインシデントを効率的に管理する「インシデント管理」と、これを強力にサポートする「問題管理」「変更管理」を統合した Web ベースのサービスデスクです。

ITIL (IT インフラストラクチャ・ライブラリ)

イギリス政府が策定した、コンピュータシステムの運用・管理業務に関する体系的なガイドラインで、模範的な事例(ベストプラクティス)を収集し、「IT を活用して業務の遂行を援助する」方法論として体系化したものです。

インシデント

Senju Service Manager 上で管理する障害や問合せのことです。

インシデント候補

Senju Service Manager 上で管理する、インシデントになる前の障害や問合せのことです。重複した障害メッセージやスパムメールなどをこのステージではじくことができ、無駄なインシデントの増加を防ぎます。

問題管理

Senju Service Manager 上で管理する、ある問題の解決プロセスのことです。

変更管理

Senju Service Manager 上で管理する、要求された変更についての計画、承認、変更後の確認に至るまでの一連の変更プロセスのことです。

構成管理

Senju Service Manager 上で管理する、システムに関わる要員、構成アイテム、アカウント情報のことです。

SSM DB サーバー

Senju Service Manager のデータベースを管理するサーバーです。Senju Enterprise Navigator から送信されたインシデントなどは全てこのサーバー上に集められます。

6.9.6 メール連携

POP (Post Office Protocol)

インターネットやイントラネット上で、電子メールを保存しているサーバーからメールを受信するためのプロトコルで、現在最も広く普及しています。ユーザーがタイトルや発信者を確認する前に、クライアントが全メールを受信してしまうため、発信者やタイトルの一覧を見てから受信するかどうか決められる IMAP を POP の代わりに利用する場合があります。詳細は RFC1939 を参照して下さい。

SMTP (Simple Mail Transfer Protocol)

インターネットやイントラネット上で、電子メールを送信・転送するために用いられるプロトコルで、現在最も広く普及しています。メールサーバー同士の間で電子メールが転送される際などに利用されます。詳細は RFC821 を参照して下さい。

6.9.7 SNMP トラップ連携

OID(Object Identifier)

MIB に格納されている個々の管理情報のことを、オブジェクト(Object)と呼びます。MIB ではオブジェクトをツリー構造で管理しますが、OID は各オブジェクトを区別するために割り当てられた識別子です。

OID は、例えば".1.3.6.1.2.1.1"のように、ピリオドで区切られた数字として表現されます。ピリオドで区切られる各数値は、オブジェクトのツリー構造の枝に対応します。

MIB(Management Information Base)

ネットワーク管理の標準規格です。SNMP に対応した管理対象機器は、様々なネットワーク情報やその機器自体の情報を変数として保持しています。これら管理情報のデータベースを、総称して MIB と呼びます。

SNMP(Simple Network Management Protocol)

ネットワーク管理のために広く利用されているプロトコルです。監視対象に実装された SNMP エージェントより情報を取得する通信手段を提供します。

SNMP エージェント

SNMP により管理されるネットワーク機器が備えているプログラムで、各機器の MIB 情報を管理します。

SNMP トラップ

監視対象の SNMP エージェントから非同期に通知される情報です。これにより通信リンクの障害や監視対象の製品固有の障害発生などを知ることができます。

コミュニティ

SNMPv1 及び v2c において SNMP エージェントおよびそれを利用するアプリケーション群を 1 グループとしたものです。通常はネットワーク管理者が設定し、コミュニティ名を決めます。

コミュニティ名はネットワーク監視においてパスワードの役割を持っています。

セキュリティエンジン ID

SNMPv3 において SNMP エージェントを識別するための ID です。通常はネットワーク管理者が設定し、セキュリティエンジン ID を決めます。

セキュリティ名

SNMPv3 においてセキュリティは USM(User based Security Model)と呼ばれるセキュリティ名(ユーザー)ごとに認証方法、パスフレーズを設定可能です。通常はネットワーク管理者が

設定し、セキュリティ名および認証方法を決めます。

6.9.8 シスログ連携

Facility

シスログを出力した機能を表しイベントビューの SYSLOG ファシリティカラムへ表示されます。

表 6.9-1 Facility 値

Facility 値	デフォルト表示文字列	意味
0	kern	カーネルメッセージ
1	user	ユーザーレベルメッセージ
2	mail	メールシステムメッセージ
3	daemon	システムデーモンメッセージ
4	auth	セキュリティ/認証メッセージ
5	syslog	シスログデーモンメッセージ(注)
6	lpr	ラインプリンタメッセージ
7	news	ネットワークニュースシステムメッセージ
8	uucp	UUCP システムメッセージ
9	cron	クロックデーモンメッセージ
10	system0	システム予約
11	system1	システム予約
12	system2	システム予約
13	system3	システム予約
14	system4	システム予約
15	system5	システム予約
16	local0	ユーザー予約
17	local1	ユーザー予約
18	local2	ユーザー予約
19	local3	ユーザー予約
20	local4	ユーザー予約
21	local5	ユーザー予約
22	local6	ユーザー予約
23	local7	ユーザー予約

(注):シスログデーモンとは SEN システムのシスログ受信アダプタではなく発生元ノードの syslogd を示す。

Severity

シスログの重大度を表しイベントビューの SYSLOG 重大度カラムへ表示されます。

表 6.9-2 Severity 値

Severity 値	デフォルト表示文字列	意味
0	emerg	致命的な障害メッセージ
1	alert	早急に対処が必要な警戒メッセージ
2	crit	重大な障害メッセージ
3	err	障害メッセージ
4	warning	警告メッセージ
5	notice	重要な情報メッセージ
6	info	情報メッセージ
7	debug	デバッグレベルメッセージ

6.9.9 ACOS ホスト連携

ネットワークマネージャ

ネットワークマネージャは NEC 社の標準プロトコル DINA(Distributed Information processing Network Architecture)や IBM 社の標準プロトコル SNA(Systems Network Architecture)に基づいたホストコンピュータとの通信を制御するソフトウェアです。ETOSJX、COM-XE などを利用しホストコンピュータの端末としての利用が可能になります。

DINA ライブラリ

DINA 通信ライブラリは、ネットワーク マネージャを介した、ホスト・端末間通信のオンラインプログラムを作成するためのプログラミング インターフェースを提供しています。

6.9.10 TELstaff 連携

TELstaff AE Standard Edition

TELstaff AE Standard Edition は Windows システムを運用しているときに発生した問題(業務運用の異常やネットワーク障害など)、各種センサ・検知器の信号やカメラ映像の変化を元に、電話、ショートメッセージサービス通知、FAX、メール、PC のデスクトップ、ブラウザ、メッセージ表示ボード、信号灯や電気機器、及び任意のコマンドに、それぞれ通知する機能を提供し、システムの自動運転インターフェースを提供しています。

TELstaff AE Client

TELstaff AE Client は単独での発信機能を持ちませんが、TELstaff AE StandardEdition や他の TELstaff AE Client に対するメッセージの送受信を行うインターフェースを提供しています。

6.9.11 Senju Service Automation 連携

(千手操作)リクエスト

1つのランブック実行、コマンド実行、一時停止指定/解除、スキップ指定/解除、起動時刻変更および遅延監視時刻変更の千手マネージャへの実行依頼を指します。

申請

複数のリクエストを1案件にまとめたものを指します。Senju Service Manager のサービス要求で登録されるリクエストは申請(案件)単位で管理されます。そのため承認(=千手マネージャへの実行依頼)、キャンセルは申請単位で行われ、リクエスト単位に承認、キャンセルを行うことは出来ません。